

Oracle CRM On Demand の管理

リリース **20**

2012 年 **6** 月版

ORACLE®

Copyright © 2005, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることが使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

Oracle CRM On Demand の管理 7

Oracle CRM On Demand の管理プロセス	11
設定時における管理者テンプレートの使用	14
Oracle CRM On Demand の使用状況追跡について	14
企業管理	15
企業プロフィール	16
会計カレンダーの管理	36
通貨定義	39
企業監査	42
警告管理	45
サービス割当管理	47
住所管理	52
アプリケーションカスタマイズ	60
レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ	61
外部 Web ページのタブでの表示	108
カスタム Web アプレットについて	110
カスタム Web アプレットの作成	111
アクションバーレイアウトの作成と管理	116
グローバル Web アプレットの作成	117
RSS フィード Web アプレットの設定例	118
クライアント側拡張のアップロード	120

企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ	123
新規テーマの作成	124
[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化	128
レコードタイプの名前変更	129
レコードタイプのアイコンの変更	130
レコードタイプの追加	131
フィールド、ピックリスト、基準について	133
添付資料設定について	134
カスタムオブジェクトの多対多の関係について	137
ユーザー管理とアクセス制御	138
ユーザー管理	140
パートナー自己管理	161
アクセスプロファイル管理	166
役割管理	202
ブックの管理	212
グループの管理	253
テリトリー管理	258
ビジネスプロセス管理	260
プロセス管理	261
ワークフロー設定	272
ワークフローモニター	311
データルールおよび割当	317
データ管理ツール	347
インポートツールとエクスポートツール	347
一括削除キューページ	556
バッチ割当ブックキューページ	557
統合イベントについて	557

統合イベントキューの作成	559
統合イベント設定の管理	560
コンテンツ管理	561
製品カテゴリーの設定	562
自社製品の設定	563
PRM の価格リストの設定	565
企業の添付資料の管理	568
アセスメントスクリプトの設定	569
ライフサイエンス管理	576
スマートコールの管理	576
有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定	579
担当者へのサンプル受領権限の付与	580
Expression Builder	582
Expression Builder について	582
Expression Builder の使用	583
式について	585
Expression Builder のデータタイプ	588
Expression Builder の演算子	591
Expression Builder の関数	595
Expression Builder の例	642

索引 645

Oracle CRM On Demand の管理

Oracle CRM On Demand の設定およびカスタマイズは管理者のページから行います。Oracle CRM On Demand の管理の詳細については、次のセクションを参照してください。

セクション	内容
企業管理 『15ページ 』	企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定 『16ページ 』 ライセンスの状況と有効なユーザーの確認 『26ページ 』 企業のパスワード管理の定義 『28ページ 』 すべてのパスワードのリセット 『34ページ 』 言語の有効化 『34ページ 』 カスタム会計カレンダーの定義 『37ページ 』 通貨の管理 『39ページ 』 すべてのユーザーのサインイン活動の確認 『42ページ 』 IP アドレスの使用制限 『35ページ の"IP アドレスの使用制限"参照 』 企業のリソース使用状況の確認 『43ページ 』 マスター監査証跡による監査証跡変更の確認 『44ページ 』 全社レベルの警告の公開 『46ページ 』 企業のサービス割当使用量の表示 『49ページ 』 履歴サービス割当使用量の表示 『49ページ 』 サービス割当の警告の設定 『50ページ 』 ファイルおよびレコード利用情報の表示 『51ページ 』 非共有住所から共有住所への変換 『53ページ 』 共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項 『56ページ 』 共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新 『57ページ 』 [関係の編集] を使用した非共有住所の住所タイプの設定 『58ページ 』 住所に対するアクセスプロフィールおよび役割の設定 『58ページ 』
アプリケーションカスタマイズ 『60ページ 』	レコードタイプセットアップタスク フィールドの作成と編集 『74ページ 』 コピー有効設定の管理 『77ページ 』

セクション	内容
	<p>カスタムフィールドの統合タグの設定 『78ページ』</p> <p>Web リンクの設定 『79ページ の"Web リンクの設定"参照』</p> <p>フィールドの名前変更 『81ページ』</p> <p>インデックス付きカスタムフィールドの使用 『82ページ』</p> <p>設定をデフォルトに戻す 『85ページ』</p> <p>ピックリスト値の変更 『85ページ』</p> <p>関連項目レイアウトのカスタマイズ 『87ページ』</p> <p>静的ページレイアウトのカスタマイズ 『88ページ』</p> <p>フィールドセクションタイトルの名前変更 『91ページ』</p> <p>Web アプレットの作成 『92ページ』</p> <p>カスケード式ピックリストの定義 『94ページ』</p> <p>検索レイアウトの管理 『95ページ』</p> <p>リストアクセスおよびリスト順序の管理 『98ページ』</p> <p>ホームページカスタムレポートの作成 『99ページ』</p> <p>レコードホームページレイアウトの作成 『101ページ』</p> <p>監査証跡のカスタマイズ 『102ページ』</p> <p>動的ページレイアウトの指定 『105ページ』</p> <p>アプリケーションの設定に関するタスク</p> <p>外部 Web ページのタブでの表示 『108ページ』</p> <p>アクションバーレイアウトの作成と管理 『116ページ』</p> <p>グローバル Web アプレットの作成 『117ページ』</p> <p>クライアント側拡張のアップロード 『120ページ』</p> <p>企業の [ホームページ (個人)] のカスタマイズ 『123ページ の"企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ"参照』</p> <p>新規テーマの作成 『124ページ』</p> <p>[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化 『128ページ の"[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化"参照』</p> <p>レコードタイプの名前変更 『129ページ』</p> <p>レコードタイプのアイコンの変更 『130ページ』</p> <p>レコードタイプの追加 『131ページ』</p>

セクション	内容
ユーザー管理とアクセス制御 『138ページ』	<p>ユーザーの設定 『141ページ』</p> <p>ユーザーのセールス目標の設定 『153ページ』</p> <p>ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定 『153ページ』</p> <p>ユーザーのユーザーID の変更 『154ページ』</p> <p>ユーザーのパスワードのリセット 『155ページ』</p> <p>ユーザーのサインイン活動の確認 『155ページ』</p> <p>ユーザーのセキュリティ関連活動の確認 『156ページ』</p> <p>委任ユーザーの管理（管理者） 『157ページ』</p> <p>ユーザーの在庫期間の作成 『160ページ』</p> <p>ユーザーの無効化 『160ページ』</p> <p>ユーザーの設定（パートナー） 『162ページ』</p> <p>ユーザーのユーザーID の変更（パートナー） 『164ページ』</p> <p>ユーザーのパスワードのリセット（パートナー） 『165ページ』</p> <p>ユーザーの無効化（パートナー） 『166ページ』</p> <p>アクセスプロファイルの設定プロセス 『198ページ』</p> <p>役割の追加 『207ページ』</p> <p>グループの設定 『256ページ』</p> <p>テリトリーの設定 『258ページ』</p> <p>ブックの設定のプロセス 『233ページ』</p> <p>管理者の役割に設定されたブックの確認 『234ページ』</p> <p>ブックタイプとブックユーザー役割の作成 『238ページ』</p> <p>レコード所有権モードの設定 『239ページ』</p> <p>ブックとブック階層の作成 『239ページ』</p> <p>ユーザーとブックの関連付け 『241ページ』</p> <p>ブックのアクセスプロファイルの作成 『244ページ』</p> <p>企業のブックの有効化 『245ページ』</p> <p>ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化 『246ページ』</p> <p>「レコード詳細」ページのレイアウトへのブックの追加 『248ページ』</p> <p>ブックへのレコードの割り当て 『249ページ』</p>
ビジネスプロセス管理 『260ページ』	<p>プロセスの作成 『267ページ』</p>

セクション	内容
	<p>プロセスへの推移ステートの追加 『268ページ』</p> <p>プロセスの制限 『270ページ』</p> <p>推移ステートの項目の設定 『270ページ』</p> <p>関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 『271ページ』</p> <p>ワークフロールールの作成 『284ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て 『289ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：タスクの作成 『294ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成 『291ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：電子メールの送信 『299ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：値の更新 『302ページ』</p> <p>ワークフローアクションの作成：待機 『304ページ』</p> <p>ワークフロールールアクションの順序の変更 『307ページ』</p> <p>ワークフロールールの順序の変更 『308ページ』</p> <p>ワークフロールールとアクションの無効化 『309ページ』</p> <p>ワークフロールールとアクションの削除 『310ページ』</p> <p>ワークフローインスタンスの表示 『313ページ』</p> <p>ワークフローモニターからのインスタンスの削除 『315ページ』</p> <p>割当ルールの設定 『322ページ』</p> <p>見込み客変換中の追加フィールドのマッピング 『329ページ』</p> <p>見込み客変換レイアウトの作成 『329ページ』</p> <p>売上予想定義の設定 『332ページ』</p> <p>売上予想定義の更新 『338ページ』</p> <p>セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定 『339ページ』</p> <p>企業の業種リストのカスタマイズ 『346ページ』</p>
データ管理ツール 『347ページ』	<p>データのインポートの準備 『390ページ』</p> <p>インポート時のレコードのリンク 『383ページ』</p> <p>データのインポート 『527ページ』</p> <p>インポート結果の確認 『532ページ』</p> <p>データのエクスポート 『534ページ』</p> <p>エクスポート結果の確認 『535ページ』</p> <p>Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ 『</p>

セクション	内容
	541ページ 』 Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ 『 536ページ 』 統合イベントキューの作成 『 559ページ 』 統合イベント設定の管理 『 560ページ 』 個人抽出定義の管理 『 543ページ 』
コンテンツ管理 『 561ページ 』	製品カテゴリーの設定 『 562ページ 』 自社製品の設定 『 563ページ 』 PRM の価格リストの設定 『 565ページ 』 企業の添付資料の管理 『 568ページ 』 アセスメントスクリプトの設定 『 569ページ 』 レポートフォルダの設定
Web サービスの統合 『 537ページ 』	WSDL およびスキーマファイルのダウンロード 『 538ページ 』 Web サービスの利用の確認 『 540ページ 』
ライフサイエンス管理 『 576ページ 』	スマートコールの管理 『 576ページ 』 有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定 『 579ページ 』 担当者へのサンプル受領権限の付与 『 580ページ 』

さらに、管理者は通常、次の操作を行うことができます。

- 自分自身で使用するための、または社内に配布するためのカスタムレポートの作成手順については、「レポート」を参照してください。
- 社内で配布するためのフィルター済みリストの作成手順については、「リストの使用」を参照してください。

Oracle On Demand Expression Builder の使用方法については、「[Expression Builder](#) 『[582ページ](#) 』」を参照してください。

Oracle CRM On Demand の管理プロセス

Oracle CRM On Demand の [管理者] ページでは、ユーザーに対する Oracle CRM On Demand の配置およびデータ要件の設定を管理できます。[管理者] ページを使用して、特定のビジネス要件に合わせて Oracle CRM On Demand の外観をカスタマイズできます。Oracle CRM On Demand の配置を管理するには、次のガイドラインに従います。

- 1 使用可能なすべてのリソースを確認します。

新しい Oracle CRM On Demand の配置を設定する前に、次のリソースを確認します。

- 『Oracle CRM On Demand Administrator Preview Guide』を一読します。このガイドは、すべての企業管理者が利用でき、Oracle CRM On Demand の機能を有効化する方法に関する情報を提供します。『Oracle CRM On Demand Administrator Preview Guide』の入手方法の詳細は、Oracle CRM On Demand の [トレーニングおよびサポート] リンクをクリックしてください。
- Oracle CRM On Demand の [トレーニングおよびサポート] リンクをクリックして、その他のツール、テンプレート、チェックリスト、Web セミナーおよびガイドを確認します。
- Oracle University が実施する Administration Essentials コースに登録します。

2 組織内のビジネスプロセスとユーザーが果たす役割を評価します。

My Oracle Support から入手可能な『Oracle CRM On Demand Administrator Rollout Guide』を一読します。カスタムフィールドの設定テンプレートをダウンロードして使用し、配置を最初から適切に計画します。カスタムフィールドの設定テンプレートは My Oracle Support のトレーニングおよびサポートセンターのツールとテンプレートページから入手できます。

- 次の要因および機能を検討して、データの表示とデータのセキュリティ保護方法を定義します。
 - **アクセスプロファイル**。詳細は、「[アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』」を参照してください。
 - **チーム**。詳細については、「[レコードの共有 \(チーム\)](#)」を参照してください。
 - **ブック**。詳細については、「[ブックの管理](#) 『212ページ』」を参照してください。
 - **マネージャ表示**。詳細については、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) 『16ページ』」を参照してください。
- データモデルと関連フィールドを定義します。トレンド分析、リアルタイムトレンド分析および分析をサポートするレコードタイプがどのレポートに必要なかを評価します。
- 検証およびデータ操作に関連する次のプロセスを定義します。
 - セールスプロセスの設定。詳細については、「[セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定](#) 『339ページ』」を参照してください。
 - 見込み客変更レイアウトと項目マッピングを定義します。詳細については、「[見込み客変換の管理](#) 『327ページ』」を参照してください。
 - フィールド検証を定義します。詳細については、「[フィールド管理について](#) 『63ページ』」を参照してください。
 - ワークフロープロセスを定義します。詳細については、「[ビジネスプロセス管理](#) 『260ページ』」を参照してください。
 - Oracle CRM On Demand と Web サービスを統合します。詳細については、「[Web サービスの統合](#) 『537ページ』の"[Web サービスの統合](#)"参照」を参照してください。
- 顧客テスト環境 (CTE) とトレーニングおよびテストのためのその他の環境を定義します。

3 企業を設定します。

各企業は一意です。Oracle CRM On Demand では、ビジネスの設定に合わせて多くの企業設定をカスタマイズできます。

- 企業の会計年度、言語、通貨、為替レートなどを設定します。
- 適切なアクセス権と CTE を要求します。企業設定の詳細は、「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) 『16ページ』」を参照してください。

4 ユーザープロファイルを設定します。

企業内のユーザーには特定の役割と権限があります。一定のデータへのアクセス権を持つユーザーと持たないユーザーがいます。ユーザーを追加する前に、各ユーザータイプの表示と役割を設定する必要があります。

- 企業のアクセスプロファイルを設定します。詳細は、「[アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』」を参照してください。
- Oracle CRM On Demand ユーザーの役割を設定します。詳細については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。
- ブック、チームなどの表示モデルを設定します。詳細については、「[ブックの管理](#) 『212ページ』」および「[レコードの共有（チーム）](#)」を参照してください。

5 データモデルを設定します（例：フィールドやレコードタイプの追加または名前変更など）。

企業のデータ要件も一意です。Oracle CRM On Demand で、既存のレコードタイプへの新しいフィールドの追加、ビジネス条件に応じたフィールド名の変更、新規カスタムレコードタイプの追加を行うことができます。データを追加する前に、次の操作を行ってください。

- データモデルの定義に必要な新しいフィールドおよびレコードタイプを追加します。詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」および「[レコードタイプの追加](#) 『131ページ』」を参照してください。
- 特定のビジネス条件に合わせてフィールドおよびレコードタイプの名前を変更します。詳細については、「[フィールドの名前変更](#) 『81ページ』」および「[レコードタイプの名前変更](#) 『129ページ』」を参照してください。
- ピックリストを作成します。インポート機能を使用して、大量のピックリスト値をピックリストフィールドに手軽にインポートできます。詳細については、「[ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』」を参照してください。
- レイアウトを設定します。各役割に必要なフィールドのみを表示し、動的レイアウトを使用します。詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」および「[動的ページレイアウトの指定](#) 『105ページ』」を参照してください。
- ワークフローやセールスプロセスなどのプロセスを設定します。詳細については、「[ビジネスプロセス管理](#) 『260ページ』」および「[セールスプロセス、カテゴリ、およびコーチの設定](#) 『339ページ』」を参照してください。
- 役割のリストを設定します。最初の 10 件のリストはユーザーのホームページに表示されます。リストに大量のデータを取得しないことをお勧めします。毎日の作業で管理可能な推奨レコード件数は 25 から 100 件です。また、次のことをお勧めします。

- 可能な場合は、インデックス付きフィールドを使用します。
- リストには、ユーザーが頻繁に更新するフィールドを含めます。

リストの設定の詳細は、「[リストの作成と編集](#)」を参照してください。

6 レポートを生成してビジネス基準に関する情報を提供します。

Oracle CRM On Demand のレポート機能を使用してビジネス要件に関連するカスタムレポートを生成し、ユーザーに提供します。詳細については、「[レポートについて](#)」を参照してください。

7 データとユーザーをインポートします。

インポート機能を使用してレガシーデータを Oracle CRM On Demand にインポートします。すべてのユーザーをインポートすることも、[ユーザー管理] ページからすべてのユーザーを手動で追加することもできます。追加されたユーザーには Oracle CRM On Demand にアクセスするための暫定パスワードを通知する電子メールが送信されるため、ユーザーはすぐに作業を開始できます。データのインポートの詳細は、「[インポートツールとエクスポートツール](#) 『347ページ』」を参照してください。

設定時における管理者テンプレートの使用

企業の情報を整理したり、Oracle CRM On Demand を効率的に実装するのに役立つ管理者設定テンプレートを使用できます。

テンプレートに情報を入力した後は、アプリケーションの設定およびカスタマイズ時にそのテンプレートを参照として使用できます。

管理者設定テンプレートにアクセスするには

- 8 使用するテンプレートのリンクをクリックします。
使用可能なテンプレートのリンクについては、次のセクションを参照してください。
- 9 テンプレートをコンピュータに保存します。
- 10 保存されたファイルを開きます。

Oracle CRM On Demand の使用状況追跡について

使用状況追跡機能を使用すると、企業は、ユーザー使用状況、アプリケーション使用状況、セットアップと設定の詳細など、Oracle CRM On Demand アプリケーションの使用状況を監視および分析できます。Oracle CRM On Demand 使用状況のレポート作成用に、使用状況追跡に関する多数の組み込みレポートが用意されています。組み込みレポートに加えて、Oracle CRM On Demand 使用状況をさらに詳細に分析する必要がある企業のために、使用状況追跡分析サブジェクトエリアは Oracle CRM On Demand Answers の分析エリアで使用できます。

たとえば、次にに関する情報を提供するレポートを作成できます。

- 過去 30 日間サインインしていないユーザー
- 過去 30 日間レコードが作成、更新、削除されていないレコードタイプ
- Oracle CRM On Demand で作成されたワークフロールール、カスタムフィールドおよびカスタムタブの数

ヒント：Web サービス使用状況の確認については、「[Web サービスの利用の確認](#)」『540ページ』を参照してください。

使用状況追跡分析サブジェクトエリアで、組み込みの使用状況追跡レポートにアクセスし、新規レポートを作成するには、ユーザー役割に「使用状況追跡」権限が含まれている必要があります。「使用状況追跡」権限は、企業管理者の役割ではデフォルトで有効です。

「使用状況追跡」権限について

企業管理者は、必要に応じて他のユーザー役割の「使用状況追跡」権限を有効にできます。ただし、ユーザー役割の「使用状況追跡」権限を有効にするには、その前に、権限の有効化による次の影響を考慮してください。

- ユーザー役割に「使用状況追跡」権限が含まれているユーザーは、Oracle CRM On Demand Answers の使用状況追跡分析サブジェクトエリア、および使用状況追跡に関する組み込みレポートにアクセスできます。
- 使用状況追跡データへのアクセスは、アクセスプロファイルやユーザー役割のレコードタイプに対するアクセス設定など、他のアクセス設定では保護されません。したがって、役割に「使用状況追跡」権限が含まれているユーザーは、使用状況追跡分析サブジェクトエリア内のすべての使用状況追跡データにアクセスできます。

企業の使用状況データの一部は機密と考えられる場合があるため、適切なユーザーにのみ「使用状況追跡」権限が付与されていることを確認する必要があります。

- 使用状況追跡のレポート作成では、システムリソースが集中的に使用される場合があります。

一部の使用状況追跡レポートは特定のユーザーが使用できるようにするが、そのユーザーに使用状況追跡分析サブジェクトエリアと組み込みレポートに対する完全アクセス権を付与しない場合は、関連データが含まれるカスタムレポートの作成を考慮します。このカスタムレポートを共有レポートフォルダに格納し、ユーザーには、共有フォルダのみに対するアクセス権を付与できます。

Oracle CRM On Demand では、サービス割当使用量に関するデータを表示できます。「[企業のサービス割当使用量の表示](#)『49ページ』」および「[履歴サービス割当使用量の表示](#)『49ページ』」を参照してください。ファイルおよびレコードの使用量に関するデータについては、「[ファイルおよびレコード利用情報の表示](#)『51ページ』」を参照してください。

関連トピック

使用状況追跡分析サブジェクトエリアおよびレポートの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [組み込みレポートについて](#)
- [使用状況追跡分析サブジェクトエリア](#)
- [Answers の概要（カスタムレポート）](#)

企業管理

作業前の準備。特に指示のない限り、「企業管理」で説明する手順を実行するには、「企業プロフィールの管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業管理に関連する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#)『16ページ』
- [ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#)『26ページ』
- [企業のパスワード管理の定義](#)『28ページ』
- [すべてのパスワードのリセット](#)『34ページ』
- [言語の有効化](#)『34ページ』
- [カスタム会計カレンダーの定義](#)『37ページ』
- [通貨の管理](#)『39ページ』
- [すべてのユーザーのサインイン活動の確認](#)『42ページ』
- [IP アドレスの使用制限](#)『35ページ』の["IP アドレスの使用制限"参照](#)』
- [企業のリソース使用状況の確認](#)『43ページ』
- [マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#)『44ページ』
- [全社レベルの警告の公開](#)『46ページ』
- [企業のサービス割当使用量の表示](#)『49ページ』

- [履歴サービス割当使用量の表示](#) 『49ページ』
- [サービス割当の警告の設定](#) 『50ページ』
- [ファイルおよびレコード利用情報の表示](#) 『51ページ』
- [非共有住所から共有住所への変換](#) 『53ページ』
- [共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項](#) 『56ページ』
 - [共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび \[アドレスの管理\] 権限の更新](#) 『57ページ』
- [\[関係の編集\] を使用した非共有住所の住所タイプの設定](#) 『58ページ』
- [住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定](#) 『58ページ』

企業プロフィール

企業プロフィールを設定するには、次の作業を実行します。

- [企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#) 『16ページ』
- [ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#) 『26ページ』
- [企業のパスワード管理の定義](#) 『28ページ』
- [すべてのパスワードのリセット](#) 『34ページ』
- [言語の有効化](#) 『34ページ』
- [IP アドレスの使用制限](#) 『35ページ の["IP アドレスの使用制限"参照](#)』

企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定

企業情報およびグローバルデフォルトは、[企業プロフィール] ページを使用して設定します。

企業情報。 企業名、出荷先住所および請求先住所、電話番号、プライマリ担当者を入力または編集できます。トライアル期間にサインアップした場合は、企業に関する一部の情報がサインアップデータから継承されます。

グローバルデフォルト。 全社レベルのデフォルトを定義できますが、ユーザーはこれらのデフォルトを上書できます。

注意： 企業の管理者は [国] の設定を変更できます。これにより、カスタマーサポートは、レポートやダッシュボードの更新だけでなく、[タイムゾーン] の設定の更新についても必要な措置を取ることができます。[言語]、[通貨]、および [タイムゾーン] の変更は、カスタマーサポートに連絡した場合にのみ可能です。

作業前の準備。 これらの設定の影響については、「ユーザーのプロファイル設定について」を参照してください。

この手順を実行するには、企業プロフィールの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業プロフィールを編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] セクションで、[企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール] ページで、[編集] ボタンをクリックして（またはインライン編集を使用して）変更します。
- 5 レコードを保存します。

次の表では、表示されるいくつかのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
企業主要情報	
会社のサインイン ID	各企業に固有の識別子。新規ユーザーを作成する際は、これがそのユーザーのユーザーサインイン ID（企業サインイン ID/ユーザーID）の最初の部分となります。
プライマリ担当者	<p>デフォルトでは、ADMIN か、社内で最初にサインインしたユーザーのエイリアスになりますが、任意のユーザーに変更できます。製品の更新や、その他の重要な情報はプライマリ担当者に送信されます。</p> <p>プライマリ担当者が担当できない状況を補うには、プライマリ担当者の電子メールアドレスに配布リストを入力して、システム障害や他の重要な情報を複数のユーザーに通知します。これは、次の 2 つの方法で実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プライマリ担当者のユーザーレコードの電子メールアドレスに既存の配布リストを入力します。ただし、システムでプライマリ担当者が何かを実行し、自動化された電子メールを自分の電子メールアドレスに送信した場合は、配布リストのすべてのユーザーがその通知を受信することに注意してください。 ■ 新規のダミーユーザーを作成します。このユーザーに配布リストなどの名前を付け、ダミーユーザーのユーザーレコードの電子メールアドレスに配布リストを入力します。この場合は、自分のライセンスの 1 つをこのタスクに対してのみコミットします。 <p>注：プライマリ担当者に指定したユーザーは無効にできません。元のプライマリ担当者の状態を[無効]に変更するには、その前に、プライマリ担当者に対して別のユーザーを選択する必要があります。</p>
企業設定	
デフォルト言語	<p>ユーザーのデフォルトとして使用する言語。ユーザーが自分自身で使用する設定を変更できるように、その他の言語も有効にできます。言語の追加方法については、「言語の有効化『34ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
デフォルト地域	ユーザーのデフォルトとして使用する地域設定。ユーザーは、自分自身で使用する設定を、[ユーザープロフィール] ページからいつでも変更できます。これらの設定によって、日付、時刻、通貨、数字、および電話番号の形式が決まります。
デフォルト通貨	ユーザーのデフォルトとして使用する通貨。他の通貨を有効にすれば、ユーザーが自

フィールド	説明
	<p>分の設定を変更できるようになります（「通貨の管理 『39ページ』」を参照）。ただし、ここで設定した通貨は、売上予想に使用する全社レベルの通貨を指定します。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
デフォルトタイムゾーン	<p>企業のデフォルトのタイムゾーン。</p> <p>売上予想の生成などの一部の機能では、このデフォルトのタイムゾーンではなく、ホスト施設のタイムゾーンを使用します。このタイムゾーンについては、カスタマーサポートにお問い合わせください。他の地域のユーザーは自分の地域のタイムゾーンの使用を選択できます。このタイムゾーンは [ユーザープロフィール] ページで設定されます。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
レコードプレビューモード	<p>企業のデフォルトレコードプレビューモード。レコードプレビュー機能を有効にし、プレビューウィンドウを開く方法を指定できます。このフィールドの設定内容によって、ユーザーがレコードへのリンクにポインタを置くか、またはレコードへのリンクにポインタを置いたときに表示されるプレビューアイコンをクリックするとプレビューウィンドウが開きます。</p> <p>プレビューウィンドウには、レコードの [詳細] ページの最初のセクションが表示されます。このフィールドで [オフ] を選択すると、レコードプレビュー機能を無効にすることもできます。このフィールドは Oracle CRM On Demand が新しい企業に対して初めてセットアップされたときに、デフォルトで [Click on Preview Icon (プレビューアイコンをクリック)] に設定されます。</p> <p>ユーザーは、[個人詳細] ページで別のレコードプレビューモードを設定することにより、企業のデフォルト設定を上書きできます。</p>
インライン編集有効	<p>インライン編集機能を有効または無効にします。</p> <p>インライン編集を有効にすると、レコードに対して [編集] ページを開かずに、リストページと詳細ページで直接フィールドを編集できます。</p> <p>インライン編集は、レコードのリストページ、レコードの詳細ページ、およびメインレコードの詳細ページでリンクされた多くのレコードでサポートされます。</p> <p>リンクされたレコードの次のフィールドタイプは、メインレコードの [詳細] ページから編集できないことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リンクされたレコード自体の [詳細] ページに表示されないフィールド ■ [氏名] などの計算フィールド ■ リンクされたレコードの [編集] ページで読み取り専用のフィールド <p>また、複数のメインレコードの下に同じリンクされたレコードを表示できる場合は、リレーションシップの一部であるフィールドを編集できます。リンクされたレコード自体に属しているフィールドは編集できません。たとえば、取引先レコードの [取引先チーム] 関連リストでは、[チームの役割] フィールドは取引先とチームメンバー間のリレーションシップの一部になっているので編集できます。ただし、[名前 (姓)] フィールドと [名前 (名)] フィールドは、ユーザーレコード (チームメンバー) に属しているため編集できません。</p>

フィールド	説明
メッセージセンター対応	<p>次の内容を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アクションバーに [メッセージセンター] が表示されます。 ■ [メモ] アイコンとメモのリストが [レコード詳細] ページで使用可能です。 ■ ユーザーはメッセージセンターウィジェットを使用できます。
レコードタイプの監査可能な項目	<p>各オブジェクトの監査可能なフィールドの最大数で、読み取り専用フィールドとして表示されます。デフォルトの数値は 35 ですが、企業の管理者はこの値を変更できます。</p> <p>注： 追加の各フィールドの監査で、該当するフィールドに変更があった場合は、データベースに別のレコードを作成する必要があります。一度に監査するフィールドが多すぎると、監査したレコードを保存するときのパフォーマンスに影響を与える場合があります。</p>
監査失効（日数）	<p>フィールド監査レコードが削除されるまでの経過時間（日数）。企業の管理者はこの値を 1 から 90 日までの値に設定できます。企業に対して設定された値を表示するには、[企業プロファイル] ページの [企業セキュリティ設定] セクションに移動します。ゼロ (0) の値は、フィールド監査レコードが削除されないことを示すことに注意してください。Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートのみが 0 の値を設定できます。企業の管理者がこの設定を変更するには、[フィールド監査の管理] 権限が必要です。</p>
関連情報形式	<p>レコードの [詳細] ページの関連情報セクションのデフォルト形式を選択します。</p> <p>関連情報セクションは、ユーザーがリストを表示する場合にクリックできるリストまたはタブとして表示できます。[関連情報形式] オプションのデフォルト設定は役割ごとに設定することもできます。役割に [関連情報表示形式のパーソナライズ] 権限があるユーザーは、個人プロファイルの [関連情報形式] オプションを設定することもできます。ユーザーの個人プロファイルの [関連情報形式] オプションが空白の場合は、そのユーザーの役割に対するデフォルト設定が使用されます。そのユーザーの役割の [関連情報形式] オプションが空白の場合は、企業に対するデフォルト設定が使用されます。</p>
グローバル検索方法	<p>アクションバーおよびブルックアップウィンドウの [検索] セクションでユーザーが使用できる検索方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲット検索。 ターゲット検索では、指定したフィールドで一致が検索されます。ターゲット検索では、ユーザーは複数のフィールドに値を入力できます。ユーザーが入力した各値との一致が検出されたレコードのみが返されます。レコードタイプに対してユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトに基づいて、ユーザーが検索できるフィールドが決まります。Oracle CRM On Demand では、ターゲット検索がデフォルトで有効です。ターゲット検索の詳細は、「ターゲット検索について」を参照してください。 ■ キーワード検索。 キーワード検索では、各レコードタイプに固有のデフォルトのフィールドが検索されます。キーワード検索では、単一のテキストボックスに文字列を入力します。ユーザーが入力した文字列との一致が検出されたすべての検索対象フィールドにあるレコードすべてが返されます。キーワード検索の詳細は、「キーワード検索について」を参照してください。
会計年度開始月	<p>このフィールドには、会計カレンダーの開始月が表示されます。</p>

フィールド	説明
	<p>このフィールドは企業の作成時に最初に設定されるものであり、企業の管理者はこれを変更できません。</p> <p>この設定は、会計年度の売上を測定するレポートに影響を与えます。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
会計年度開始日	<p>このフィールドには、指定した会計カレンダーの開始月の日付が表示されます。</p> <p>このフィールドは企業の作成時に最初に設定されるものであり、企業の管理者はこれを変更できません。</p> <p>この設定は、会計年度の売上を測定するレポートに影響を与えます。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
会計カレンダーのタイプ	<p>このフィールドには、使用する会計カレンダーのタイプが表示されます。選択できる値は、[カレンダー四半期]、4-4-5、5-4-4、[カスタム会計カレンダー] です。この設定は、時間ベースの分析、ビジネス計画、売上予想に影響を与えます。企業の管理者は、このフィールドを変更できません。</p> <p>このフィールドの更新については、カスタマーサポートにお問い合わせください。</p>
製品確度平均化の有効化	<p>ユーザーが[商談合計を更新] ボタンをクリックすると、商談の確度の更新方法を決めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択されている場合、商談の確度は、リンクされている各製品の確度の加重平均に基づいて計算されます。 <p>商談の確度 = $\text{SUM (製品予想売上)} / \text{SUM (製品売上)}$</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択されていない場合、確度はアクションの一部としては更新されません。 <p>注： [商談合計を更新] ボタンは、製品関連情報セクションのタイトルバーで、[商談詳細] ページにあります。</p>
製品の保存と追加の有効化	<p>この設定が選択されているときに、ユーザーが新規の商談レコードを作成した場合、[商談] ページヘッダーには、[保存] ボタンのかわりに [製品を保存 & 追加] ボタンが表示されます。この設定が未選択のときに、ユーザーが新規の商談レコードを作成した場合、[商談] ページヘッダーには、[製品を保存 & 追加] ボタンが表示されず、[保存] ボタンのみが表示されます。</p>
商談売上分割の有効化	<p>チームメンバー間での商談売上の分割を有効化するには、このオプションを選択します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[商談チーム - ユーザーを編集] ページに [合計を更新] ボタンと [展開分割] ボタンが表示され、売上をチームメンバーで分割できます。[商談売上予想] ページと [商談 (個人)] ページには、ユーザーが分割売上対象のチームメンバーである商談が表示されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、[商談チーム - ユーザーを編集] ページに [合計を更新] ボタンと [展開分割] ボタンが表示されません。[商談売上予想] ページと [商談 (個人)] ページには、ユーザーが商談所有者である商談が表示されます。</p>

フィールド	説明
ヘッドアップディスプレイ	<p>ヘッドアップディスプレイ機能が有効な場合は、ブラウザウィンドウの下部にあるヘッドアップディスプレイで、ページの関連情報セクション（リンクされているレコードのセクションなど）へのリンクを使用できます。ヘッドアップディスプレイは、個人のプロファイルにある機能をオフにすることで、詳細ページから完全に削除することもできます。ヘッドアップディスプレイの詳細は、「Oracle CRM On Demand の各ページについての概要」を参照してください。</p> <p>注：ヘッドアップディスプレイ機能は、企業レベルで、または個々のユーザーがオンまたはオフにできます。ユーザーの個人設定は、企業の設定より優先されます。ヘッドアップディスプレイの色は、使用しているテーマによって決まります。テーマの選択方法の詳細は、「テーマの設定」を参照してください。</p>
共有アドレスの有効化	<p>取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーレコードのトップレベルの住所レコードの共有をオンにするには、このオプションを選択します。このオプションをオフにすると、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードで利用できるのは住所の非共有機能のみとなります。共有住所の詳細は、「住所」を参照してください。</p> <p>注：共有住所がオンの場合は、オフにする前に、「共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項『56ページ』」の情報を確認し、「共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび[アドレスの管理]権限の更新『57ページ』」の手順を完了してください。共有住所は、Oracle Process Integration Pack (PIP) などの事前パッケージ済みの Oracle 製品統合と互換性がありません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand や Oracle E-Business Suite PIP などの PIP を使用する場合は、[共有アドレスの有効化] 設定を選択しないでください。</p>
共有アドレスの検証	<p>企業の共有住所を検証するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ユーザーは、共有住所を選択して取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードに追加できます。未検証の住所は、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードからフィルター処理され、これらのレコードの[新規]住所ボタンは使用不可になります。</p> <p>[共有アドレスの検証] がオフの場合は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで、すべての住所が使用可能になります（つまり、フィルター処理は実行されず、必要な権限があるユーザーに対しては、これらのレコードの[新規]住所ボタンが有効になります）。</p> <p>住所の検証の詳細は、「共有住所への検証済みのマーク付け」を参照してください。</p>
オーダー使用	<p>Oracle CRM On Demand でのオーダーおよびオーダー項目の使用方法を選択します。</p> <p>CRM On Demand Order Management の値を選択した場合は、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition のオーダー管理を使用できます。</p> <p>Ebiz PIP 統合の値を選択した場合は、Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand および Oracle E-Business Suite 統合ソリューションを使用できます。</p> <p>いずれかの目的でオーダー機能を使用する場合は、ユーザーの役割に[オーダーアクセスの有効化]権限が必要です。</p>

フィールド	説明
企業テーマ設定	
テーマ名	<p>テーマは Oracle CRM On Demand の外観を決定します。新しい企業に対して Oracle CRM On Demand を最初のセットアップする際のデフォルトのテーマは Oracle です。このテーマを変更する場合は、[テーマ名] リストをクリックし、各自の企業にふさわしいテーマを選択します。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。</p> <p>テーマは、Oracle CRM On Demand の動作に影響を与えません。企業の管理者は、Oracle CRM On Demand にカスタムのテーマを作成できます。Oracle CRM On Demand で使用する独自のテーマを送信する場合は、企業の管理者に連絡してください。</p>
会社データ表示設定	
管理者の表示が有効	直接的または間接的にレポートを提出するユーザーのレコードをマネージャが表示できるようにするには、このオプションを選択します。ユーザーのマネージャは、[ユーザー詳細] ページの [上司] フィールドまたは [上司 (エイリアス)] フィールド (どちらのフィールドがこのページに表示されるかによって決まる) で指定します。
親チーム継承の有効化	商談チームと担当者チームが取引先のチームメンバーを継承できるようにするには、このオプションを選択します。有効にすると、取引先チームに追加された新規のチームメンバーが、取引先関連のすべての担当者チームと商談チームにも追加されます。
デフォルトのグループ割当	グループメンバーが取引先、活動、担当者、世帯、商談、およびポートフォリオの所有権を共有できるようにするには、このオプションを選択します。詳細は、「 グループの管理 『253ページ』」を参照してください。
ブックの有効化	<p>ブックセクタでカスタムブックを表示するかどうかを制御します。このチェックボックスが有効でない場合、ブックセクタに表示されるのは、ユーザーブックおよび被委任者 (存在する場合) のブックのみです。</p> <p>注意: [ブックの有効化] オプションは、ブック階層を作成するまではオンにしないでください。このオプションはオンにするとオフに戻せません。ただし、ブック階層はこのオプションをオンにした後でも変更できます。</p>
ブックセクタの表示	ブックセクタを有効または無効にします。このセクタは、特定ユーザー、委任者、またはカスタムブックのレコードに検索を絞り込むために使用できます。
統合設定	
統合イベントが有効	新規の顧客の場合は、統合イベント機能が自動的に有効になります。ただし、既存の顧客の場合、 Oracle CRM On Demand の統合イベント機能は、カスタマーサポートと企業の管理者による設定が必要です。カスタマーサポートに連絡して、統合イベント管理のサポートを依頼し、必要な統合イベントキューの最大の合計サイズを指定してください。
Web サービス R16 互換性モード	ユーザー名トークンとパスワードトークンが含まれている Web サービスリクエストを、 Oracle CRM On Demand リリース 16 以下と同じステートレスリクエストまたはステートフルリクエストとして処理するかどうかを制御します。このチェックボックスは、新規のすべての企業に対してデフォルトでオフです。
ワークフローを有効化	企業がワークフローを許可するように設定されている場合は、この設定が表示されま

フィールド	説明
	す。この設定は、導入したいワークフロー条件を作成しておけば有効にできます。
デスクトップ統合設定	
オフラインクライアント編集アクセス権	この設定によって、アップロードまたはダウンロードでのレコード編集アクセス権が確認されます（以前のリリースの Oracle CRM On Demand では、ダウンロード時のみアクセス権が確認されていました）。アクセス権は、データをアップロード時に確認することをお勧めします。このオプションには、[アップロード時に確認]（新規顧客のデフォルト値）、[ダウンロード時に確認]、[なし] の 3 つがあります。顧客が使用する場合の推奨オプションは、[アップロード時に確認] です。空のピクリストのオプションが選択されると、 Oracle CRM On Demand では、[ダウンロード時に確認] オプションと同じ方法でアクセス権が確認されます。
企業セキュリティ設定	
企業のアイドルタイムアウト（分）	これは、使用されていないためにユーザーのセッションが終了するまでに許可された時間（分）です。このフィールドの値を空にした場合、インタラクティブセッションのタイムアウト設定は、システムの [デフォルトアイドルタイムアウト] の値によって決まります。システムの現在の [デフォルトアイドルタイムアウト] 設定は、[企業プロフィール] ページの [企業セキュリティ設定] セクションの最上部で確認できます。この値は [企業プロフィール] ページを編集するときに表示されます。カスタマーサポートに連絡して、[企業のアイドルタイムアウト] の値を 10 から 90 分までの値に更新できます。
認証タイプ	<p>企業に許可されている認証タイプを表示します。この値を割り当てることができるのはカスタマーサポートだけです。割り当てることができる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーID/パスワードのみ - すべてのユーザーが各自の Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードを使用してサインインする必要があります。 ■ シングルサインオンのみ - すべてのユーザーがシングルサインオンメカニズムを使用してサインインする必要があります。Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードは受理されません。 ■ ユーザーID/パスワードまたはシングルサインオン - Oracle CRM On Demand のユーザーID およびパスワードとシングルサインオンのどちらを使用しても Oracle CRM On Demand にサインインできます。 <p>認証タイプは、企業の管理者が [ユーザープロフィール] ページで各ユーザーに対して設定できます。ユーザーの値が空白の場合は、そのユーザーに対して全社レベルの設定が使用されます。</p>
シングルサインオンの外部 ID	企業にシングルサインオンが設定されたときにカスタマーサポートが割り当てる固有の企業識別子。企業の管理者はこの値を変更できませんが、外部 ID は [ユーザープロフィール] ページでユーザーごとに設定できます。
ユーザーID/パスワード認証用のサインインページ	企業固有のカスタムサインインページへの URL。デフォルトの Oracle CRM On Demand サインインページが置き換わります。通常、ページは企業の Web サーバーでホストされます。URL は完全修飾である必要があります（URL は http://または

フィールド	説明
	<p>https://で開始する必要があります)。</p> <p>このページは、ユーザーがサインアウトした後か、ユーザーのセッションが（使用されていないため）終了した後で表示されます。企業は、最初のサインインには Oracle CRM On Demand のデフォルトページではなく、このページを使用するようにユーザーに指示する必要があります。</p>
SSO 認証用のサインインページ	<p>企業固有のカスタムサインインページへの URL。このページは、ユーザーがシングルサインオンを使用して Oracle CRM On Demand にサインインした場合に、ユーザーがサインアウトした後か、ユーザーのセッションが（使用されていないため）終了した後で表示されます。通常、このページは企業の Web サーバー（企業のシングルサインオンポータルなど）でホストされます。URL は完全修飾である必要があります（http://または https://で開始する必要があります）。</p> <p>企業は、最初のサインインには Oracle CRM On Demand のデフォルトページではなく、各自の SSO サインインページを使用するようにユーザーに指示する必要があります。SSO を使用してサインインしたユーザーがサインアウトしたとき、この設定が空白になっていると、「サインアウトされました」というメッセージが一般ページに表示されます。</p>
SSO 認証用の ITS URL	<p>Oracle CRM On Demand へのシングルサインオンに使用される SAML Intersite Transfer Service の URL で、企業にシングルサインオンが設定される場合にカスタマーサポートによって割り当てられます。この値は、企業の管理者が変更することはできません。</p>
IP アドレス制限の有効化	<p>「IP アドレスの使用制限 『35ページ』」を参照してください。</p>
サイト間リクエストの偽造保護機能の有効化	<p>サイト間リクエストの偽造攻撃を防止する機能を有効にします。このチェックボックスをオンにすると、Oracle CRM On Demand と対話するカスタムコードを作成するユーザーは、コードの隠しパラメーターとしてセキュリティトークンを含めることを求められる場合があります。サイト間リクエストの偽造保護の詳細については、「サイト間リクエストの偽造保護について 『33ページ』」を参照してください。</p> <p>企業が Oracle CRM On Demand を使用するように設定されている場合、このチェックボックスはデフォルトでオンになり、設定を変更することはできません。</p>
IFRAME 埋め込みの有効化	<p>セキュリティ上の理由から、このチェックボックスはデフォルトでオフにされており、必要な場合のみオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが Oracle CRM On Demand ページを別のサイトの Web ページの iFRAME に埋め込むことが許可されます。Oracle CRM On Demand を別のサイトの Web ページの iFRAME に埋め込もうとしたときにこのチェックボックスがオフにされていると、Oracle CRM On Demand ページが展開されて親ページになります。この設定は、デスクトップアプリケーションに埋め込む Oracle CRM On Demand ウィジェットには影響しません。</p>
分析表示設定	
レポートサブジェクトエリア	<p>このピックリストを使用して、ユーザーに対する Oracle CRM On Demand Answers のリアルタイムレポートレコードの表示を設定します。これらのレポートにより、データのリアルタイム分析が可能です。次のいずれかの値を選択できます。</p> <p>マネージャ表示 - 自分が所有するデータのほかに、部下が直接所有するデータを表示</p>

フィールド	説明
	<p>できます（これはデフォルト設定です。）</p> <p>チーム表示 - 自分が所有するデータのほかに、取引先および商談チームと共有するデータを表示できます。</p> <p>この企業全体の設定は、ユーザーが「個人詳細」ページの「レポートサブジェクトエリア」設定に値を設定していないかぎり、適用されます。レポートの詳細は、「レポート」の、特に「レポートのレコードの表示について」セクションを参照してください。</p>
履歴サブジェクトエリア	<p>このピックリストを使用して、Oracle CRM On Demand Answers の分析レポートレコードを表示するユーザーに対する表示設定を設定します。これらのレポートは時系列分析またはトレンド分析で使用されるか、または、リアルタイムレポートよりも複雑な計算式が含まれています。次のいずれかの値を選択できます。</p> <p>マネージャ表示 - 自分が所有するデータのほかに、部下が直接所有するデータを表示できます（これはデフォルト設定です。）</p> <p>チーム表示 - 自分が所有するデータのほかに、取引先および商談チームと共有するデータを表示できます。</p> <p>フル表示 - この設定はマネージャ表示とチーム表示の表示を組み合わせたものです。</p> <p>この企業全体の設定は、ユーザーが「個人詳細」の「履歴サブジェクトエリア」設定に値を設定していないかぎり、適用されます。レポートの詳細は、「レポート」の、特に「レポートのレコードの表示について」セクションを参照してください。</p>
役割ベースですべてのレコードを読み取れます	<p>Oracle CRM On Demand Answers のレポートで、役割管理ウィザード内の「レコードタイプアクセス」ページの定義に従って、「すべてのレコードを読み取り可能」設定がオブジェクトベースで使用されるようにする場合は、このピックリストを使用します。たとえば、管理者が、ユーザー役割に対して、特定のオブジェクトについて「すべてのレコードを読み取り可能」表示設定を選択している場合（「管理」、「ユーザー管理とアクセス制御」、「役割管理」の順にクリックし、役割を編集して「レコードタイプアクセス」をクリック）、ユーザーは、「役割ベースですべてのレコードを読み取れます」設定が企業プロファイルまたはユーザープロファイルのいずれかで有効になっている場合にかぎり、Oracle CRM On Demand Answers のそのオブジェクトの全レコードを表示できます。</p> <p>「役割ベースですべてのレコードを読み取れます」を有効にする場合および有効にする方法については、「「役割ベースですべてのレコードを読み取れます」設定について」を参照してください。</p> <p>「役割ベースですべてのレコードを読み取れます」を選択しない場合、Oracle CRM On Demand Answers レポートでは、「レポートサブジェクトエリア」および「履歴サブジェクトエリア」フィールドで設定された表示が使用されます。</p>
通信設定	
自動まとめ	<p>この設定を選択すると、エージェントがコールまたは電子メール通信を終了したとき、またはエージェントがボイスメールを再割り当てしたときに、Oracle CRM On Demand によってコミュニケーション活動がまとめられます。エージェントには「まとめ」フォームが表示されません。活動状態は「完了」に自動的に設定され、解決策コードは「自動まとめ」に設定されます。</p> <p>注：エージェントがコミュニケーション活動詳細ページにある「まとめ」ボタンを手</p>

フィールド	説明
	動でクリックした場合、この設定は適用されません。たとえば、エージェントは、ボイスメールをリスニングした後、ボイスメール活動詳細ページの [まとめ] ボタンをクリックし、[まとめ] フォームを表示して、活動をまとめることができます。
追加情報	
登録ユーザー数、有効なユーザー、無効なユーザー	これらの数値は読み取り専用で、登録ユーザー数を、ユーザーの現在の状態とともに表示します。

注： 企業が特定の機能を有効にしている場合は、他のフィールドが表示されることもあります。

ライセンスの状況と有効なユーザーの確認

ライセンスの状況を確認し、有効なユーザーの数と比較できます。有効なユーザーごとにライセンスが必要です（有効なユーザーとは、アプリケーションにアクセスできるユーザーのことです）。

ライセンスの数によって、アプリケーションが企業用に保存できるデータの量も決まります。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、[企業の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ライセンスの状況と有効なユーザーおよび無効なユーザーを確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] セクションで、[企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール] ページの [追加情報] セクションで、登録ユーザー数、有効なユーザー数、および無効なユーザー数を確認します。
 - アプリケーションへのアクセスが不要になった有効なユーザーがいる場合は、そのユーザーを無効にすることによってライセンスを解放できます。ライセンスの無効化の詳細は、「[ユーザーの無効化](#) 『160ページ』」を参照してください。
 - ライセンスを追加購入する場合は、Oracle CRM On Demand セールス要員にお問い合わせください。

サインインおよびパスワードポリシーについて

Oracle CRM On Demand は、最高レベルのセキュリティを企業に提供します。授権者のみがデータにアクセスできるようにするセキュリティ制約が組み込まれています。

また、特定のサインイン、パスワードおよび認証ポリシーを強制して、企業内のセキュリティのレベルを高めることができます。たとえば、サインインのタイムアウトを 15 分に設定して、企業のセキュリティポリシーへの準拠を強化できます。また、パスワードを忘れたユーザーは、一連の確認の質問に答えるだけで新しいパスワードを受け取ることができます。追加のセキュリティ対策として、アクティブセッションの継続可能時間数を指定できます。たとえば、ユーザーのアクティブログインセ

セッションの継続可能時間を 1 時間に設定できます。アクティブセッション制限に達したときに、ユーザーが Oracle CRM On Demand 内でアクションを実行しようとする、セッションを続行する前にログイン認証情報の入力を求められます。

セキュリティに関する考慮事項

サインインおよびパスワードの管理を設定する前に、セキュリティ要件を慎重に検討する必要があります。以下に回答すべき質問をいくつか示します。

- どのタイプのユーザーID を使用しますか。
- システムが生成するユーザーの一時パスワードの有効期間をどのぐらいにしますか。
- ユーザーがアプリケーションからロックアウトされるまでに行えるサインインの最大試行回数をどうしますか。
- サインインのロックアウト期間をどのぐらいにしますか。どのぐらいの間隔でユーザーにパスワードを変更させますか。
- 新しいパスワードを古いパスワードと異なるものにする必要がありますか。
- パスワードの最小長をどのぐらいにしますか。
- ユーザーがパスワードを忘れた場合に、パスワードのリセットを有効にするためにユーザーが正しく回答する必要があるセキュリティに関する質問の数はいくつにしますか。
- アプリケーションがユーザーのパスワードを自動的にリセットする前に、正しく回答しなければならないセキュリティに関する質問をいくつにしますか。
- ユーザーが自分のユーザーID や電子メールアドレスを変更することを許可しますか。
- ユーザーのアクティブセッションの継続可能時間をどれぐらいにしますか。

サインインおよびパスワードポリシーの定義を完了したら、そのポリシーをアプリケーションの [企業管理] ページで実装できます。

パスワード設定の変更

パスワード設定を変更した場合、現在のパスワードの有効期限が切れるまで変更は有効になりません。たとえば、パスワードの最小長を 7 文字から 10 文字に変更したとします。そのとき、すでに 7 文字のパスワードを持っているユーザーがいて、そのユーザーはその 7 文字のパスワードを有効期限が切れるまで使用できます。しかし、有効期限が切れたら、ユーザーは少なくとも 10 文字の新しいパスワードを作成しなければなりません。

最良の手順は、新しいユーザーをシステムに追加する前に、内部ポリシーを設定し、その設定を選択することです。ただし、セキュリティポリシーをただちに変更しなければならない場合は、すべてのユーザーパスワードをリセットできる機能があります。この操作を行うと、社内のすべてのユーザーに宛てた電子メールが生成され、各ユーザーに新しい一時パスワードが与えられます。これを行うには「パスワードをリセット」権限が必要です。

ユーザーがパスワードを忘れた場合の処理

自分の役割に [個人のパスワードをリセット] 権限が含まれているユーザーは、パスワードを忘れた場合、パスワードをリセットするためのリクエストを提出できます。その場合、Oracle CRM On Demand サインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクを使用できます。パスワードをリセットするためにユーザーが指定する必要がある最小数のセキュリティに関する質問と回答を定義する必要があります。この機能が設定されると、ユーザーは自分の Oracle CRM On Demand パスワードをリセットできるため、管理者の介入がなくなります。

企業のパスワード管理の定義

Oracle CRM On Demand に対するパスワードポリシーを定義できます。たとえば、パスワードの長さや失効頻度などに関する企業のプロトコルに従うように、パスワードポリシーを設定できます。

企業パスワード管理を定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] セクションで、[サインインおよびパスワード管理] リンクをクリックします。
- 4 [企業サインインおよびパスワード管理] ページで、必要な情報を入力します。入力完了したら設定を保存します。

次の表では、設定について説明します。

注:パスワードをリセットするユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする場合は、システムにセキュリティに関する質問と回答も設定されている必要があります。

設定項目	有効な値	使用法
サインインポリシー情報		
会社のサインイン ID	テキストボックス	各企業に固有の識別子です。新規ユーザーを作成する際は、この識別子とそのユーザーのユーザーサインイン ID (企業サインイン ID) の最初の部分となります。新しいユーザーが作成され、デフォルトユーザーID タイプが企業サインイン ID であると、ユーザーID の企業ドメイン部分にこの値が事前入力されます。この設定は、[企業プロフィール] ページからアクセスすることもできます。
現在のパスワードの最大試行数	1 から 3 までの数値	ユーザーが現在のパスワードの入力を試行できる回数。試行回数に達した後、ログイン画面に現在のパスワードを入力すると、ユーザーは Oracle CRM On Demand からロックアウトされます。許可される試行間隔は、[サインインロックアウト期間] フィールドの値によって決まります。ただし、Oracle CRM On Demand 内から現在のパスワードを入力しているか、またはパスワードを更新していて、現在のパスワードの最大試行回数に到達した場合は、ユーザ

		<p>ーのセッションが終了します。ユーザーは Oracle CRM On Demand からロックアウトせず、引き続きログイン画面で現在のパスワードを最大試行回数まで使用でき、その後、[サインインロックアウト期間] フィールドに設定されている値が Oracle CRM On Demand によって適用されます。</p> <p>既存および新規の顧客のデフォルト値は 3 です。</p>
サインインロックアウト期間	15、30、60 分、または無期限	ユーザーのアカウントがロックされる時間の長さ。
最大セッション期間 (時間)	0 から 9999 時間	<p>ユーザーがログイン認証情報を再入力することを求められるまでにユーザーの有効なセッションが持続できる時間の長さ。このフィールドは、ゼロ (0) から 9999 までの正の整数を受け入れます。</p> <p>この設定のデフォルト値を表示するには、[企業管理] の [サインインおよびパスワードポリシー] ページに移動します。</p> <p>Oracle CRM On Demand の使用中に、有効なセッションがその最大期間に到達すると、ログイン認証情報を再入力する必要があります。</p> <p>Web サービスの使用中に有効なセッションがタイムアウトした場合、Web サービスの使用を続行するには Web サービスクライアントは再認証する必要があります。</p>
パスワード管理情報		
ユーザーのパスワードの有効期限	30、60、90 日、1 年、または無期限	ユーザーのパスワードが有効である時間の長さ。この期間を過ぎると、ユーザーはパスワードを変更する必要があります。
最短パスワード長	6 から 10 までの数値	パスワードに使用できる文字の最小数。
パスワード変更の最大回数	1 から 20 までの数値	[パスワード変更制限ウィンドウ] での指定に従ってユーザーのパスワードを変更できる最大回数。ユーザーがパスワードの変更を試みた回数が指定された回数を

		超えると、変更は許可されません。
パスワード変更制限ウィンドウ	日数 (1 から 7 まで)	[パスワード変更の最大回数] の設定が適用される期間。
パスワードの複雑さレベル	3 または 4	次の 4 つのカテゴリからユーザーパスワードで満たす必要がある文字種類の数。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 大文字 (A...Z) ■ 小文字 (a...z) ■ 数字 (0、1、2...9) ■ 英数字以外の文字 (!,\$,#,%)
ログイン時のパスワードポリシーの強制	チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインしたときに、パスワードポリシーチェックが有効になります。このポリシーチェックでは、ユーザーのパスワードが Oracle CRM On Demand の [最短パスワード長] および [パスワードの複雑さレベル] 設定に準拠していることが確認されます。
ユーザーの再使用を防止する最終パスワード数	0 から 10 までの数値	ユーザーが Oracle CRM On Demand で以前使用していて再使用できないパスワードの数。 新規企業のデフォルト値は 3 です。次の条件を満たしている場合、既存の企業のデフォルト値は 1 または 0 (ゼロ) です。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 新しいパスワードは古いパスワードと異なる必要がある設定をオンにしていること。 ■ [ユーザーの再使用を防止する最終パスワード数] 設定をオフにしていること。
認証情報		
セキュリティに関する質問の作成数	1 から 8 までの数値	この設定によって、ユーザーが設定する必要のあるセキュリティに関する質問と回答の数が決まりま

		<p>す。ユーザーの質問と回答は将来使用するために保存されます。</p> <p>注:セキュリティに関する質問は、ユーザーが Oracle CRM On Demand に初めてサインインするときに設定します。セキュリティに関する質問はいつでも変更できます。詳細については、「セキュリティに関する質問の設定」を参照してください。</p> <p>Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする場合は、ユーザーが設定した特定の数のセキュリティに関する質問に回答する必要があります。</p> <p>パスワードのリセット時に回答が必要な質問よりも多い質問数をユーザーが設定するように指定できます。パスワードのリセット時にユーザーを認証するために、ユーザーが設定した質問の中からランダムに選択した質問が表示されます。</p>
セキュリティに関する質問の回答数	1 から 8 までの数値	<p>この設定によって、Oracle CRM On Demand のサインインページの [アカウントにアクセスできませんか?] リンクからパスワードをリセットする際に、ユーザーが回答する必要があるセキュリティに関する質問の数が決まります。パスワードをリセットするリクエストを送信したユーザーは、臨時ページへのリンクを示す電子メールをすぐに受け取ります。</p> <p>臨時ページで、ユーザーはパスワードをリセットする前にこの設定で指定した数のセキュリティに関する質問に回答する必要があります。</p> <p>このフィールドの値は、[セキュリティに関する質問の作成数] フィールドの値以下である必要があります。これは、ユーザーには、そのユーザーが設定した質問よりも多くの回答を要求できないため</p>

		です。
一時サインインの有効日数	日数 (1 から 14 まで)	この設定は、一時サインインパスワードが有効である日数を指定します。通常は、新規ユーザーが追加されるか、企業の管理者またはカスタマーサポートがユーザーのパスワードをリセットすると、一時サインイン情報を含む電子メールが送信されます。
一時パスワードサインインの試行回数	試行回数 (1 から 14 まで)	一時サインインパスワードを使用したときに許容される、サインインの総試行回数。この値を超えると、ユーザーの一時サインイン情報が無効になり、ユーザーは再度パスワードのリセットが必要になります。
追加情報		
ユーザーID の変更をユーザーに許可する	チェックボックス	このチェックボックスがオンにされると、自分のユーザープロファイルを編集するユーザーは自分のユーザーID を変更できます。この機能が有効になっていない場合、企業の管理者だけがユーザーID を変更できます。
電子メールアドレスの変更をユーザーに許可する	チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、自分のユーザープロファイルを編集するユーザーは、自分の電子メールアドレスを変更できます。この機能が有効になっていない場合は、企業の管理者のみが電子メールアドレスを変更できます。

コンカレントセッションオプション	[通知して許可]、[通知しないで許可] および [既存を阻止および終了]	<p>この設定により、ログイン認証情報を使用中に Oracle CRM On Demand がコンカレントセッションを処理する方法を管理できます。</p> <p>[通知ありで許可] オプションは、コンカレントセッションの使用を許可します。ただし、Oracle CRM On Demand は、同じ取引先詳細を使用して別のセッションが進行中であることをユーザーに通知します。Oracle CRM On Demand は、他のセッションのユーザーにも通知します。</p> <p>[通知しないで許可] オプションは、コンカレントセッションの使用を許可します。ただし、Oracle CRM On Demand は他のセッションが進行中であることをいずれのユーザーにも通知しません。</p> <p>[既存を阻止および終了] オプションは、既存の最初のセッションをクローズし、2 番目の新規セッションを進行中の状態にします。このアクションは両方のセッションのユーザーに通知されます。</p>
------------------	--------------------------------------	---

サイト間リクエストの偽造保護について

サイト間リクエストの偽造攻撃を防止するために、**Oracle CRM On Demand** のデータを更新、作成、または削除しようとする **HTTP POST** リクエスト (**AJAX (Asynchronous Java Script and XML)** リクエストを含む) を含むカスタムコードを作成するユーザーは、コード内に隠しパラメータとしてセキュリティトークンを含める必要があります。カスタムコードにセキュリティトークンが含まれない場合、またはセキュリティトークンが不正に使用されると、リクエストは失敗します。リクエストが失敗すると、キーが無効または期間切れで、ユーザーがページを更新する必要があるためにリクエストの処理を完了できないことを知らせるエラーメッセージが表示されます。

次の表に、ユーザーがコードに含める必要があるセキュリティトークンを示します。

パラメータコンポーネント	トークンコード
名前	%%%ODReqName%%%
値	%%%ODReqValue%%%

注：トークンコードには大文字と小文字の区別があり、表に記載されているとおりに正確に記述する必要があります。トークンコードにエラーがあると、リクエストは失敗します。

サイト間リクエストの偽造保護機能は、企業プロファイルの [Cross-Site Request Forgery Protection Enabled (サイト間リクエストの偽造保護の有効化)] チェックボックスによって制御します。この機能は、企業が Oracle CRM On Demand を使用するよう設定されるときにデフォルトで有効になり、無効にすることはできません。

すべてのパスワードのリセット

管理者を含むすべてのユーザーのパスワードを一度にリセットできます。

使用例 1。 アプリケーションをセットアップするときは、ユーザーを作成して状態をアクティブに設定します。ただし、ユーザーに電子メールでパスワードを送信しないでください。セットアップが完了し、アプリケーションが使用可能になったら、すべてのパスワードをリセットします。このアクションによって、すべてのアクティブユーザーに一括で電子メールが送信され、ユーザーは通知された一時パスワードを使用してアプリケーションにアクセスできるようになります。

使用例 2。 パスワード制御ポリシーを変更し、すべてのユーザーが新しいポリシーに従うことを求める場合。ユーザーが次回サインインしたときにパスワードの変更を求めるために、すべてのパスワードをリセットします。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、各ユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

すべてのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] セクションで、[企業プロファイル] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロファイル] タイトルバーで、[すべてのパスワードをリセット] ボタンをクリックします。

電子メールはすべてのユーザーに送信され、新しい一時パスワードが通知されます。現在サインインしているユーザーは引き続き作業を続けることができますが、次回サインインするときは、新しい一時パスワードを入力する必要があります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーのパスワードのリセット](#) 『155ページ』
- [ユーザーの設定](#) 『141ページ』
- [企業のパスワード管理の定義](#) 『28ページ』

言語の有効化

Oracle CRM On Demand では多くの言語を使用できます。フィールドやピックリスト値など、製品に用意されたデフォルトのテキストフィールドは、すべてオンラインヘルプや「使い方」とともに使用可能な言語で表示されます。

ただし、フィールドまたはピックリスト値をカスタマイズする場合に、その翻訳を表示するには、該当するフィールドやピックリスト値を他の言語で手動で入力する必要があります。手動で入力しないと、選択した言語にかかわらず、それらのフィールドや値は括弧で囲まれた青いテキストとして元の言語で表示されます。

最初は、企業が **Oracle CRM On Demand** にサインアップしたときに企業のデフォルト言語として選択された言語のみが有効です。

ユーザーが言語を選択できるようにするには、その言語を有効にする必要があります。

作業前の準備: この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

言語を有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロファイル] セクションで、[言語] リンクをクリックします。
- 4 [有効] カラムで、従業員に使用させる言語を選択します。

注: 日付、時刻、および通貨の表示形式は、[言語] の設定ではなく、別の設定で指定されます。

- 5 レコードを保存します。

IP アドレスの使用制限

この機能により、企業ではシステムへのアクセスを特定の IP アドレスの範囲に制限できます。この機能を使用すると、ネットワーク上の特定の場所（オフィスなど）にいるユーザーのみがシステムにアクセスできるように設定できます。この機能が有効な場合、ユーザーがサインインできるのは、指定した範囲内の IP アドレスが割り当てられたマシンのアプリケーションのみです。

作業前の準備: カスタマーサポートに連絡し、企業の IP フィルタリングを有効化できるようにします。その後、次の手順を実行するには、企業プロファイルの管理権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

IP アドレスの使用を制限するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [セキュリティ設定] リンクをクリックします。
- 4 [セキュリティ設定] ページで、サインインに対して許容される IP アドレスを入力します。

ヒント: IP アドレスの正しい入力方法については、画面上に表示される情報を参照してください。

- 5 レコードを保存します。

会計カレンダーの管理

会計カレンダーの管理には、企業の会計年度の開始および対応する終了の定義が含まれます。

- [会計カレンダーについて](#) 『36ページ』
- [カスタム会計カレンダーの定義](#) 『37ページ』

会計カレンダーについて

Oracle CRM On Demand には 2 種類の会計カレンダーがあります。

- **標準会計カレンダー**：会計年度がカレンダー四半期、5-4-4、4-4-5 などの一般的なカレンダーに従っている場合は、企業プロファイルにこのカレンダータイプを使用できます。
- **カスタム会計カレンダー**：企業が 4-5-4 のように異なるカレンダーに従う場合は、Oracle CRM On Demand でカスタム会計カレンダーを定義できます。

標準会計カレンダーまたはカスタム会計カレンダーのどちらを使用する場合も、会計年度を定義するのは企業ごとに 1 度です。どちらの会計カレンダータイプを選択しても、定義した会計期間を Oracle CRM On Demand で自動的に使用できます。

標準会計カレンダー

標準会計カレンダーの期間はグレゴリオ暦などの一般的なカレンダーの定義に従い、年度の開始月日を任意に指定できます。Oracle CRM On Demand で標準会計カレンダーを使用する場合、次のカレンダータイプのいずれかを選択します。

- カレンダー四半期
- 4-4-5 カレンダーモデル
- 5-4-4 カレンダーモデル

標準会計カレンダーを使用する場合、Oracle CRM On Demand では自動的に 2020 年までの会計期間が生成されます。標準会計カレンダーの設定を表示することはできますが、変更はできません。カレンダーの定義を変更する場合は、カスタマーサポートまでお問い合わせください。カスタマーサポートが企業の設定時に会計カレンダーにデータを設定し、カレンダータイプを指定します。

注：会計年度定義の変更は Oracle CRM On Demand に反映されません。完全な ETL（抽出、変換、ロード）を実行する前にご報告ください。

標準会計カレンダーの定義を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業プロファイル] リンクをクリックします。
- 3 [企業設定] セクションで、次のフィールドを確認します。
 - 会計年度開始月
 - 会計年度開始日

■ 会計カレンダーのタイプ

注: 標準会計カレンダーの定義を変更すると、**Oracle CRM On Demand** はレポートのすべてのデータを更新します。ただし、更新するのは売上予想の将来データのみです。

カスタム会計カレンダー

Oracle CRM On Demand のカスタム会計カレンダーは、標準の会計カレンダーまたは一般的な会計カレンダーを採用しない企業に対応しています。カスタム会計カレンダーは企業の管理者が定義します。管理者は、**Oracle CRM On Demand** でビジネス計画、目標、売上予想、時間ベースの分析を作成する各年のカスタム会計カレンダーレコードを作成する必要があります。カスタム会計カレンダーの定義の詳細は、「[カスタム会計カレンダーの定義](#) 『37ページ』」を参照してください。

カスタム会計カレンダーの定義

企業管理者は、企業の会計年度に従って **Oracle CRM On Demand** の会計カレンダーを定義します。カスタム会計カレンダーはすべてのレポート、ビジネス計画、目標、およびユーザー目標に反映されます。

注: カスタム会計カレンダーの定義を設定するには、[企業の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業のカスタム会計カレンダーを設定するには、次のことを行う必要があります。

- 1 カスタマーサポートに連絡し、企業のカスタム会計カレンダーの使用を有効にします。
- 2 企業の会計カレンダーを定義します。
- 3 カスタム会計カレンダーが社内で有効になっていることを確認します。

注意: 一度カスタム会計カレンダーオプションを有効にすると、無効にすることはできません。**Oracle CRM On Demand** の会計カレンダーの機能を十分に理解してからカスタム会計カレンダーを有効にすることをお勧めします。

カスタム会計カレンダーと売上予想

カスタム会計カレンダーを使用している場合は、売上予想の生成に企業のカスタム会計カレンダー定義が使用されます。企業の管理者は、売上予想を有効にする前に、カスタム会計カレンダーレコードを定義する必要があります。売上予想は期間内の複数の四半期にまたがる場合があるため、売上予想には複数の会計年度のデータが含まれる場合があります。したがって、売上予想マスターの生成に十分なデータを使用できるようにするには、企業で売上予想を生成する各年に対してカスタム会計カレンダーを作成する必要があります。また、新しいカスタム会計カレンダー定義を売上予想で使用できるようにするには、企業の管理者が売上予想定義を更新する必要があります。次の売上予想日より前に売上予想定義が更新されていない場合、売上予想は生成されません。売上予想定義の更新の詳細は、「[売上予想定義の更新](#) 『338ページ』」を参照してください。

新規のカスタム会計カレンダーを定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [会計カレンダー管理] セクションで、[会計カレンダー定義] リンクをクリックします。

4 [会計カレンダーリスト] ページで、[新規会計カレンダー] をクリックします。

5 メニューから、使用する会計年度を選択します。

会計カレンダーの名前（例：「2009 会計年度」）が自動的に [名前] フィールドに設定されます。この値は読み取り専用です。

6 次の情報を入力します。

a 説明。 カスタム会計定義に関する追加情報を追加します。このフィールドには 250 文字まで入力できます。

b 会計四半期 1。 カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。

c 会計四半期 2。 カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。

d 会計四半期 3。 カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。

e 会計四半期 4。 カレンダーアイコンをクリックして、この四半期の各会計月の開始日を指定します。

f 追加情報。 カレンダーアイコンをクリックして、次の会計年度の開始を指定します。

注: 会計年度の長さは 99 週を超えることはできません。[次の会計年度開始] に前の会計年度の開始日から数えて 99 週を超える値を入力すると、正しい値の入力を要求するエラーメッセージが表示されます。

7 [保存] をクリックします。

注: 会計カレンダーは順番に作成する必要があります。たとえば、2010 会計年度は 2011 会計年度より前に作成する必要があります。

新しいカスタム会計カレンダーの定義が分析に反映されるのは、夜間 ETL（抽出、変換、ロード）が実行された後です。

会計カレンダーの詳細を表示するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。

3 [会計カレンダー管理] セクションで、[会計カレンダー定義] リンクをクリックします。

4 [会計カレンダーリスト] ページで、会計期間を表示する会計年度の名前をクリックします。

[会計カレンダー詳細] ページに、選択した年度の個々の会計月と次の会計年度の開始日が表示されます。

注: 標準会計カレンダーからカスタム会計カレンダーに移行する場合、前の会計年度のレコードが [会計カレンダーリスト] ページに読み取り専用で表示され、Oracle CRM On Demand で生成される将来のすべての会計年度レコードは削除されます。標準会計カレンダーの詳細は、「[会計カレンダーについて](#)」『36 ページ』を参照してください。

会計カレンダーを編集するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [会計カレンダー管理] セクションで、[会計カレンダー定義] リンクをクリックします。
- 4 [会計カレンダーリスト] ページで、更新する会計年度を探し、[編集] をクリックします。
- 5 会計カレンダーの新しい詳細を入力し、[保存] をクリックします。

カスタム会計カレンダー定義の変更が分析に反映されるのは、夜間 ETL (抽出、変換、ロード) が実行された後です。

注: カスタム会計カレンダーを定義した場合は、既存のカレンダー定義を編集することで、カレンダー定義を変更できます。現在の会計年度より前の会計カレンダーは読み取り専用です。カスタム会計カレンダーは削除できません。

通貨定義

企業の通貨を定義するには、次の作業を実行します。

- 企業で取引に使用する通貨を有効にします。
- 企業の基本通貨の為替レートを定義します。

通貨定義の詳細は、「[通貨の管理](#) 『39ページ』」を参照してください。

通貨の管理

ユーザーが任意の通貨で取引を行ったり、取引を追跡したりできるように、これらの通貨を有効にする必要があります。これを行わないと、企業に設定されたデフォルト通貨以外は使用できなくなります。

従業員が他の通貨で取引を記録している場合は、これらの通貨と企業のデフォルト通貨との間の為替レートを設定する必要があります。アプリケーションは、レポートや売上予想のために売上をロールアップするときに、この為替レートを使用します。

注意: 必ず、有効にしたすべての通貨の取引をユーザーが入力する前に、為替レートを設定してください。

有効な通貨に複数の為替レートを入力できます。各エントリは為替日とその日の為替レートから構成されます。特定の取引に使用する為替レートを決定する場合、アプリケーションは次のルールに従います。

Oracle CRM On Demand による、企業のデフォルト通貨とユーザーのデフォルト通貨間での為替レートの変換方法

ここでは、企業に次の通貨があります。

- 企業のデフォルト通貨は米ドル (USD) です。
- この企業では、追加通貨のユーロ (EUR) とポンド (GBP) も有効です。
- この企業では、USD と EUR 間および USD と GBP 間の為替レートが定義されています。
- ユーザーは、商談売上を EUR で入力します。ただし、ユーザーのデフォルト通貨は GBP です。
- Oracle CRM On Demand では、EUR から GBP への変換を次のように実行します。
 - 最初に、商談売上を企業のデフォルト通貨に変換します。つまり、EUR から USD に変換します。

- 次に、その商談売上をユーザーの通貨に変換します。つまり、USD から GBP に変換します。

予想ロールアップへの為替レートの適用方法

ここでは、次のルールが適用されます。

- 為替レートが取引日と同じ日に定義されている場合、為替レートの値を使用します。
- 為替レートが取引日と同じ日に定義されていないが、取引日以前の日に定義されている場合、その取引日に最も近い日の為替レートを使用します。
- 為替レートが取引日と同じ日にも、取引日以前の日にも定義されていない場合、取引日以後の日で次に利用可能な為替レートを使用します。

たとえば、為替レートが 5/15/2004 と 8/15/2004 に対してのみ入力されている場合は、次のようになります。

- 5/15/2004 より前の取引については、5/15/2004 のレートが使用されます。
- 5/15/2004 と 8/14/2004 との間の取引については、5/15/2004 のレートが使用されます。
- 8/15/2004 以降の取引については、8/15/2004 のレートが使用されます。

レポートへの為替レートの適用方法

レポートについては、売上予想の場合より一般的な方法で為替レートが適用されます。月ごとに 1 つの為替レートが決定され、このレートが月内のすべての取引に使用されます。たとえば、商談の場合、Oracle CRM On Demand では為替レート有効日に最も近い商談クローズ日が使用されます。資産の通貨換算の場合は、日付として [購入日] フィールドが使用されます。商談製品の場合は、製品売上の開始日に最も近い為替レートが使用されます。カスタムオブジェクト 01 から 03 など、他のオブジェクトの場合は、作成日を使用して為替レート日が決定されます。カスタムオブジェクト 04 から 15 の場合は、[為替日] フィールドが使用されます。

月に割り当てる交換レートは、次のように決定されます。

- ある月に複数の為替レートが存在する場合は、その月の最終日の為替レートが使用されます。
- ある月に為替レートが存在しない場合、その月の為替レートは、レートが設定されている将来の最も近い月のレートに設定されます。
- 将来の月に為替レートがない場合、過去の最も近い月の為替レートが使用されます。

たとえば、為替レートが 5/10/2004、5/20/2004、および 8/14/2004 に対して定義されている場合、次のようになります。

- 2004 年 5 月のレートは 5/20/2004 に設定された値になります（5 月に設定された最終レート）。
- 2004 年 8 月のレートは 8/14/2004 に設定された値になります（8 月に設定された唯一のレート）。
- 2004 年 4 月以前の月には 5/20/2004 のレートが割り当てられます。5 月には 2 日間あります。
- 2004 年 6 月および 7 月は 2004 年 8 月（将来に最も近い月）のレートが割り当てられます。
- 2004 年 9 月以降の月は 2004 年 8 月のレートに割り当てられます（将来の月にレートの設定がないため、過去の最も近い月のレートが使用されます）。

レポートでは、通貨の変換を必要とする値はすべて、取引が予定されている月に対して定義された為替レートを使用し、前述のように計算されます。

注：売上予想の実行時は、予想ロールアップのため、すべての商談が企業のデフォルト通貨に変換されます。ただし、レポートでは、売上フィールドがエンドユーザーの通貨額に変換されます。

次のいずれかの状況が発生した場合、毎日の分析更新が実行されるまで待機する必要があります。

- 企業で新しい通貨が有効化され、為替レートが設定される
- （[個人詳細] ページで）企業の他のユーザーが誰も選択したことのない新しい通貨がユーザーによって選択される

更新では、必要なクロス為替レートが自動的に生成されます。その後、時系列レポートまたはリアルタイムレポートを実行できます。

ユーザーがデフォルトのユーザー通貨を変更した場合は、新しく選択された通貨でレポートにデータが表示される前に、Oracle CRM On Demand アプリケーションをサインアウトしてから再度サインインする必要があります。

作業前の準備：通貨の管理手順を実行するには、[通貨を設定] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、通貨の設定の影響については、「ユーザーのプロファイル設定について」を参照してください。

通貨を有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [通貨定義] セクションで、[通貨定義] リンクをクリックします。
- 4 [通貨設定] ページで、ドロップダウンリストから [通貨 (全件)] を選択します。
- 5 有効にする通貨の [編集] リンクをクリックします。
- 6 [通貨編集] ページで、[有効] チェックボックスをオンにします。
- 7 (オプション) [通貨編集] ページで、通貨に対応する記号を変更できます。

たとえば、通貨記号ではなく、通貨コードで通貨を区別するものとします。つまり、\$を USD に、¥を JPY に、€を EUR に変更します。

- 8 レコードを保存します。

為替レートを定義するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [通貨定義] セクションで、[為替レート] リンクをクリックします。

有効にした通貨の最新の為替レートが含まれる [為替レート編集] ページが表示されます。為替レートを定義しないと、空白のページが表示されます。

注：交換後の通貨は、企業に対して常に設定される通貨です。有効な通貨ごとにその通貨に変換する方法をアプリケーションに伝える為替レートを入力する必要があります。

- 4 有効な通貨に新しい為替レートを追加するには、

- g** レートを追加する [通貨] 行の [為替履歴] リンクをクリックします。
[為替レート] ページで [新規] をクリックします。
- h** [為替レート編集] ページで、必要な情報を入力します。
為替レートについて、1 単位の変換元通貨を購入するのに必要な交換後の通貨の単位数を入力します。
例：1 ユーロ = 1.3 US ドル
企業の通貨が US ドル (USD) に設定されていると仮定すると、次の値を入力します。
- 変換元通貨：EUR
 - 交換後の通貨：USD
 - 為替レート：1.3
- 5** [保存] をクリックします。

為替レートの履歴を表示するには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3** [通貨定義] セクションで、[為替レート] リンクをクリックします。
[為替レート編集] ページには、さまざまな通貨の最新の為替レートが表示されます。
- 4** 1 つの通貨の為替レートの履歴を表示するには、[為替レート履歴] リンクをクリックします。
為替レートの履歴が表示されます。

企業監査

監査証跡は、規制および企業方針への準拠に対応するための重要な機能です。Oracle CRM On Demand での監査証跡の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [すべてのユーザーのサインイン活動の確認](#) 『42ページ』
- [企業のリソース使用状況の確認](#) 『43ページ』
- [マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) 『44ページ』
- [監査証跡の設定変更の確認](#) 『44ページ』

すべてのユーザーのサインイン活動の確認

社内のすべてのユーザーのサインイン履歴を確認できます。サインイン履歴ページには、アプリケーションを使用しているユーザーと使用日時が表示されます。サインイン履歴ページには、Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートが行ったサインイン活動も記録されます。

作業前の準備: この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

すべてのユーザーのサインイン活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [リソース監査] セクションで、[サインイン監査] リンクをクリックします。
- 4 アプリケーションのサインイン履歴を確認します。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) 『155ページ』

企業のリソース使用状況の確認

企業全体のリソース使用状況を確認できます。たとえば、次の領域の変更が確認されます。

- パスワードのリセット
- パスワードの消失
- セキュリティの質問への回答
- SSO 識別子の変更
- ユーザーID の変更
- 電子メールアドレスの変更
- パスワードの設定
- 最初のパスワード
- オフライン

作業前の準備. この手順を実行するには、[企業プロファイルの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

会社のリソース使用状況を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [リソース監査] セクションで、[監査] リンクをクリックします。
- 4 会社のリソース使用状況履歴を確認します。

マスター監査証跡による監査証跡変更の確認

すべての監査可能なレコードタイプについて、ユーザーが監査可能なフィールドに加えた監査証跡変更を確認できます。監査証跡では、監査可能なレコードタイプが作成、削除または復元されたかどうかを示されます。

レコードタイプの特定のフィールドを監査している場合、新規顧客および Oracle CRM On Demand をこのリリースにアップグレードしている顧客については、レコードの作成、削除および復元の監査はデフォルトで有効になっています。レコードタイプの特定のフィールドを監査していない場合、レコードの作成、削除および復元のすべての監査は無効です。その場合、顧客はレコードレベルの監査設定を変更できます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[マスター監査証跡へのアクセス] 権限と [管理設定の監査] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

マスター監査証跡によって監査証跡変更を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業監査] セクションで、[マスター監査証跡] リンクをクリックします。

[マスター監査証跡] に次の値が表示されます。

- **ID 番号。** 表の行 ID。
- **タイトル。** オブジェクトの名前フィールド。
- **レコードタイプ。** 監査対象のレコードタイプ。
- **日付。** オブジェクトが前回監査された日付。
- **名前 (姓)。** ユーザーの姓。
- **名前 (名)。** ユーザーの名。
- **項目の修正。** オブジェクトの変更されたフィールド。
- **古い値。** レコードの以前の値。
- **新しい値。** フィールドの新しい値。サービスリクエストの優先度フィールドを [低] から [高] に変更すると、[古い値] フィールドは [低] のままで、[新しい値] フィールドは [高] になります。レコードを削除すると、[古い値] フィールドは空白のままで、[新しい値] フィールドは [削除済みレコード] に変更されます。
- **更新日時。** レコードが更新された日時。
- **追加情報。** レコードの変更に関する補足情報。

監査証跡の詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#) 『102ページ』」を参照してください。

監査証跡の設定変更の確認

ユーザーがフィールド設定、役割、およびアクセスプロファイルに対して実行した監査証跡変更を確認できます。

作業前の準備。次の手順を実行するには、[マスター監査証跡へのアクセス] 権限と [管理設定の監査] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

監査証跡の設定変更を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業監査] セクションで、[管理設定の監査] リンクをクリックします。

[管理設定の監査] 表に、次の値が表示されます。

- **ID 番号。**変更した設定の表の行 ID。
- **タイプ。**変更されたレコードタイプ。
- **タイプ名。**変更されたレコード名。
- **ソース IP アドレス。**設定変更が実行されたコンピュータの IP アドレス。
注：この値は、この情報が使用可能な場合にのみ表示されます。
- **セッションタイプ。**この値は、セッションがインタラクティブまたは Web サービスセッションのいずれであったかを示します。
- **名前 (姓)。**ユーザーの姓。
- **名前 (名)。**ユーザーの名。
- **ユーザーのサインイン ID。**ユーザーのログイン ID。
- **オペレーション。**たとえば、作成、削除、変更など、実行された設定のタイプ。
- **項目の修正。**変更されたレコードのフィールド名。
- **古い値。**変更されたレコードまたはフィールドの以前の値。
- **新しい値。**変更されたレコードまたはフィールドの新しい値。
- **日付。**レコードが設定された日時。

監査証跡の詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#)『102ページ』」を参照してください。

警告管理

Oracle CRM On Demand の警告機能を使用すると、時間ベースの重要な情報を社内のユーザーに一括送信できます。警告の詳細は、次のトピックを参照してください。

- 警告の確認
- [全社レベルの警告の公開](#)『46ページ』

- リストの使用
- 警告フィールド 『47ページ』

全社レベルの警告の公開

全社レベルの警告は各従業員の [ホームページ (個人)] に表示されます。警告を使用して全社レベルの情報 (ミーティングの通知、ポリシーの変更など) を一括送信できます。

注: 売上予想が生成されたことを通知する警告は従業員の [ホームページ (個人)] に 2 日間保持されます。警告を表示する期間を延長するには、警告が最初に表示された後に [警告編集] ページで変更します。実行方法については、この項の手順に従ってください。

ファイルまたは URL を警告にリンクできます。たとえば、ミーティングの通知警告を作成するときに、ミーティング開催場所への道順が含まれる Web ページへのリンクを追加できます。

作業前の準備: (オプション) 共有する情報が含まれる Web ページまたはファイルを作成するか、検索します。その Web ページまたはファイルへのパスに社内のユーザーがアクセスできることを確認します。この手順を実行するには、[企業プロフィールの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

全社レベルの警告を作成または更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [警告管理] セクションで、[企業警告] リンクをクリックします。
企業警告のリストが含まれる [警告] ページが表示されます。
- 4 [警告] ページで、次の該当する操作を行います。
 - [新規] ボタンをクリックします。
 - 編集する警告のタイトルをクリックし、[編集] ボタンをクリックします。
- 5 [新規警告] ページまたは [警告編集] ページで、必要な情報を入力します。
- 6 警告を保存します。
- 7 警告に添付資料を追加するには、[警告リスト] ページの警告タイトルをクリックして警告の詳細を表示します。
- 8 [添付資料を追加] ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。
- 9 [添付資料編集] ページで [保存] をクリックします。
- 10 警告に URL を追加するには、[警告リスト] ページの警告タイトルをクリックして警告の詳細を表示します。
- 11 [URL を追加] ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。

12 [添付資料編集] ページで [保存] をクリックします。

警告フィールド

次の表では、警告レコードに表示されるフィールドについて説明します。管理者は、全警告フィールドについて表示および更新することができます。管理者以外のユーザーは、制限された数の警告フィールドのみ表示できます。

フィールド	説明
タイトル	[ホームページ (個人)] に表示される警告のタイトル。
優先順位	[ホームページ (個人)] 上で、警告の隣のアイコンにより示される警告の優先順位。
ハイパーリンク	警告に関連付けられた URL、またはファイル名とディレクトリパス。
警告の説明	警告として表示されるテキスト。
発行日	[ホームページ (個人)] への警告の一括送信を開始する日付。
失効日	[ホームページ (個人)] への警告の一括送信を終了する日付。
表示するハイパーリンク名	警告内にハイパーリンクとして表示されるテキスト。これは、ハイパーリンクを入力した場合、必須です。 たとえば、リンク (URL) "http://company.site/doc_2389.html" に対して、「ミーティング連絡」と入力します。

ヒント： 1 回に表示される警告レコードのタイプを制限するフィルター済みリストを作成できます。作成手順については、「リストの使用」を参照してください。

関連トピック

全社レベルの警告の関連情報については、次のトピックを参照してください。

■ [全社レベルの警告の公開](#) 『46ページ』

サービス割当管理

サービス割当管理では、次のことができます。

- [企業のサービス割当使用量の表示](#) 『49ページ』
- [履歴サービス割当使用量の表示](#) 『49ページ』
- [サービス割当の警告の設定](#) 『50ページ』
- [ファイルおよびレコード利用情報の表示](#) 『51ページ』

サービス割当について

企業のすべてのサービス割当を表示し、現在および履歴の使用量を確認して、割当が定義されたしきい値に達したときに警告を有効にできます。企業のサービス割当値はカスタマーサポートが設定します。サービス割当は次のとおりです。

- **Web サービス処理割当。** 企業で 24 時間以内に実行できる Web サービス操作の数を決定します。
- **Web サービスコンカレントリクエスト割当。** 企業で処理できるコンカレント Web サービスリクエストの最大数を決定します。
- **CRM Desktop ライセンス。** 企業からライセンスが与えられている CRM Desktop ユーザー数を示します。
- **ファイル割当。** これは、レコードに添付されたファイルに利用可能なディスクスペースの量です。
- **レコード割当。** これは、すべてのタイプのレコードの数です。

注: サービス割当の名前と説明は有効な言語で表示されます。

[サービス割当リスト] ページでは、定義した割当値、現在の使用量、および残りの使用量の値を確認できます。サービス割当をドリルダウンして、そのサービス割当に警告を設定できます。警告を有効にする場合は、サービス割当のしきい値を定義し、これによって、しきい値に達すると電子メール警告が指定受取人に送信されることになります。

[割当使用量リスト] ページで、サービス割当に対する企業の使用量を時間の経過に基づいて追跡できます。毎日、毎週または毎月の使用量を表示できますが、このビューは割当タイプによって異なります。企業の割当データおよび割当使用量データは、エクスポートアシスタントを使用してエクスポートできます。エクスポートアシスタントの使用方法については、「[データのエクスポート](#)」『534ページ』を参照してください。

割当がすべて使用された場合

使用量が企業の Web サービス割当の上限に到達すると、それ以降の Oracle CRM On Demand Web サービスに対するリクエストは処理されなくなります。割当容量は 1 時間ごとに解放され、解放される容量は過去の使用量によって異なります。直近 24 時間の使用量が企業の割当値より低くなったときに、新規リクエストが処理されます。

企業の合計割当に到達しないように、Web サービスクライアントを最適化して不要なリクエストを回避します。詳細は、『[Oracle Web Services On Demand Guide](#)』を参照してください。

使用量が企業のレコード割当の上限に到達した場合、次のものは Oracle CRM On Demand アプリケーションと相互作用できなくなります。

- レコードに対して Insert、Update または InsertOrUpdate 操作を試行する Web サービス
- インポートアシスタントまたは Oracle Data Loader On Demand を使用したインポート
- Oracle Outlook Email Integration On Demand、Oracle Notes Email Integration On Demand などのデスクトップクライアント

企業の合計割当に到達するのを回避するため、ユーザーは不要になったレコードをアプリケーションからすべて削除できます。使用量が企業のファイル割当の上限に到達した場合、ユーザーは次の方法で添付資料をアップロードできなくなります。

- Oracle CRM On Demand アプリケーション
- Web サービス
- デスクトップクライアント

企業の合計割当に到達するのを回避するため、ユーザーは不要になった添付資料をすべて削除できます。

注: すべてのサービス割当について、ユーザーは販売担当者に連絡し、追加容量または追加ライセンス、あるいはその両方を購入できます。必要な場合は、カスタマーサポートに問い合わせてください。

企業のサービス割当使用量の表示

企業の各サービス割当について次のデータを表示できます。

- 割当名
- 割当タイプ
- 割当単位
- カスタマーサポートによって設定された割当の値
- 現在使用されている割当量
- 残りの割当量
- 割当について警告が有効化されているかどうか。現在の使用量がしきい値を超えた場合、定義された受信者に電子メール警告が送信されます。
- 割当データを最後に変更したユーザー

[サービス割当リスト] ページから、サービス割当にドリルダウンし、割当の説明や現在の使用量データなどの割当に関する詳細を割当使用量アプレットで確認できます。

[割当使用量リスト] ページで、割当に関する履歴使用量データを確認できます。詳細は、「[履歴サービス割当使用量の表示『49ページ』](#)」を参照してください。

[サービス割当リスト] ページで[編集]をクリックし、割当の警告を設定できます。詳細は、「[サービス割当の警告の設定『50ページ』](#)」を参照してください。

企業のサービス割当使用量を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[サービス割当管理] リンクをクリックします。
- 4 [サービス割当リスト] ページで、企業のサービス割当データを確認します。

履歴サービス割当使用量の表示

[割当使用量リスト] ページから、企業の割当に関する履歴使用量データを確認できます。デフォルトで、割当使用量は日付順に一覧表示され、期間、割当タイプ、割当名、割当単位、使用された割当および作成日が表示されます。毎日、毎週または毎月の割当使用量を確認できますが、このビューは割当タイプによって異なります。

次の表では、[割当使用量リスト] ページで実行可能な操作について説明します。

操作	手順
----	----

操作	手順
割当使用量の新規リストの作成	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストのエクスポート	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストをエクスポート] を選択します。「リストのレコードのエクスポート」の手順を実行します。
割当使用量リストの管理	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」の必要なタスクの手順を実行します。
リスト全体の参照	リストページの上部または下部にあるナビゲーションアイコンをクリックして、リスト内の次のページ、前のページ、先頭ページまたは最終ページに移動します。
リストの検索基準の絞り込み	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストの主要情報とフィルター情報の表示	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。
リストの割当使用量の並べ替え	リストの並べ替えの基準にするカラムの見出しをクリックします。たとえば、[開始時刻] をクリックすると、リストは開始時刻に従って並べ替えられます。
表示レコード数の切り替え	ページの下部にある [表示レコード数] ドロップダウンリストで、一度に表示するレコードの数を選択します。

サービス割当の警告の設定

割当使用量が特定のしきい値に到達したときに、指定されたユーザーに通知するために電子メールが送信されるよう、サービス割当に警告を設定できます。サービス割当について警告が有効化されている場合、次のデフォルトが適用されます。

■ **警告受取人。** 企業のプライマリ担当者の電子メールアドレス

■ **警告しきい値。** 割当値の 70 パーセント

既存の顧客の場合、警告はデフォルト無効になっています。新規顧客の場合、警告はデフォルトで有効になっています。

注： Web サービスコンカレントリクエスト割当には警告を設定できません。

現在の使用量が企業の割当値に到達した場合、しきい値警告に加えて、自動警告電子メールがプライマリ担当者または指定された電子メール受信者に送信されます。警告が有効になっている場合、割当に到達したことを示す電子メールが指定された受信者に送信されます。

サービス割当に警告を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[サービス割当管理] リンクをクリックします。

- 4 [サービス割当リスト] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [サービス割当編集] ページで、次のフィールドに入力します。
 - **警告受取人**。警告電子メールを受け取るユーザーの電子メールアドレスを入力します。
 - **警告しきい値**。警告電子メールが送信される、割当値に対する比率を入力します。
 - **警告が有効**。このチェックボックスをオンにすると、警告電子メールの送信が有効になります。

ファイルおよびレコード利用情報の表示

Oracle CRM On Demand では、企業で使用されているファイルおよびレコード保存用ディスクスペースの量のスナップショットが間隔をおいて生成されます。情報は 90 日間保存され、その後データベースから削除されます。企業で使用されているファイルおよびレコード保存用ディスクスペースの量を追跡しやすくするために、次に関する詳細を表示できます。

- スナップショットの生成時に保存されていた添付ファイルの数
- スナップショットの生成時に企業で使用されていたファイル保存用ディスクスペースの量
- スナップショットの生成時に企業に存在していたレコードの数

注:Oracle CRM On Demand から削除されたがパージされていないファイルおよびレコードは、ファイルおよびレコードの利用の計算には含まれません。

次の手順では、ファイル利用情報の表示方法について説明します。

ファイル利用情報を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[ファイル利用] をクリックして [ファイル利用リスト] ページを開きます。

デフォルトで、[ファイル利用リスト] ページには [現在のファイル使用状況] リストが表示されます。[現在のファイル使用状況] リストには、最新のスナップショットの情報が表示されます。最近の 90 日間に生成されたすべてのスナップショットの情報を表示するには、リストページのタイトルバーで [すべてのファイルの使用状況] リストを選択します。

次の表では、[ファイル利用リスト] ページに表示される情報について説明します。

カラム名	説明
レコード名	ユーザーインターフェイスに表示されるレコードタイプの名前。企業がレコードタイプの名前をカスタマイズした場合、カスタマイズされたレコードタイプ名がこのカラムに表示されます。 注: スナップショットの生成時に企業の特定のレコードタイプのレコードにファイルが添付されていない場合、そのレコードタイプは表示されません。

カラム名	説明
ファイル数	スナップショットの生成時に Oracle CRM On Demand で企業の表示されたレコードタイプのレコードに添付されていたファイルの数。
ファイル割当使用量 (MB)	スナップショットの生成時に、表示されたレコードタイプのレコードの添付ファイルを保存するために Oracle CRM On Demand で企業によって使用されたファイル保存用ディスクスペースの量 (メガバイト単位)。
日付	スナップショットの日時。

次の手順では、レコード利用情報の表示方法について説明します。

レコード利用情報を表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [サービス割当管理] セクションで、[レコード利用] をクリックして [レコード利用リスト] ページを開きます。

デフォルトで、[レコード利用リスト] ページには [現在のレコード使用状況] リストが表示されます。[現在のレコード使用状況] リストには、最新のスナップショットの情報が表示されます。最近の 90 日間に生成されたすべてのスナップショットの情報を表示するには、リストページのタイトルバーで [すべてのレコードの使用状況] リストを選択します。

次の表では、[レコード利用リスト] ページに表示される情報について説明します。

カラム名	説明
レコード名	ユーザーインターフェイスに表示されるレコードタイプの名前。企業がレコードタイプの名前をカスタマイズした場合、カスタマイズされたレコードタイプ名がこのカラムに表示されます。 注: スナップショットの生成時に企業の特定のレコードタイプにレコードが存在しない場合、そのレコードタイプは表示されません。
レコード割当使用量	スナップショットの生成時に企業の Oracle CRM On Demand 内に存在した表示されたレコードタイプのレコードの数。
日付	スナップショットの日時。

ヒント: [ファイル利用リスト] ページおよび [レコード利用リスト] ページのメニューオプションの使用方法については、「リストの使用」を参照してください。

住所管理

住所管理には、住所共有機能のオンまたはオフへの切り替え（企業プロファイルの [共有アドレスの有効化] 設定を使用）、住所検証の有効化（企業プロファイルの [共有アドレスの検証] 設定を使用）、非共有住所から共有住所への変換、およびその他のタスクがあります。住所管理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [非共有住所から共有住所への変換](#) 『53ページ』

- 共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項 『56ページ』
- 共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新 『57ページ』
- [関係の編集] を使用した非共有住所の住所タイプの設定 『58ページ』
- 住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定 『58ページ』

関連トピック

- 住所
- 企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 『16ページ』

非共有住所から共有住所への変換

リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand では、非共有住所が使用されていました。このリリースでも非共有住所を引き続き使用できます。ただし、以前のリリースの非共有住所をこのリリースでサポートされる共有住所に変換する場合は、次の手順を実行する必要があります。

注：データファイルが大きく、インポート操作に予想以上の時間がかかる場合は、同じ入力ファイルと、この手順で定義するマッピングファイルで **Oracle Data Loader On Demand** を使用できます。

作業前の準備：Oracle CRM On Demand Customer Care が現在のリリースにアップグレードされていることを前提としています。この手順を実行するには、インポートとエクスポートの操作および **Oracle CRM On Demand** のカスタマイズを実行できる企業の管理者である必要があります。共有住所機能を有効にするには、[アドレスの管理] 権限が必要です。

注：非共有住所から共有住所に移行する場合、**Web Services v1.0 API** は共有住所へのアクセスをサポートしないため、**Web** サービスリクエストにはすべて **Web Services v2.0 API** を使用する必要があります。

非共有住所から共有住所に変換するには

- 1 必要な場合は、企業プロファイルの [共有アドレスの有効化] 設定をオフに切り替えます。
- 2 共有住所に変換する住所関連オブジェクトからデータをエクスポートします。

次の項目がリストに含まれます。

- すべての取引先データのセクションが含まれます。
 - 取引先
 - 取引先住所
 - 担当者
 - 取引先パートナー
 - 住所
- すべての担当者データのセクションが含まれます。
 - 担当者
 - 担当者住所

- 取引先
- 住所
- すべての自動車ディーラーデータのセクションが含まれます。
 - 自動車ディーラー
 - 自動車ディーラー住所
- すべてのパートナーデータのセクションが含まれます。
 - パートナー
 - パートナー住所
- すべての住所データ

エクスポート操作では、関連する取引先、担当者、パートナー、自動車ディーラー、および住所のデータをすべて **Oracle CRM On Demand** から外部のファイルにエクスポートする必要があります。外部ファイルは、選択したデータ修正方法およびデータ標準化方法で使用できる必要があります。

3 Oracle CRM On Demand へのこの住所のインポートに重複データが含まれないように、また、関連付けられている住所を使用して取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのデータが設定できるように、データを修正し、書式を再設定します。

エクスポート操作の後には、複数の重複や無効な住所が存在する可能性があります。たとえば、以前のリリースでは住所が共有されていなかったため、同じ場所にいる複数の担当者には同じ住所または類似した住所が設定されていました。ただし、入力やその他の誤りのために些細な違いが発生する可能性があります。発生する可能性のある住所の重複としては、レコード（たとえば、取引先）を再インポートして、そのレコードを新規に作成された共有住所レコードに関連付けた場合に、以前のリリースからの既存の住所の関連が削除されないことがあります。したがって、次のことを実行する必要があります。

- インポートする住所データを準備するときに、データを検証して重複レコードを削除します。
- 取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードを共有住所バージョンの住所データに関連付けることを決定した場合は、非共有の既存の住所データをそれらのレコードに関連付けるための所有権を取得します。つまり、削除と関連付けの解除、および非共有の既存の住所データを保持するかどうかの選択を明確にする必要があります。

インポート用のデータを準備する方法は、次のトピックを参照してください。

- [住所フィールド：インポートの準備](#) 『403ページ』
- [取引先フィールド：インポートの準備](#) 『393ページ』
- [担当者フィールド：インポートの準備](#) 『425ページ』
- [自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備](#)
- [パートナーフィールド：インポートの準備](#) 『490ページ』

4 住所レコードデータのインポート：

- a 住所データのインポートファイル名および適切なマッピングファイルを選択します。
- b インポートを完了させます。

共有住所のトップレベルレコードデータのインポートは、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードデータをインポートするための前提条件です。データのインポート方法については、「[データのインポート『527ページ』](#)」を参照してください。

5 取引先のレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで取引先が作成され、共有住所と取引先が関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート『527ページ』](#)」を参照してください。

6 担当者のレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで担当者が作成され、共有住所と担当者が関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート『527ページ』](#)」を参照してください。

7 自動車ディーラーのレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートで自動車ディーラーが作成され、共有住所と自動車ディーラーが関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート『527ページ』](#)」を参照してください。

8 パートナーのレコードデータのインポート：

a 関連レコードを作成するためのオプションを選択します。

b インポートを完了させます。

このインポートでパートナーが作成され、共有住所とパートナーが関連付けられます。データのインポート方法については、「[データのインポート『527ページ』](#)」を参照してください。

9 データが正しくインポートされたことを確認します。

10 企業での適切な役割に対応するページレイアウトを設定し、ページレイアウトに対する適切なアクセス権をユーザーに割り当てます。

11 役割管理ウィザードのステップ 2 でユーザーの役割を更新し、[レコードタイプアクセス] 役割を割り当てます。

このステップを完了しないと、ユーザーは住所レコードを表示できません。たとえば、ユーザーが住所レコードと取引先を関連付けようとすると、エラーメッセージが表示されます。

12 企業プロフィールで [共有アドレスの有効化] 設定を選択し、共有住所を有効にします。

- 13** Oracle CRM On Demand 外部にあるアプリケーションを使用して住所を有効としてマークする場合や、住所のピックアップ、住所の検索、および住所の関連付けで、検証済みの住所のみを使用する場合は、企業プロフィールで「共有アドレスの検証」設定を選択します。

注：住所レコードの検証日は、住所が「検証済み」にマークされるように設定する必要があります。詳細は、「共有住所への検証済みのマーク付け」を参照してください。

- 14** (オプション) インポートされたデータが正しいことを確認した後は、Web サービスを使用して既存の非共有住所データを削除できます。

Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項

共有住所をオンにした後でオフに切り替えると、その時点以降に作成される住所は非共有住所になります。つまり、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーに対して作成される新規の住所は、そのレコードにのみ作成され、他のレコードとは共有されません。ただし、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで以前に共有されていた住所レコードは、そのレコードが編集されるまでは引き続き共有されます。たとえば、住所を共有する 3 つの取引先 (A、B、C) がある場合は、共有住所をオフにした後も、3 つの取引先の住所は引き続き共有されます。たとえば、ユーザーが取引先 A の住所を編集すると、Oracle CRM On Demand により取引先 A に新しい非共有の住所レコードが作成されますが、取引先 B および C では、それぞれの住所が編集されるまで、共有住所が引き続き使用されます。

注：共有住所をオフに切り替える前に、必要に応じて、社内のエンドユーザーに対する住所レコードへのアクセス権を削除し、ユーザーの役割から「アドレスの管理」権限を削除し、ページレイアウトをリセットする必要があります。このアクセスおよび権限の削除手順の詳細は、「共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび「アドレスの管理」権限の更新」『57 ページ』」を参照してください。

共有住所機能をオンにした後、この機能をオフに切り替える場合は、次の事項を考慮します。

- **企業の管理者は、カスタマイズページにアクセスできます。**「アドレスの管理」権限がある企業の管理者は、Oracle CRM On Demand のカスタマイズページに引き続きアクセス可能で、住所レイアウト、フィールド管理などの操作を続行できます。
- **ユーザーは、非共有の新しい請求先住所または出荷先住所を作成できます。**取引先、自動車ディーラー、またはパートナーを新規に作成するユーザーは、非共有の新しい請求先または出荷先住所（あるいはその両方）を作成できます。担当者を新規に作成するユーザーは、非共有の新しいプライマリ担当者の住所を作成できます。新しい住所は新規に作成されたレコードにのみ関連付けられ、トップレベルの「住所」タブでは使用できません。
- **ユーザーは、住所のみを編集できます。**共有住所がオフに設定されているため、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーを編集するユーザーは、その取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードの住所のみを編集できます。編集している住所レコードが以前は共有住所であった場合は、Oracle CRM On Demand により新規の住所が作成されますが、新規の住所は編集対象レコードにのみ関連付けられ、トップレベルの「住所」タブでは使用できません。編集している住所レコードが以前から共有住所でなかった場合は、住所が編集され、Oracle CRM On Demand によって新規の住所が作成されることはありません。
- **孤立して削除された住所が作成される可能性があります。**取引先、自動車ディーラー、またはパートナーから請求先または出荷先住所を削除すると、取引先、自動車ディーラー、またはパートナーの孤立して削除された住所となります。同様に、担当者からプライマリ住所を削除すると、担当者の孤立して削除された住所となります。

共有住所のオフへの切り替えの詳細は、「企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定」『16 ページ』」の「共有アドレスの有効化」設定の情報を参照してください。

共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび「アドレスの管理」権限の更新

企業の管理者は、共有住所をオフに切り替える前に、次のことを実行する必要があります。

- 住所レコードの読み取りができるようにユーザーのアクセス権を変更します。
- ユーザーの役割から「アドレスの管理」権限を削除します。

作業前の準備。 自分自身が企業の管理者で、アクセスプロファイルウィザードおよび役割管理ウィザードを使用できる必要があります。

共有住所をオフに切り替える前にユーザーのアクセスプロファイルを更新するには

- 1 次の手順で、「住所」レコードタイプのアクセスレベルを設定します。
 - a 「管理」、「ユーザー管理」、「アクセス」、「アクセスプロファイル」の順にクリックします。
 - b ユーザーのアクセスプロファイルの「編集」メニュー項目をクリックします。
 - c アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 で、「住所」レコードタイプのアクセスレベルを「読み込み」に設定し、「終了」をクリックします。
- 2 次の手順で、「アドレスの管理」権限をオフに切り替えます。
 - a 「管理」、「ユーザー管理」、「アクセス」、「役割管理」の順にクリックします。
 - b ユーザーの役割名の「編集」メニュー項目をクリックします。
 - c 役割管理ウィザードのステップ 4 で、「アドレスの管理」権限をオフにします。
- 3 Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度 Oracle CRM On Demand にサインインし、変更内容が反映されていることを確認します。
- 4 次の手順で、企業プロフィールの「共有アドレスの有効化」設定をオフに切り替えます。
 - a 「管理」、「企業管理」、「企業プロフィール」の順にクリックします。
 - b 「共有アドレスの有効化」設定をオフに切り替えます。
 - c Oracle CRM On Demand からサインアウトして再度 Oracle CRM On Demand にサインインし、変更内容が反映されていることを確認します。

アクセスプロファイルウィザードを使用したアクセスレベルタイプの指定の詳細は、「[プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定](#)『200ページ』」を参照してください。役割管理ウィザードを使用したユーザーの役割に対する権限の指定の詳細は、「[役割管理](#)『202ページ』」を参照してください。

「関係の編集」を使用した非共有住所の住所タイプの設定

非共有住所の住所タイプは、非共有住所のレコードレベルのメニューで「関係の編集」メニュー項目を使用して設定できます。企業の管理者は、関係の編集機能を使用して、ユーザーに対して共有住所機能を使用可能にせずに、住所レコードの側面（たとえば、検索レイアウトやページレイアウト）をカスタマイズできます。

次に、「関係の編集」メニュー項目のいくつかの特徴を示します。

- デフォルトの「編集」ページでは、住所タイプを除くすべてのフィールドが読み取り専用フィールドになります。「編集」ページをカスタマイズした場合は、そのページの読み取り専用でない他のカスタムフィールドが使用可能になります。
- 「共有アドレスの有効化」設定をオンにすると、「住所」セクションのレコードレベルメニューの「関係の編集」メニュー項目は使用不可になります。この場合、ユーザーは「編集」ページを使用して、請求先、出荷先、またはプライマリの設定を編集し、別の住所を選択できます。
- 「共有アドレスの有効化」設定がオフで、トップレベルの住所レコードに対する「アドレスの管理」権限および「アクセス可能」権限がユーザーに付与されている場合は、「住所」セクションのレコードレベルのメニューで「新規」または「編集」をクリックすると、トップレベルの「住所」の新規または編集ビューに移動します。

作業前の準備。「共有アドレスの有効化」設定はオフ、「アドレスの管理」権限はオンにしておきます。

「関係の編集」メニュー項目を使用して非共有住所の住所タイプを設定するには

- 1 取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードの「詳細」ページで、「住所」関連情報セクションに移動します。
- 2 レコードレベルのメニューから、「関係の編集」を選択します。
- 3 タイプのピックリストから、住所タイプを選択します。

デフォルトで使用可能な住所タイプは、「居住施設」、「事務所」、「別荘」、「その他」、「バニティ」、「個人」、「郵便」、「病院」、および「クリニック」です。

住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定

トップレベルの住所レコードにアクセスし、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーで住所を共有するには、プロファイルおよびユーザーの役割に適切な設定が必要です。企業の管理者は、これらの各レコードの特定の役割に対するアクセスをユーザーのアクセスプロファイルに割り当てます。

共有住所の多対多関係には、次のアクセスレベルを割り当てることができます。

- トップレベルの住所レコードには、次のレベルを割り当てることができます。
 - 読み取り専用
 - 読み取り/編集
 - 読み取り/編集/削除
- 取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーの住所関連情報セクションの住所レコードには、次のレベルを割り当てることができます。
 - アクセスなし
 - 読み取り専用

- 読み取り/作成
- 読み取り/作成/編集
- 読み取り/編集
- 読み取り/編集/削除
- 全部

共有住所機能に対するアクセスを制御する権限および設定

次の権限および設定を使用して、共有住所機能に対するアクセスを制御します。

- **［アドレスの管理］権限。**［住所］フィールドの設定ページへのユーザーのアクセス、およびアクセスプロファイルウィザードおよび役割管理ウィザードの［住所］レコードの可用性を制御します。
- **［共有アドレスの検証］権限。**検証日を設定することで、ユーザーが住所を検証できるかどうかを制御します。
- **［共有アドレスの有効化］設定。**トップレベルの住所レコードを共有できるかどうか、さらに取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードの住所で、共有または非共有機能を使用するかどうかを制御します。
 〔共有アドレスの有効化〕設定がオフで、〔アドレスの管理〕権限が選択されている場合、取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーのレコードで使用できるのは、住所の非共有機能のみとなります。このオプションには、〔企業の管理〕権限を持つユーザーが、企業プロフィールでアクセスできます。
- **［共有アドレスの検証］設定。**Oracle CRM On Demand が企業の共有住所を検証するかどうかを制御します。この設定がオンの場合、ユーザーは、検証済みの共有住所を選択して取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードに追加できます。未検証の住所は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードからフィルター処理され、これらのレコードの〔新規〕住所ボタンは使用不可になります。この設定には、〔企業の管理〕権限を持つユーザーが、企業プロフィールでアクセスできます。
 〔共有アドレスの検証〕設定がオフの場合は、取引先、担当者、自動車ディーラー、またはパートナーのレコードで、すべての住所が使用可能になります。つまり、フィルター処理は実行されず、必要な権限があるユーザーに対しては、これらのレコードの〔新規〕住所ボタンが有効になります。

次の表に、様々な設定および権限が共有住所のタスクを実行するのに必要かどうか、および共有住所機能に対する関係を示します。

タスク	〔共有アドレスの有効化〕設定	〔アドレスの管理〕権限	最小限必要な共有住所の権限	〔共有アドレスの検証〕権限
共有住所の住所ページおよび住所フィールドのカスタマイズ	いいえ	はい	なし	いいえ
取引先または担当者の住所形式の非共有から共有への変更	はい	いいえ	なし	いいえ
共有住所の検証	いいえ	いいえ	読み取り/編集	はい
共有住所のアクセスプロファイルの更新	いいえ	はい	なし	いいえ
取引先、担当者、自動車ディーラー、およびパートナーの間での住所の共有	はい	いいえ	読み込み	いいえ

タスク	「共有アドレスの有効化」設定	「アドレスの管理」権限	最小限必要な共有住所の権限	「共有アドレスの検証」権限
役割管理ウィザードでの住所レコードの有効化	いいえ	はい	なし	いいえ
「住所」タブのアクセス	いいえ	いいえ	読み込み	いいえ
住所ホームページ]、[詳細]、および[編集] ページのアクセス	いいえ	いいえ	読み込み [編集] ページには[編集] アクセス権が必要です。	いいえ
対応するレコードの[取引先住所]、[担当者住所]、自動車ディーラー住所、またはパートナー住所セクションの更新	はい	いいえ	読み込み	いいえ

アプリケーションカスタマイズ

各企業は、従業員の生産性を向上させるために、データの収集、記録方法、使用する用語、および情報の提示方法について、それぞれ固有の要件を持っています。アプリケーションカスタマイズにより、企業のさまざまな要件（ページレイアウト、フィールド管理、リストアクセス要件など）に合わせて **Oracle CRM On Demand** をカスタマイズできます。

以下の例は、アプリケーションのカスタマイズ方法を示しています。

例 1：すべてのセールス要員が、すべての担当者レコードに電子メールアドレスを含めるようにしたい場合があります。この要件を満たす最適な方法は、[電子メール] フィールドを必須フィールドにすることです。こうすれば、誰が新しい担当者レコードを作成したとしても、その担当者レコードに電子メールアドレスが含まれていない限り、作成者はその担当者レコードを保存できません。

例 2：従業員は 2 つのグループに分けられ、それぞれが取引先ページで異なる情報を追跡する必要があるとします。この要件を満たすには、グループごとに異なる取引先ページレイアウトを作成し、役割の割り当てによって適切なアクセス権を提供します。

[アプリケーションカスタマイズ] ページには次の 2 つのセクションがあります。

- **レコードタイプセットアップ：**トップレベルのレコードタイプごとにリンクがあります。リンクをクリックすると、レコードタイプ固有のカスタマイズページに移動します。企業の設定によっては、業種固有のレコードタイプが **Oracle CRM On Demand** に表示されない場合があります。また、企業の特定のニーズに応じて、業種固有のレコードのカスタマイズが必要になる場合があります。個々の [アプリケーションカスタマイズ] ページから実行できるタスクの詳細は、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) 『61ページ』」を参照してください。
- **アプリケーションセットアップ：**レコードタイプに依存しない各種カスタマイズ機能へのリンクがあります。トピックをクリックすると、[アプリケーションセットアップ] セクションから実行できる以下の手順の説明を表示します。
 - [外部 Web ページのタブでの表示](#) 『108ページ』
 - [アクションバーレイアウトの作成と管理](#) 『116ページ』

- [カスタム Web アプレットの作成](#) 『111ページ』
- [グローバル Web アプレットの作成](#) 『117ページ』
- [クライアント側拡張のアップロード](#) 『120ページ』
- [企業の \[ホームページ \(個人\)\] のカスタマイズ](#) 『123ページ の"[企業の \[個人ホームページ\] のカスタマイズ](#)"参照』
- [\[ホームページ \(個人\)\] でのカスタムレポートの有効化](#) 『128ページ の"[\[ホームページ \(個人\)\] でのカスタムレポートの有効化](#)"参照』
- [レコードタイプの名前変更](#) 『129ページ』 および [レコードタイプの追加](#) 『131ページ』
- [レコードタイプのアイコンの変更](#) 『130ページ』

注：[ホームページ (個人) レイアウト] および [ホームページ (個人) カスタムレポート] 機能の場合は、[ホームページカスタマイズアクセスを管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

作業前の準備：

- アプリケーションカスタマイズの手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 自分のビジネスニーズを理解しておく必要があります。
 - ビジネス所有者と話し合い、そのビジネスプロセスとアプリケーションに関するニーズを確認します。
 - そのニーズをサポートするために必要なフィールド、表示名、ピックリストの値、その他のカスタムフィールドを決定します。
 - インターフェイスでフィールドをレイアウトする方法と、必須のマークを付けるフィールドを決定します。
 - フィールド設定およびページレイアウトテンプレート（トレーニングおよびサポートセンターのツールおよびテンプレートエリアから入手可能）を使用して、アプリケーションカスタマイズ要件の文書化を容易にすることができます。

レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ

各レコードタイプには、そのレコードタイプに対して実行できるカスタマイズタスクのリンクを含む [アプリケーションカスタマイズ] ページがあります。

次の表では、[アプリケーションカスタマイズ] ページに表示される各セクションについて説明し、そのセクションに含まれるリンクをクリックしたときに実行できるタスクの一覧を示します。表示されるセクションはレコードタイプによって異なり、一部のセクションは特定の権限を含む役割が割り当てられている場合にのみ表示されます。すべてのカスタマイズ手順で、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限が必須です。

注：次の表に示すトピックでは、レコードタイプの名前のプレースホルダが、イタリック体の *レコードタイプ* という語で表されています。たとえば、取引先に関して作業している場合は、[*レコードタイプ* フィールド監査セットアップ] リンクの *レコードタイプ* を *取引先* に置き換えてください。

セクション	タスク	必要な追加権限
フィールド管理	フィールドの名前変更、カスタムフィールドの作成、ピックリスト値の管理、フィールドのデフォルト値の指定、フィールド検証の設定およびフィールドがコピー可能かどうかの選択。これらのタスクの詳細については、以下のトピック	なし

セクション	タスク	必要な追加権限
	<p>クを参照してください。</p> <p>フィールド管理について 『63ページ』</p> <p>カスタムフィールドについて 『70ページ』</p> <p>フィールドの作成と編集 『74ページ』</p> <p>コピー有効設定の管理 『77ページ』</p> <p>フィールドの名前変更 『81ページ』</p> <p>インデックス付きカスタムフィールドの使用 『82ページ』</p> <p>ピックリスト値の変更 『85ページ』</p> <p>設定をデフォルトに戻す 『85ページ』</p>	
	デフォルトフィールドおよびフィールド検証の高度な定義	高度なフィールド管理
ページレイアウト管理	<p>静的ページレイアウトの作成と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。</p> <p>静的ページレイアウトのカスタマイズ 『88ページ』</p> <p>関連項目レイアウトのカスタマイズ 『87ページ』</p> <p>フィールドセクションタイトルの名前変更 『91ページ』</p> <p>詳細ページレイアウトで使用可能な Web アプレットの作成と管理。次のトピックを参照してください。</p> <p>Web アプレットの作成 『92ページ』</p> <p>高度なページレイアウト管理については、「動的ページレイアウトの指定 『105ページ』」を参照してください。</p>	なし
カスケード式ピックリスト	<p>カスケード式ピックリストの定義と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。</p> <p>カスケード式ピックリストの定義 『94ページ』</p>	なし
検索およびリストレイアウト管理	ターゲット検索フィールドの指定と検索結果のレイアウトの管理。スマート関連付けで使用するルックアップウィンドウの動作も管理します。これらのタスクの詳細については、以	なし

セクション	タスク	必要な追加権限
	下のトピックを参照してください。 検索レイアウトの管理 『95ページ』	
リストアクセスと順序	各役割のデフォルトリストアクセスおよび表示順序の管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 リストアクセスおよびリスト順序の管理 『98ページ』	なし
ホームページレイアウト管理	ホームページレイアウトの作成と管理、およびホームページに表示するカスタムレポートの指定。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 レコードホームページレイアウトの作成 『101ページ』 ホームページカスタムレポートの作成 『99ページ』	アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理
フィールド監査セットアップ	企業のフィールド監査証跡のカスタマイズ。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 監査証跡のカスタマイズ 『102ページ』	フィールド監査の管理 この機能は、特定のレコードタイプに対してのみ使用できます。
動的レイアウト管理	動的ページレイアウトの作成と管理。これらのタスクの詳細については、以下のトピックを参照してください。 動的ページレイアウトの指定 『105ページ』	アプリケーションのカスタマイズ - 動的レイアウトの管理

一部のレコードタイプについては、そのレコードタイプのリンクと関連レコードタイプのリンクが[フィールド管理] および [ページレイアウト] セクションに表示されます。たとえば、取引先の [アプリケーションカスタマイズ] ページには、以下のリンクが表示されます。

- 取引先フィールドセットアップ
- 取引先担当者フィールドセットアップ
- 取引先パートナーフィールドセットアップ
- 取引先関係フィールドセットアップ
- 取引先チームフィールドセットアップ

フィールド管理について

Oracle CRM On Demand では、さまざまなレコードタイプについて、以下のフィールド管理タスクを実行することができます。

- [フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』
- [フィールドの名前変更](#) 『81ページ』
- [ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』

カスタムフィールドを作成したり、フィールド定義を編集したりするときには、フィールドのデフォルト値を指定できます。指定したデフォルト値は、新規レコードの作成時に有効となります。また、フィールドが特定の値を必要とするときは、それを確認するフィールド検証を実行するように指定できます。

フィールドのコピーについて

Oracle CRM On Demand のほとんどのレコードタイプには、コピー機能が用意されています。つまり、ユーザーは使用中の現在のレコードをコピーできます。ユーザーがレコードの詳細ページの [コピー] ボタンをクリックすると、新しいレコードページが開きます。この新しいレコードページには、コピー可能なすべてのフィールドが含まれています。ユーザーはこれらのフィールドを変更して保存できます。

注： [コピー] ボタンを使用する場合は、基本レコードのみコピーされ、関連項目と子レコードはコピーされません。

コピー機能の使用時には次の制限事項が適用されます。

- **Web** リンク、システムフィールド、住所フィールド、計算結果フィールドおよび参照フィールドはコピーできません。これらの項目については、[コピー有効] チェックボックスを使用できません。
- 読み取り専用フィールドはコピーできません。読み取り専用フィールドとは、フィールドセットアップまたはフィールドレイアウトで読み取り専用として設定されるフィールドです。
- ユーザーのフォームレイアウトで使用できないフィールドはコピーできません。
- 次の添付資料フィールドはコピーできません。
 - 添付資料
 - 添付資料：ファイル名
 - 添付資料：サイズ (バイト)

フィールドをコピーするには、Oracle CRM On Demand のレコードの詳細ページで [コピー] ボタンを使用します。この設定を有効にするには、Oracle CRM On Demand の [アプリケーションカスタマイズ] セクションの [フィールド管理] ページにある [コピー有効] チェックボックスを使用します。Oracle CRM On Demand でコピー可能なフィールドの指定の詳細は、「[コピー有効設定の管理](#) 『77ページ』」を参照してください。

フィールド検証について

カスタムフィールドの作成やフィールド定義の編集を行う場合は、[フィールド編集] ページで指定できます。このページのフィールドは、必須または読み取り専用です。また、新しいレコードの事前デフォルトと事後デフォルトの値を指定することもできます。

必須フィールド

さまざまな状況において、フィールドを必須フィールドとして定義することができます。たとえば、すべてのサービスリクエストについて、その原因に関する情報を追跡する必要がある場合などです。この場合は、サービスリクエストの [原因] フィールドが必須フィールドになるように指定します。これにより、レコードが作成または更新され、保存されるとき、アプリケーションは [原因] フィールドが NULL でないことを検証します。

別の例として、予想売上が\$100,000を超える商談が不成約になった場合はその理由を追跡する、という企業方針があるとします。この場合は、商談レコードの「理由」フィールドを、「売上」フィールドの値が100,000を超えているときだけ必須フィールドになるように定義します。商談レコードが保存されるとき、アプリケーションは「リクエスト」フィールドの値が100,000を超えているか検証します。

検証に失敗するとエラーメッセージが表示され、レコードを保存する前に必須フィールドに値を入力するようユーザーに警告します。また、検証に失敗した場合に表示するカスタムエラーメッセージを指定することもできます（「フィールド検証エラーメッセージ」フィールド）。

フィールドを必須フィールドとして指定すると、ユーザーインターフェイス、Web サービス、データインポートなど、すべてのインターフェイスで検証が実施されます。

「フィールド編集」ページで必須フィールドとして指定したフィールドは、役割に関係なく、すべてのユーザーにとって必須フィールドとなります。特定の役割に対してだけ必須フィールドとしたい場合は、まだ必須フィールドではないフィールドに対して適切なページレイアウトを編集することができます。ページレイアウトの編集の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)『88ページ』」を参照してください。

読み取り専用フィールド

次のような場合には、フィールドを読み取り専用フィールドとして定義します。

- **外部ソースからのフィールド**：たとえば、企業が取引先の信用度を外部システムで追跡する場合、夜間に行うインポートによって信用度を定期的に更新するが、UIではフィールドを読み取り専用にするということが考えられます。
- **既存のフィールドをカスタムのインデックス付きフィールドに変更する**：インデックス付きカスタムフィールドの1つを既存のカスタムフィールドで使用する場合は、ユーザーには古いフィールドへの読み取り専用アクセスのみを許可しておいて、データを新しいインデックス付きフィールドに移動することができます。このようにフィールドを定義すれば、データの同期がずれるのを避けることができます。

カスタムフィールド検証ルール

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) を使用して、カスタムフィールド検証ルールの式を作成できます。「フィールド検証」フィールドの横にある「fx」アイコンをクリックすると、「Expression Builder」ウィンドウが表示され、そこに式を入力できます。式に使用できる構文については、「[Expression Builder](#)『582ページ』」を参照してください。

次のような場合に、カスタムフィールド検証ルールを定義します。

- **企業方針の徹底**：たとえば、MDFの有効期間は1年以内でなければならないという企業方針が企業にあるとします。この場合は、「終了日」フィールドに関する検証ルールを適切に定義することで、フィールド値が開始日から1年を超える値にならないようにすることができます。
- **データ形式の徹底**。たとえば、企業がヨーロッパの取引先に付加価値税（VAT）番号を使用している場合は、取引先の請求先住所に基づいて、正しいVAT形式の検証を指定できます。もう1つの例として、特定のカスタムフィールドの値が必ず4桁となるように指定することが考えられます。

次の場合は、フィールド検証式が評価されないようにします。

- レコードの作成時にフィールドは空のままになります。フィールド検証では値が必要とされません。
- フィールドには既存の無効な値があり、更新時に変更されません。

検証式が評価されない場合、または検証式がNULLと評価される場合は、エラーメッセージが生成されません。検証式が失敗する（すなわち、式がFALSEと評価される）場合のみエラーメッセージが生成されます。

フィールド検証式は、最初のパラメータがフィールド名自体であると想定します。たとえば、[金額] フィールドの単純なフィールド検証式を値が **1000** より大きくなるように指定する場合は、「>1000」と入力すれば十分です。「[<金額>]>1000」と入力する必要はありません。より複雑な式の詳細は、「[式について](#)」『585ページ』を参照してください。

フィールド検証ルールの指定に関する制限事項

以下のタイプのフィールドに対しては、フィールド検証ルールを指定できません。

- システムフィールド
 - 内部計算結果フィールド
 - 行 ID および ID フィールド
- 注：** Row_ID は内部システムフィールドです。レコード作成中などの操作の遷移によって、Row_ID が常に静的であることは保証されません。ExternalSystemID または IntegrationID に変化する場合があります。
- 関連フィールド
 - 複数選択ピックリストフィールド
 - フィールドを除外するようにユーザープロパティが設定されているフィールド。このタイプのフィールドは、アプリケーションコードの既存のビジネスロジックに反しないようにするために、例外に基づいて設定されます。
 - Web リンク
 - 次の添付資料フィールド：
 - 添付資料
 - 添付資料：ファイル名
 - 添付資料：サイズ (バイト)

デフォルトフィールド値の定義について

フィールドのデフォルト値は、カスタムフィールドの作成時、またはフィールド定義の編集時に、[フィールド編集] ページの [デフォルト値] フィールドで指定することができます。

デフォルト値の指定は、フィールドに対して次のような要求がある場合に役立ちます。

- フィールドの値を一定にする。たとえば、新規レコードの作成時に、[取引先タイプ] フィールドの値がデフォルトの [顧客] となるようにできます。
- 式に基づいた値をデフォルトにする。たとえば、資金リクエストの [締切日] フィールドのデフォルト値として、[作成日] フィールドの値から 6 か月後という値を取るようにすることができます。
- フィールドに固有の値を生成する。たとえば、固有の数値を [経費レポート] フィールドの ID として生成する式を指定することができます（このフィールドは読み取り専用でもあります）。
- 役割に固有のデフォルト値を指定する。たとえば、サービスリクエスト (SR) の大部分が顧客サービス要員 (CSR) によって作成される企業では、デフォルトで再割当フラグフィールドを選択することができます。これは、セールス要員が SR を開いた場合は、事前に定義された割当ルールに基づいて SR が正しい CSR にルーティングされるようにするためです。

注：これらの多くは、[高度なフィールド管理] 権限を含む役割が割り当てられている場合にのみ可能です。

フィールドのデフォルト値には、次の 2 つのタイプがあります。

- **事前デフォルト**：ユーザーが新しいレコードを作成すると、指定された値がこのフィールドに事前入力されます。ユーザーは、デフォルト値を上書きするか、デフォルト値を受け入れることができます。
- **事後デフォルト**：ユーザーが新しいレコードを作成したときには、指定された値がフィールドに事前入力されることはありませんが、以下の場合にレコードが保存されると、フィールドは指定されたデフォルト値を取ります。
 - ユーザーがフィールドに何も入力しなかった。
 - フィールドがレイアウトに表示されていない。
 - 統合ツールによって値が入力されていない。

事前デフォルトは、フィールド値のデフォルトタイプです。事後デフォルトを指定するには、[フィールド編集] ページでその名前のチェックボックスをオンにします。

注：事後デフォルトフィールドの値は **Offline client** ではサポートされていないため、空のフィールドとして表示されます。

デフォルトフィールド値は、新しいレコードのみに適用され、レコードの更新には適用されません。

システムですでにデフォルト値が指定されているフィールドにデフォルト値を指定する場合は、個人の値が企業の値より優先されます。このルールの例外は、商談レコードの [売上] フィールドです。このフィールドは商談売上に基づいた売上予想の生成に使用されるので、このフィールドに指定されるすべてのデフォルト値およびその後指定される値は無視されます。

次のタイプのフィールドにデフォルト値を設定することはできません。

- システムフィールド
- 内部計算結果フィールド
- 行 ID および ID フィールド

注：Row_ID は内部システムフィールドです。レコード作成中などの操作の遷移によって、Row_ID が常に静的であることは保証されません。ExternalSystemID または IntegrationID に変化する場合があります。

- 関連フィールド
- 複数選択ピックリストフィールド
- フィールドを除外するようにユーザープロパティが設定されているフィールド。このタイプのフィールドは、アプリケーションコードの既存のビジネスロジックに反しないようにするために、例外に基づいて設定されます。
- Web リンク
- チェックボックス（事後デフォルトの値）
- 次の添付資料フィールド：
 - 添付資料
 - 添付資料：ファイル名
 - 添付資料：サイズ（バイト）

次の表では、Oracle CRM On Demand の様々なフィールドタイプに指定できるデフォルト値について説明します。

フィールドのタイプ	有効なデフォルト値
チェックボックス	<p>チェックボックスをオンにし、ブール値が true の場合は Y。</p> <p>チェックボックスをオフにし、ブール値が false の場合は N。</p> <p>ブランクは、チェックボックスがオフのように考えられがちですが、未定義</p>

フィールドのタイプ	有効なデフォルト値
	値を表します 注： チェックボックスフィールドに対して事後デフォルトを選択することはできません。
通貨	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
日付	Today + <i>number</i> 。 <i>number</i> は特定の日数を表します。デフォルトの日付は、今日の日付と入力された数値の和として計算されます。たとえば、今日が 2008 年 1 月 1 日の場合、「Today + 7」と入力すると、デフォルト値は 2008 年 1 月 8 日に設定されます。
日時	「日付」フィールドタイプの場合と同じですが、新規レコードが開かれた時刻も示されます。
整数	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
複数選択ピックリスト	複数選択ピックリストのデフォルト値は定義できません。
メモ	16350 文字以内のテキスト値。
数値	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
率	有効な数値は-2147483648 から 2147483647 です。
電話	有効な電話番号。
ピックリスト	選択したピックリスト値が、フィールドのデフォルト値になります。
テキスト (長い)	255 文字以内のテキスト値。
テキスト (短い)	40 文字以内のテキスト値。
Web リンク	有効な URL。式および検証は使用できません。デフォルト値は、[Web リンク] 編集ページから設定できます。 [テキストを表示] フィールドには、最大で 250 文字を含めることができます。[URL] フィールドには、最大で 8000 文字を含めることができます。ブラウザによって URL の最大長は異なります。指定した URL が長すぎると、想定どおりに動作しないことがあります。パラメータの置換を使用している場合、URL 長は変化します。

注：デフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の結果はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。また、Expression Builder で関数に渡される文字列または数値リテラルは 75 文字を超えてはなりません。式ビルダーの使用方法的詳細は、「Expression Builder 『582ページ』」を参照してください。

追加事項：

- ピックリストを含むすべてのフィールドタイプについて、定数値を入力できます。例：

Status (Task) = ‘開始前’

- [日付] フィールドの場合は、今日の日付からの日数を指定できます。例：

Due Date (Fund Request) = Today() + 180

- 「所有者」フィールドの場合は、<record creator> (変数) または特定のユーザーを指定することができます。

ロックアップはサポートされていないため、フィールドに直接入力する必要があります。

デフォルトフィールド値に対して複雑な式を作成することもできます。[デフォルト値] フィールドに式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開いて式を入力できます。式に使用できる構文については、「[Expression Builder](#) 『582ページ』」を参照してください。

フィールド管理で **Expression Builder** を使用するには、ユーザー役割に [高度なフィールド管理] 権限が含まれている必要があります。管理者の役割を持つユーザーは、自分自身の役割および他の役割に対してこの権限を有効にすることができます。

レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて

Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、ブックをサポートするほとんどのレコードタイプで、3 つのレコード所有権モード (ユーザーモード、ブックモード、および混合モード) が提供されます。リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand で作成された既存の企業の場合、3 つのレコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードはユーザーモードですが、例外として、[サービスリクエスト] レコードタイプはデフォルトで混合モードに設定されます。新しい企業の場合は、混合モードが、3 つのレコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードです。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) 『220ページ』」を参照してください。

レコードタイプのレコード所有権モードは、レコードタイプの [所有者] フィールドおよび [ブック] フィールドの設定によって決まり、レコードタイプのページレイアウトは、レコード所有権モードを反映する必要があります。次の表に、各レコード所有権モードの [所有者] フィールドおよび [ブック] フィールドの設定を示します。フィールドの設定の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

レコード所有権モード	[所有者] フィールドの [必須] 設定	[ブック] フィールドの [必須] 設定	その他の設定の詳細
ユーザーモード	はい	いいえ	なし。
ブックモード	いいえ	はい	(オプション) [所有者] フィールドを読み取り専用を設定します。
混合モード	いいえ	いいえ	なし。

次の表に、各レコード所有権モードのページレイアウト情報を示します。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」および「[動的ページレイアウトの指定](#) 『105ページ』」を参照してください。

レコード所有権モード	ページレイアウトの設定
ユーザーモード	レコードタイプに使用する [詳細] ページの各レイアウトに [所有者] フィールドを表示し、必須フィールドにする必要があります。 [詳細] ページの各レイアウトに [ブック] フィールドを表示する場合、[ブック] フィールドは必須フィールド

レコード所有権モード	ページレイアウトの設定
	ドにしないでください。
ブックモード	レコードタイプに使用する [詳細] ページの各レイアウトに [ブック] フィールドを表示し、必須フィールドにする必要があります。 [詳細] ページの各レイアウトに [所有者] フィールドを表示する場合、[所有者] フィールドは必須フィールドにしないでください。
混合モード	レコードタイプの [詳細] ページのレイアウトには、必要に応じて [所有者] フィールドまたは [ブック] フィールド、あるいはその両方を表示できます。ページレイアウトでは、[所有者] フィールドおよび [ブック] フィールドを必須フィールドにしないでください。

カスタムフィールドについて

Oracle CRM On Demand には、ほとんどの組織が必要とするデフォルトフィールドが用意されています。しかし、既存のコードのフィールドに対応するフィールドが Oracle CRM On Demand にない場合があります。そのような場合には、カスタムフィールドと呼ばれる新しいフィールドを作成して、企業に固有のニーズをサポートすることができます。この必要は、Oracle CRM On Demand にインポートする既存のレコードがある場合に生じる可能性があります。

カスタムフィールドには次の特徴があります。

- 割当ルール、レポート、フィルター済みリスト、およびターゲット検索で使用できます。
注:パフォーマンス上の理由から、一部のカスタムフィールドはリストの並べ替えに使用できません。
- 削除できません。
- カスタムページレイアウトに明示的に追加しない限り表示できません。
- レコードタイプ間で継承されません。

たとえば、見込み客用に追加したカスタムフィールドは、その見込み客が商談に変換された場合は、商談に自動的に継承されません。

見込み客が商談、取引先、または担当者に変換されるときに、見込み客レコードのカスタムフィールドを転送する場合は、転送するカスタムフィールドをマップする必要があります。
- 再度サインインしないと、他のユーザーには表示できません。
- Web リンク、Web サービス、およびその他の統合テクノロジーによって参照できます。

次の表では、Oracle CRM On Demand に追加できる新しいフィールドの数について説明します。データはほとんどのレコードタイプに使用可能なフィールドに関するものです。つまり、取引先に 100 個、担当者に 100 個、商談に 100 個というように新しいピックリストフィールドを追加できます。ピックリストの値（有効な値および無効な値）の最大数は 1000 個です。

レコードタイプ	チェック ボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピック リスト
取引先	35	80	25	25	35	10
担当者	35	25	25	25	35	10
見込み客	35	25	25	25	35	10
商談	35	25	25	25	35	10
活動	35	25	25	25	35	10
キャンペーン	35	25	25	25	35	0
解決策	35	25	25	25	35	0
医学教育	35	25	25	25	35	0
世帯	35	25	25	25	35	0
資金	35	25	25	25	35	0
ポートフォリオ	35	25	25	25	35	0
車両	70	50	60	50	70	0
サービスリクエスト	35	25	25	25	35	10
プログラム	35	35	25	25	35	0
カスタムオブジェクト 01	35	25	25	35	35	10
カスタムオブジェクト 02	35	25	25	35	35	10
カスタムオブジェクト 03	35	25	25	35	35	0
自動車ディーラー	70	105	60	50	70	0
製品	35	25	25	25	35	0
資産	35	25	25	25	35	0
資金リクエスト	35	25	25	25	35	0
MDF リクエスト	35	25	25	35	35	0
プログラムパートナー	70	50	60	50	70	10
売上	35	25	25	25	35	0
SP リクエスト	35	25	25	35	35	0

レコードタイプ	チェックボックス	通貨	日付	日時	整数	複数選択ピックリスト
ユーザー	35	25	25	35	35	0
取引交渉登録	35	25	25	35	35	0
取引交渉登録売上製品	35	25	25	35	35	0
コース	35	25	25	35	35	0
試験	35	25	25	35	35	0
認定レベル	35	25	25	35	35	0
認定	35	25	25	35	35	0
カスタムオブジェクト 04 以降	35	25	25	35	35	0
この表に示したタイプ以外の業界固有のレコードタイプ	35	25	25	35	35	0

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク
取引先	33	30	10	100	30	45	100
担当者	33	30	10	100	30	70	100
見込み客	33	30	10	100	30	45	100
商談	33	30	10	100	30	70	100
活動	33	30	10	100	30	45	100
キャンペーン	33	30	10	100	30	45	100
解決策	33	30	10	100	30	45	100
医学教育	33	30	10	100	30	45	100
世帯	35	30	10	100	30	45	100
資金	33	30	10	100	30	45	100
MDF リクエスト	35	30	20	100	30	60	100
ポートフォリオ	33	30	10	100	30	45	100

レコードタイプ	数値	率	電話	ピックリスト	テキスト (長い)	テキスト (短い)	Web リンク
車両	68	60	30	200	60	105	100
サービスリクエスト	33	30	10	100	30	45	100
SP リクエスト	35	30	20	100	30	60	100
プログラム	35	30	10	100	30	45	100
カスタムオブジェクト 01	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 02	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 03	35	30	20	100	30	60	100
自動車ディーラー	68	60	30	200	60	105	100
製品	33	30	10	100	30	45	100
資産	33	30	10	100	30	45	100
資金リクエスト	33	30	10	100	30	45	100
プログラムパートナー	68	60	30	200	60	105	100
売上	33	30	10	100	30	45	100
ユーザー	35	30	20	100	30	60	100
取引交渉登録	35	30	20	100	30	60	100
取引交渉登録売上製品	35	30	20	100	30	60	100
コース	35	30	20	100	30	60	100
試験	35	30	20	100	30	60	100
認定レベル	35	30	20	100	30	60	100
認定	35	30	20	100	30	60	100
カスタムオブジェクト 04 以降	35	30	20	100	30	60	100
この表に示したタイプ以外の業界固有のレコードタイプ	35	30	20	100	30	90	100

フィールドの作成と編集

各レコードタイプの「フィールド編集」ページで、カスタムフィールドの作成および既存のフィールド定義の編集を行うことができます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスタムフィールドの作成およびフィールドの編集を行うには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「フィールド管理」セクションで、「レコードタイプフィールドセットアップ」をクリックします。
- 5 「フィールド」ページで、次の操作を行います。

- カスタムフィールドを作成する場合は「新規フィールド」をクリックします。
- フィールドの定義を編集するには、フィールドの「編集」リンクをクリックします。

注: 標準のフィールドを編集し、編集したすべての値をデフォルト設定にリセットする場合は、「保存」ボタンと「取消」ボタンの隣にある「初期値」ボタンをクリックします。

- 6 「フィールド編集」ページで表示名を入力します。

表示名はフィールドのラベルです。

- 7 フィールドを作成する場合は、「フィールド編集」ページでフィールドタイプを選択します。

注意: カスタムフィールドを保存した後は、フィールドタイプは変更できません。

カスタムフィールドには次のルールが適用されます。このルールは、同じフィールドタイプのデフォルトのフィールドに適用されるルールとは異なる場合があります。

フィールドのタイプ	最大長	メモ
日付	25	
日時	25	
整数	10	整数の範囲は-2147483647 から 2147483647 までです。
複数選択ピックリスト		複数選択ピックリストのデフォルト値は定義できません。

フィールドのタイプ	最大長	メモ
数値	10	数値の範囲は-2147483648 から 2147483647 までです。
電話	35	
ピックリスト	30	
テキスト (長い)	255	テキストフィールドでは、1 行のテキストフィールドを使用します。
テキスト (短い)	40	テキストフィールドでは、1 行のテキストフィールドを使用します。ただし、フィールドによって長さは異なります。
Web リンク	該当なし	<p>[Web リンク] カスタムフィールドにより、レイアウト内に状況依存のハイパーリンクを作成できます。</p> <p>[テキストを表示] フィールドには、最大で 250 文字を含めることができます。[URL] フィールドには、最大で 8000 文字を含めることができます。ブラウザによって URL の最大長は異なります。指定した URL が長すぎると、想定どおりに動作しないことがあります。パラメータの置換を使用している場合、URL 長は変化します。</p>

- 8 [追加プロパティ] セクションで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

フィールド	コメント
必須	このチェックボックスをオンにすると、レコードの作成または更新時にそのフィールドが必須フィールドになります。たとえば、新しい担当者の追加時にすべてのユーザーが [取引先] フィールドに必ず入力するように設定できます。
デフォルト値	<p>値または式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開きます。</p> <p>複雑な式を追加できるのは、役割に [高度なフィールド管理] 権限が含まれている場合のみです。このフィールドには、最大で 1024 文字の式を含めることができます。デフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の結果はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。また、Expression Builder で関数に渡される文字列または数値リテラルは 75 文字を超えてはなりません。</p> <p>このフィールドにデフォルト値を直接入力する場合、デフォルト値の文字数はそのフィールドタイプの許容最大文字数を超えてはなりません。数値タイプのフィールドの場合、値はフィールドの値範囲内に収まっている必要があります。</p> <p>デフォルト値の設定の詳細は、「フィールド管理について 『63ページ』」を参照してください。式で使用できる構文については、「Expression Builder 『582ページ』」を参照してください。</p>
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、そのフィールドが読み取り専用になります。
コピー有効	このチェックボックスをオンにすると、レコードの詳細ページにある [レコー

フィールド	コメント
	<p>ドのコピー] ボタンを使用してレコードタイプをコピーするときに、このフィールドをコピーできます。</p>
デフォルトをポスト	<p>このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合のみ表示されます。</p> <p>新規レコードの作成時に、フィールドにデフォルト値が自動的に入力されないようする場合は、このチェックボックスをオンにします。ユーザーまたは統合ツールから値が提供されない場合にのみ、指定したデフォルト値がレコードの保存時に設定されます。</p> <p>注：チェックボックスフィールドに対して事後デフォルトを選択することはできません。</p>
フィールド検証	<p>このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合のみ表示されます。</p> <p>式を直接入力するか、または [fx] アイコンをクリックして [Expression Builder] ウィンドウを開きます。</p> <p>このフィールドには、1024 文字まで入力できます。</p> <p>フィールド検証の詳細は、「フィールド管理について『63ページ』」を参照してください。また、式に使用できる構文については、「Expression Builder『582ページ』」を参照してください。</p>
フィールド検証エラーメッセージ	<p>このフィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている場合のみ表示されます。</p> <p>フィールドの検証に失敗した場合に標準メッセージに追加して表示する、カスタムエラーメッセージを入力します。このメッセージで使用できるのは、文字、数字、スペース、およびカンマ、ピリオド、ダッシュの記号のみです。</p> <p>エラーメッセージの表示は、カスタムエラーメッセージを指定した場合と指定しなかった場合とで異なり、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フィールド検証が設定され、カスタムメッセージが指定されていない場合：'[フィールド]'に入力された値は、企業の管理者によって設定された検証ルールを満たしません。検証条件は'[ルール]' (エラーコード) です。 ■ フィールド検証が設定され、カスタムメッセージが指定されている場合：[カスタムエラーメッセージ] (エラーコード) です。

1 [保存] をクリックします。

追加した新しいフィールドは、括弧で囲まれた青いテキストの形式で自動的に表示され、[翻訳] チェックボックスの設定に関係なく他の有効な言語で表示されます。

2 新しい名前またはフィールド検証エラーメッセージの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。

a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。

b 翻訳したものを適切な[表示名] フィールドまたは[フィールド検証エラーメッセージ] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。

- c リンクをクリックして更新したフィールドページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。

翻訳した名前が「表示名」カラムに黒いテキストで表示されます。

注:Oracle CRM On Demand Answers ユーザーの言語がカスタムフィールド作成時の言語と異なる場合に、カスタムフィールドを Oracle CRM On Demand に表示するには、カスタムフィールドを該当する言語に翻訳する必要があります。たとえば、英語で作成されたカスタムフィールドは、ドイツ語に翻訳されない限り、ドイツ語のユーザーの Oracle CRM On Demand Answers に表示されません。

「翻訳」をオンにすると、他のすべての言語の「表示名」と「フィールド検証エラーメッセージ」の両方が上書きされます。

- 3 ピックリストまたは複数選択ピックリストを作成した場合は、次の操作を行います。

- a カスタムフィールドの「ピックリストを編集」リンクをクリックします。
- b 「ピックリスト値」ボックスで、各値を個別の行に入力します。
- c レコードを保存します。

注: ここで、フォーム（編集、詳細、および作成の各フォーム）に表示されるように、新たに作成したカスタムフィールドを公開する必要があります。デフォルトでは表示されません。カスタムフィールドを表示するには、必要に応じて新しいページレイアウトを作成し、そのフィールドを表示する必要がある各役割に割り当てられるようにします。

コピー有効設定の管理

Oracle CRM On Demand の多くのレコードタイプにはコピー機能があり、ユーザーは使用中のレコードをコピーできます。

注: 「レコードのコピー」ボタンを使用した場合、基本レコードのみがコピーされ、関連する項目の子レコードはコピーされません。

コピー機能の使用時には次の制限事項が適用されます。

- Web リンク、システムフィールド、住所フィールド、計算結果フィールドおよび参照フィールドはコピーできません。これらの項目については、「コピー有効」チェックボックスを使用できません。
- 読み取り専用フィールドはコピーできません。読み取り専用フィールドとは、項目の設定またはレイアウトで読み取り専用フィールドとして設定されたフィールドのことです。
- ユーザーのフォームレイアウトで使用できないフィールドはコピーできません。

このトピックでは、Oracle CRM On Demand のレコード詳細ページの「コピー」ボタンでフィールドにコピー機能を指定する方法について説明します。

「コピー」ボタンでフィールドにコピー機能を指定するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。
- 3 「レコードタイプセットアップ」セクションで、コピー機能を有効にするレコードタイプをクリックします。
- 4 「フィールド管理」セクションで、レコードタイプフィールドの設定リンクをクリックします。

指定したレコードタイプフィールドのフィールドリストが表示されます。

- 5 編集するフィールドを探し、[編集] リンクをクリックします。

注：アソシエーションをコピーする場合、アソシエーション ID ではなく、アソシエーションピックリストを選択する必要があります。アソシエーションピックリストを [コピー有効] に設定すると、このアソシエーションに関連するすべてのフィールドが自動的にコピーされます。

- 6 [コピー有効] チェックボックスをオンにします。

- 7 [保存] をクリックします。

これらの変更は Oracle CRM On Demand に次回ログインしたときに有効になります。

カスタムフィールドの統合タグの設定

カスタムフィールドの統合タグは、記号的にタグを示すものであり、言語に依存しません。また、各カスタムフィールドに割り当てられます。これらのタグは、[Web サービス] (WSDL ファイルの生成時に使用) および [Web リンク] のカスタムフィールドパラメータによって使用されます。統合タグを使用して、管理者は各カスタムフィールドに意味のある統合名を設定できます。統合名は統合コンポーネントによって使用されるため、既存の統合に影響を与えることなく、ラベル名を変更できます。統合タグはエンドユーザーには表示されません。

Expression Builder では統合タグが使用されます。このため、それらのタグはワークフロールールとフィールドの作成時にも使用されます。ワークフロールールの詳細については、「[ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』」を参照してください。フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

注意：統合タグは設定後に変更しないでください。変更した場合、統合タグを参照するテクノロジーでそれらの参照が失われるおそれがあります。

カスタムフィールドの統合タグを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、[フィールド名を変更] をクリックします。
- 6 [フィールド名を変更] ページで、[詳細] ボタンをクリックします。
- 7 統合タグを更新します。

ヒント：統合タグについては、このカスタムフィールドを簡単に識別できるような短くてわかりやすい名前を使用してください。統合タグは、Web サービス、Web リンク、およびその他の統合テクノロジー (Web サービスの WSDL ファイル、および Web リンクの URL パラメータ) によって参照されます。

Web リンクの設定

Web リンクは、Oracle CRM On Demand のレコード内に、外部 Web サイトまたは Web ベースのアプリケーションへのハイパーリンクを作成するためのカスタムフィールドです。Web リンクカスタムフィールドは、別の Web ページ、または Oracle CRM On Demand 内の別のページに移動するための便利な方法です。Web リンクカスタムフィールドはどんなレコードタイプからでも作成できます。たとえば、別のアプリケーションからの値で取引先詳細を更新する取引先レコードタイプの Web リンクフィールドを定義できます。他のカスタムフィールドと同様、Web リンクフィールドも、自分のユーザーに表示されるようにするには、自分のレコードページのレイアウトに追加する必要があります。

Web リンクは、別の Web サイトを簡単に開くように設定できます。また、Oracle CRM On Demand レコードの特定の情報を URL でパラメータとして渡すように Web リンクを設定することもできます。たとえば、取引先レコードの住所情報を、指定された住所の地図を提供する Web サイトに渡す Web リンクフィールドを作成することができます。この場合、ユーザーが取引先レコード上の Web リンクをクリックすると、取引先所在地の地図が表示されます。

特定の状況でのみ表示される Web リンクを設定できます。たとえば、Web リンクを表示する前に必要な条件を指定したり、編集ページにリンクが表示されないように、リンクを詳細ページにのみ表示されるように設定したりできます。

注：見込み客の変換時に、Web リンクフィールドの内容は新しいレコードに移行できません。

作業前の準備： Web リンクフィールドを設定するには、ターゲット URL の構文に精通している必要があります。

Web リンクを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 Web リンクフィールドがまだ存在していない場合には、「[フィールドの作成と編集](#)」『74ページ』で説明されているように、カスタム Web リンクフィールドを作成します。
- 6 [フィールド] ページで、カスタムフィールドの [Web リンクを編集] リンクをクリックします。
- 7 [Web リンクを編集] ページで、次のウィンドウプロパティを指定します。
 - a 表示名について、ハイパーリンクにラベル（表示名）を入力します。このラベルはレイアウト内でユーザーに表示されます。
 例：証券コードについてはここをクリックします。（このテキストは下線付きで表示されます）

 また、[テキストを表示] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーフィールド] リストまたは [(レコードタイプ) フィールド] リストを選択することにより、このフィールドに状況依存のパラメータを挿入できます。これにより、[テキストを表示] フィールドにフィールドパラメータ (%%%fieldname%%%で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。

注：表示テキストが長すぎてレイアウトに収まらない場合は、連結されます。また、変数の情報はすべて実行時に挿入されます。
 - b ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときの Oracle CRM On Demand の動作を選択します。

- **現在のウィンドウで開く。**現在のウィンドウにハイパーリンク先のページを開きます。現在の Oracle CRM On Demand セッションと置き換わります。
- **カスタム Web タブで開く。**カスタム Web タブでハイパーリンク先のページを開きます。[ターゲットカスタム Web タブ] リストから必要な Web タブを選択します。
- **新しいウィンドウで開く。**ハイパーリンク先のページを新しいウィンドウで開き、現在の Oracle CRM On Demand ウィンドウはそのままにします。ユーザーが新しいウィンドウを閉じたときに親ウィンドウを更新する場合は、[Parent Window Refresh (親ウィンドウの更新)] チェックボックスをオンにします。

- c Web リンクを詳細ページにのみ表示するか、編集ページにのみ表示するか、またはその両方に表示するかに応じて、[Display Options (表示オプション)] を、[詳細ページ]、[編集ページ]、または[両方]から選択します。

8 リンクプロパティを指定します。

- a [アクティブなリンク状態] に、詳細ページと編集ページ上で Web リンクをアクティブにするかどうかを制御する条件式を入力します。[アクティブなリンク状態] フィールドの隣の [fx] アイコンをクリックすると、式を入力できる式ビルダーが開きます。式の構文については、「[Expression Builder](#) [582ページ]」を参照してください。

たとえば、「[Revenue] > 10000」という式を入力した場合、Web リンクは、Revenue 値が 10000 を超えた場合のみ、アクティブになります。

式を入力しない場合、Web リンクは常にアクティブになります。式を入力して、条件が満たされない場合、Web リンクは表示されますが、無効になります。

- b [Display Link Condition (リンク表示条件)] に、詳細ページと編集ページに Web リンクを表示するかどうかを制御する条件式を入力します。

たとえば、「[Revenue] > 10000」という式を入力した場合、Web リンクは、Revenue 値が 10000 を超えた場合のみ、表示されます。

式を入力しない場合、Web リンクは常に表示されます。

以下の内容は、[Display Link Condition (リンク表示条件)] フィールドと [Active Link Condition (リンクアクティブ条件)] フィールドの式両方に当てはまります。

- **新しいページ。**表示条件式とアクティブ条件式は新しいページに対しては評価されません。これらはデフォルトで TRUE に設定されます。リンクを無効にする唯一の方法は、明示的に FALSE にすることです。
- **編集ページ。**表示条件式とアクティブ条件式はデフォルトで TRUE に設定されています。ただし、式ビルダーを使用して、新しい式を追加できます。

- c URL には、ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL (www.oracle.com など) を入力します。

注：また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーフィールド] リストまたは [(レコードタイプ) フィールド] リストを選択することにより、このフィールドに状況依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (%%%fieldname%%%で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。

URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。

注：各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超える URL を指定した場合、Web リンクをクリックすると、ブラウザでユーザーが予期しない動作が見られることがあります。

- 9 ユーザーフィールドについて、[ユーザーフィールド] リストからオプションを選択します。これにより、現在のカーソル位置に応じて [URL] または [テキストを表示] フィールドに、ユーザーパラメーターフィールドが挿入されます。

たとえば、リストから「ユーザーID」を選択した場合、カーソルの位置に応じて「URL」または「テキストを表示」フィールドに「%%%User id%%」が挿入されます。実行時、このパラメーターは、ログインしているユーザーのユーザーIDと置き換えられます。

- 10 record type** フィールドについて、パラメータを挿入する「URL」または「テキストを表示」フィールドにカーソルを置き、そのフィールドに挿入するフィールドをリストから選択します。

たとえば、「行 ID」を選択した場合、カーソルの位置に応じて「URL」または「テキストを表示」フィールドに「%%%Row id%%」が挿入されます。実行時、このパラメーターは、現在のレコードの行 ID と置き換えられます。

注： 斜体の *record type* という語はレコードタイプ名のプレースホルダーです。たとえば、*record type* は、Web リンクカスタムフィールドを追加するレコードタイプになります。たとえば、担当者レコードの Web リンクを編集している場合、このフィールドは「担当者フィールド」リストとして表示されます。

- 11** 「保存」をクリックします。

- 12** Web リンクフィールドを、レコードタイプページレイアウトに追加します。詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)『88ページ』」を参照してください。

Web リンクを使用した新しい統合シナリオの作成について

Web リンクカスタムフィールドを Oracle CRM On Demand に追加することにより、多くの新しい統合を実現できます。ユーザーインターフェイスに基づいて、ユーザーが Oracle CRM On Demand のコンテンツに直接アクセスするための社内システムおよび外部システムとの統合を作成できます。

いくつかの例を次に示します。

- 取引先の証券コードのシンボルに基づいて金融 Web サイトへのリンクを作成し、リンクをクリックすると、取引先の株式チャートが表示されるようにします。
- Web サービスを使用する内部システムへのリンクを作成し、リンクをクリックすると、現在の取引先に関連する社内および連携先からの複数の解決策のデータが複合ビューで表示されるようにします。

Web リンクの作成方法の詳細については、「[Web リンクの設定](#)『79ページ』」を参照してください。

フィールドの名前変更

従業員になじみの用語を使用するために、フィールドの名前を変更したい場合があります。たとえば、「取引先」フィールドの名前を「企業名」に変更できます。

注： 新しいフィールド表示名がレポートと分析に表示されるまで、30-60 分かかることがあります。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズ」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

フィールドの名前を変更するには

- 1** 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2** 「アプリケーションカスタマイズ」セクションで、「アプリケーションカスタマイズ」リンクをクリックします。

- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、[フィールド名を変更] をクリックします。
- 6 [表示名] カラムで、フィールドの名前を編集します。
- 7 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。

注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では（またはこのページの [翻訳] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は）、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。

[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。

また、[翻訳] チェックボックスをオンにすると、エラーメッセージが存在する場合は、フィールド検証エラーメッセージ（[フィールド編集] ページ）が翻訳対象としてマークされます。[フィールド検証エラーメッセージ] フィールドは、[高度なフィールド管理] 権限を含む役割が割り当てられているユーザーに対してのみ表示されます。

- 8 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
 - c リンクをクリックして更新したフィールドページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。
- 9 [保存] をクリックします。

インデックス付きカスタムフィールドの使用

Oracle CRM On Demand のパフォーマンスを最適化するために、特定のレコードタイプについて最適化されたカスタムフィールドを使用できます。インデックス付きカスタムフィールドと呼ばれる最適化されたこれらのフィールドは、特定のリストに対する検索や並べ替えの応答時間を短縮する特殊フィールドです。インデックス付きカスタムフィールドは、Oracle CRM On Demand データベースで事前設定されます。インデックス付きカスタムフィールドのラベルは変更できますが、統合タグは変更できません。

注： カスタムフィールドからインデックス付きカスタムフィールドにデータを移行できます。これにより、ユーザーのリストのパフォーマンスが向上します。既存のデータを使用可能なレコードタイプに移行するには、Oracle CRM On Demand のエクスポート/インポート機能、または Web サービスを使用します。データのエクスポートとインポートの詳細は、「[インポートツールとエクスポートツール](#)」を参照してください。Web サービスの詳細は、「[Web サービスの統合](#)」を参照してください。

インデックス付きカスタムフィールドにはデフォルトで「インデックス付き」というプレフィックスが付きます。次のレコードタイプでは、インデックス付きカスタムフィールドがサポートされていません。

- アセスメント
- ブック

■ ユーザー

次の表に、インデックス付きカスタムフィールドをサポートするレコードタイプを示します。

カスタムフィールドをサポートするレコードタイプ	
活動	製品
世帯	パートナープログラム
資金リクエスト	資金
ユーザー	車両サービス履歴
車両担当者	車両セールス履歴
車両	カスタムオブジェクト 1-3
キャンペーン受取人	車両
自動車ディーラー	製品カテゴリー
資産	メモ
アポイントユーザー	アポイント担当者
タスクユーザー	タスク担当者
アポイント、タスクおよび電話連絡	解決策
サービスリクエスト	見込み客
キャンペーン	医学教育イベント
商談担当者役割	商談製品売上
商談	製品
カスタムオブジェクト 1-3	担当者チーム
担当者	キャンペーン
コール提供プロモーションアイテム	製品詳細をコール
担当チーム	取引先
担当者最適時刻	

この表の各レコードタイプには、次のインデックス付きカスタムフィールドがあります。

- インデックス付きチェックボックス
- インデックス付き通貨
- インデックス付き日付
- インデックス付き数値
- インデックス付きピックリスト 1

- インデックス付きピックリスト 2
- インデックス付きピックリスト 3
- インデックス付きピックリスト 4
- インデックス付きピックリスト 5
- インデックス付きピックリスト 6
- インデックス付き長いテキスト
- インデックス付き短いテキスト 1
- インデックス付き短いテキスト 2

Oracle CRM On Demand のその他のすべてのレコードタイプには、次のインデックス付きカスタムフィールドがあります。

- インデックス付き数値
- インデックス付き日付
- インデックス付きチェックボックス
- インデックス付き通貨
- インデックス付きピックリスト 1
- インデックス付きピックリスト 2
- インデックス付きピックリスト 3
- インデックス付きピックリスト 4
- インデックス付きピックリスト 5

例外：すべてのカスタムオブジェクトの場合、一部のフィールドでは、前述の表のレコードタイプに対して別のネーミング規則を使用します。

- インデックス付きピックリスト 6 = タイプ
- インデックス付き短いテキスト 1 = クイック検索 1
- インデックス付き短いテキスト 2 = クイック検索 2
- インデックス付き長いテキスト = 名前

インデックス付きカスタムフィールドを使用するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ] をクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで [フィールド名を変更] をクリックし、インデックス付きカスタムフィールドの名前を企業に適した名前に変更します（「[フィールドの名前変更](#) 『81ページ』」を参照）。

設定をデフォルトに戻す

変更されたすべてのフィールド名を元の名前に戻すことができます（デフォルトに戻すオプションは、追加したカスタムフィールドやピックリスト値には影響を与えません。これらはデフォルト値には戻りません）。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

設定をデフォルトに戻すには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、[フィールド名を変更] ボタンをクリックします。
- 6 [初期値] ボタンをクリックします。

ピックリスト値の変更

フィールドによっては、ユーザーに事前定義値のドロップダウンリストが表示されるものがあります。このような値のリストをピックリストと呼びます。たとえば、サービスリクエストの場合は、[エリア] フィールドのピックリストとして [製品]、[インストール]、[保守]、[トレーニング] などの値が考えられます。

フィールドのピックリスト値の追加、編集、および順序変更ができます。ピックリストには、少なくとも 1 つの値が含まれている必要がありますが、ピックリストの値（有効な値と無効な値）の最大数は 1000 個です。

売上予想やレポート基準に使用されるピックリスト値は変更できません。ただし、アプリケーションの別のエリアに表示されるリストの基礎として使用される他のピックリスト値は変更ができます。これらの標準のリストでは、ピックリスト値の名前を変更しても、アプリケーションは基準を満たすレコードを含めます。詳細は、「[フィールド、ピックリスト、基準について](#)」『133ページ』を参照してください。

新しいピックリストを作成すると、そのピックリストでは、<値なし>という初期値が自動的に使用可能になります。実際の値がリストに追加される前にページレイアウトにフィールドが追加された場合は、この値を使用してピックリストに値が存在しないことがユーザーに通知されます。デフォルトの<値なし>オプションは、カスタム値がピックリストに追加されるとピックリストに表示されなくなります。

注意：デフォルトの<値なし>値は、新しいピックリストまたはカスケード式ピックリストの一部として使用しないでください。この方法で値を使用すると、Oracle CRM On Demand 内でエラーが発生する可能性があります。ピックリストで<値なし>オプションを継続して使用する場合は、このオプションをカスタム値として追加する必要があります。

既存のピックリスト値の名前は、変更したり再利用しないことをお勧めします。かわりに、古いピックリスト値を無効にし、新しいピックリスト値を作成して、インポートまたは大量更新（または Web サービス）を実行することによって、すべてのレコード値を新しいピックリスト値に変更します。ピックリストの値を変更する場合は、各レコードの値が更新および変更されていることを確認する必要があります。これは、Oracle CRM On Demand には、この機能が自動的に実装されていないためです。

注: Oracle CRM On Demand (標準アプリケーション) では、タスクの優先順位はタスクリストの矢印によって表されます。上向矢印は、[1 - 高] の優先順位を表します。矢印なしは、[2 - 中] の優先順位を表します。下向矢印は、[3 - 低] の優先順位を表します。

活動レコードの [優先順位] フィールドのデフォルトピックリスト値を変更すると、タスクリストの [優先順位] フィールドに矢印が表示されないことがあります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ピックリストを変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド管理] セクションで、必要なフィールドセットアップリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプフィールド] ページで、値をカスタマイズするフィールドの [ピックリストを編集] リンクをクリックします。

注: 専用コーディングであることから、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の [サンプルトランザクション] タイプのピックリスト、取引先訪問タイプのピックリスト、および [担当者コール] タイプのピックリストのカスタマイズはサポートされていません。

- 6 [ピックリストを編集] ウィンドウで、次の操作を行います。
 - 既存の値を変更するには、[ピックリスト値] フィールドに新しい値を入力するか、古い値を無効にして新しい値を作成します。

注: この更新した名前を他の有効な言語でピックリストに表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では、翻訳した名前を手動で入力するまでは、この更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。
[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、ここで行った変更が他のピックリスト値に反映されません。
 - 新しい値を追加するには、リストの一番下に表示される行に情報を入力します。

続けて新しい値を追加するには、[保存&新規作成] をクリックします。

追加した新しいピックリスト値は、括弧で囲まれた青いテキストとして他の有効な言語で自動的に表示されます（[翻訳] チェックボックスの設定にかかわらず）。
 - 値を削除するには、[無効化] チェックボックスをオンにします。無効化された値の表示と非表示を切り替えるには、それぞれ [無効な項目を表示する]、または [無効な項目を非表示にする] をクリックします。

注意: 値を無効にする場合は、他の言語に翻訳した値も非表示にします。
 - ピックリスト値の表示順序を変更するには、[順序] カラムの数字を変更します。

ヒント: 10、20、30 など、間隔のあいた数字を入力することをお勧めします。これにより、ピックリスト全体で値の順序を変更しなくても、ピックリスト内の途中で新しい値を簡単に追加できるようになります。
 - ピックリスト値をアルファベット順に並べるには、[保存&アルファベット順に並べ替え] ボタンをクリックします。

7 [ピックリストを編集] ウィンドウで、[保存&閉じる] をクリックします。

8 新しいピックリスト値の翻訳を手動で入力するには

- a [項目] ページで、[翻訳言語] ドロップダウンリストから言語を選択します。
- b 適切な [ピックリストを編集] リンクをクリックします。
- c 翻訳した値を入力し、[保存] をクリックします。

注：編集時にピックリスト値を識別しやすくするために、アプリケーションは内部 ID と言語固有のデフォルト値を表示します。間違ったピックリスト値を編集すると、言語間でピックリストが一致しくなくなります。

関連項目レイアウトのカスタマイズ

ページのレイアウトをカスタマイズして、Oracle CRM On Demand の外観を向上することもできます。関連項目のレイアウト機能によって、チームを除くほとんどのレコードタイプの関連リストのレイアウトをカスタマイズして指定したフィールドを表示できます。フィールドは、関連リストおよびいくつかの親フィールドから選択できます。表示するフィールドを選択し、ビジネスニーズを満たすようにフィールドの順序を指定できます。ただし、表示する行数および並べ替えフィールドを指定することはできません。

作業前の準備：次の手順を実行するには、アプリケーションをカスタマイズする権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

次の手順では、関連項目のレイアウトをカスタマイズする方法について説明します。

関連項目のレイアウトをカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト管理] セクションで、選択したレコードタイプの [Related Information Layout (関連情報レイアウト)] リンクをクリックします。

[Related Information Section (関連情報セクション)] ページが表示されます。

- 5 [Related Information Setup (関連情報セットアップ)] で、カスタマイズする関連情報の種類を選択します。

選択した関連情報タイプの [Related Information Layout (関連情報レイアウト)] ページが表示されます。

注：[Related Information Setup (関連情報セットアップ)] セクションの項目は、選択したレコードタイプによって異なります。

- 6 次の該当する操作を行います。

- [編集] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト] をクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [コピー] をクリックして、既存のレイアウトをコピーします。

関連情報レイアウトウィザードが表示されたら、その指示に従って手順を完了します。

- 7 [ステップ 1: レイアウト名] で、レイアウトの名前と説明を入力し（オプション）、[次へ] をクリックします。
- 8 [Step 2 Field Setup (ステップ 2 - フィールドセットアップ)] で、使用可能フィールドリストからフィールドを選択し、選択済みフィールドリストの横の上向き矢印と下向き矢印をクリックして目的の順序でフィールドを編成します。
- 9 [終了] をクリックします。

静的ページレイアウトのカスタマイズ

ユーザーに採用されるためには、アプリケーションが適切な外観や操作性を備えていることが重要です。そのためには、ページレイアウトをカスタマイズすることも 1 つの方法です。カスタマイズプロセスの一環として、次の操作を行えます。

- 編集、詳細、および作成の各フォームにカスタムフィールドを追加する。
- 編集および作成フォームのフィールドを必須にする。
- 詳細フォームにセクションを追加したり、セクションを非表示にしたりする。

従業員に対してセクションを使用不可（非表示）にすることができます。または、使用可能にするが、最初は非表示にすることもできます。

ページレイアウトをカスタマイズする方法は 2 種類あります。個々のフィールドを役割別に定義する静的ページレイアウト、または作成するレコードのタイプに応じて変わる動的ページレイアウトを定義することができます。動的ページレイアウトを役割別に割り当てることもできます。

注:Oracle Contact On Demand では、電子メール、ボイスメール、およびコール用のページレイアウトを作成できます。動的レイアウトは Oracle Contact On Demand でサポートされていません。

レコードタイプごとに新しいレイアウトを作成してから、各レコードタイプのページレイアウトをユーザー役割に割り当てることができます。その役割を割り当てられたユーザーがサインインすると、各レコードタイプに固有のカスタマイズされたレイアウトが表示されます。たとえば、商談に対して 2 つのページレイアウトを作成できます。1 つはサービス要員向けの簡略化されたレイアウトで、これには最重要フィールドのみが表示されます。もう 1 つはフィールドセールス要員向けのレイアウトで、これにはより多くのフィールドが表示されます。作成したレイアウトは役割に応じて割り当てることができます。サービス要員またはフィールドセールス要員の役割が割り当てられていないユーザーには、引き続きデフォルトのレイアウトの[商談] ページが表示されます。もう 1 つの例として、担当者に対して 2 つのページレイアウトを作成し、サービス要員が新しい担当者を追加するときには[取引先] フィールドを必須フィールドとして、サービス管理者が新しい担当者を追加するときには必須フィールドとしないようにすることができます。

特定の役割についてレコードタイプにカスタムページレイアウトを割り当てないと、そのレコードタイプにはデフォルトのページが使用されます。

ページレイアウトのカスタマイズでは、次のことを指定できます。

- ページに表示するフィールド
表示するカスタムフィールドをページレイアウトに追加する必要があります。追加したカスタムページレイアウトが割り当てられた役割を持つユーザーには、編集ページ、詳細ページ、および作成フォーム（アクションバー）にそのフィールドが表示されます。
- ページ上でのフィールドの表示位置
- 必須のフィールド
- 読み取り専用にするフィールド

■ 詳細ページの「関連情報」セクションに表示するリンク先のレコードタイプ

たとえば、リンクされた担当者を「取引先詳細」ページに表示することができます。

■ 表示するページセクションの数と各セクションの見出し

標準レイアウトのコピーは可能ですが、編集したり削除したりすることはできません。カスタムレイアウトは、すでに役割や動的レイアウトに割り当てられていない限り、削除できます。

ページレイアウトのフィールドに関する考慮事項

ページレイアウトを設計する際は、次の事項を考慮してください。

- レポートや売上予想の計算のために重要なレコードフィールドがいくつかあります。これらのフィールドの使用を徹底するため、フィールドに必須のフラグが付けられています。ページレイアウトをカスタマイズするとき、これらのフィールドの必須フラグを変更することはできません。また、ページレイアウトからこれらのフィールドを削除することもできません。
- ページレイアウトからフィールドを削除すると、レコードの使用法に重大な影響を及ぼす可能性があります。たとえば、解決策レコードから「状態」および「発行」フィールドを削除すると、そのページレイアウトを持つ従業員は、解決策を承認したり、他の従業員に解決策の使用を許可したりできなくなります。
- 住所はグループ化され、フィールドとフィールドのラベルが各国の命名規則を反映するようになっています。したがって、一部のレコードタイプについては、住所の各行を分割することはできません。そのかわり、住所の行のグループ（1つの住所オプション）を含んでいるフィールドを選択する必要があります。このオプションは、以前のリリースで選択できた個人のフィールド（市区町村、番地、郵便番号など）に置き換わるものです。たとえば、見込み客について、「請求」フィールドはページレイアウトウィザードの「項目の設定」および「項目レイアウト」のステップで表示されます。「請求」フィールドは「請求先住所」のすべてのフィールドを含んでいます。

ページレイアウトおよびリスト

ユーザーが検索できるフィールド、リストに表示できるフィールド、およびエクスポートできるフィールドは、ページレイアウトと役割権限を使用して制限できます。ユーザーがレコードリストの作成や絞り込みを行い、高度な検索を使用してレコードを検索する際は、そのユーザーの役割に割り当てられている権限とページレイアウトによって、検索および表示できるフィールドが決まります。

ユーザーの役割に対して「[[検索]および[リスト]のすべてのフィールド」権限が有効な場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで使用可能なすべてのフィールドを検索できます。また、リストを作成または絞り込む場合、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。

注：企業の管理者が、「[[検索]および[リスト]のすべてのフィールド」権限をユーザー役割の多くで使用可能にしないことをお勧めします。その権限が使用可能でない場合、企業で使用しないフィールドは検索およびリストのページに表示されません。これにより、不要な情報が削減され、ユーザーが最も必要なフィールドを表示することが容易になります。

ユーザーの役割に対して「[[検索]および[リスト]のすべてのフィールド」権限が無効な場合は、次の基準を両方とも満たす場合のみ、フィールドを検索できます。

- レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで、フィールドが使用可能であること。
- 該当するレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた「詳細」ページレイアウトにフィールドが表示されていること。役割に動的ページレイアウトが定義されている場合は、少なくともその動的ページレイアウトの1つにフィールドが表示されている必要があります。

また、リストを作成または絞り込む場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた（動的ページレイアウトを含む）少なくとも1つの「詳細」ページレイアウトにフィールドが表示されている場合のみ、ユーザーは、

検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。この制約は、リスト内のエクスポートできるフィールドにも影響します。ユーザーの役割で [リスト - 表示されたフィールドのエクスポート] 権限が有効で、[リスト - すべてのフィールドのエクスポート] 権限が無効の場合は、リストに表示されているフィールドのみエクスポートできます。ユーザーはリスト内のレコードのすべてのフィールドをエクスポートすることはできません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ページレイアウトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。
- 5 [ページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。

- 既存のレイアウトの [編集] リンクをクリックして、そのレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [コピー] リンクをクリックして、既存のレイアウトをコピーします。

ページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。

注: ページレイアウトウィザードのステップの数は、クリックした [ページレイアウト] リンクによって異なります。

- 6 [ステップ 1: レイアウト名] で、レイアウトの名前と説明を入力します（説明はオプションです）。
- 7 [ステップ 2: フィールド設定] で、フィールドの特徴を選択します。

必須にするフィールドの [必須] チェックボックスをオンにします。

読み取り専用にするフィールドの [読み取り専用] チェックボックスをオンにします。

注意: ページレイアウトから必須フィールドを削除しないでください。削除すると、そのレイアウトを使用するユーザーが、そのタイプのレコードを作成したり編集したりできなくなります。

- 8 [ステップ 3: フィールドレイアウト] では、次の操作を行えます。
 - [レコードタイプ使用可能項目] リストから [レコードタイプページレイアウトを配置] エリアの各種セクションにフィールドを移動します。

フォームに追加するカスタムフィールドおよび業種固有のフィールドを必ず移動してください。
 - 情報を並べ替えます。

注: これらの変更は、該当する役割が割り当てられたユーザーがページを表示したときに、そのレコードタイプのすべてのフォームに影響を与えます。一部のフィールドはフィールドのグループまたは複数行のフィールドを含んでいます。これらのフィールドは、含まれる情報自体が最終的なレイアウトの他のフィールドと重複することがあるので、移動しないでください。この理由により、[説明] などの複数行のテキストフィールドも移動できません。

アプリケーションは、国ごとに固有のフィールドを提供する住所テンプレートを使用します。詳細は、「[国と住所のマッピングについて](#) [『351ページ』](#)」を参照してください。

9 [ステップ 4: 関連情報] では、次の操作を行えます。

- 詳細ページに表示されるセクションを追加または削除します。これらのセクションは、ユーザーが現在のレコードにレコードをリンクできるエリアです。

たとえば、従業員が製品を商談にリンクできないようにするには、[製品] セクションが [表示する情報] ボックスまたは [使用可能情報] ボックスに表示されていないことを確認します。

注: ユーザーは、これらのデフォルト設定を、アプリケーションの [詳細] ページにある [レイアウトを編集] リンクを通じて変更できます。ユーザーが個人レイアウトを編集すると、それ以降に企業の管理者が関連情報に対して行った新たな変更は、ユーザーがレイアウトをもう一度編集するまで反映されません。

- 詳細ページのセクションの順序を変更します。

注: これらの変更は、該当する役割が割り当てられたユーザーがページを表示したときに、そのレコードタイプの詳細ページに影響を与えます。

10 [ステップ 5: 関連情報レイアウト] で、ページの関連情報セクションごとに該当する関連情報レイアウトを選択します。

注: 各関連情報セクションのデフォルトレイアウトは、標準的なレイアウトです。カスタム関連情報レイアウトをすでに作成している場合、リストからそれらのレイアウトを選択できます。関連情報レイアウトの作成の詳細については、「[関連項目レイアウトのカスタマイズ](#) [『87ページ』](#)」を参照してください。

11 [終了] をクリックします。

12 必要に応じて、このレコードタイプのページレイアウトをユーザー役割に割り当てます（「[役割の追加](#) [『207ページ』](#)」を参照）。

フィールドセクションタイトルの名前変更

レコードの編集および詳細ページでは、フィールドはセクションにグループ化されています。ユーザーが使い慣れた用語を使用するために、編集および詳細ページでフィールドのグループの上に表示されるタイトルの名前を変更できます。[取引先ホームページ] では、たとえば、[主要取引先情報] を [取引先プロフィール] に変更できます。

標準レイアウト内のセクションの名前を変更することはできません。カスタムレイアウトを作成し、そのレイアウト内でセクションの名前を変更する必要があります。

フィールドのないセクションは、詳細ページには表示されません。

作業前の準備: 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

セクションの名前を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。

- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプページレイアウト] ページで、[セクションを編集] をクリックします。
- 6 [翻訳言語] ドロップダウンリストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 7 [表示名] に、使用する名前を入力します。
- 8 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。

注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では（またはこのページの [翻訳] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は）、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。
[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。
- 9 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
 - c リンクをクリックして更新したフィールドページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

Web アプレットの作成

ホームページまたはレコードタイプの [詳細] ページに表示されるカスタム Web アプレットを作成して、外部 Web コンテンツを埋め込むことができます。

Web アプレットを作成したら、ホームページまたは [詳細] ページのページレイアウトに追加する必要があります。そのページレイアウトをユーザーに表示するには、適切なユーザー役割に割り当てる必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] および [カスタム Web アプレットの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

新しい Web アプレットを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト管理] セクションで、必要な [レコードタイプ Web アプレット] リンクをクリックします。
- 5 [レコードタイプアプレット] リストで、[新規] をクリックします。

6 [Web アプレット] ページで、次のフィールドを入力します。

フィールド	コメント
名前	名前を入力します。名前フィールドの値が、[関連情報] セクションのタイトルバーに表示されます。
場所	外部コンテンツをホームページに表示するか、[詳細] ページに表示するかどうかに応じて、[ホームページ] または [詳細] ページを選択します。

次に、「[カスタム Web アプレットの作成](#) 『111ページ』」で説明したように、必要なアプレットのタイプに応じてフィールドに情報を入力します。

Web アプレットを表示可能にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ページレイアウト] セクションで、必要なページレイアウトリンクをクリックします。

5 [ページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。

- [編集] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト] をクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [コピー] をクリックして、既存のレイアウトをコピーします。

ページレイアウトウィザードが表示されたら、プロセスに従います。

注: ページレイアウトウィザードのステップの数は、クリックした [ページレイアウト] リンクによって異なります。
[ステップ 1: レイアウト名] で、レイアウトに名前と説明があることを確認します (説明はオプションです)。

6 [ステップ 4: 関連情報] で、次の操作を行います。

- a 新しいカスタム Web アプレットを、[使用可能情報] リストから [表示する情報] リストに移動します。
- b 必要に応じて、上矢印と下矢印をクリックして新しいカスタム Web アプレットを配置します。
- c [終了] をクリックして新しいレイアウトを作成します。

7 必要に応じて、ページレイアウトをユーザー役割に追加します (「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照)。

関連トピック

次のトピックでは、Twitter RSS フィードを表示する Web アプレットの作成例を説明します。

- [RSS フィード Web アプレットの設定例](#) 『118ページ』

カスケード式ピックリストの定義

カスケード式ピックリストは、あるピックリスト（関連ピックリスト）の値を、別のピックリスト（親ピックリスト）で選択された値に基づいて制限します。たとえば、親ピックリストがサービスリクエストカテゴリーのリストを提供し、サブカテゴリーという名前の関連ピックリストの値が制限される場合があります。たとえば、ユーザーがインストールという値をカテゴリーとして選択すると、サブカテゴリーのピックリストの動作が制限されて、インストールカテゴリーに関連付けられているピックリスト値のみ表示されます。

複数のピックリスト（事前定義ピックリストフィールドとカスタムピックリストフィールドの両方を含む）を、カスケード式ピックリストとしてリンクすることができます。また、カスケード式ピックリストはネストできるため、あるカスケード式ピックリスト定義の関連ピックリストを別のカスケード式ピックリスト定義の親ピックリストにすることもできます。

作業前の準備：カスケード式ピックリスト定義を作成するには、親ピックリストと関連ピックリストが存在していなければなりません。ピックリストの作成の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#)」『74ページ』を参照してください。次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスケード式ピックリスト定義を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [カスケード式ピックリスト] セクションで、必要な [カスケード式ピックリスト] リンクをクリックします。

表示されるレコードタイプには、カスタムピックリスト値を持つ親レコードタイプと、関連レコードタイプが含まれます。たとえば、商談の場合は、商談パートナーのリンクと商談競合会社のリンクがあります。

- 5 [カスケード式ピックリスト] ページで、次のいずれかの操作を行います。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のカスケード式ピックリスト定義を変更します。
 - [新規] ボタンをクリックして、新しいカスケード式ピックリスト定義を作成します。

カスケード式ピックリストウィザードの指示に従って手順を完了します。

- 6 [ステップ 1：ピックリストを選択] で、親ピックリストと関連ピックリストを選択します。
- 7 [ステップ 2：値を選択] では、次の操作を行えます。
 - 親ピックリストの値と関連ピックリストの値の間の既存の関連付けを表示します。[親ピックリスト使用可能値] リストから値を選択すると、関連ピックリストの使用可能値が [関連ピックリスト使用可能値] リストに示され、表示される値が [関連ピックリスト表示値] リストに示されます。[関連ピックリスト表示値] リストに値がない場合は、親ピックリスト中の対応する値が選択されると、関連ピックリスト中のすべての値が表示されます。
 - 新しい関連付けを作成します。目的の値を、[関連ピックリスト使用可能値] から [関連ピックリスト表示値] に移動します。
 - 既存の関連付けを削除します。[関連ピックリスト表示値] から [関連ピックリスト使用可能値] に値を移動します。
- 8 [ステップ 3：確認] で、親ピックリスト値ごとの関連ピックリスト値の選択を確認して [終了] をクリックすると、親ピックリストと関連ピックリストの間のカスケード関係の定義を完了できます。

ウィザードで [終了] をクリックすると、現在のレコードタイプの [カスケード式ピックリスト] リストに戻ります。

[終了] をクリックし、カスケード式ピックリスト定義をページレイアウトに追加すると、そのレイアウトを含むすべての役割に対して、追加された定義が有効化されます。

検索レイアウトの管理

ほとんどのレコードタイプでは、レコードの検索時にユーザーが使用できるフィールド（標準フィールドとカスタムフィールドの両方）を指定できます。さらに、検索結果ページに表示されるフィールドを指定することもできます。検索レイアウトに検索フィールドを指定し、必要に応じて各レコードタイプの検索レイアウトをユーザー役割に割り当てます（「[役割の追加](#) [207ページ]」を参照）。

既存の検索レイアウトをコピーしてから、それを要件に合わせて変更することも、既存の検索レイアウトを編集することもできます。デフォルトの検索レイアウトは読み取り専用です。デフォルト検索レイアウトはコピー可能ですが、削除したり編集したりすることはできません。検索に使用するフィールドおよび検索結果に表示するフィールドを指定するには、検索レイアウトウィザードを使用します。

注意：ユーザーのレコードタイプの検索レイアウトを作成または編集するときは、[上司] フィールドおよび[上司 (エイリアス)] フィールドの両方を同じ検索レイアウトに追加しないでください。検索レイアウトでこの両方のフィールドを使用可能にすると、その検索レイアウトを使用する検索は失敗します。[上司] および[上司 (エイリアス)] フィールドの詳細は、「[ユーザーレコードの \[上司\] および \[上司 \(エイリアス\)\] フィールドについて](#) [152ページ]」を参照してください。

[ルックアップ] ウィンドウの動作の管理

検索レイアウトウィザードを使用して、Oracle CRM On Demand のスマート関連付け機能で使用するルックアップウィンドウの動作を管理することもできます。スマート関連付け機能は、取引先、担当者、商談、活動などの様々なレコードタイプの相互関連付けを容易にします。

スマート関連付けでは、関連付けられたレコードの名前をユーザーが入力すると、Oracle CRM On Demand は自動的に関連付けを解決しようとします。たとえば、タスクの作成時に[取引先] フィールドに取引先名を入力できます。そのフィールドを保存すると、Oracle CRM On Demand によって一致する取引先が自動的に検索されます。固有の一致が見つかった場合は、該当する取引先が使用されます。一致するレコードが見つからないか、または複数のレコードが候補として見つかった場合は、表示された[ルックアップ] ウィンドウでさらに検索を実行し、適切な取引先を選択できます。この自動解決機能を使用するかわりに、[ルックアップ] アイコンをクリックして直接[ルックアップ] ウィンドウを開くこともできます。スマート関連付けの詳細は、「[選択したレコードへのレコードのリンク](#)」を参照してください。

各レコードタイプの[ルックアップ] ウィンドウの動作の設定には、次のオプションを使用できます。デフォルトの検索レイアウトでは、これらのオプションはすべてオンになります。

- **ルックアップウィンドウをデフォルトフィールドで設定します。** このオプションをオンにした場合は、デフォルトの検索レイアウトのフィールドが使用されます。
- **ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示。** このオプションをオンにした場合は、[ルックアップ] ウィンドウを開くと使用可能なレコードが一覧表示されます。このオプションをオフにした場合は、[ルックアップ] ウィンドウを開いてもレコードは表示されません。

注：企業に対してマネージャ表示が有効になっている場合、一部の[ルックアップ] ウィンドウでレコードリストへの挿入速度が遅くなり、[ルックアップ] ウィンドウがタイムアウトすることもあります。タイムアウトを防止するには、[ルックアップ] ウィンドウに関連付けられているレコードタイプの[ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示] チェックボックスをオフにします。その後、[ルックアップ] ウィンドウにはレコードが表示されなくなり、ユーザーが検索条件を指定して目的のレコードを検索できます。

- **自動解決有効。** このオプションを選択した場合、スマート関連付けが自動的に解決されます。このオプションをオフにした場合、スマート関連付けは自動的に解決されないため、ユーザーは[ルックアップ] アイコンをクリックして[ルックアップ] ウィンドウを使用する必要があります。

- **ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示。**このオプションをオンにすると、レコードタイプに1つ以上のコンテキスト依存リストがある場合は、[ルックアップ]ウィンドウの左上隅のレコードタイプの[リスト]フィールドに、すべてのコンテキスト依存リストが他のリストより前に表示されます。コンテキスト依存リストには、ユーザーが必要とする可能性が高いレコードが含まれます。コンテキスト依存リストの例および詳細は、「ルックアップウィンドウでのレコードの検索」を参照してください。

作業前の準備。検索レイアウトを管理するには、[アプリケーションをカスタマイズ]権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

次の手順では、検索レイアウトを作成または変更する方法について説明します。

検索レイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ]セクションで、[アプリケーションカスタマイズ]リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ]セクションで、検索レイアウトを作成または変更するレコードタイプをクリックします。
- 4 [レコードタイプアプリケーションカスタマイズ]ページで、[レコードタイプ検索レイアウト]リンクをクリックします。
- 5 [検索レイアウト]リストで、次の該当する操作を行います。

- [編集]または[コピー]をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
- [新規レイアウト]ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- [削除]をクリックして、現在どの役割にも割り当てられていない既存のレイアウトを削除します。

検索レイアウトウィザードの指示に従って手順を完了します。

- 6 ステップ1の[レイアウト名を定義]で、名前（および必要に応じてレイアウトの説明）を入力または変更します。
- 7 [次へ]をクリックします。

ステップ2の[検索フィールドの指定]には、次の3つのリストがあります。

- **使用不可検索フィールド。**このリストには、検索に使用できないフィールドがすべて表示されます。デフォルトでは、このリストは空です。
- **ターゲット検索フィールド。**このリストには、ターゲット検索に使用可能なフィールド、およびアクションバーのレコードタイプの[ターゲット検索]アプレットに表示されるフィールドがすべて表示されます。[ターゲット検索]アプレットには、最大7つのフィールドを表示できます。したがって、リストに8つ以上のフィールドを追加すると、次の状況が発生します。
 - エラーメッセージが表示されます。
 - 選択したフィールドは、[高度な検索]基準フォームの事前入力デフォルトフィールドとして使用できます。
 - 選択したフィールドは、リストを作成または絞り込む際のフィルタ基準の事前入力デフォルトフィールドとして表示されます。
 - 選択したフィールドは、検索可能なフィールドのセットとして[ルックアップ]ウィンドウに表示されます。

「ターゲット検索フィールド」リストには、フィールドを指定する必要はありません。フィールドが指定されていない場合、レコードタイプは「ターゲット検索」アプレットには表示されません。「ターゲット検索」から不要なレコードタイプを排除することで、レコードタイプをより速く検索できます。

- **追加検索フィールド。**このリストには、ターゲット検索に使用できない一方で、その他の検索（高度な検索など）には使用できるフィールドが表示されます。

インデックス付きフィールドは緑で表示されます。大文字小文字が区別されないインデックス付きフィールドは青で表示されます。

注：最適なパフォーマンスが得られるように、検索フィールドを定義するときはインデックス付きフィールドを使用してください。「ターゲット検索フィールド」または「追加検索フィールド」のいずれかのリストに最適化されていないフィールドが含まれている場合は、警告メッセージが表示されます。

上向き矢印と下向き矢印をクリックしてリスト内のフィールドを配置し、右向き矢印と左向き矢印、または上向き矢印と下向き矢印をクリックして、リスト間でフィールドを移動します。リスト内のフィールドの順序は、アクションバーの「ターゲット検索」アプレット、および検索基準の各フォームで使用されます。

- 8 ステップ 2 で、フィールドを「使用不可検索フィールド」リストに移動し、必要な場合は、フィールドを「ターゲット検索フィールド」リストおよび「追加検索フィールド」リストに配置します。

注意：リスト内のカラムの数はパフォーマンスに影響を与える可能性があるため、リストへのフィールドの追加は慎重に実行してください。パフォーマンスはレコードタイプとフィールドタイプによって大幅に変わります。フィールドを追加するたびに、リストのロード時間が長くなる可能性があります。

- 9 「次へ」をクリックします。

ステップ 3 の「検索結果レイアウトを定義」には、次の 3 つのリストがあります。

- **使用不可検索結果フィールド。**このリストには、検索結果に表示されないフィールドがすべて表示されます。
- **ルックアップウィンドウ検索結果フィールド。**このリストには、「ルックアップ」ウィンドウの検索結果に表示されるフィールドが表示されます。このリストは最大 9 つのフィールドに制限されます。
- **その他の検索結果フィールド。**このリストには、「ルックアップウィンドウ検索結果フィールド」リストのフィールドに加え、「ルックアップ」ウィンドウの検索以外の検索結果に表示される特別なフィールドが表示されます。

「ルックアップウィンドウ検索結果フィールド」リストおよび「その他の検索結果フィールド」リストに表示できるフィールドの合計数は 20 個です（つまり、検索結果には 20 を超えるカラムは表示できません）。レコードの検索の詳細については、「レコードの検索」を参照してください。

- 10 ステップ 3 の「検索結果レイアウトを定義」で、フィールドを「ルックアップウィンドウ検索結果フィールド」リストおよび「その他の検索結果フィールド」リストに移動し、必要に応じて並べ替えます。

- 11 ルックアップウィンドウの動作の設定に必要な次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

- ルックアップウィンドウをデフォルトフィールドで設定します
- ルックアップウィンドウを開いたときに検索結果を表示
- 自動解決有効
- ルックアップウィンドウのデフォルトとしてコンテキスト依存リストを表示

- 12 「終了」をクリックします。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [関連項目 レイアウトのカスタマイズ](#) 『87ページ』
- [静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』
- [レコードホームページレイアウトの作成](#) 『101ページ』

リストアクセスおよびリスト順序の管理

各レコードタイプについて、役割ごとに使用できるリストと、そのレコードタイプのホームページにリストが表示される順序を指定できます。

新しいレイアウトは、まだカスタマイズしていない役割に対してのみ作成できます。既存のレイアウトの編集と削除も可能です。ユーザーのプライベートリストについては、リストアクセスとリスト順序を管理できません。

作業前の準備：

ここでのカスタマイズ内容が適用される役割を選択する必要があるため、この手順を開始する前に、すべての役割を設定しておきます。この手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と、[公開リストを管理する] および [役割管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

リストアクセスを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [リストアクセスと順序] セクションで、[レコードタイプ \[リストアクセスと順序\]](#) リンクをクリックします。
- 5 [リスト順レイアウト] ページで、次のいずれかの操作を行います。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
- 6 新しいレイアウトを作成する場合は、[役割名] ドロップダウンリストから役割を選択します。
ドロップダウンリストから選択できるのは、まだレイアウトに関連付けられていない役割だけです。
- 7 必要に応じて、[リスト（全件）] リスト、[この役割に使用可能なリスト] リスト、[短いリストで表示] リスト間でリストを移動します。
 - [リスト（全件）] には、現在のレコードタイプのリスト全件（個人用リストを除く）が含まれます。
 - [この役割に使用可能なリスト] には、選択した役割で使用可能なリストの全件が含まれます。
 - [短いリストで表示] には、レコードタイプのホームページの [リスト] セクションにあるリストと、レコードタイプビューのドロップダウンメニューのリストが含まれます。
- 8 必要に応じて、上下の矢印ボタンでリストの順序を並べ替えます。

9 「保存」をクリックします。

ホームページカスタムレポートの作成

組み込みレポートでもカスタムレポートでも、複数のレポートをレコードタイプのホームページに追加できます。この機能では、最適な情報をさまざまなユーザーに提供することができます。たとえば、顧客サービス要員のサービスリクエストホームページを設定して、カスタムサービスリクエストレポートを表示できます。

レコードタイプによっては、標準レポートがレコードタイプのホームページにデフォルトで表示されます。標準レポートを別のレポートに置き換えたり、レポートを追加することができます。さらに、デフォルトではレコードタイプのホームページにレポートが表示されないレコードタイプのホームページレポートを指定することもできます。

組み込みレポートまたはカスタムレポートをレコードタイプのホームページで使えるようにするには、まずレポートのホームページカスタムレポートレコードを作成します。レコードタイプのホームページレイアウトを作成または編集するとき、そのレコードタイプに作成したホームページカスタムレポートレコードが、ホームページレポートレイアウトウィザードの[使用可能なセクション] リストに示されます。その後、次のようにレポートをホームページレイアウトで使用可能にできます。

- レポートをホームページレイアウトに追加して、役割に [ホームページレイアウト] が含まれるどのユーザーでも、自分のレコードタイプのホームページにそのレポートが表示されるようにできます。
- レポートをレコードタイプのホームページレイアウトの使用可能なセクションのままにして、役割に [ホームページレイアウト] および [ホームページのパーソナライズ] 権限が含まれるどのユーザーでも、レポートを自分のレコードタイプのホームページに追加できるようにできます。
- 特定の役割を持つユーザーがレポートを自分のレコードタイプのホームページに追加できないようにする場合は、レポートをホームページレイアウトウィザードの [使用可能なセクション] リストから移動できます。

ホームページのカスタマイズの詳細については、「[レコードホームページレイアウトの作成](#) **『101ページ』**」を参照してください。

役割に適切な権限が含まれてる場合、カスタムレポートを作成し、それらをすべてのレコードタイプのカスタムホームページレイアウトに追加できます。次の表では、ホームページでのカスタムレポートの作成に関係するさまざまなタスクに必要な権限について説明します。

タスク	必要な権限	メモ
(オプション) カスタムレポートを作成し、全社レベルのフォルダに公開する	カスタムレポートの管理	詳細については、「 Answers の概要 (カスタムレポート)」を参照してください。
ホームページカスタムレポートを作成する	アプリケーションのカスタマイズ アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理	このタスクの手順については、このトピックで説明します。
カスタムレポートセクションをホームページレイアウトに追加する	アプリケーションのカスタマイズ アプリケーションのカスタマイズ - ホームページのカスタマイズ化の管理	詳細については、「 レコードホームページレイアウトの作成 『101ページ』 」を参照してください。
ホームページレイアウトをユーザーの役割に追加する	ユーザーおよびアクセスの管理	詳細については、「 役割の追加 『207ページ』 」を参照してください。

タスク	必要な権限	メモ
(オプション) ホームページの カスタムレポートセクションを 追加または削除する (エンドユーザ)	ホームページのパーソナライズ	詳細については、「ホームページ レイアウトの変更」を参照してく ださい。

作業前の準備：この手順を実行する前に、ホームページで有効にするカスタムレポートが作成および保存されている必要があります。

ホームページカスタムレポートを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ホームページレイアウトの管理] セクションで、[レコードタイプホームページカスタムレポート] をクリックします。
- 5 [名前] フィールドにカスタムレポート名を入力します。
- 6 [高さ] フィールドと [幅] フィールドで、[シングル] または [ダブル] を選択します。

ホームページの左端から右端の全体にレポートを表示するには、幅を [ダブル] に設定します。高さを [ダブル] に設定すると、ホームページに表示されるレポートの高さが他のセクションの 2 倍になります。

注：レポートの **HTML RowSpan** 属性の値が 2 より大きい場合、レポートは指定されたサイズもより大きくなる場合があります。

- 7 必要に応じて、[今すぐレポートを実行] チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスをオンにすると、レポートは自動的に実行され、ユーザーはレポートを更新するためにリンクをクリックする必要はありません。
- 8 [レポートパス] フィールドに、レポートのパスを入力します。
[オープン分析] ウィンドウからレポートのパスを貼り付けることができます。レポートパスをコピーするには、次の操作を行います。
 - a [Answers の概要] ページの [オープン分析] ボタンをクリックします。
 - b レポートを選択します。
 - c [項目] フィールドの値をコピーします。
例：
全社共有フォルダ：プリビルド分析/セールスステージ履歴分析：前月のセールスレポート
- 9 [保存] をクリックします。

レコードホームページレイアウトの作成

カスタムホームページレイアウトは、すべてのレコードタイプで作成できます。この機能では、レコードタイプのホームページにカスタムレポートを表示する機能など、最適な情報をさまざまなユーザーに提供することができます。たとえば、顧客サービス要員のサービスリクエストホームページを設定して、ユーザーの現在のサービスリクエスト関連タスクとカスタムサービスリクエストレポートを表示できます。

注：カスタムホームページレイアウトで組み込みレポートまたはカスタムレポートを使用する場合は、「[ホームページカスタムレポートの作成](#)『99ページ』」で説明した手順を使用して、まずレポートのホームページカスタムレポートレコードを作成する必要があります。

既存のホームページレイアウトをコピーし、要件に合わせて変更を加えることができます。既存のホームページレイアウトも編集できます。ただし、デフォルトのホームページレイアウトは読み取り専用です。コピーは可能ですが、削除や編集はできません。

カスタムホームページレイアウトを作成したら、役割管理ウィザードを使用して、そのレイアウトを使用する必要があるユーザーの役割にレイアウトを割り当てる必要があります。役割に[ホームページのパーソナライズ]権限が含まれるユーザーは、自分のレコードタイプのホームページレイアウトをカスタマイズできます。カスタマイズされたレイアウトには、そのレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられたホームページレイアウトで使用可能にできるどのセクションでも表示できます。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ]権限と[カスタムアプリケーション - ホームページのカスタマイズ化の管理]権限を含む役割が割り当てられていなければなりません。

ホームページレイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ]セクションで、[アプリケーションカスタマイズ]リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ]セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [ホームページレイアウト管理]セクションで、[レコードタイプホームページレイアウト]リンクをクリックします。
- 5 [ホームページレイアウト]リストで、次の該当する操作を行います。
 - [編集]または[コピー]をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト]ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
 ホームページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 6 ステップ1の[レイアウト名]にレイアウト名を入力し、必要な場合は説明も入力します。
- 7 ステップ2の[ホームページレイアウト]で、次のようにして使用可能なセクションと表示されるセクションを指定します。
 - [すべてのセクション]リストから[使用可能なセクション]リストにセクションを移動します。
 [使用可能なセクション]リスト内のセクションは、ホームページに追加できるセクションです。ユーザーがホームページにセクションを追加できないようにする場合は、[すべてのセクション]リストにセクションを残したままにします。
 - 必要に応じて、[左側]リストから[右側]リストにセクションを移動し、両方のリストの情報を並べ替えます。

ダブル幅のセクションは、[左側] リストに残します。これらのセクションは、自動的にホームページのサイズに合わせて表示されます。

8 [終了] をクリックします。

注：アプリケーションにカスタムホームページレイアウトを追加したら、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。ユーザーの役割の追加および変更の詳細については、「[役割の追加](#) [『207ページ』](#)」を参照してください。[ホームページのパーソナライズ] 権限を持っているユーザーは、そのレコードタイプに関するそのユーザーの役割に割り当てられたホームページレイアウトでできるようにした任意のリストまたはレポートを使用して、ホームページのレイアウトを編集できます。

監査証跡のカスタマイズ

Oracle CRM On Demand の監査対象フィールドの作成、削除および復元を追跡したり、特定のレコードタイプを企業で設定している場合は、これらのレコードタイプについて監査証跡で追跡するフィールドを指定することができます。次の表にデフォルトの監査対象フィールドを示します。これらのレコードタイプで管理者が監査可能なマークを付けたフィールドをユーザーが更新すると、監査証跡レコードが生成され、古い値と新しい値、およびタイムスタンプと変更を加えたユーザーなどの情報が追跡されます。

新規顧客の場合および Oracle CRM On Demand をこのリリースにアップグレードした顧客に対しては、レコードタイプの特定のフィールドを監査している場合、レコードタイプの特定のフィールドの作成、削除および復元の監査がデフォルトで有効になります。レコードタイプの特定のフィールドを監査していない場合、レコードタイプの特定のフィールドのレコード作成、削除および復元の監査はすべて無効になります。その後、顧客がこれらのレコードレベル監査設定を変更できます。

マスター監査証跡を使用して作成、削除または復元されたレコードなど、全社レベルで監査可能なレコードタイプに対するすべての変更を表示できます。詳細は、「[マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#) [『44ページ』](#)」を参照してください。

商談、サービスリクエストおよびユーザーの監査は、デフォルトで有効です。しかし、他のレコードタイプは、企業で使用するためにレコードタイプを有効にするか、監査するフィールドを選択することによって設定する必要があります。また、監査対象のレコードタイプの監査証跡関連情報が読み取り専用設定されていることを確認する必要があります。アクセスプロファイルの詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) [『198ページ』](#)」を参照してください。

レコードタイプごとに監査フィールド（標準のフィールドおよびカスタムフィールド）を指定できます。監査フィールド数の上限を引き上げる必要がある場合は、企業プロファイルの [レコードタイプの監査可能な項目] フィールドを編集します。使用可能な監査フィールドの合計数は、監査フィールド管理者設定ページにも表示されます。

監査に必要な時間とリソース

監査には、適切なビジネスルールを評価し、ディスクスペースにデータを追加するための追加処理が必要です。そのため、監査を有効にすると、処理時間が長くなります。影響を最小限に抑えるために、監査可能なフィールドの初期数はレコードタイプごとに **35** に制限されます。企業プロファイルの [レコードタイプの監査可能な項目] を編集して上限を増やすと、処理時間が長くなります。レコードタイプで監査可能としてマークするフィールドを増やすほど、レコードの保存にかかる時間も長くなります。

レコードタイプによっては、デフォルトで特定のフィールドが監査されるものがあります。しかし、その他のフィールドは監査されません。

レコードタイプ	デフォルトの監査対象フィールド

レコードタイプ	デフォルトの監査対象フィールド
取引先	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
活動	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
住所	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
申込書類	年間売上、申込書類 ID、承認状況、承認日、キャンペーン、通貨、現在の承認者、電子メールアドレス、既存のパートナーシップ、予想パートナーシップ給付金、名前 (名)、名前 (姓)、所在地、代表 FAX 番号、代表電話番号、名前、従業員数、パートナー、パートナープログラム、パートナータイプ、プログラムレベル、拒否理由、ソース、送信状況、勤務先 FAX 番号、勤務先電話番号。
担当者フィールド	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
カスタムオブジェクト 01 以降	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
取引交渉登録	承認状況、関連担当者、関連顧客、関連見込み客、関連商談、携帯電話、市、クローズ日、会社名、国、通貨、現在の承認者、取引サイズ、電子メール、失効日、FAX、名前 (名)、名前 (姓)、名前、開始パートナー取引先、パートナープログラム、郵便番号、主要パートナー、製品への関心、拒否理由、都道府県、住所-区、町、番地、送信状況、電話番号、タイプ。
資金	所有者、パートナー、状態、目標額。
資金リクエスト	承認、請求決定日、請求額、締切日、資金、認可、所有者、事前承認日付、事前承認リクエスト、状態。
見込み客	デフォルトで監査されるフィールドはありません。
MDF リクエスト	事前承認金額、要求済み金額、承認状況、請求決定日、クレーム状況、資金、事前承認日付、送信状況、送信日、承認済み請求額合計、要求済み請求額合計。
商談	クローズ日、売上予想、所有者、確度 (%)、売上、セールスステージ。
保険	額面。詳細は、「保険証券のフィールド」を参照してください。
サービスリクエスト	エリア、原因、説明、所有者、優先順位、ソース、状態、件名、タイプ。
署名	担当者
特別価格リクエスト	承認状況、認可日、請求決定日、クレーム状況、送信状況、送信日、認可金額合計、要求済み金額合計、承認済み請求額合計、要求済み請求額合計。
ユーザー	重要警告を常に送信する、認証タイプ、電子メール、シングルサインオンの外部 ID、役割、状態、ユーザーのサインイン ID。

監査関連のフィールドに関する考慮事項は次のとおりです。

- 取引先、担当者、カスタムオブジェクト 01 以降については、監査証跡の子アプレットにアクセスできるように、アクセスプロファイルが正しく設定されていることを確認してください。管理者は、監査証跡の子アプレットにアクセスする必要がある特定の役割に対して、アクセス権を付与する必要があります。

- 必須フィールドは赤で表示されます。選択されている必須フィールドのいずれかを削除した場合は、ユーザー監査証跡を保存できません。
- 外部キーフィールドの場合、名前（ID ではない）が保存され、監査証跡に表示されます。たとえば、商談に対する取引先関係を監査する場合、監査証跡には行 ID ではなく取引先名が表示されます。
- 監査可能なレコードタイプでは、住所フィールドは使用できません。
- ピックリストフィールドには、ユーザーの言語に依存する値（LDV）が表示されます。
- レイアウトに表示されない ID 列は、監査には使用できません。

注：セキュリティ上の理由で、ユーザーレコードタイプのデフォルトの監査対象フィールドは無効にできません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [フィールド監査の管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

レコードタイプの監査証跡をカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [フィールド監査セットアップ] セクションで、レコードタイプ [フィールド監査セットアップ] リンクをクリックします。
- 5 （オプション）監査証跡でレコードの作成を追跡する場合は、[レコードタイプレコード作成の監査] を選択します。
- 6 （オプション）監査証跡でレコードの削除または復元を追跡する場合は、[レコードタイプレコード削除 / 復元の監査] を選択します。
- 7 [監査フィールドセットアップ] ページで、必要に応じて [使用可能項目] リストから [監査フィールド] リストにフィールドを移動します。
企業の設定の上限を超えた場合は、エラーメッセージが表示されます。
[使用可能項目] リストには、そのレコードタイプでまだ監査が指定されていない標準のフィールドとカスタムフィールドがすべて表示されます。
- 8 [保存] をクリックします。
フィールドを有効にするとすぐに、監査が有効になります。

レコードの変更されたフィールド内の情報について

Oracle CRM On Demand では、次のシステムフィールドを使用してレコードに対する最新の変更に関する情報が保存されます。

- 変更（外部）
- 変更：日付

■ 変更者

■ 変更：日付（外部）

特定の場合、Oracle CRM On Demand は 1 つ以上のこれらのフィールドに情報を書き込み、明示的なユーザーアクションに起因しないレコードに対する変更を反映します。このため、ユーザーがレコードに加えた変更を追跡する場合、これらのフィールド内の情報を信頼しないことをお勧めします。かわりに、監査証跡機能を使用してユーザーがレコードの特定のフィールドに加えた変更を追跡します。レコードタイプの監査証跡のカスタマイズの詳細は、「[監査証跡のカスタマイズ](#)」『102 ページ』を参照してください。

レコードの「変更者」フィールドに対するシステム変更の例を次に示します。ユーザーは担当者のプライマリ取引先として担当者レコードにリンクされている取引先を削除します。削除された取引先レコードがデータベースからパージされた場合、削除された取引先と担当者間のリンクはデータベースから削除されます。リンクがデータベースから削除された後、次回いずれかのユーザーによって担当者レコードが開かれたとき、Oracle CRM On Demand は別のリンクされた取引先を担当者のプライマリ取引先として選択し、その取引先の ID をプライマリ取引先フィールドに書き込みます。または、担当者に取引先がリンクされていない場合、Oracle CRM On Demand はレコードを更新してこれを反映します。次に、Oracle CRM On Demand は担当者レコードを開いたユーザーの名前で「変更者」フィールドを更新します。

動的ページレイアウトの指定

動的レイアウトでは、指定された状況に関連する情報のサブセットのみをエンドユーザーに管理させることにより、アプリケーションを簡素化できます。たとえば、企業では、顧客タイプの取引先、見込み顧客タイプの取引先、パートナータイプの取引先など、異なるタイプの取引先を追跡することがあります。動的ページレイアウト機能を使用すると、取引先タイプに基づいて、異なった取引先フィールドと関連項目を表示する複数のレイアウトを設定できます。また、これらのレイアウトを 1 つ以上のユーザー役割に関連付けることができます。ユーザーが特定の取引先レコードをドリルダウンすると、そのユーザーの役割と取引先タイプに基づいて、適切なページレイアウトが表示されます。

レコードタイプに動的ページレイアウトを定義すると、定義済みピックリスト値を使用してページレイアウトの動的レンダリングが行われます。ピックリストの値ごとに表示するページレイアウトを指定します。レコードで選択されたピックリスト値に基づいて、同じレコードタイプでも別のレコードには別のページレイアウトが表示されるようになります。

場合によっては、動的ページレイアウトとユーザー役割に関連付ける必要があります。動的ページレイアウトとユーザー役割は、多対多の関係を設定できます。

各ピックリスト値にはレイアウトを 1 つのみ関連付けますが、1 つのページレイアウトを複数のピックリスト値に関連付けることができます。ピックリスト値とページレイアウト間の関連付けの制限は 200 です。すでにユーザー役割に関連付けられているレイアウトは削除できません。

注意: ドライビングピックリストに関連付けられているすべての動的レイアウトに、ドライビングピックリストを含めることをお勧めします。割り当てられたレイアウトのいずれかにドライビングピックリストがなく、そのレイアウトに関連付けられたピックリスト値を選択してレコード用に保存した場合、レイアウトにドライビングピックリストが表示されないため、フィールドを編集できません。

次の表に、各レコードタイプの定義済みドライビングピックリスト値を示します。

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
取引先	取引先タイプ
アポイント	タイプ
ビジネス計画	タイプ

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
キャンペーン	キャンペーンタイプ
担当者	担当者タイプ
見込み客	見込み客情報源
商談	商談タイプ
目標	タイプ
サービスリクエスト	タイプ
解決策	状態
タスク	タイプ
資金	状態
資金リクエスト	状態
世帯	セグメント
ポートフォリオ	取引先タイプ
自動車ディーラー	状態
車両	プロダクトタイプ
車両財務情報	融資タイプ
医学教育	タイプ
パートナー	パートナー組織状況
パートナープログラム	パートナータイプ
売上: 取引先売上	タイプ
売上: 担当者売上	タイプ
活動: アポイント	タイプ
活動: タスク	タイプ
資産	資産タイプ
売上	タイプ
商談製品売上	タイプ
カスタムオブジェクト 01-03	タイプ
カスタムオブジェクト 04 以降	タイプ
医学教育イベント	タイプ

レコードタイプ	ドライビングピックリスト
コール活動	タイプ
保険	業種
割当	タイプ
メッセージプラン	タイプ
在庫監査レポート	タイプ
サンプルトランザクション	タイプ

ページレイアウトおよびリスト

ユーザーが検索できるフィールド、リストに表示できるフィールド、およびエクスポートできるフィールドは、ページレイアウトと役割権限を使用して制限できます。ユーザーがレコードリストの作成や絞り込みを行い、高度な検索を使用してレコードを検索する際は、そのユーザーの役割に割り当てられている権限とページレイアウトによって、検索および表示できるフィールドが決まります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が有効な場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで使用可能なすべてのフィールドを検索できます。また、リストを作成または絞り込む場合、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。

注：企業の管理者が、[検索] および [リスト] のすべてのフィールド権限をユーザー役割の多くで使用可能にしないことをお勧めします。その権限が使用可能でない場合、企業で使用しないフィールドは検索およびリストのページに表示されません。これにより、不要な情報が削減され、ユーザーが最も必要なフィールドを表示することが容易になります。

ユーザーの役割に対して [[検索]および[リスト]のすべてのフィールド] 権限が無効な場合は、次の基準を両方とも満たす場合のみ、フィールドを検索できます。

- レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた検索レイアウトで、フィールドが使用可能であること。
- 該当するレコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた [詳細] ページレイアウトにフィールドが表示されていること。役割に動的ページレイアウトが定義されている場合は、少なくともその動的ページレイアウトの 1 つにフィールドが表示されている必要があります。

また、リストを作成または絞り込む場合は、レコードタイプのユーザーの役割に割り当てられた（動的ページレイアウトを含む）少なくとも 1 つの [詳細] ページレイアウトにフィールドが表示されている場合にのみ、ユーザーは、検索で返されるレコードのリストにカラムとして表示するフィールドを選択できます。この制約は、リスト内のエクスポートできるフィールドにも影響します。ユーザーの役割で [リスト - 表示されたフィールドのエクスポート] 権限が有効で、[リスト - すべてのフィールドのエクスポート] 権限が無効の場合は、リストに表示されているフィールドのみエクスポートできます。ユーザーはリスト内のレコードのすべてのフィールドをエクスポートすることはできません。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [カスタムアプリケーション - 動的レイアウトの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

動的ページレイアウトを作成または変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。

- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 [動的レイアウト管理] セクションで、[レコードタイプ動的レイアウト] リンクをクリックします。
- 5 [動的ページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のレイアウトを変更します。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。動的レイアウトウィザードの指示に従って手順を完了します。
- 6 ステップ 1 の [レイアウト名] で、次の操作を行います。
 - a 動的レイアウトの名前を入力します。
 - b デフォルトのレイアウトを選択します。このレイアウトは、次のステップでデフォルトのレイアウトとして提示されます。

[ドライビングピックリスト] フィールドには、ピックリストが表示されます。ピックリストの値により、ユーザーの画面に表示されるレイアウトが決定されます。
- 7 ステップ 2 のフィールドの割当では、各ピックリスト値をレイアウト名と関連付けます。

注:各動的ページレイアウトについて、ドライビングピックリスト値とページレイアウト間の関連付けの制限は 200 です。

レコードに対応するピックリスト値がある場合、選択したレイアウトが表示されます。
- 8 [終了] をクリックします。

外部 Web ページのタブでの表示

Oracle CRM On Demand 内では、外部 Web ページや Web から入手可能な企業データなどの Web コンテンツをタブに表示することができます。たとえば、Oracle CRM On Demand で作業しているサービス要員に、在庫情報を別の Web アプリケーションで追跡させることができます。この要件を満たすには、Oracle CRM On Demand のメインコンテンツエリアに、外部 Web アプリケーションを表示するカスタム Web タブを作成します。

Web コンテンツを含むカスタム Web アプレットを作成することもできます。カスタム Web アプレットの概要とカスタム Web タブとの違いについては、「[カスタム Web アプレットについて](#)」『110ページ』を参照してください。

カスタム Web ページを表示するには、役割管理ウィザードを使用して、必要なユーザー役割にタブを追加する必要があります。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

Oracle CRM On Demand ページに外部情報を表示する場合は、あらかじめ次の点を確認しておく必要があります。

- 外部アプリケーションに Web インターフェイスがある
- 外部アプリケーションまたは Web ページがブラウザウィンドウの完全な制御を要求しない

注：シングルサインオンなどの機能を使用する予定がある場合や、Web サイトと Oracle CRM On Demand を統合する場合は、企業で Web サービスを確実に有効にする必要があります。

外部 Web ページをタブに表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[カスタム Web タブ] リンクをクリックします。
- 4 カスタムタブリストページで、[新規] をクリックします。
- 5 [カスタム Web タブ] ページで、下の表を使用して必要な情報を入力し、レコードを保存します。
- 6 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、Web タブの [翻訳] チェックボックス ([Custom Web Tab Lists (カスタム Web タブリスト)] ページ上) をオンにします。

フィールド	説明
名前	カスタム Web タブの名前。
タイプ	URL または HTML を選択します。
ユーザーフィールド	[ユーザーフィールド] ドロップダウンリストからオプションを選択して、カーソルの現在の位置にある [URL] または [HTML] フィールドにユーザーパラメータフィールドを追加します。たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザー ID] を選択すると、カーソルの位置に応じて [URL] または [HTML] フィールドに <code>%%%User id%%%</code> が挿入されます。実行時、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID と置き換えられます。
URL	<p>注：この設定は、[タイプ] メニューから [URL] を選択した場合のみ利用できます。</p> <p>ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL (<code>www.oracle.com</code> など) を入力します。URL の <code>http://</code> 部分は、入力する必要がありません。</p> <p>また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザーフィールド] ドロップダウンリストを選択することにより、このフィールドに状況依存のパラメータを挿入できます。このアクションにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (<code>%%%fieldname%%%</code> で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。URL を指定しない場合、タブをクリックするとその移動先は空の URL になります。</p> <p>各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ユーザーが Web タブをクリックすると、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。</p>

フィールド	説明
HTML ヘッド追加	<p>注：この設定は、[タイプ] メニューから [HTML] を選択した場合のみ利用できます。</p> <p>入力した HTML は、Web タブを追加するページの HTML コード内部の <code><iframe></code> エレメントの <code>src</code> 属性で使用されます。[Web タブ HTML] フィールドに追加したコードはすべて、<code><iframe></code> エレメントに追加されます。このフィールド内で、HTML の <code><head></code> セクションに埋め込んだ JavaScript ファイルへの参照を含めることができます。</p> <p>Oracle CRM On Demand ページ内での JavaScript ファイルの参照はサポートされません。このフィールドに入力したすべての内容が <code><head></code> タグに追加されます。</p>
Web タブ HTML	<p>注：この設定は、[タイプ] メニューから [HTML] を選択した場合のみ利用できます。</p> <p>入力した HTML は、Web タブを追加するページの HTML コード内部の <code><iframe></code> エレメントの <code>src</code> 属性で使用されます。[Web タブ HTML] フィールドに追加したコードはすべて、<code><iframe></code> エレメントに追加されます。このフィールドに入力したすべての内容が <code><body></code> タグに追加されます。</p>
説明	Web タブの説明を入力します。
高さ	Web タブのピクセル値を入力します。
幅	Web タブのピクセル値を入力します。
アイコン	[アイコン] ラベルの横の [ルックアップ] アイコンをクリックし、ウィンドウからアイコンを選択します。

注：この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では（または、このページの [翻訳言語] リストから別の言語を選択した場合は）、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。この青いテキストの更新された名前は、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。

Oracle CRM On Demand にカスタム Web ページを追加した後は、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。実行方法については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

カスタム Web アプレットについて

カスタム Web アプレットには、外部 Web コンテンツを埋め込むことができます。

- レコードタイプの [詳細] ページ
- レコードタイプの [ホームページ]

- ホームページ（個人）
- アクションバー

さまざまなタイプの **Web** コンテンツを埋め込むことができる、3 種類の **Web** アプレットを作成できます。

- **フィード** : RSS フィードを埋め込むのに使用されます。たとえば、[ホームページ（個人）] にニュースフィードを埋め込むことができます。

注 : RSS 2.0 標準のみサポートされています。

- **HTML** : HTML コードを埋め込むのに使用されます。たとえば、この **Web** アプレットを使用して、Google マップなどの外部ソースからウィジェットを埋め込むことができます。
- **URL** : 指定された URL で使用可能なコンテンツを Oracle CRM On Demand 内のアプレットに埋め込むのに使用されます。たとえば、[見込み客詳細] ページのカスタム **Web** アプレットに、その見込み客の名前を調べるための Google 検索を表示できます。

Web アプレットは [ページレイアウト] リンクが表示される、すべてのレコードタイプに追加できます。

カスタム **Web** タブではなく、カスタム **Web** アプレットを作成することには、次の 2 つの利点があります。

- [見込み客詳細] などのページに表示されるカスタム **Web** アプレットにより、詳細ページのデータを関連性のある他のデータと一緒に表示できます。一方、**Web** タブを使用して外部データが表示される場合は、その **Web** タブをクリックすると、詳細ページから **Web** タブページに移動します。
- 企業には、ポートフォリオホールディングなど、表示する情報が大量に存在する場合があります。カスタム **Web** アプレットを使用すれば、Oracle CRM On Demand アプリケーションに情報をロードしなくても、別の **Web** サイトからの大量のデータを表示できます。大量のデータを Oracle CRM On Demand にロードするには、膨大な数のデータカラムを管理するため統合ツールが必要になります。

レコードタイプの **Web** アプレットの作成の詳細については、「[Web アプレットの作成『92ページ』](#)」を参照してください。
[ホームページ（個人）] の **Web** アプレットの作成の詳細については、「[グローバル Web アプレットの作成『117ページ』](#)」を参照してください。

カスタム Web アプレットの作成

次の 3 種類のカスタム **Web** アプレット（RSS フィード、HTML、および URL）を作成し、それを Oracle CRM On Demand の次の場所に追加することができます。

- グローバル **Web** アプレットの場合 :
 - アクションバー
 - ホームページ（個人）
- レコードタイプ **Web** アプレットの場合 :
 - レコードタイプのホームページ
 - [詳細] ページ

次のセクションでは、異なるタイプのカスタム **Web** アプレットの作成方法について説明します。

RSS フィードアプレットの作成

アプリケーションに RSS フィードを埋め込むには、この種類のアプレットを作成します。ユーザー役割に関連するコンテンツが埋め込まれるように、RSS フィードアプレットを設定します。

RSS フィードアプレットのユーザー設定を許可できますが、設定可能にするアプレットの数を少なくすることをお勧めします。RSS フィードアプレットアクションバーに追加し、カスタム Web タブでレコードを使用可能にすると、ユーザーは別のページに移動する必要がないので、フィードの可読性を高めることができます。

RSS フィードアプレットを作成するには

注：これは、「Web アプレットの作成 『92ページ の"Web アプレットの作成"参照 』」と「グローバル Web アプレットの作成 『117ページ 』」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	説明
名前	Web アプレットの名前。
場所	このフィールドで使える値は、Web アプレットページにアクセスする場所によって異なります。たとえば、グローバル Web アプレットからこのページにアクセスする場合に使える値は「アクションバー」と「ホームページ」です。
カラム	注： このフィールドは、[場所] 値が「ホームページ」の場合のみ使用できます。 [カラム] メニューからシングルまたはダブルを選択して、アプレットの幅を指定します。
タイプ	[フィード] を選択します。
ユーザーフィールド	[ユーザー項目] ドロップダウンリストからオプションを選択すると、現在のカーソル位置にある [URL] フィールドにユーザーパラメータ項目が追加されます。 たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザーID] を選択すると、 <code>%%%User id%%%</code> が挿入されます。実行時に、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID で置き換えられます。
レコードタイプフィールド	注： このフィールドは、[場所] 値が [詳細ページ] の場合のみ使用できます。 パラメータを追加する [URL] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。 たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、 <code>%%%Row id%%%</code> が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。

フィールド	説明
URL	<p>ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL（http://rss.news.yahoo.com/topstories など）を入力します。</p> <p>URL には <code>http://</code> も含める必要があります。</p> <p>また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザー項目] ドロップダウンリストを選択することにより、このフィールドに状況依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ（<code>%%%fieldname%%%</code> で指定）が挿入され、アプレットがソース URL を呼び出したときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き替わります。</p> <p>URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。</p> <p>注：各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。</p>
ユーザーによる URL の上書きを許可	ユーザー役割に関連するコンテンツの RSS フィードアプレットを設定します。ユーザーによる RSS フィードアプレットの設定を可能にすることができますが、設定可能にするアプレットの数を少なくすることをお勧めします。
レコードを開く	レコードを現在のブラウザウィンドウで開くか、または新しいブラウザウィンドウで開くかによって値を選択します。RSS フィードアプレットをアクションバーに追加する場合は、フィードを新しいブラウザウィンドウで開くと読みやすくなります。これにより、ユーザーは別のページにナビゲートする必要がなくなります。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。

HTML Web アプレットの作成

追加を行う HTML コードの埋め込みコンテンツに対してこの種類のアプレットを作成します。

HTML Web アプレットを作成するには

注：これは、「[Web アプレットの作成](#) 『92ページ の"[Web アプレットの作成](#)"参照 』」と「[グローバル Web アプレットの作成](#) 『117ページ 』」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	説明
名前	Web アプレットの名前。
場所	このフィールドで使用できる値は、Web アプレットページにアクセスする場所によって異なります。たとえば、グローバル Web アプレットからこの

フィールド	説明
	ページにアクセスする場合に使用できる値は「アクションバー」と「ホームページ」です。
カラム	<p>注：このフィールドは、[場所] 値が [ホームページ] の場合のみ使用できます。</p> <p>[カラム] メニューからシングルまたはダブルを選択して、アプレットの幅を指定します。</p>
タイプ	[HTML] を選択します。
レコードタイプフィールド	<p>注：このフィールドは、[場所] 値が [詳細ページ] の場合のみ使用できます。</p> <p>パラメータを追加する [Web アプレット HTML] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。</p> <p>たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、%%%Row id%%%が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。</p>
HTML ヘッド追加	<p>入力する HTML は、Web アプレットを追加するページの HTML コード内の <code><iframe></code> 要素の <code>src</code> 属性で使用されます。[Web アプレット HTML] フィールドに追加したコードは、<code><iframe></code> エlementに追加されます。HTML の <code><head></code> セクションに埋め込んだ JavaScript ファイルへの参照をこのフィールドに含めることができます。</p> <p>Oracle CRM On Demand ページでの JavaScript ファイルの参照はサポートされていません。このフィールドに入力する内容は、<code><head></code> タグに追加されます。</p>
Web アプレット HTML	<p>入力する HTML は、Web アプレットを追加するページの HTML コード内の <code><iframe></code> エlementの <code>src</code> 属性で使用されます。</p> <p>[Web アプレット HTML] フィールドに追加したコードは、<code><iframe></code> エlementに追加されます。このフィールドに入力する内容は、<code><body></code> タグに追加されます。</p>
常に実行	このフラグによって、アプレットが最小化された場合にカスタム Web アプレットを実行するかどうかが決まります。このフラグは、[詳細] ページ上にあるカスタムアプレットにのみ使用可能です。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。

URL Web アプレットの作成

IFrame の URL からコンテンツを埋め込むには、この種類のアプレットを作成します。

URL Web アプレットを作成するには

注：これは、「Web アプレットの作成 『92ページ の"Web アプレットの作成"参照 』」と「グローバル Web アプレットの作成 『117ページ 』」のトピックで説明されているように、Web アプレットの作成の最後の手順です。

[Web アプレット] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	説明
名前	Web アプレットの名前。
場所	このフィールドで使用できる値は、Web アプレットページにアクセスする場所によって異なります。たとえば、グローバル Web アプレットからこのページにアクセスする場合に使用できる値は「アクションバー」と「ホームページ」です。
カラム	<p>注：このフィールドは、[場所] 値が [ホームページ] の場合のみ使用できます。</p> <p>[カラム] メニューからシングルまたはダブルを選択して、アプレットの幅を指定します。</p>
タイプ	[URL] を選択します。
ユーザーフィールド	<p>[ユーザー項目] ドロップダウンリストからオプションを選択すると、現在のカーソル位置にある [URL] フィールドにユーザーパラメータ項目が追加されます。</p> <p>たとえば、ドロップダウンリストから [ユーザーID] を選択すると、<code>%%%User id%%%</code> が挿入されます。実行時に、このパラメータは、サインインしているユーザーのユーザーID で置き換えられます。</p>
レコードタイプフィールド	<p>注：このフィールドは、[場所] 値が [詳細ページ] の場合のみ使用できます。</p> <p>パラメータを追加する [URL] フィールドにカーソルを置き、挿入する項目をドロップダウンリストから選択します。</p> <p>たとえば、[行 ID] フィールドを選択すると、<code>%%%Row id%%%</code> が挿入されます。実行時に、このパラメータは、現在のレコードの行 ID で置き換えられます。</p>
URL	<p>ユーザーがハイパーリンクをクリックしたときに呼び出される URL（<code>http://maps.google.com</code> など）を入力します。</p> <p>URL には <code>http://</code> も含める必要があります。</p> <p>また、[URL] フィールドにカーソルを置き、[ユーザー項目] ドロップダウンリストを選択することにより、このフィールドに状況依存のパラメータを挿入できます。これにより、[URL] フィールドにフィールドパラメータ (<code>%%%fieldname%%%</code> で指定) が挿入され、ユーザーが値をクリックしたときに、現在のレコードに基づいたフィールド値に置き換わります。たとえば、 <code>http://maps.google.com/?q=%%%Ship_To_ADDR_Address1%%%,+%%%Ship_To_CITY_City%%%,+%%%SHIP_LIST_USSTATE%%%</code> という URL は、出荷先住所を Google マップに渡し</p>

フィールド	説明
	<p>ます。</p> <p>URL を指定しない場合、ユーザーがリンクをクリックすると、その移動先は空の URL になります。</p> <p>注: 各ブラウザには URL の最大長があります。この長さを超えて URL を指定した場合、ブラウザで予期しない動作が見られることがあります。</p>
常に実行	このフラグによって、アプレットが最小化された場合にカスタム Web アプレットを実行するかどうかが決まります。このフラグは、[詳細] ページ上にあるカスタムアプレットにのみ使用可能です。
高さ	ピクセル単位のアプレットの高さ。

関連トピック

次のトピックでは、Twitter RSS フィードを表示する Web アプレットの作成例を説明します。

■ [RSS フィード Web アプレットの設定例](#) 『118ページ』

アクションバーレイアウトの作成と管理

このバーには、[メッセージセンター]、[検索]、[コミュニケーションツール]、[最近の表示] などの多数のセクションを含めることができます。Oracle CRM On Demand では、アクションバーのカスタムレイアウトを作成し、特定の役割に割り当てることができます。

アクションバーをユーザーに使用不可にする

デフォルトでは、アクションバーはすべての Oracle CRM On Demand ページの左側に表示されます。ユーザーは、必要に応じてアクションバーの表示/非表示を切り替えることができます。詳細は、「アクションバーの表示または非表示」を参照してください。

特定のユーザー役割に対してアクションバーを使用不可にする場合は、空のアクションバーレイアウトを設定し（つまり、レイアウトにセクションが表示されないか、使用できない）、そのレイアウトをユーザー役割に割り当てます。これにより、そのユーザー役割を持つユーザーに対してアクションバーが恒久的に非表示になります。

次の手順では、アクションバーレイアウトの追加方法について説明します。

新規アクションバーレイアウトを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[アクションバーレイアウト] を選択します。
- 4 アクションバーレイアウトで、[新規レイアウト] をクリックします。
- 5 [レイアウト名] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力します。
- 6 [説明] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 アクションバーレイアウトに表示するフィールドを選択し、左矢印と右矢印を使用して [利用可能] セクションから [表示] セクションにフィールドを移動します。選択したフィールドの順序を変更するには、上下の矢印を使用します。
- 8 [終了] をクリックします。
- 9 (オプション) [編集] ボタンをクリックして、手順 4 から 7 で入力した値を編集します。

または、Oracle CRM On Demand に用意されている既存のデフォルトのアクションバーレイアウトをコピーし、要件に合わせて説明と設定を変更することもできます。

アクションバーレイアウトをコピーするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[アクションバーレイアウト] を選択します。
- 4 アクションバーレイアウトの左の [コピー] リンクをクリックします。
- 5 [レイアウト名] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力します。
- 6 [説明] フィールドに、新規アクションバーレイアウトの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 アクションバーレイアウトに表示するフィールドを選択し、左矢印と右矢印を使用して [利用可能] セクションから [表示] セクションにフィールドを移動します。選択したフィールドの順序を変更するには、上下の矢印を使用します。
- 8 [終了] をクリックします。

注：他のアクションバーレイアウトをコピーするには、アクションバー名の左の下矢印をクリックしてコピー機能を表示します。

グローバル Web アプレットの作成

グローバル Web アプレットとは、ホームページまたはアクションバーに表示できるカスタム Web アプレットのことです。

グローバル Web アプレットを作成したら、ホームページまたはアクションバーのレイアウトに追加する必要があります。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] および [カスタム Web アプレットの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

新しいグローバル Web アプレットを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[グローバル Web アプレット] を選択します。
- 4 [My Applet (マイアプレット)] リストで、[新規] をクリックします。
- 5 [My Web Applet (マイ Web アプレット)] ページで、次のフィールドに情報を入力します。

フィールド	説明
名前	名前を入力します。
場所	ホームページまたはアクションバーに外部コンテンツを表示するかどうかに応じて、[ホームページ] または [アクションバー] を選択します。
常に実行	このフラグでは、グローバル Web アプレットが最小化されている場合にそのアプレットを実行するかどうかを決定します。このフラグは、アクションバー上にあるグローバル Web アプレットに対してのみ使用できます。

次に、「[カスタム Web アプレットの作成](#) [111ページ]」で説明したように、必要なアプレットのタイプに応じてフィールドに情報を入力します。

RSS フィード Web アプレットの設定例

このトピックでは、RSS フィード Web アプレットの設定例を示します。この機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。この例では、[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーの担当者レコードの詳細ページで、RSS フィード Web アプレットを設定します。Web アプレットには、担当者の Twitter フィードが表示されます。

企業の管理者は、[担当者] レコードタイプで Twitter ID フィールドを設定し、Twitter Web アプレットを作成します。次に、新規フィールドと Twitter Web アプレットを [フィールドセールス要員] 役割のページレイアウトに追加します。これにより、[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーは、[担当者詳細] ページに担当者の Twitter ID を入力できます。[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーが担当者の Twitter ID をフィールドに入力すると、担当者の Twitter RSS フィードが [担当者詳細] ページの Twitter Web アプレットに表示されます。

作業前の準備：Twitter ID フィールドを設定し、Twitter Web アプレットを作成して、フィールドとアプレットをページレイアウトに追加するには、ユーザー役割に [アプリケーションをカスタマイズ] 権限が含まれている必要があります。

RSS フィード Web アプレットを作成するには (企業の管理者)

- 1 次のように、[担当者] レコードタイプで **Twitter ID** フィールドを設定します。
 - a 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - b [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
 - c [レコードタイプセットアップ] セクションで、[担当者] をクリックします。
 - d [フィールド管理] セクションで、[担当者項目の設定] をクリックします。
 - e [フィールド] ページで、[新規フィールド] をクリックします。
 - f [担当者フィールド編集] ページで、[表示名] フィールドに **Twitter ID** を入力し、[項目タイプ] フィールドで [テキスト (短い)] を選択します。
 - g 変更を保存します。
- 2 担当者アプリケーションカスタマイズに戻るをクリックします。
- 3 次のように、**Twitter Web** アプレットを作成します。
 - a [担当者アプリケーションカスタマイズ] ページの [ページレイアウト管理] セクションで、[担当者 **Web** アプレット] をクリックします。
 - b [担当者アプレットリスト] で、[新規] をクリックします。
 - c [担当者 **Web** アプレット] ページで、次のように **Web** アプレットの詳細を入力します。
 - **Web** アプレットの名前 (例: 担当者 **Twitter** フィード) を入力します。
 - [場所] フィールドで、[詳細ページ] を選択します。
 - [タイプ] フィールドで、[フィード] を選択します。
 - [URL] フィールドで、次の URL を入力します。
`http://twitter.com/statuses/user_timeline.rss?id=%%stTwitter_ID%%&count=10`
 - [ユーザーによる URL の上書きを許可] フィールドで、[いいえ] を選択します。
 - [レコードを開く] フィールドで、[現在のウィンドウ] を選択します。
 - [説明] フィールドで、説明 (例: 担当者の **Twitter** フィード) を入力します。
 - [高さ] フィールドで、「200」と入力します。

注: 前述の URL では、[担当者詳細] ページのアプレットにフィードの 10 行が表示されるように指定されています (`count=10`)。10 行を表示する場合、アプレットの高さは 200 ピクセルが適切です。フィードの 11 行以上を [担当者詳細] ページに表示する場合は、行数に応じて URL を変更し、アプレットの高さを増やしてください。
 - d 変更を保存します。
- 4 担当者アプリケーションカスタマイズに戻るをクリックします。

5 次のように、**Twitter ID** フィールドおよび **Web** アプレットをユーザー役割の担当者ページレイアウトに追加します。

- a** [担当者アプリケーションカスタマイズ] ページの [ページレイアウト管理] セクションで、[担当者ページレイアウト] をクリックします。
- b** [フィールドセールス要員] 役割に割り当てられたページレイアウトのレコードレベルメニューで、[編集] をクリックします。
- c** ステップ 3 の [項目レイアウト] で、矢印を使用して、**Twitter ID** フィールドを [使用可能担当者項目] セクションからページセクションフィールド (例: [担当者主要情報] セクション) に移動します。
- d** ステップ 4 の [関連情報] で、矢印を使用して、作成した **Web** アプレットを [使用可能情報] セクションから [表示する情報] セクションに移動します。
- e** [終了] をクリックして変更を保存します。

[フィールドセールス要員] 役割を割り当てられたユーザーは、次回に担当者レコードを編集したり新規担当者レコードを作成したりするとき、次の手順に従って担当者の **Twitter RSS** フィードを設定できます。

担当者の **Twitter RSS** フィードを設定するには (ユーザー)

- 1** 既存の担当者レコードを開くか、新規担当者を作成して保存します。
- 2** [担当者詳細] ページに担当者の **Twitter** フィードアプレットが表示されない場合は、次のようにアプレットを追加します。
 - a** [レイアウトを編集] をクリックします。
 - b** 矢印を使用して、担当者の **Twitter** フィードアプレットを [利用可能] セクションから [表示する情報] セクションに移動します。
 - c** 変更を保存します。
- 3** [担当者詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 4** [担当者編集] ページの **Twitter ID** フィールドで、担当者の **Twitter ID** を入力します。
- 5** 変更を保存します。

担当者の **Twitter** フィードが、[担当者詳細] ページの担当者の **Twitter** フィードアプレットに表示されます。

クライアント側拡張のアップロード

クライアント側拡張機能は、他のサーバーでホスティングするのではなく、**Oracle CRM On Demand** にアップロードしてホスティングできるファイルです。クライアント側拡張機能をアップロードすると、その拡張機能を参照する際に使用する一意の URL が **Oracle CRM On Demand** によって生成されます。クライアント側拡張機能は、第 2 のクライアント側拡張機能の一意の URL を使用することで、第 2 のクライアント側拡張をコールできます。また、URL を使用してクライアント側拡張機能をカスタム **Web** タブ、カスタム **Web** アプレット、およびグローバル **Web** アプレットに配置することもできます。

Oracle CRM On Demand の [クライアント側拡張リスト] ページから HTML、JPG、GIF、SWF および CSS ファイルをアップロードして、クライアント側拡張を作成できます。最大ファイルサイズは 20 メガバイト (MB) です。ただし、ファイルサイズを小さくするほど、ブラウザで Oracle CRM On Demand からこれらのファイルをダウンロードするときのパフォーマンスが高まります。

注: Oracle CRM On Demand のカスタマーサポートは、クライアント側拡張のどのコンポーネントにもアクセスできません。これらのコンポーネントには、アップロードしたファイルやその中のコンテンツ、イメージ、クライアント側拡張の参照元 (カスタム Web タブ、カスタム Web アプレットおよびグローバル Web アプレットを含む) などがあります。したがって、これらの拡張の保守とサポートは、自分が担当する必要があります。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[クライアント側拡張機能のアップロード] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。権限の追加の詳細は、「[役割の権限について](#) 『206ページ』」を参照してください。

クライアント側拡張をアップロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[クライアント側拡張] をクリックします。

[クライアント側拡張リスト] ページには、以前にアップロードしたクライアント側拡張が表示されます。このページでは、以前にアップロードしたクライアント側拡張を削除することもできます。

注: カスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web アプレットに設定されているクライアント側拡張を削除すると、それが原因でこれらのアプレットが正しく機能しなくなります。Oracle CRM On Demand では、特定のクライアント側拡張が使用中かどうかは示されません。

- 4 [新規] をクリックします。
- 5 ペーパークリップアイコンをクリックして、クライアント側拡張としてアップロードするコンテンツを検索します。
このフィールドは必須です。
- 6 次の詳細を入力します。
 - **MIME タイプ。** これは、インターネットメディアタイプを示します。このタイプを使用すると、メディアタイプをブラウザに適切に表示できます。MIME タイプの詳細をすべて入力してください。ファイルタイプに従って、次のいずれかを入力します。
 - テキスト/html
 - イメージ/jpeg
 - イメージ/gif
 - アプリケーション/x-shockwave-flash
 - テキスト/css
 - **ファイル : サイズ (バイト) :** アップロード対象のファイルのサイズです。このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。
 - **ファイル : 拡張子。** このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。
 - **名前。** クライアント側拡張機能の名前。このフィールドは必須です。

- **URL 名。**この値は、クライアント側拡張を指す URL に意味のある名前を付けるために使用します。URL 名には、A-Z、a-z、0-9、アンダースコア (_) およびピリオド (.) を使用できます。二重ピリオド (. .) は使用できません。また、ピリオド (.) を文字列の末尾の文字として使用することもできません。URL 名の例としては、「Logo_Image」や「Map376」があります。このフィールドはできる限り短くすることをお勧めします。このフィールドは、ユーザーが編集したときにのみ変更されます。したがって、アップロードしたファイルを置き換えたり、クライアント側拡張の名前を変更しても、[URL 名] フィールドの値は変わりません。そのため、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web タブを再設定しなくても、複数のバージョンのクライアント側拡張を更新、保守および配置できます。このフィールドを編集すると、[相対 URL] と [完全 URL] の各フィールドが変更されます。このフィールドは必須です。
- **相対 URL。**このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。この値は、Oracle CRM On Demand 内からクライアント側拡張に移動する相対 URL です。このフィールド値が変更され、クライアント側拡張が配置されている場合、このクライアント側拡張を参照するカスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web タブを更新して、新しく生成された URL が使用されるようにする必要があります。このフィールド値は、[URL 名] フィールドが更新された場合にのみ変更されます。
- **完全 URL。**このフィールドは、Oracle CRM On Demand によって入力されます。この値は、Oracle CRM On Demand アプリケーション内の URL を指す完全 URL です。このフィールド値が変更され、クライアント側拡張が配置されている場合、このクライアント側拡張を参照するカスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web タブを更新して、新しく生成された URL が使用されるようにする必要があります。このフィールド値は、[URL 名] フィールドが更新された場合にのみ変更されます。

7 [保存] をクリックします。

注：クライアント側拡張をアップロードしても、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web タブで設定するまではアクティブになりません。

クライアント側拡張をアップロードすると、Oracle CRM On Demand により [相対 URL] フィールドと [完全 URL] フィールドの値が生成されます。これらの値を使用して、カスタム Web タブ、カスタム Web アプレットまたはグローバル Web タブをクライアント側拡張に関連付けます。これらの場所の設定方法は、サーバーでホストされる拡張を設定する場合と同じです。

既存のクライアント側拡張を編集するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[クライアント側拡張] をクリックします。
- 4 [クライアント側拡張リスト] ページで、編集するクライアント側拡張を探します。
- 5 次の該当する操作を行います。
 - [名前] フィールドをクリックします。これにより、[クライアント側詳細] ページが開き、クライアント側拡張を編集できるようになります。
 - [編集] をクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 クライアント側拡張のファイルを置き換えた場合は、次の操作を行います。

- a Oracle CRM On Demand からログアウトします。
- b ブラウザのキャッシュをクリアします。
- c クライアント側拡張がその配置ページにダウンロードされるように、再びログインして新しいクライアント側拡張をダウンロードします。Oracle CRM On Demand からのログアウトと再ログインを行わない場合、初回のダウンロード実行時から 30 日後に、新しいクライアント側拡張がダウンロードされます。

クライアント側拡張の編集に関するガイドライン

次のガイドラインを考慮してください。

- ページ上のクライアント側拡張の参照数を最小限に抑えて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張のサイズをできる限り小さくします。たとえば、大きなイメージや SWF ファイルの使用を避けます。クライアント側拡張の一部としてダウンロードするファイルを小さくするほど、大きなファイルに比べてページのロードが速くなります。
- すべてのクライアント側拡張をできる限り少ないファイルにまとめて、パフォーマンスに対する悪影響を軽減します。
- クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにします。クライアント側拡張がブラウザのキャッシュに入れられるようにすると、ユーザーがページをロードするたびに Oracle CRM On Demand サーバーからコンテンツをダウンロードする必要がなくなります。クライアント側拡張が変更された場合は、キャッシュをクリアして、Oracle CRM On Demand でその拡張を含むページがロードされるようにします。デフォルトでは、クライアント側拡張はキャッシュに 30 日間格納されます。
- クライアント側拡張と資産を最小限に保って、アクションバーのパフォーマンスを向上させます。アプレットに含まれるクライアント側拡張をアクションバーに設定すると、ページが更新されるたびにアクションバーがロードされます。
- クライアント側拡張を使用して **Web** サービスを呼び出すときには、**Web** サービスに関するすべてのガイドラインに従います。詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ

社内の従業員は各自の必要に応じて [ホームページ (個人)] ページ上で異なる情報を表示したい場合があります。[ホームページ (個人)] のデフォルトのコンテンツを、従業員の役割により関連のあるコンテンツに置き替えることにより、このページのレイアウトをカスタマイズできます。たとえば、顧客サービス要員のホームページに、標準の [最近作成した見込み客] セクションの代わりに新しいサービスリクエストを表示したり、標準のセールスパイプライン品質レポートの代わりにカスタムサービスリクエストレポートを表示するように設定できます。

[ホームページ (個人)] のカスタマイズが完了したら、ユーザー役割にホームページレイアウトを割り当てる必要があります。その役割が割り当てられたすべてのユーザーに、設定した [ホームページ (個人)] が表示されます。

作業前の準備：ここでのカスタマイズ内容が適用される役割を選択する必要があるため、この手順を開始する前に、すべての役割を設定しておきます。次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [ホームページ管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業の [ホームページ (個人)] をカスタマイズするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[ホームページレイアウト (個人)] リンクをクリックします。
- 4 [ホームページレイアウト] リストで、次の該当する操作を行います。
 - [新規レイアウト] ボタンをクリックして、新しいレイアウトを作成します。
 - [編集] または [コピー] をクリックして、既存のカスタムレイアウトを変更します。ホームページレイアウトウィザードが表示されるので、画面の指示に従って手順を完了します。
- 5 ステップ 1 の [レイアウト名] にレイアウト名を入力し、必要な場合は説明も入力します。
- 6 ステップ 2 の [ホームページレイアウト] で、次の操作を行います。
 - [すべてのセクション] リストから [使用可能なセクション] リストにセクションを移動します。

[使用可能なセクション] リスト内のセクションは、ホームページに追加できるセクションです。ホームページへの追加を有効にしたカスタムレポートもここに含まれます。ホームページへのセクションの追加をユーザーに許可しない場合は、[すべてのセクション] リストにセクションを残したままにします。
 - 必要に応じて、[左側] リストから [右側] リストにセクションを移動し、両方のリストの情報を並べ替えます。

ダブル幅のセクションは、[左側] リストに残します。これらのセクションは、自動的にホームページのサイズに合わせて表示されます。
- 7 [終了] をクリックします。

注：アプリケーションにカスタムホームページを追加したら、これをユーザーが表示する前に、ユーザーが使用できるようにする必要があります。実行方法については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

新規テーマの作成

テーマは Oracle CRM On Demand の外観を決定します。新しい企業に対して Oracle CRM On Demand を最初にセットアップする際には、複数の定義済みテーマを使用できます。デフォルトのテーマは **Oracle** です。役割管理ウィザードを使用して、テーマを作成および管理する役割を指定できます。役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。企業のテーマの指定に関する詳細については、「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#) 『16ページ』」を参照してください。

テーマは企業、役割、またはユーザーレベルで選択できます。ユーザーレベルで指定したテーマが最優先され、次に役割レベルで指定したテーマが優先されます。ユーザーレベルでも役割レベルでもテーマが指定されていない場合は、企業のデフォルトのテーマが適用されます。

Oracle CRM On Demand リリース 16 からそれ以降のリリースにテーマをアップグレードする場合は、次の点に注意してください。

- **新規企業の場合。**企業レベルのデフォルトのテーマは **Oracle** です。役割またはユーザーレベルのテーマは選択されていません。企業の管理者は新規テーマを作成し、そのテーマをデフォルトとして設定できます。既存のテーマを無効にしてユーザーが選択できないようにすることも可能です。
- **既存の企業の場合。**古いテーマの名前は **Oracle - Deprecated**、**Contemporary - Deprecated** または **Classic - Deprecated** のいずれかの文字列に置き換えられます。これらの古いテーマを変更し、新しいテーマを選択して、古いテーマをユーザープロファイルから削除することをお勧めします。
- **ロゴやリンクを使用している既存の企業の場合。**アップグレードしても非推奨のテーマには影響せず、選択されたままになります。古い（非推奨の）テーマを使用せず、新規テーマを作成して、その新規テーマを企業レベルまたは役割レベルのデフォルトに設定することをお勧めします。

作業前の準備。テーマを作成および編集するには、[テーマの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

次に、Oracle CRM On Demand で固有のテーマを作成する手順について説明します。

Oracle CRM On Demand で新しいテーマを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
 - 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
 - 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[テーマ] リンクをクリックします。
 - 4 [テーマ] ページで、[新規] をクリックします。
 - 5 次のフィールドに情報を入力します。
 - **テーマ名。**新規テーマの名前を入力します。
 - **デフォルトヘルプリンクの表示。**新規テーマにデフォルトの [ヘルプ] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
 - **デフォルトトレーニングおよびサポートリンクの表示。**新規テーマにデフォルトの [トレーニングおよびサポート] リンクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
 - **説明。**新規テーマの説明を入力します。
 - 6 [保存] をクリックします。
- Oracle CRM On Demand の [テーマ詳細] ページを開くと、新規テーマの動的プレビューが画面の右側に表示されます。このプレビューには新規テーマを適用した [ホーム]、[詳細]、[リスト] の各ページが表示されます。

- 7 次の表に示す各フィールドに情報を入力します。

手順

注:新しいカラーコードを入力するには、各色の **16** 進数値を入力するか、デフォルトの色の値にマウスポインタを置いてカラーパレットアイコンを表示します。カラーパレットアイコンをクリックして、このフィールドの色を選択します。

一般情報	説明
アプリケーションバックグラウンド	このフィールドは、Oracle CRM On Demand のバックグラウンド（タブ間の

	スペースなど) を参照します。
アプリケーションテキスト	このフィールドは、アプリケーションページの下部およびグローバルリンクとタブリンクとの間の垂直バーに表示される法律情報を参照します。
アプリケーションリンク	このフィールドは、 Oracle CRM On Demand の上部と下部にあるグローバルリンク ([管理] 、 [設定 (個人)] 、 [プライバシーに関する声明] 、 [使用条件] など) を参照します。
警告テキスト	このフィールドは、必須フィールドおよび延滞タスクに使用するテキストを参照します。
タブ	
タブスタイル	メニューから [丸め済み] 、 [スタック] または [ストレート] を選択します。
有効なタブテキスト	このフィールドは、有効なタブに使用するテキストを参照します。
有効なタブバックグラウンド	このフィールドは、有効なタブの背景色を参照します。
無効なタブテキスト	このフィールドは、無効なタブに使用するテキストを参照します。
無効なタブバックグラウンド - トップ	このフィールドは、無効なタブの上部の背景色を参照します。
無効なタブバックグラウンド - 下	このフィールドは、無効なタブの下部の背景色を参照します。
無効なタブバックグラウンドホバー	このフィールドは、無効なタブにマウスポインタを置いたときに表示される色を参照します。メニュータブに使用する色も参照します。
ページ	
ページテキスト	このフィールドは、インラインヘルプ、フィールドラベル、フィールド値、ページタイトル、無効なリンク、フォームセクションヘッダー、垂直バー、ビュレットなど、ページまたはポップアップウィンドウのすべてのテキストを参照します。
ページリンク	このフィールドは、ページバックグラウンドのすべてのリンク (カレンダーリンク、 [リストを全表示] リンク、 [リスト管理] リンクなど) を参照します。
ページバックグラウンド - トップ	このフィールドは、 [商談詳細] など、各ページおよびポップアップウィンドウの上部にあるタイトルバーの色を参照します。ボタンはこのタイトルバーにあります。このフィールドはアクションバー、関連リスト、 [カレンダー] ビュー、有効な [カレンダー] タブも制御します。
ページバックグラウンド - 下	このフィールドは、 [商談詳細] など、各ページおよびポップアップウィンドウの下部にあるタイトルバーの色を参照します。ボタンはこのタイトルバーにあります。このフィールドはアクションバー、関連リスト、 [カレンダー] ビュー、有効な [カレンダー] タブも制御します。
ハイライト表示されたページバックグラウンド	このフィールドは、インライン編集フィールド、カレンダー上でハイライト表示されたセル、現在の日付、ウィザードのアクティブなステップ、ヘッドアップディスプレイバックグラウンドなど、ページ上のハイライト表示された項目の色を参照します。

ページヘッダーテキスト	このフィールドは、[商談ホームページ] など、ページ名に使用するテキスト色を参照します。
ページヘッダーバックグラウンド - トップ	このフィールドは、ページ名の背後の上部領域に使用する色を参照します。
ページヘッダーバックグラウンド - 下	このフィールドは、ページ名の背後の下部領域に使用する色を参照します。
ページ行	このフィールドは、リストレコード、詳細ページのフォームセクション、ウィザードのステップなどに使用する行の色を参照します。
リスト	
リストヘッダーテキスト	このフィールドは、フィルターバーおよびリストフッターバーのテキスト色を参照します。
リストヘッダーバックグラウンド	このフィールドは、フィルターバーおよびリストナビゲーションアイコンを含むリストフッターの背景色を参照します。
カラムヘッダーテキスト	このフィールドは、カラムヘッダーに使用するテキスト色を参照します。
カラムヘッダーバックグラウンド	このフィールドは、関連リスト、完全リストなどの背景色を参照します。

- 8** (オプション) カスタマイズされたグローバルリンクをテーマに追加する場合、[グローバルリンク] セクションの [新規] をクリックします。

リンク編集ページが開きます。

- 9** 次の情報を入力します。

- **リンク名。** テーマに追加するグローバルリンクの名前を選択します。
- **タイプ。** グローバルリンクをページの上部に配置するか、下部に配置するかに応じて、メニューから [ヘッダー] または [テストフッターのテキスト] を選択します。
- **リンク URL。** グローバルリンクの URL を入力します。
- **リンク順序。** リンクの表示順序を示す値を入力します。たとえば、「1」を入力すると、そのリンクはグローバルリンクの最初のリンクになります。

- 10** (オプション) 特定のロゴをテーマに追加する場合、[ロゴ] セクションの [ロゴの追加] をクリックします。

[ロゴ編集] ページが開きます。

- 11** [参照] をクリックし、テーマのヘッダーロゴとして使用するイメージを探します。

注: イメージをアップロードし、拡張子を **JPEG、JPG、PNG**、または **GIF** にすることで、ヘッダーロゴとして使用できます。ヘッダーロゴのサイズは高さ **70** ピクセル、幅 **1680** ピクセル程度にする必要があります。テーマにアップロードするイメージを使用およびアップロードする権限が必要です。

- 12** 次の情報を入力します。

- **名前。** テーマに追加するロゴの名前を入力します。
- **ロゴタイプ。** ヘッダーロゴをページの上部に配置するか、下部に配置するかに応じて、メニューから [ヘッダー] または [テストフッターのテキスト] を選択します。[ヘッダー] を選択すると、ヘッダーロゴはそのままリンクおよ

びタブの背景に表示されます。[テストフッターのテキスト]を選択すると、フッターロゴがアプリケーション下部のリンクに配置されます。フッターロゴの幅は最大でも **200** ピクセルまでにする必要があります。

13 [保存] をクリックします。

注: テーマに追加する新規ロゴのプレビューを表示するには、**Oracle CRM On Demand** にサインインおよびサインアウトする必要があります。

[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの有効化

[ホームページ (個人)] のカスタムレイアウトに追加できるカスタムレポートを指定できます。これらのカスタムレポートは、ホームページレイアウトウィザードのステップ 2 の [使用可能なセクション] リストに表示されます。ホームページ (個人) のカスタマイズの詳細については、「企業の [ホームページ (個人)] のカスタマイズ」『123 ページ の「企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ」参照』を参照してください。

作業前の準備: この手順を実行するには、[ホームページ (個人)] で有効にするカスタムレポートを保存しておく必要があります。また、手順を実行するユーザーに、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と [ホームページ管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カスタムホームページレポートを指定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[ホームページ (個人) カスタムレポート] リンクをクリックします。
- 4 [ホームページ (個人) カスタムレポート] リストで、[新規ホームページレポート] をクリックします。
- 5 [名前] フィールドにカスタムレポート名を入力します。
- 6 [高さ] フィールドと [幅] フィールドで、[シングル] または [ダブル] を選択します。

ホームページの左端から右端の全体にレポートを表示するには、幅を [ダブル] に設定します。高さを [ダブル] に設定すると、ホームページに表示されるレポートの高さが他のセクションの **2 倍** になります。

- 7 必要に応じて、[今すぐレポートを実行] チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスをオンにすると、レポートは自動的に実行され、ユーザーはレポートを更新するためにリンクをクリックする必要はありません。

- 8 [レポートパス] フィールドに、レポートのパスを入力します。

[オープン分析] ウィンドウからレポートのパスを貼り付けることができます。レポートパスをコピーするには、次の操作を行います。

a [Answers の概要] ページの [オープン分析] ボタンをクリックします。

b レポートを選択します。

- c [項目] フィールドの値をコピーします。

例：

共有フォルダ：プリビルド分析/セールスステージ履歴分析：前月のセールスレポート

- 9 [保存] をクリックします。

レコードタイプの名前変更

ユーザーが使い慣れた用語を使用するために、レコードタイプの名前を変更したい場合があります。企業では、一部のレコードタイプについて、アプリケーションのデフォルトのレコードタイプ名とは別のレコード名を使用していることがあります。このような場合には、特定の要件に合わせて名前を変更できます。

レコードタイプ名を変更すると、次に示すアプリケーションのほとんどの部分で新しい名前が表示されます。

- タブとボタン
- ドロップダウンリスト
- 定義済みのフィルターリスト（[取引先ホームページ] の[取引先（全件）] リストなど）
- ページ（レコード詳細ページやリストページなど）のタイトルバー
- アクションバーの[作成] セクション
- ページのセクション名
- レコード割当の電子メール通知
- カスタムページセクション名

たとえば、[取引先] という表示名を[企業] に変更できます。[取引先] タブは[企業] タブになり、それに応じて他のセクションのタイトルも変更されます。

ただし、新しい名前が表示されない箇所もあります。名前を変更した場合は、次の部分で新しい名前が表示されないことをユーザーに通知します。

- カスタムフィルター済みリスト名
- カスタムフィールド名
- レポートと分析
- Oracle Outlook Email Integration On Demand
- ヘルプページ

注:すべての表示名は 50 文字以内である必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

レコードタイプの名前を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある[管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。
- 4 [Customize Record Types (レコードタイプのカスタマイズ)] ページで、該当する行に新しい名前を入力します。アプリケーションのインターフェイスの表示場所に応じて、表示名/単数、表示名/複数、表示名/短という 3 種類の名前を入力する必要があります。
注： [表示名/短] はタブに表示されるため、15 文字以下にしてください。
- 5 (オプション) 更新した名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
注： この更新した名前を他の有効な言語で表示する場合は、[翻訳] チェックボックスをオンにします。他の言語では (またはこのページの [翻訳言語] ドロップダウンリストから他の言語を選択した場合は)、翻訳した名前を手動で入力するまでは、更新された名前は括弧で囲まれた青いテキストで表示されます。これは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、翻訳された以前の表示名のままになり、ここで行った変更は反映されません。
- 6 新しい名前の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] ドロップダウンリストから、翻訳を入力する言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を適切な [表示名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
 - c リンクをクリックして更新したページに戻り、必要に応じて言語をもう一度選択します。
翻訳した名前が [表示名] カラムに黒いテキストで表示されます。

レコードタイプのアイコンの変更

レコードタイプに関連付けられたアイコン (タブやアクションバーの [作成] セクションにも表示される) を変更することができます。

作業前の準備： この手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

レコードタイプのアイコンを変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。
- 4 [レコードタイプ名の変更] ページで、レコードタイプの [Icon (アイコン)] フィールドにある [ルックアップ] アイコンをクリックします。

5 ウィンドウからアイコンを選択します。

6 [保存] をクリックします。

レコードタイプの追加

企業にカスタムレコードタイプを追加できます。たとえば、従業員が使用できるように [注文] タブを表示するとします。新しいレコードタイプを追加するには、**Oracle CRM On Demand** でカスタムオブジェクトレコードタイプの **1** つを名前変更して設定します。

カスタムオブジェクトレコードタイプは、カスタマーサポートが企業に対して使用可能にする必要があります。企業に対するカスタムオブジェクトレコードタイプの設定の詳細については、カスタマーサポートにお問い合わせください。

アプリケーションにレコードタイプを追加するには、次の操作を行います。

- 1 要件に合わせてカスタムオブジェクトレコードタイプの **1** つを名前変更します。
- 2 レコードタイプのフィールドを設定します。新しいレコードタイプ詳細ページに表示するフィールドを定義します。フィールドのセットは [フィールドセットアップ] ページに自動的に追加されます。これらのフィールドの名前を変更し、要件に基づいてカスタムフィールドを作成できます。
- 3 必要に応じて、カスタムレコードタイプのページレイアウトを作成します。
- 4 適切なユーザー役割に、新しいページレイアウトと関連情報セクションへのアクセスを許可します。

追加した新しいレコードタイプは次のエリアに表示されます。

- アクションバーの [作成] セクション
- アクションバーの [検索] セクション
- タブのあるレコードのホームページ（デフォルトのアイコンがその名前と共にタブに表示される）

デフォルトでは、新しいレコードのホームページには、レコードの [リスト] セクションと [最近表示されたレコード] セクションが含まれています。追加する各レコードタイプについて、フィールド、ページレイアウト（詳細および編集ページ）、などを設定する必要があります。

通常、新しいレコードタイプは、デフォルトで用意されているレコードタイプと同様に機能します。これらのレコードタイプのフィールド、ページレイアウト、およびリストページを設定できます。さらに、それぞれに、検索対象の **3** つのフィールド（名前フィールドと **2** つのクイック検索フィールド）、およびフィルターまたは並べ替え対象の **8** つのフィールドを含むデフォルトのフィールドのデフォルトセットが含まれています。

ただし、新しいレコードタイプは次のエリアでは使用できません。

- アサイメントマネージャ
- 売上予想
- 監査証跡
- デフォルトのグループ割当（グループで共有できません）

加えて、新しいレコードタイプには次の **3** つの制限があります。

- 新しいレコードタイプは、各国に固有の住所グループを含めることができません。

- デフォルトでは、[名前] フィールドだけが新しいレコードタイプに必要になります。
- 新しいレコードタイプには、重複チェックは実行されません。

Web サービスで新しいレコードタイプを使用する方法の詳細については、「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード『538ページ』](#)」を参照してください。

作業前の準備：次の点に注意してください。

- カスタムオブジェクトレコードタイプは、カスタマーサポートが企業用に設定する必要があります。
- この手順を実行するには、[アプリケーションをカスタマイズ] 権限と、新しいレコードタイプに使用するカスタムオブジェクトの適切な [アプリケーションをカスタマイズ] 権限の両方を含む役割が割り当てられている必要があります。カスタムオブジェクト **01**、**02**、および **03** レコードタイプには別個の権限があります（[アプリケーションのカスタマイズ - カスタムオブジェクト **01** の管理] 権限など）。他のカスタムオブジェクトレコードタイプについては、各権限がカスタムオブジェクトのグループに適用されます（アプリケーションのカスタマイズ - カスタムオブジェクト **04**～**10** の管理] 権限など）

レコードタイプを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [アプリケーションセットアップ] セクションで、[レコードタイプ名の変更] リンクをクリックします。
- 4 使用するカスタムオブジェクトレコードタイプの行に、情報を入力します（例：発注）。
詳細については、「[レコードタイプの名前変更『129ページ』](#)」を参照してください。レコードタイプを名前変更したら、カスタムオブジェクトレコードタイプのリンクが置き換えられ、レコードタイプは [アプリケーションカスタマイズ] ページの [レコードタイプセットアップ] セクションに、この名前が表示されます。
- 5 [保存] をクリックします。
- 6 [アプリケーションカスタマイズ] ページの [レコードタイプセットアップ] セクションで、新しいレコードタイプのリンクをクリックします。
- 7 [フィールド管理] セクションで、[フィールドセットアップ] リンクをクリックします。
- 8 [フィールドセットアップ] ページでは、次の操作を行えます。
 - （推奨） [フィールド名を変更] をクリックし、[名前] フィールドを変更します。
[名前] フィールドは、このレコードタイプに対して表示されるフィールドです。これは、[削除済み項目]、アクションバーの [最近の表示] セクション、および [ルックアップ] ウィンドウに表示されます。
アプリケーション全体を通じて、各レコードタイプは、レコードタイプで始まる [名前] と呼ばれるフィールドを持っています（取引先名、商談名など）。したがって、[注文] タブを追加する場合は、[名前] フィールドを [注文名] に名前変更できます。
 - [新規フィールド] をクリックし、カスタムフィールドを追加します。
これらのレコードタイプには、デフォルトのレコードタイプのカスタムフィールドの場合と同じ制限があります。

- [フィールド名を変更] をクリックし、このレコードタイプで検索するフィールドを指定します。[クイック検索 1] と [クイック検索 2] の行に必要なフィールド名を入力します。企業でターゲット検索を使用する場合、これらのフィールドはアクションバーの [検索] セクションに表示されます。

たとえば、[発注] タブを追加する場合、クイック検索フィールドの 1 つとして [発注番号] フィールドを指定することもできます。従業員が [検索] セクションから [発注] を選択すると、検索対象フィールドとして [発注番号] が表示されます。

- [フィールド名を変更] をクリックし、リストのカラム見出しとして表示するフィールドを指定します。インデックス付きの行に必要なフィールド名を入力します。これにより、レコードの並べ替えとフィルタに使用できるフィールドが決まります。

9 新しいレコードタイプの編集および詳細ページを設定します。

レコードの編集ページにフィールドを追加し、フィールドを別個のセクションにグループ分けし、これらのセクションを名前変更することができます。

他のレコードタイプとの関係を作成するには、フィールド（取引先、担当者、商談など）をページレイアウトに追加します。これにより、フィールドの横に [ルックアップ] アイコンが作成され、ユーザーは既存のレコードをこの新しいレコードタイプにリンクできます。

関連情報セクションを詳細ページに追加できます。

関連情報セクションとしてチームを追加する場合、ユーザーはこのレコードをチームメンバーとレコード単位で共有できます。

注：チームの関連情報セクションは、カスタムオブジェクト **01**、**02**、および **03** レコードタイプでサポートされます。他のカスタムオブジェクトレコードタイプではサポートされません。

手順については、「[役割のページレイアウトのカスタマイズ](#)」『88ページ の"[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)"参照』を参照してください。

10 （オプション）新しいレコードタイプを他のレコードの編集ページのフィールドとして、または他のレコードの詳細ページの関連情報セクションとして追加します。

11 必要に応じて、ユーザー役割にページレイアウトを追加します。実行方法については、「[役割の追加](#)」『207ページ』を参照してください。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [カスタムオブジェクトの多対多の関係について](#) 『137ページ』

フィールド、ピックリスト、基準について

このアプリケーションでは、売上予想とレポートに使用するフィールド名やピックリスト値は変更できません。ただし、ホームページ上のリストなどの組み込みのリストでは、ピックリスト値に基づいて含めるレコードが選択されます。アプリケーションは基になる言語に依存しないコードを使用して、標準のリストに含めるレコードを決めます。そのため、これらのリストに影響を与えることなく、ピックリスト値やフィールドの名前を変更できます。

注: Oracle CRM On Demand (標準アプリケーション) では、タスクの優先順位はタスクリストの矢印によって表されます。上向矢印は、[1 - 高] の優先順位を表します。矢印なしは、[2 - 中] の優先順位を表します。下向矢印は、[3 - 低] の優先順位を表します。

活動レコードの [優先順位] フィールドのデフォルトピックリスト値を変更すると、タスクリストの [優先順位] フィールドに矢印が表示されないことがあります。

添付資料設定について

レコードタイプに応じて、次の方法でファイルをレコードに添付できます。

- 親レコードで添付資料関連項目を使用
- 添付フィールドを使用

添付資料関連項目の設定について

設定済みの添付資料関連項目をサポートするレコードタイプでは、ユーザーが複数の添付資料を親レコードにリンクできるように、ページレイアウトおよびユーザー役割を設定できます。各添付資料項目には、ファイルまたは URL のいずれかを含めることができます。ユーザーがこの方法でファイルや URL を添付できるようにするには、次のようにページレイアウトおよびユーザー役割を設定する必要があります。

- 親レコードタイプのページレイアウトで、[添付資料] セクションが関連情報セクションとして使用可能である必要があります。
- ユーザー役割には、[添付資料] レコードタイプに対して必要な権限が含まれている必要があります。
- ユーザー役割のアクセスプロファイルには、親レコードタイプのアクセス設定で設定された添付資料関連レコードタイプへの適切なアクセス権が含まれている必要があります。

ページレイアウトのカスタマイズについては「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」および「[動的ページレイアウトの指定](#) 『105ページ』」を参照してください。ユーザー役割およびアクセスプロファイルの設定については、「[ユーザー管理とアクセス制御](#) 『138ページ』」を参照してください。

次のレコードタイプでは、事前構成添付資料関連項目がサポートされます。

- 取引先
- 活動
- キャンペーン
- 担当者
- カスタムオブジェクト 01、02 および 03
- 自動車ディーラー
- 資金
- 資金リクエスト
- 世帯
- 見込み客

- 商談
- パートナー
- プログラムメンバーシップ
- サービスリクエスト
- 解決策

添付資料は、警告レコードおよびセールスステージレコードにリンクすることもできます。

注:設定済みの添付資料関連項目を使用して添付資料が親レコードにリンクしている場合、ユーザーが親レコードを削除すると、その添付資料も削除されます。

企業の管理者は、設定済みの添付資料関連項目を使用して追加した添付資料の詳細を表示できます。詳細については、「[企業の添付資料の管理](#)」『568ページ』を参照してください。

添付フィールドの設定について

ユーザーは添付フィールドを使用して、単一ファイルをレコードに添付できます。添付フィールドがサポートされているのは次のレコードタイプです。

- カスタムオブジェクト 01、02、03、04 以降
- 在庫監査レポート
- サンプルトランザクション
- 署名

次のレコードタイプでは、添付資料のフィールドもサポートされます。ただし、これらのレコードタイプは、次のように関連項目としてのみ使用できます。

- 認定添付資料

認定添付資料レコードタイプは、認定レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- 申込書類添付資料

申込書類添付資料レコードタイプは、申込書類レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- ビジネス計画添付資料

「ビジネス計画添付資料」レコードタイプは、「ビジネス計画」レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- 認定レベル添付資料

認定レベル添付資料レコードタイプは、認定レベルレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- コース添付資料

コース添付資料レコードタイプは、コースレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- 試験添付資料

試験添付資料レコードタイプは、試験レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

- MDF リクエスト添付資料

MDF リクエスト添付資料レコードタイプは、MDF リクエストレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 目標添付資料

〔目標添付資料〕レコードタイプは、〔目標〕レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ パートナープログラム添付資料

パートナープログラム添付資料レコードタイプは、パートナープログラムレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 保険証券添付資料

保険証券添付資料レコードタイプは、保険証券レコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

■ 特別価格リクエスト添付資料

特別価格リクエスト添付資料レコードタイプは、特別価格リクエストレコードタイプの関連項目としてのみ使用可能にできます。

注:これらの設定では、親レコードが削除された場合でも、リンクされたレコードおよび添付されたファイルは **Oracle CRM On Demand** データベースから削除されません。たとえば、ユーザーが **MDF** リクエストレコードを削除しても、リンクされた **MDF** リクエスト添付資料レコード、およびこれらのレコードに添付されたファイルはデータベースから削除されません。

これらのレコードタイプのいくつかは、業界に固有であるか、**Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition** の場合のみ存在し、**Oracle CRM On Demand** のエディションでは使用できないことがあります。

一部のレコードタイプでは、添付フィールドが **Oracle CRM On Demand** の標準ページレイアウトに表示されます。必要に応じて、リストされている全レコードタイプの詳細ページレイアウトに添付フィールドを表示できます。次の 3 つの添付フィールドがあります。

- **添付資料。**レコードの編集ページ上では、このフィールドに最初にクリップアイコンが表示されます。ファイルがアップロードされた後は、レコードの詳細ページ上のこのフィールドに添付ファイルの名前とサイズが表示されます。〔レコード編集〕ページのこのフィールドにも、ペーパークリップアイコンおよびファイルの削除に使用できる〔X〕アイコンが表示されます。ユーザーがファイルをレコードに添付できるようにするには、このフィールドをページレイアウトに表示する必要があります。〔添付資料〕フィールドに表示されるファイル名とファイルサイズは計算された値であるため、このフィールドを検索フィールドとして使用することはできません。
- **添付資料: ファイル名。**これは読み取り専用フィールドで、ユーザーがアップロードしたファイルの名前が自動的に表示されます。〔添付資料: ファイル名〕フィールドは検索フィールドとして使用できます。このフィールドの表示はオプションです。
- **添付資料: サイズ (バイト)。**このフィールドには、添付資料のサイズが表示されます。このフィールドの表示はオプションです。

ページレイアウトのカスタマイズについては「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)」『88ページ』および「[動的ページレイアウトの指定](#)」『105ページ』を参照してください。

カスタムオブジェクトおよび添付フィールドの設定について

カスタムオブジェクトレコードタイプは、企業のビジネス要件を満たすように、次の方法で設定できます。

- カスタムオブジェクトレコードタイプを、別のレコードタイプの関連レコードタイプとして設定できます（カスタムオブジェクトレコードタイプは、**Oracle CRM On Demand** のほとんどの主要レコードタイプで関連レコードタイプとしてサポートされています）。

このように設定すると、親レコードとリンク先レコードタイプは **1 対多** 関係になります。この設定により、リンク先レコードタイプで添付フィールドを表示すると、ユーザーは複数の添付資料（**1 つの子レコードに 1 つずつ**）を親レコードにリンクできます。

たとえば、カスタムオブジェクト **04** の [詳細] ページに添付フィールドを表示し、カスタムオブジェクト **04** の名前を「*目標の添付資料*」に変更できます。次に、この「目標の添付資料」レコードタイプを [目標] レコードタイプの関連情報セクションとして使用可能にできます。

- カスタムオブジェクトレコードタイプを、他のレコードタイプと多対多の関係に設定できます。詳細については、「[カスタムオブジェクトの多対多の関係について](#)」『137ページ』を参照してください。
- カスタムオブジェクトレコードタイプを、添付資料レコードタイプとして使用できるように設定し、独自のタブ、ホームページ、リストなどを持つトップレベルレコードタイプとして使用可能にできます。

この設定は、多数のユーザーが興味を示す資料へのアクセス権をユーザーに付与する場合に使用できます。この設定により、ユーザーは、カスタム添付資料レコードタイプのレコードにアップロードされた添付資料を検索することもできます。

他のレコードタイプと同様に、添付フィールドがサポートされているレコードタイプをユーザーが使用できるように、ユーザーのユーザー役割およびアクセスプロファイルのアクセスレベルが適切であることを確認する必要があります。ユーザー役割およびアクセスプロファイルの設定については、「[ユーザー管理とアクセス制御](#)」『138ページ』を参照してください。

注: カスタムオブジェクトレコードタイプが別のレコードタイプの関連レコードとして設定されていると、親レコードが削除された場合でも、リンクされたカスタムオブジェクトレコードおよび添付されたファイルは **Oracle CRM On Demand** データベースから削除されません。前述の例では、カスタムの「目標の添付資料」レコードタイプが [目標] レコードタイプにリンクしています。この場合、ユーザーが親目標レコードを削除しても、リンクされた「目標の添付資料」レコード、および添付されたファイルはデータベースから削除されません。

カスタムオブジェクトの多対多の関係について

デフォルトでは、カスタムオブジェクト **01**、**02**、**03** と他のレコードタイプの間の関係はすべて多対多です。ただし、他のすべてのカスタムオブジェクトレコードタイプ（たとえば、カスタムオブジェクト **04** など）の場合、カスタムオブジェクトレコードタイプと他のレコードタイプ（他のカスタムオブジェクトレコードタイプを含む）の間の関係は、デフォルトではすべて **1 対多** になります。

他のカスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用することで、カスタムオブジェクトレコードタイプの多対多の関係を作成できます。

多対多の関係の作成の例

企業が会議場を所有および管理しており、他の企業、政府クライアントなどに会議施設を提供しているとします。あるカスタムオブジェクトレコードタイプを使用してイベントに関する情報を追跡し、別のカスタムオブジェクトレコードタイプを使用して各イベントに使用される部屋に関する情報を追跡します。各部屋は、多くのイベントに使用され、各イベントは多数の部屋を使用する可能性があるため、レコードタイプ間に多対多の関係が必要です。

この多対多の関係を作成するには、**3 つ目**のカスタムオブジェクトレコードタイプを共通テーブルとして使用して、各部屋の予約、またはセッションに関する情報を追跡します。その後、部屋とセッションの間に **1 対多** の関係を作成し、イベントとセッションの間の **1 対多** の関係を作成できます。この結果、部屋とイベントの間に多対多の関係ができます。

次の手順では、この例のレコードタイプと関係を設定する方法について説明します。新しいレコードタイプにカスタムオブジェクト **04**、**05**、および **06** が使用されます。

多対多の関係を設定するには

- 1 企業で使用するカスタムオブジェクトレコードタイプが設定されていない場合、カスタマーサポートに設定してもらいます。
- 2 カスタマーサポートがカスタムオブジェクトを設定したら、カスタムオブジェクト **04**、**05**、および **06** レコードタイプの名前を、それぞれ「部屋」、「イベント」、および「セッション」に変更します。
レコードタイプの名前変更については、「[レコードタイプの名前変更](#) 『129ページ』」を参照してください。
- 3 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーごとに、役割管理ウィザードのステップ 2「レコードタイプアクセス」で必要なアクセスレベルを設定します（必要なアクセスレベルは、ユーザーが自身の責任に基づいて決定します）。
ユーザーの役割の設定については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。
- 4 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーの役割ごとに、新しいレコードタイプのアクセスプロファイルを設定します。
少なくとも、次の内容を設定する必要があります。
 - 新しい部屋レコードタイプで、新しいセッション関連情報セクションに「表示」アクセス権を付与します。
 - 新しいイベントレコードタイプで、新しいセッション関連情報セクションに「表示」アクセス権を付与します。アクセスプロファイルの設定の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』」を参照してください。
- 5 新しいレコードタイプに新しいページレイアウトを作成します。
 - 新しい部屋レコードタイプ詳細ページレイアウトで、新しいセッションレコードタイプを関連情報セクションとして含めます。
 - 新しいイベントレコードタイプ詳細ページレイアウトで、新しいセッションレコードタイプを関連情報セクションとして含めます。ページレイアウトの設定の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」を参照してください。
- 6 新しいレコードタイプへのアクセスが必要なユーザーの役割ごとに、役割管理ウィザードのステップ 6 で作成したページレイアウトを割り当てます。
ユーザーの役割の設定については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

注: 前の手順で説明した設定の変更に加えて、他のレコードタイプをカスタマイズしたのと同じ方法で新しいレコードタイプをカスタマイズできます。レコードタイプのカスタマイズについては、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) 『61ページ』」を参照してください。

ユーザー管理とアクセス制御

ここでは、ユーザーの管理とアクセスの制御について説明します。

作業前の準備。 次の操作を実行します。

- 自分のユーザー役割に適切な権限が含まれていることを確認します。

- ユーザーを設定するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限または [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

注: [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限を持つユーザーが設定できるのは、独自のパートナー組織内のユーザーのみです。

- 社内のグループ、プロファイル、および役割を設定するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- ブックを設定するには、[ブックの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 社内のテリトリーを設定するには、[テリトリーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- ライセンス数を、有効にする必要があるユーザー数と比較します。有効なユーザーのみが **Oracle CRM On Demand** にアクセスできます。有効なユーザーの総数が企業のライセンス数を超えることはできません。ライセンスの状況の確認方法の詳細は、「[ライセンスの状況と有効なユーザーの確認](#) 『26ページ』」を参照してください。
- 役割とアクセスプロファイルの背景情報を確認しておきます。詳細は、次のトピックを参照してください。
 - [役割管理](#) 『202ページ』
 - [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
 - [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
 - [プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#) 『178ページ』
 - [関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) 『178ページ』
 - [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- ブック、役割、およびチームのデータアクセス管理に使用するプロファイルを決定します。
- 各ユーザーに割り当てる役割と、各ユーザーの上司を指定します。複数の事業分野に対応するために、組織に役割を追加する必要がある場合は、必要な新しい役割を作成します。

社内のすべてのユーザーの累積設定から企業のレポート階層とセールス目標が定義されます。

社内のユーザーについて、個別にユーザーの役割を指定する必要があります。ユーザーの役割と関連付けられたアクセスプロファイルによって、タブ、機能、およびレコードに対する従業員のアクセス権が決まります。また、アプリケーションを使用するときに従業員に表示されるページレイアウトも決まります。

ユーザー、アクセスプロファイル、役割、カスタムブック、およびグループを管理する手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [ユーザーの設定](#) 『141ページ』
- [ユーザーのセールス目標の設定](#) 『153ページ』
- [ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定](#) 『153ページ』
- [ユーザーのユーザーIDの変更](#) 『154ページ』
- [ユーザーのパスワードのリセット](#) 『155ページ』
- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) 『155ページ』
- [ユーザーのセキュリティ関連活動の確認](#) 『156ページ』
- [委任ユーザーの管理（管理者）](#) 『157ページ』
- [ユーザーの在庫期間の作成](#) 『160ページ』

- [ユーザーの無効化](#) 『160ページ』
- [パートナー管理者の設定プロセス（管理者）](#) 『161ページ』
- [ユーザーの設定（パートナー）](#) 『162ページ』
- [ユーザーのユーザーIDの変更（パートナー）](#) 『164ページ』
- [ユーザーのパスワードのリセット（パートナー）](#) 『165ページ』
- [ユーザーの無効化（パートナー）](#) 『166ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』
- [ブックの設定のプロセス](#) 『233ページ』
- [管理者の役割に設定されたブックの確認](#) 『234ページ』
- [ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#) 『238ページ』
- [レコード所有権モードの設定](#) 『239ページ』
- [ブックとブック階層の作成](#) 『239ページ』
- [ユーザーとブックの関連付け](#) 『241ページ』
- [ブックのアクセスプロファイルの作成](#) 『244ページ』
- [企業のブックの有効化](#) 『245ページ』
- [ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#) 『246ページ』
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#) 『248ページ』
- [ブックへのレコードの割り当て](#) 『249ページ』
- [グループの設定](#) 『256ページ』
- [テリトリーの設定](#) 『258ページ』

ヒント： 各役割についてテストユーザーを設定することをお勧めします。他のユーザーを有効にする前に、このテストユーザーを有効にして設定が正しく設定されていることを確認します。アクセス権、役割のレイアウト、レポートおよびデータ共有の階層、ワークフロー、およびその他のビジネスプロセスのカスタマイズを含むすべてのユーザー設定が完了するまで、他のユーザーを有効にしないでください。テストが終了したら、必ずテストユーザーを無効にしてください。

ユーザー管理

ユーザーは Oracle CRM On Demand のエンティティであり、Oracle CRM On Demand とやり取りできる場合とできない場合があります。たとえば、会社の従業員、パートナーまたは外部アプリケーションがユーザーになります。ユーザーの状態には有効と無効があります。有効なユーザーは Oracle CRM On Demand とやり取りでき、無効なユーザーはやり取りできません。有効なユーザーが Oracle CRM On Demand とやり取りするには、その企業で設定されたサインインおよびパスワードポリシーに基づいて、認証される必要があります。サインインおよびパスワードポリシーの詳細は、「[サインインおよびパスワードポリシーについて](#)」『26ページ』を参照してください。

各ユーザーには 1 つの役割が割り当てられます。また、同一の役割を複数のユーザーに割り当てることができます。Oracle CRM On Demand での役割は、セールスエグゼクティブやサービス管理者の職務など、ユーザーが組織で実行する職務に似

ています。組織では、職務ごとに固有の権限や許可が与えられます。同様に Oracle CRM On Demand においても、役割によって次の項目が定義されます。

- ユーザーに使用できる権限がある Oracle CRM On Demand の機能
- 保護された情報を扱うためにユーザーに与えられる一連の権限
- 情報を表示するユーザーインターフェイス設定

役割の詳細は、「[役割管理](#) 『202ページ』」を参照してください。ユーザーを管理するには、次のタスクを実行します。

- [ユーザーの設定](#) 『141ページ』
- [ユーザーのセールス目標の設定](#) 『153ページ』
- [ユーザーのユーザーIDの変更](#) 『154ページ』
- [ユーザーのパスワードのリセット](#) 『155ページ』
- [ユーザーのサインイン活動の確認](#) 『155ページ』
- [ユーザーのセキュリティ関連活動の確認](#) 『156ページ』
- [委任ユーザーの管理（管理者）](#) 『157ページ』
- [ユーザーの在庫期間の作成](#) 『160ページ』
- [ユーザーの無効化](#) 『160ページ』

関連トピック

ユーザー管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーページレイアウトについて](#) 『151ページ』
- [ユーザーの委任について](#) 『156ページ』
- [ユーザーフィールド](#) 『143ページ』
- [レコードの監査証跡の表示](#)
- [監査証跡のカスタマイズ](#) 『102ページ』

ユーザーの設定

ユーザーを設定する場合は、次のフィールドについて特別な注意が必要です。これらのフィールドによって、ユーザーがアクセス、表示、および実行できる内容が決まります。

- **【状態】フィールド。**初めてユーザーを設定するときに、ユーザーがすぐに Oracle CRM On Demand にアクセスできるように設定できます。そのためには、ユーザーレコードの適切なオプションを選択して、ユーザーの状態を[有効]に設定し、ユーザーレコードの保存時に、Oracle CRM On Demand に対して必要なサインイン情報をユーザーに送信するように要求します。

ユーザーが Oracle CRM On Demand にすぐにアクセスできないようにする場合は、ユーザーレコードを設定し、そのユーザーの状態を[無効]に設定します。ユーザーが Oracle CRM On Demand にアクセスできるようにするには、そのユーザーの状態を[有効]に変更し、パスワードのリセット機能を使用して、必要なサインイン情報をユーザーに電子メールで送信します。

- **「上司」または「上司（エイリアス）」フィールド。** レポート構造によって、マネージャがアクセスできるレコードが決まります。また、売上予想の計算にデータを含めるユーザーと、マネージャおよびエグゼクティブのレポートも決まります。ユーザーを設定するページには、「上司」フィールドまたは「上司（エイリアス）」フィールドのいずれかを挿入できますが、このフィールドの両方は指定しないでください。「上司」および「上司（エイリアス）」フィールドの詳細は、「[ユーザーレコードの「上司」および「上司（エイリアス）」フィールドについて](#)」『152ページ』を参照してください。

ヒント： レポート階層のトップレベルのユーザーを最初に入力してください。

- **「役割」フィールド。** ユーザーの役割によって、ユーザーがアクセスできるタブ、機能、レコードおよびページレイアウトが決まります。

注：ユーザーレコードは、インポートアシスタントを使用してインポートできます。このオプションの詳細については、「[インポートツールとエクスポートツール](#)」『347ページ』を参照してください。

新規ユーザー用のサインイン情報について

Oracle CRM On Demand にサインインする新規ユーザーには、Oracle CRM On Demand の一時 URL と仮パスワードが必要です。ユーザーアカウントの作成時に、次のように Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報をユーザーに送信するように要求できます。この要求は、ユーザーアカウントの作成後に実行することもできます。

- ユーザーアカウントの設定時にサインイン情報を送信する場合は、初めてユーザーレコードを保存する前に、そのユーザーレコードの電子メールチェックボックスをオンにします。

ユーザーレコードの作成に「簡易追加」ボタンを使用したか「ユーザーを追加」ボタンを使用したかによって、電子メールチェックボックスの名前が次のようになります。

- 「簡易追加」ページの「電子メール」チェックボックス
- 「ユーザー編集」ページの「[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信」チェックボックス

サインイン情報をユーザーにすぐに送信する場合は、初めてレコードを保存する前に、チェックボックスをオンにする必要があることに注意してください。サインイン情報が 2 回に分けて電子メールでユーザーに送信されます。

- 1 通目の電子メールには、一時 URL が記載されています。
- 2 通目の電子メールには、仮パスワード、およびユーザーのサインイン ID の詳細が記載されています。
- 後でサインイン情報をユーザーに送信する場合は、ユーザーレコードの作成時に電子メールチェックボックスをオフにします。

後でサインイン情報をユーザーに送信するときは、ユーザーレコードの「パスワードをリセット」ボタンをクリックして、Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報を送信するように要求できます。「パスワードをリセット」ボタンをクリックすると、サインイン情報は 2 通の電子メールでユーザーに送信されます。

- 1 通目の電子メールには、一時 URL が記載されています。
 - 2 通目の電子メールには、仮パスワードが記載されています。
- 2 通目の電子メールには、ユーザーのサインイン ID の詳細は記載されていません。

ユーザーの削除について

ユーザーは削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの状態を「無効化」に変更します。

作業前の準備。 社内のユーザーを設定するには、「ユーザーおよびアクセスの管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 新規ユーザーを追加するには、[新規ユーザー] をクリックします。
 - 複数のユーザーをすばやく追加するには、[簡易追加] をクリックします。

これにより、各ユーザーについて必要な限定情報を入力するための [簡易追加] ページが表示されます。たとえば、レポート階層は指定できません。

注: [簡易追加] ページのフィールドに加え、他の必須ユーザーフィールドを定義済みの場合、[簡易追加] は使用できません。

[簡易追加] ウィンドウに情報を入力したら、[保存] をクリックします。これによって [ユーザーリスト] ページが表示されます。

 - ユーザーの情報を編集するには、ユーザーの名前 (姓) をクリックし、[ユーザー詳細] ページで [編集] ボタンをクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページで、必要な情報を入力します。詳細については、「[ユーザーフィールド](#) 『143ページ』」を参照してください。
- 6 レコードを保存します。

ヒント: フィルター済みリストを作成することにより、表示するユーザーレコードを制限できます。作成手順については、「[リストの使用](#)」を参照してください。

ユーザーのフィルター済みリストを開くには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ドロップダウンリストからオプションを選択します。

ユーザーフィールド

ユーザーを設定するときは、次のフィールドに特に注意してください。

- 状態
- [上司] または [上司 (エイリアス)] (どちらのフィールドがユーザーのページレイアウトに表示されるかによって決まる)

■ 役割

これらのフィールドのエントリにより、ユーザーがアクセス、表示、および実行可能なものが決まります。

この表では、ユーザーのフィールド情報のいくつかについて説明します。この表に示されたフィールドをすべて表示するには、役割に [ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含める必要があります。いくつかのフィールドは読み取り専用です。さらに、表示されるフィールドは、[ユーザーリスト] ページから [ユーザー詳細] ページに移動したか、レコード内のユーザー名をドリルダウンして [ユーザー詳細] ページを表示したかによって異なります。これは、これらの詳細ページでは異なるページレイアウトが使用されているためです。ユーザーページレイアウトについては、「[ユーザーページレイアウトについて](#)」『151 ページ』を参照してください。

フィールド	説明
[主要ユーザー情報] セクション	
状態	<p>状態は、ユーザーが有効か無効かを示します。ユーザーのパスワードを設定し、ユーザーを有効にする手順については、「ユーザーの設定」『141 ページ』および「すべてのパスワードのリセット」『34 ページ』を参照してください。</p> <p>注:Oracle CRM On Demand では、ユーザーを削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの [状態] を [無効化] に変更します。</p>
上司	<p>ユーザーのマネージャ。各ユーザーはレポート作成と売上予想の目的でマネージャに報告する必要があります。</p> <p>注: 企業で設定されているユーザーのページレイアウトによっては、[上司] フィールドのかわりに [上司 (エイリアス)] フィールドが表示されることがあります。[上司 (エイリアス)] フィールドには、ユーザーのマネージャの簡単な識別子が表示されます。</p>
パートナー組織	<p>ユーザーが所属するパートナー組織の名前。このフィールドに入力するのは、ユーザーがパートナー組織のメンバーの場合のみです。</p> <p>注: パートナー組織のメンバーであり、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれているユーザーは、パートナー組織の他のメンバーを Oracle CRM On Demand のユーザーとして追加できます。ユーザー役割を使用して、パートナー組織に所属するユーザーを設定できる場合、このフィールドは読み取り専用です。</p>
役割	ユーザーに割り当てられる役割。役割の詳細は、「 役割管理 」『202 ページ』を参照してください。
プライマリグループ	このユーザーが追加されたグループ。読み取り専用です。
分析のデフォルトブック	(オプション) [レポートホームページ] および [ダッシュボードホームページ] のブックセレクトにデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブック。ユーザーレコードのこの設定により、データへのユーザーのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、ブック

フィールド	説明
	セレクトで別のブックを選択できます。
デフォルトブック	(オプション) [レポート] タブ以外の任意のエリアで作業しているときに、ブックセレクトにデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブック。ユーザーレコードのこの設定により、レコードへのユーザーのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、ブックセレクトで別のブックを選択できます。
[ユーザー詳細情報] セクション	
エイリアス	<p>ユーザーの簡単な識別子。たとえば、ユーザーの希望の名前またはニックネームなどです。</p> <p>[簡易追加] ページを使用してユーザーを追加すると、電子メールアドレスのアットマーク (@) の前のすべての文字がエイリアスになります。</p>
ユーザーID	<p>ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするための一意のシステム識別子。</p> <p>ユーザーID の最大文字数は 50 文字です。ユーザーID には、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アスタリスク (*) ■ バックスラッシュ (\) ■ 番号記号 (#) ■ 疑問符 (?) ■ スラッシュ (/) ■ チルダ (~)
電子メール	<p>完全な形式のユーザーの電子メールアドレス (たとえば isample@companysample.com)。ユーザーには、Oracle CRM On Demand へのアクセスを許可するための有効な電子メールアドレスを割り当てる必要があります。</p> <p>電子メールアドレスの最大文字数は 100 文字です。</p>
ユーザーのサインイン ID	読み取り専用フィールドです。この値は、会社のサインイン ID とユーザーID の組合せであり、ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするための一意のシステム識別子です。
顧客の希望	

フィールド	説明
電話連絡禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand マーケティングから電話連絡を受けません。
郵送禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーには Oracle CRM On Demand マーケティングからレターやパンフレットが郵送されません。
電子メール送信禁止	このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand マーケティングから電子メールを受信しません。
重要警告を常に送信する	<p>このチェックボックスがオンの場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand からの重要な情報が含まれる電子メールを受信します。これらのメッセージには、次の内容が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle CRM On Demand と関連製品の製品アップデートおよびサービスの変更に関する重要な情報 ■ 新しいメジャーリリースへのアップグレードに関する指示およびスケジュール ■ 通常のサポートプロセスを補足する優先度の高い通信や緊急の通信（ハードウェア障害の場合など） <p>ユーザーのこのチェックボックスを更新できるのは企業の管理者のみです。プライマリ担当者の場合は、このチェックボックスが自動的にオンになります。</p> <p>注:このチェックボックスは、今後のスケジュール済みメンテナンスのリマインダなど、Oracle CRM On Demand Customer Care で発行されるシステム警告を受信するユーザーの決定には使用されません。</p>
[ユーザー地域情報] セクション	
言語、ロケール、通貨、タイムゾーン	これらのフィールドで値を何も選択しない場合、設定済みの企業のデフォルト値が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、これらの設定を上書きすることもできます。
ユーザーセキュリティ情報	
レポートサブジェクトエリア	この設定では、 Oracle CRM On Demand Answers のリアルタイムサブジェクトエリアのレコードの表示を定義します。設定可能な値は、[マネージャ表示] と [チーム表示] です。このフィールドに値を設定しない場合は、設定済みの企業のデフォルト値が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集す

フィールド	説明
	るときに、この設定を上書きすることもできます。
履歴サブジェクトエリア	<p>この設定では、Oracle CRM On Demand Answers の履歴サブジェクトエリアのレコードの表示を定義します。設定可能な値は、[マネージャ表示]、[チーム表示] および [フル表示] です。このフィールドに値を設定しない場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの値は変更できます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。設定可能な値の説明を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ マネージャ表示。ユーザーは、自分が所有するデータと部下が所有するデータを表示できます。 ■ チーム表示。ユーザーは、自分が所有するデータとチーム内で自分が共有しているデータを表示できます。 ■ フル表示。ユーザーは、自分が所有するデータと自分が共有しているデータおよび部下が所有するデータと部下が共有しているデータを表示できます。
役割ベースですべてのレコードを読み取れます	<p>この設定では、Oracle CRM On Demand レポートで [すべてのレコードを読み取り可能] 設定を使用するかどうかを指定します。[すべてのレコードを読み取り可能] 設定では、特定のユーザー役割が Oracle CRM On Demand で特定のオブジェクトのすべてのレコード (取引先、商談、担当者など) を表示できるかどうかを指定します。この設定は、役割管理ウィザードのレコードタイプアクセスページで定義されます。[役割ベースですべてのレコードを読み取れます] 設定がユーザー役割のすべてのオブジェクトで有効な場合、そのユーザーは Oracle CRM On Demand レポートの特定のオブジェクトのすべてのレコードを表示することもできます。</p>
外部固有 ID	このフィールドを使用して、外部システムのユーザーの識別子を格納できます。
統合 ID	<p>このフィールドに値を入力することも、フィールドのデフォルト値を受け入れることもできます。ユーザーレコードの作成方法に従って、[統合 ID] フィールドには、次のようにデフォルト値が設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーインターフェイスを介して作成されたユーザーレコードでは、次のように設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ページレイアウトに [統合 ID] フィールドが表示されていて、そのフィールドに値が入力されていない場合、フィールドには、レコードが最初に保存される前にユーザーレコードに割り当てられた一時的な行 ID が設定されます。 ■ ユーザーのページレイアウトに [統合 ID] フィールドが表示されていない場合、フィールドに

フィールド	説明
	<p>は、ユーザーレコードの [行 ID] フィールドの値が設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーインターフェイス以外のチャンネルを介して作成されたユーザーレコードでは、[統合 ID] フィールドに値が入力されていない場合、フィールドには、ユーザーレコードの [行 ID] フィールドの値が設定されます。 <p>[統合 ID] フィールドの値は変更できます。</p>
シングルサインオンの外部 ID	<p>企業でシングルサインオンを使用するように設定されている場合、その企業の管理者は、Oracle CRM On Demand のユーザーを外部システムにマッピングする際に、[ユーザーのサインイン ID] フィールドを使用するかわりに、このフィールドを使用できます。</p> <p>ユーザーが個人のプロフィールを表示する場合、このフィールドは読み取り専用です。</p>
認証タイプ	<p>ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインする方法を決定します。</p> <p>企業レベルでの認証タイプがユーザーID/パスワードまたはシングルサインオン以外のタイプである場合、ユーザーレコードのこのフィールドは読み取り専用です。企業レベルでの認証タイプがユーザーID/パスワードまたはシングルサインオンである場合、その企業の管理者は、次のように、値を選択することも、ユーザーレコードのこのフィールドを空にまますることもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザー ID/パスワードのみ。 この値を選択した場合、ユーザーは Oracle CRM On Demand ユーザーサインイン ID およびパスワードを使用してサインインする必要があります。 ■ シングルサインオンのみ。 この値を選択した場合、ユーザーは企業のシングルサインオンメカニズムを使用してサインインする必要があります。この値を選択すると、ユーザーは Oracle CRM On Demand ユーザーサインイン ID およびパスワードを使用してサインインできません。 ■ ユーザー ID/PWD またはシングルサインオン。 この値を選択した場合、ユーザーは、Oracle CRM On Demand のユーザーサインイン ID およびパスワード、または企業のシングルサインオン方式のいずれかを使用してサインインできます。 ■ ブランク。 ユーザープロフィールのこのフィールドがブランクの場合、ユーザーには、企業レベルの認証タイプ設定が使用されます。 <p>ユーザーが個人のプロフィールを表示する場合、このフィ</p>

フィールド	説明
	<p>ールドは読み取り専用です。</p> <p>企業レベルでの認証タイプの設定の詳細は、「企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定『16ページ』」を参照してください。</p>
[通信設定] セクション	
[クリックでダイヤル] ポップアップを表示	<p>このチェックボックスは、Oracle Contact On Demand で設定されるユーザー用です。Oracle Contact On Demand では、[リスト] ページと [詳細] ページでクリックできるリンクとして電話番号が表示されます。ユーザーの [[クリックでダイヤル] ポップアップを表示] チェックボックスをオンにして、ユーザーが電話番号リンクをクリックすると、Oracle Contact On Demand テレフォニーシステムが通話を発信する前に [クリックでダイヤル] ウィンドウにメッセージが表示されます。</p>
次のコミュニケーションホームページ受信箱を表示します	<p>メニューから値（先月、最終日など）を選択して、ユーザーの活動を [コミュニケーションホームページ] 受信箱に表示する期間を決定します。期間が短いほど、表示されるコミュニケーション活動の数は少なくなります。メニューから [すべて] を選択するか、メニューを空白のままにすると、コミュニケーションページにはすべてのコミュニケーションが表示されます。この設定に対する変更を有効にするために、ユーザーはいったんサインアウトして、再度サインインする必要があります。</p>
最近活動を完了したコミュニケーションホームページを表示します	<p>メニューから値（先月、最終日など）を選択して、ユーザーの最近完了した活動を [コミュニケーションホームページ] に表示する期間を決定します。期間が短いほど、表示されるコミュニケーション活動の数は少なくなります。メニューから [すべて] を選択するか、メニューを空白のままにすると、コミュニケーションページにはすべての活動が表示されます。この設定に対する変更を有効にするために、ユーザーはいったんサインアウトして、再度サインインする必要があります。</p>
[追加情報] セクション	
テーマ名	<p>このフィールドで値を設定しない場合、企業のデフォルトテーマが使用されます。[テーマ名] ドロップダウンリストをクリックし、ユーザーに必要なテーマを選択することで、デフォルトを上書きできます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときに、この設定を上書きすることもできます。</p> <p>注: テーマは Oracle CRM On Demand の動作には影響を与えません。ユーザー役割に適切な権限が含まれている場合は、企業の要件に合った新しいテーマを作成できます。テーマの詳細は、「新しいテーマの作成『124ページの"新規テーマの作成"参照』」を参照してください。</p>

フィールド	説明
デフォルトの検索レコードタイプ	ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするとアクションバーの検索ピックリストに表示されるレコードタイプ。
サインイン時によろこページを表示	<p>ユーザーが Oracle CRM On Demand にサインインするときによろこページが表示されないようにするには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>注：サインイン時に、よろこページで [サインイン時によろこページを表示] チェックボックスをオフにすることもできます。</p>
資金承認限度	<p>これは、Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition のユーザー用のフィールドです。</p> <p>[状態] が [承認済みクレーム] に設定されている場合、資金リクエストごとに、このユーザーが承認できる資金の限度額。ユーザーがこの限度額を超えようとすると、Oracle CRM On Demand によりエラーメッセージが表示され、その資金リクエストは承認されません。</p>
メッセージセンターアニメーションの有効化	メッセージセンターとレコードの詳細ページのメモをアニメーション表示するかどうかを決定します。
レコードプレビューモード	<p>ユーザーのレコードプレビューモード。この設定に応じて、ユーザーがレコードのリンクの上にポインタを置いたとき、またはユーザーがレコードのリンクの上にポインタを置くと表示されるプレビューアイコンをクリックしたときに、プレビューウィンドウが開きます。プレビューウィンドウには、レコードの [詳細] ページの最初のセクションが表示されます。このフィールドで [オフ] を選択すると、ユーザーのレコードプレビュー機能が無効になります。</p> <p>レコードプレビュー設定は、企業レベルとユーザーレベルで指定できます。ユーザーレベルの設定は、企業のデフォルト設定より優先されます。このフィールドが空白の場合、企業のデフォルトレコードプレビュー設定が使用されます。ユーザーは、各自の個人設定を編集するときにこの設定を変更できます。</p>
ヘッドアップディスプレイ	<p>このチェックボックスがオンの場合は、詳細ページの関連情報セクションのリンクをブラウザウィンドウの最も下に表示できます。このリンクを使用すると、ページをスクロールダウンせずに関連情報セクションに移動できます。</p> <p>ヘッドアップディスプレイ設定は、企業レベルとユーザーレベルで指定できます。ユーザーレベルの設定は、企業のデフォルト設定より優先されます。このフィールドが空白の場合、企業のデフォルトヘッドアップディスプレイ設定が使用されます。ユーザーは、各自の個人設定を編集する</p>

フィールド	説明
	ときにこの設定を変更できます。
関連情報形式	レコードの「詳細」ページの関連情報セクションがリストで表示されるか、表として表示されるかが決まります。ユーザーのレコードの「関連情報形式」オプションが空白の場合は、ユーザーの役割のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの役割の「関連情報形式」オプションが空白の場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。
サブジェクトエリアのレポート作成に対するユーザータイムゾーンサポート	<p>このチェックボックスがユーザーのプロファイルにあり、オンの場合、リアルタイムのレポートに表示される日時はユーザーのタイムゾーンに従って表示されます。ユーザーのプロファイルにあるこのチェックボックスをオフにすると、リアルタイムのレポートに表示される日時は企業のタイムゾーンに従って表示されます。</p> <p>この設定をユーザーが使用できるようにするには、企業の管理者が、管理者の役割のユーザー管理ページレイアウトに、このフィールドを追加する必要があります。各自の個人プロファイルで、この設定をユーザーが有効または無効に変更できるようにするには、企業の管理者が、関連するユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトに、このフィールドを追加する必要があります。</p>

注：適切な権限（通常は企業の管理者）を持つユーザーは、他のユーザーの委任者を指名できます。また、自分の委任者を指名することもできます。委任者の指名の詳細は、「[ユーザーの委任について](#)」『156ページ』、「[委任ユーザーの追加](#)」、および「[委任ユーザーの管理（管理者）](#)」『157ページ』を参照してください。

ユーザーページレイアウトについて

ユーザーレコードには様々なタイプのページレイアウトを定義できます。ページレイアウトの各タイプは、Oracle CRM On Demand のユーザー詳細の異なるビューに対応します。次のタイプのユーザーページレイアウトは、ユーザーの「アプリケーションカスタマイズ」ページから使用できます。

- **ユーザーページレイアウト。** このタイプのページレイアウトは、レコードまたは「最近の表示」や「お気に入りリスト」からユーザー名をドリルダウンすると表示されるユーザー詳細ページに使用されます。これらのユーザー詳細ページは、企業内のすべてのユーザーが参照できます。このタイプのページレイアウトには関連情報セクションを使用できないため、これらのユーザー詳細ページには「レイアウトを編集」リンクはありません。
- **ユーザー管理ページレイアウト。** このタイプのページレイアウトは、「ユーザー管理とアクセス制御」の下にある「ユーザーリスト」ページから表示されるユーザー詳細ページに使用されます。
- **ユーザー所有者ページレイアウト。** このタイプのページレイアウトは、「設定（個人）」の「個人詳細」ページに使用されます。ユーザーは、「個人詳細」ページの関連情報セクションのレイアウトを制御できます。詳細については、「[詳細ページレイアウトの変更](#)」を参照してください。
- **パートナー管理ページレイアウト：** このタイプのページレイアウトは、パートナーユーザーが「パートナー自己管理」リンクからユーザーレコードにアクセスすると表示されるユーザー詳細ページに使用されます。「パートナー自己管理」リンクにアクセスするために、パートナーユーザーには「パートナー組織内のユーザーの管理」権限が必要です。

この独立したユーザーページレイアウトタイプは、プライベートデータを含むユーザーフィールドがある場合に役立ちます。このような状況では、ユーザーがレコードからユーザー名をドリルダウンするときにプライベートフィールドを表示しないよ

うにする必要があります。したがって、プライベートフィールドは、ユーザー所有者ページレイアウトタイプまたはユーザー管理ページレイアウトタイプのページレイアウトでは使用できるようにし、ユーザーページレイアウトタイプのページレイアウトでは使用できないようにします。

ページレイアウトは、特定の役割に割り当てられます。そのため、適切なページレイアウトを役割に割り当てることで、その役割を持つユーザーには表示権限のないプライベートフィールドが表示されないようになります。

次の例は、特定の役割のプライベートフィールドとして追跡するときに役立つフィールドのタイプです。

- テレセールス
 - 拒否されていない確認済み見込み客数
 - 連絡をとった見込み客数（月ごと）
- フィールドセールス要員
 - 見込み客から顧客への変換費用
- マーケティング管理者
 - キャンペーンの効果（費用の売上金額との比較）
- 地域セールスマネージャ
 - 四半期ごとの不成約顧客数
 - 地域競合会社に成約が流れた売上予定額

独立したユーザーページレイアウトタイプは、一部のユーザーに対してフィールドを読み取り専用にするときにも役立ちます。この場合、フィールドを編集できないようにするユーザーの役割に対して、ユーザー所有者ページレイアウトタイプのページレイアウトで、そのフィールドを読み取り専用フィールドで使用できるようにします。

注意：ユーザーページレイアウトへの [上司] フィールドおよび [上司 (エイリアス)] フィールドの追加には、特定の制約が適用されます。詳細は、「ユーザーレコードの [上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて [『152ページ』](#)」を参照してください。

ページレイアウトの作成については「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) [『88ページ』](#)」を、役割の設定については「[役割の追加](#) [『207ページ』](#)」を参照してください。

ユーザーレコードの [上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて

ユーザーレコードのマネージャ情報は、レポート階層および売上予想で使用されます。ユーザーのマネージャを指定できるように、ユーザー管理またはパートナー管理レイアウトタイプの各ページレイアウトには、次のいずれかのフィールドを表示する必要があります。

- **上司。** このフィールドにはユーザーのマネージャの氏名が表示されます。
- **上司 (エイリアス)。** このフィールドにはユーザーのマネージャの簡単な識別子が表示されます。

ただし、ユーザーページレイアウトを作成する場合は、両方のフィールドを同じユーザーページレイアウトに追加することはできません。単一のページレイアウトで [上司] フィールドと [上司 (エイリアス)] フィールドの両方を使用可能にすると、そのページレイアウトが割り当てられている役割を持つユーザーは、ユーザーレコードのリストまたはユーザー詳細ページで、インライン編集機能を使用できません。

同様に、[上司] と [上司 (エイリアス)] フィールドの両方をユーザーレコードタイプの同じ検索レイアウトに追加しないでください。検索レイアウトでこの両方のフィールドを使用可能にすると、その検索レイアウトが割り当てられている役割を持つユーザーは、ユーザーレコードを検索できません（つまり、検索が失敗します）。

ユーザーのセールス目標の設定

セールス要員が **Oracle CRM On Demand** を使用してその売上予想を管理している場合は、目標を設定する必要があります。セールス要員は自分自身の目標を設定できます。管理者はセールス要員の目標を設定できます。

この項では、管理者がユーザーの目標を設定する手順について説明します。

ユーザーの目標を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、目標を設定するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[目標] セクションまでスクロールダウンし、次の該当する操作を行います。
 - [新規目標] ボタンをクリックします。
 - 編集する目標の [編集] リンクをクリックします。
- 6 [目標を編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。
 - 年間目標を会計年度に対して均等に分割するには、[合計目標] に金額を入力し、[分割] をクリックします。
 - 月間目標を合計するには、各月の金額を入力し、[合計] をクリックします。
- 7 レコードを保存します。

ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定

各レコードタイプのブックセクタで、ユーザーにデフォルトで表示されるブックを決めることができます。ユーザーレコードについてこのように設定しても、そのユーザーのレコードに対するアクセスは制限されません。つまり、ユーザーはブックセクタで別のブックを選択できます。

次の手順で、レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを設定する方法を説明します。

レコードタイプごとにユーザーのデフォルトブックを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、デフォルトブックを設定するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。

- 5 [ユーザー詳細] ページで、[レコードタイプ別のデフォルトブック] セクションまでスクロールダウンし、次のいずれかを実行します。
 - a [新規] をクリックして、レコードタイプのデフォルトブックを追加します。
 - b 変更するデフォルトブックの [編集] リンクをクリックします。
- 6 [レコードタイプ別のデフォルトブックを追加する] ページで、レコードタイプとブックの設定を選択します。
- 7 変更を保存します。

ユーザーのユーザーID の変更

ユーザーのユーザーID は変更できます。

ユーザーID の最大文字数は 50 文字です。ユーザーID には、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。

- アスタリスク (*)
- バックスラッシュ (\)
- 番号記号 (#)
- 疑問符 (?)
- スラッシュ (/)
- チルダ (~)

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。ユーザーに電子メールアドレスやユーザーID の変更を許可するには、サインイン機能とパスワード管理機能を設定する必要があります。手順については、「[企業のパスワード管理の定義](#)『28ページ』」を参照してください。

ユーザーのユーザーID を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 6 [ユーザー編集] ページで、[ユーザーID] フィールドを編集します。
- 7 レコードを保存します。

新しいユーザーID が記載された電子メールがユーザーに送信されます。ユーザーは、新しいユーザーID とユーザーの既存のパスワードを使用して Oracle CRM On Demand にサインインできます。

ユーザーのパスワードのリセット

Oracle CRM On Demand では、ユーザーはセキュリティに関する 2 つ以上の質問に答えを提供する必要があります。これらの質問と回答は、後でユーザーがパスワードを忘れたときに使用できます。ユーザーがセキュリティに関する自分の質問を忘れた場合、またはロックアウトされたがすぐにアクセスする必要がある場合は、自分のパスワードをリセットできます。

注： この手順の結果は、[ユーザー編集] ページで [[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信] チェックボックスをオンにした場合と同じです。仮パスワードが記載された電子メールを送信する前に、ユーザーの役割と関連情報を設定する必要があります。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] および [会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、パスワードを変更するユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

ユーザーのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、パスワードをリセットするユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、タイトルバーの [パスワードをリセット] ボタンをクリックします。

ユーザーの既存のパスワードが新しい仮パスワードと置き換えられます。新しい仮パスワードが電子メールでユーザーに送信されます。

注： このイベントは、[ユーザー詳細] ページの [サインイン履歴] セクションに記録されます。

ユーザーのサインイン活動の確認

社内の各ユーザーのサインイン履歴を確認できます。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーのサインイン活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、サインイン活動を表示するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 ユーザーのサインイン活動を確認するには、[サインイン履歴] セクションまでスクロールダウンします。

ユーザーのセキュリティ関連活動の確認

セキュリティ関連活動の詳細は、ユーザーレコードの「監査」セクションで確認できます。

ユーザーレコードの「監査」および「監査証跡」セクションについて

監査情報は、次のようにユーザーレコードの2つの関連セクションに表示されます。

- **「監査」セクション。**「監査」セクションには、ユーザーのパスワードが最初に設定された時間やパスワードがリセットされた時間など、セキュリティに関連する活動の情報が表示されます。
- **「監査証跡」セクション。**ユーザーレコードの「監査証跡」セクションには、ユーザーレコードの特定のフィールドについて変更内容が表示されます。デフォルトでは複数のフィールドが監査されますが、企業の管理者は、追加の監査対象フィールドを指定できます。企業の管理者は、マスター監査証跡でユーザーの監査証跡情報を表示することもできます。レコードタイプの監査証跡をカスタマイズする方法については、「[監査証跡のカスタマイズ](#)『102ページ』」を参照してください。個々のレコードの監査証跡を表示する方法は、「[レコードの監査証跡の表示](#)」を参照してください。マスター監査証跡での監査証跡情報を表示する方法は、「[マスター監査証跡による監査証跡変更の確認](#)『44ページ』」を参照してください。

作業前の準備。次の手順を実行するには、「ユーザーおよびアクセスの管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーのセキュリティ関連活動を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」リンクをクリックします。
- 3 「ユーザー管理とアクセス制御」ページで、「ユーザー管理」リンクをクリックします。
- 4 「ユーザーリスト」ページで、表示するユーザーの「名前 (姓)」リンクをクリックします。
- 5 「監査」セクションまでスクロールし、ユーザーレコードのセキュリティ関連活動の詳細を確認します。

ユーザーの委任について

委任ユーザー機能が有効な場合、ユーザーは自分のレコードの所有者アクセスを他のユーザーに委任できます。加えて、該当する権限を持つユーザーは、他のユーザーの委任者を指名できます。通常は、企業の管理者のみが他のユーザーの委任者を指名できます。

委任ユーザー機能は、「企業プロフィール」ページの次のチェックボックスを使用して制御します。

- 管理者の表示が有効
- ブックセレクトの表示

委任ユーザー機能を有効にするには、これらのチェックボックスを両方ともオンにする必要があります。加えて、委任されたユーザーと委任元のユーザーの関連情報セクションが、次のようにユーザーの役割または管理者の役割の関連ページレイアウトで使用可能になっている必要があります。

- ユーザーが委任者を指名できるようにするには、ユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトで「委任されたユーザー」関連情報セクションを使用可能にする必要があります。

- 委任されたユーザーのリストをユーザーが確認できるようにするには、ユーザーの役割のユーザー所有者ページレイアウトで「委任されたユーザー」関連情報セクションを使用可能にする必要があります。
- 管理者が他のユーザーの委任者を指名できるようにするには、管理者の役割のユーザー管理ページレイアウトで、次の少なくとも 1 つの関連情報セクションを使用可能にする必要があります。
 - **委任されたユーザー。**ユーザーのレコードの「委任されたユーザー」セクションでは、管理者がユーザーの委任者を指名できます。
 - **委任元ユーザー。**ユーザーのレコードの「委任元ユーザー」セクションでは、管理者がユーザーを他のユーザーの委任者として指名できます。

委任ユーザーを指名するときは、次の情報に注意してください。

- 「委任されたユーザー - 役割」フィールドが、ユーザーの役割やデータアクセスに関連付けられることはありません。これは、企業の管理者がユーザーの委任を分類するために定義可能なピックリストです。このピックリストには、デフォルト値がありません。企業の管理者は、「[Delegated Users Field setup](#)（委任ユーザーフィールドのセットアップ）」ページから必要に応じてカスタマイズできます。ピックリストのカスタマイズの詳細については、「[ピックリスト値の変更『85ページ』](#)」を参照してください。
- 委任ユーザーは、プライマリユーザーが所有する、またはプライマリユーザーがチームやグループをととしてアクセスできるレコードへの、プライマリユーザーの所有者アクセスを取得します。レコードへのプライマリユーザーのデフォルトアクセスは取得しません。
- どのレコードタイプでも、委任ユーザーが委任アクセスを使用してそのタイプのレコードを表示するには、その委任ユーザーの役割で「アクセス可能」オプションが有効になっている必要があります。同様に、委任ユーザーがそのタイプのレコードを作成するには、その委任ユーザーの役割でレコードタイプの「作成可能」オプションが有効になっている必要があります。
- 委任ユーザーは、ブックセレクトの「サブ項目を含める」オプションを使用して、自分自身のレコードとプライマリユーザーのレコードをすべてリストに表示できます。代わりに、自分自身の名前を選択すると、所有権、役割、チームなどをととしてアクセスできるレコードのみを表示できます。または、プライマリユーザーの名前を選択すると、プライマリユーザーが所有する、またはチームやグループをととしてアクセス可能なレコードのみを表示できます。
- 委任ユーザーがプライマリユーザーにより委任されたデータを参照しているときでも、レポートサブジェクトエリアに関する委任ユーザーのデータアクセスレベル（つまり、マネージャ表示、チーム表示、またはフル表示）が適用されます。

委任ユーザーの管理（管理者）

企業の管理者は、ユーザーを他のユーザーの委任者として指名できます。ユーザー委任作業の詳細については、「[ユーザーの委任について『156ページ』](#)」を参照してください。

注：ユーザーは、各自の「[個人詳細](#)」ページを使用して各自の委任者を指名することもできます。ユーザーが委任者を指名する方法の詳細については、「[委任ユーザーの追加](#)」を参照してください。

このトピックで説明されている手順を実行するには、次の権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

- ユーザーおよびアクセスの管理
- ユーザーおよびアクセスの管理 - 委任されたユーザーの管理

また、各自の役割のユーザー管理ページレイアウトで、次の少なくとも 1 つの関連情報セクションを使用可能にする必要があります。

- **委任されたユーザー。**ユーザーのレコードの「委任されたユーザー」セクションでは、ユーザーの 1 人以上の委任者を指名できます。

- **委任元ユーザー。**ユーザーのレコードの「委任元ユーザー」セクションでは、ユーザーを他の 1 人以上のユーザーの委任者として指名できます。

「委任されたユーザー」および「委任元ユーザー」関連情報セクションが、委任者を指名する「ユーザー詳細」ページに表示されない場合は、次のようにしてセクションを使用可能にできます。

- 「ユーザー詳細」ページで、ページの右上隅にある「レイアウトを編集」をクリックし、セクションをページレイアウトに追加します。
- 必要な関連情報セクションがページレイアウトに追加できるようになっていない場合は、各自の役割のユーザー管理ページレイアウトをカスタマイズできます。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)『88ページ』」を参照してください。

ユーザーに 1 人以上の委任者を指名するには、次の手順を実行します。

ユーザーに 1 人以上の委任者を指名するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」をクリックします。
- 3 「ユーザー管理とアクセス制御」ページで、「ユーザー管理」をクリックします。
- 4 「ユーザーリスト」ページで、委任者を追加するユーザーの「名前 (姓)」リンクをクリックします。
- 5 「ユーザー詳細」ページで「委任されたユーザー」セクションまでスクロールダウンし、セクションのタイトルバーの「追加」をクリックします。
- 6 「委任されたユーザー - 編集」ページで「ルックアップ」アイコンをクリックします。
- 7 「ルックアップ」ウィンドウで、委任者として指名するユーザーを選択します。
- 8 「委任されたユーザー - 役割」フィールドに値が定義されている場合は、必要に応じて各ユーザーに対して委任ユーザーの役割を選択できます。
- 9 変更を保存します。

注 : Oracle CRM On Demand の「ユーザー詳細」ページの「委任されたユーザー」セクションでは、「役割」フィールドには委任者の役割が表示されます。「委任されたユーザー - 役割」フィールドには、委任者の委任ユーザーの役割が表示されず（定義されている場合）。

ユーザーの委任者リストから委任者を削除するには、次の手順を実行します。

ユーザーの委任者リストから委任者を削除するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」をクリックします。
- 3 「ユーザー管理とアクセス制御」ページで、「ユーザー管理」をクリックします。

- 4 [ユーザーリスト] ページで、委任者リストを更新するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[委任されたユーザー] セクションまでスクロールダウンします。
- 6 レコードレベルのメニューで、委任者リストから削除するユーザーの [削除] を選択します。
- 7 [OK] をクリックして、変更内容を確認します。

ユーザーを 1 人以上のユーザーの委任者として指名するには、次の手順を実行します。

ユーザーを 1 人以上のユーザーの委任者として指名するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、1 人以上のユーザーの委任者として指名するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで [委任元ユーザー] セクションまでスクロールダウンし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 6 [委任されたユーザー - 編集] ページで [ルックアップ] アイコンをクリックします。
- 7 [ルックアップ] ウィンドウで、現在のユーザーを委任者として指名するユーザーを選択します。
- 8 変更を保存します。

企業内の別の部署へのユーザーの異動など、特定の状況では、1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すことができます。1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すには、次の手順を実行します。

1 人以上のユーザーの委任者として機能するためのユーザーの権限を取り消すには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] をクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、委任者として機能するための権限を取り消すユーザーの [名前 (姓)] をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで、[委任元ユーザー] セクションまでスクロールダウンします。
- 6 現在のユーザーの委任者として機能する必要がなくなった各ユーザーについて、レコードレベルのメニューから [削除] を選択し、[OK] をクリックして変更内容を確認します。

ユーザーの在庫期間の作成

このトピックは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition 専用です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition を使用するセールス要員ごとに在庫期間を作成する必要があります。これは各セールス要員に対して 1 回のみ行ってください。在庫期間は、手動で、あるいは Oracle CRM On Demand のインポート機能を使用して作成できます。

注：通常、在庫期間は、会社で Oracle CRM On Demand が最初に設定されるときにインポート機能を使用して作成されます。

あるセールス要員のために最初の在庫期間を作成すると、その後はそのセールス要員の在庫期間を閉じるたびに、新しい在庫期間が自動的に作成されます。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーの在庫期間を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページで [新規在庫期間] をクリックします。

在庫期間の開始日はデフォルトでは現在の日付になります。

注：Oracle CRM On Demand ではユーザーの在庫期間が作成されたことを確認するメッセージは表示されず、[ユーザー詳細] ページは開いたままです。在庫期間が作成されたことを確認する場合は、[在庫期間] タブをクリックし、最近変更された在庫期間のリストを表示します。

ユーザーの無効化

ユーザーは削除できません。代わりに、ユーザーを無効にする必要があります。無効にしたユーザーにはライセンスは必要ありません。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

ユーザーを無効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] ページで、システムから削除するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。

- 5 [ユーザー詳細] ページで、[編集] ボタンをクリックします。
- 6 [ユーザー編集] ページで、[主要ユーザー情報] セクションの [状態] フィールドの値を [無効] にします。
- 7 レコードを保存します。

パートナー自己管理

企業の管理者は、パートナー組織の 1 名以上のユーザーをパートナー管理者として Oracle CRM On Demand に設定できます。パートナー管理者は、Oracle CRM On Demand のユーザーとしてのパートナー組織のメンバーの設定、それらのユーザーレコードの編集、それらのユーザーのパスワードのリセットやユーザー ID の変更といった、限定的なユーザー管理タスクの一部を実行できます。パートナー管理者は、Oracle CRM On Demand の [パートナー自己管理] ページでユーザーを管理します。

[パートナー自己管理] ページへのアクセスは、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限で制御されます。

注：企業の管理者は、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限をパートナー組織のメンバーに付与します。この権限はブランド所有者企業のユーザーには付与されません。

パートナー管理者の設定方法の詳細は、「[パートナー管理者の設定プロセス（管理者）](#)」『161ページ』を参照してください。[パートナー自己管理] ページでのユーザーの管理方法の詳細は、「[パートナー組織のユーザーの管理（パートナー）](#)」『162ページ』を参照してください。

パートナー管理者の設定プロセス（管理者）

[パートナー自己管理] ページへのアクセスを制御する権限は、[パートナー組織内のユーザーの管理] です。この権限により、パートナー管理者は、自らのパートナー組織のメンバーのみのユーザーレコードを操作できるようになります。パートナー管理者には、ユーザーおよびアクセスの管理権限は不要であり、付与しないでください。この権限によって、パートナー管理者が、自らのパートナー組織の外部のユーザーのユーザーレコードを表示して編集できるようになるためです。

セキュリティ上の理由から、企業の管理者は、パートナー管理者がパートナー組織のユーザーに与えることができる役割も決めます。このためには、パートナー組織レコードに役割を関連付けます。こうすると、パートナー管理者がユーザーを設定するときに、パートナー組織に関連付けた役割のみがユーザーに与えられます。パートナー管理者がユーザーに付与できる役割を制限すると、パートナー管理者がユーザーに不適切な権限を与える可能性や、ユーザーが見る必要のないデータにアクセスする可能性がなくなります。

注：パートナーレコードに役割を関連付けると、パートナー管理者がユーザーに与えることができる役割の選択肢が制限されます。これによって、ブランド所有者企業の企業管理者がパートナー組織のユーザーに割り当てることができる役割の選択肢が制限されることはありません。

パートナー管理者を設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 パートナー管理者のユーザー役割に、[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限を付与します。

役割への権限の付与方法の詳細は、「[役割の追加](#)」『207ページ』を参照してください。

注：パートナー管理者のために新しい役割を作成するか、適切な既存の役割を編集できます。また、様々なパートナー組織のパートナー管理者のために異なる役割を作成することもできます。

- 2 （オプション）ユーザーレコードのタイプに応じてカスタマイズした [パートナー管理] ページレイアウトを作成して、そのユーザーの役割に割り当てます。

カスタマイズしたページレイアウトの作成の詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#)『88ページ』」を参照してください。ページレイアウトの役割への割当の詳細は、「[役割の追加](#)『207ページ』」を参照してください。

- 3** (オプション) パートナー組織のユーザーのために固有の役割を作成する場合は、役割を設定します。

役割の設定の詳細は、「[役割管理](#)『202ページ』」と「[役割の追加](#)『207ページ』」を参照してください。

- 4** パートナー組織レコードの[パートナー役割] 関連情報セクションで、パートナー管理者がパートナー組織のユーザーに付与できる役割を追加します。

レコードのリンクの詳細については、「[選択したレコードへのレコードのリンク](#)」を参照してください。

- 5** パートナー管理者のために作成または編集した役割が、パートナー管理者としてこれから行動するユーザーにまだ割り当てられていない場合は、そのユーザーに役割を割り当てます。

役割のユーザーへの割当の詳細は、「[ユーザーの設定](#)『141ページ』」を参照してください。

パートナー組織のユーザーの管理 (パートナー)

作業前の準備: パートナー組織のユーザーを管理するには、役割に[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

自らの組織のユーザーを Oracle CRM On Demand の[パートナー自己管理] ページで管理します。[パートナー自己管理] ページには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル[管理] リンクからアクセスします。

自らのパートナー組織のユーザーを管理するには、次の操作を実行します。

- [ユーザーの設定 \(パートナー\)](#) 『162ページ』
- [ユーザーのユーザーID の変更 \(パートナー\)](#) 『164ページ』
- [ユーザーのパスワードのリセット \(パートナー\)](#) 『165ページ』
- [ユーザーの無効化 \(パートナー\)](#) 『166ページ』

関連トピック

ユーザーレコードのフィールドの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザーフィールド](#) 『143ページ』

ユーザーの設定 (パートナー)

作業前の準備。 次の手順を実行するには、役割に[パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

ユーザーを設定するときは、次のフィールドによって、ユーザーがアクセス、表示および実行できる項目が決まります。フィールドを正しく使用してください。

- **[状態] フィールド。** 最初にユーザーを設定するとき、ユーザーがただちに Oracle CRM On Demand にアクセスできるように設定できます。ユーザーの状態を[有効] に設定し、ユーザーレコードの保存時に必要なサインイン情報をユーザーに送信するように Oracle CRM On Demand に指定してください。

または、後でユーザーが Oracle CRM On Demand にアクセスできるようにするときは、ユーザーレコードを設定し、ユーザーの状態を[無効] に設定します。後になって Oracle CRM On Demand へのアクセスをユーザーに許

可するときに、ユーザーの状態を「有効」に変更し、パスワードのリセット機能を使用して必要なサインイン情報をそのユーザーに電子メールで送信します。

- **「[上司] または [上司 (エイリアス)] フィールド」**。レポート構造によって、マネージャがアクセスできるレコードが決まります。また、売上予想の計算やマネージャおよびエグゼクティブ向けのレポートにどのユーザーのデータを含めるかも決まります。ユーザーを設定するページには、「[上司] フィールドまたは [上司 (エイリアス)] フィールドのいずれかを挿入できますが、このフィールドの両方は指定しないでください。[上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドの詳細は、「ユーザーレコードの [上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて」『152ページ』」を参照してください。

ヒント： レポート階層のトップレベルのユーザーを最初に入力してください。

- **「[役割] フィールド」**。ユーザーの役割によって、ユーザーがアクセスできるタブ、機能、レコードおよびページレイアウトが決まります。

注： 企業の管理者が、パートナー組織のユーザーに割り当てることができる役割を決定します。

パートナー組織のユーザーを作成するとき、ユーザーレコードの「[パートナー組織] フィールド」には自動的にパートナー組織の名前が入力されます。これは変更できません。

新規ユーザー用のサインイン情報について

Oracle CRM On Demand にサインインする新規ユーザーには、Oracle CRM On Demand の一時 URL と仮パスワードが必要です。ユーザーアカウントの作成時に、次のように Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報をユーザーに送信するように要求できます。この要求は、ユーザーアカウントの作成後に実行することもできます。

- ユーザーアカウントを設定するときにサインイン情報を送信する場合は、ユーザーレコードで「[[保存] をクリックしたときにパスワードを送信]」チェックボックスをオンにし、ユーザーレコードの最初の保存を実行します。

情報をすぐにユーザーに送信する場合は、レコードを最初に保存する前にこのチェックボックスをオンにする必要があります。サインイン情報が 2 回に分けて電子メールでユーザーに送信されます。

- 最初の電子メールには一時 URL が含まれます。
- 2 通目の電子メールには、仮パスワード、およびユーザーのサインイン ID の詳細が記載されています。
- サインイン情報を後からユーザーに送信する場合は、ユーザーレコードを作成するときに「[[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信]」チェックボックスをオンにしないでください。

後でサインイン情報をユーザーに送信するときは、ユーザーレコードの「[パスワードをリセット]」ボタンをクリックして、Oracle CRM On Demand に対してサインイン情報を送信するように要求できます。「[パスワードをリセット]」ボタンをクリックすると、サインイン情報は 2 通の電子メールでユーザーに送信されます。

- 最初の電子メールには一時 URL が含まれます。
 - 2 通目の電子メールには、仮パスワードが記載されています。
- 2 通目の電子メールには、ユーザーのサインイン ID の詳細は記載されていません。

ユーザーの削除について

ユーザーは削除できません。従業員が退職した場合は、そのユーザーの「状態」を「無効」に変更します。

次の手順で、組織のメンバーを Oracle CRM On Demand のユーザーとして設定する方法を説明します。

ユーザーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 新規ユーザーを追加するには、[新規ユーザー] をクリックします。
 - ユーザーの情報を編集するには、ユーザーの名前（姓）をクリックし、[ユーザー詳細] ページで [編集] ボタンをクリックします。
- 4 [ユーザー編集] ページに情報を入力します。
詳細については、「[ユーザーフィールド](#) [143ページ]」を参照してください。
- 5 レコードを保存します。

ヒント: フィルター済みリストを作成することにより、表示するユーザーレコードを制限できます。フィルター済みリストの詳細は、「[リストの使用](#)」を参照してください。

ユーザーレコードのどのリストを開いても、リストフィルターの基準を満たし、パートナー組織のメンバーであるユーザーのみが表示されます。次の手順で、ユーザーのフィルター済みリストを開く方法を説明します。

ユーザーのフィルター済みリストを開くには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、ドロップダウンリストからオプションを選択します。

ユーザーのユーザーID の変更 (パートナー)

次の手順で、パートナー組織のユーザーのユーザーID を変更する方法を説明します。

ユーザーID の最大文字数は 50 文字です。ユーザーID には、空白文字または次の特殊文字を含めることができません。

- アスタリスク (*)
- バックスラッシュ (\)
- 番号記号 (#)
- 疑問符 (?)
- スラッシュ (/)
- チルダ (~)

作業前の準備。 次の手順を実行するには、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

ユーザーのユーザーIDを変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、ユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページで、[ユーザーID] フィールドを編集します。
- 6 レコードを保存します。

新しいユーザーID が記載された電子メールがユーザーに送信されます。ユーザーは、新しいユーザーID とユーザーの既存のパスワードを使用して Oracle CRM On Demand にサインインできます。

ユーザーのパスワードのリセット (パートナー)

Oracle CRM On Demand では、ユーザーはセキュリティに関して 2 つ以上の質問に答える必要があります。これらの質問と回答は、後でユーザーがパスワードを忘れたときに使用できます。ユーザーがセキュリティに関する自分の質問を忘れた場合、またはロックアウトされたがすぐにアクセスする必要がある場合は、自分のパスワードをリセットできます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[パートナー組織内のユーザーを管理します。] および [会社の管理 - すべてのパスワードのリセット] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。また、パスワードを変更するユーザーの役割には、[個人のパスワードをリセット] 権限が含まれている必要があります。

注： この手順の結果は、[ユーザー編集] ページで [[保存] をクリックしたときに仮パスワードを送信] チェックボックスをオンにした場合と同じです。仮パスワードが記載された電子メールを送信する前に、ユーザーの役割と関連情報を設定する必要があります。

次の手順で、パートナー組織のユーザーのパスワードをリセットする方法を説明します。

ユーザーのパスワードをリセットするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、パスワードをリセットするユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザー詳細] ページで、タイトルバーの [パスワードをリセット] ボタンをクリックします。

ユーザーの既存のパスワードが新しい仮パスワードと置き換えられます。新しい仮パスワードが電子メールでユーザーに送信されます。

注： このイベントは、[ユーザー詳細] ページの [サインイン履歴] セクションに記録されます。

ユーザーの無効化（パートナー）

ユーザーは削除できません。かわりに、ユーザーを無効にしてください。無効なユーザーにはライセンスが必要ありません。次の手順で、パートナー組織のユーザーを無効にする方法を説明します。

作業前の準備： 次の手順を実行するには、役割に [パートナー組織内のユーザーの管理] 権限が含まれる必要があります。

ユーザーを無効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[パートナー自己管理] リンクをクリックします。
[ユーザーリスト] ページが開き、パートナー組織のユーザーのリストが表示されます。
- 3 [ユーザーリスト] ページで、システムから削除するユーザーの [名前 (姓)] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザー詳細] ページで、[編集] ボタンをクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページで、[主要ユーザー情報] セクションの [状態] フィールドの値を [無効] にします。
- 6 レコードを保存します。

アクセスプロファイル管理

Oracle CRM On Demand では、[アクセスプロファイルリスト] ページとアクセスプロファイルウィザードでアクセスプロファイル进行管理します。アクセスプロファイルのページには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル [管理] リンクからアクセスします。

Oracle CRM On Demand のアクセスプロファイルは、プライマリレコードタイプと関連レコードタイプに対する権限の名前付きコレクションです。

プライマリレコードタイプは、独立レコードタイプとして使用できるレコードタイプです。関連レコードタイプは、親レコードを持つ必要があるレコードタイプです。

多くのプライマリレコードタイプは関連レコードタイプとしても使用できます。たとえば、[商談] は関連レコードタイプです。これは [商談] プライマリレコードタイプに基づいており、親取引先レコード（[取引先] レコードタイプに基づく）に関連しています。

権限は、レコードタイプのインスタンスであるレコードのデータの読み取り、作成、更新または削除を可能にするものです。権限は、アクセス権やアクセスレベルと呼ばれることもあります。取引先、担当者、サービスリクエストなど、レコードタイプごとに、レコードタイプそのものの権限を設定できます。一部のレコードタイプについては、関連レコードタイプの権限も設定できます。

プライマリレコードタイプと関連レコードタイプの様々な権限で構成される多数のアクセスプロファイルを設定できます。このような権限を認証されたユーザー（外部システムを含む）に付与するには、アクセスプロファイルを役割、ブック、チームおよびグループに関連付けます。

Oracle CRM On Demand では、定義済みのアクセスプロファイルのセットが提供されます。次に、標準のアクセスプロファイルの一部を示します。

- 編集
- 全部
- 読み取り専用
- 管理者のデフォルトアクセスプロファイル
- 管理者の所有者アクセスプロファイル

通常、アクセスプロファイルには、デフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルを区別するために名前が付いています。（定義済みのアクセスプロファイルのリストには、名前にデフォルトと所有者という語を含む対のアクセスプロファイルがあります。）所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルを割り当てる必要がある場合、ユーザー役割へのアクセスプロファイル割当てでのアクセスプロファイルを使用するかを決めるときに、このような名前が役立ちます。

〔編集〕、〔全部〕、〔読み取り専用〕のアクセスプロファイルは、すべての役割、チームまたはブックメンバーに付与できる一般のアクセスプロファイルです。たとえば、〔全部〕アクセスプロファイルを、管理者役割の所有者アクセスプロファイルに割り当てることができます。このプロファイルは、管理者役割を持つユーザーに、トップレベルレコードに対する関連レコードの作成、すべてのプライマリレコードタイプとその関連レコードタイプのレコードの取得、更新または削除の権限を与えます。

定義済みのアクセスプロファイルの使用、既存のアクセスプロファイルの編集、カスタムアクセスプロファイルの作成を行って、企業のニーズを満たすことができます。新しいアクセスプロファイルを作成するときには、既存のアクセスプロファイルをコピーし、新しい名前を付け、ニーズに合うようにそのコピーを編集するという方法もあります。

社内のアクセスプロファイルを表示、作成または改訂するには、〔ユーザーおよびアクセスの管理〕権限が必要です。アクセスプロファイルの管理に必要な権限は企業の管理者のみに付与することをお勧めします。アクセスプロファイルは保護データのセキュリティに直接影響するためです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて](#) 『169ページ』
- [チームの継承によるアクセスの適用について](#) 『170ページ』
- [プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) 『171ページ』
- [プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) 『172ページ』
- [関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) 『174ページ』
- [関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) 『175ページ』
- [〔アクセスプロファイルリスト〕ページの使用](#) 『177ページ』
- [プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#) 『178ページ』
- [関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#) 『178ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

役割のアクセスプロファイルについて

Oracle CRM On Demand の各役割には次の 2 つのアクセスプロファイル割当があります。

- デフォルトアクセスプロファイル割当
- 所有者アクセスプロファイル割当

1 つのアクセスプロファイルを複数の役割に割り当てることができます。同一のアクセスプロファイルが、1 つの役割のデフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルの両方になるように割り当てることができます。たとえば、[全部] アクセスプロファイル（定義済みアクセスプロファイルの 1 つ）を、管理者役割のデフォルトアクセスプロファイルと所有者アクセスプロファイルとして割り当てることができます。

アクセスプロファイルは、役割管理ウィザードのステップ 3 で役割に割り当てます。役割を追加する方法の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

デフォルトアクセスプロファイル

役割のデフォルトアクセスプロファイルでユーザーのアクセス権が制御されるレコードは、そのユーザーが所有していないが、ユーザーの役割のレコードタイプアクセス設定で関連するレコードタイプについて [すべてのレコードを読み取り可能] オプションが選択されたためにユーザーに表示できるレコードです。

ユーザーの役割でレコードタイプについて [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオフにした場合、そのユーザーは役割を介してそのレコードタイプのアクセス権を取得できません。ユーザーの役割のデフォルトアクセスプロファイルはそのレコードタイプに対しては使用されません。

アクセスプロファイルの命名規約に従って、デフォルトアクセスプロファイルとして割り当てのためにアクセスプロファイルを設定するときは、次のように名前が付けられます。

役割名デフォルトアクセスプロファイル

説明：

- 役割名は、アクセスプロファイルが使用される役割の名前です。

たとえば、管理者デフォルトアクセスプロファイルという名前は、このアクセスプロファイルが、管理者役割に関してレコードタイプとその関連レコードタイプのアクセス権を制御することを意味します。

所有者アクセスプロファイル

役割の所有者アクセスプロファイルは、ユーザーが所有しているレコードまたはユーザーの部下が所有しているレコードに対するそのユーザーのアクセス権を制御します。

アクセスプロファイルの命名規約に従って、所有者アクセスプロファイルとして割り当てられるようにアクセスプロファイルを設定するときは、次のように名前が付けられます。

role name 所有者アクセスプロファイル

説明：

- 役割名は、アクセスプロファイルが使用される役割の名前です。

たとえば、サービス管理者所有者アクセスプロファイルという名前は、このアクセスプロファイルが、サービス管理者役割に関してレコードタイプとその関連レコードタイプのアクセス権を制御することを意味します。

関連トピック

アクセスプロファイルの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

役割の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』
- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて

アクセスプロファイルは、チームまたはグループのメンバーであるユーザー（ユーザーブックを介して）や、カスタムブックに関連付けられているユーザーにアクセス権を与えるために使用されます。（「[役割のアクセスプロファイルについて](#)」『168ページ』」で説明するように、アクセスプロファイルは役割にも割り当てられます。）アクセスプロファイルをチームとブックに関してユーザーに割り当てると、役割に割り当てられたアクセスプロファイルで提供されるアクセス権で制限されていたとしても、ユーザーはレコードにアクセスできます。

注:Oracle CRM On Demand では、デフォルトブックは各ユーザーに割り当てられ、ユーザーの名前が付けられます。レコードがユーザーに割り当てられると、レコードはユーザーのデフォルトブックに割り当てられます。レコードがチームにより所有されている場合、チームはそのチームのメンバーとなっているユーザーの一連のデフォルトブックを代表します。ユーザーがチームのメンバーになると、そのユーザーのユーザーブックは、チームを構成するユーザーブックのセットに追加されます。ユーザーブックに自動的にレコードが関連付けられるのは、レコード所有者が変更された場合や、チームメンバーシップが変更された場合です。

グループは、特定のレコードタイプに対してサポートされる定義済みのチームです。あるレコードの所有者がグループのメンバーであるとき、そのグループの他のメンバーはそのレコードに関するチームに自動的に追加されます。グループメンバーがチームに追加されると、そのチームにおけるメンバーのアクセスプロファイルが[全部]に設定されます。レコードの所有者は後から各グループメンバーのチームアクセスプロファイル割当を編集して、異なるチームアクセスプロファイルをユーザーに割り当てることができます。

チーム内の各ユーザーブックには、チームのメンバーシップを介してアクセスできるレコードのユーザーアクセス権を制御するアクセスプロファイルを与える必要があります。アクセスプロファイルの[チームメンバーに付与可能]チェックボックスをオンにすると、任意のアクセスプロファイルをチームメンバーシップへの割当対象にすることができます。

同じく、カスタムブックに関連付けられている各ユーザーには、そのカスタムブックでレコードへのユーザーアクセスを制御するアクセスプロファイルを与える必要があります。アクセスプロファイルの[ブックユーザーに付与可能]チェックボックスをオンにすると、任意のアクセスプロファイルをブックとユーザーの関連付けへの割当対象にすることができます。

ユーザーブックおよびカスタムブックの詳細は、「[ブックの管理](#)」『212ページ』」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

チームの継承によるアクセスの適用について

チーム継承は、親取引先に関連する担当者と商談のオプションとして使用可能です。チーム継承は、他のタイプのチーム関係ではサポートされません。

注:ユーザーがチームのメンバーになると、そのユーザーのユーザーブックが、チームを構成するユーザーブックのセットに追加されます。

チーム継承は、[企業プロファイル] ページの [親チーム継承の有効化] チェックボックスで制御されます。[親チーム継承の有効化] チェックボックスが [企業プロファイル] ページで選択されている場合、取引先、担当者および商談チームのメンバーシップも次のように継承されます。

- 担当者が親取引先に関連する場合：
 - 取引先チームについてユーザーレコードで [担当者アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、各取引先チームメンバー（取引先所有者を含む）は、担当者チームのメンバーになります。
 - [全部] アクセスプロファイルが非アクティブ化されている場合でも、取引先の所有者には、担当者チームのメンバーシップに関して [全部] アクセスプロファイルがデフォルトで付与されます。
- 商談が親取引先に関連する場合：
 - 取引先チームについてユーザーレコードで [商談アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、各取引先チームメンバー（取引先所有者を含む）は、商談チームのメンバーになります。
 - [全部] アクセスプロファイルが非アクティブ化されている場合でも、取引先の所有者には、商談チームのメンバーシップに関して [全部] アクセスプロファイルが付与されます。
- 新しいメンバーが取引先チームに追加される場合：
 - 取引先チームについてユーザーレコードの [担当者アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、新しいメンバーも、取引先に関連する各担当者の担当者チームのメンバーになります。
 - 取引先チームについてユーザーレコードの [商談アクセス] フィールドにアクセスプロファイルが指定されている場合、新しいメンバーも、取引先に関連する各商談の商談チームのメンバーになります。
- 取引先所有者が変更される場合：
 - 関連するすべての商談レコードと担当者レコードに関して、新しい所有者が商談チームと担当者チームのメンバーになります。
 - 前の取引先所有者は、すでに追加されていた商談チームと担当者チームに残ります。
- ユーザーを取引先チームから削除しても、そのユーザーは、チーム継承によって追加されていた商談チームと担当者チームのメンバーとして残ります。

関連する担当者と商談に関して担当者チームと商談チームのメンバーになる取引先チームメンバーは、チーム継承によって付与されるアクセスが多すぎることがあります。その場合は、[企業プロファイル] ページの [親チーム継承の有効化] チェックボックスをオフにして、チーム継承を無効にできます。

「企業プロフィール」ページの「親チーム継承の有効化」チェックボックスがオフの場合は、取引先、担当者、および商談チームのメンバーシップは次のように処理されます。

- 取引先チームのユーザーレコードの「担当者アクセス」フィールドと「商談アクセス」フィールドは表示されません。
- 取引先チームの新しいメンバーとして追加されるユーザーは、取引先に追加される担当者と商談に関して、担当者チームと商談チームに追加されません。
- 「親チーム継承の有効化」チェックボックスが以前に企業プロフィールで選択されていた場合、チーム継承機能によってチームのメンバーになったユーザーは、それらのチームのメンバーとして残ります。

注:Oracle CRM On Demand では、チーム継承機能によってチームに追加されるユーザーと、手動でチームに追加されるユーザーは区別されません（つまり、チーム継承機能によってチームに追加されるユーザーブックは、手動でチームに追加されるユーザーブックと同様に扱われます）。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロフィール管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロフィールの設定プロセス](#) 『198ページ』

プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーがプライマリレコードタイプのレコードリストを表示しようとして、タブのクリック、検索の実行、または Web サービスの使用を行うと、Oracle CRM On Demand は次のプロセスを使用して、そのレコードタイプのレコードに対するユーザーのアクセス権を判別します。

- Oracle CRM On Demand は、ユーザー役割の権限によってユーザーに与えられた権限を判別します。
- Oracle CRM On Demand は、ユーザー役割のレコードタイプ設定によってユーザーに与えられた権限を判別します（アクセス可能、作成可能、すべてのレコードを読み取り可能）。

ユーザーが権限によって所定のレコードタイプのレコードを使用でき、ユーザー役割でレコードタイプに「すべてのレコードを読み取り可能」設定が選択されている場合、そのユーザーはそのレコードタイプのすべてのレコードを表示できます。

ユーザーが権限によって所定のレコードタイプのレコードを使用できるが、ユーザー役割でレコードタイプに「すべてのレコードを読み取り可能」設定が選択されていない場合、そのユーザーが表示できるのは、該当レコードタイプの所有しているすべてのレコードと、次のいずれかのアクセス制御コンポーネントによって表示を承認されている該当レコードタイプのレコードです。

- レポート階層
- カスタムブックのメンバーシップ
- ユーザーの委任
- チームのメンバーシップ

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーが、プライマリレコードの更新や削除、または詳細を表示するためのドリルダウンを行おうとすると、Oracle CRM On Demand は、次のプロセスを使用してユーザーがレコードに対して実行できるアクションを判別します。

- Oracle CRM On Demand は、ユーザーの役割に対するアクセスプロファイルで付与されたアクセスレベルを次のように判別します。
 - ユーザーがレコードの所有者である場合、ユーザーの所有者アクセスプロファイルが使用されます。
 - ユーザーがレコードの所有者ではないが、ユーザーの役割でそのレコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] オプションが選択されている場合、ユーザーのデフォルトアクセスプロファイルが使用されます。
- Oracle CRM On Demand は、次の各アクセス制御コンポーネントで付与されたアクセスレベルを判別します。
 - レポート階層
 - カスタムブックのメンバーシップ
 - ユーザーの委任
 - チームのメンバーシップ

レポート階層、カスタムブックのメンバーシップ、ユーザーの委任およびチームメンバーシップによって付与されるアクセスレベルを Oracle CRM On Demand が判別する方法は、このトピックでこれから詳しく説明します。Oracle CRM On Demand は常に、これらのアクセス制御コンポーネントそれぞれから最も許容度が高いアクセスレベルを使用します。アクセスプロファイルを作成して、ユーザー、ブックおよびチームに割り当てるときは、このことに注意してください。

レコードのアクセス権限の組合せにより、ユーザーがレコードに対して実行できるアクションが決まります。ユーザーがレコードに対して少なくとも読み取り専用アクセスを持つ場合、レコードの詳細が表示されます。そうでない場合、ユーザーにエラーメッセージが表示されます。

レポート階層によるアクセス権

レポート階層におけるユーザーの位置によって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand はユーザーの各部下について次の状況を確認します。

- 部下がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 部下がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チームメンバーとして部下に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。

注:部下がレコードの所有者でない場合、またはレコードのチームのメンバーでない場合、その部下はアクセスの計算に入りません。

Oracle CRM On Demand は、部下がアクセスの計算に入れられるすべてのアクセス権を検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを計算します。

カスタムブックのメンバーシップによるアクセス権

カスタムブックに対するユーザーのメンバーシップによって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand は次の状況を確認します。

- レコードがブックに関連付けられている場合、Oracle CRM On Demand は、レコードタイプのアクセスレベルを、ブックのメンバーであるユーザーに割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。
- 祖父母、親、子などの複数のレベルで構成されるブック階層内の子ブックにレコードが関連付けられている場合、アクセスレベルは次のように抽出されます。
 - ユーザーが 3 つすべてのブックのメンバーである場合、アクセスレベルは祖父母、親、子の各ブックのユーザーのアクセスプロファイルから導出されます。
 - ユーザーが祖父母ブックのみのメンバーである場合、アクセスレベルは祖父母ブックのユーザーのアクセスプロファイルから導出されます。

いずれにしても、レコードの 1 つ以上のアクセスレベルが [プライマリの継承] の場合は、プライマリレコードタイプの継承アクセスレベルが使用されます。レコードの複数のアクセスレベルが [プライマリの継承] の場合は、各アクセスプロファイルからのプライマリレコードタイプの継承アクセスレベルの結合が使用されます。Oracle CRM On Demand は、ブックメンバーシップがアクセスの最終的な計算に寄与するすべてのアクセスレベルを検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを決定します。

ユーザーの委任によるアクセス権

ユーザーの委任によって付与されるアクセス権を判別するために、Oracle CRM On Demand は各委任元（現在のユーザーが委任している各ユーザー）について次の状況を確認します。

- 委任元がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを委任元の所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チーム内の委任元に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元の部下がレコードの所有者である場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを部下の所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 委任元の部下がレコードに関するチームメンバーである場合、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルを、チーム内の部下に割り当てられているアクセスプロファイルから抽出します。

Oracle CRM On Demand は、ユーザーの委任によってアクセスの計算に入れられるすべてのアクセスレベルを検討し、ユーザーに与えられる最も許容度が高いアクセスレベルを決定します。

チームメンバーシップによるアクセス権

ユーザーがレコードに関するチームメンバーである場合（レコードの所有者ではない）、Oracle CRM On Demand は、プライマリレコードタイプのアクセスレベルをユーザーのチームメンバーシップのアクセスプロファイルから抽出します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーがレコードの [詳細] ページを正常に表示したとき、Oracle CRM On Demand は次のプロセスを使用して、ユーザーが表示できる関連レコードを判別します。

- Oracle CRM On Demand は、レコードタイプを表示するための適切な権限がユーザーの役割に含まれていることを確認します。ユーザーの役割にレコードタイプを表示するために必要な権限がない場合、その関連レコードタイプのレコードは表示されません。
- 関連レコードタイプがプライマリレコードタイプに基づく場合、Oracle CRM On Demand は、その関連レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオンになっていることを確認します。関連レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、その関連レコードタイプのレコードは表示されません。
- 親レコードの所有者が現在のユーザーである場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が現在のユーザーの部下 (レポート階層の任意のレベル) である場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が関連付けられていないユーザーの場合：
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] オプションが選択されている場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルから抽出します。
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] オプションが選択されていない場合、現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルは使用されません。

この場合、現在のユーザーが親レコードの [詳細] ページにアクセスできるのは、次の 1 つまたは複数に該当するときです。

- 現在のユーザーが親レコードのチームのメンバーです。
- 現在のユーザーの直接または間接の部下が親レコードにアクセスできます。
- 現在のユーザーが、親レコードを含むブックのメンバーです。または、親レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
- 現在のユーザーが親レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

このように Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを、適切な各アクセス制御コンポーネントを介して親レコードのアクセスプロファイルから抽出します。

- Oracle CRM On Demand は、次にすべての関連アクセスレベルを評価して、次のように [プライマリの継承] アクセスレベルが一連のアクセスレベルに含まれるかどうか、またどのレコードを表示するかを判別します。
 - [プライマリの継承] アクセスレベルが見つからない場合：
 - 最も許容度の高いアクセスレベルが [アクセスなし] の場合、関連レコードは表示されません。

- 最も許容度の高いアクセスレベルが「アクセスなし」以外の場合、すべての関連レコードが表示されます。現在のユーザーが表示を承認されていないレコードも含まれます。
- 「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかり、現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオンになっていると、すべての関連レコードが表示されます。
- 「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかったが、現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオフの場合、表示される関連レコードのセットにすべてのレコードが含まれるのは、次のいずれか 1 つに該当するときです。
 - 現在のユーザーが関連レコードを所有しています。
 - 現在のユーザーが関連レコードに関するチームのメンバーです。
 - 現在のユーザーの直接または間接の部下がレコードにアクセスできます。
 - 現在のユーザーが、関連レコードを含むブックのメンバーです。または、関連レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
 - 現在のユーザーが、関連レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

注：活動、オープンした活動、およびクローズした活動の関連レコードタイプは、前述のルールに対する例外です。活動関連レコードタイプに「プライマリの継承」アクセスレベルが見つかったが、現在のユーザーの役割で「活動」レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオフの場合、表示される一連の関連活動には、ユーザーが所有する活動、ユーザーが別のユーザーに委任した活動、およびユーザーが所属しているグループが所有する活動のみが含まれます。現在のユーザーがブック経由でのみアクセスできる活動、ユーザーが別のユーザーの委任者であるという理由でのみ現在のユーザーがアクセスできる活動、および現在のユーザーがレポート階層経由でのみアクセスできる活動は、一連の関連活動には含まれません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法

ユーザーが関連レコードの更新や削除、または詳細を表示するドリルダウンを実行しようとする、Oracle CRM On Demand は、次のプロセスを使用してユーザーがレコードに対して実行できるアクションを判別します。

- 親レコードの所有者が現在のユーザーである場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が現在のユーザーの部下（レポート階層の任意のレベル）である場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーの所有者アクセスプロファイルから抽出します。
- 親レコードの所有者が関連付けられていないユーザーの場合：
 - 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されている場合、Oracle CRM On Demand は、関連レコードタイプのアクセスレベルを現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルから抽出します。

- 現在のユーザーの役割で関連レコードタイプの「すべてのレコードを読み取り可能」オプションが選択されていない場合、現在のユーザーのデフォルトアクセスプロファイルは使用されません。

この場合、現在のユーザーが親レコードの「詳細」ページにアクセスできるのは、次の 1 つまたは複数に該当するときです。

- 現在のユーザーが親レコードのチームのメンバーです。
- 現在のユーザーの直接または間接の部下が親レコードにアクセスできます。
- 現在のユーザーが、親レコードを含むブックのメンバーです。または、親レコードが、現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
- 現在のユーザーが親レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。

関連レコードへのアクセスが親レコードのコンテキストを介して与えられるとき、**Oracle CRM On Demand** は、該当する各アクセス制御コンポーネントのアクセスプロファイルから関連レコードタイプの適切なアクセスレベルを抽出します。

- 次のいずれかに該当する場合、**Oracle CRM On Demand** は、関連レコードについて、現在のユーザーの関連レコードとの関係からもアクセスレベルを抽出します。
 - 現在のユーザーが関連レコードに関するチームのメンバーです。現在のユーザーが関連レコードの所有者である場合は、ユーザーはチームにも属しています。このため、所有者アクセスプロファイルが使用されます。
 - 現在のユーザーの直接または間接の部下が関連レコードにアクセスできます。
 - 現在のユーザーが関連レコードを含むブックのメンバーです。または関連レコードが現在のユーザーがメンバーであるブックのサブブックに含まれます。
 - 現在のユーザーが、関連レコードにアクセスできる別のユーザーによって委任されています。
- 次に、**Oracle CRM On Demand** は、適用されるすべてのアクセスレベルを評価して、「プライマリの継承」アクセスレベルが一連のアクセスレベルにあるかどうかを判別します。
 - 「プライマリの継承」アクセスレベル（またはその組合せのいずれか）が、適用される一連のアクセスレベルで見つかった場合、関連レコードタイプは自らのプライマリレコードタイプの役割設定とアクセス設定を継承します。「プライマリの継承」アクセスレベル設定により、ユーザーがレコードに対して実行できるアクションが決まります。**Oracle CRM On Demand** が複数の「プライマリの継承」アクセスレベルを見つけると、そのアクセスレベルの組合せが決まります。「プライマリの継承」アクセスレベルおよび組合せの詳細は、「[関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#)」『178ページ』を参照してください。
 - 「プライマリの継承」アクセスレベル（またはその組合せのいずれか）が、適用される一連のアクセスレベルで見つからないが、関連レコードタイプに対応するプライマリレコードタイプがある場合、**Oracle CRM On Demand** は、プライマリレコードタイプと関連レコードタイプのアクセスレベルの交差を判別します。

たとえば、商談関連レコードタイプのアクセスレベルが「読み取り専用」で、対応する商談プライマリレコードタイプのアクセスレベルが「読み取り/編集」の場合、アクセスレベルの交差は「読み取り専用」になります。

関連レコードタイプについて得られたすべてのアクセスレベルの組合せにより、ユーザーがそのレコードタイプのレコードに対して実行できるアクションが決まります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』

- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

[アクセスプロファイルリスト] ページの使用

[アクセスプロファイルリスト] ページでは、次の表のアクションを実行できます。

操作	手順
新しいアクセスプロファイルの追加	<p>[アクセスプロファイルリスト] ページのタイトルバーの [新規] をクリックします。アクセスプロファイルウィザードが開きます。</p> <p>アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「アクセスプロファイルの設定プロセス 『198ページ』」を参照してください。</p>
既存のアクセスプロファイルのコピーによる新しいアクセスプロファイルの追加	<p>アクセスプロファイル名の横のレコードレベルメニューで [コピー] を選択します。アクセスプロファイルウィザードが開きます。</p> <p>アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「アクセスプロファイルの設定プロセス 『198ページ』」を参照してください。</p>
アクセスプロファイルの無効化	<p>アクセスプロファイルの [無効化] チェックボックスをオンにします。</p> <p>アクセスプロファイルを無効にすると、役割、チームまたはブックとの新たな関連付けで使用できなくなります。ただし、無効になったアクセスプロファイルは、別のアクセスプロファイルを役割、チームまたはブックに割り当てるまで役割、チームまたはブックに関連付けられていたアクセスプロファイルとして引き続き機能します。</p>
アクセスプロファイルリストを表示する言語の選択	<p>[アクセスプロファイルリスト] ページのタイトルバーにある [翻訳言語] フィールドで、アクセスプロファイルのリストを表示する言語を選択します。Oracle CRM On Demand でその企業に対してサポートされている任意の言語でリストを表示できます。</p> <p>注: 既存のアクセスプロファイルに翻訳済みのアクセスプロファイル名がない場合、アクセスプロファイル名は翻訳されず、カッコ内に表示されます。</p>

アルファベット文字検索を使用すると、アクセスプロファイルのリストをフィルター処理できます。アルファベット文字検索の詳細は、「リストのフィルター処理」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて

プライマリレコードタイプのアクセス権を付与または無効化するには、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 でアクセスレベルを設定します。アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#)『198ページ』」を参照してください。

アクセスレベルは、レコードタイプに関して付与できる最も許容度が低いレベルの権限です。各プライマリレコードタイプでは、1 つ以上のアクセス制御コンポーネント（役割、レポート階層、チームおよびブック）を介してこのアクセスプロファイルを継承するすべてのユーザーのアクセス権を指定します。たとえば、ユーザーが商談リストから商談にドリルダウンするとき、ユーザーが商談の詳細を表示して操作を実行するためのアクセス権は、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 の「商談」プライマリレコードタイプのアクセスレベルによって制御されます。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルに関するここでの説明は、アクセスレベルが個別に動作する場合の機能に関するものです。ユーザーが表示できるレコードとユーザーがレコードに対して実行できる操作は、1 つ以上のアクセスレベルの組合せで制御され、これらのアクセスレベルは 1 つ以上のアクセスプロファイルによってレコードに適用されます。

特別の権限によって制御されるレコードタイプは、すべてのアクセスプロファイルに表示され、アクセスレベルがデフォルトで設定されています。プライマリレコードタイプの場合、デフォルト設定は「読み取り専用」です。様々なレコードタイプに必要なアクセスレベルをユーザーに与えるには、デフォルト設定を変更する必要があります。

各プライマリレコードタイプのアクセスレベルは、次のいずれかに設定できます。

- **読み取り専用。**「読み取り専用」アクセスレベルでは、ユーザーはプライマリレコードに対して編集または削除などの操作を実行できません。
- **読み取り/編集。**「読み取り/編集」アクセスレベルでは、ユーザーがプライマリレコードを表示して編集できます。
- **読み取り/編集/削除。**「読み取り/編集/削除」アクセスレベルでは、ユーザーはプライマリレコードの表示、編集および削除を実行できます。

注: プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 の設定では制御されません。プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、役割管理ウィザードのステップ 2 の設定で制御されます。役割の詳細は、「[役割管理](#)『202ページ』」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#)『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#)『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#)『198ページ』

関連するレコードタイプのアクセスレベルについて

アクセスプロファイルウィザードのステップ 2 で、関連レコードタイプへのアクセス権を付与または無効化します。アクセスプロファイルウィザードの使用の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#)『198ページ』」を参照してください。

特別な権限によって制御される関連レコードタイプは、すべてのアクセスプロファイルに表示され、アクセスレベルがデフォルトで「アクセスなし」に設定されます。様々なレコードタイプに必要なアクセスレベルをユーザーに与えるには、デフォルト設定を変更する必要があります。

たとえば、[カスタムオブジェクト 04] レコードタイプは、親の [商談] レコードタイプの関連レコードタイプです。[全部] アクセスプロファイルでは、[カスタムオブジェクト 04] 関連レコードタイプのアクセスレベルはデフォルトの [アクセスなし] に設定されています。この結果、商談チームに所属し [全部] アクセスプロファイルを持つユーザーは、[カスタムオブジェクト 04] 関連レコードタイプに基づく関連レコードタイプを表示できません。ユーザーが商談レコードについて [カスタムオブジェクト 04] レコードを表示できるようにするには、デフォルトアクセスレベルを変更する必要があります。

このトピックの内容は次のとおりです。

- レコードの関係
- 関連レコードタイプのアクセスレベルオプション

レコードの関係

親レコードタイプとその関連レコードタイプ（子レコード）の関係によって、関連レコードタイプに割り当てられるアクセスレベルオプションが決まります。

関係のタイプと対応するアクセスレベルオプションを次に示します。

- **1 対多関係。** 1 対多関係では、子レコードはプライマリレコードタイプに基づき、1 つの親レコードが多数の子レコードを持つことができます。たとえば、取引先関連情報ページでは、[商談] は、[商談] という名前の対応するプライマリレコードタイプを持つ関連レコードタイプです。1 対多関係では次のアクセスレベルが使用可能です。

- 表示
- 読み取り専用
- アクセスなし
- プライマリの継承

注: [プライマリの継承] アクセスレベルが使用できるのは、特定の 1 対多関係のみです。

- **1 対子関係。** 1 対子関係は 1 対多関係に似ており、親レコードが多数の子レコードを持つことができます。ただし、1 対子関係では、子レコードに基づくレコードタイプに対応するプライマリレコードタイプがありません。[添付資料]、[メモ] および [チーム] は、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプの例です。

注: この規則の例外は、商談に対する担当者子レコード間の関係です。[担当者] レコードタイプには対応するプライマリレコードタイプがありますが、商談と担当者の間の関係は 1 対子関係です。ユーザーは、既存の担当者の商談への追加や、商談からの担当者の削除を行えます。ユーザーは、商談から新しい担当者を作成することはできません。

次のアクセスレベルが 1 対子関係で使用可能です。

- 読み取り/作成
- 読み取り/作成/編集
- 読み取り/編集
- 読み取り/編集/削除
- 読み取り専用
- アクセスなし
- 全部
- **1 対読み取り専用関係。** ただし、関係の名前からわかるように、1 対読み取り専用関係ではユーザーは子レコードを編集または作成できません。[監査証跡] は、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプの例です。Oracle

CRM On Demand によって [監査証跡] レコードタイプが作成されます。1 対読み取り専用関係では次のアクセスレベルが使用可能です。

- 読み取り専用
- アクセスなし

- **多対多関係。** この関係では、関係の表示方法に応じて、各レコードタイプのレコードが互いの親または子になることができます。たとえば、1 つの取引先に多数の担当者が対応することがあります。逆に、1 名の担当者が多数の取引先を担当することもあります。多対多関係では次のアクセスレベルが使用可能です。

- 読み取り/作成
- 読み取り専用
- 表示
- アクセスなし
- プライマリの継承
- プライマリの追加/継承
- プライマリの追加/削除/継承

注: [プライマリの追加/継承] および [プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルは、選択した多対多関係のみで使用可能です。

関連レコードタイプのアクセスレベルオプション

関連レコードタイプのすべてのアクセスレベルオプションを次に示します。

- **アクセスなし。** [アクセスなし] オプションは、すべての関連レコードタイプで使用可能です。ユーザーは関連リストのレコードを表示できません。
- **読み取り専用。** [読み取り専用] アクセスレベルでは、ユーザーは親レコードでの関連レコードのインライン編集を行えません。
- **読み取り/作成。** [読み取り/作成] アクセスレベルは、1 対子レコードである関連レコードタイプまたは多対多関係に含まれる関連レコードタイプで使用できます。1 対子レコードでは、[読み取り/作成] アクセスレベルによりユーザーが新しいレコードの作成や詳細を表示するための既存のレコードのドリルダウンを行えますが、レコードの編集または削除は行えません。多対多関係では、[読み取り/作成] アクセスレベルによりユーザーは既存のレコードを親レコードに対する子レコードとして関連付けることができますが、既存の関連付けを削除することはできません。
- **読み取り/作成/編集。** [読み取り/作成/編集] アクセスレベルは、1 対子レコードである関連レコードタイプで使用できます。ユーザーは、新規レコードの作成や詳細を表示するための既存レコードのドリルダウン、また必要な場合にはレコードの編集を行えます。[読み取り/作成/編集] アクセスレベルではユーザーは子レコードを削除できません。
- **読み取り/編集。** [読み取り/編集] アクセスレベルは、1 対読み取り専用関係の読み取り専用である関連レコードを除き、すべての関係で使用可能です。[読み取り/編集] アクセスレベルでは、ユーザーが関連レコードを表示および編集できます。
- **読み取り/編集/削除。** [読み取り/編集/削除] アクセスレベルは、1 対子関係の子レコードである関連レコードタイプで使用可能です。[読み取り/編集/削除] アクセスレベルでは、ユーザーはレコードの詳細を表示するための既存レコードのドリルダウン、レコードの編集、またはレコードの削除を行うことができます。[読み取り/編集/削除] アクセスレベルでは、ユーザーは新しい子レコードを作成することはできません。

- **全部。** [全部] アクセスレベルは、対応するプライマリレコードタイプがない関連レコードタイプで使用可能です。そのようなレコードタイプでは、[全部] アクセスレベルにより、ユーザーがレコードの作成、表示、編集および削除を行います。
- **表示。** [表示] アクセスレベルは、1 対多および多対多関係の関連レコードタイプでのみ使用可能です。[表示] アクセスレベルでは、関連レコードの動作は次のとおりです。
 - 親レコードに関連するすべての子レコードは、ユーザーに子レコード自体を参照する権限があるかどうかに関係なく、関連レコードのリストに表示されます。
 - 関連する各レコードは、関係の親レコードタイプのアクセスレベルではなく、自分のプライマリレコードタイプのアクセスレベルを継承します。

たとえば、[取引先] 親レコードタイプの [商談] 関連レコードタイプのアクセスレベルが [表示] に設定されている場合、関連する商談レコードの動作は、次のようになります。

- 親取引先レコードに関連するすべての商談は、ユーザーに商談レコードを参照する権限があるかどうかに関係なく、関連レコードのリストに表示されます。
- 各商談レコードは、親の「取引先」レコードタイプからではなく、プライマリの [商談] レコードタイプからアクセスレベルを継承します。ユーザーがレコードの詳細を確認するために関連する商談レコードのドリルダウンを試みると、商談レコードが引き続き存在していて、ユーザーにその商談レコードの詳細を表示する権限がある場合にのみ、操作は正常に実行されます。ユーザーにその商談レコードの詳細を参照する権限がない場合は、エラーメッセージが表示されます。
- **プライマリの継承。** [プライマリの継承] アクセスレベルは、特定の 1 対多および多対多関連レコードタイプのみで使用できます。[プライマリの継承] アクセスレベルでは、関連レコードの動作は次のとおりです。

- 関連レコードのリストには、ユーザーに参照権限がある関連する子レコードのみが表示されます。
- 関連する各レコードは、関係の親レコードタイプのアクセスレベルではなく、自分のプライマリレコードタイプのアクセスレベルを継承します。

たとえば、[取引先] 親レコードタイプの [商談] 関連レコードタイプのアクセスレベルが [プライマリの継承] に設定されている場合、関連する商談レコードの動作は、次のようになります。

- 関連レコードのリストには、ユーザーに参照権限がある関連する商談レコードのみが表示されます。
- 各商談レコードは、親の「取引先」レコードタイプからではなく、プライマリの [商談] レコードタイプからアクセスレベルを継承します。ユーザーがレコードの詳細を確認するために関連する商談レコードのドリルダウンを試みると、ユーザーには関連レコードのリストのすべての商談レコードの詳細を参照する権限があるため、商談レコードが引き続き存在している場合は、操作が常に正常に実行されます。

多対多関係では、[プライマリの継承] アクセスレベルの選択は、ユーザーが 2 つの既存レコードの関係を追加または削除できないことを意味します。ただし、[プライマリの継承] アクセスレベルは、[追加] アクセス権との組合せまたは [追加] アクセス権と [削除] アクセス権との組合せでも使用できます。

注: [プライマリの継承] アクセスレベル（またはこのアクセスレベルの任意の組合せ）が、関連レコードタイプに対して使用されるプロファイルで見つかった場合、[プライマリの継承] 設定が優先されます。たとえば、[プライマリの継承] アクセスレベルと [表示] アクセスレベルの両方が見つかったと、[プライマリの継承] アクセスレベルが [表示] アクセスレベルよりも優先されます。[プライマリの継承]、[読み取り専用]、[表示] アクセスレベルのすべてが見つかった場合、[プライマリの継承] アクセスレベルが [表示] アクセスレベルと [読み取り専用] アクセスレベルよりも優先されます。

- **プライマリの追加/継承。** [プライマリの追加/継承] アクセスレベルは、親との間で多対多関係を共有する関連レコードで使用可能です。[プライマリの追加/継承] アクセスレベルの [プライマリの継承] の部分は、[プライマリの継承] アクセスレベルと同様に機能します。ただし、[プライマリの追加/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードを親レコードに関連付けることもできます。関連レコードが正常に追加されると、そのレコードはプライマリレコー

ドのアクセスレベルを継承します。[プライマリの追加/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードを削除できません。

- **プライマリの追加/削除/継承。** [プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルは、親との間で多対多関係を共有する関連レコードで使用可能です。[プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルの [プライマリの継承] の部分は、[プライマリの継承] アクセスレベルと同様に機能します。ただし、[プライマリの追加/削除/継承] アクセスレベルでは、ユーザーは既存の関連レコードの親レコードへの関連付けや、レコード間のリンクの削除（関連解除）を行えます。ユーザーが関連レコードを削除または関連解除しても、レコードは削除されずデータベースに残ります。関連レコードが正常に追加されると、そのレコードはプライマリレコードのアクセスレベルを継承します。

次の表に、[プライマリの継承] アクセスレベルが使用できる関係を示します。この表に示す関係は 1 対多関係です。

注： 次の表に示す関係のアクセスレベルが現在 [表示] に設定されている場合は、アクセスレベルを [表示] から [プライマリの継承] に変更することをお勧めします。

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
取引先	ビジネス計画
取引先	コール
取引先	完了済み活動
取引先	カスタムオブジェクト 04 以降
取引先	金融口座：支店
取引先	金融口座：保有する他金融機関
取引先	金融口座
取引先	目標
取引先	オープン活動
取引先	商談
取引先	計画取引先
認定	認定リクエスト
認定	カスタムオブジェクト（全件）
活動	出席者訪問
活動	カスタムオブジェクト 04 以降
活動	メッセージ応答
申込書類	活動
ブローカープロフィール	カスタムオブジェクト（全件）
ビジネス計画	認定リクエスト
ビジネス計画	活動
ビジネス計画	ビジネス計画

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
ビジネス計画	認定リクエスト
ビジネス計画	カスタムオブジェクト（全件）
ビジネス計画	目標
ビジネス計画	計画取引先
ビジネス計画	計画担当者
ビジネス計画	計画商談
キャンペーン	完了済み活動
キャンペーン	カスタムオブジェクト 04 以降
キャンペーン	金融口座
キャンペーン	オープン活動
認定レベル	認定リクエスト
認定レベル	カスタムオブジェクト（全件）
請求	活動
担当者	認定リクエスト
担当者	コース登録
担当者	カスタムオブジェクト 04 以降
担当者	試験登録
担当者	金融口座：口座名義人
担当者	金融口座
担当者	目標
担当者	計画担当者
コース	コース登録
コース	カスタムオブジェクト（全件）
カスタムオブジェクト 01	カスタムオブジェクト 04 以降
カスタムオブジェクト 01	金融口座
カスタムオブジェクト 02	カスタムオブジェクト 04 以降
カスタムオブジェクト 02	金融口座
カスタムオブジェクト 03	カスタムオブジェクト 04 以降

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
カスタムオブジェクト 03	金融口座
カスタムオブジェクト 04 以降	活動
カスタムオブジェクト 04 以降	カスタムオブジェクト（全件）
カスタムオブジェクト 04 以降	金融口座
カスタムオブジェクト 04 以降	商談
取引交渉登録	活動
取引交渉登録	カスタムオブジェクト（全件）
自動車ディーラー	完了済み活動
自動車ディーラー	カスタムオブジェクト 04 以降
自動車ディーラー	オープン活動
自動車ディーラー	商談
試験	カスタムオブジェクト（全件）
試験	試験登録
金融口座	活動
金融口座	カスタムオブジェクト（全件）
金融口座	金融口座
金融口座	商談
財務計画	活動
財務計画	商談
資金	活動
資金	カスタムオブジェクト 04 以降
資金	目標
資金リクエスト	完了済み活動
資金リクエスト	カスタムオブジェクト 04 以降
資金リクエスト	オープン活動
世帯	カスタムオブジェクト 04 以降
世帯	金融口座
在庫期間	カスタムオブジェクト（全件）
見込み客	完了済み活動

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
見込み客	カスタムオブジェクト 04 以降
見込み客	オープン活動
MDF リクエスト	活動
MDF リクエスト	カスタムオブジェクト（全件）
医学教育イベント	ビジネス計画
医学教育イベント	完了済み活動
医学教育イベント	カスタムオブジェクト 04 以降
医学教育イベント	目標
医学教育イベント	オープン活動
メッセージプラン	ビジネス計画
メッセージプラン	メッセージ応答
メッセージプラン	メッセージプラン項目
メッセージプラン項目	メッセージ応答
メッセージプラン項目	メッセージプラン項目関係
目標	認定リクエスト
目標	活動
目標	認定リクエスト
目標	コース登録
目標	カスタムオブジェクト（全件）
目標	試験登録
目標	目標
目標	商談
商談	完了済み活動
商談	カスタムオブジェクト 04 以降
商談	オープン活動
商談	計画商談
商談	サブ商談
オーダー	カスタムオブジェクト（全件）
オーダー項目	カスタムオブジェクト（全件）

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
パートナー	認定リクエスト
パートナー	ビジネス計画
パートナー	完了済み活動
パートナー	コース登録
パートナー	カスタムオブジェクト 04 以降
パートナー	試験登録
パートナー	オープン活動
パートナープログラム	カスタムオブジェクト 04 以降
パートナープログラム	商談
期間	ビジネス計画
期間	目標
保険	活動
保険	カスタムオブジェクト（全件）
保険	商談
ポートフォリオ	完了済み活動
ポートフォリオ	カスタムオブジェクト 04 以降
ポートフォリオ	金融口座
ポートフォリオ	オープン活動
サンプルロット	カスタムオブジェクト（全件）
サンプルトランザクション	カスタムオブジェクト（全件）
サンプルトランザクション	トランザクション項目
サービスリクエスト	完了済み活動
サービスリクエスト	カスタムオブジェクト 04 以降
サービスリクエスト	オープン活動
解決策	カスタムオブジェクト 04 以降
解決策	メッセージプラン項目関係
解決策	メッセージプラン項目
特別価格リクエスト	活動
特別価格リクエスト	カスタムオブジェクト（全件）

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
車両	カスタムオブジェクト 04 以降

次の表に、[プライマリの継承] アクセスレベルとこのレベルの組合せ（[プライマリの継承]、[プライマリの追加/継承]、および [プライマリの追加/削除/継承]）が使用できる関係を示します。この表に示す関係は多対多関係です。

注: この表に示すいずれかの多対多関係で [読み取り/作成] アクセスレベルを現在使用している場合は、関連レコードタイプの [読み取り/作成] アクセスレベルを [プライマリの継承] の組合せのいずれかに変更することをお勧めします。

親レコードタイプ	関連レコードタイプ
キャンペーン	商談
担当者	コール
担当者	完了済み活動
担当者	オープン活動
担当者	商談
カスタムオブジェクト 01	完了済み活動
カスタムオブジェクト 01	オープン活動
カスタムオブジェクト 01	商談
カスタムオブジェクト 02	完了済み活動
カスタムオブジェクト 02	オープン活動
カスタムオブジェクト 02	商談
カスタムオブジェクト 03	完了済み活動
カスタムオブジェクト 03	オープン活動
カスタムオブジェクト 03	商談

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』
- [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

アクセスレベルの計算例

次のリンクをクリックして、Oracle CRM On Demand によるユーザーのアクセス権の計算方法の例を参照してください。

- [例 1: \[表示\] アクセスレベルの使用](#) 『188ページ』

■ [例 2：\[プライマリの継承\] アクセスレベルの使用](#) 『193ページ』

■ [例 3：ブックによるデータの保護](#) 『195ページ』

これらの例のアクセス権は、ユーザーの役割、アクセスプロファイルおよびその他のアクセス制御コンポーネントの特定の設定に基づいています。Oracle CRM On Demand では、認証されたユーザーとやり取りするたびにアクセス権を計算します。Oracle CRM On Demand は、ユーザーの役割とすべてのアクセスプロファイルからアクセス権を判別します。アクセスプロファイルは、所有者アクセスプロファイル、デフォルトアクセスプロファイル、レポート階層、カスタムブックのメンバーシップ、ユーザー委任、チームのメンバーシップを介して適用され、これらはアクセス制御コンポーネントと呼ばれます。

注:ユーザーとしては、会社の従業員またはパートナー組織の従業員が可能です。また、Oracle CRM On Demand にアクセスする外部システムもユーザーとして設定できます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』

■ [アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』

例 1：[表示] アクセスレベルの使用

このトピックでは、Oracle CRM On Demand がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、Amanda Jacobsen には「セールス要員」役割があります。Amanda は、新しい取引先を作成し、他のすべての取引先レコードを表示できます。商談を作成できますが、表示できるのは自分が所有する商談または表示を承認されている商談のみです。

次の表に、「セールス要員」役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	はい
商談	はい	はい	いいえ

「セールス要員」役割により、Amanda は、自分が作成する取引先と商談を完全に制御でき、所有していないレコードの権限は制限されます。「セールス要員」役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	表示
商談	読み取り/編集/削除	なし	なし

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
--------------	---------	-----------	---------

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	表示
商談	読み取り専用	なし	なし

アクセス権限を計算するこの例では、企業プロフィールで「親チーム継承の有効化」チェックボックスがオフであると仮定しています。「親チーム継承の有効化」チェックボックスの詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#)」『170ページ』を参照してください。

同じ会社の David Bloom にも「セールス要員」役割があります。David のアクセス権は Amanda と同じです。

Amanda は、取引先 1 にリンクされている商談 X の所有者です。David が商談 Y を作成し、取引先 1 にリンクします。Amanda はこの商談チームには所属していません。

Amanda が社内の取引先リストを表示するときは、すべての取引先を表示できます。所有していないものも含めてすべての取引先の表示が役割で許可されるためです。次の表に、Amanda が取引先 1 の取引先名をクリックして、レコードをドリルダウンするときに表示される内容を示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細：取引先 1		
取引先詳細		
取引先名。	取引先 1	
所有者。	Jonathan Hope	
商談		
商談		所有者
商談 X		Amanda Jacobsen
商談 Y		David Bloom
取引先チーム		
名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者

例 1 での関連レコードの表示

この例で Amanda が取引先について表示できる関連商談レコードを判別するために、Oracle CRM On Demand は Amanda のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注:複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** の役割で、すべての取引先レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。**Amanda** の役割により、すべての取引先レコードが読み取り可能なため、**Amanda** は取引先を表示できます。**Amanda** は親取引先の所有者ではないため、デフォルトアクセスプロファイルが使用されます。**Amanda** のデフォルトアクセスプロファイルでの商談関連レコードタイプのアクセスレベルは「表示」です。

- **Amanda** がブックメンバーであるブックに親レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** の部下（直接または間接）が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

この質問の答えが「はい」の場合（つまり、**Amanda** の部下の 1 名以上が取引先チームのメンバーである場合）、**Oracle CRM On Demand** は、部下それぞれについて適切なアクセスプロファイルから商談関連レコードタイプのアクセスレベルを抽出します。取引先に関する部下のチームメンバーシップの「取引先アクセス」フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルがこのケースで使用されます（「商談アクセス」フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルではありません）。

- **Amanda** が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- **Amanda** の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

ユーザーの役割で「商談」レコードタイプの「アクセス可能」オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- **Amanda** の役割で「商談」レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

商談は権限では制御されないため、この例では、権限は **Amanda** のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが「プライマリの継承」またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 3 **Oracle CRM On Demand** は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、検出された最高の許容度のアクセスレベルは「ビュー」です。「プライマリの継承」アクセスレベルはないため、ユーザーが表示を承認されていないものも含めてすべての子商談レコードが表示されます。

例 1 での関連レコードへのアクション

ユーザーが関連レコードにアクションを実行しようとするとき、**Oracle CRM On Demand** は、そのアクションのための適切なアクセス権がユーザーにあるかどうかを判別する必要があります。この例では、**Amanda** はレコードの詳細の読み取り、レコードの編集またはレコードの削除を行おうとします。次の 2 つのケースについて説明します。

- ケース 1 では、**Amanda** が商談 X に対してアクションを実行しようとしています。

- ケース 2 では、**Amanda** が商談 Y に対してアクションを実行しようとしています。

ケース 1: **Amanda** が自分が所有している商談 X に対してアクションを実行しようとしています。

Oracle CRM On Demand は、**Amanda** のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注:複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- **Amanda** が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** の役割ですべての商談レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。**Amanda** が親取引先レコードを表示できるのはデフォルトアクセスプロファイルが使用されるためですが、デフォルトアクセスプロファイルは商談レコードに対しては使用されません。

- **Amanda** がブックメンバーであるブックに商談レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。**Amanda** は商談の所有者であるため、商談チームにも所属します。**Amanda** のデフォルトアクセスプロファイル（セールス要員のデフォルトアクセスプロファイル）でのプライマリ商談レコードタイプのアクセスレベルは「読み取り/編集/削除」です。

- **Amanda** の部下（直接または間接）が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- **Amanda** の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で「商談」レコードタイプの「アクセス可能」オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- **Amanda** の役割で「商談」レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

「商談」レコードタイプは権限では制御されません。この例では、権限は **Amanda** のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが「プライマリの継承」またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 3 Oracle CRM On Demand は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、検出された最も許容度が高いアクセスレベルは「読み取り/編集/削除」です。

ケース 2: **Amanda** は、**David Bloom** が所有している商談 Y に対してアクションを実行しようとしています。

Oracle CRM On Demand は、Amanda のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

注:複数のアクセスレベルが様々なアクセス制御コンポーネントから検出される場合、アクセス権を計算するときにそれらのすべてが考慮されます。

- Amanda が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の役割ですべての商談レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。Amanda が親取引先レコードを表示できるのはデフォルトアクセスプロファイルが使用されるためですが、デフォルトアクセスプロファイルは商談レコードに対しては使用されません。

- Amanda がブックメンバーであるブックに商談レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda の部下（直接または間接）が商談チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- Amanda が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- Amanda の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で [商談] レコードタイプの [アクセス可能] オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- Amanda の役割で [商談] レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

[商談] レコードタイプは権限では制御されないため、この例では、権限は Amanda のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが [プライマリの継承] またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- 3 Oracle CRM On Demand は次に、検出されたすべてのアクセスレベルを調べ、最も許容度が高いレベルを判別します。このケースでは、最終的なアクセスレベルは [アクセスなし] です。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- [例 2：\[プライマリの継承\] アクセスレベルの使用](#) 『193ページ』

■ 例 3 : ブックによるデータの保護 『195ページ』

例 2 : [プライマリの継承] アクセスレベルの使用

このトピックでは、Oracle CRM On Demand がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、**Amanda Jacobsen** は会社のセールス要員です。**Amanda** は、新しい取引先を作成し、他のすべての取引先レコードを表示できます。商談を作成できますが、表示できるのは自分が所有する商談または表示を承認されている商談のみです。

次の表に、[セールス要員] 役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	はい
商談	はい	はい	いいえ

[セールス要員] 役割により、**Amanda** は、自分が作成する取引先と商談を完全に制御でき、所有していないレコードの権限は制限されます。[セールス要員] 役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	プライマリの継承
商談	読み取り/編集/削除	なし	なし

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	プライマリの継承
商談	読み取り専用	なし	なし

アクセス権限を計算するこの例では、企業プロファイルで [親チーム継承の有効化] チェックボックスがオフであると仮定しています。[親チーム継承の有効化] チェックボックスの詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#) 『170ページ』」を参照してください。

同じ会社の **David Bloom** もセールス要員です。**David** のアクセス権は **Amanda** と同じです。

Amanda は、取引先 1 にリンクされている商談 X の所有者です。**David** が商談 Y を作成し、取引先 1 にリンクします。**Amanda** はこの商談チームには所属していません。

Amanda が社内の取引先リストを表示するときは、すべての取引先を表示できます。所有していないものも含めてすべての取引先の表示が役割で許可されるためです。次の表に、**Amanda** が取引先 1 の取引先名をクリックして、レコードをドリルダウンするときに表示される内容を示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細 : 取引先 1

取引先詳細

取引先詳細：取引先 1		
取引先名。	取引先 1	
所有者。	Jonathan Hope	
商談		
商談		所有者
商談 X		Amanda Jacobsen
取引先チーム		
名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者
Bloom	David	メンバー

例 2 での関連レコードの表示

この例で **Amanda** が取引先について表示できる関連商談レコードを判別するために、Oracle CRM On Demand は **Amanda** のアクセス権を次のように調べます。

- 1 Oracle CRM On Demand は、この親取引先レコードの商談関連レコードタイプに適用できるすべてのアクセスレベルを次のように調べます。

- **Amanda** が親取引先を所有しているかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** の役割で、すべての取引先レコードが読み取り可能かどうかを判別します。

この例では答えは「はい」です。**Amanda** の役割により、すべての取引先レコードが読み取り可能なため、**Amanda** は取引先を表示できます。**Amanda** は親取引先の所有者ではないため、デフォルトアクセスプロファイルが使用されます。**Amanda** のデフォルトアクセスプロファイルでの商談関連レコードタイプのアクセスレベルは「プライマリの継承」です。

- **Amanda** がブックメンバーであるブックに親レコードが含まれるかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

- **Amanda** の部下（直接または間接）が取引先チームのメンバーかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

この質問の答えが「はい」の場合（つまり、**Amanda** の部下の 1 名以上が取引先チームのメンバーである場合）、Oracle CRM On Demand は、部下それぞれについて適切なアクセスプロファイルから商談関連レコードタイプのアクセスレベルを抽出します。取引先に関する部下のチームメンバーシップの「取引先アクセ

ス] フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルがこのケースで使用されます（[商談アクセス] フィールドに割り当てられたアクセスプロファイルではありません）。

- **Amanda** が委任により取引先レコードへのアクセス権を持つかどうかを判別します。

この例では答えは「いいえ」です。

2 Oracle CRM On Demand では次の処理が実行されます。

- **Amanda** の役割で商談レコードへの基本アクセスが許可されるかどうかを判別します。

Amanda の役割で [商談] レコードタイプの [アクセス可能] オプションが選択されているため、この例では答えは「はい」です。

- **Amanda** の役割で [商談] レコードタイプへの権限が付与されるかどうかを判別します。

商談は権限では制御されないため、この例では、権限は **Amanda** のアクセス権の計算に影響しません。

- 計算においていずれかのアクセスプロファイルのアクセスレベルが [プライマリの継承] またはその組合せの 1 つに設定されているかどうかを判別します。

この例では答えは「はい」であるため、**Oracle CRM On Demand** は取引先に関する次の商談レコードを表示します。

- **Amanda** が所有者であるリンクされているすべての商談レコード。
- **Amanda** が他のすべてのアクセス制御コンポーネントによって表示を承認されているリンクされているすべての商談レコード。

Amanda の役割では、所有していない商談の表示は認められないため、**David Bloom** が作成した商談は表示できません。

例 2 での関連レコードへのアクション

Amanda がこの例で商談 X にアクションを実行しようとする、計算は同じように行われ、結果のアクセス権は「[例 1 : \[表示\] アクセスレベルの使用](#) 『188ページ』」のケース 1 と同じになります。最終的なアクセスレベルは [読み取り/編集/削除] です。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- [例 1 : \[表示\] アクセスレベルの使用](#) 『188ページ』
- [例 3 : ブックによるデータの保護](#) 『195ページ』

例 3 : ブックによるデータの保護

このトピックでは、**Oracle CRM On Demand** がユーザーのアクセス権を計算する方法の 1 つの例を示します。

この例では、会社はカスタムブックを使用してテリトリー別にデータを整理しています。この例で使用する 2 つのブックは、南西と東です。

南西ブックには次の 3 名のメンバーが含まれます。

- **Amanda Jacobsen**

■ David Bloom

■ Carlos Guzman

南西ブックのすべてのユーザーには、ブックの役割に「読み取り専用」アクセスプロファイルがあります。

東ブックには次の 3 名のメンバーが含まれます。

■ Rick Rogers

■ Raj Kumar

■ Jonathan Hope

東ブックのすべてのユーザーには、ブックのメンバーシップレコードに「読み取り専用」アクセスプロファイルがあります。

いずれかのユーザーが取引先レコードまたは商談レコードを作成すると、自動（ワークフロー）プロセスにより適切なブックがそのレコードに割り当てられます。レコードのテリトリー属性に基づいてブックが割り当てられます。

これらのユーザーすべてに「セールス要員」役割があります。このようなユーザーは新しい取引先と商談を作成できます。自らのテリトリーのすべての取引先レコードと商談レコードを表示できますが、他のテリトリーのものは表示できません。

次の表に、「セールス要員」役割のレコードタイプ設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセス可能	作成可能	すべてのレコードを読み取り可能
取引先	はい	はい	いいえ
商談	はい	はい	いいえ

これらすべてのユーザーは作成した取引先と商談を完全に制御できますが、所有していないレコードの権限は制限されます。「セールス要員」役割には、所有者アクセスプロファイルとデフォルトアクセスプロファイルの 2 つのアクセスプロファイルが必要です。

次の表に、セールス要員所有者アクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り/編集/削除	商談	プライマリの継承
		ブック	読み取り専用
商談	読み取り/編集/削除	ブック	読み取り専用

次の表に、セールス要員デフォルトアクセスプロファイルの設定を示します。

プライマリレコードタイプ	アクセスレベル	関連レコードタイプ	アクセスレベル
取引先	読み取り専用	商談	プライマリの継承
		ブック	読み取り専用
商談	読み取り専用	ブック	読み取り専用

注:ブックをサポートするすべてのプライマリレコードタイプでは、[ブック] 関連レコードタイプとの関係は **1 対子** 関係です。

この例では、企業プロフィールで [親チーム継承の有効化] チェックボックスがオフであると仮定しています。[親チーム継承の有効化] チェックボックスの詳細は、「[チームの継承によるアクセスの適用について](#)」『170ページ』を参照してください。

Amanda Jacobsen が社内の取引先リストを表示するとき、南西ブックの取引先と自分が所有している取引先を表示できます。その他の取引先は表示できません。

次の表に、**Amanda** が取引先 **1** の取引先名をクリックしてレコードをドリルダウンするときに表示されるレコードを示します。この例では、関連するフィールドとカラムのみが表示されます。

取引先詳細：取引先 1		
取引先詳細		
取引先名。	取引先 1	
所有者。	Jonathan Hope	
商談		
商談		所有者
商談 X		Amanda Jacobsen
商談 Y		David Bloom
取引先チーム		
名前（姓）	名前（名）	取引先アクセス
Hope	Jonathan	所有者

Amanda は 2 つの商談を表示できます。それらの商談は、メンバーである南西ブックに含まれるためです。南西ブックの他のすべてのメンバーもそれらの商談を表示できます。

Jonathan Hope は東ブックのメンバーです。**Jonathan** も Oracle CRM On Demand にサインインすると、取引先 **1** を表示できます。**Jonathan** がこの取引先を所有しているためです。ただし、取引先 **1** に関連する商談は表示できません。それらの商談は所有していません。取引先の [商談] 関連レコードタイプに対する [プライマリの継承] アクセスレベルにより、このセキュリティが得られます。

東ブックのメンバーである **Rick Rogers** と **Raj Kumar** は、取引先 **1**、商談 **X** または商談 **Y** のレコードを表示できません。この取引先を表示できないのは東ブックに含まれておらず、所有していない取引先レコードの表示が役割で許可されないためです。同じく、商談 **X** または商談 **Y** を表示できないのは、これらの商談が東ブックに含まれておらず、所有していない商談の表示が役割で許可されないためです。

Amanda は、**David Bloom** が所有する商談 **Y** を変更できません。理由は次のとおりです。

- **Amanda** はこの取引先を所有していないため、自分の所有者アクセスプロフィールが使用されません。
- **Amanda** の役割では、所有していない商談レコードにアクセスできません。このため、デフォルトアクセスプロフィールは使用されません。

- この時点でアクティブなアクセスプロファイルは、南西ブックのメンバーシップから **Amanda** が得られる [読み取り専用] アクセスプロファイルのみです。

このため、商談 Y に対する **Amanda** のアクセスレベルは [読み取り専用] になります。

関連トピック

その他の例は、次のトピックを参照してください。

- [例 1: \[表示\] アクセスレベルの使用](#) 『188ページ』
- [例 2: \[プライマリの継承\] アクセスレベルの使用](#) 『193ページ』

アクセスプロファイルの設定プロセス

このトピックでは、アクセスプロファイルの設定方法について説明します。

注: Oracle CRM On Demand では、アクセスプロファイルに対するあらゆる変更について監査レコードが生成されます。ユーザーの役割に [マスター監査証跡および管理設定の監査へのアクセス] 権限が含まれている場合は、アクセスプロファイルに対する変更の監査証跡を表示できます。監査証跡の表示の詳細は、「[監査証跡の設定変更の確認](#) 『44ページ』」を参照してください。

作業前の準備。 社内のアクセスプロファイルを表示、作成または変更するには、[ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

アクセスプロファイルを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 [アクセスプロファイルの追加](#) 『198ページ』。
- 2 [プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定](#) 『200ページ』。
- 3 [関連レコードタイプのアクセスレベルの指定](#) 『200ページ』。

アクセスプロファイルの追加情報を提供するトピックへのリンクは、「[アクセスプロファイルの関連トピック](#) 『201ページ』」を参照してください。

アクセスプロファイルの追加

アクセスプロファイルは、次の操作によって追加できます。

- 新しいプロファイルを作成する
- 既存のプロファイルをコピーして、アクセスレベルを編集する

次の手順では、アクセスプロファイルの作成方法について説明します。

アクセスプロファイルを追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。

- 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
- 4 [アクセスプロファイル] リストで、次のいずれかの操作を行います。
 - 既存のプロファイルに基づいて新しいプロファイルを作成するには、コピー元のプロファイルの [コピー] をクリックします。
 - 既存のプロファイルをベースにせずに新しいプロファイルを作成するには、タイトルバーの [新規] をクリックします。

アクセスプロファイルウィザードが開くので、画面の指示に従って手順を完了します。

- 5 アクセスプロファイルウィザードのステップ 1 で、名前と説明を入力し、その他のフィールドを必要に応じて設定します。その他のフィールドの説明は次の表のとおりです。

フィールド	説明
翻訳	<p>[翻訳] チェックボックスは、次の両方の状況でのみ有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のアクセスプロファイル名を変更する場合 ■ 既存のアクセスプロファイル名が 1 つ以上の追加の言語にすでに翻訳されている場合 <p>このような状況では、[翻訳] チェックボックスを使用して、翻訳されたアクセスプロファイル名を新しい名前に置き換えるか、変更しないままにするかを指定できます。[翻訳] チェックボックスの設定に応じて、アクセスプロファイル名の表示は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [翻訳] チェックボックスをオンにすると、アクセスプロファイルリストの表示に使用されている言語に関係なく、新しい名前が入力した言語で表示されます。アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合は、デフォルトフォントで名前が表示されます。ただし、それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、括弧内に青色のフォントで名前が表示されます。 ■ [翻訳] チェックボックスをオフにすると、アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合に、新しい名前が表示されます。ただし、それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、元の翻訳されたアクセスプロファイル名が引き続き表示されます。 <p>新しいアクセスプロファイルが追加されたときに [翻訳] チェックボックスの選択が影響を及ぼすことはありません。新しいアクセスプロファイルが追加されると、アクセスプロファイルリストには、すべての言語で新しい名前が自動的に表示されます。アクセスプロファイルリストの表示に新しい名前を入力した言語が使用されている場合、新しいアクセスプロファイルの名前はデフォルトフォントで表示されます。それ以外の言語でアクセスプロファイルリストが表示されている場合は、括弧内に青色のフォントで新しいアクセスプロファイルの名前が表示されます。</p>
チームメンバーに付与可能	アクセスプロファイルをチームメンバーに割り当てられるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
ブックユーザーに付与可能	アクセスプロファイルをブックユーザーに割り当てられるようにするには、このチェックボックスをオンにします。詳細については、「 ブックのアクセスプ

フィールド	説明
与可能	ロファイルの作成 『244ページ』」を参照してください。
無効化	このチェックボックスをオンにすると、アクセスプロファイルが無効になります。無効になったアクセスプロファイルは、役割、チームまたはブックとの新しい関連付けには使用できません。ただし、無効になったアクセスプロファイルは、別のアクセスプロファイルを役割、チームまたはブックに割り当てるまで役割、チームまたはブックに関連付けられていたアクセスプロファイルとして引き続き機能します。

注:定義済みの[編集]、[全部]および[読み取り専用]の各アクセスプロファイルでは、[チームメンバーに付与可能]チェックボックスと[ブックユーザーに付与可能]チェックボックスはデフォルトでオンになっています。そのため、ユーザーがチームまたはブックに別のユーザーを追加すると、[ユーザーを追加]ダイアログボックスまたは[ユーザーを編集]ダイアログボックスに表示されるアクセスプロファイルのピックリストには、定義済みのこれらのアクセスプロファイルが含まれます。ユーザーがこれらの3つのアクセスプロファイルをブック内のユーザーまたはチーム内のユーザーブックに割り当てることができないようにするには、そのアクセスプロファイルに対応するチェックボックスをオフにしてください。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定

プライマリレコードタイプのアクセスレベルを指定するには、次の手順を実行します。

プライマリレコードタイプのアクセスレベルを指定するには

- 1 アクセスプロファイルウィザードのステップ2で、各プライマリレコードタイプのアクセスレベルを選択します。次の中から選択します。

- 読み取り専用
- 読み取り/編集
- 読み取り/編集/削除

プライマリレコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて](#)」『178ページ』」を参照してください。

- 2 プライマリレコードタイプの関連レコードタイプのアクセスレベルを指定する場合は、プライマリレコードタイプの[関連情報]リンクをクリックします。それ以外の場合は、[終了]をクリックして変更を保存します。

ほとんどのレコードタイプには、[関連情報]リンクがあります。関連情報は、レコードの[詳細]ページにリンクされたレコードとして表示されます。関連レコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[関連レコードタイプのアクセスレベルの指定](#)」『200ページ』」を参照してください。

関連レコードタイプのアクセスレベルの指定

関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するには、次の手順を実行します。

関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するには

- 1 アクセสプロファイルウィザードのステップ 2 で、1 つ以上の関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するプライマリレコードタイプの「関連情報」リンクをクリックします。
- 2 関連情報レコードタイプごとに適切なアクセスレベルを選択します。
各関連レコードタイプのアクセスレベルフィールドに表示されるアクセスレベルのオプションのピックリストは、関連レコードタイプとその親レコードタイプとの関係によって異なります。このフィールドと役割管理ウィザードで設定するアクセスレベルに応じて、そのレコードタイプのレコードをユーザーが作成、更新または表示する権限の付与または無効化を行うことができます。
関連レコードタイプのアクセスレベルの詳細は、「[関連するレコードタイプのアクセスレベルについて](#)」『178ページ』を参照してください。
注:新しい商談を作成するには、「[商談](#)」レコードタイプの「[売上](#)」関連レコードタイプのアクセスレベルを「[全部](#)」に設定する必要があります。
見込み客の変換の際に必要なアクセスプロファイルの設定については、「[見込み客の変換のためのアクセスプロファイルと役割の設定](#)」を参照してください。取引交渉登録の変換の際に必要なアクセスプロファイルの設定については、「[取引交渉登録を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定](#)」を参照してください。
- 3 プライマリレコードタイプの関連レコードタイプのアクセスレベルの設定が終了した後、「前へ」をクリックしてウィザードのステップ 2 のメインページに戻ります。
- 4 1 つ以上の関連レコードタイプのアクセスレベルを指定するプライマリレコードタイプごとに、この手順のステップ 1 から 3 を繰り返します。
- 5 すべてのプライマリレコードタイプと関連レコードタイプについてアクセスレベルの設定が終了した後は、「終了」をクリックして設定を保存します。

アクセスプロファイルの関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [アクセスプロファイル管理](#) 『166ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [チーム、グループおよびブックのアクセスプロファイルについて](#) 『169ページ』
- [チームの継承によるアクセスの適用について](#) 『170ページ』
- [プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) 『171ページ』
- [プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) 『172ページ』
- [関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法](#) 『174ページ』
- [関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法](#) 『175ページ』
- [\[アクセスプロファイルリスト\] ページの使用](#) 『177ページ』
- [アクセスレベルの計算例](#) 『187ページ』

役割管理

Oracle CRM On Demand では、[役割リスト] ページと役割管理ウィザードで役割を管理します。[役割リスト] ページと役割管理ウィザードには、Oracle CRM On Demand のすべてのページにあるグローバル[管理]リンクからアクセスします。

Oracle CRM On Demand での役割は、セールスエグゼクティブやサービス管理者など、ユーザーが組織で実行する職務に似ています。組織では、職務ごとに固有の権限や許可が与えられます。同様に Oracle CRM On Demand のコンテキストにおいても、ユーザーが使用権限を持つ Oracle CRM On Demand の機能、ユーザーが保護情報を操作するために与えられる許可、情報を表示するユーザーインターフェイス設定を定義することで、役割によって職務が区別されます。

注：ユーザーとしては、従業員またはパートナー組織の従業員が可能です。また、Oracle CRM On Demand にアクセスする外部システムもユーザーとして設定できます。

役割によって定義されるパラメータを次に示します。

- 権限
- レコードタイプへのアクセス
- 役割のアクセスプロファイル
- 次の項目を含むユーザーインターフェイス設定
 - タブ設定
 - ページレイアウト
 - 検索レイアウト
 - ホームページレイアウト

各ユーザーには役割が 1 つ割り当てられます。また、同一の役割を複数のユーザーに割り当てることもできます。役割には階層はありません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

役割の設定に関するガイドライン

Oracle CRM On Demand では、事前に作成された一連の役割が提供されます。これらに基づいて社内の役割を設定できます。ユーザーと役割の設定テンプレートには、事前に作成された役割の情報が含まれ、レコードアクセス、権限およびデフォルトタブアクセスがリストされます。ユーザーと役割の設定テンプレートの検索の詳細は、「[設定時における管理者テンプレートの使用](#) 『14ページ』」を参照してください。

Oracle CRM On Demand に設定できる役割タイプの例として、設備関連の取引先管理を担当するセールス部門と、新しいビジネスを担当するセールス部門の 2 つが会社で必要になることがあります。設備関連の取引先管理を担当するセールス部門のフィールドセールス要員は、その顧客の設備導入に関する取引先情報を追跡します。新しいビジネスを担当するセールス部門のフィールドセールス要員は、その見込み取引先の購入条件のプロファイルとなる取引先情報を追跡します。これらの 2 つの職務は似ていますが、それぞれの日常的なプロセスのサポートに最も関連のある情報のタイプは異なります。この例では、次の 2 つの役割を設定できます。

- 設備関連のフィールドセールス要員の役割
- 新しいビジネスのフィールドセールス要員の役割

これらの各役割は、事前に作成された［フィールドセールス要員］役割に基づいて作成できます。2 つのセールス部門に固有のビジネス要件をサポートするために異なるページレイアウトを追加し、新しい役割を調整します。

たとえば、組織の変更や別の会社の吸収が行われた場合など、必要に応じて、役割の定義の変更や追加を続けることができます。会社の組織構造が変更されると、1 人以上の従業員の職務も変更になる可能性があります。会社が別の会社を買収した場合には、その従業員を Oracle CRM On Demand のユーザーとして吸収する必要があることがあります。

役割を設定するときは次のガイドラインに従います。

- 各従業員または従業員のグループがどのように Oracle CRM On Demand を使用するかを決定します。

従業員の職務を調べて、次の項目を決定します。

- ユーザーが完了する必要があるタスクおよびアクセスする必要があるレコード
- 各タイプのレコードに対してユーザーが必要とするアクセスの種類
- ユーザーがアクセスを禁止されているレコードまたはタブがあるかどうか

次の表に、アクセスタイプの一例を示します。

アクセスタイプ	例
機能へのアクセス	テレセールスの役割を割り当てられたユーザーは、［見込み客詳細］ページの［変換］ボタンにアクセスできます。
レコードへのアクセス	エグゼクティブの役割を割り当てられたユーザーは、すべての商談レコードをその所有者にかかわらず編集できます。
タブへのアクセス	デフォルトでは、セールス&マーケティングマネージャの役割が割り当てられたユーザーは、［取引先］タブと［商談］タブにアクセスできますが、［サービスリクエスト］タブや［ソリューション］タブにはアクセスできません。

- 事前に作成された各役割の特徴を確認して、それらの役割が従業員のニーズを満たすかどうかを調べます。

事前に作成された役割の名前は、社内の肩書と一致する必要はありません。肩書ではなく職務とタスクがその役割と一致する必要があります。

- 次のように役割を設定します。
 - 事前に作成された役割が、従業員グループのために必要な役割と似ている場合は、その役割をコピーし、新しい名前を付け、要件に応じて編集して、新しい役割を作成します。
 - 事前に作成された役割が必要な役割と似ていない場合は、要件を満たす新しい役割を作成します。

ヒント: ユーザーと役割の設定テンプレートをを使用して、従業員グループの役割の要件を簡単に文書化できます。その後、役割を作成または編集し、企業の従業員を Oracle CRM On Demand のユーザーとして設定する際に、完成したテンプレートを参照します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

[役割リスト] ページの使用

[役割リスト] ページでは、次の表のアクションを実行できます。

操作	手順
新しい役割の追加	<p>[役割リスト] ページのタイトルバーで [新規役割] をクリックします。役割管理ウィザードが開きます。</p> <p>役割管理ウィザードの使用方法的詳細は、「役割の追加 『207ページ』」を参照してください。</p>
既存の役割のコピーによる新規役割の追加	<p>役割名の横のレコードレベルメニューで [コピー] を選択します。役割管理ウィザードが開きます。</p> <p>役割管理ウィザードの使用方法的詳細は、「役割の追加 『207ページ』」を参照してください。</p>
役割の削除	<p>役割名の横のレコードレベルメニューで [削除] を選択してから、その役割を削除することを確認します。</p> <p>注： [管理者] 役割は削除できません。</p> <p>役割を削除しても、その役割が割り当てられているすべてのユーザーは、別の役割が割り当てられるまではその役割を保持し続けます。ただし、役割を削除した後で、その役割をユーザーに割り当てることはできません。</p>
役割リストを表示する言語の選択	<p>[役割リスト] ページのタイトルバーにある [翻訳言語] フィールドで、役割のリストを表示する言語を選択します。Oracle CRM On Demand でその企業に対してサポートされている任意の言語でリストを表示できます。</p> <p>注： 既存の役割に翻訳済みの役割名がない場合、役割名は翻訳されず、カッコ内に表示されます。</p>

アルファベット文字検索を使用すると、役割のリストをフィルター処理できます。アルファベット文字検索の詳細は、「リストのフィルター処理」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』
- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

役割のレコードタイプアクセスについて

役割のプライマリレコードタイプへのアクセスは、役割管理ウィザードのステップ 2 で制御します。役割を追加する方法の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

プライマリレコードタイプは、独立したレコードタイプとして使用できるレコードタイプです。ほとんどのプライマリレコードタイプ（すべてではない）は、**Oracle CRM On Demand** のタブとして表示できます。タブとして表示できないプライマリレコードタイプもあります。たとえば、[ブック] レコードタイプはプライマリレコードタイプです（ブックレコードは独立したレコードとして作成できます）。ただし、[ブック] レコードタイプはタブとして表示できません。プライマリレコードタイプでないレコードタイプはタブとして表示できません。

例外はありますが、次の基準を満たすプライマリレコードタイプが役割管理ウィザードのステップ 2 に表示されます。

- 自分の会社が使用ライセンスを持つレコードタイプ。
- 自分の役割に適切なアクセス権限が含まれているレコードタイプ。

例外は、企業プロフィール、ユーザーレコード、ワークフロールールなど、管理目的のみに使用されるレコードタイプです。そのようなレコードタイプへのアクセスは権限によってのみ制御されます。

ウィザードのステップ 2 に表示される各プライマリレコードタイプでは、役割でのレコードタイプへのアクセスは次の 3 つの設定によって制御されます。

- **アクセス可能。** 役割管理ウィザードのステップ 2 で役割についてプライマリレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーがそのレコードタイプのレコードにアクセスできます。役割についてそのレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、その役割を持つユーザーは、そのレコードタイプに対してあらゆる形式でのアクセスを拒否されます。たとえば、役割について [取引先] レコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスがオフの場合、[取引先] レコードタイプに対するあらゆる形式のアクセス（関連アプレット、検索機能、[取引先] レコードタイプに対する他のアクセスを含む）が、その役割を持つユーザーに対して拒否されます。その後、次の状況が発生することがあります。
 - [取引先] レコードタイプにアクセスできないユーザーが、取引先レコードに商談を関連付けようとすると、操作が失敗します。
 - [取引先] レコードタイプにアクセスできないユーザーが、取引先にすでにリンクされている商談を表示しても、リンクされた取引先レコードの詳細は表示できません。

注:レコードタイプのアクセスを拒否する（役割管理ウィザードでレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオンにしない）ことにより、ユーザーが別のレコードタイプのレコードを作成できなくなる場合があります。たとえば、あるレコードタイプへのアクセスを拒否したときに、ユーザーが別のレコードタイプに基づくレコードを作成するためにそのレコードタイプにアクセスする必要があると、ユーザーはそのレコードを作成できません。

- **作成可能。**役割について役割管理ウィザードのステップ 2 でレコードタイプの作成可能チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーはそのレコードタイプのレコードを作成できます。

プライマリレコードタイプの [作成可能] チェックボックスをオフにすると、その役割を持つユーザーは、そのプライマリレコードタイプのレコードを作成できません。

注:プライマリレコードタイプのレコードを作成する権限は、この設定によって制御されます。アクセスプロファイルでは制御されません。アクセスプロファイルは既存のデータへのアクセスを制御するため、アクセスプロファイルでプライマリレコードへのアクセスを制御するには、それらのレコードが事前に存在する必要があります。

- **すべてのレコードを読み取り可能：**役割について役割管理ウィザードのステップ 2 でプライマリレコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオンにすると、その役割を持つユーザーはそのレコードタイプのすべてのレコードを表示できます。役割についてプライマリレコードタイプの [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスをオフにすると、一般的には、その役割を持つユーザーがそのレコードタイプのレコードを表示できるのは、レコードの表示を承認される場合のみになります。他のアクセス制御コンポーネント（ブック、チーム、グループ、管理階層など）もレコードの表示に影響することがあります。ユーザーは、そのようなアクセス制御コンポーネントにより、自らが所有していないレコードを表示できることがあります。ただし、他のアクセス制御コンポーネントでレコードの表示が承認されず、[すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスがオフの場合、ユーザーに表示できるのは所有するレコードのみです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』
- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

役割の権限について

役割管理ウィザードのステップ 4 で役割の権限を付与または無効化します。役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

権限により、企業が Oracle CRM On Demand で使用するためにライセンスされる機能を管理します。企業が Oracle CRM On Demand を使用するよう最初に設定するときに、ライセンスされたすべての機能に対するすべての権限が管理者の役割に付与されます。ユーザーが Oracle CRM On Demand とやり取りするたびに、Oracle CRM On Demand はそのユーザーの役割に割り当てられている権限のセットを確認して、ユーザーが特定の機能の実行および特定のレコードタイプへのアクセスに必要な権限を持っているかどうかを判断します。以前に役割に付与された権限が後で取り消された場合、その役割を持つユーザーは機能を使用できなくなります。権限が取り消されても、権限を持つユーザーが設定した既存のデータおよび設定情報は失われません。

役割管理ウィザードでは、権限はカテゴリーに分類されます。各カテゴリーは、Oracle CRM On Demand の機能の一部を構成する権限のグループを表します。たとえば、*[管理：ユーザーおよびアクセスの制御]* は、*[ユーザー管理とアクセス制御]* のすべての機能領域を制御する権限です。

各権限は、権限のカテゴリー内の個々の機能領域に関連します。たとえば、*[ブックの管理]* は、役割を持つユーザーが、カスタムブックとサブブックを作成、更新、編集および削除する場合、また関連付けられたメンバーを管理する場合に必要な権

限です。各権限は、制御フィールドおよび機能に固有のその他の機能も公開します。ユーザーが機能を使用するために必要な権限を判断するには、オンラインヘルプを参照してください。

注：役割に権限を付与するだけでは、ユーザーが機能を使用するためのすべてのアクセス権を付与するのに十分ではありません。権限を付与すると、機能に必要なレコードタイプと機能の詳細が役割に公開されます。たとえば、[ブックの管理] 権限が役割に割り当てられた場合、役割を持つユーザーは、役割管理ウィザードのステップ 2 と、アクセスプロファイルウィザードでも [ブック] レコードタイプを参照できます。ただし、ブックレコードの操作に必要な権限をユーザーに付与するには、ユーザーの役割に対する役割管理ウィザードのステップ 2 (レコードタイプアクセス) および役割のアクセスプロファイルで、必要なアクセスレベルを設定する必要があります。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』
- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の追加](#) 『207ページ』

役割の追加

役割は、次の操作によって Oracle CRM On Demand に追加できます。

- 新規役割を作成する
- 既存の役割をコピーして名前を変更し、そのコピーの権限とアクセス権を編集する

役割は類似しているが、ユーザーには異なるページレイアウトを表示する場合は、役割をコピーすると便利です。たとえば、北米のエグゼクティブとヨーロッパ、中東、アフリカ (EMEA) のエグゼクティブに、異なる方法で商談情報を表示する必要があり、その結果、各ユーザーセットについて異なるフィールドとページレイアウトが必要な場合を考えます。この設定を行うには、デフォルトのエグゼクティブの役割に基づいて 2 つの役割を作成し、新規役割の名前を「Exec - North America」および「Exec - EMEA」と指定します。エグゼクティブの役割をコピーすると、新規役割には元の役割のアクセス権限が保持され、ページレイアウトのみ変更する必要があります。これによって、新規役割を割り当てるユーザーには、そのユーザーの作業に関連するビューとフィールドが表示されます。

注:役割に関連付けるページレイアウトを作成する必要があります。ページレイアウトの作成方法については、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) 『61ページ』」を参照してください。

ヒント:各役割についてテストユーザーを設定することをお勧めします。このテストユーザーを有効にして、設定が正しく設定されていることを確認します。他のユーザーは、アクセス権、役割の設定、レポートとデータ共有の階層、ワークフロールール、およびその他のビジネスプロセスのカスタマイズを含むすべてのユーザー設定が完了するまで有効にしないでください。テストが終了した後は、テストユーザーを無効にしてください。

作業前の準備。 次の操作を実行します。

- [ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられていることを確認します。
- 「[役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』」を参照して、役割の設定に関するガイドラインを確認します。

注: Oracle CRM On Demand では、役割に対するあらゆる変更について監査レコードが生成されます。ユーザーの役割に [マスター監査証跡および管理設定の監査へのアクセス] 権限が含まれている場合は、役割に対する変更の監査証跡を表示できます。監査証跡の表示の詳細は、「[監査証跡の設定変更の確認](#)」『44ページ』を参照してください。

次の手順では、役割の追加方法について説明します。

役割を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] をクリックします。
- 3 [役割管理] セクションで、[役割管理] をクリックします。
- 4 [役割リスト] ページの [翻訳言語] フィールドで、企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 次の該当する操作を行います。
 - 既存の役割をコピーして新規役割を作成するには、コピーする役割で [コピー] をクリックします。
 - 既存の役割に基づかないで新規役割を作成するには、ページのタイトルバーにある [新規役割] をクリックします。

プロセスを進めるための役割管理ウィザードが表示されます。この役割管理ウィザードの各ステップで、役割に関する設定を行います。役割に関するすべての設定に応じて、役割を割り当てるユーザーのアクセス権が決まります。
- 6 ステップ 1 の [役割情報] で、名前と説明を入力し、必要に応じて残りのフィールドに入力します。その他のフィールドの説明は次の表のとおりです。

フィールド	説明
翻訳	<p>[翻訳] チェックボックスは、次の両方の状況でのみ有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既存の役割の名前が変更されている場合 ■ 既存の役割名が他の 1 つ以上の言語にすでに翻訳されている場合 <p>このような状況では、[翻訳] チェックボックスを使用して、翻訳済みの役割名を新しい名前に置換するか、変更しないままにするかを指定できます。[翻訳] チェックボックスの設定に応じて、役割名は次のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [翻訳] チェックボックスをオンにすると、新しい名前は、役割リストの表示に使用されている言語に関係なく、その名前の入力言語で表示されます。新しい名前の入力言語で役割リストが表示された場合、名前は黒いフォントで表示されます。ただし、役割リストが他の言語で表示された場合、名前は括弧で囲まれた青いフォントで表示されます。 ■ [翻訳] チェックボックスをオフにすると、新しい名前が表示されるのは、その新しい名前の入力言語で役割リストが表示されたときです。ただし、役割リストが他の言語で表示された場合は、元の翻訳済みの役割名がそのまま表示されます。 <p>[翻訳] チェックボックスが、新規役割の追加に影響を与えることはありません。新規役割を追加すると、新しい名前は役割リストにすべての言語で表示されます。役割リストが新しい名前の入力言語で表示された場合、新規役割の名前は黒いフォントで表示されます。役割リストが他の言語で表示された場合、</p>

フィールド	説明
	新規役割の名前は括弧で囲まれた青いフォントで表示されます。
デフォルトセールスプロセス	<p>(オプション) この役割を割り当てられたユーザーが作成した新しい商談に対してデフォルトのセールスプロセスを設定するには、この [デフォルトセールスプロセス] フィールドでオプションを選択します。</p> <p>このオプションの詳細は、「セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定 『339ページ』」を参照してください。</p>
テーマ名	<p>(オプション) 役割に対してデフォルトのテーマを設定するには、[テーマ名] フィールドでテーマを選択します。</p> <p>テーマの作成方法の詳細は、「新規テーマの作成 『124ページ』」を参照してください。</p>
アクションバーレイアウト	デフォルトでは、すべての役割に対して標準レイアウトのアクションバーが使用されます。役割には、別のアクションバーレイアウトを割り当てることができます。
関連情報形式	<p>(オプション) レコードの [詳細] ページの関連情報セクションに対してデフォルトの形式を設定するには、[リスト] または [タブ] を選択します。</p> <p>この設定により、レコードの [詳細] ページの関連情報セクションがリストで表示されるか、表として表示されるかが決まります。この設定は各ユーザーのレコードにも設定可能で、役割に [関連情報表示形式のパーソナライズ] 権限があるユーザーは、各自の個人プロファイルの [関連情報形式] オプションを設定できます。ユーザーのレコードの [関連情報形式] オプションが空白の場合は、ユーザーの役割のデフォルト設定が使用されます。ユーザーの役割の [関連情報形式] オプションが空白の場合は、企業のデフォルト設定が使用されます。</p>
見込み客変更レイアウト	<p>(オプション) この役割を割り当てられたユーザーに対して、([見込み客を変換] ページの) 見込み客変換レイアウトを設定するには、[見込み客変更レイアウト] フィールドでレイアウトを選択します。</p> <p>役割に対してレイアウトを選択しない場合は、企業のデフォルトのレイアウトが使用されます。見込み客変換レイアウトの作成方法の詳細は、「見込み客変換レイアウトの作成 『329ページ』」を参照してください。</p>

- 1** ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] で、レコードタイプごとに、役割に付与する各アクセスレベルのチェックボックスをオンにします。

各レコードタイプには、次のアクセスレベルを 1 つ以上選択できます。

- アクセス可能
- 作成可能
- すべてのレコードを読み取り可能

これらのアクセスレベルの詳細は、「[役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』」を参照してください。

注意: レコードタイプへのアクセスを拒否すると (役割管理ウィザードでレコードタイプの [アクセス可能] チェックボックスをオフにします)、ユーザーが別のレコードタイプのレコードを作成することを防止できます。たとえば、あるレコ

ードタイプへのアクセスを拒否したときに、ユーザーが別のレコードタイプに基づくレコードを作成するためにそのレコードタイプにアクセスする必要があると、ユーザーはそのレコードを作成できません。

注：見込み客または取引交渉登録を変換するユーザーには、特定のレコードタイプに対する適切なアクセスレベルが設定されている必要があります。見込み客の変換に必要なアクセスレベルの詳細は、「見込み客を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定」を参照してください。取引交渉登録の変換に必要なアクセスレベルの詳細は、「取引交渉登録を変換するためのアクセスプロファイルと役割の設定」を参照してください。

ヒント:役割に対するアクセスレベルを変更し、その変更を保存した後、その役割が割り当てられているユーザーは、サインアウトして再度サインインし、自分の役割の変更を有効にする必要があります。

- 2 ステップ 3 の [アクセスプロファイル] で、この役割に割り当てるアクセスプロファイルを選択します。

役割のアクセスプロファイルの詳細は、「[役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』」を参照してください。

- 3 ステップ 4 の [権限] で、役割に付与する各権限の [割当] チェックボックスをオンにするか、役割から取り消す権限の [割当] チェックボックスをオフにします。

権限は、カテゴリーのアルファベット順に編成されています。

注意：管理者の役割で、権限の [割当] チェックボックスがオフの場合は、権限が **Oracle CRM On Demand** から削除されるため、企業の管理者はその権限を他の役割に割り当てることができない場合があります。このような問題が発生した場合は、**Oracle CRM On Demand Customer Care** に連絡して、権限を復元してください。

役割の権限の詳細は、「[役割の権限について](#) 『206ページ』」を参照してください。

- 4 ステップ 5 の [タブへのアクセスと順序] で、ページの適切なセクションにタブを移動し、[選択されたタブ] セクションで上向き矢印と下向き矢印をクリックして、ユーザーに対してデフォルトで表示するタブの表示順序を定義します。

[使用不可タブ] セクションには、役割に対して使用可能なレコードタイプタブとカスタム **Web** タブが表示されます。このセクションに表示されるレコードタイプのリストは、**Oracle CRM On Demand** によって決定されます。このリストには、役割管理ウィザードのステップ 2 でリストしたほとんどのレコードタイプも表示されます。[ブック] などの他のレコードタイプはタブとして表示できないため、このリストには表示されません。役割が割り当てられたユーザーは、[使用不可タブ] セクションに表示されたタブを使用できません。

各タブを、この役割が割り当てられたユーザーに対して使用可能または表示可能にするには、次の操作を行います。

- ユーザーにデフォルトで表示するタブを [選択されたタブ] セクションに移動します。このセクションには、役割が割り当てられたユーザーがその役割で最初にサインインしたときにデフォルトで表示される、レコードタイプタブとカスタム **Web** タブが表示されます。上向き矢印と下向き矢印を使用して、最初に表示するタブの順序を決定します。役割が割り当てられた各ユーザーは、自分の設定をカスタマイズできるため、デフォルトでタブを非表示にしたり、タブの表示順序を変更することができます。ユーザーによる個人設定の管理方法の詳細は、「アプリケーションのパーソナライズ」を参照してください。
- デフォルトではユーザーに表示しないが、ユーザーが自分で表示できるタブは、[使用可能タブ] セクションに移動します。このセクションには、役割に対しては使用可能だが、デフォルトでは表示されない、レコードタイプタブとカスタム **Web** タブが表示されます。つまり、このセクションに表示されるタブは、ユーザー自身が個人レイアウト（[設定（個人）] から使用可能）で表示するように設定するまでは表示されません。役割が割り当てられた各ユーザーは、自分の設定をパーソナライズできるため、使用可能なタブをデフォルトで表示するように設定できます。また、各ユーザーは、すべてのタブの表示順序を指定することもできます。
- ユーザーから隠すタブは [使用不可タブ] セクションに残します。

注: [使用不可タブ] セクションから [使用可能タブ] または [選択されたタブ] セクションにタブを移動した場合、そのタブがユーザーに対して使用可能になるのは、役割管理ウィザードウィザードのステップ 2（[レコードタイプアクセス]）でレコードタイプに対して [アクセス可能] チェックボックスをオンにした場合のみです。

ヒント:特定の範囲のタブを同時に移動するには、**Shift** キーを押しながら、その範囲の先頭のタブをクリックし、次に、最後のタブをクリックします。その後、右向きまたは左向き矢印をクリックします。

- 5** ステップ 6 の [ページレイアウト割当] で、レコードタイプごとに、ページビュータイプが静的か動的かを選択し、そのビュータイプで使用可能なページレイアウトのリストからレイアウトを選択します。

ページレイアウトによって、様々なレコードタイプの [作成]、[編集]、[詳細] の各ページに表示されるフィールドとセクションが決定されます。**Oracle CRM On Demand** には、レコードタイプごとに標準のページレイアウトがあらかじめ用意されています。標準のページレイアウトは静的なページレイアウトで、削除できません。したがって、[ページビュータイプ] フィールドの [静的] オプションは常に使用可能です。[動的] オプションを使用できるのは、レコードタイプに対して使用可能な動的なページレイアウトがある場合のみです。企業の管理者は、レコードタイプに対してカスタマイズされた追加の静的または動的なページレイアウトを作成できます。

レコードタイプごとに、標準のページレイアウトとレコードタイプに対して作成された任意のページレイアウトを役割への割り当てに使用できます。静的および動的なページレイアウトの作成方法の詳細は、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ](#) 『61ページ』」を参照してください。

レコードタイプに対するデフォルトのページレイアウトは、そのレコードタイプの標準の静的なページレイアウトです。

注:役割管理ウィザードのステップ 6 で表示されるレコードタイプのリストは、**Oracle CRM On Demand** によって決定されます。**Oracle CRM On Demand** にタブとして表示されない [ユーザー管理] や [ユーザー所有者] などのレコードタイプが表示される場合があります。

- 6** ステップ 7 の [検索レイアウト割当] で、レコードタイプごとに、使用可能な検索レイアウトのリストから検索レイアウトを選択します。

リストされたレコードタイプごとに、使用可能なレイアウトのリストが [検索レイアウト名] フィールドに表示されます。検索レイアウトによって、ユーザーがレコードの検索時に使用できるフィールド（標準フィールドとカスタムフィールド）と、検索結果ページに表示されるフィールドが決定されます。使用可能なほとんどのプライマリレコードタイプの検索レイアウトは、タブとして役割に割り当てることができます。また、検索可能な他のレコードタイプ（[製品]、[ユーザー] など）に検索レイアウトを割り当てすることもできます。カスタマイズされた検索レイアウトの作成および変更方法の詳細は、「[検索レイアウトの管理](#) 『95ページ』」を参照してください。

- 7** ステップ 8 の [ホームページレイアウト割当] で、レコードタイプごとに、使用可能なホームページレイアウトのリストからホームページレイアウトを選択します。

リストされたレコードタイプごとに、標準のホームページレイアウト、およびレコードタイプに対して作成された任意のホームページレイアウトを役割に割り当てることができます。レコードタイプのリストには、役割に対してタブとして使用可能なプライマリレコードタイプがすべて表示されます。

ホームページレイアウトによって、レコードタイプごとにホームページに表示される情報が決定されます。**Oracle CRM On Demand** には、タブとして表示可能なプライマリレコードタイプごとにデフォルトのホームページレイアウトがあらかじめ用意されています。ユーザーは、カスタマイズされた追加のホームページレイアウトをレコードタイプに対して作成できます。ホームページレイアウトの作成方法の詳細は、「[レコードホームページレイアウトの作成](#) 『101ページ』」を参照してください。

- 8** [終了] をクリックします。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [役割管理](#) 『202ページ』

- [役割の設定に関するガイドライン](#) 『202ページ』
- [\[役割リスト\] ページの使用](#) 『204ページ』
- [役割のレコードタイプアクセスについて](#) 『205ページ』
- [役割のアクセスプロファイルについて](#) 『168ページ』
- [役割の権限について](#) 『206ページ』

ブックの管理

ブックは、ユーザーが各レコードのチームメンバーにならなくても共同作業できるように、レコードを整理および分離する効率的な方法です。

ブックを使用して企業データを整理すると、レコードの検索が速く効率的になります。ブックは、グループおよびチームと共存できます。ユーザーのグループへのアクセスを提供する要件が直接的で比較的单純な場合、グループの割当を使用できます。ただし、グループレコードの所有権の要件が複雑な場合は、ブックの使用が推奨されます。

デフォルトユーザーブック

Oracle CRM On Demand では、デフォルトブックが各ユーザーに割り当てられ、ユーザーの名前が付けられます。レコードがユーザーに割り当てられると、レコードはユーザーのデフォルトブックに割り当てられます。レコードがチームにより所有されている場合、チームはそのチームのメンバーとなっているユーザーの一連のデフォルトブックを代表します。レコードの所有者が変更されたり、チームのメンバーが変更されると、ユーザーブックは自動的にレコードに関連付けられます。

カスタムブック

ブック機能が有効な場合、カスタムブックを使用し、ビジネス上の目的に合わせてデータを整理できます。通常、ブックはカスタムブックを指します。ブックは互いに独立することもできますし、ブックを階層に整理することもできます。たとえば、ブックを作成して、テリトリーや製品などのビジネスの組織単位に従ってデータを分割できます。その後、ブックへの適切なアクセスレベルをユーザーに設定できます。

パートナー用に自動作成されるブック

Oracle CRM On Demand でパートナーレコードが有効な場合は、パートナー組織用のブックが自動作成されます。パートナー用に自動作成されるブックは、パートナーレコードのブック関連項目を表示しているときに、パートナーレコードのページからアクセス可能なブックのルックアップウィンドウで選択できます。パートナーレコードのページにアクセスできるのは、ブランド所有者の企業のユーザーのみです。パートナー関係をパートナーレコードに追加するときに [パートナーへのアクセス] チェックボックスまたは [パートナーへの相互アクセス・(リバース)] チェックボックスがオンになっていると、関連するパートナー用に自動的に作成されたブックが同期されます。これで、Oracle CRM On Demand でパートナー取引先が関連付けられている場合であれば、同期された各パートナーブックに関連付けられているパートナーユーザーは、パートナー組織に関連付ける対象のパートナー取引先を参照できます。

パートナー組織にユーザーを追加すると、そのユーザーは、パートナー組織のパートナーブックに自動的に関連付けられます。

パートナーのカスタムブック

パートナー組織用のカスタムブックを作成することもできます。必要に応じて、ブランド所有者の企業のユーザーとパートナー組織のユーザーを含む任意の組合せのユーザーを、そのようなカスタムブックに割り当てることができます。

ブックでサポートされるレコードタイプ

さまざまなタイプのレコードを同じユーザーに割り当てることができるのと同じように、さまざまなタイプのレコードを同じブックに割り当てることができます。次のレコードタイプをブックに割り当てることができます。

- 取引先
- 認定
- 割当
- 申込書類
- アポイント
- ビジネス計画
- キャンペーン
- 認定レベル
- 担当者
- コース
- カスタムオブジェクト
- 取引交渉登録
- 自動車ディーラー
- 試験
- 金融口座
- 財務計画
- 資金
- 世帯
- 在庫監査レポート
- 在庫期間
- 見込み客
- MDF リクエスト
- 医学教育イベント
- メッセージプラン
- 目標
- 商談
- パートナー

- 保険
- ポートフォリオ
- プログラム
- サンプルロット
- サンプルトランザクション
- サービスリクエスト
- スマートコール
- 解決策
- 特別価格リクエスト
- タスク
- 車両

ブックセクタのブック

企業のブックセクタが有効な場合、リストページのタイトルバーのターゲット検索と高度な検索、および [レポートホームページ] にブックセクタフィールドが表示されます。ブックセクタは、ターゲット検索の対象を、ユーザーが検索するレコードを含む可能性のあるカスタムブックまたはユーザーブックに限定するために使用されます。ブックセクタフィールドに表示されるプラス記号 (+) は、サブレベルが存在することを示しています。

注: パートナーブックがブックセクタに表示されるのは、パートナーレコードタイプの場合のみです。

ブックセクタの横にあるアイコンをクリックすると、ブック階層が表示されます。ブック階層の構成は次のとおりです。

- **すべて。** カスタムブックとユーザーブックを含む、すべてのブックのデフォルトルートノード
 - **ブック。** 企業に対して設定されたすべてのカスタムブックのデフォルトルートノード
 - **ユーザー。** すべてのユーザーブックのデフォルトルートノード

[すべて]、[ブック] および [ユーザー] は、ノードまたはアンカーです。実際のブックではありません。ブック階層の例として、企業が [America (アメリカ)] という地域ブック階層を設定したとします。部下を持つユーザー [John Williams] も、地域階層のブックに関連付けられています。このユーザーに関しては、[すべて] オプションの下にブックセクタに次の階層が表示されます。

- **ブック**
 - **America (アメリカ) (親ブック)**
 - 北 (サブブック。サブブックも、より下の階層のサブブックの親ブックとなる可能性があります)
 - 東 (サブブック)
 - 西 (サブブック)
 - 南 (サブブック)
- **ユーザー**
 - **John Williams** (部下を持つユーザー)
 - **Lucy Harris** (部下。部下も部下を持つ可能性があります)

- **Rick Rogers** (部下)
- **Donna Jones** (部下)
- **Jeff Smith** (部下)

注:階層の一番下のレベルのブックは、リーフノードブックと呼ばれます。

ブックセクタの [サブ項目を含める] チェックボックスを使用すると、ユーザーはサブ項目 (部下やサブブック) のデータを検索先に含めるかどうかを指定できます。 [サブ項目を含める] チェックボックスは、レポートのブックセクタでは常にオンになっています。

検索先のブックの選択

レコードを検索するとき、ユーザーは検索するデータが含まれるブックを選択します。検索するデータが、ブック階層の特定のレベルのどのブックに含まれているかはっきりしない場合、ユーザーは階層の 1 つ上にあるブックを検索先に選択できます。

ユーザーがブックセクタで [サブ項目を含める] オプションを選択し、企業プロフィールで [マネージャ表示が有効] チェックボックスがオンの場合、サブブックまたは部下のデータが検索先に含められます。

例として、次のブック階層について考えます。

- **America** (アメリカ)
 - **North** (北部)
 - **North Area 1** (北部エリア 1)
 - **North Area 2** (北部エリア 2)

ユーザーは、 [North Area 1 (北部エリア 1)] と [North Area 2 (北部エリア 2)] のどちらにレコードがあるのかははっきりしない場合、検索先として [アメリカ] ブックではなく [北部] ブックを選択します。

関連トピック

ブック構造の設計、ブックの設定、およびユーザーがブックを使用できるようにする方法の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [ブック構造の設計について](#) 『216ページ』
- [ブックの Web サービスのサポートについて](#) 『219ページ』
- [レコード所有権モードについて](#) 『220ページ』
- [レコード所有権モードおよび自動生成タスク](#) 『224ページ』
- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) 『228ページ』
- [時間ベースのブック割当について](#) 『229ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) 『231ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) 『232ページ』
- [ブックの設定のプロセス](#) 『233ページ』
- [管理者の役割に設定されたブックの確認](#) 『234ページ』
- [ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#) 『238ページ』

- [レコード所有権モードの設定](#) 『239ページ』
- [ブックとブック階層の作成](#) 『239ページ』
- [ユーザーとブックの関連付け](#) 『241ページ』
- [ブックのアクセスプロファイルの作成](#) 『244ページ』
- [企業のブックの有効化](#) 『245ページ』
- [ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#) 『246ページ』
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#) 『248ページ』
- [ブックへのレコードの割り当て](#) 『249ページ』
- [\[ブック階層\] ページ](#) 『251ページ』 の "[\[Book Hierarchy \(ブック階層\)\] ページ](#)"参照』
- [ブックのフィールド](#) 『252ページ』
- [ブックのトラブルシューティングに関する情報](#) 『253ページ』

ブック構造の設計について

効率的なブック構造をセットアップするには、ブック階層を慎重に計画する必要があります。会社のブック階層を設計および編集する際には、次の点に注意してください。

- ユーザーブックを複製するカスタムブックを作成しない。
- ビジネスデータに対する組織ポリシーとアクセスポリシーを決定する。
- 社内構造とデータ管理間に関係があるかどうか判断する。
- 社内データの関連付けを判断する。
- ユーザーニーズに基づいてブックを設計し、ユーザーがブックを頻繁に使用するタスクについて検討する。
- 企業プロフィールで [マネージャ表示が有効] チェックボックスにより提供される機能ができるだけ使用されないようにブックを設計する。
- ブック階層内のレベル数を最小限にする。
- できるだけ、ブック構造内のクロスリストの量を少なくする。クロスリストとは、複数のブック間でレコードが複製されることです。
- ブックの管理を自動化するためにワークフロールールを使用する。

ユーザーブック

ユーザーブックを複製するカスタムブックを作成することで生じる欠点は、カスタムブック内のデータとデフォルトユーザーブック内のデータを同期化しなければならないということです。この余分なタスクにより、サーバー処理時間が増え、レコード取得速度に影響が出ます。

注：企業がユーザーブックの複製を検討する理由の **1** つとして、ユーザーに、別のユーザーのデータへの一時的なアクセスを許可する場合があります。このニーズを満たすためのより適した方法として、別のユーザーのデータにアクセスする必要があるユーザーを、そのデータを所有しているユーザーの委任ユーザーとして追加するという方法があります。

データアクセスのニーズ

ブック構造に、企業の社内階層を反映させる必要はありません。その代わりに、ブック構造には、社内でのデータの管理方法を反映することをお勧めします。社内業務は、地域別に管理できるものもあれば、製品ラインまたは業種別に管理できるものもあります。次の場合については、特に注意が必要です。

- 2つ（またはそれ以上）の部署が互いのデータにアクセスしてはならない
- 2つ（またはそれ以上）の部署が互いのデータにアクセスできる必要がある

社内構造の関連性

多くの企業において、親組織は、子組織の全データに対して完全なアクセス権を持っています。このような親組織のメンバーは、通常、すべての子組織のデータに対してグローバルなアクセス権を持ちます。

このような構造の企業の場合、親組織レベルの組織構造を反映するブックのセットアップは行うことはお勧めしません。ただし、次の状況が考えられます。

- 他のレベル（子組織レベルなど）の組織構造を反映するブックをセットアップする。
- 親組織レベルで他のブック階層をセットアップする。たとえば、親組織レベルで、親組織のユーザーが、全子組織内の重要な潜在的収益のある商談を参照できるようにするブックまたはブック階層を作成することができます。

データの関連付け

ユーザーが部署を移動するときの手順について検討します。たとえば、以下の点について注意します。

- ユーザーが部署を移動するときに、データの関連付けを維持して、そのユーザーが管理するデータもユーザーとともに新しい部署に移動する場合は、レコードの所有権およびチームを介してデータを管理することをお勧めします。通常、アポイントとタスクはすべてのレベルにおいてユーザーとともに移動します。販売環境によっては、顧客データもすべてユーザーとともに移動します。このようなデータの関連付けは、中小企業または低販売量、高価値の販売を行う企業に当てはまります。
- データの組織的所有権が存在するように、地域支社などの固定組織にデータが通常ある場合、組織構造を反映するブックを介してデータを管理することをお勧めします。
- ユーザーが別の部署に移動してからしばらくの間、データの関連付けと組織的所有権をどちらも維持する場合、2つの階層を共存させることができます。

ユーザーのニーズとタスク

ブック構造を設計する際には、ユーザーが頻繁にブックを使用するタスクについて検討します。たとえば、リストからの作業、レコードの検索、レポートの作成や使用などです。

リストの使用

ユーザーが必要とするリストを識別するために、頻繁に使用されるリストのタイプと、ユーザーにとって理想的なリストを判断します。このためには、社内ユーザーに入力を依頼します。ブック構造内に、理想的なリストに必要なすべてのレコードが含まれるブックがない場合、そのブック構造に階層がない可能性があります。たとえば、地域別階層と製品別階層の両方をセットアップすることができます。

1つのブックの特定のサブセット内で長時間作業する場合は、そのサブセット用のサブブックを作成します。そのサブブックには、ユーザーが識別可能な名前を付けます。また、ユーザーが毎回適切なブックを選択する必要がないように、サブブック

を[ブック]セレクトのデフォルトとして設定することもできます。[ブック]セレクトのデフォルトの設定方法については、「[ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化『246ページ』](#)」を参照してください。

レコードの検索

社内ユーザーの検索ニーズを判断するために、ユーザーに特定のレコードを検索するシナリオについて尋ねます。ブック構造とブックサイズは、ユーザーが頻繁に実行する検索と検索基準を反映する必要があります。

注：既にブック構造が配置されており、それを編集している場合は、特定のレコードがその階層内の特定のブックに存在していることを確認できるかどうかをユーザーに尋ねてください。ユーザーが一様に、より高いレベルのブックしか確認できないと答える場合には、そのブック構造に別のサブセットがあれば、この検索範囲を絞ることができるかどうか確認してください。高いレベルのブックの検索は、通常の実例の例外としてのみ行うようにしてください。

検索で使用するフィールドも、検索速度に影響します。

- インデックス付きフィールドを使用してブック内のレコードを検索すると、パフォーマンスが最適化されます（インデックス付きフィールドは、検索セクションで緑色のテキストで示されます）。
- インデックス付きフィールドではなく、インデックスが付いていないフィールドを使用してブック内のレコードを検索する場合、検索速度は遅くなり、検索するレコード数に応じて、パフォーマンスも影響を受けます（インデックスが付いていない検索フィールドは検索セクションで黒色のテキストで示されます）。

たとえば、ユーザーがインデックス付きフィールドを使用して担当者レコードを検索する場合は、最下位レベルのブック（リーフノードブックと呼ばれます）のレコード数は、各レコードタイプにつき最大 **100,000** です。ただし、ユーザーがインデックスの付いていないフィールドを使用して担当者レコードを検索する場合は、リーフノードブックのサイズをレコード数 **20,000** から **30,000** におさえることができます。

データ構成は会社によって変わるので、ブックのレコード数について推奨値はありません。ブックのサイズは継続して管理することが必要です。ブックを使用すると検索するレコード数を減らすことができ、検索速度が上がります。

レポートの作成と使用

管理者以外のユーザーは全員、レポート用のデータ表示ルールに従います。ユーザーブックまたはカスタムブックがレポートの[ブック]セレクトで指定された場合、レポート対象とみなされるデータは次のとおりです。

- 履歴分析（レポートタブとダッシュボードタブ、およびレコードのホームページに埋め込まれたレポートからアクセスされた履歴分析を含む）内の全コンテンツは、そのブックに限定され、指定されたブックの全サブレベルを含みます。そのユーザーが所有するレコード、またはそのユーザーがチームメンバーとなっているレコードでも、選択されたブックまたはサブブックにもそれらのレコードが含まれていない限り、含まれません。
- リアルタイムのレポートは、[ブック]セレクトで選択されたブック（カスタムブックまたはユーザーブック）に直接関連付けられているデータに制限されます。選択されたブックにサブブックまたは部下が含まれる場合、そのサブブックや部下のデータはリアルタイムのレポートでは無視されます。

注：通常、ブック構造はセットアップ後に変更する必要はありませんが、変更することもできます。このような変更を行う場合、ダウンタイムは必要なく、変更もすぐに適用されます。ただし、この変更は、リアルタイムレポート内のデータにはすぐに反映されません。

レポート内のレコードの表示の詳細は「レポート」を参照してください。

マネージャ表示

ブック階層を設計する際には、次の原則に基づいてください。

- 企業プロフィールの「マネージャ表示が有効」チェックボックスによって提供される機能は、できるだけ使用しないようにします。

「マネージャ表示が有効」オプションにより、管理者はレポートを提出するユーザーのレコードにアクセスできるようになり、ユーザーは検索時にサブブック内のデータも含むことができるようになります。

- 「サブ項目を含める」オプションは、データ量が大きい検索では基本的に使用しないようにします（データ量が大きくなるレコード数は会社および検索パターンによって異なります）。

「サブ項目を含める」オプションを使用しなければならないのは、部下が互いに共有できないため、部下を含むユーザーブックに対して管理者がリストを実行する場合などです。データ量が大きい場合、検索時間は長くなります。パフォーマンスを最適化するには、必要な場合に限り、「サブ項目を含める」オプションを有効にするようにします。

階層レベル

すべてのレベルにレコードがあり、レベル数が多いブック階層は、マネージャ表示が有効になっているチーム機能と似た動作になります。このような階層は、データセットが小さい場合は問題ありませんが、データ量が大きくなるにつれて、階層内のレベル数が少ない方が（または、階層レベルがない方が）チーム機能よりはるかにパフォーマンスが良くなります。

ブック階層内のあるレベルが、データセキュリティまたはデータ組織にとって付加価値のないものである場合には、冗長ブックとそのサブブックをマージしてください。あるレコードが、同じ親ブック内の 2 つのサブブックのうちどちらに含まれているのかを識別できるかどうか、ブックユーザーに尋ねてください。識別できない場合には、その 2 つのサブブックを親ブックに折りたたむのが最適な方法です。

ブック階層内のレベル数を減らす簡単な方法は、サブブックに親ブック名を接頭辞として付けるという方法です。たとえば、**North America** という名前の親ブックを持つ **North** という名前のサブブックがある場合、親ブックを削除して、サブブックの名前を **NA – North** にします。

クロスリスト

クロスリストとは、複数のブック間でレコードを複製することです。クロスリストは同期化が必要で、その結果サーバーのパフォーマンスに影響する読み書き処理が増大するため、ユーザーが管理するための諸経費がかかります。クロスリストの使用は最小限にしてください。

ブックの管理の自動化

通常、ブック割当基準はレコードタイプの 1 つ以上のフィールドにマップされます。これらのフィールドのうち 1 つが変わると、ブック割当を自動的に認識するワークフロールールを作成できます。

たとえば、**Territory** というブック階層があった場合、あるレコードタイプ内のあるフィールド（たとえば、取引先の **Territory** フィールド）を監視するワークフロールールを作成し、次に、取引先の **Territory** フィールド値が変わると、そのレコードの **Territory** ブックを新しいブックに更新するブック割当アクションをルールに設定することができます。

ブックの Web サービスのサポートについて

ブックは、Web サービスを介して管理できます。社内でブックが有効になっている場合、Book WSDL (Web Services Description Language) をダウンロードできます。Web サービスの詳細については、『*Oracle Web Services On Demand Guide*』を参照してください。

レコード所有権モードについて

企業のビジネス要件によっては、所有者に特定のレコードタイプのレコードを割り当てる必要がない場合があります。かわりに、従業員が別の権限に移動した場合、またはビジネスモデルの変更によってセールスチームを再調整した場合に、レコードの所有権を再割り当てる必要がないようにレコードを編成する必要があります。Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、所有者をレコードに割り当てるのではなく、プライマリカスタムブックをレコードに関連付けることによって、このようなビジネス要件をサポートします。ユーザーがレコードのプライマリカスタムブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。また、企業は、レコードに割り当済み所有者または関連プライマリカスタムブックのいずれかを必要としないレコードタイプを設定できます。

Oracle CRM On Demand では、ブックを使用するほとんどのレコードタイプに対して、次のモードのレコード所有権を設定できます。

- **ユーザーモード。**ユーザーモードは、リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand のレコード所有権に似ています。レコードタイプがユーザーモードに設定された場合、そのレコードタイプの各レコードには所有者を割り当てる必要があります。レコードの詳細ページで [ブック] フィールドが使用可能な場合、[ブック] フィールドには、所有者に関連付けられたユーザーブックが表示されます。

注：デフォルトでは、サービスリクエストレコードは所有者なしで存在でき、一部のレコードタイプ（[ユーザー]、[製品] など）ではレコードに所有者を設定しません。この機能は、以前のリリースの Oracle CRM On Demand から変更ありません。

- **ブックモード。**レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、そのレコードタイプのレコードに所有者を割り当てることはできません。かわりに、各レコードにはプライマリカスタムブックが必要です。ユーザーがレコードのプライマリブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。ブックモードは、ブックをサポートしているレコードタイプでのみ使用できます。

- **混合モード。**混合モードは、ユーザーまたはブックモードとも呼ばれます。レコードタイプがこのモードに設定されている場合、そのレコードタイプのレコードは次のいずれかの方法で設定できます。

- レコードは、割り当済み所有者または関連プライマリカスタムブックのいずれかが設定されていなくても存在できます。ユーザーがこのようなレコードにアクセスするには、チームメンバーシップ、またはレコードに関連付けられたブックのメンバーシップを使用します。また、役割管理ウィザードのステップ 2 でユーザーの役割に対して [すべてのレコードを読み取り可能] チェックボックスがオンに設定されているユーザーは、レコードにアクセスできます。

- レコードに所有者を割り当てることができます。

- レコードにプライマリカスタムブックを関連付けることができます。

注：レコードに割り当済み所有者と関連プライマリカスタムブックの両方は設定できません。

混合モードは、ブックをサポートしているレコードタイプでのみ使用できます。

レコードタイプに対して設定した所有権モードに関係なく、ユーザーは、追加のブックをレコードに割り当てたり、追加のユーザーをレコードにリンクすることができます（レコードタイプでチームをサポートしている場合）。ユーザーがレコードに割り当てられたブックのメンバーである場合は、ユーザーの役割およびアクセスプロファイル設定で必要なアクセス権がユーザーに付与されているかぎり、そのレコードにアクセスしてレコードを使用できます。

レポート

[取引先] および [担当者] レコードタイプの場合は、レコードとそのレコードのプライマリブック間の関係に基づいて、リアルタイムのレポートおよび履歴レポートを作成できます。レポートおよびレコード所有権モードの詳細は、「分析のレコードの表示について」を参照してください。

レコード所有権モードは、[レポート] ホームページのブックセクタでブックを選択するときに適用されるデータ表示ルールに影響を与えません。レポートにおけるブックのデータ表示ルールの詳細は、「[ブック構造の設計について『216ページ』](#)」を参照してください。

レコード所有権モードをサポートしているレコードタイプ

レコード所有権モードは、次の例外を除いて、カスタムブックをサポートするレコードタイプでサポートされています。

- 割当
- 資金
- 在庫監査レポート
- 在庫期間
- メッセージプラン
- スマートコール
- 解決策

カスタムブックをサポートする他のすべてのレコードタイプは、ユーザーモード、ブックモードまたは混合モードに設定できます。ブックをサポートする各種レコードタイプには、所有権モードを組み合わせ使用できます。たとえば、[担当者] レコードタイプはブックモードに、[取引先] レコードタイプはユーザーモードに設定できます。レコードタイプのレコード所有権モードはいつでも変更できます。レコードタイプのレコード所有権モードを設定するには、次の表に示すように、レコードタイプの [所有者] フィールドと [ブック] フィールドが必須か必須でないかを設定します。

注：レコードタイプのページレイアウトは、レコード所有権モードに対して正しく設定されている必要があります。詳細は、「[レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて『69ページ』](#)」を参照してください。

レコード所有権モード	[所有者] フィールドの [必須] 設定	[ブック] フィールドの [必須] 設定	その他の設定の詳細	コメント
ユーザーモード	はい	いいえ	なし	レコードレイアウトに [ブック] フィールドを表示する場合、そのフィールドは読み取り専用で、レコードの割当済み所有者であるユーザーのユーザーブックの名前が表示されます。
ブックモード	いいえ	はい	(オプション) [所有者] フィールドを読み取り専用を設定します。	レコードレイアウトに [所有者] フィールドを表示する場合、そのフィールドは空白である必要があります。 [ブック] フィールドはピックリストフィールドで、企業に対して設定したカスタムブックのリストが表示されます。

レコード所有権モード	【所有者】フィールドの【必須】設定	【ブック】フィールドの【必須】設定	その他の設定の詳細	コメント
混合モード	いいえ	いいえ	なし	レコードの【ブック】フィールドでカスタムブックを選択すると、【所有者】フィールドは空白になります。 【所有者】フィールドでユーザーを選択すると、【ブック】フィールドには所有者のユーザーブックの名前が自動的に設定されます。

デフォルトのレコード所有権モード

リリース 19 以前の Oracle CRM On Demand で作成された既存の企業の場合、デフォルトのレコード所有権モードはユーザーモードですが、例外として、【サービスリクエスト】レコードタイプはデフォルトで混合モードに設定されます。新しい企業の場合は、混合モードが、レコード所有権モードをサポートするレコードタイプに対するデフォルトのレコード所有権モードです。

レコード所有権モードに関する考慮事項

レコードタイプのレコード所有権モードを設定するときは、次の点を考慮してください。

- **アサイメントマネージャ。** 割当マネージャは、ユーザーに対してのみレコードを再割当できます。レコードを再割当できるのは、レコードタイプがレコード所有権のユーザーモードまたは混合モードに設定されている場合のみです。割当マネージャが所有者にレコードを再割当する前に、レコードに割り当てられたプライマリカスタムブックがある場合、割当マネージャは、レコードからプライマリブックを削除します。割当マネージャは、レコードタイプがブックモードに設定されている場合、レコードを再割当できません。レコードタイプをブックモードに設定する場合は、そのレコードタイプに対するすべてのルールグループを無効にすることを強くお勧めします。割当ルールの詳細は、「[割当ルールについて](#)」『318 ページ』を参照してください。
- **他のアプリケーションとの連携。** 次のアプリケーションでは、レコードに所有者を設定する必要があります。アプリケーションで使用するレコードタイプがブックモードに設定されている場合、これらのアプリケーションは使用不可で、レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、レコードに所有者を設定する必要があります。
 - Offline On Demand
 - Oracle Outlook Email Integration On Demand
 - Oracle Notes Email Integration On Demand
 - Oracle CRM On Demand Integration for Office
 - Oracle CRM On Demand Connected Mobile Sales
- **所有権モードの変更後のレコード更新。** レコードタイプのレコード所有権モードをユーザーモードに変更する場合は、そのタイプの全レコードに所有者を設定するように更新することを検討してください。そうしない場合、そのレコードタイプのレコードを次に更新するユーザーは、レコードの所有者を選択するように要求されます。同様に、レコードタイプのレコード所有権モードをブックモードに変更する場合は、そのタイプの全レコードに適切なプライマリカスタムブックを割り当てるように更新することを検討してください。そうしない場合、そのレコードタイプのレコードを次に更新するユーザーは、レコードのプライマリカスタムブックを選択するように要求されます。

レコードタイプのレコード所有権モードを変更する際の動作

企業がレコードタイプのレコード所有権モードを別のモードに変更すると、そのレコードタイプの新規レコードには、新しい所有権モードが適用されます。既存のレコードに対する動作は次のとおりです。

- **新しいレコード所有権モードがユーザーモードの場合。**所有権モードの変更に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。
 - レコードにユーザーが所有者として割り当てられていない場合、レコードを更新するユーザーは、[所有者] フィールドでユーザーを選択する必要があります。
 - すでにレコードにプライマリカスタムブックが割り当てられている場合は、[ブック] フィールドからプライマリブックの名前がクリアされ、新しい所有者のユーザーブックの名前が [ブック] フィールドに表示されます。また、ブックがレコードから削除され、レコードの [詳細] ページの [ブック] セクションに表示されなくなります。
- **新しいレコード所有権モードがブックモードの場合。**所有権モードの変更に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。
 - レコードにプライマリブックが関連付けられていない場合、レコードを更新するユーザーは、[ブック] フィールドでプライマリカスタムブックを選択する必要があります。
 - すでにレコードに所有者が割り当てられている場合の動作は次のとおりです。
 - レコードの [所有者] フィールドはクリアされます。
 - レコードタイプがチームをサポートしている場合は、レコードの前の所有者を除き、チームのすべてのメンバーがチームのメンバーとして残ります。この動作は、定義済みグループのメンバーであるチームメンバーの場合と同じです。つまり、レコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、[取引先] レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者が定義済みグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがチームから削除されます。定義済みグループのメンバー以外のチームメンバーは、他のレコードタイプの場合と同様に、チームのメンバーとして残ります。
- **新しいレコード所有権モードが混合モードの場合。**所有権モードの変更に初めてレコードを更新する際の動作は次のとおりです。レコードタイプが混合モードである間は、レコードが更新されるたびにこの動作が適用されます。
 - レコードを更新するユーザーは、所有者やプライマリブックを選択する必要はありません。
 - レコードを更新するユーザーは、レコードに対して所有者またはプライマリカスタムブックを選択できますが、両方は選択できません。
 - ユーザーがレコードに所有者を割り当てるときに、すでにプライマリカスタムブックがそのレコードに関連付けられている場合は、レコードの [ブック] フィールドがクリアされます。また、ブックがレコードから削除され、レコードの [詳細] ページの [ブック] セクションに表示されなくなります。
 - ユーザーがカスタムブックをレコードのプライマリブックとして関連付けるときに、すでにレコードに所有者が割り当てられている場合の動作は次のとおりです。
 - レコードの [所有者] フィールドはクリアされます。
 - レコードタイプがチームをサポートしている場合は、レコードの前の所有者を除き、チームのすべてのメンバーがチームのメンバーとして残ります。この動作は、定義済みグループのメンバーであるチームメンバーの場合と同じです。つまり、レコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、[取引先] レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者が定義済みグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがレコードから削除されます。定義済みグループのメンバー以外のチームメンバーは、他のレコードタイプの場合と同様に、チームのメンバーとして残ります。

大量更新機能を使用してレコードを更新するときの動作

大量更新機能は特定のレコードタイプでのみサポートされており、ユーザーはこの機能を使用して、レコードのグループ内のフィールドをリストページから更新できます。ユーザーが大量更新機能を使用してレコードのグループを更新するときに、レコードの必須フィールドが **null** の場合でも値の入力を要求されません。したがって、レコードタイプのレコード所有権モードが変更された後にユーザーがレコードのグループを更新するときは、新しいレコード所有権モードでレコードに所有者またはプライマリカスタムブックが必要な場合でも、ユーザーは更新するレコードに対して所有者またはプライマリカスタムブックを選択するように要求されません。

レコード所有権モードおよび自動生成タスク

レコード所有権モードは、ワークフロー規則の「タスクを作成」アクションで生成されるタスク、セールスプロセスのセールスステージで生成されるタスクなど、Oracle CRM On Demand で自動的に生成されるタスクの所有権に影響を与えます。

生成タスクに関する考慮事項

タスクを生成するときに、Oracle CRM On Demand では次の点が考慮されます。

- ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの「所有者」フィールドで選択されたオプション
- ソースレコードの「所有者」フィールドと「ブック」フィールドの値（これらのフィールドに値が存在する場合）

注：セールスステージタスクのソースレコードは、セールスプロセスにアクセスする商談で、商談にリンクした取引先の場合もあります。ワークフローアクションのソースレコードは、ワークフロー規則をトリガーするレコードです。

- 「活動」レコードタイプのレコード所有権モード

Oracle CRM On Demand で生成タスクに所有者およびプライマリカスタムブックを割り当てる方法

Oracle CRM On Demand では、自動生成タスクに所有者またはプライマリカスタムブックのいずれかを割り当てることができますが、両方を割り当てることはできません。Oracle CRM On Demand では、次のいずれかを自動生成タスクの所有者として割り当てることができます。

- 次のユーザーのいずれか：
 - ソースレコードの所有者
 - ソースレコードの所有者のマネージャ
 - チームの役割またはチームユーザーの役割を持つユーザー

注：チームの役割とは、レコードに関してユーザーがチーム内で実行する部分を説明する役割です。チームユーザーの役割とは、Oracle CRM On Demand の全ユーザーに割り当てられる Oracle CRM On Demand 役割で、レコードに関するチームのメンバーであるユーザーも含まれます。ソースレコードに関するチームの各メンバーは、チームの役割とともにチームユーザーの役割も持つことができます。

- ワークフローアクションで生成されたタスクの場合、所有者はワークフローアクションで指定されます。

Oracle CRM On Demand では、自動生成タスクのプライマリカスタムブックとして、次のいずれかを割り当てるができます。

- ソースレコードに関連付けられたプライマリカスタムブック

■ 次のいずれかのデフォルトカスタムブック：

- ソースレコードの所有者
- ソースレコードの所有者のマネージャ
- チームの役割またはチームユーザーの役割を持つユーザー

タスクに対するユーザーのデフォルトブックは次のように決定します。

- データを含めることができるデフォルトカスタムブックがユーザーのレコードの「活動」レコードタイプに関連付けられている場合は、そのブックがデフォルトブックになります。

注：レコードタイプのデフォルトブックは、「ユーザー詳細」ページの「レコードタイプ別のデフォルトブック」セクションで指定します。

- ユーザーのレコードの「活動」レコードタイプに対してデフォルトブックが指定されておらず、データを含めることができるデフォルトカスタムブックがユーザーのレコードのデフォルトブックフィールドに指定されている場合は、ユーザーのレコードのデフォルトブックフィールドに指定されたブックがデフォルトブックになります。

注：デフォルトブックはカスタムブックである必要があります。**Oracle CRM On Demand** では、ユーザーブックをタスクのプライマリブックとして割り当てることはできません。さらに、デフォルトカスタムブックは、データを含めることができるブックである必要があります。

適切な所有者、またはデータを含めることができるプライマリカスタムブックが識別できない場合、**Oracle CRM On Demand** ではタスクが生成されません。次の表では、**Oracle CRM On Demand** で生成タスクに割り当てる所有者またはプライマリカスタムブックを決定する方法について説明します。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	「活動」レコードタイプ：ユーザーモード	「活動」レコードタイプ：ブックモード	「活動」レコードタイプ：混合モード
ソースレコード所有者	所有者	ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。	ソースレコードの所有者にデフォルトブックがある場合、 Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。 ソースレコードの所有者にデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。
ソースレコード所有者	プライマリカスタムブック	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	ソースレコードのプライマリカスタムブックが、タスクのプライマリブックとして割り当てられます。	ソースレコードのプライマリカスタムブックが、タスクのプライマリブックとして割り当てられます。
ソースレコード所有者	所有者およびプライマリカスタムブックなし	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	〔活動〕レコードタイプ：ユーザーモード	〔活動〕レコードタイプ：ブックモード	〔活動〕レコードタイプ：混合モード
ソースレコード所有者のマネージャ	所有者	<p>ソースレコードの所有者にマネージャがいる場合は、そのマネージャがタスクの所有者になります。</p> <p>ソースレコードの所有者にマネージャがいない場合の動作は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ セールスプロセスの場合は、ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。 ■ ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 	<p>このケースの動作の詳細は、このトピックの 2 番目の表を参照してください。</p>	<p>ソースレコードの所有者にマネージャがいる場合は、そのマネージャがタスクの所有者になります。</p> <p>ソースレコードの所有者にマネージャがいない場合の動作は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ セールスプロセスの場合は、ソースレコードの所有者がタスクの所有者になります。 ■ ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。
ソースレコード所有者のマネージャ	プライマリカスタムブック	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
ソースレコード所有者のマネージャ	所有者およびプライマリカスタムブックなし	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
チームの役割またはチームユーザーの役割	この役割を持つチームメンバーが 1 名以上いる場合	チームメンバーがタスクの所有者になります。タスクは、指定の役割を持つチームメンバーごとに生成されます。	<p>チームメンバーにデフォルトブックがある場合、Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。</p> <p>チームメンバーにデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。</p>	チームメンバーがタスクの所有者になります。タスクは、指定の役割を持つチームメンバーごとに生成されます。

ワークフローアクションまたはセールスステージタスクの所有者オプション	ソースレコード：所有者またはプライマリカスタムブック	〔活動〕レコードタイプ：ユーザーモード	〔活動〕レコードタイプ：ブックモード	〔活動〕レコードタイプ：混合モード
チームの役割またはチームユーザーの役割	この役割を持つチームメンバーがいない場合	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談に所有者がいる場合、その商談所有者がタスクの所有者になります。ソース商談に所有者がいない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談の所有者にデフォルトブックがある場合、そのデフォルトブックがタスクに割り当てられます。ソース商談の所有者にデフォルトブックがない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。	ワークフローアクションの場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。 セールスプロセスでは、ソース商談に所有者がいる場合、その商談所有者がタスクの所有者になります。ソース商談に所有者がいない場合、タスクは作成されず、エラーメッセージも返されません。
特定のユーザー	なし	特定のユーザーがタスクの所有者になります。	特定のユーザーにデフォルトブックがある場合、 Oracle CRM On Demand ではそのブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。 特定のユーザーにデフォルトブックがない場合、タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	特定のユーザーがタスクの所有者になります。

次の表では、次に示す状況の場合に、**Oracle CRM On Demand** で生成タスクに割り当てる所有者またはプライマリカスタムブックを決定する方法について説明します。

- セールスステージタスクまたはワークフローアクションの〔所有者〕フィールドのオプションが、ソースレコード所有者のマネージャに設定されています。
- ソースレコードに所有者が設定されています。
- 〔活動〕レコードタイプがブックモードに設定されています。

所有者にマネージャがいる	マネージャにデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	所有者にデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	セールスプロセスの動作	ワークフローの動作
はい	はい	なし	Oracle CRM On Demand では、マネージャのデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当	Oracle CRM On Demand では、マネージャのデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当て

所有者にマネージャがいる	マネージャにデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	所有者にデータを含めることができるデフォルトカスタムブックがある	セールスプロセスの動作	ワークフローの動作
			てます。	ます。
はい	いいえ	はい	Oracle CRM On Demand では、ソースレコード所有者のデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
いいえ	なし	はい	Oracle CRM On Demand では、ソースレコード所有者のデフォルトブックをタスクのプライマリブックとして割り当てます。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。
いいえ	なし	いいえ	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。	タスクは作成されません。エラーメッセージは返されません。

ブックおよびブック割当のインポートについて

次のブック関連レコードを Oracle CRM On Demand にインポートできます。

- **ブック**。ブックレコードのインポートについては、「[ブックのフィールド：インポート準備](#)」『413ページ の"[ブックのフィールド：インポートの準備](#)"参照 』」を参照してください。
- **ブックユーザー**。ユーザーをカスタムブックに関連付けるブックユーザーレコードをインポートできます。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#)」『411ページ の"[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)"参照 』」を参照してください。
- **取引先ブック**。ブックを取引先に割り当てる取引先ブックレコードをインポートできます。取引先ブックレコードのインポートについては、「[取引先ブックのフィールド：インポート準備](#)」『392ページ の"[取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#)"参照 』」を参照してください。
- **担当者ブック**。ブックを担当者に割り当てる担当者ブックレコードをインポートできます。担当者ブックレコードのインポートについては、「[担当者ブックのフィールド：インポート準備](#)」『424ページ の"[担当者ブックのフィールド：インポートの準備](#)"参照 』」を参照してください。

ブックを取引先や担当者に割り当てるレコードをインポートするときは、ブック割当ごとに開始日と終了日を指定できます。また、将来のプライマリフラグフィールドを使用して、割当が有効になると、取引先または担当者に割り当てるブックがその取引先または担当者のプライマリブックになるかどうかを指定できます。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#)」『229ページ 』」を参照してください。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ『231ページ』](#)
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例『232ページ』](#)

時間ベースのブック割当について

取引先ブックレコードおよび担当者ブックレコードをインポートして、取引先および担当者のブック割当を管理できます。インポートするブック割当ごとに開始日と終了日を指定できます。ブック割当の開始日を指定しない場合、割当は即時に有効になります。また、将来のプライマリフラグフィールドを使用して、ブック割当が有効になると、取引先または担当者に割り当てるブックがその取引先または担当者のプライマリブックになるかどうかを指定できます。

取引先および担当者ブック割当の毎日の更新

毎日、スケジュールされたプロシージャによって、取引先および担当者のブック割当がすべて検証され、必要に応じて割当が更新されます。デフォルトでは、プロシージャは毎日、Oracle Server 時間の午前 0 時直後に実行されます。プロシージャは、顧客に応じて別の時間にスケジュールできます。企業でプロシージャのスケジュールを決定する場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡してください。

ブック割当プロシージャによって、取引先および担当者のブック割当は次のように更新されます。

- **ブック割当を有効化します。**ブック割当の開始日に割当がまだ有効でない場合は、その割当が有効になります。ブック割当が有効になると、そのブックのメンバーであるユーザーは、そのブックのメンバーシップを使用して取引先または担当者にアクセスできます。

たとえば、開始日が次の年の 1 月 1 日で、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートするとします。ブック割当プロシージャが次の年の 1 月 1 日午前 0 時に実行されると、取引先 1 に対するブック A のブック割当が有効になります。

- **ブックがプライマリブックかどうかを判別します。**ブック割当に対して将来のプライマリフラグフィールドが [Y] に設定されている場合、割当が有効化されると、ブックは取引先または担当者のプライマリブックになります。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとしてします。ブック B を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコード（開始日は次の年の 1 月 1 日、将来のプライマリフラグフィールドは [Y] に設定）をインポートします。ブック割当プロシージャが次の年の 1 月 1 日午前 0 時に実行されると、取引先 1 に対するブック B のブック割当が有効になり、ブック B が取引先 1 のプライマリブックになります。ブック A は取引先 1 のプライマリブックでなくなります。ただし、取引先 1 に対するブック A のブック割当は、ブック割当プロシージャの実行時に割当の終了日を経過していないかぎり、有効なままです。

- **複数のブックがプライマリブックとして指定された場合の競合を解決します。**1 つの取引先または担当者に対して、同じ開始日で将来のプライマリフラグフィールドが [Y] に設定されているブック割当が複数ある場合、割当の開始日には、次のように処理されます。

- すべてのブック割当が有効になります。
- 有効になった最初のブック割当が、レコードのプライマリブックになります。
- レコードに既存のプライマリブックがある場合、そのブックはレコードのプライマリブックではなくなりますが、ブック割当の終了日が経過しないかぎり、そのブック割当は有効なままです。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとしてします。取引先 1 に対して 2 つの取引先ブックレコードをインポートします。1 つはブック B を取引先 1 に割り当てるレコードで、もう 1 つはブック C を取引先 1 に割り当てるレコードです。両方の割当とも、開始日は次の年の 1 月 1 日で、将来のプライマリフラグフィールドは [Y] に設定されています。ブック割当プロシージャが次の年の 1 月 1 日午前 0 時に実行されると、取引先 1 に対するブック B とブック C の割当が有効になり、最初に処理された割当が取引先 1 のプライマリブックになります。ブッ

ブック A は取引先 1 のプライマリブックでなくなります。ただし、取引先 1 に対するブック A のブック割当は、ブック割当プロシージャの実行時に割当の終了日を経過していないかぎり、有効なままです。

- **必要に応じて、ブック割当を無効化してプライマリブックを削除します。**ブック割当レコードの終了日を経過すると、割当は無効になり、ブックはレコードから削除されます。さらに、ブックが取引先または担当者のプライマリブックだった場合、そのブックは取引先または担当者のプライマリブックではなくなります。

たとえば、現在はブック A が取引先 1 のプライマリブックであるとしします。ブック割当の終了日は今年の 12 月 31 日です。ブック割当スクリプトが次の年の 1 月 1 日午前 0 時に実行されると、ブック割当が無効になり、ブック A は取引先 1 のプライマリブックの場所から削除されます。

ブック割当が無効になると、ブックと取引先または担当者との間の関係が終了し、ブックは取引先または担当者から削除されます。ユーザーは、そのブックのメンバーシップを使用して取引先または担当者にアクセスできなくなります。ただし、別のブックまたは他のアクセス制御コンポーネント（チームメンバーシップなど）を使用して取引先または担当者にアクセスできるユーザーは、引き続きレコードにアクセスできます。

ブック割当プロシージャは変更できません。

時間ベースのブック割当の例

時間ベースのブック割当の例として、現在はブック A が取引先 1 に割り当てられていない場合を考えてみます。今年の 12 月 1 日に、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートします。ブック割当の開始日は次の年の 1 月 1 日で、終了日は同じ年の 3 月 31 日です。ブック割当プロシージャによって、ブック割当は次のように有効化および無効化されます。

- 次の年の 1 月 1 日より前は、取引先 1 へのブック A の割当は無効で、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されません。
- 次の年の 1 月 1 日午前 0 時に、ブック割当プロシージャによってブック割当が有効化されます。これによって、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されます。
- 3 月 31 日は、ブック割当は引き続き有効で、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されています。
- 4 月 1 日午前 0 時に、ブック割当プロシージャによってブック割当が無効化されます。これによって、ブック A は取引先 1 の詳細ページの [ブック] 関連情報セクションに表示されなくなります。

ブック割当の開始日と終了日を指定する際の制限

ブック割当の開始日と終了日を指定する際は、次の制限に注意してください。

- 開始日と終了日の両方を指定する場合、開始日は終了日より前の日付である必要があります。
- 開始日を指定しない場合、割当は Oracle CRM On Demand に追加されると同時に有効になります。
- 終了日を指定しない場合は、ブックがレコードから削除されないかぎり、ブック割当は有効なままです。
- 終了日を指定して開始日を指定しない場合、ブック割当は即時に有効になり、終了日に達するか、またはブック割当がレコードから削除されるか、いずれかが発生するまでブック割当は有効です。

たとえば、ブック A を取引先 1 に割り当てる取引先ブックレコードをインポートし、このレコードには開始日と終了日が指定されていないとしします。この場合、ブック割当は即時に有効になり、ブック割当に終了日が指定されていないため、ブック割当プロシージャによってブック割当が無効になることはありません。ただし、ブック A は、ユーザーインターフェイスを使用して取引先 1 から削除できます。

注：1つの取引先に複数のブックを同時に割り当て、ブック割当ごとに開始日と終了日を同じ日付にすることも異なる日付にすることも可能です。同様に、1つの担当者に複数のブックを同時に割り当て、ブック割当ごとに開始日と終了日を同じ日付にすることも異なる日付にすることも可能です。

開始日と終了日は Oracle CRM On Demand のユーザーインターフェイスのブック割当詳細に表示できますが、ユーザーインターフェイスでこれらの日付は変更できません。

既存のブック割当の更新について

ブックを取引先または担当者に割り当てるレコードをインポートするときに、その取引先または担当者にブックがすでに割り当てられている場合は、Oracle CRM On Demand の既存のブック割当レコードが、インポートされるレコードの値で更新されます。また、[開始日] または [終了日] フィールドの既存の値は、空白の値をインポートすることによって上書きできます。たとえば、ブック A が取引先 1 にすでに割り当てられているとします。割当の開始日は過去の日付で、終了日は将来の日付です。次に、開始日は既存の割当と同じだが終了日がないブック A および取引先 1 に対する取引先ブックレコードをインポートします。この場合、既存の割当が更新され、終了日は削除されます。

有効なブック割当を更新する際の条件

既存のブック割当がすでに有効な場合、既存の割当の有効期間とインポートするレコードの有効期間は、重複するか連続している必要があります。有効なブック割当を更新するためにインポートするレコードの開始日と終了日は、次の条件を満たす必要があります。

- 既存の割当に終了日が指定されていない場合、インポートするレコードの開始日に将来の日付は指定できません。
- インポートするレコードの開始日は、既存の割当の終了日より 8 日以上後の日付にできません。

これらの条件を満たさない場合、既存の有効なブック割当は更新されません。

将来のブック割当を更新する際の条件

ブックを取引先または担当者に割り当てるレコードをインポートするときに、開始日が将来の日付で、同じブックおよび同じ取引先か担当者に対するブック割当レコードがすでに存在する場合、インポートする割当の終了日は既存の割当レコードの開始日より 8 日以上前の日付にできません。たとえば、次の年の 2 月 1 日にブック A を取引先 1 に割り当てるレコードがすでに存在し、この割当の開始日を次の年の 1 月 1 日に変更する場合、インポートするレコードの終了日は次の年の 1 月 25 日より前の日付にできません。インポートする割当レコードの終了日が 1 月 24 日以前の場合、レコードのインポートは失敗し、レコードがすでに存在することを示すエラーメッセージが返されます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) 『228ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) 『231ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) 『232ページ』

ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ

このシナリオは、企業がカスタムブックを使用する方法の例を示します。このシナリオでは、カスタムブックを使用してセールステリトリーを管理します。カスタムブック機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。

企業は、地域ベースで取引先を編成し、セールス要員のグループを割り当てて、各地域、つまりテリトリー内の取引先を担当させます。さらに、様々な理由でセールス要員を別のテリトリーに再割当する場合があります。このような再割当が発生した場合は、セールス要員とテリトリー間の関係を再調整する必要があります。頻度は多くありませんが、取引先が別のテリトリーに移転する場合があります。このような移転が発生した場合は、取引先とテリトリー間の関係を再調整する必要があります。このシナリオをサポートするために、ブック、ユーザーおよび取引先の設定例を「[ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#)」『232ページ』に示します。

ブックを使用してセールステリトリーを管理する例

このトピックでは、カスタムブックを使用してセールステリトリーを管理する例を示します。カスタムブック機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。このトピックに示す例は、「[ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#)」『231ページ』で説明したシナリオをサポートしています。

ブックを使用してセールステリトリーを管理するには

- 1 セールステリトリーを表すカスタムブックを作成またはインポートします。

ブックの作成については、「[ブックとブック階層の作成](#)」『239ページ』を参照してください。ブックのインポートについては、「[ブックのフィールド：インポート準備](#)」『413ページ』の「[ブックのフィールド：インポートの準備](#)」参照』を参照してください。

- 2 セールス要員を適切なテリトリーブックに関連付けます。

Oracle CRM On Demand でユーザーをブックに直接割り当てるか、またはブックユーザーレコードをインポートできます。ユーザーとブックの関連付けについては、「[ユーザーとブックの関連付け](#)」『241ページ』を参照してください。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#)」『411ページ』の「[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)」参照』を参照してください。

- 3 [取引先] レコードタイプをブックモードに設定します。

レコード所有権モードの設定については、「[レコード所有権モードの設定](#)」『239ページ』を参照してください。

- 4 必要な取引先ブックレコードをインポートして、適切なテリトリーブックを取引先に割り当てます。

各取引先ブックレコードの開始日を使用して、割当が有効になる日付、つまり、セールス要員が自分のテリトリー内の取引先にアクセス可能になる日付を指定します。必要場合は、各ブック割当が終了する日付も指定できます。

ブック割当レコードのインポートの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#) 『392ページ』
- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) 『228ページ』
- [時間ベースのブック割当について](#) 『229ページ』

取引先ブックレコードをインポートし、指定の開始日にブック割当プロシージャによって割当が有効化されると、セールス要員は自分のテリトリーのレコードにアクセスできます。

セールス要員を別のテリトリーに再割当する場合は、セールス要員とテリトリー間の関係を再調整する必要があります。

セールス要員とテリトリーの間の関係を再調整するには

- セールス要員のユーザーレコードを次のように更新します。
 - セールス要員を新しいテリトリーに割り当てる場合は、テリトリーブックをユーザーレコードに追加します。
 - セールス要員を今後はテリトリーに割り当てない場合は、ブックをユーザーレコードから削除します。

Oracle CRM On Demand でユーザーレコードを直接更新するか、またはブックユーザーレコードをインポートできます。ユーザーとブックの関連付けについては、「[ユーザーとブックの関連付け](#) 『241ページ』」を参照してください。ブックユーザーレコードのインポートについては、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#) 『411ページ』の"[ブックユーザーのフィールド：インポートの準備](#)"参照」を参照してください。

取引先が別のテリトリーに移転する場合は、取引先とテリトリーの間の関係を再調整する必要があります。

取引先とテリトリーの間の関係を再調整するには

- 取引先レコードを次のように更新します。
 - 新しいテリトリーブックを取引先に追加します。
 - 古いテリトリーブックをユーザーレコードから削除します。

Oracle CRM On Demand で取引先レコードを直接更新するか、または取引先ブックレコードをインポートできます。ブックへのレコードの割当については、「[ブックへのレコードの割り当て](#) 『249ページ』」を参照してください。取引先ブックレコードのインポートについては、「[取引先ブックのフィールド：インポート準備](#) 『392ページ』の"[取引先ブックのフィールド：インポートの準備](#)"参照」を参照してください。

ブックの設定のプロセス

企業のブックを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡し、企業のブック機能を有効にするように依頼します。
 Oracle CRM On Demand Customer Care が企業のブック機能を有効にすると、Oracle CRM On Demand でいくつかのコントロールが利用可能になります。これらのコントロールを使用できるかどうかおよびブックを使用するための管理者役割が設定されているかどうかを確認する方法については、「[管理者の役割に設定されたブックの確認](#) 『234ページ』」を参照してください。
- 2 ブック構造を設計します。
 ブック構造の設計のガイドラインについては、「[ブック構造の設計について](#) 『216ページ』」を参照してください。
- 3 （オプション）ブックタイプとブックユーザー役割を作成します。
 詳細については、「[ブックタイプとブックユーザー役割の作成](#) 『238ページ』」を参照してください。
- 4 （オプション）レコードタイプのレコード所有権モードを設定します。
 詳細は、[レコード所有権モードについて](#) 『220ページ』 および「[レコード所有権モードの設定](#) 『239ページ』」を参照してください。
- 5 ブックとブック階層を作成します。
 詳細については、「[ブックとブック階層の作成](#) 『239ページ』」を参照してください。

6 ユーザーをブックに関連付けます。

詳細については、「[ユーザーとブックの関連付け](#) 『241ページ』」を参照してください。

7 企業のブックを有効にします。

詳細については、「[企業のブックの有効化](#) 『245ページ』」を参照してください。

8 ユーザーとユーザー役割に対してブックを有効にします。

詳細については、「[ユーザーとユーザー役割に対するブックの有効化](#) 『246ページ の"ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化"参照』」を参照してください。

関連トピック

ブックとブック構造の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ブックの管理](#) 『212ページ』
- [ブックの Web サービスのサポートについて](#) 『219ページ』
- [ブックおよびブック割当のインポートについて](#) 『228ページ』
- [時間ベースのブック割当について](#) 『229ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理するシナリオ](#) 『231ページ』
- [ブックを使用してセールステリトリーを管理する例](#) 『232ページ』
- [\[レコード詳細\] ページのレイアウトへのブックの追加](#) 『248ページ』
- [ブックへのレコードの割り当て](#) 『249ページ』
- [\[ブック階層\] ページ](#) 『251ページ の" [\[Book Hierarchy \(ブック階層\)\] ページ](#)"参照』
- [ブックのフィールド](#) 『252ページ』

管理者の役割に設定されたブックの確認

社内のブック機能を有効にするために、カスタマーサポートでは次のことを行います。

- 管理者の役割に、[ブックの管理] 権限とブックへのアクセス権を付与する。
- 管理者がブックへのアクセスを許可できるようにアクセスプロファイルを設定する。

次の手順では、管理者の役割がブックに対して設定されていることを確認する方法について説明します。

管理者の役割がブックに対して設定されていることを確認するには

- 1 管理者の役割を持つユーザーとして Oracle CRM On Demand にサインインします。
- 2 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 3 [管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。

- 4 [役割管理] セクションで、[役割管理] リンクをクリックします。
- 5 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 6 管理者の役割の [編集] リンクをクリックします。
- 7 役割管理ウィザードで、ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] に進み、ブックレコードへのアクセス権が次の表のようになっていることを確認します。

次の表では、管理者の役割に必要なブックレコードアクセスについて説明します。

レコードタイプ	アクセス権がありますか?	作成できますか?	すべてのレコードを読み取れますか?
ブック	オン	オン	オン

- 8 ステップ 4 の [権限] に進み、[ブックの管理] 権限が選択されていることを確認します。

次の表では、[ブックの管理] 権限について説明します。

カテゴリ	権限	説明
管理：ユーザーおよびアクセスの制御	ブックの管理	ブックアクセスを管理し、データをブックに一括割り当てし、ブック関連ワークフローを定義します。

注：[ブックの管理] 権限を持つ役割のユーザーは、ユーザー役割を管理できる権限の場合と同様、その他のユーザー役割に管理権限を付与することができます。ほとんどの管理タスクの場合と同じく、ブックの管理権限も、社内管理者のみに付与することをお勧めします。

- 9 [ユーザー管理とアクセス制御] ページに戻ります。
- 10 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
- 11 [翻訳言語] ドロップダウンリストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 12 以下の操作により、アクセスプロファイルの設定が正しいことを確認します。

- a 管理者のデフォルトアクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックして、設定が以下の表のとおりになっていることを確認します。
- b 管理者の所有者アクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックして、設定が以下の表のとおりになっていることを確認します。

次の表では、管理者の役割を持つユーザーに Oracle CRM On Demand でブックの管理を許可するために必要な設定について説明します。

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
取引先	ブック	完全	完全
認定*	ブック	完全	完全
活動	ブック	完全	完全

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
割当*	ブック	完全	完全
申込書類*	ブック	完全	完全
ブック	なし	読み取り/編集/削除	読み取り/編集/削除
ブック	サブブック	表示	表示
ブック	ユーザー	完全	完全
ビジネス計画*	ブック	完全	完全
キャンペーン	ブック	完全	完全
認定レベル*	ブック	完全	完全
担当者	ブック	完全	完全
コース*	ブック	完全	完全
カスタムオブジェクト	ブック	完全	完全
取引交渉登録*	ブック	完全	完全
自動車ディーラー*	ブック	完全	完全
試験*	ブック	完全	完全
金融口座*	ブック	完全	完全
財務計画*	ブック	完全	完全
資金*	ブック	完全	完全
世帯*	ブック	完全	完全
在庫監査レポート*	ブック	完全	完全
在庫期間*	ブック	完全	完全
見込み客	ブック	完全	完全
MDF リクエスト*	ブック	完全	完全
医学教育イベント*	ブック	完全	完全
メッセージプラン*	ブック	完全	完全
目的*	ブック	完全	完全
商談	ブック	完全	完全
パートナー*	ブック	完全	完全
保険証券*	ブック	完全	完全

レコードタイプ	関連レコード	管理者のデフォルトアクセスプロファイル	管理者の所有者アクセスプロファイル
ポートフォリオ*	ブック	完全	完全
プログラム*	ブック	完全	完全
サンプルロット*	ブック	完全	完全
サンプルトランザクション*	ブック	完全	完全
サービスリクエスト	ブック	完全	完全
スマートコール*	ブック	完全	完全
解決策	ブック	完全	完全
車両*	ブック	完全	完全

注：アスタリスク（*）が付いているレコードタイプは、**Oracle CRM On Demand** の標準エディションで使用できません。これらのレコードタイプのアクセス設定は、それぞれのレコードタイプが使用可能である場合のみ関係します。

次の表では、[ブックの管理] 権限により有効になるコントロールについて説明します。各コンポーネントにアクセスして、必要なすべてのコントロールが使用可能であることを確認できます。

コンポーネント	[ブックの管理] 権限により有効になるコントロール
管理ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブック管理] リンクが使用可能になります。このリンクから、[ブック階層] ページにアクセスして、ブックの作成、更新および管理を行うことができます。 ■ [データ管理ツール] セクションで、[バッチ割当ブックキュー] リンクが使用可能になります。このリンクから、アクティブまたは完了したバッチ割当ブックリクエストの詳細が表示される [バッチ割当ブックキュー] ページにアクセスできます。
[アプリケーションカスタマイズ] ページ	<ul style="list-style-type: none"> ■ [レコードタイプセットアップ] セクションで、[ブック] リンクが使用可能になります。このリンクから、[Book Application Customization (ブックアプリケーションカスタマイズ)] ページにアクセスできます。ここで、[ブックタイプ] フィールドや [Book User Role (ブックユーザー役割)] フィールドのピックリスト値など、ブックフィールドおよびブックユーザーフィールドを設定できます。
役割管理ウィザード	<ul style="list-style-type: none"> ■ ステップ 2 の [レコードタイプアクセス] に、ブックオプションが明細項目として表示されます。 ■ ステップ 4 の [権限] に、[ブックの管理] 権限がオプションとして表示されます。
アクセスプロファイルウィザード	<ul style="list-style-type: none"> ■ ステップ 1 の [アクセスプロファイル名] に、[ブックユーザーに付与可能] チェックボックスが表示されます。 ■ ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] で、次の操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ブックオプションが最上位オブジェクトとして表示されます。 ■ ブックをサポートするレコードタイプの [関連情報] リンクの下に、ブック関連情報セクションの明細項目が表示されます。
[企業プロファイル] ページ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ページの [会社データ表示設定] セクションに、[ブックの有効化] チェックボッ

コンポーネント	[ブックの管理] 権限により有効になるコントロール
ページ	クスが表示されます。
ページレイアウトウィザード (レイアウト管理)	■ ステップ 4 の [関連情報] で、ブックをサポートするすべてのレコードタイプについて、ページの [利用可能] セクションにブック関連情報が表示されます。
[レコードタイプの名前変更] ページ	■ ブックオプションが、項目の 1 つとして表示されます。
ワークフロー	■ ブックの割り当てアクションが、使用可能なオプションの 1 つとして表示されます (ワークフローの管理権限が有効になっている役割の場合)。
[Menu on List (リストメニュー)] ページ	■ [バッチ割当ブック] が、サポートされているレコードタイプのメニューオプションの 1 つとして表示されます。

ブックタイプとブックユーザー役割の作成

ブックの構造を編成するには、ブックタイプを作成し、それぞれのブックにタイプを割り当てます。たとえば、テリトリーに関するブックの階層を作成する場合は、[テリトリー] というブックタイプを作成します。[ブックタイプ] フィールドは、企業のニーズを満たすようにカスタマイズできる編集可能なピックリストフィールドです。

ブックユーザーの役割を作成し、ブックにユーザーを関連付ける際にユーザーに割り当てることもできます。ブックユーザーの役割は、Oracle CRM On Demand ユーザーの役割とは異なります。たとえば、[テリトリーユーザー]、[テリトリー管理者] などのブックユーザーの役割を作成し、テリトリーブック階層を操作するユーザーに割り当てることができます。

次の手順では、ブックタイプおよびブックユーザー役割の作成手順について説明します。

ブックタイプとブックユーザー役割を作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで [ブック] をクリックします。
- 4 [Book Application Customization (ブックアプリケーションカスタマイズ)] ページで、次の該当する操作を行います。
 - ブックタイプを作成するには、[Book Field Setup (ブックフィールドのセットアップ)] をクリックします。
 - ブックユーザーの役割を作成するには、[Book Users Field Setup (ブックユーザーフィールドのセットアップ)] をクリックします。
- 5 フィールドの [ピックリストを編集] リンクをクリックします。
- 6 ピックリストの値を入力し、変更内容を保存します。

ピックリストフィールドの編集の詳細は、「[ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』」を参照してください。

レコード所有権モードの設定

Oracle CRM On Demand では、ビジネス要件をサポートするために、次のモードのレコード所有権を設定できます。

- ユーザーモード
- ブックモード
- 混合モード

レコード所有権のモードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#)『220ページ』」を参照してください。

レコード所有権モードを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、設定するレコードタイプのリンクをクリックします。
- 4 「フィールド管理」セクションで、[レコードタイプフィールドセットアップ]（レコードタイプは、設定するレコードタイプの名前）をクリックします。
- 5 設定するレコード所有権モードに応じて、次のようにフィールドを編集します。
 - レコードタイプをユーザーモードに設定するには、[所有者] フィールド（必須フィールド）を設定し、次に [ブック] フィールド（必須フィールドではない）を設定します。
 - レコードタイプをブックモードに設定するには、[ブック] フィールド（必須フィールド）を設定し、次に [所有者] フィールド（必須フィールドではない）を設定します。
 - レコードタイプを混合モードに設定するには、[所有者] フィールドと [ブック] フィールド（いずれも必須フィールドではない）の両方を設定します。
- 6 変更を保存します。

フィールドの編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#)『74ページ』」を参照してください。

注：レコード所有権モードを設定した後に、レコードタイプのページレイアウトがレコード所有権モードに対して正しく設定されていることを確認する必要があります。レコード所有権モードのページレイアウトの詳細は、「[レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて](#)『69ページ』」を参照してください。

ブックとブック階層の作成

[管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションからブックを作成できます。

注：ブックレコードをインポートしてブックを作成することもできます。詳細は、「[ブックのフィールド:インポート準備](#)『413ページ』の["ブックのフィールド:インポートの準備"参照](#)」を参照してください。

作業前の準備：

- この操作を行うには、自分のユーザー役割に [ブックの管理] 権限が含まれている必要があります。

- ブックとブック階層を作成する前に、「[ブック構造の設計について](#) 『216ページ』」に目を通しておいってください。
- 次の手順では、ブックの作成手順について説明します。

ブックを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブック管理] リンクをクリックします。
- 3 [ブック階層] ページで、[新規] をクリックします。
- 4 [ブック編集] ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。

次の表では、ブックに入力する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ブック名	[ブック] セレクタに表示する場合は、ブック名を 60 文字以内で指定することをお勧めします。
ブックタイプ	(オプション) ピックリストからブックタイプを選択します。
親ブック	<p>■ これがルートブックである場合は、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>■ これがサブブックである場合は、[親ブック] フィールドの隣の [ルックアップ] アイコンをクリックして、親ブックを選択します。</p>
データを含めることができる	<p>現在のブックにのみ適用されます。サブブックは対象外です。レコードとブックを関連付けるには、このチェックボックスをオンにします。パフォーマンス上の理由から、データを含むブックに対してのみこの機能を適用してください。</p> <p>注:Oracle CRM On Demand の [ブック] セレクタでは、データを含めることができるカスタムブックは青色の文書アイコンで表されます。データを含めることができないカスタムブックは、黄色のフォルダアイコンで表されます。</p>

サブブックの作成

既存の親ブックに対してサブブックを作成する場合、前記の手順と同じ方法でサブブックを作成することも、次の手順に従ってサブブックを作成することもできます。

既存のブックに対してサブブックを作成するには

- 1 [ブック階層] ページで、親ブックのリンクをクリックします。
- 2 [ブック詳細] ページで、[サブブック] タイトルバーの [新規] をクリックします。
- 3 [Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックの情報を入力してから変更を保存します。

ブックを新しい親ブックに移動

別のブックのサブブックになるようにブックを変更することも、サブブックを親ブックから別の親ブックに移動することもできます。ブックの親を変更すると、次のようにブック階層も変わります。

- 新しい親は、現在のブックとそのブックの子であるサブブックに適用されます。
- 古い親ブックに割り当てられていたユーザーは、現在のブックとサブブックへのアクセス権を失います。
- 新しい親ブックに割り当てられたユーザーは、現在のブックとサブブックへのアクセス権を取得します。
- 現在のブックに直接割り当てられているユーザーは、親ブックの変更に影響されません。

注:親ブックを削除する場合は、まずそのサブブック、ユーザー、およびデータをすべて削除する必要があります。

ヒント:特定のブックに含まれているレコード数を確認するには、各レコードタイプの履歴レポートを作成します。レコードの作成方法については、「レポート」を参照してください。

次の手順では、ブックを新しい親ブックに移動する方法について説明します。

ブックを新しい親ブックに移動するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブック管理] リンクをクリックします。
- 3 [ブック階層] ページで、変更するブックの [編集] リンクをクリックします。
- 4 [親ブック] フィールドの隣の [ルックアップ] アイコンをクリックして、新しい親ブックを選択します。
- 5 変更を保存します。

ユーザーとブックの関連付け

ブックにアクセスできるユーザーおよび各ユーザーのブック内のレコードに対するアクセスレベルを定義できます。ブックにユーザーを関連付けるときは、ブックを操作する際にユーザーにアクセスプロファイルを指定します。次の標準オプションがあります。

- **編集:** ブックのレコードを読み取って更新できます。
- **全部:** ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。
- **読み取り専用:** ブックのレコードを読み取ることができます。

ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成することもできます。[ブックユーザー編集] ページの [アクセスプロファイル] ピックリストには、[ブックユーザーに付与可能] オプションがオンになっているすべてのアクセスプロファイルが表示されます。ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成する方法については、「[ブックのアクセスプロファイルの作成](#)」[244 ページ] を参照してください。

[企業プロファイル] ページの [マネージャ表示が有効] オプションと [ブック] セレクタの [サブ項目を含める] オプションは、ユーザーのレコードへのアクセスを決定する際の追加要素です。[企業プロファイル] ページで [管理者の表示が有効] チェックボックスをオンにすると、検索の [サブ項目を含める] 設定によって、ユーザーはサブブックのデータにアクセスできるようになり、部下が所有するデータに直接または間接的にアクセスできるようになります。

ブックに対するユーザーのアクセスレベルは、レコードに対するユーザーのアクセス権全体に影響します。次に、ユーザーのアクセス権を決定する方法の例を示します。

例 1

セールス要員の Ryan Taylor の Oracle CRM On Demand の設定は次のとおりです。

- セールス要員の役割を使用して、取引先レコードにアクセスできる
- 所有者アクセスプロファイルのアクセスレベルは、取引先レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- デフォルトアクセスプロファイルのアクセスレベルは、取引先レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- ABC Widgets 取引先の取引先チームのメンバーではない
- Widget Makers ブックに関連付けられ、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されている

ABC Widgets 取引先が Widget Makers ブックにある場合、ABC Widgets レコードに対するアクセス権によって、レコードの読み取り、編集、および削除ができます。Oracle CRM On Demand のアクセス制御システムは、関連するすべてのアクセスプロファイルから最も高い自由度の権利を算出して適用するので、Ryan にはこれらのアクセス権が与えられます。この場合、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されているので、取引先レコードのアクセスプロファイルより優先されます。

例 2

セールス要員の Tanya Lee の Oracle CRM On Demand の設定は次のとおりです。

- セールス要員の役割を使用して、商談レコードにアクセスできる
- 所有者アクセスプロファイルのアクセスレベルは、商談レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- 商談アクセスプロファイルのアクセスレベルは、商談レコードタイプに対して読み取り専用設定されている
- [商談アクセス] フィールドが [編集] に設定された商談チームのメンバーである
- Widget Makers ブックに関連付けられ、ブックのアクセスプロファイルは [全部] に設定されている

商談が Widget Makers ブックにある場合、Tanya のアクセス権では、レコードを読み取り、編集および削除できます。一方、商談が Widget Makers ブックにない場合、（所有者アクセスプロファイル、自分のデフォルトアクセスプロファイルおよび自分の商談チームのメンバーシップからの）Tanya のアクセス権では、商談を読み取って編集することはできますが、商談は削除できません。

ユーザーとブックを関連付ける方法

ユーザーとブックを関連付けるには、次の 3 つの方法があります。

- ブックレコードからは、ブックに複数のユーザーを関連付けることができます。
- ユーザーレコードからは、ユーザーに複数のブックを関連付けることができます。
- ブックユーザーレコードをインポートできます。詳細は、「[ブックユーザーのフィールド：インポート準備](#)」[『411ページの"ブックユーザーのフィールド：インポートの準備"参照](#)』を参照してください。

次の手順では、ブックレコードを使用して複数のユーザーをブックに関連付ける方法について説明します。

複数のユーザーをブックに関連付けるには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ブックの管理] リンクをクリックします。
- 3 [ブック階層] ページで、ユーザーに関連付けるブックの名前のリンクをクリックします。
- 4 [ブック詳細] ページで、[ブックユーザー] セクションのタイトルバーの [ユーザーを追加] をクリックします。
- 5 [ブックユーザー編集] ページで、ブックに関連付けるユーザーを選択します。

次の表では、ブックに関連付ける各ユーザーに指定する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ユーザー	<p>[ユーザー] フィールドの横の [ルックアップ] アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。</p> <p>注：ユーザーの委任を実行しても、ユーザーのブックに自動的にアクセスできるようにはなりません。別途、委任ユーザーとブックに関連付ける必要があります。</p>
ブックユーザー役割	<p>(オプション) ピックリストから役割を選択します。</p> <p>注：ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand 役割ではありません。ブックユーザー役割の作成については、「ブックタイプとブックユーザー役割の作成『238ページ』」を参照してください。</p>
アクセスプロファイル	<p>ブックに対して有効になっているプロファイルのリストから、現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。標準オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 編集：ブックのレコードを読み取って更新できます。 ■ 全部：ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。 ■ 読み取り専用：ブックのレコードを読み取ることができます。 <p>注:ブックのカスタムアクセスプロファイルの作成の詳細については、「ブックのアクセスプロファイルの作成『244ページ』」を参照してください。</p>

次の手順では、ユーザーレコードを使用して複数のブックをユーザーに関連付ける方法について説明します。

複数のブックをユーザーに関連付けるには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザーおよびグループの管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 [ユーザーリスト] で、ブックに関連付けるユーザーの姓をクリックします。
- 5 [ユーザー詳細] ページの [割り当て済みブック] セクションのタイトルバーで、[ブックの追加] をクリックします。

注: [ユーザー詳細] ページに [割り当てられたブック] セクションが表示されない場合は、[レイアウトを編集] リンクをクリックしてセクションをページレイアウトに追加します。

6 [割当ブック編集] ページで、ユーザーに関連付けるブックを選択し、各ブックに対してユーザー情報を指定します。

次の表では、ユーザーに関連付ける各ブックに指定する必要がある情報について説明します。

フィールド	説明
ブック名	[ブック名] フィールドの右側にあるアイコンをクリックし、[ブック] セレクタでブックを選択して [OK] をクリックします。
ブックユーザー役割	(オプション) ピックリストから役割を選択します。 注: ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand 役割ではありません。ブックユーザー役割の作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 」『238ページ』を参照してください。
アクセスプロファイル	ブックに対して有効になっているプロファイルのリストから、現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。標準オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 編集: ブックのレコードを読み取って更新できます。 ■ 全部: ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。 ■ 読み取り専用: ブックのレコードを読み取ることができます。 注: ブックのカスタムアクセスプロファイルの作成の詳細については、「 ブックのアクセスプロファイルの作成 」『244ページ』を参照してください。

注: ユーザーをブックに関連付けても、ユーザーはブックにアクセスできません。ユーザーがブックにアクセスできるようにするには、「[ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化](#)」『246ページ』に説明されているように、ブックにアクセスする必要がある各ユーザーおよびユーザー役割に対して、ブックを有効にする必要があります。

ブックのアクセスプロファイルの作成

ユーザーをブックに関連付ける場合は、ブックおよびそのすべてのサブブックのレコードに対するユーザーのアクセス権を決定するアクセスプロファイルを選択します。ブックのアクセスプロファイルは、ユーザーの他のすべてのアクセスプロファイルとともに評価され、アクセスプロファイルが許可するレコードへのアクセス権のうち、最も寛容なアクセス権がユーザーに付与されます。アクセスプロファイルの連携方法については、「[ユーザーとブックの関連付け](#)」『241ページ』を参照してください。

ユーザーをブックに関連付ける場合に選択できる標準アクセスプロファイルは、次のとおりです。

- **編集:** ブックのレコードを読み取って更新できます。
- **全部:** ブックのレコードの読み取り、編集、削除ができます。
- **読み取り専用:** ブックのレコードを読み取ることができます。

ブックのカスタムアクセスプロファイルを作成することもできます。[ブックユーザー編集] ページと [割当ブック編集] ページに表示される [アクセスプロファイル] ピックリストには、[ブックユーザーに付与可能] オプションがオンになっているすべてのアクセスプロファイルが含まれます。

次の手順では、ブックのアクセスプロファイルを作成する方法について説明します。

ブックのアクセスプロファイルを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] リンクをクリックします。
- 4 新しいアクセスプロファイルを作成するか、または既存のアクセスプロファイルを編集します。
- 5 アクセスプロファイルウィザードのステップ 1 で、[ブックユーザーに付与可能] チェックボックスをオンにします。
- 6 ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] で、各レコードタイプおよび関連する情報タイプのアクセスレベルを指定します。
- 7 アクセスプロファイルの作成または編集が完了したら、[終了] をクリックして変更を保存します。

企業のブックの有効化

ブック構造を設定したら、企業のブックを有効にできます。次の手順では、企業のブックを有効にする方法について説明します。

企業のブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] セクションで、[企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] セクションで、[企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール] ページで、次のオプションを設定します。これらのオプションの詳細については、「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#)」を参照してください。
 - a [企業設定] セクションで、[グローバル検索方法] を [ターゲット検索] に設定します。[ターゲット検索] を選択すると、アクションバーの検索セクションに [ブック] セレクタが表示されます。
 - b [分析表示設定] セクションで、[履歴サブジェクトエリア] オプションを [フル表示] に設定します。この設定によって、ブックのデータは、レポートとダッシュボードをサポートするデータベースにあるデータと同期されます。
 - c [会社データ表示設定] セクションで、次のチェックボックスがオンになっていることを確認します。

設定項目	目的
ブックの有効化	このフィールドを使用して、[ブック] セレクタでカスタムブックとユーザーブックを表示するかどうかを制御します。[ブックの有効化] チェックボックスをオフにすると、[ブック] セレクタにはユーザーブックおよび被委任者ブック（被委任者が存在する場合）のみが表示されます。 注： [企業プロフィール] ページに [ブックの有効化] オプションを表

設定項目	目的
	示するには、ユーザー役割に「ブックの管理」権限が必要です。 注意： このチェックボックスをオンにするとオフに戻せません。ただし、ブック階層はこのオプションをオンにした後でも変更できます。
ブックセレクトタの表示	ユーザー、委任またはカスタムブックによってレコードをフィルターするために使用できる「ブック」セレクトタを有効にします。

ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化

ユーザーがブックを使用できるようにするには、ユーザーの役割およびそのデフォルトのアクセスプロファイルを設定します。各ユーザーのユーザーレコードも設定します。

次の手順では、ユーザー役割に対してブックを有効にする方法について説明します。これらの手順は、ブックを使用するそれぞれの役割に対して実行する必要があります。

ユーザー役割のブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ユーザー管理とアクセス制御」セクションで、「ユーザー管理とアクセス制御」リンクをクリックします。
- 3 「役割管理」セクションで、「役割管理」リンクをクリックします。
- 4 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 変更する役割のリンクをクリックします。
- 6 役割管理ウィザードの「ステップ 2 - レコードタイプアクセス」に移動し、ブックレコードタイプのアクセスレベルを設定します。

次の表では、管理者以外のユーザーがブックにアクセスできるようにする設定について説明します。

レコードタイプ	アクセス権がありますか?	作成できますか?	すべてのレコードを読み取れますか?
ブック	オン	オフ	オフ

注：「すべてのレコードを読み取れますか?」チェックボックスは必ずオフにする必要があります。オンにすると、ユーザーは「Book Hierarchy（ブック階層）」リストページのすべてのブックにアクセスできるようになります。

- 7 「終了」をクリックして変更を保存します。
- 8 「ユーザー管理とアクセス制御」ページに移動します。
- 9 「アクセスプロファイル管理」セクションで、「アクセスプロファイル」をクリックします。
- 10 「翻訳言語」リストから企業のプライマリ言語を選択します。

- 11** ブックに対して有効にするユーザー役割に使用する [デフォルトアクセスプロファイル] の [編集] リンクをクリックし、ブックおよびそれに関連するレコードタイプにアクセスできるように設定します。

次の表では、個々のユーザー役割のブックへのアクセスを有効にするユーザー役割の [デフォルトアクセスプロファイル] に必要な設定について説明します。デフォルトアクセスプロファイルを設定すると、ブックへの必要なアクセスをユーザー役割に与えることができます。したがって、その役割に対して所有者アクセスプロファイルを設定する必要はありません。

レコードタイプ	関連レコード	デフォルトアクセスプロファイル
ブック	なし	読み取り専用。
ブック	サブブック	表示。 このプロファイルによって、 [Book Detail (ブック詳細)] ページのすべてのサブブックを閲覧できます。デフォルトは [アクセスなし] です。
ブック	ユーザー	読み取り専用。 このプロファイルによって、 [Book Detail (ブック詳細)] ページでこのブックに関連付けられているすべてのユーザーを参照できます。デフォルトは [アクセスなし] です。

- 12** [終了] をクリックして変更を保存します。

次の手順では、ユーザーに対してブックを有効にする方法について説明します。これらの手順は、ブックを使用する各ユーザーに対して実行する必要があります。

ユーザーに対してブックを有効にするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理] セクションで、[ユーザー管理] リンクをクリックします。
- 4 プロファイルを編集するユーザーの [編集] リンクをクリックします。
- 5 [ユーザー編集] ページの [主要ユーザー情報] セクションで、次の設定を行います。
 - **分析のデフォルトブック。** この設定によって、[レポートホームページ] と [ダッシュボードホームページ] の [ブック] セレクタのユーザーに対してデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブックが決まります。この設定によって、編集しているユーザーのユーザー名とサインイン ID (デフォルト) が表示されます。このレコードの設定は、ユーザーがレポートとダッシュボードに対して最も頻繁に使用するカスタムブックまたはユーザーブック

に変更してください。ユーザーレコードに対するこの設定によって、データへのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、[ブック] セレクタ内の別のブックまたはユーザーを選択できます。

- **デフォルトブック。**この設定によって、[レポート]と[ダッシュボード]以外の領域で作業する場合に、[ブック] セレクタのユーザーに対してデフォルトで表示されるユーザーブックまたはカスタムブックが決まります。デフォルトでは[すべて]が表示されます。この設定は、ユーザーがブックのデータを操作するたびにブックを選択する必要がないように、最も頻繁に使用するカスタムブックまたはユーザーブックに変更してください。ユーザーレコードに対するこの設定によって、レコードへのアクセスが制限されることはありません。ユーザーは、[ブック] セレクタ内の別のブックまたはユーザーを選択できます。

6 [ユーザー編集] ページの [ユーザーセキュリティ情報] セクションで、次の設定を行います。

- a** [レポートサブジェクトエリア] の値を [マネージャ表示] または [チーム表示] に設定します。

注: この 2 つのいずれかの値を選択する必要があります。そうしなければ、レポートにデータが含まれなくなります。選択するオプション（[マネージャ表示] または [チーム表示]）によるレポートのデータへの影響はありません。

- b** [履歴サブジェクトエリア] の値を [フル表示] に設定します。

7 [保存] をクリックします。

注: ブックにアクセスするには、ユーザーをブックに関連付ける必要があります。さらに、ユーザーの被委任者は、そのままではユーザーのブックにアクセスできません。被委任者もブックに関連付ける必要があります。

[レコード詳細] ページのレイアウトへのブックの追加

あるレコードタイプに対して、ユーザーが詳細ページでブックの関連情報のセクションを使用できるようにするには、次のような設定を行う必要があります。

- ユーザー役割のレコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報のセクションを使用できるようにします。
- ユーザー役割のアクセスプロファイルで、レコードタイプの関連情報セクションとしてブックへのアクセス権をユーザー役割に付与します。

次の手順では、レコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報セクションを使用できるようにする方法について説明します。

レコードタイプのページレイアウトでブックの関連情報セクションを使用できるようにするには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3** [レコードタイプセットアップ] セクションで、必要なレコードタイプのリンクをクリックします。
たとえば、[商談詳細] ページでブックの関連情報を使用できるようにするには、[商談] リンクをクリックします。
- 4** [ページレイアウト] セクションで、必要な [ページレイアウト] リンクをクリックします（たとえば、[商談ページレイアウト]）。

- 5 レコードタイプの [ページレイアウト] ページで、ページレイアウトの [編集] リンクをクリックし、ブックの関連情報セクションを使用できるようにします。
- 6 ページレイアウトウィザードで、ステップ 4 の [関連情報] に移動し、矢印をクリックしてブック項目を [表示] セクションに移動します。
- 7 [終了] をクリックして変更を保存します。
- 8 Oracle CRM On Demand からサインアウトし、再びサインインします。

次の手順では、ブックへのアクセス権をレコードタイプの関連情報セクションとしてユーザー役割に付与する方法について説明します。

ブックへのアクセス権をレコードタイプの関連情報セクションとしてユーザー役割に付与するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [アクセスプロファイル管理] セクションで、[アクセスプロファイル] をクリックします。
- 4 ブックの関連情報セクションを使用できるようにするユーザー役割の、デフォルトアクセスプロファイルの [編集] リンクをクリックします。
- 5 アクセスプロファイルウィザードで、ステップ 2 の [アクセスレベルを指定] に移動し、ブックの関連情報セクションを使用できるようにするレコードタイプの [関連情報] リンクをクリックします。
たとえば、ブックの関連情報を [商談詳細] ページで使用するようになるには、商談レコードの横の [関連情報] リンクをクリックします。
- 6 ユーザー役割の要件に従って、ブックのアクセスレベルを選択します。
- 7 [終了] をクリックして変更を保存します。
- 8 ブックに対して有効にするユーザー役割で使用する所有者アクセスプロファイルに対して、ステップ 4~7 を繰り返します。

ブックへのレコードの割り当て

カスタムブックには、次の方法でレコードを割り当てることができます。

- **1 回に 1 レコード (手動)**。レコードの [詳細] ページでブックの値を選択できます。
- **一括**。レコードをブックに一括で割り当てることができます。
- **ブック割当のインポート**。取引先および担当者のみを対象としてブック割当をインポートできます。ブック割当のインポートの詳細は、「[ブックおよびブック割当のインポートについて](#)」『228ページ』を参照してください。

レコードは、アクティブなワークフロールールと条件を使用してもブックに割り当てることができます。ワークフロールールの詳細は、「[ワークフロールールについて](#)」『273ページ』を参照してください。

取引先および担当者に対するブック割当の開始日と終了日について

取引先レコードおよび担当者レコードのブック割当には開始日と終了日を設定できます。これらのフィールドは、インポートアシスタントまたは Web サービスを使用することによってのみ更新できます。このような Web サービスリクエストすべてに対して、Web Services v1.0 API を使用する必要があります。

ブック割当は終了日になるまで、またはブック割当がレコードから削除されるまで有効です。終了日になると、ブックとレコードの関係は終了し、ブックのメンバーシップを通じてユーザーがレコードにアクセスすることはできなくなります。ただし、レコードの所有権やチームのメンバーシップなどの他のアクセス制御コンポーネントを通じてレコードへのアクセス権が確保されているユーザーは、引き続きレコードにアクセスできます。

時間ベースのブック割当の管理方法は、「[時間ベースのブック割当について](#)」を参照してください。

作業前の準備：

- レコードの [詳細] ページでレコードをブックに割り当てるには、レコードタイプの [詳細] ページレイアウトに [ブック] セクションが含まれている必要があります。
- レコードをバッチ割当でブックに割り当てるには、ユーザーの役割に [ブックの管理] 権限が必要です。

次の手順では、単一のレコードをブックに割り当てる方法について説明します。

単一のレコードをブックに割り当てるには

- 1 レコードの詳細ページに移動します。
- 2 詳細ページの [ブック] セクションのタイトルバーで、[追加] をクリックします。
- 3 ブックセレクトで、レコードを割り当てるブックを選択し、[OK] をクリックします。

次の手順では、レコードをバッチ割当でブックに割り当てる方法について説明します。

レコードをバッチ割当でブックに割り当てるには

- 1 リストウィンドウで、タイトルバーの [メニュー] ボタンをクリックし、[バッチ割当ブック] をクリックします。
- 2 [バッチ割当ブック] ウィンドウで、[対象ブック] の横のセレクトボタンをクリックし、[ブックルックアップ] でレコードを割り当てるブックを選択します。
- 3 リストからレコードの割当オプションを選択します。

次の表では、選択可能な割当オプションについて説明します。

オプション	説明
追加	すべてのレコードに対象ブックを追加します。この割り当ては、それ以前のレコードへのブック割り当てには影響を及ぼしません。
置換タイプ	対象ブックをすべてのレコードに追加し、対象ブックと同じタイプの以前に割り当てられたブックをすべて削除します。 注： ブックタイプは、企業の管理者によって定義されます。

オプション	説明
すべて置換	対象ブックをすべてのレコードに追加し、タイプにかかわらず、以前に割り当てられたすべてのブックを削除します。
ブックの置換	置換するブックを指定します。 ここで指定したブックのレコードが、対象レコードに再度割り当てられます。その他のレコードに影響はありません。
削除	すべてのレコードから対象ブックへの既存の割り当てを削除します。
すべてを削除	レコードから割り当てられたブックをすべて削除します。

- 4 ステップ 3 で [追加] 以外のオプションを選択した場合は、ここで [適用先] オプションを選択する必要があります。次の表では、選択可能な [適用先] オプションについて説明します。

オプション	説明
手動関連付け	選択されたすべてのレコードのうち、既存のブック割当が手動で行われたものに割当オプションを適用します。
自動関連付け	選択されたすべてのレコードのうち、既存のブック割当がワークフローまたはバッチによって行われたものに、割当オプションを適用します。
両方	選択されたすべてのレコードに割当オプションを適用します。

- 5 選択した割当基準を適用するには、[割当] をクリックします。

[バッチ割当ブックキュー] ウィンドウが開き、[アクティブなリクエスト] セクションに割当リクエストが表示されます。詳細については、「[バッチ割当ブックキューページ](#) 『557ページ』」を参照してください。

リクエストが処理されると、電子メールで通知が送付されます。

[Book Hierarchy (ブック階層)] ページ

[Book Hierarchy (ブック階層)] ページには、カスタムブックに関する情報が表示されます。すべてのブックまたはそのサブセットを表示できます。

次の表では、[Book Hierarchy (ブック階層)] ページで行える操作について説明します。

操作	手順
ブックの別のサブセットの表示	[Book Hierarchy (ブック階層)] タイトルバーでリストをクリックし、ブックの別のサブセットを選択するか、または [すべてのブック] を選択してすべてのブックを表示します。
ブックの作成	[Book Hierarchy (ブック階層)] タイトルバーの [新規] をクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、必要な情報を入力してレコードを保存します。

操作	手順
既存のブックに対するサブブックの作成	親ブックの名前のリンクをクリックします。[ブック詳細] ページで、[サブブック] タイトルバーの [新規] をクリックします。 [Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックの情報を入力してから変更を保存します。
ブックを新しい親ブックに移動する	変更するブックの [編集] リンクをクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、[親ブック] フィールドの横の [ルックアップ] アイコンをクリックし、新しい親ブックを選択してから変更を保存します。
ユーザーをブックに関連付ける	ブックの名前のリンクをクリックします。[ブック詳細] ページの [ブックユーザー] タイトルバーで、[ユーザーを追加] をクリックします。[Book Edit (ブック編集)] ページで、ブックに関連付けるユーザーを選択してユーザー情報を指定します。詳細については、「 ユーザーとブックの関連付け 」『241ページ』を参照してください。

ブックのフィールド

[Book Edit (ブック編集)] ページと [Book Detail (ブック詳細)] ページには、カスタムブックの詳細が表示されます。ブックの詳細を変更し、ブックにサブブックを追加し、ブックにユーザーを追加できます。

次の表では、一部のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
主要なブック情報	
ブック名	ブックの名前。
親ブック	ブックがサブブックの場合は親ブックの名前が表示されます。ルートブックの場合、このフィールドは空白です。
ブックタイプ	ブックには、ブック構造を編成するためにブックタイプを割り当てることができます。ブックタイプの作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 」『238ページ』を参照してください。
データを含めることができる	このブックにレコードを関連付けることができるかどうかを示します。パフォーマンス上の理由により、データを含まないブックでは、このチェックボックスをオンにしないでください。
パートナー	Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management の場合にのみ存在します。詳細は、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ 『Oracle CRM On Demand documentation library - http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html 』にある「 <i>Oracle CRM On Demand for Partner Relationship</i>

フィールド	説明
	<i>Management Configuration Guide</i> 」を参照してください。
パートナーの場所	Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management の場合にのみ存在します。詳細は、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ 『Oracle CRM On Demand documentation library - http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html 』にある「 <i>Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide</i> 」を参照してください。
サブブックのセクション	
ブック名	現在のブックのサブブックになっているブックの名前。
ブックタイプ	サブブックのブックタイプ。
データを含めることができる	サブブックにレコードを関連付けることができるかどうかを示します。
[ブックユーザー] セクション	
名前 (姓)	このブックに関連付けるユーザーの姓。
名前 (名)	このブックに関連付けるユーザーの名。
ブックユーザー役割	現在のブックのユーザーのブック役割。ユーザーがブックに関連付けられている場合、ブックユーザー役割をユーザーに割り当てるができます。ブックユーザー役割は、Oracle CRM On Demand のユーザー役割とは異なります。ブックユーザー役割の作成については、「 ブックタイプとブックユーザー役割の作成 」『238ページ』を参照してください。
アクセスプロファイル	現在のブックおよびそのすべてのサブブックに対するユーザーのアクセス権。ブックに対して有効になっているプロファイルリストから選択します。ブック固有のアクセスプロファイルの作成については、「 ブックのアクセスプロファイルの作成 」『244ページ』を参照してください。

ブックのトラブルシューティングに関する情報

ブックのトラブルシューティング機能の詳細は、My Oracle Support の 565278.1（記事 ID）を参照してください。

グループの管理

グループの管理は、共同作業を行うユーザーに情報の共通セットを共有させてチームを形成するためのオプション機能です。

社内でグループを設定すると、ユーザーは次の操作を行うことができます。

- グループメンバーはグループ内のすべてのメンバーの空き時間情報を表示する、結合されたカレンダーにアクセスできます。これにより、従業員がアポイントをスケジュールする最適な時刻を決め、従業員（および担当者）にアポイントについて通知することができます。

注: 結合されたグループカレンダーにアクセスするためには、ユーザーの役割に「共有カレンダー」権限を割り当てる必要があります。「共有カレンダー」権限を持つユーザーは、カスタムカレンダービューもセットアップできます。詳細については、「他のユーザーのカレンダーの表示」および「カスタムカレンダービューの追加」を参照してください。

- グループメンバーは、次のレコードタイプの所有権を自動的に共有できます。

- 活動
- 取引先
- 担当者
- 世帯
- 商談
- ポートフォリオ

レコードがグループのメンバーに割り当てられている場合は、グループのすべてのメンバーがレコードの共同所有者になります。たとえば、あるユーザーがグループ XYZ に所属している場合、そのユーザーがグループのメンバーになった後にユーザーに割り当てられる取引先は、グループ XYZ のすべてのメンバーの取引先リストに挿入されます。このようなレコードでは、「プライマリグループ」フィールドが「詳細」ページレイアウトにある場合は、そのフィールドにグループ名が表示されます。グループのすべてのメンバーは、レコードに指定されている所有者も含め、レコードの「詳細」ページの「チーム」関連情報セクションに表示されます。グループのすべてのメンバーは、レコードを更新できます。

デフォルトでは、現在のグループのメンバーは、メンバーがグループに参加した後にグループメンバーに割り当てられたグループレコードに対して完全なアクセス権を持ちます。「個人」というマークが付けられたアポイント、タスク、担当者レコードの詳細を他のグループメンバーが参照することはできません。

注: この機能を使用できるようにするには、「企業プロフィール」ページの「デフォルトのグループ割当」オプションを選択する必要があります。このオプションは、グループを作成する前に選択する必要があります。詳細については、「[グループの設定『256ページ』](#)」を参照してください。

次の動作がグループに適用されます。

- 各ユーザーは 1 つのグループにしか属することができません。

ユーザーがグループに追加されると、グループメンバーを選択するときに、その名前はユーザーリストに表示されなくなります。

- 企業でグループ割当オプションを選択する場合：

- グループが定義される前に存在していたレコードは、「所有者」フィールドがグループに属する新しい所有者で更新される場合を除いて、更新されません。
- ユーザーがグループに参加すると、ユーザーはグループのレコードにアクセスできます。ただし、その新しいグループメンバーがグループへの参加前に所有していたレコードは、既存のグループメンバーには自動的に認識可能になりません。ユーザーがグループに加わった後にレコードの所有者になった場合、このレコードは他のグループメンバーにも公開されます。

次の例では、グループレコードの所有権について説明します。

- ユーザー 1 とユーザー 2 はグループ 1 に所属しています。ユーザー 3 はグループ 1 に所属していません。

- ユーザー3は取引先 31 の所有者です。ユーザー1 とユーザー2 は、取引先 31 にアクセスできません。
- ユーザー3 をグループ 1 に追加します。ユーザー1 とユーザー2 は取引先 31 にアクセスできません。
- ユーザー3 を取引先 32 の所有者にします。ユーザー1 とユーザー2 も取引先 32 にアクセスできるようになります。
- ユーザーをグループから削除すると、そのユーザーは、グループが所有しているすべての共有レコードから削除されます。ユーザーは、自分の個人レコードには引き続きアクセスできます。

グループおよびレコード所有権モードについて

レコードタイプに対して設定したレコード所有権モードによっては、そのタイプのレコードには所有者が設定されない場合があります。かわりに、レコードにはプライマリカスタムブックが設定されるか、所有者もプライマリカスタムブックも設定されない場合があります。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#)『220ページ』」を参照してください。レコード所有権モードは、ブックをサポートしているレコードタイプにのみ適用されます。

レコードタイプのレコード所有権モードを変更した場合、以前に所有者が設定されていたレコードでは、レコード所有権モードの変更後はじめてレコードが更新されたときに、所有者がレコードから削除される場合があります。この場合、レコードの前の所有者がグループのメンバーである場合は、そのレコードの前の所有者を除いて、グループのメンバー全員がチームのメンバーとして残ります。ただし、[取引先] レコードタイプはこのルールに対する例外になります。取引先の前の所有者がグループのメンバーである場合は、そのグループのすべてのメンバーがチームから削除されます。

グループとチーム

Oracle CRM On Demand では、グループと チームを次のように識別します。

- グループは企業の管理者によって設定され、企業のレコードセット全体に適用されます。Oracle CRM On Demand に対して企業が設定されている場合は、グループ機能がカスタマーサポートまたは企業の管理者によって有効になっている必要があります。
- レコード所有者または企業の管理者がチームを設定します。チームは、チームに許可された次のレコードタイプにのみ適用されます。
 - 取引先
 - 認定
 - 申込書類
 - ビジネス計画
 - 認定レベル
 - 担当者
 - コース
 - カスタムオブジェクト
 - 取引交渉登録
 - 試験
 - 世帯
 - 見込み客

- MDF リクエスト
- 目標
- 商談
- パートナー
- ポートフォリオ
- サービスリクエスト
- 特別価格リクエスト

チームを設定してレコードにアクセスするには、所有者はレコードの [詳細] ページの [チーム] セクションを使用してそのレコードを明示的に共有する必要があります。

グループの設定方法については、「[グループの設定](#) 『256ページ』」を参照してください。

関連トピック

グループと共有カレンダーの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- 他ユーザーのカレンダーの表示
- カスタムカレンダービューの追加

グループの設定

作業前の準備：次の操作を実行します。

- [ユーザーおよびアクセスの管理] 権限を含む役割が割り当てられていることを確認します。
- グループの機能については、「[グループの管理](#) 『253ページ』」を参照してください。

グループの設定とユーザーのインポートの順序

グループを設定する場合は、次の順序に従います。

- 1 デフォルトのグループ割当機能を有効にします。

注意：デフォルトのグループ割当機能を使用する予定がない場合でも、グループの設定または変更前には、デフォルトのグループ割当機能をオンにする（つまり、[企業プロフィール] ページの [デフォルトのグループ割当] オプションを選択する）必要があります。グループの設定または変更前にこの機能をオンにしない場合、そのグループは正しく実行されません。この場合は、グループを削除し、デフォルトのグループ割当機能をオンにして、グループを再作成する必要があります。

- 2 グループを作成し、そのグループにユーザーを割り当てます。
- 3 デフォルトのグループ割当機能を使用する予定はないが、ユーザーが、グループを使用して結合されたグループカレンダーを表示できるようにする場合は、グループの作成とそのグループへのメンバーの追加が終了した後で、デフォルトのグループ割当機能をオフにしてください。
- 4 デフォルトの所有者（ユーザー）でレコードをインポートし、このレコードにグループを適用します。

デフォルトのグループ割当機能をオンにするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [企業管理] リンクをクリックします。
- 3 [企業プロフィール] リンクをクリックします。
- 4 [企業プロフィール] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [会社データ表示設定] セクションで、[デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオンにします。
- 6 設定を保存します。

グループを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[ユーザー管理とアクセス制御] リンクをクリックします。
- 3 [ユーザー管理とアクセス制御] ページで、[ユーザーおよびグループの管理] セクションの [公開共有グループ] リンクをクリックします。
- 4 [グループリスト] ページで、[新規グループ] をクリックします。
- 5 [グループ編集] ページで、必須フィールドに情報を入力します。

フィールド	説明
名前	50 文字に制限されます。デフォルトでは、必須フィールド。
説明	255 文字に制限されます。

注： アプリケーションはグループレコードの追跡に、グループ名ではなく、基になるグループ ID を使用するため、既存のレコードに影響を与えることなくグループ名を変更できます。ただし、グループ名は社内で固有な名前にする必要があります。

- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [グループ詳細] ページで、[メンバーを追加] をクリックします。
- 8 [グループメンバー] ページで、[ルックアップ] アイコンをクリックして、ユーザーを追加します。
グループに割り当てられていないユーザーだけがリストに表示されます。ユーザーが属するグループを決定するには、そのユーザーの [詳細] ページに移動する必要があります。
- 9 レコードを保存します。
- 10 デフォルトのグループ割当機能を使用する予定はないが、ユーザーが、グループを使用して結合されたグループカレンダーを表示できるようにする場合は、グループの作成とそのグループへのメンバーの追加が終了した後で、デフォルトのグループ割当機能をオフにしてください。

デフォルトのグループ割当機能をオフにするには、次の操作を行います。

- a** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- b** [企業管理] リンクをクリックします。
- c** [企業プロフィール] リンクをクリックします。
- d** [企業プロフィール] ページで、[編集] をクリックします。
- e** [会社データ表示設定] セクションで、[デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオフにします。
- f** 設定を保存します。

後でグループまたはグループメンバーシップを変更する場合は、デフォルトのグループ割当機能を再度オンにしてから変更を行い、変更後にこの機能をオフにする必要があります。

デフォルトグループ割当の設定の変更について

社内でユーザーグループの使用の停止を決定した場合、デフォルトグループ割当機能を無効にする前に、次の手順に従ってください。

- 1** グループのレコードのプライマリ所有者に指定するユーザー以外のユーザーをすべて削除します。
- 2** グループを削除します。
- 3** 企業プロフィールの [デフォルトのグループ割当] チェックボックスをオフにします。

関連トピック

グループと共有カレンダーの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [グループの管理](#) 『253ページ』
- 他ユーザーのカレンダーの表示
- カスタムカレンダービューの追加

テリトリー管理

テリトリーとテリトリー階層を設定できます。たとえば、セールス要員をグループまたはテリトリーに編成できます。テリトリーは、地理的条件、製品または業種に基づくことができます。個々のセールスグループは、担当テリトリーの取引先および商談の処理について責任を持ちます。Oracle CRM On Demand で設定したテリトリー単位で、新しい取引先レコードや商談レコードを割り当てることができます。テリトリーの設定については、「[テリトリーの設定](#) 『258ページ』」を参照してください。

テリトリーの設定

作業前の準備：

- 社内でテリトリーが定義されていない場合は、**Oracle CRM On Demand** で情報を設定する前に、命名規則と階層を指定します。情報を入力する場合は、最上位のテリトリーから開始して、下位のテリトリーを追加します。
 - 次の手順を実行するには、[テリトリーの管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 次の手順では、テリトリーの設定方法について説明します。

テリトリーを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[テリトリー管理] リンクをクリックします。
- 3 [テリトリー階層] ページで、次の該当する操作を行います。
 - テリトリーを追加するには、[新規のテリトリー] をクリックします。
 - テリトリー情報を更新するには、[テリトリー名] カラムで適切なリンクをクリックし、[テリトリー詳細] ページで [編集] をクリックします。
- 4 [テリトリー編集] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
テリトリー名	50 文字に制限されます。
親テリトリー	これが最上位のテリトリーの場合は、このフィールドを空白のままにします。
現在の目標	このテリトリーに割り当てられている目標を入力できます。
テリトリー通貨	企業のデフォルト通貨を継承します。

- 5 レコードを保存します。
- 6 (オプション) [テリトリー詳細] ページで、[子テリトリー] タイトルバーの [新規] をクリックして、下位のテリトリーを追加します。

親テリトリーを更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ユーザー管理とアクセス制御] セクションで、[テリトリー管理] リンクをクリックします。
- 3 [テリトリー階層] ページで、子テリトリーを選択します。
- 4 [テリトリー詳細] ページで、[編集] をクリックします。
- 5 [テリトリー編集] ページで、[親テリトリー] フィールドの横にある [ルックアップ] アイコンをクリックします。
- 6 [ルックアップ] ウィンドウで、親取引先を選択します。

- 7 レコードを保存します。

レコードのテリトリーを更新するには

レコードのテリトリーフィールドは、いくつかの方法で更新できます。通常、この処理は自動的に行われます。

- **割当マネージャ**：割当マネージャを使用してこのフィールドに情報を入力し、レコードの関連所有者およびチームメンバーを割り当てることができます。
- **インポート**：数多くのレコードについてテリトリーの所有権を更新する場合、割当マネージャを使用して、レコードの割当をトリガーする所有者再割当フラグを設定します。
- **手動**：ユーザーは、自分のテリトリーをレコードに割り当てることができます。

ビジネスプロセス管理

次に示した作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [プロセスの作成](#) 『267ページ』
- [プロセスへの推移ステートの追加](#) 『268ページ』
- [プロセスの制限](#) 『270ページ』
- [推移ステートの項目の設定](#) 『270ページ』
- [関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) 『271ページ』
- [ワークフロールールを作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールの特定のチャンネルまたは役割への制限](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールの変更](#) 『308ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』
- [ワークフローインスタンスの表示](#) 『313ページ』
- [ワークフローモニターからのインスタンスの削除](#) 『315ページ』
- [割当ルールを設定](#) 『322ページ』

- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) 『329ページ』
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) 『329ページ』
- [売上予想定義の設定](#) 『332ページ』
- [売上予想定義の更新](#) 『338ページ』
- [セールスプロセス、カテゴリ、およびコーチの設定](#) 『339ページ』
- [企業の業種リストのカスタマイズ](#) 『346ページ』

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#) 『262ページ』
- [プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#) 『262ページ』
- [活動レコードのロックのシナリオ](#) 『263ページ』
- [プロセスを使用してレコードをロックする例](#) 『263ページ』
- [プロセス管理機能](#) 『265ページ』
- [Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) 『266ページ』
- [ワークフロー設定](#) 『272ページ』
- [ワークフローモニター](#) 『311ページ』
- [割当ルールについて](#) 『318ページ』
- [見込み客変換の管理](#) 『327ページ』

プロセス管理

Oracle CRM On Demand の「プロセス管理」セクションでは、レコードが特定の状態のときに、外部アプリケーションを含むユーザーが、指定のレコードタイプのレコードに対して特定のアクションを実行できないようにプロセスを設定できます。このように、ユーザーが特定のアクションを実行できないようにすることをレコードのロックと呼びます。

Oracle CRM On Demand では、プロセス管理機能はデフォルトで有効ではありません。これは、Oracle CRM On Demand Customer Care によって企業ごとに有効にする必要があります。企業でプロセス管理機能を使用する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に連絡して、「プロセス管理」権限を企業の管理者の役割に付与するように依頼してください。

Oracle CRM On Demand Customer Care が「プロセス管理」権限を企業の管理者に付与すると、企業の管理者はこの権限を他の役割に付与できます。

注：どのレコードをロックするかを決定する制御は、レコードを使用するユーザーの権限を計算するときに Oracle CRM On Demand が検証する最後のセキュリティコンポーネントです。他のアクセス制御コンポーネントによって付与された権限が先に検証されます。アクセス制御コンポーネントは、レコードにアクセスして使用するユーザーの権限の計算に入れられる Oracle CRM On Demand の機能です。アクセス制御コンポーネントの例として、レコード所有権、アクセスプロファイル、役割、チーム、ブックおよびレポート階層があります。レコードをロックする制御は、他のアクセス制御コンポーネントによって有効になる制限より優先されません。

プロセスおよびプロセスの作成方法については、次のトピックを参照してください。

- [プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#) 『262ページ』
- [プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#) 『262ページ』
- [活動レコードのロックのシナリオ](#) 『263ページ』
- [プロセスを使用してレコードをロックする例](#) 『263ページ』
- [プロセス管理機能](#) 『265ページ』
- [Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#) 『266ページ』
- [プロセスの作成](#) 『267ページ』
- [プロセスへの推移ステートの追加](#) 『268ページ』
- [プロセスの制限](#) 『270ページ』
- [推移ステートの項目の設定](#) 『270ページ』
- [関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) 『271ページ』

プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について

レコードタイプに関連するプロセスでは、いくつかの推移ステートを設定します。*推移ステート*は、特定の条件を満たす場合にレコードが移行する状態を表します。*推移項目*はレコードタイプのピックリストフィールドで、別の推移ステートへのレコードの推移を決定します。プロセスのピックリストフィールドは、プロセスの定義で識別されます。

プロセスでは、推移項目の各値を 1 つの推移ステートにリンクできます。各推移ステートには、次の情報を指定できます。

- **条件。**条件によって、レコードがこの推移ステートに移動可能かどうかを判断します。
- **エラーメッセージ。**ユーザーがレコードをこの推移ステートに移動しようとしたとき、条件を満たしていない場合はエラーメッセージが表示されます。
- **レコードアクセスコントロール。**レコードアクセスコントロールによって、レコードがその推移ステートのときにユーザーがレコードに対して実行できないアクションを決定します。ユーザーがその推移ステートのレコードを削除または更新できないようにすることができます。
- **項目設定。**項目設定によって、レコードがその推移ステートのときの特定項目の動作を決定します。
- **関連アクセス制御。**関連アクセス制御によって、親レコードがその推移ステートのときにユーザーが関連レコードに対して実行できないアクションを決定します。

たとえば、[状態] フィールドを推移項目として使用して [解決策] レコードタイプのプロセスを設定し、[ドラフト]、[承認] および [旧式] の各状態値に対する 3 つの推移ステートをプロセスに追加します。次に、たとえば、[承認] 状態の推移ステートにある解決策をユーザーが削除できないようにしたり、[旧式] 状態の推移ステートにある解決策をユーザーが更新できないようにすることができます。

プロセス管理でのプライマリフィールドについて

レコードタイプのピックリストフィールドを使用して、そのレコードタイプの特定のレコードのみにプロセスが適用されるように制限できます。ピックリストフィールドは *プライマリフィールド* と呼ばれ、レコードのプライマリフィールドの値が、プロセスに対して指定した値（つまり、プライマリ値）のいずれかに一致するレコードにのみ、プロセスが適用されます。たと

例えば、[活動] レコードタイプで、[コールタイプ] フィールドをプライマリフィールドとして使用できます。[活動] レコードタイプに対するプロセスは、特定のタイプのコールレコードにのみ適用されるように制限できます。

活動レコードのロックのシナリオ

このトピックでは、製薬企業のセールス要員が **Oracle CRM On Demand** でコール活動レコードを使用して客先への訪問の詳細を記録する方法、および特定の時点でコール活動レコードをロックする方法の例を示します。企業では、ビジネスモデルに応じて **Oracle CRM On Demand** を様々な方法で使用できます。

セールス要員は、地元のクリニックを訪問して、クリニックのサンプル棚を補充し、この製薬企業が発売を予定している新製品について院長と対話することを計画しています。このセールス要員は、臨床試験結果とホワイトペーパーを収録したプロモーション CD を院長に渡すつもりです。セールス要員が **Oracle CRM On Demand** にコール活動レコードを設定するときは、レコードの状態を [開始前] に設定します。

セールス要員がクリニックに到着し、クリニックのスタッフがサンプル棚の鍵を取りに行く間に、待ち時間がありました。セールス要員はこの時間を利用して、**Oracle CRM On Demand** のコール活動レコードの状態を [進行中] に更新します。その後、セールス要員は、サンプル棚を補充し、院長と新製品について情報交換をして、プロモーション資料を院長に渡しました。

終業時間に向けて、セールス要員は **Oracle CRM On Demand** にサインインし、その日の活動に関連するレコードの更新を開始します。セールス要員はクリニックへの訪問に関するコール活動レコードを更新しますが、レコードの状態を最終状態の [提出済み] に変更する前に、再度レコードをレビューしたいと考えています。セールス要員は、営業会議に出席する予定があるため、レコードの状態を [完了] に設定して離席します。この時点では、レコードを **Oracle CRM On Demand** から削除できません。

セールス要員は会議から戻ると、コール活動レコードを再度レビューして、レコードの状態を [提出済み] に設定します。この時点で、コール活動レコードは更新および **Oracle CRM On Demand** からの削除ができなくなり、レコードの全フィールドが読み取り専用になります。さらに、提出済みのコール活動レコードには、他のレコードをリンクできません。このシナリオをサポートするプロセスの例は、「[プロセスを使用してレコードをロックする例](#) 『263ページ』」に示します。

プロセスを使用してレコードをロックする例

このトピックでは、「[活動レコードのロックのシナリオ](#) 『263ページ』」に説明するシナリオをサポートするプロセスの作成例を示します。この機能は、ビジネスモデルに応じて様々な方法で使用できます。

次のように、ユーザーが実行できるアクションを制限するプロセスを作成します。

- レコードの状態が [完了] の場合、ユーザーはそのレコードを削除できません。
- レコードの状態が [提出済み] の場合の動作は次のとおりです。
 - ユーザーは、レコードを更新または削除できず、他のレコードをコール活動レコードにリンクできません。
 - コール活動レコードの全フィールドは読み取り専用になります。
- このプロセスは、取引先コールおよびプロフェッショナルコールに適用されますが、一般的なコールには適用されません。

コール活動レコードをロックするプロセスを設定するには

1 **Oracle CRM On Demand** で、次のようにプロセスを作成します。

- a** [プロセス名] フィールドに、プロセスの一意の名前を入力します。

b [オブジェクト名] フィールドで、[活動] を選択します。

[オブジェクト名] フィールドで [活動] を選択すると、[プライマリフィールド] が [コールタイプ] に自動的に設定されます。[推移項目] は [状態] に自動的に設定されます。プロセスの作成の詳細は、「[プロセスの作成](#) 『267 ページ』」を参照してください。

2 この手順のステップ 1 で作成したプロセスに、次の表に示すように推移ステートを追加します。

プロセスへの推移ステートの追加の詳細は、「[プロセスへの推移ステートの追加](#) 『268 ページ』」を参照してください。

都道府県	[更新の無効化] チェックボックス	[削除の無効化] チェックボックス
開始前	オフ	オフ
進行中	オフ	オフ
完了	オフ	オン
コミット	オン	オン

3 [取引先コール] および [プロフェッショナルコール] のプライマリ値をプロセスに追加することによって、プロセスが取引先コールおよびプロフェッショナルコールには適用されるが、一般的なコールには適用されないように制限します。プロセスの制限の詳細は、「[プロセスの制限](#) 『270 ページ』」を参照してください。

4 [提出済み] 推移ステートで、項目を設定し、全フィールドの [読み取り専用] チェックボックスをオンにします。推移ステートの項目の設定の詳細は、「[推移ステートの項目の設定](#) 『270 ページ』」を参照してください。

5 [完了] および [提出済み] 推移ステートで、関連レコードタイプに対する適切なアクセス制御を有効にします。次の表に、チェックボックスの設定を示します。関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化の詳細は、「[関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化](#) 『271 ページ』」を参照してください。

推移ステート	関連レコードタイプ	作成/追加の無効化	更新の無効化	削除の無効化
完了	メッセージ応答	オフ	オフ	オン
	製品詳細	オフ	オフ	オン
	提供プロモーションアイテム	オフ	オフ	オン
	提供サンプル	オフ	オフ	オン
	サンプルトランザクション	オフ	オフ	オン
	署名	オフ	オフ	オン
	解決策	オフ	オフ	オン
提出済み	添付資料	オン	オン	オン

推移ステート	関連レコードタイプ	作成/追加の無効化	更新の無効化	削除の無効化
	ブック	オン	オン	オン
	担当者 (M:M)	オン	オン	オン
	カスタムオブジェクト 01 から 03	オン	オン	オン
	メッセージ応答	オン	オン	オン
	製品詳細	オン	オン	オン
	提供サンプル	オン	オン	オン
	サンプルトランザクショ ン	オン	オン	オン
	署名	オン	オン	オン
	解決策 (M:M)	オン	オン	オン

プロセス管理機能

プロセス管理では、次のレコードタイプがサポートされています。

- 取引先
- 活動
- 住所
- ビジネス計画
- 見込み客
- メッセージプラン
- 目標
- 商談
- サンプル免責条項
- サンプルトランザクション
- サービスリクエスト
- 解決策

制限

次の制限が適用されます。

- プロセス管理をサポートするレコードタイプごとに、1つのプロセスのみを設定できます。

- サポートされているレコードタイプごとに、レコードタイプの [状態] フィールドがプロセスの推移項目として使用されます。別の推移項目は選択できません。
- プロセスを制限するためにプライマリフィールドの使用をサポートしているのは、[活動] レコードタイプのみです。[活動] レコードタイプのプライマリフィールドは、[コールタイプ] フィールドです。別のプライマリフィールドは選択できません。
- 推移ステートの推移項目に関するオプションは、レコードがその推移ステートのときに特定の項目が読み取り専用になるように指定するオプションに制限されます。
- プロセスを保存するときにプロセスレコードに表示される順序番号フィールドと [デフォルト] チェックボックスは、現行リリースの **Oracle CRM On Demand** では使用されません。

関連レコードタイプ

プロセス管理でサポートされている各親レコードタイプについては、その親レコードタイプでサポートされ、企業で使用可能なすべての関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効化できますが、次の表に示す例外があります。

親レコードタイプ	サポート外の関連レコードタイプ
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ■ アセスメント ■ 金融口座: 支店 ■ 金融口座: Held-Away Institutions
活動	アセスメント
ビジネス計画	アセスメント
見込み客	アセスメント
目標	アセスメント
商談	アセスメント
サービスリクエスト	アセスメント

Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス

Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 プロセスの作成 『267ページ』
 - 2 プロセスへの推移ステートの追加 『268ページ』
- また、オプションで、次のタスクを実行できます。
- プロセスの制限 『270ページ』
 - 推移ステートの項目の設定 『270ページ』
 - 関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 『271ページ』

プロセスの作成

プロセスを作成するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス『266ページ』](#)」のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[プロセス管理] をクリックします。
- 3 [プロセスリスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 4 [プロセス編集] ページで、プロセス情報を入力します。
- 5 変更を保存します。

注： プロセスを保存するときに [プロセス詳細] ページに表示される順序番号フィールドと [デフォルト] チェックボックスは、現行リリースの **Oracle CRM On Demand** では使用されません。

次の表では、プロセスフィールドについて説明します。これらのフィールドを現行リリースの **Oracle CRM On Demand** で使用方法の詳細は、「[プロセス管理機能『265ページ』](#)」にリストされている制限を参照してください。

フィールド	説明
プロセス名	プロセスのレコードタイプ。プロセスを作成できるレコードタイプのリストは、「 プロセス管理機能『265ページ』 」を参照してください。
プライマリフィールド	プロセスをレコードタイプの特定のレコードに制限するためのフィルタとして使用する、レコードタイプのフィールドの名前。このフィールドは読み取り専用です。 [活動] レコードタイプの場合、[プライマリフィールド] のデフォルト値は [コールタイプ] です。その他のレコードタイプの場合、フィールドは空白です。プライマリフィールドの詳細は、「 プロセス管理でのプライマリフィールドについて『262ページ』 」を参照してください。
推移項目	別の推移ステートへのレコードの推移を決定する、レコードタイプのフィールドの名前。このフィールドは読み取り専用です。サポートされているすべてのレコードタイプに対して、デフォルト値は [状態] です。推移項目の詳細は、「 プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について『262ページ』 」を参照してください。
説明	(オプション) プロセスの説明。

プロセスへの推移ステートの追加

プロセスでは、推移項目の各値を 1 つの推移ステートにリンクできます。推移項目および推移ステートの詳細は、「[プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について](#)」『262ページ』を参照してください。

プロセスに推移ステートを追加するには、次の手順を実行します。このタスクは、「[Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロセス](#)」『266ページ』のステップの 1 つです。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスに推移ステートを追加するには

- 1 [プロセスリスト] ページで、推移ステートを追加するプロセスの [プロセス名] リンクをクリックします。
- 2 [プロセス詳細] ページで、ページの [推移ステート] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [推移ステート編集] ページで、推移ステート情報を入力します。
- 4 変更を保存します。
- 5 プロセスに追加する推移ステートごとに、この手順のステップ 2 から 4 を繰り返します。

次の表では、推移ステートの一部のフィールドについて説明します。Oracle CRM On Demand のページの [主要情報] セクションおよび [認証] セクションのヘッダーには、推移項目の名前が表示されます。

フィールド	説明
主要情報	
都道府県	この推移ステートを識別する推移項目値。プロセスでは、各推移項目値は 1 つの推移ステートでのみ使用できます。値が推移ステートで使用されると、その値は [状況] フィールドの値のピックリストから削除されます。
カテゴリー	(オプション) 推移ステートが関連付けられるセールスカテゴリー。
説明	(オプション) 推移ステートの説明。
認証	

フィールド	説明
条件	<p>(オプション) レコードがこの推移ステートに移動可能かどうかを判断する条件。</p> <p>テキストボックスに式を直接入力するか、[fx] アイコンをクリックして Expression Builder ウィンドウを開き、そのウィンドウで式を定義できます。Expression Builder の詳細は、「Expression Builder 『582ページ』」を参照してください。</p> <p>式には計算フィールドを使用しないでください。推移ステートの [条件] フィールドの式では、計算フィールドはサポートされていません。</p> <p>ユーザーがプロセスで指定したレコードタイプのレコードをこの推移ステートに移動しようとしたときに、指定された条件を満たしていない場合は、エラーメッセージが表示され、ユーザーの変更は保存されません。</p>
エラーメッセージ	<p>(オプション) ユーザーがプロセスで指定したレコードタイプのレコードをこの推移ステートに移動しようとしたときに、その推移ステートに対して設定された条件を満たしていない場合に表示される、エラーメッセージのテキスト。</p>
レコードアクセスコントロール	
更新の無効化	<p>(オプション) このチェックボックスをオンにすると、レコードがこの推移ステートの場合に、外部アプリケーションを含むユーザーは、プロセスで指定したレコードタイプのレコードを更新できません。</p>
削除の無効化	<p>(オプション) このチェックボックスをオンにすると、レコードがこの推移ステートの場合に、外部アプリケーションを含むユーザーは、プロセスで指定したレコードタイプのレコードを削除できません。</p> <p>また、この推移ステートのレコードが親レコードの子である場合、ユーザーは親子関係からそのレコードを削除できません(削除すると、子レコードが Oracle CRM On Demand から削除されます)。</p> <p>ただし、親レコードとの関係から子レコードを削除しても子レコードが Oracle CRM On Demand から削除されない場合、レコードがこの推移ステートのときはレコードを親子関係から削除できますが、レコード自体は削除できません。</p>

プロセスの制限

レコードタイプの特定のレコードにのみプロセスを適用するように制限するには、レコードタイプのプライマリフィールドの値の中から、プロセスに対して有効な値を指定します。プライマリフィールドの詳細は、「[プロセス管理でのプライマリフィールドについて](#)『262ページ』」を参照してください。

プロセスを制限するには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

プロセスを制限するには

- 1 [プロセスリスト] ページで、制限するプロセスの [プロセス名] リンクをクリックします。
- 2 [プロセス詳細] ページで、ページの [プライマリ値] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [プライマリ値編集] ページの [値] フィールドで、プロセスが制限される値を選択します。
[プライマリ値編集] ページでは、最大 5 つまで値を選択できます。追加の値を選択する場合は、この手順を繰り返します。
- 4 変更を保存します。
- 5 この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、追加のプライマリ値を追加します。

推移ステートの項目の設定

推移ステートの項目を設定することによって、レコードがその推移ステートのときの特定項目の動作を指定できます。

推移ステートの項目を設定するには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[プロセス管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

推移ステートの項目を設定するには

- 1 [プロセス詳細] ページで、項目を設定する推移ステートの [状況] フィールドのリンクをクリックします。
- 2 [推移ステート詳細] ページで、ページの [項目設定] セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの [追加] をクリックします。
- 3 [項目設定編集] ページで、プロセスで指定したレコードタイプのレコードがこの推移ステートのときの項目の動作を次のように指定します。
 - a [項目] リストから項目を選択します。
 - b 項目に対して設定する動作のチェックボックスをオンにします。

注： 推移ステートの項目設定に適用される制限については、「[プロセス管理機能](#)『265ページ』」を参照してください。

注意：チェックボックスフィールドを読み取り専用を設定するには、ページレイアウト上の使用場所に項目がすでに表示されている必要があります。そうでない場合、項目がページに追加されて、ユーザーがこのタイプのレコードを保存しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

「項目設定編集」ページでは、最大 5 つまで項目設定を指定できます。追加の項目設定を指定する場合は、この手順を繰り返します。

- 4 変更を保存します。
- 5 この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、推移ステートに対してすべての項目を設定します。

関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にすると、親レコードがその推移ステートのときにユーザーが関連レコードに対して実行できるアクションを制限できます。

注：関連レコードタイプがないレコードタイプもあります。

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にするには、次の手順を実行します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「プロセス管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にするには

- 1 「プロセス詳細」ページで、関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にする推移ステートの「状況」フィールドのリンクをクリックします。
- 2 「推移ステート詳細」ページで、ページの「関連アクセス制御」セクションにスクロールし、セクションのタイトルバーの「追加」をクリックします。
- 3 「関連アクセス制御編集」ページで、関連レコードタイプごとに、有効にするアクセス制御のチェックボックスをオンにします。

「関連アクセス制御編集」ページでは、最大 5 つまでの関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にできます。追加の関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にする場合は、この手順を繰り返します。

注：「関連アクセス制御編集」ページでは、アクセス制御に関するチェックボックスは必須としてマークされており、各チェックボックスの名前の横にアスタリスクが表示されています。これらのチェックボックスフィールドの値は常にデータベースに保存されるため、チェックボックスは必須としてマークされています。値は、チェックボックスがオンの場合は「真」、チェックボックスがオフの場合は「偽」です。チェックボックスをオンにすると、「真」値がデータベースに保存されます。チェックボックスをオフにすると、「偽」値がデータベースに保存されます。

- 4 変更を保存します。
- 5 この手順のステップ 2 から 4 を必要な回数だけ繰り返して、推移ステートの関連レコードタイプに対してアクセス制御を有効にします。

次の表では、関連レコードタイプに対するアクセス制御について説明します。一部の関連レコードタイプは使用できません。使用できない関連レコードタイプのリストは、「[プロセス管理機能](#) 『265ページ』」を参照してください。

注：ユーザーとしては、Oracle CRM On Demand のユーザーの他に、外部アプリケーションも可能です。

フィールド	説明
作成/追加の無効化	このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのときは、親レコードからこの関連レコードタイプの新規レコードを作成したり、このレコードタイプの既存のレコードを親レコードに追加することはできません。
更新の無効化	<p>このチェックボックスの動作は、次のように、親レコードタイプと関連レコードタイプの関係によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが 1 対多関係 の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのとき、ユーザーはこの関連レコードタイプのレコード（つまり、親レコードの子レコード）を更新できません。 <p>親レコードがこの推移ステートのとき、Oracle CRM On Demand 内のどこからも子レコードは更新できません。たとえば、親レコードに [カスタムオブジェクト 05] レコードタイプの関連レコードがある場合、親レコードがこの推移ステートのときは、これらの [カスタムオブジェクト 05] レコードは [カスタムオブジェクト 05] ホームページからアクセスできる場合でも更新できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが多対多関係の場合は [更新の無効化] チェックボックスが使用不可になるため、親レコードがこの推移ステートのときにユーザーがこのタイプの関連レコードを更新できないようにすることはできません。
削除の無効化	<p>このチェックボックスの動作は、次のように、親レコードタイプと関連レコードタイプの関係によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが 1 対多関係 の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのとき、ユーザーはこの関連レコードタイプのレコード（つまり、親レコードの子レコード）を削除できません。 <p>親レコードがこの推移ステートのとき、Oracle CRM On Demand 内のどこからも子レコードは削除できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 親レコードタイプと関連レコードタイプが多対多関係の場合、このチェックボックスをオンにすると、親レコードがこの推移ステートのとき、ユーザーは親子関係からこの関連タイプの子レコードを削除できません。ただし、ユーザーは、Oracle CRM On Demand の他の場所（レコードタイプホームページからアクセスできるリストなど）から子レコードを削除できます。

ワークフロー設定

企業のビジネス要件を満たすワークフロールールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 すべての利害関係者と共同でビジネスプロセスを計画します。

- 2 設定する必要があるすべてのワークフロールールおよび対応するワークフローアクションを文書化します。ワークフロールールコンポーネントの詳細は、「[ワークフロールールについて](#)『273ページ』」を参照してください。
- 3 企業の管理者として Oracle CRM On Demand にサインインし、ワークフロールールを作成します。詳細は、「[ワークフロールール作成](#)『284ページ』」を参照してください。
- 4 ワークフロールールに、すべての必要なワークフローアクションを定義します。様々なタイプのワークフローアクションの作成については、次のトピックを参照してください。
 - [ワークフローアクションについて](#)『280ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#)『289ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#)『291ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#)『294ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#)『299ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：値の更新](#)『302ページ』
 - [ワークフローアクションの作成：待機](#)『304ページ』
 - [ワークフロールールとアクションの無効化](#)『309ページ』
 - [ワークフロールールとアクションの削除](#)『310ページ』

ワークフロールールについて

ワークフロールールは、指定されたイベントが発生するたびに 1 つ以上のアクションを自動的に実行するようにという Oracle CRM On Demand への指示です。

ワークフロールール機能の設定について

新規顧客の場合は、ワークフロールール機能が自動的に有効になっています。ただし、既存顧客の場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care と企業の管理者が Oracle CRM On Demand のワークフロールール機能を設定する必要があります。

- **Oracle CRM On Demand Customer Care の設定。**Oracle CRM On Demand Customer Care がワークフロールール機能を設定すると、[管理ホームページ] の [ビジネスプロセス管理] セクションに [ワークフロー設定] リンクが表示されます。また、管理者の役割を持つユーザーの [データルール管理 - ワークフロールール管理] 権限が有効になります。詳細については、「[役割の追加](#)『207ページ』」を参照してください。
- **[ワークフローを有効化] オプション。**ワークフロールールは、企業の管理者が [企業プロフィール] ページで [ワークフローを有効化] チェックボックスをオンにするまで実行できません。企業プロフィールの設定方法については、「[企業プロフィールとグローバルデフォルトの設定](#)『16ページ』」を参照してください。
- **統合イベント。**統合イベントは、作成、更新、削除、関連付け、関連付け解除、復元、マージなどの操作を含めた、Oracle CRM On Demand のレコードに対する変更に基づいて外部プロセスをトリガーするメカニズムです。追跡するレコードのフィールドを指定できます。企業でワークフロールールを使用して統合イベントを作成する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Customer Care に統合イベント管理のサポートを依頼し、必要な統合イベントキューの合計サイズを指定します。追跡するフィールドの値を変更すると、その変更が統合イベントに記録されます。また、統合イベントを追加する統合イベントキューを指定することもできます。統合イベントの管理の詳細は、「[統合イベントについて](#)『557ページ』」を参照してください。

- **ブック**。企業でワークフロールールを使用してレコードとブックの関連付けを更新する必要がある場合は、**Oracle CRM On Demand Customer Care** にブック管理のサポートを依頼します。ブック管理の詳細は、「[ブックの管理](#)『212ページ』」を参照してください。

ワークフロールールのトリガーイベントとアクション

ルールに指定されたイベント（トリガーイベント）が発生すると、ワークフロールールが評価されます。ルールの条件が満たされている場合（またはルールに条件が設定されていない場合）は、ルールに指定されたアクションが実行されます。たとえば、商談が作成されたときに（ワークフロールールトリガーイベント）、商談所有者の管理者に電子メールを送信する（ワークフロールールアクション）ように指定するワークフロールールを作成できます。また、商談の売上が特定の金額を上回った場合にのみ（ワークフロールール条件）電子メールを送信するように指定し、電子メールの内容を指定することもできます。

また、指定期間が経過した後や指定日時にアクションが実行されるようにワークフロールールを設定することもできます。時間ベースのワークフローアクションの詳細は、「[時間ベースのワークフロールールについて](#)『282ページ』」を参照してください。

ワークフロールールは次のいずれかの場合にトリガーできます。

- レコードが作成、更新、復元、マージ、または削除された場合。
- レコードが、他のレコードに関連付けられた場合、または他のレコードから分離した場合。

関連付けや関連付け解除のワークフロールールトリガーは、特定のレコードタイプ間の関連付けでのみサポートされます。詳細は、このトピックの「トリガーイベントの関連付けと分離」を参照してください。

ワークフロールールは、個々のフィールドに対してではなく、レコード全体に対して設定されます。ワークフロールールのトリガーイベントにはいくつかのタイプがありますが、各ワークフロールールに指定できるトリガーイベントは **1 つ** のみです。選択したルールのトリガーイベントに応じて、ワークフロールール条件を満たしたときに **Oracle CRM On Demand** で **1 つ** 以上のアクションが自動的に実行されるように指定できます。

注:ルールの作成後に、そのルールのレコードタイプやトリガーイベントを変更することはできません。ただし、ワークフロー条件の更新は可能です。

各ルールのトリガーイベントは、[ワークフロールールリスト] ページと [ワークフロールール詳細] ページに表示されます。次の表では、各トリガーイベントで使用可能なアクションについて説明します。

トリガーイベント	使用可能なアクション
新規レコードが保存されたとき	<ul style="list-style-type: none">■ 電子メールの送信■ タスクの作成■ ブックの割り当て■ 統合イベントの作成■ 待機■ 値の更新
更新されたレコードが保存されたとき	<ul style="list-style-type: none">■ 電子メールの送信■ タスクの作成■ ブックの割り当て■ 統合イベントの作成

トリガーイベント	使用可能なアクション
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 待機 ■ 値の更新
レコードが削除される前	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信 ■ タスクの作成 ■ 統合イベントの作成
更新されたレコードが保存される前に	<ul style="list-style-type: none"> ■ 値の更新
親との関連付けの後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ 待機
親との関連付け解除の後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ 待機
レコードの復元時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ タスクの作成
レコードのマージ時	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子メールの送信 ■ 統合イベントの作成 ■ タスクの作成

次の 3 つの追加ワークフローアクションは、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management でのみ使用できます。

- [Partner Book Sync (パートナーブック同期)]
- [Book Partner Sync (ブックパートナー同期)]
- [Owner Partner Account Sync (所有者パートナー取引先同期)]

これらのアクションとその使用方法の詳細は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide を参照してください。このマニュアルは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

ワークフロールールとルールアクションに適用される制限事項

ワークフロールールとルールアクションには、次の制限事項が適用されます。

- **ワークフロールール条件。** ワークフロールールに条件を定義した場合は、ルールがトリガーされたときにルール条件が満たされている場合にのみ、ワークフロールールのアクションが実行されます。条件が満たされていない場合、アクション

は実行されません。ワークフロールールに条件を定義していない場合は、ルールがトリガーされるたびにワークフロールールアクションが実行されます。

- **ワークフロールールの複数のアクション。** 1つのワークフロールールに対して複数のアクション（最大 25 個）を作成できます。1つのルールに 25 個を超えるアクションを作成しようとする、エラーメッセージが表示されます。ワークフロールールに複数のアクションがある場合は、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ルールのアクションの順序は変更できます。ワークフローアクションの詳細は、「[ワークフローアクションについて](#)」『280ページ』を参照してください。

注：ワークフローアクションが完了前に予期せず終了した場合、ルールの残りのアクションは実行されません。

- **レコードタイプ。** さまざまなレコードタイプに対するワークフロールールを作成することができます。ただし、各ワークフロールールは、1 種類のレコードタイプにのみ適用されます。たとえば、あるレコードタイプのワークフロールールを作成した後、別のレコードタイプでも同じアクションを実行するには、このレコードタイプに対して、同じトリガーイベント、ルール条件、およびアクションを持つ、別のワークフロールールを作成する必要があります。
- **シングルレコードコンテキスト。** ワークフロールールは、レコードが作成、更新、削除された場合にトリガーされます。1つのレコードのコンテキスト内でのみ動作するため、ワークフロールールがアクセスおよび更新できるフィールドも 1つのレコードだけです。

注:ワークフロールールがレコードの関連付けまたは分離アクションによってトリガーされると、そのワークフローによって作成された統合イベントは、子レコードおよび親レコードの両方のフィールドを含めることができます。

ワークフロールールの順序

ワークフロールールを作成すると、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロールールに対するトリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」の場合は、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。順序番号により、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいた一連のワークフロールールを Oracle CRM On Demand が呼び出す順序が決まります。ルールの順序は変更できます。ワークフロールールの順序の変更の詳細は、「[ワークフロールールの順序の変更](#)」『308ページ』を参照してください。

一連のワークフロールールの終了

ワークフロールールの条件を満たした場合、Oracle CRM On Demand によって一連のワークフロールールの処理が停止されるように指定できます。ワークフロールールがトリガーされると、ルールの条件が評価されます。ルールの条件を満たし、ワークフロールールの「終了」チェックボックスがオンの場合は、現在のワークフロールールで有効なアクションが実行されますが、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいている後続のワークフロールールは処理されません。

トリガーイベントの関連付けと分離

ワークフロールール上のトリガーイベントの関連付けと分離は、特定のレコードタイプ間の関連付けでのみサポートされます。トリガーイベントの関連付けと分離では、次のアクションを使用できます。

- **メール送信。** このアクションは、トリガーイベントのすべての関連付けと分離で使用できます。
- **待機。** このアクションは、トリガーイベントのすべての関連付けと分離で使用できます。
- **統合イベントの作成。** このアクションは、一部の関連付けでのみ使用できます。

次の表で、トリガーイベントの関連付けと分離をサポートする関連付けを示し、どの関連付けが「統合イベントの作成」アクションをサポートしているかを示します。

親レコードタイプ	レコードタイプ	[統合イベントの作成] アクションのサポート
取引先	担当者	はい
取引先	カスタムオブジェクト 01	いいえ
取引先	カスタムオブジェクト 02	いいえ
取引先	カスタムオブジェクト 03	いいえ
活動	担当者	いいえ
担当者	取引先	はい
担当者	カスタムオブジェクト 01	いいえ
担当者	カスタムオブジェクト 02	いいえ
担当者	カスタムオブジェクト 03	いいえ
担当者	商談	はい
商談	担当者	はい
商談	カスタムオブジェクト 02	いいえ

次の表で、関連付けまたは分離のワークフロールールをトリガーできるアクションを示します。この表では、統合イベントアクションがワークフロールール上で設定された場合に、ワークフロールールによって生成される統合イベントも示しています。

注:レコード内のデータによっては、追加の統合イベントが生成される場合があります。たとえば、取引先に作成された新しい担当者がその取引先のプライマリ担当者である場合、追加の統合イベント（取引先の更新）が生成されます。

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
取引先に新しい担当者を作成します。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先：更新 担当者：挿入 担当者：関連付ける
			Web サービス	担当者：挿入 担当者：関連付ける 取引先：更新
既存の担当者を取引先にリンクします。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：挿入 担当者：更新
			Web サービス	担当者：関連付ける

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
				取引先：更新
取引先から担当者を削除します。	取引先	担当者	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
			Web サービス	担当者：分離 取引先：更新
既存の取引先を担当者にリンクします。	担当者	取引先	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：挿入 取引先：更新
			Web サービス	取引先担当者：挿入 担当者：更新
担当者から取引先を削除します。	担当者	取引先	ユーザーインターフェイス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
			Web サービス	取引先担当者：削除 担当者：更新（プライマリ担当者のみ）
担当者に新しい商談を作成します。	担当者	商談	ユーザーインターフェイス	商談：挿入 商談：関連付け
			Web サービス	商談：挿入 商談：関連付け 担当者：更新
担当者から商談を削除します。	担当者	商談	ユーザーインターフェイス	商談：関連付け解除
			Web サービス	商談：関連付け解除
取引先に新しい商談を作成します。 注: このアクションはユーザーインターフェイスからは使用できません。	商談	担当者	Web サービス	担当者：挿入 担当者：関連付ける

アクション	親レコード	子レコード	チャネル	統合イベント
既存の担当者を商談にリンクします。	商談	担当者	ユーザーインターフェイス	商談：更新 商談担当者役割：挿入
			Web サービス	担当者：関連付ける 商談：更新
商談から担当者を削除します。	商談	担当者	ユーザーインターフェイス	商談担当者役割：削除 商談：更新
			Web サービス	担当者：分離 商談：更新

ワークフロールールアクションの失敗

ワークフロールールアクションの完了に失敗した場合は、次の処理が実行されます。

- 「値を更新」アクションが失敗した場合、ルールをトリガーした操作がブロックされ、ワークフロールールに指定されているその他のアクションは実行されません。操作が失敗したことを示すエラーメッセージが表示されます。
- 「値を更新」アクション以外のワークフロールールアクションが失敗した場合、ユーザーはエラーメッセージを受け取りますが、ルールをトリガーした操作はブロックされず、ワークフロールールに指定されているその他のアクションが実行されます。タスクの作成が許可されていないために「タスクを作成」アクションが失敗した場合に返されるエラーメッセージなど、一部のエラーメッセージはユーザーには表示されません。このようなエラーはログファイルに書き込まれます。

レコードの表示およびワークフローアクション

ワークフロールールをトリガーするアクションをユーザーが実行し、ユーザーのアクションの結果としてレコードを表示できなくなった場合、ワークフロールールに対する一部のアクションが失敗することがあります。

たとえば、変更した取引先レコードの保存時にトリガーされるワークフロールールがあるとします。取引先レコードを所有するユーザーが取引先を別のユーザーに再割当てした場合、その取引先レコードの保存時にワークフロールールがトリガーされます。レコードの元の所有者が他のどのような手段（チームまたはブックのメンバーシップなど）によっても取引先レコードを表示できなくなった場合、その取引先レコードにアクセスする必要があるワークフローアクションは失敗します。

レコード所有権モードおよびワークフローアクション

カスタムブックを異なる所有権モード（ユーザーモード、混合モードまたはブックモード）でサポートするレコードタイプを設定できます。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#)『220ページ』」を参照してください。レコード所有権モードはワークフローのルールおよびアクションと相互作用します。

「ブックを割り当て」ワークフローアクションでプライマリカスタムブックをレコードから削除しようとした場合の動作は次のとおりです。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、プライマリカスタムブックがレコードから削除されるときに、Oracle CRM On Demand によってレコードの「ブック」フィールドの値が削除されます。

- レコードタイプがユーザーモードに設定されている場合は、レコードのいずれのブックもプライマリカスタムブックではないため、レコード所有権モードはワークフローアクションに影響しません。

〔レコード上の電子メールアドレス〕オプションを使用して電子メールを送信するように〔メール送信〕アクションが設定されている場合など、ワークフローアクションがレコードの〔所有者〕フィールドの値に依存する場合は、次の状況が発生します。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプがユーザーモードまたは混合モードに設定され、レコードで関係のあるユーザーを識別するフィールドが空白の場合は、ワークフローアクションが失敗します。

たとえば、取引先所有者に電子メールを送信する〔メール送信〕アクションを設定する場合、取引先レコードの〔所有者〕フィールドが空白になっていると、ワークフローアクションは失敗します。一方、〔所有者〕フィールドに値が挿入されていると、ワークフローアクションは正常に実行されます。

待ち時間

ワークフロールールは順番に、そして同期的に評価されます。したがって、すべてのルールが評価されるまでは、全体的な更新操作は完了しません。ワークフロールールでは、操作に対して一定の待ち時間（操作の開始と操作の終了までの時間）を設けています。たとえば、ワークフローによって作成される各タスクは、レコードの更新操作に対して最大で **20%** の待ち時間を追加することができます。ワークフロールールによって作成される各電子メールには、約 **5%** の待ち時間が追加されます。

式の評価には、それほど時間はかかりません。待ち時間を最短にするには、相互排他的な式をワークフロー条件に追加します。ワークフロールールは、パフォーマンスを念頭に置いたうえで、段階的に構築します。

次に示した作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールの順序の変更](#) 『308ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフローアクションについて

1 つのワークフロールールに対して複数のアクション（最大 25 個）を作成できます。

作成可能なワークフローアクションのタイプは次のとおりです。

- **ブックを割り当て**。[ブックを割り当て] アクションでは、ワークフロールールを条件を満たすと、レコードにブックを割り当てます。
- **統合イベントの作成**。[統合イベントの作成] アクションでは、ワークフロールールを条件を満たし、[統合イベントの作成] アクションで追跡されているフィールドの少なくとも 1 つで変更が検出された場合、自動的に 1 つ以上の統合キューに統合イベントを送信します。
- **タスクを作成**。[タスクを作成] アクションでは、ワークフロールールを条件を満たすと、タスクを作成します。
- **メール送信**。[メール送信] アクションでは、ワークフロールールを条件を満たすと、電子メールを送信します。
- **値を更新**。[値を更新] アクションでは、レコードの変更時に、元の変更に関する情報（レコードの変更日時、変更したユーザー、変更内容）を保持したままフィールドを更新します。このアクションは、ワークフロールールの [値を更新] アクションより前にある 1 つ以上の [待機] アクションに定義されている待機期間の終了時に実行されます。
- **待機**。[待機] アクションを使用すると、Oracle CRM On Demand では、特定の期間が経過するまで、または特定の日時になるまでワークフロールールの他の（後続の）アクションの実行が延期されます。

次の 3 つの追加ワークフローアクションは、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management でのみ使用できます。

- [Partner Book Sync（パートナーブック同期）]
- [Book Partner Sync（ブックパートナー同期）]
- [Owner Partner Account Sync（所有者パートナー取引先同期）]

これらのアクションとその使用方法の詳細は、Oracle CRM On Demand for Partner Relationship Management Configuration Guide を参照してください。このマニュアルは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

注:ワークフロールールに複数のアクションを指定した場合、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ワークフロールールのアクションを作成した後で、アクションの順序を変更できます。詳細については、「[ワークフロールールアクションの順序の変更](#)『307ページ』」を参照してください。

ワークフロールールのアクションを作成するときは、Expression Builder を使用して、レコードからフィールドを選択し、変数を計算する式を定義します。電子メールの件名とメッセージの本文テキスト、タスクの件名と説明テキストまたは更新するフィールドの新しい値に、レコードのフィールドと変数をマージできます。また、式ビルダーを使用して、ワークフロールールの [待機] アクションの待機期間の長さまたは終了日時を計算することもできます。定義する式のフィールドの名前と変数は、ワークフロールールの実装時に値に置き換わります。Expression Builder の詳細は、「[Expression Builder](#)『582ページ』」を参照してください。

ワークフローアクションを作成する手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#)『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#)『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#)『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#)『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#)『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#)『304ページ』

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

時間ベースのワークフロールールについて

時間制限を経過したときにアクションが実行されるように、ワークフロールールを設定できます。たとえば、レコードの期日が経過したとき、またはレコードが一定期間使用されていなかった場合に、ルールのアクションが実行されるようにルールを設定できます。

時間ベースのワークフロールールを設定するには、ルールに 1 つ以上の〔待機〕アクションを追加します。時間ベースのアクションを実行するケースごとに、遅延の期間、または遅延の終了日時を指定する〔待機〕アクションを作成します。期間または日付を直接入力するか、期間または日付を計算する式を作成できます。次に、遅延するアクションの直前に〔待機〕アクションがくるように、ルールのアクションを並べ替えます。ビジネスプロセスの実現に複数のルールが必要な場合は、目的を実現するためにルールを適切に並べ替えます。

待機アクション後のワークフロー条件の再評価について

〔待機〕アクションを使用して、待機期間の終了時にワークフロールール条件を再評価するかどうかを指定できます。〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスがオンの場合は、待機期間の終了時にレコードが再び読み込まれ、ワークフロールールの条件に対して再評価されます。

（待機期間中にレコードが変更されたために）ルール条件が満たされていない場合、ルールの残りのアクションは実行されません。デフォルトでは、〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスはオンになります。

〔待機〕アクションの〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスをオフにし、待機期間が終了した場合は、レコードが再び読み込まれ、ルールに対する次のアクションが実行されます。このときに、レコードがまだルール条件を満たしているかどうかはチェックされません。ルールに複数の〔待機〕アクションがある場合は、待機期間の終了時にルール条件を再評価する〔待機〕アクションごとに〔待機後のルール条件を再評価します〕チェックボックスをオンにする必要があります。

時間ベースのワークフロールールの使用例

次に、時間ベースのワークフロールールの使用例を示します。時間ベースのワークフロールールは、ビジネスモデルに応じて異なる方法で使用できます。

サービスリクエストには、〔標準〕、〔緊急〕、〔非常に重要〕の 3 つの優先順位オプションが使用されます。サービスリクエストが作成されると、サービスリクエストの優先順位はデフォルトで〔標準〕に設定されます。サービスエスカレーションのビジネスプロセスでは、次のアクションが必要です。

- 1 新しいサービスリクエストが作成された後、サービスリクエストの状態が 24 時間以内に更新されない場合は、サービスリクエストの優先順位が「緊急」に変更され、サービスリクエストを更新する必要があることを所有者に通知する電子メールがサービスリクエストの所有者に送信されます。
- 2 サービスリクエストの状態が変更されずにさらに 24 時間経過すると、次の処理が実行されます。
 - サービスリクエストの「優先順位」フィールドが「非常に重要」に変更されます。
 - サービスリクエストが当初の所有者のマネージャに再割り当てされます。
 - サービスリクエストが所有者のマネージャに再割り当てされたこと、および優先順位が「非常に重要」に変更されたことを伝える電子メールが、サービスリクエストの当初の所有者と新しい所有者に送信されます。

この要件を満たすために、企業の管理者は、次のように設定されるサービスリクエストレコードタイプのワークフロールールを設定します。

- 1 ルールトリガーは、「新規レコードが保存されたとき」という値に設定されます。
- 2 ルール条件は、次のように、サービスリクエストの状態が「保留中」に設定されていないことを指定します。

[<Status>] <> LookupValue("SR_STATUS", "Pending")

- 3 ワークフロールールには次の一連のアクションがあります。
 - a 期間が 24 時間で、「待機後のルール条件を再評価します」チェックボックスがオンの「待機」アクション
 - b サービスリクエストの「優先順位」フィールドを「緊急」に変更する「値を更新」アクション
 - c サービスリクエストの優先順位が「緊急」に変更されたこと、およびサービスリクエストを更新する必要があることを所有者に通知する電子メールをサービスリクエストの所有者に送信する「メール送信」アクション
 - d 期間が 24 時間で、「待機後のルール条件を再評価します」チェックボックスがオンの「待機」アクション
 - e サービスリクエストの「優先順位」フィールドを「非常に重要」に変更する「値を更新」アクション
 - f 当初の所有者のマネージャを新しい所有者として割り当てる「値を更新」アクション
 - g サービスリクエストが再割り当てされたこと、およびサービスリクエストの優先順位が「非常に重要」に変更されたことを通知する電子メールをサービスリクエストの所有者と所有者のマネージャに送信する「メール送信」アクション

ワークフロールールの「待機」アクションおよび「値を更新」アクションの作成については、「[ワークフローアクションの作成：待機『304ページ』](#)」および「[ワークフローアクションの作成：値を更新『302ページ』](#)の"ワークフローアクションの作成：値の更新"参照」を参照してください。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて『273ページ』](#)
- [ワークフローアクションについて『280ページ』](#)
- [ワークフロールールの作成『284ページ』](#)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更『307ページ』](#)

- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフロールールの作成

作業前の準備。「[ワークフロールールについて](#)」『273ページ』で説明されているように、企業で Oracle CRM On Demand のワークフロー機能が設定されている必要があります。このトピックで説明する手順を実行するには、[データルール管理 - ワークフロールールの管理]権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#)」『207ページ』を参照してください。

注:ルールの作成後に、そのルールのレコードタイプやトリガーイベントを変更することはできません。ただし、ワークフロー条件の更新は可能です。

ワークフロールールを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - 既存のワークフロールールをコピーして新しいワークフロールールを作成するには、コピーするワークフロールールの [コピー] をクリックします。
 - 既存のルールをベースにせずに新しいワークフロールールを作成するには、タイトルバーの [新規] をクリックします。
- 4 [ワークフロールール詳細] ページの [キーワークフロールール詳細] セクションで、ルール情報を入力します。

次の表では、ルールフィールドについて説明します。

フィールド	説明
ワークフロー名	50 文字までの一意の名前を入力します。
有効	[有効] チェックボックスを使用して、ルールの有効と無効を切り替えます。同時に有効にできるワークフロールールの数に制限はありません。

フィールド	説明
オーダー	このフィールドは、ワークフロールールを作成するときは読み取り専用です。このフィールドにより、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいて Oracle CRM On Demand がルールを呼び出す順序が決まります。 Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいてルールに対して次の未使用の番号が割り当てられます。ワークフロールールに対するトリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」の場合は、 Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいて、ルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロールールの順序は後で変更できます。詳細については、「 ワークフロールールの順序の変更 」を参照してください。
終了	<p>このワークフロールールの「終了」チェックボックスがオンの場合、ルールの条件が満たされると、このワークフロールールで有効なアクションが実行されます。ただし、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいている後続のワークフロールールはトリガーされません。</p> <p>このワークフロールールの条件を満たさない場合は、このワークフロールールの「終了」チェックボックスの設定に関係なく、Oracle CRM On Demand により、順序の次のルールに進みます。</p>
レコードタイプ	<p>ワークフロールールのレコードタイプを選択します。</p> <p>トリガーイベントを作成、更新および削除する場合、ワークフロールールは、1 種類のレコードタイプにのみ関連付けられます。ルールはそのレコードタイプに対して評価され、そのレコードタイプに対してアクションが実行されます。ルールの作成後、そのルールのレコードタイプを変更することはできません。</p> <p>トリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」のワークフロールールの場合は、子レコードのレコードタイプを選択します。たとえば、ワークフロールールを、担当者レコードが取引先レコードに関連付けられたときにトリガーしたい場合は、このフィールドで担当者を選択し、「親レコードタイプ」フィールドで取引先を選択します。</p>
トリガーイベント	<p>ルールをトリガーするイベントを選択します。</p> <p>指定のレコードタイプでこのイベントが発生すると、ルールが評価されます。ルールの作成後、そのルールのトリガーイベントを変更することはできません。</p> <p>注:「親との関連付けの後」および「親との関連付け解除の後」のトリガーイベントは、取引先、担当者、および商談のレコードタイプに対してのみサポートされます。詳細については、「ワークフロールールについて」の「トリガーイベントの関連付けと分離」を参照してください。</p>
親レコードタイプ	<p>このフィールドは、「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」のトリガーイベントを選択した場合に表示されます。</p> <p>親レコードタイプを選択します。たとえば、担当者レコードが親の取引先レコードと関連付けられたときにワークフロールールをトリガーする場合</p>

フィールド	説明
	は、このフィールドで [取引先] を選択し、[レコードタイプ] フィールドで [担当者] を選択します。

- 5** ワークフロールールに条件を定義する場合は、ページの [ワークフロールール条件] セクションにある [fx] アイコンをクリックし、**Expression Builder** を使用してワークフロールール条件を定義します。**Expression Builder** の詳細は、「[Expression Builder](#) 『582ページ』」を参照してください。

注: ワークフロールールに条件を定義しない場合は、ルールがトリガーされるたびにルールアクションが実行されます。

ワークフロールールの条件を作成する場合は、次の点を考慮してください。

- ワークフロールールの条件には、最大 **1024** 文字含めることができます。
- 特定の役割またはチャネル専用のワークフロールールを設定できます。ワークフロールールを特定の役割またはチャネルに制限する方法の詳細は、「[ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限](#) 『289ページ』」を参照してください。
- ワークフロールールの次のような条件を使用して、レコード内のフィールドが更新されたかどうかを確認できます。この例では、フィールドが変更されたかどうかを確認するための文字列として「**Invalid**」を使用していますが、調査対象のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

`IfNull([<FieldName>], "Invalid") <> IfNull(PRE("<FieldName>"), "Invalid")`

注意: [待機] アクションの後に呼び出されるワークフローまたはアクションで **PRE** 関数を使用した場合、関数はフィールドの以前の値を返しません。**PRE()**関数の詳細は、「[PRE](#) 『629ページ』」を参照してください。

- 6** [ワークフロールール詳細] ページで [条件が偽の場合にアクション] セクションが有効な場合は、ルールの条件を満たさない場合に保存操作が必ず取り消されるように指定できます。

ルールの条件を満たさない場合に保存操作を取り消す指定の詳細は、「[ワークフロー保存操作の取り消し](#) 『287ページ』の"[ワークフロー保存操作の取り消し](#)"参照」を参照してください。

- 7** ワークフロールールを保存します。

ルールを保存した場合は、そのルール用のアクションを作成できます。**1** つのワークフロールールに対して複数のアクション (最大 **25** 個) を作成できます。ワークフローアクションを作成する手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成: ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成: 統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成: タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成: 電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成: 値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成: 待機](#) 『304ページ』

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』

- [ワークフロー保存操作の取り消し](#) 『287ページ の"[ワークフロー保存操作の取り消し](#)"参照 』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ 』
- [ワークフロールールの順序の変更](#) 『308ページ 』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ 』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ 』

ワークフロー保存操作の取り消し

特定のレコードタイプの場合、トリガーが「更新されたレコードが保存される前に」のワークフローでは、ルールが満たされない場合に、そのルールをトリガーした変更を保存するための操作を取消可能に指定できます。ただし、Oracle CRM On Demand による変更は、保存操作の取り消しを指定した場合でも、取り消されません。

「保存取消」オプションを使用できるのは、トリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」で、特定のレコードタイプに対してのみ使用可能なワークフロールールの場合のみです。加えて、「保存取消」オプションを使用できるレコードタイプは、次のように、ユーザーの役割によって決まります。

- ユーザーの役割に「データルールの管理 - ワークフロールールの管理」権限が設定されている場合、「保存取消」オプションは、「商談」レコードタイプに対するワークフロールールで使用できます。
- ユーザーの役割に「ワークフロー保存取消」権限および「データルールの管理 - ワークフロールールの管理」権限が設定されている場合、「保存取消」オプションは、次のレコードタイプに対するワークフロールールで使用できます。
 - 取引先
 - 活動
 - 担当者
 - カスタムオブジェクト 01
 - カスタムオブジェクト 02
 - カスタムオブジェクト 04 以降
 - 世帯
 - 見込み客
 - 商談
 - 売上
 - サービスリクエスト

ルール条件を満たさない場合に、ワークフローの保存操作を取り消すには

- 1 「ワークフロールール詳細」ページの「条件が偽の場合にアクション」セクションで、「保存取消」チェックボックスをオンにします。
- 2 （オプション）ルール条件を満たさないために保存処理が取り消されたときに表示するエラーメッセージを指定します。
- 3 変更を保存します。

次の表では、[ワークフロールール詳細] ページの [条件が偽の場合にアクション] セクションのオプションについて説明します。

フィールド	説明
保存取消	<p>このチェックボックスをオンにすると、ルール条件を満たさない場合に次のアクションが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロールールが終了します。 ■ [更新されたレコードが保存される前に] トリガーイベントが指定されている（同じレコードタイプに基づく）以降のすべてのワークフロールールも終了します。 ■ レコードの状態に対する以前のすべての変更（Oracle CRM On Demand で加えられた変更を除く）がロールバックされます。 ■ レコードが元の状態に戻ります。ただし、Oracle CRM On Demand でレコードが更新されている場合は、その変更が [保存取消] アクションよりも優先されます。たとえば、プライマリ担当者が関連担当者から削除されると、Oracle CRM On Demand で親商談レコードのプライマリ担当者情報が更新されます。Oracle CRM On Demand によるこの更新は、商談レコードに対する [保存取消] アクションよりも優先されます。 ■ [更新されたレコードが保存されたとき] トリガーイベントが指定されている、同じレコードタイプの以降のすべてのワークフロールールはトリガーされません。 ■ 次のようなメッセージが返されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーのアクションによってルールがトリガーされると、そのルールをトリガーしたアクションを実行したユーザーに対してメッセージが表示されます。 ■ Web サービスによってルールが呼び出された場合は、その Web サービスに対してメッセージがエラー文字列として返されます。 <p>メッセージは、[メッセージの表示] フィールドで指定できます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ルールの条件を満たさない場合は、保存操作が行われません（メッセージも返されません）。</p> <p>デフォルトでは、[保存取消] チェックボックスはオフになっています。</p>
メッセージの表示	<p>このフィールドでは、ルールの条件を満たさない場合、およびルールの [保存取消] チェックボックスがオンの場合にユーザーまたは Web サービスに返すメッセージを指定できます。</p> <p>このフィールドにメッセージを指定しない場合は、デフォルトのメッセージが返されます。メッセージの最大文字数は 1,999 文字です。</p>

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』

ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限

ワークフロールールに条件を追加して、ワークフロールールを特定のチャネルまたは役割に制限できます。

チャネルによってワークフロールールが呼び出されないようにするには

- 条件式で `ExcludeChannel()` 関数を使用します。

たとえば、大規模なインポート処理によってワークフロールールがトリガーされないようにするには、ワークフロールールで次の条件を使用します。

```
ExcludeChannel ("Import")
```

`ExcludeChannel()` 関数の詳細は、「[ExcludeChannel](#) 『598ページ』」を参照してください。

ワークフロールールを特定の役割に制限するには

- 条件式で `UserValue()` 関数とともに `<Role>` 属性を使用します。

たとえば、ルールをトリガーするアクションを実行したユーザーの役割が [管理者] であり、レコードの [優先順位] が [高] に設定されている場合にのみワークフロールールが呼び出されるように制限するには、ワークフロールールで次の条件を使用します。

```
UserValue('<Role>')="Administrator" AND [<Priority>]="High"
```

`UserValue()` 関数の詳細は、「[UserValue](#) 『637ページ』」を参照してください。

ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て

ワークフロールールの [ブックを割り当て] アクションでは、ワークフロールールの条件が満たされた場合にブックがレコードに自動的に割り当てられます。

注： 1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、[ブックを割り当て] アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[ワークフロールールの管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

[ブックを割り当て] アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。

- a** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- b** [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- c** [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[ブックを割り当て] を選択します。

注: ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント: アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。

6 [ブック名] フィールドの横のセレクトボタンをクリックします。

7 [ブックルックアップ] でレコードを割り当てるブックを選択し、[OK] をクリックします。

8 適切な [割当オプション] と [適用先] オプションを選択します。

オプションについては、「[ブックへのレコードの割り当て](#) 『249ページ』」を参照してください。

9 アクションを保存します。

レコード所有者モードおよびブックの割り当て

カスタムブックを異なる所有権モード（ユーザーモード、混合モードまたはブックモード）でサポートするレコードタイプを設定できます。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) 『220ページ』」を参照してください。レコード所有権モードはワークフローのルールおよびアクションと相互作用します。

[ブックを割り当て] ワークフローアクションでプライマリカスタムブックをレコードから削除しようとした場合の動作は次のとおりです。

- レコードタイプがブックモードに設定されている場合は、ワークフローアクションが失敗します。
- レコードタイプが混合モードに設定されている場合は、プライマリカスタムブックがレコードから削除されるときに、Oracle CRM On Demand によってレコードの [ブック] フィールドの値が削除されます。
- レコードタイプがユーザーモードに設定されている場合は、レコードのいずれのブックもプライマリカスタムブックではないため、レコード所有権モードはワークフローアクションに影響しません。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』

- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成

ワークフロールールに対する[統合イベントの作成]アクションでは、ワークフロールールの条件を満たし、[統合イベントの作成]アクションで追跡されているフィールドの少なくとも1つで変更が検出された場合、自動的に1つ以上の統合キューに統合イベントを送信します。

[統合イベントの作成] アクションおよび[待機] アクションについて

[統合イベントの作成] アクションを使用して、ワークフロールールをトリガーするイベントによってレコードに加えられた変更を取得する統合イベントを作成する場合は、ワークフロールールのアクションの順序として、[待機]アクションの前に[統合イベントの作成]アクションを設定する必要があります。ワークフロールールで[統合イベントの作成]アクションの前に[待機]アクションを実行すると、[統合イベントの作成]アクションでレコードに対する変更が検出されなくなります。

[待機]アクションの待機期間が終了すると、ルールの残りのアクションが実行される前にレコードが再び読み取られ、ワークフロールールをトリガーしたイベントの前にレコードに記録されたフィールド値は保持されません。したがって、フィールドの以前の値と現在の値は同一と見なされ、[統合イベントの作成]アクションによって統合イベントは作成されません。これは、追跡対象のフィールドの変更が検出されないためです。

注：1つのワークフロールールに対して、最大25個のアクションを作成できます。

次の手順では、[統合イベントの作成]アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。このトピックで説明する手順を実行するには、[ワークフロールールの管理]権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

[統合イベントの作成] アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある[管理]グローバルリンクをクリックします。

- b** [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- c** [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

- 2** ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。
- 3** [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[統合イベントの作成] を選択します。
注: ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。
ヒント: アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。
- 4** [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。
- 5** アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。
- 6** 統合イベントを書き込む統合キューを選択します。
- 7** ワークフローアクションを保存します。
- 8** アクションのリストにあるレコードレベルメニューから、設定する統合イベントアクションに対して [設定] を選択します。
注: [設定] オプションは、トリガーイベントが [レコードのマージ時] のアクションには使用できません。
- 9** 統合イベント追跡の設定ページで、フィールドに対するチェックボックスを必要に応じてオンにします。
 - フィールドの値が変更されていない場合でもそのフィールドを統合イベントに含める場合は、[常に含む] チェックボックスをオンにします。
 - このフィールドが更新されるたびに統合イベントを生成する場合は、[変更を追跡] チェックボックスをオンにします。
- 10** 変更を保存します。

次の表では、統合イベント追跡の設定ページのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
表示名	ユーザーインターフェイスに表示されるフィールドの名前。
統合タグ	このフィールドが統合イベントに含まれているときに使用する統合タグ。
必須	この読み取り専用チェックボックスは、フィールドが必須フィールドとして設定されているかどうかを示します。

フィールド	説明
常に含む	<p>フィールドの値が変更されていない場合でもそのフィールドを統合イベントに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>注： [常に含む] チェックボックスはデフォルトでオンになっており、Oracle CRM On Demand が使用する特定のフィールドに対してオフにすることはできません。</p>
変更を追跡	<p>このフィールドが更新されるたびに統合イベントを生成する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>注： ワークフロールールに対するトリガーイベントが [レコードが削除される前]、[親との関連付けの後]、または [親との関連付け解除の後] の場合、[変更を追跡] チェックボックスは使用できません。</p> <p>また、ワークフロールールに対するトリガーイベントが [親との関連付けの後] または [親との関連付け解除の後] の場合、ページに表示されるフィールドセットは子レコードレベルのレコードセットになります。統合イベントに含まれているフィールドセットは親レコードレベルでも設定できません。</p>

統合イベントの詳細は、「[統合イベントについて](#)」『557ページ』を参照してください。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』

- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』
- [統合イベントについて](#) 『557ページ』

ワークフローアクションの作成：タスクの作成

ワークフロールールの「タスクを作成」アクションでは、ワークフロールールの条件が満たされた場合にタスクが自動的に作成されます。

注：1つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定について

「タスクを作成」アクションは「活動」レコードタイプに対して使用できるため、新しい活動レコードが保存されたり、既存の活動レコードが更新、削除、または復元されたときのフォローアップタスクを作成するためにワークフロールールを設定できます。活動レコード用に作成したフォローアップタスクは、「活動」レコードタイプに基づいた後続のワークフロールールをトリガーしません。詳細は、「[活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例](#) 『297ページ』」を参照してください。

親レコードにリンクされているタスク

ワークフロールールが、子タスクをサポートするレコードタイプに基づいている場合は、そのルールの「タスクを作成」アクションでタスクが作成されると、ワークフロールールをトリガーしたレコードが、新しい子タスクレコードの親レコードになります。さらに、ワークフロールールアクションで作成された活動は、次のように、他の親レコードに自動的にリンクされます。

- 「タスクを作成」アクションで商談レコードの活動が作成されると、ワークフローアクションによって、その活動が商談の親取引先および商談レコード自体に自動的にリンクされます。
- 「タスクを作成」アクションでサービスリクエストレコードの活動が作成されると、ワークフローアクションによって、その活動がサービスリクエストの親取引先と担当者、さらにサービスリクエストレコード自体に自動的にリンクされます。

ワークフロールールが、子タスクをサポートしていないレコードタイプに基づいている場合は、そのルールの「タスクを作成」アクションでタスクが作成されると、そのタスクはいずれの親レコードにもリンクされません。

次の手順では、「タスクを作成」アクションの作成方法について説明します。

注：「タスクを作成」アクションを成功させるために、ワークフローをトリガーするアクションを実行するユーザーには、タスクを作成するための適切なアクセス権限が必要です。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

「タスクを作成」アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
 - b 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。

c [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[タスクを作成] を選択します。

注: ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント: アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。

6 次の表で説明するフィールドに入力し、アクションを保存します。

注: タスクの [所有者] フィールドで [レコード上の関連ユーザー] オプションを選択し、レコードの所有者が無効なユーザーである場合、タスクは作成されません。

フィールド	説明
所有者	<p>タスクの所有者のタイプ（[レコード上の関連ユーザー] または [特定のユーザー]）を選択し、所有者を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [レコード上の関連ユーザー] を選択する場合は、リストからユーザーを選択します。 <p>チームの役割を所有者として選択した場合は、割り当てられたチームの役割を持つ各ユーザーに、ワークフロールールによりタスクが作成されます。</p> <p>注: 取引先、担当者および商談では、レコードタイプに追加されたカスタムチームの役割はどれも、[レコード上の電子メールアドレス] 所有者のリストで選択できます。レコードのカスタマイズの詳細は、「レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ 『61ページ』」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [特定のユーザー] を選択する場合は、[ルックアップ] アイコンをクリックし、タスクの所有者を選択します。 <p>注: レコード所有権モードが自動生成タスクの所有権に与える影響の詳細は、「レコード所有権モードおよび自動生成タスク 『224ページ』」を参照してください。</p>
タイプ	ドロップダウンリストから活動タイプを選択します。
締切日	<p>評価結果がタスクの締切日になる式を入力します。Expression Builder を使用して式を作成できます。フィールドの横にある [fx] アイコンをクリックすると、Expression Builder ウィンドウが開きます。式には、最大で 1024 文字を含めることができます。</p> <p>注: ワークフローアクションが正常に動作するようにするには、[締切日]</p>

フィールド	説明
	<p>フィールドに、評価結果が有効な日付になる式を入力する必要があります。[締切日] フィールドに式以外（日付や整数など）を入力しないでください。</p> <p>評価結果が現在の日付かそれ以前の日付になる式を入力すると、締切日はデフォルトで現在の日付になります。</p> <p>締切日は、最大で 2400 日後に設定できます。式の評価結果が 2400 日後よりも先の日付になる場合、締切日は 2400 日後に設定されます。たとえば、式に「Today()+3000」と入力した場合、結果は「Today()+2400」として計算されます。</p> <p>式の評価結果が無効な日付または他のデータ型（文字列、整数、ブールなど）になる場合、エラーが発生し、活動は作成されません。</p> <p>Expression Builder の [構文のチェック] ボタンを使用して、式の構文をテストできます。ただし、Expression Builder では、式の評価結果が有効な日付になるかどうかは検証されません。</p> <p>Oracle On Demand Expression Builder の使用方法については、「Expression Builder 『582ページ』」を参照してください。</p>
優先順位	ドロップダウンリストから活動の優先順位を選択します。
状態	ドロップダウンリストから活動状態を選択します。
タスク通貨	通貨を選択します。
個人	このタスクの所有者だけにタスクを表示する場合、このチェックボックスをオンにします。
主題	<p>タスクの主題行を入力します。</p> <p>テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。埋め込まれた関数またはフィールド名の前後にある 3 つのパーセント記号 (%%) は、これが文字列に変換されることを示しています。</p> <p>たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。</p> <p style="text-align: center;">%%[<ContactLastName>]%%の呼び出し</p> <p>関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。Expression Builder を使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合は、パーセント記号が自動的に追加されます。Expression Builder を使用して複雑な式を埋め込んだ場合は、パーセント記号が適切な位置に追加されないことがあります。その場合は、式全体の前後にパーセント記号が配置されて、式が正しく評価されるようにしてください。</p> <p>たとえば、%%Today() + 30%%では現在の日付に 30 日が追加されますが、%%Today() %%+ 30では現在の日付の文字列表現に 30 がつなぎ合わされます。</p> <p>Expression Builder を使用して機能とフィールド名をフィールドに埋め込むには、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックします。</p>

フィールド	説明
	<p>静的テキストのみ入力する場合、Expression Builderを使用する必要はありません。</p> <p>このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文字含めることができます。</p>
説明	<p>タスクの説明を入力します。</p> <p>[主題] フィールドで説明したように、関数とフィールド名をテキストに埋め込むことができます。</p> <p>このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文字含めることができます。</p>

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例

このトピックでは、活動レコードが作成されたときにフォローアップタスクを作成するようにワークフロールールを設定する場合の例を示します。この機能の使用方法はビジネスモデルによって異なります。

ユーザーが新しい活動を作成するたびにフォローアップタスクが自動的に作成されるようにします。フォローアップタスクは次のように設定します。

- タスクはコールです。
- フォローアップタスクの締切日は、元のタスクの作成日から **2** 日後です。

- フォローアップタスクの優先順位は、[1 - 高] に設定します。
- フォローアップタスクの所有者は、元の活動の所有者と同じです。

新しい活動のフォローアップタスクを作成するようにワークフローを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページのタイトルバーで、[新規] をクリックします。
- 4 [ワークフロールール詳細] ページの [キーワークフロールール詳細] セクションで、次のようにルール情報を入力します。
 - a [ワークフロー名] フィールドに、ワークフロールールの名前を入力します。
 - b [活動中] チェックボックスをオンにします。
 - c [レコードタイプ] フィールドで、[活動] を選択します。
 - d [トリガーイベント] フィールドで、[新規レコードが保存されたとき] を選択します。
- 5 ワークフロールールを保存します。
- 6 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで、[メニュー] をクリックし、[タスクを作成] を選択します。
- 7 [ワークフローアクション編集] ページで、次のようにアクション情報を入力します。
 - a [アクション名] フィールドに、アクションの名前を入力します。
 - b [有効] チェックボックスをオンにします。
 - c [所有者] フィールドで、[レコード上の電子メールアドレス]、[活動所有者] の順に選択します。
 - d [タイプ] フィールドで、[電話連絡] を選択します。
 - e [締切日] フィールドで、[fx] アイコンをクリックし、Expression Builder ウィンドウで [式] フィールドに次の式を入力し、式を保存します。
Today()+2
 - f [優先順位] フィールドで、[1 - 高] を選択します。
 - g [主題] フィールドに、タスクの主題行（「Follow-Up Call for New Activity」など）を入力します。
- 8 ワークフローアクションを保存します。

ワークフローアクションの作成：電子メールの送信

ワークフローの「メール送信」アクションでは、ワークフローの条件が満たされた場合に電子メールが自動的に送信されます。

注：1つのワークフローに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

ワークフローアクションで送信される電子メールの「差出人」アドレスについて

「メール送信」ワークフローアクションで送信する電子メールに「差出人」アドレスを指定するときは、次のいずれかのオプションを選択できます。

■ デフォルトの電子メールアドレス

このオプションを選択した場合、電子メールの「差出人」アドレスは、**donotreply@crmondemand.com** となり、電子メールの「送信者」フィールドは、**support@crmondemand.com** に設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答しようとすると、返信の「宛先」フィールドは自動的に **support@crmondemand.com** に設定されます。

注：Oracle CRM On Demand のリリース 20 からは、「メール送信」ワークフローアクションで送信する電子メールのデフォルトの「差出人」アドレスは、**donotreply@crmondemand.com** となります。リリース 20 より前の Oracle CRM On Demand でのデフォルトの「差出人」アドレスは、**support@crmondemand.com** でした。

■ 現在のユーザー

このオプションを選択した場合、電子メールは、ワークフローをトリガーするサインインユーザーに代わって送信されます。電子メールの「差出人」アドレスは、**donotreply@crmondemand.com** となり、電子メールの「送信者」フィールドは、ユーザーの電子メールアドレスに設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答すると、返信の「宛先」フィールドにあるアドレスは、ワークフローをトリガーするサインインユーザーの電子メールアドレスに自動的に設定されます。

■ 特定の電子メールアドレス

このオプションを選択した場合、電子メールは、ワークフローアクションで指定した電子メールアドレスに代わって送信されます。電子メールの「差出人」アドレスは、**donotreply@crmondemand.com** となり、電子メールの「送信者」フィールドは、指定した電子メールアドレスに設定されます。電子メール受信者が電子メールに回答すると、返信の「宛先」フィールドにあるアドレスは、ワークフローアクションで指定した特定の電子メールアドレスに自動的に設定されます。

注：各ワークフロー電子メールには、Oracle CRM On Demand によって文字列が追加されるため、Oracle では、その電子メールを電子メール配信システムで追跡できます。

次の手順では、「メール送信」アクションの作成方法について説明します。

注：Oracle CRM On Demand のワークフロー機能は、電子メールを一括して送信するためのツールとして使用することを意図していません。多数の電子メールを顧客に送信する必要がある場合は、Oracle CRM On Demand Marketing などの製品を使用することをお勧めします。

作業前の準備。次の手順を実行するには、「ワークフローの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#)『207ページ』」を参照してください。

「メール送信」アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。

- a** 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- b** 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
- c** 「ワークフロールールリスト」ページで、アクションを作成するルールを見つけます。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

2 ルールの「ワークフロー名」リンクをクリックします。

3 「ワークフロールール詳細」ページの「アクション」タイトルバーで「メニュー」をクリックし、「メール送信」を選択します。

注: ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント: アクションの「コピー」リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 「ワークフローアクション編集」ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、「有効」チェックボックスをオンにします。

6 「差出人」フィールドで、次のように、電子メールの送信元のアドレスを選択または入力します。

- 電子メールをデフォルトのアドレスから送信するには、「デフォルトの電子メールアドレス」オプションを選択します。
- ワークフローをトリガーするサインインユーザーの代わって電子メールを送信するには、「現在のユーザー」オプションを選択します。
- 特定のアドレスに代わって電子メールを送信するには、「特定の電子メールアドレス」オプションを選択します。
アドレスを入力するときは、次の制限が適用されます。
 - 電子メールアドレスは、直接入力するか、フィールドの横の「fx」アイコンをクリックし、Expression Builder を使用して電子メールアドレスを定義できます。
 - 電子メールアドレスを 1 つのみ指定します。「差出人」フィールドでは、複数のアドレスはサポートされません。
 - 絶対電子メールアドレスを指定する場合は、一重引用符または二重引用符でアドレスを囲む必要があります。
 - Expression Builder でチェックされるのは、アドレスの式の構文のみです。アドレスが有効かどうかはチェックされません。
 - このフィールドには、1024 文字まで入力できます。

7 「宛先」フィールドで、次のようにして電子メール受信者の電子メールアドレスを選択または入力します。

- 「特定のユーザー」または「レコード上の関連ユーザー」を選択し、次のようにして受信者を選択します。
 - 「特定のユーザー」を選択する場合は、「ルックアップ」アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。
 - 「レコード上の関連ユーザー」を選択する場合は、リストから受信者を選択します。

チームの役割を受信者として選択した場合は、割り当てられたチームの役割を持つ各ユーザーにワークフロールールからメールが送信されます。

注:取引先、担当者および商談では、レコードタイプに追加されたカスタムの役割はどれも、[レコード上の電子メールアドレス] 受信者のリストで選択できます。レコードのカスタマイズの詳細は、「[レコードタイプ別の \[アプリケーションカスタマイズ\] ページ『61ページ』](#)」を参照してください。

- [特定の電子メールアドレス] オプションを選択し、アドレスを指定します。

アドレスを入力するときは、次の制限が適用されます。

- 電子メールアドレスは、直接入力するか、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を使用して電子メールアドレスを定義できます。
- 複数のアドレスを入力するには、セミコロン (;) 区切りを使用します。
- 絶対電子メールアドレスは、一重または二重引用符で囲む必要があります。
- Expression Builder でチェックされるのは、アドレスの式の構文のみです。アドレスが有効かどうかはチェックされません。
- このフィールドには、1024 文字まで入力できます。

次の例に、複数アドレスのエントリを示します。

```
PRE('<EmailField1>') + ";" + [<EmailField1>] + ";" + "john.doe@company.com"
```

8 電子メールの件名行を入力します。

テキストには、関数とフィールド名を埋め込むことができます。埋め込まれた関数またはフィールド名の前後にある 3 つのパーセント記号 (%%%) は、テキスト値に変換されることを示しています。

たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。

新しい%%[%<AccountType>]%%取引先が作成されました

関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。Expression Builder を使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合は、パーセント記号が自動的に追加されます。Expression Builder を使用して複雑な式を埋め込んだ場合は、パーセント記号が適切な位置に追加されないことがあります。その場合は、式全体の前後にパーセント記号が配置されて、式が正しく評価されるようにしてください。

たとえば、%%Today() + 30%%では現在の日付に 30 日が追加されますが、%%Today() %%+ 30 では現在の日付の文字列表現に 30 がつなぎ合わされます。

Expression Builder を使用して機能とフィールド名をフィールドに埋め込むには、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックします。静的テキストのみ入力する場合、Expression Builder を使用する必要はありません。

このフィールドには、関数とフィールド名の前後のパーセント記号を含め、最大 1024 文字含めることができます。

9 電子メールのメッセージを入力します。

手順 3 で説明したように、関数とフィールド名をテキストに埋め込むことができます。

たとえば、テキストには次の内容を含めることができます。

%%[%<ContactLastName>]%%様

このフィールドには、式の前後のパーセント記号を含め、最大 2000 文字含めることができます。

10 アクションを保存します。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフローアクションの作成：値の更新

ワークフロールールの「値を更新」アクションでは、レコードの変更時に、元の変更に関する情報（レコードの変更日時、変更したユーザー、変更内容）を保持したまま自動的にフィールドが更新されます。このアクションは、ワークフロールールの「値を更新」アクションより前にある 1 つ以上の「待機」アクションに定義されている待機期間（ある場合）の終了時に実行されます。

ワークフロールールに対するトリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」でないかぎり、ワークフロールールでは、有効な「待機」アクションが「値を更新」アクションより前に少なくとも 1 つ存在している必要があります。トリガーイベントが「更新されたレコードが保存される前に」のワークフロールールを除いて、Oracle CRM On Demand を使用して「値を更新」アクションを有効化できるのは、そのアクションの前に有効な「待機」アクションがある場合のみです。

注：1 つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、「値を更新」アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、「ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

[値を更新] アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
 - b 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。

- c [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

- 2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

- 3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[値を更新] を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント：アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

- 4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。

- 5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。

- 6 次の表で説明するフィールドに入力し、アクションを保存します。

フィールド	説明
フィールド名	ドロップダウンリストから更新するフィールド名を選択します。
値	<p>フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、フィールドの新しい値を計算する式を定義します。Expression Builder の [構文のチェック] ボタンで構文をテストできます。</p> <p>このフィールドには、1024 文字まで入力できます。</p> <p>[マージン] が [売上] から [費用] を引いた値と等しいカスタムの [マージン] フィールドなど、フィールドの計算式を定義する場合は、[売上] フィールドや [費用] フィールドの値が変更されていなくても、ワークフロールールがトリガーされるたびにフィールドの値が計算されます。パフォーマンスを向上させるには、ワークフロールールに次のような追加条件を定義します。</p> <p>FieldValue('売上') <> PRE('売上') OR FieldValue('費用') <> PRE('費用')</p> <p>PRE 関数は、更新前のフィールドの値を返します。</p>
既存値を上書き	<p>フィールドの既存値を新しい値で置き換える場合、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしないかぎり、フィールドの既存値は更新されません。</p> <p>フィールドが空の場合は、このチェックボックスがオフの場合でもフィールドは新しい値で更新されます。</p>

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』

- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフローアクションの作成：待機

ワークフロールールの「待機」アクションでは、期間が経過するか、特定の日時に達するまで、ワークフロールールの他の（次の）アクションの実行を遅延できます。

「待機」アクションおよび「統合イベントの作成」アクションについて

「統合イベントの作成」アクションを使用して、ワークフロールールをトリガーするイベントによってレコードに加えられた変更を取得する統合イベントを作成する場合は、ワークフロールールのアクションの順序として、「待機」アクションの前に「統合イベントの作成」アクションを設定する必要があります。ワークフロールールで「統合イベントの作成」アクションの前に「待機」アクションを実行すると、「統合イベントの作成」アクションでレコードに対する変更が検出されなくなります。「待機」アクションの待機期間が終了すると、ルールの残りのアクションが実行される前にレコードが再び読み取られ、ワークフロールールをトリガーしたイベントの前にレコードに記録されたフィールド値は保持されません。したがって、フィールドの以前の値と現在の値は同一と見なされ、「統合イベントの作成」アクションによって統合イベントは作成されません。これは、追跡対象のフィールドの変更が検出されないためです。

注：1つのワークフロールールに対して、最大 25 個のアクションを作成できます。

次の手順では、「待機」アクションの作成方法について説明します。

作業前の準備。次の手順を実行するには、「ワークフロールールの管理」権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。役割への権限の追加については、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。

「待機」アクションを作成するには

- 1 アクションを作成するルールに移動します。
 - a 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。

b [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。

c [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを作成するルールを見つけます。

リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

2 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

3 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [メニュー] をクリックし、[待機] を選択します。

注：ワークフロールール上のトリガーイベントにより、そのルールで作成できるアクションのタイプが決まります。

ヒント：アクションの [コピー] リンクをクリックすると、既存のワークフロールールアクションのコピーを作成できます。

4 [ワークフローアクション編集] ページで、アクションの名前を入力します。

5 アクションを有効にするには、[有効] チェックボックスをオンにします。

6 待機期間の終了後に **Oracle CRM On Demand** でルール条件を再評価しない場合は、[待機後のルール条件を再評価します] チェックボックスをオフにします。

注：[待機後のルール条件を再評価します] チェックボックスの詳細は、「[時間ベースのワークフロールールについて『282ページ』](#)」を参照してください。

7 次のいずれかのオプションを使用して、待機の期間を指定します。

■ [期間] オプションを選択し、遅延する期間を年、月、日、時間および分で次のように入力します。

■ [年] フィールドに、**0** から **5** の正の整数値を入力します。

■ [月] フィールドに、**0** から **12** の正の整数値を入力します。

■ [日] フィールドに、**0** から **200** の正の整数値を入力します。

■ [時間] フィールドに、**0** から **200** の正の整数値を入力します。

■ [分] フィールドに、**0** から **59** の正の整数値を入力します。

負の値または **1.5** のような整数以外の値は指定できません。

■ [期間式] オプションを選択し、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、[式ビルダー] を使用して遅延期間を計算する式を作成します。

[式ビルダー] の **Duration** 関数を使用して、日数または日数の割合で期間を計算します。詳細は、「[期間『597ページ』](#)」を参照してください。

式は数値に評価される必要があります。次に、遅延の期間を計算する有効な式の例を示します。

`Duration('P0YT1H') + Duration('P0YT1M') + Duration('P1Y')`

`Duration('P0YT1H') + 1`

`Duration('P1YT1H') - 1`

サポートされる最大の期間は 'P5Y12M200DT200H59M' (5 年 12 か月 200 日 200 時間 59 分) です。

注：計算された待機期間が負の場合、待機期間はゼロに設定され、[待機] アクションが即座に終了します。ワークフロールールの残りのアクションは遅延なしで実行されます。

- [時間] オプションを選択し、カレンダーアイコンをクリックして、遅延の終了日時を選択します。
個人設定で指定されているタイムゾーンに従って時間を選択します。
- [時間式] オプションを選択し、フィールドの横の [fx] アイコンをクリックし、[式ビルダー] を使用して遅延の終了日時を計算する式を作成します。

[式ビルダー] の **Duration** 関数を使用して、日数または日数の割合で期間を計算します。詳細は、「[期間『597ページ』](#)」を参照してください。

式は日時に評価される必要があります。次に、遅延の終了日時を計算する有効な式の例を示します。

Timestamp() + Duration('P0YT5M')

Today() + Duration('P0YT1H5M')

注： 計算された終了日時をすでに経過している場合、アクションの待機期間は **0**（ゼロ）に設定され、[待機] アクションが即座に終了します。ワークフロールールに残りのアクションは遅延なしで実行されます。

式が有効な日時に評価されない場合は、[待機] アクションが即座に終了し、ワークフロールールに残りのアクションは遅延なしで実行されます。

トリガー日時の後に式の評価が **5 年 12 か月 200 日 200 時間 59 分**（サポートされる最大の待機期間）を超える場合、終了日時は、トリガー日時にサポートされる最大待機期間を加算した値として計算されます。

8 アクションを保存します。

他のタイプのワークフローアクションの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て『289ページ』](#)
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成『291ページ』](#)
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成『294ページ』](#)
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信『299ページ』](#)
- [ワークフローアクションの作成：値の更新『302ページ』](#)

関連トピック

ワークフローの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて『273ページ』](#)
- [ワークフローアクションについて『280ページ』](#)
- [時間ベースのワークフロールールについて『282ページ』](#)
- [ワークフロールールの作成『284ページ』](#)
- [ワークフロールールアクションの順序の変更『307ページ』](#)
- [ワークフロールールとアクションの無効化『309ページ』](#)
- [ワークフロールールとアクションの削除『310ページ』](#)

ワークフロールールアクションの順序の変更

ワークフロールールに複数のアクションを指定した場合、アクション 1 から指定の順序でアクションが実行されます。アクションが完了するまで、次のアクションは実行されません。ルールのアクションの順序は変更できます。

ワークフロールールアクションの順序を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページで、アクションの順序を変更するルールを検索します。
リストページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。
- 5 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] タイトルバーで [順序を編集] ボタンをクリックします。
- 6 [アクション順序を編集] ページで、矢印ボタンを使用してアクションの順序を変更します。
注：ルールに [値を更新] アクションがある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが [更新されたレコードが保存される前に] でないかぎり、そのアクションより前に有効な [待機] アクションが少なくとも 1 つ存在している必要があります。
- 7 [保存] をクリックして変更を保存します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフローアクションの作成：ブックの割り当て](#) 『289ページ』
- [ワークフローアクションの作成：統合イベントの作成](#) 『291ページ』
- [ワークフローアクションの作成：タスクの作成](#) 『294ページ』
- [ワークフローアクションの作成：電子メールの送信](#) 『299ページ』
- [ワークフローアクションの作成：値の更新](#) 『302ページ』
- [ワークフローアクションの作成：待機](#) 『304ページ』

ワークフロー規則の順序の変更

ワークフロー規則を作成すると、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプと同じトリガーイベントに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。ワークフロー規則に対するトリガーイベントが「親との関連付けの後」または「親との関連付け解除の後」の場合は、Oracle CRM On Demand により、同じレコードタイプ、同じトリガーイベント、および同じ親レコードタイプに基づいたルールに対して未使用の次の順序番号が自動的に割り当てられます。順序番号により、同じレコードタイプと同じトリガーイベント（および該当する場合は同じ親レコードタイプ）に基づいた一連のワークフロー規則を Oracle CRM On Demand が呼び出す順序が決まります。ルールの順序は変更できます。

たとえば、「取引先」レコードタイプと「レコードが削除される前」というトリガーイベントに基づいてワークフロー規則を作成するときに、2つのワークフロー規則に同じレコードタイプとトリガーイベントがすでに指定されている場合、新しいルールにはオーダー番号 3 が割り当てられます。新しいルールが指定されたレコードタイプとトリガーイベントで最初に呼び出されるルールになるように、後でオーダー番号を変更できます。

次の手順では、ワークフロー規則の順序を変更する方法について説明します。

ワークフロー規則の順序を変更するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「ワークフロー設定」をクリックします。
- 3 「ワークフロー規則リスト」ページで、順序を変更するルールを検索し、ルール名のリンクをクリックします。
リストページでワークフロー規則を検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 「ワークフロー規則詳細」ページで、「順序を編集」をクリックします。
- 5 「ワークフロー順序を編集」ページで、矢印をクリックしてルールの順序を変更します。
- 6 「保存」をクリックして変更を保存します。

注:ワークフロー規則を削除すると、同じレコードタイプとトリガーイベントに基づいている他のルールは自動的に再編成されます。ただし、ワークフロー規則を非アクティブにすると、同じレコードタイプとトリガーイベントに基づいたルールリスト内の順序は変更されませんが、非アクティブになったルールは呼び出されません。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー規則について](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロー規則について](#) 『282ページ』
- [ワークフロー規則の作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロー規則アクションの順序の変更](#) 『307ページ』

ワークフロールールとアクションの無効化

ルールの〔待機〕アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールを非アクティブにした場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

〔待機〕アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールの〔待機〕アクションを非アクティブにした場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

次の手順では、ワークフロールールを非アクティブにする方法について説明します。

ワークフロールールを非アクティブにするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔ワークフロー設定〕をクリックします。
- 3 〔ワークフロールールリスト〕ページで、非アクティブにするルールを見つけます。
〔リスト〕ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールのレコードレベルメニューで、〔編集〕を選択します。
- 5 〔ワークフロールール詳細〕ページで、〔有効〕チェックボックスをオフにします。
- 6 変更を保存します。

次の手順では、ワークフロールールアクションを非アクティブにする方法について説明します。

ワークフロールールアクションを非アクティブにするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔ビジネスプロセス管理〕セクションで、〔ワークフロー設定〕をクリックします。
- 3 〔ワークフロールールリスト〕ページで、アクションを削除するルールを見つけます。
〔リスト〕ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。
- 4 ルールの〔ワークフロー名〕リンクをクリックします。
- 5 〔ワークフロールール詳細〕ページの〔アクション〕セクションで、削除するアクションを見つけます。
- 6 アクションのレコードレベルメニューで、〔編集〕を選択します。
- 7 〔ワークフローアクション編集〕ページで、〔有効〕チェックボックスをオフにします。

注：ルールに〔値を更新〕アクションがある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが〔更新されたレコードが保存される前に〕でないかぎり、そのアクションより前に有効な〔待機〕アクションが少なくとも1つ存

在している必要があります。**Oracle CRM On Demand** では、[待機] アクションを非アクティブにしようとしたときに、[値を更新] アクションより前に別の [待機] アクションがない場合は、その [待機] アクションを非アクティブにできません。

8 変更を保存します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールの順序の変更](#) 『308ページ』
- [ワークフロールールとアクションの削除](#) 『310ページ』

ワークフロールールとアクションの削除

ワークフロールールを削除すると、ルールのすべてのアクションも削除されます。また、関連するレコードタイプに対する残りのルールの順序番号が必要に応じて自動的に更新され、番号のシーケンスにギャップがなくなります。

ルールの [待機] アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールを削除した場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

ワークフロールールからアクションを削除すると、ルールの残りのアクションの順序番号が必要に応じて自動的に更新され、番号のシーケンスにギャップがなくなります。

[待機] アクションのインスタンスが保留状態のときにワークフロールールから [待機] アクションを削除した場合に、アクションのインスタンスで待機期間が終了すると、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されず、レコードタイプに対する一連のルールの後続のワークフロールールはいずれもトリガーされません。

次の手順では、ワークフロールールを削除する方法について説明します。

ワークフロールールを削除するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。
- 3 [ワークフロールールリスト] ページで、削除するルールを見つけます。
[リスト] ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

4 ルールのレコードレベルメニューで、[削除] を選択します。

5 ルールを削除することを確認します。

次の手順では、ワークフロールールアクションを削除する方法について説明します。

ワークフロールールアクションを削除するには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフロー設定] をクリックします。

3 [ワークフロールールリスト] ページで、アクションを削除するルールを見つけます。

[リスト] ページでワークフロールールを検索する方法については、「リストのフィルター処理」を参照してください。

4 ルールの [ワークフロー名] リンクをクリックします。

5 [ワークフロールール詳細] ページの [アクション] セクションで、削除するアクションを見つけます。

6 アクションのレコードレベルメニューで、[削除] を選択します。

注： [値を更新] アクションがルールにある場合は、ワークフロールールに対するトリガーイベントが [更新されたレコードが保存される前に] でないかぎり、そのアクションより前に有効な [待機] アクションが少なくとも 1 つ存在する必要があります。Oracle CRM On Demand では、[待機] アクションを削除しようとしたときに、[値を更新] アクションより前に別の [待機] アクションがない場合は、その [待機] アクションを削除できません。

7 アクションを削除することを確認します。

関連トピック

関連するワークフロー情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロールールについて](#) 『273ページ』
- [ワークフローアクションについて](#) 『280ページ』
- [時間ベースのワークフロールールについて](#) 『282ページ』
- [ワークフロールールの作成](#) 『284ページ』
- [ワークフロールールアクションの順序の変更](#) 『307ページ』
- [ワークフロールールの順序の変更](#) 『308ページ』
- [ワークフロールールとアクションの無効化](#) 『309ページ』

ワークフローモニター

[ワークフローモニター] を使用して、保留状態のワークフロー [待機] アクションのインスタンス、および [待機] アクションの待機期間の終了後に予期せず終了したワークフローのインスタンスを表示できます。

「ワークフローモニター」ページには、2つのリストが表示されます。

- 保留インスタンスのリスト
- エラーインスタンスのリスト

保留インスタンス

「ワークフローモニター」から、保留インスタンスの詳細とワークフローアクションの詳細を表示できます。たとえば、ワークフロー「待機」アクションのインスタンスが予想よりも長時間保留状態になっている場合は、「ワークフローモニター」を使用してインスタンスを調査し、ワークフローアクションの設定を参照して、必要に応じてインスタンスを削除できます。

注:「待機」アクションの保留インスタンスを削除した場合、ワークフロールールに残りのアクションはいずれも実行されません。

たとえば、次のアクションシーケンスでワークフロールールを設定できます。

- 1 24 時間の期間の「待機」アクション
- 2 「メール送信」アクション
- 3 48 時間の期間の「待機」アクション
- 4 「メール送信」アクション
- 5 「タスクを作成」アクション

アクションが正しく設定されている場合は、シーケンス中の最初の「待機」アクション（アクション 1）が 24 時間「保留中」状態のままになります。待機期間が終了すると、「メール送信」アクション（アクション 2）が実行されます。2 つ目の「待機」アクション（ワークフロールールアクション 3）はシーケンス中の次のアクションです。これは 48 時間「保留中」状態のままになります。待機期間が終了すると、「メール送信」アクション（アクション 4）と「タスクを作成」アクション（アクション 5）が実行されます。

ただし、アクション 3 の待機アクションが間違って 48 時間ではなく 48 日と指定されていた場合、アクションは 48 日が経過するまで保留状態のままになります。「ワークフローモニター」の保留中リストでアクションを参照し、アクション詳細を表示して、待機期間が間違っているかどうかを確認できます。その後、「待機」アクションインスタンスを削除できます。

「待機」アクションインスタンスを削除すると、ワークフロールールインスタンスが終了し、ルールインスタンスの残りのアクションは実行されません。前の例では、次のようになります。

- アクション 1 が保留中に削除された場合、アクション 2、3、4 および 5 は実行されません。
- アクション 3 が保留中に削除された場合、アクション 4 および 5 は実行されません。

注: 待機アクションは、「保留中」状態になる唯一のタイプのワークフローアクションです。

エラーインスタンス

「ワークフローモニター」を使用して、失敗したワークフローインスタンスの詳細を表示することもできます。ワークフローアクションの失敗したインスタンスは、ワークフロールール「待機」アクションの待機期間の終了後にアクションが失敗した場合にのみ、「ワークフローモニター」に記録されます。

他のすべての場合、ワークフローインスタンスの失敗時には、その失敗が、ワークフロールールをトリガーするアクションを実行したユーザーに即座にレポートされます。失敗は、画面上のエラーメッセージまたはログファイルでレポートされます。

Web サービスによってトリガーされたワークフロールールが失敗したアクションに関するエラーメッセージは、その Web サービスへの応答でレポートされます。

たとえば、次のアクションシーケンスでワークフロールールを設定できます。

- 1 [メール送信] アクション
- 2 [タスクを作成] アクション
- 3 [待機] アクション
- 4 [メール送信] アクション

アクション 1 またはアクション 2 がエラーにより終了した場合は、画面上またはログファイル内のエラーメッセージでエラーがレポートされます。待機期間の開始前にアクション 3 が失敗した場合も、エラーは画面上またはログファイル内のエラーメッセージでレポートされます。待機期間の終了後にアクション 3 が失敗した場合、またはアクション 4 が失敗した場合は、アクションのエラーが [ワークフローモニター] に記録されます。ワークフロールールが Web サービスによってトリガーされた場合は、エラーメッセージがログファイルにも書き込まれますが、ワークフロールールがユーザーアクションによってトリガーされた場合、メッセージは画面に表示されません。

[待機] アクションの待機期間の終了後に失敗したワークフローアクションインスタンスの詳細は、3 か月が経過するか削除するまで（どちらか早い方）、[ワークフローモニター] のエラーインスタンスリストに保持されます。終了したインスタンスの詳細およびワークフローアクションの詳細を表示できます。

[ワークフローモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローインスタンスの表示](#) 『313ページ』
- [ワークフローモニターからのインスタンスの削除](#) 『315ページ』
- [ワークフローインスタンスのフィールド](#) 『316ページ』

関連トピック

ワークフロールールに関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) 『272ページ』

ワークフローインスタンスの表示

[ワークフローモニター] を使用して、保留状態のワークフロー [待機] アクションのインスタンスを表示できます。また、必要に応じて保留中のアクションを削除して、ワークフロールールインスタンスを終了できます。

[待機] アクションの待機期間の終了後に予期せず終了したワークフローアクションのインスタンスに関する情報も表示できます。[ワークフローモニター] に記録および表示される内容については、「[ワークフローモニター](#) 『311ページ』」および「[ワークフローインスタンスのフィールド](#) 『316ページ』」を参照してください。

作業前の準備： [ワークフローモニター] を使用するには、[データルール管理 - ワークフロールール管理] 権限が必要です。

次の手順では、保留中またはエラー状態のワークフローインスタンスの表示方法について説明します。

保留中またはエラー状態のワークフローインスタンスを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[ワークフローモニター] をクリックします。
- 3 [ワークフローモニター] ページで、表示するインスタンスが [保留インスタンス] リストまたは [エラーインスタンス] リストに表示されていない場合は、適切なリストで [すべてを表示] をクリックします。
- 4 [保留インスタンスリスト] ページまたは [エラーインスタンスリスト] ページで、次のようにリストをフィルターして目的のインスタンスを探します。
 - a [アルファ] バーの 1 文字をクリックして、ワークフロー名がその文字で始まるワークフローインスタンスのみを表示します。
 - b テキストフィールドに文字を入力し、[ジャンプ] をクリックして、ワークフロー名がそれらの文字で始まるワークフローインスタンスを探します。
 - c カラム見出しをクリックして、そのカラムの値に基づいてレコードを並べ替えます。カラム見出しの横にある矢印は、並べ替えの基準になっているカラムと、昇順と降順のどちらで並べ替えられているかを示します。デフォルトでは、左端のカラムを検索キーとして使用してレコードが検索されます。
- 5 インスタンスの詳細を表示するには、[インスタンス ID] リンクをクリックします。
- 6 レコードがインスタンスであるワークフローアクションの詳細を表示するには、[ワークフローアクション] リンクをクリックします。

保留中のワークフローインスタンスのリストの作成

定義するフィルターに基づいて、保留中のワークフローインスタンスのリストを作成できます。

注： エラーインスタンス（エラーにより予期せず終了したインスタンス）をフィルター処理したリストは作成できません。

次の手順では、定義するフィルターに基づいて保留中のワークフローインスタンスのリストを作成する方法について説明します。

保留中のワークフローインスタンスのフィルター処理したリストを作成するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。

リストの作成と編集の詳細は、「リストの作成と編集」を参照してください。

次の手順では、保留中のワークフローインスタンスのフィルター処理したリストを管理する方法について説明します。

保留中のワークフローインスタンスのリストを管理するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] ページを選択します。

リストの管理の詳細は、「[リスト管理] ページ」を参照してください。

次の手順では、保留中のワークフローインスタンスのリストに対するフィルターを表示する方法について説明します。

保留中のワークフローインスタンスのリストに対するフィルターの詳細を表示するには

- [保留インスタンスリスト] ページで、タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。

リストフィルターの詳細は、「[リストを表示] ページ」を参照してください。

[ワークフローモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローモニター](#) 『311ページ』
- [ワークフローモニターからのインスタンスの削除](#) 『315ページ』
- [ワークフローインスタンスのフィールド](#) 『316ページ』

関連トピック

ワークフロールールに関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) 『272ページ』

ワークフローモニターからのインスタンスの削除

[ワークフローモニター] から、ワークフローアクションのインスタンスを一度に 1 つずつ削除できます。インスタンスのフィルター処理したリストを作成し、一括削除機能を使用して、複数の保留インスタンスを同時に削除することもできます。一括削除機能は、エラーインスタンスには使用できません。

ワークフローエラーインスタンスは、3 か月間または削除するまで（どちらか早い方）、[ワークフローモニター] のエラーインスタンスリストに保持されます。

[ワークフローモニター] に記録および表示される内容については、「[ワークフローモニター](#) 『311ページ』」および「[ワークフローインスタンスのフィールド](#) 『316ページ』」を参照してください。

注： [ワークフローモニター] から [待機] アクションの保留インスタンスを削除すると、ワークフロールールインスタンスが終了し、ワークフロールールの残りのアクションはいずれも実行されません。

作業前の準備： [ワークフローモニター] を使用するには、[データルールの管理 - ワークフロールールの管理] 権限が必要です。

次の手順では、[ワークフローモニター] からインスタンスを削除する方法について説明します。

[ワークフローモニター] からインスタンスを削除するには

- 1 [ワークフローモニター] ページで、表示するインスタンスが [エラーインスタンス] リストまたは [保留インスタンス] に表示されていない場合は、適切なリストで [すべてを表示] をクリックします。
- 2 [エラーインスタンスリスト] ページまたは [保留インスタンスリスト] ページで、次のようにリストをフィルターして目的のインスタンスを探します。
 - a [アルファ] バーの 1 文字をクリックして、ワークフロー名がその文字で始まるワークフローインスタンスのみを表示します。

- b** テキストフィールドに文字を入力し、[ジャンプ] をクリックして、ワークフロー名がそれらの文字で始まるワークフローインスタンスを探します。
- c** カラム見出しをクリックして、そのカラムの値に基づいてレコードを並べ替えます。カラム見出しの横にある矢印は、並べ替えの基準になっているカラムと、昇順と降順のどちらで並べ替えられているかを示します。デフォルトでは、左端のカラムを検索キーとして使用してレコードが検索されます。

3 削除するインスタンスに対して [削除] をクリックします。

次の手順では、[ワークフローモニター] から保留インスタンスのリストを削除する方法について説明します。

保留インスタンスのリストを削除するには

1 まだ作成していない場合は、削除する保留インスタンスのリストを作成します。

詳細は、「保留およびエラーワークフローインスタンスの表示」を参照してください。

2 [保留インスタンスリスト] ページで、[メニュー] をクリックし、[一括削除] を選択します。

3 [OK] をクリックして、処理の続行を確認します。

4 [一括削除キュー] ページで、[アクティブなリクエスト] セクションの [続行] をクリックします。

注： [続行] をクリックしない場合、レコードは削除されません。

ヒント： [管理] グローバルリンクをクリックし、[管理ホームページ] で [一括削除キュー] をクリックすることにより、いつでも [一括削除キュー] ページに戻ることができます。

5 削除操作のログファイルを確認するには、[一括削除キュー] ページで [処理済みリクエスト] セクションの [ログ] をクリックします。

[ワークフローモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローモニター](#) 『311ページ』
- [ワークフローインスタンスの表示](#) 『313ページ』
- [ワークフローインスタンスのフィールド](#) 『316ページ』

関連トピック

ワークフロールールに関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) 『272ページ』

ワークフローインスタンスのフィールド

次の表では、[ワークフローモニター] で保留中またはエラー状態のワークフローインスタンスに対して表示できるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
-------	----

フィールド	説明
インスタンス ID	このワークフローインスタンスに対して Oracle CRM On Demand が生成する ID。
ワークフロー名	ワークフローアクションが設定されているワークフロールールの名前。
レコードタイプ	ワークフロールールのレコードタイプ。
トリガーイベント	ワークフロールールをトリガーするイベント。
ワークフローアクション	これがインスタンスであるワークフローアクションの名前。
エラーメッセージ	エラー状態のワークフローインスタンスでは、このフィールドはワークフローアクションのこのインスタンスが終了した理由を示します。
開始者	ワークフロールールのこのインスタンスをトリガーしたアクションを実行したユーザーの名前。
開始日時	ワークフロールールのこのインスタンスがトリガーされた日時。
再開日時	保留状態のワークフローインスタンスでは、このフィールドはワークフローアクションのこのインスタンスの待機期間が終了する日時を示します。
終了日時	エラー状態のワークフローインスタンスでは、このフィールドはワークフローアクションのこのインスタンスが終了した日時を示します。

[ワークフローモニター] の使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [ワークフローモニター](#) 『311ページ』
- [ワークフローインスタンスの表示](#) 『313ページ』
- [ワークフローモニターからのインスタンスの削除](#) 『315ページ』

関連トピック

ワークフロールールの関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [ワークフロー設定](#) 『272ページ』

データルールおよび割当

割当ルール（レコードの自動割当）、売上予想定義、見込み客変換レイアウトおよびマッピング、セールス方法、および業種の設定に関する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [割当ルールの設定](#) 『322ページ』

- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) 『329ページ』
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) 『329ページ』
- [売上予想定義の設定](#) 『332ページ』
- [売上予想定義の更新](#) 『338ページ』
- [セールスプロセス、カテゴリ、およびコーチの設定](#) 『339ページ』
- [企業の業種リストのカスタマイズ](#) 『346ページ』

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [割当ルールについて](#) 『318ページ』
- [見込み客変換の管理](#) 『327ページ』

割当ルールについて

作業前の準備。 割当ルールを設定するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

割当ルールでは、「ルールグループ」と呼ばれるルールを設定し、これに基づいて、見込み客、商談、サービスリクエスト、または取引先を、適切なユーザー、チーム、およびテリトリーに自動的に割り当てることができます。

企業でグループ割当オプションを選択している場合は、すべてのグループメンバーが、そのグループのメンバーに割り当てたレコードを共有します。詳細は、「[グループの管理](#) 『253ページ』」を参照してください。

企業の構造とビジネスプロセスによって、割当ルールを単純にすることができます。次に例を示します。

- 各地域のセールス見込み客を、地域セールスマネージャに割り当てます。
- 新しいサービスリクエストを、テクニカルサービスマネージャに割り当てます。

ルールは、より複雑にすることもできます。次に例を示します。

- 見込み客の大部分を製品担当と地域によって割り当て、一部をテレマーケティングマネージャに割り当てます。
- サービスリクエストの大部分を問題エリアによって割り当て、特定の製品に関するすべてのリクエストを 1 人のユーザーに転送します。

次の表では、レコードタイプの割り当て方法について説明します。

レコードタイプ	割り当てオプション
取引先	従業員またはテリトリーにレコードを割り当てることができます。また、新しく割り当てられた取引先の所有権を共有するチームを指定できます。
見込み客	従業員にレコードを割り当てることができます。
商談	従業員またはテリトリーにレコードを割り当てることができます。また、新しく割り当てられた商談の所有権を共有するチームを指定できます。
サービスリクエスト	従業員にレコードを割り当てることができます。

有効なルールグループの割当ルールは、レコードタイプに関して次のことが該当する場合に評価されます。

- 見込み客：[所有者を再割当] チェックボックスがオンの場合
- サービスリクエスト：
 - サービスリクエストが所有者なしで作成されたか、レコードから所有者が削除された場合（[所有者] フィールドが空白の状態）
 - [所有者を再割当] チェックボックスがオンになっている場合
- 取引先：[所有者を再割当] チェックボックスがオンになっている場合
- 商談：[所有者を再割当] チェックボックスがオンになっている場合

電子メール通知

見込み客またはサービスリクエストに所有者を割り当てると、新しい所有者に電子メールが送信されます。電子メールに使用されるテンプレートは、新しい所有者の[個人詳細] ページで選択した言語によって決まります。たとえば、ユーザーが通知の電子メールをスペイン語で受信したい場合は、ユーザーの[個人詳細] ページの[言語] フィールドでスペイン語を選択する必要があります。ルールベースでサービスリクエストの電子メール通知をオフにするには、[サービスリクエスト割当ルールの編集] ページの[電子メール通知を送信] チェックボックス（フラグ）をオフにします。割当ルールの更新の詳細は、「[割当ルールの設定](#) 『322ページ』」を参照してください。

電子メール通知では、[差出人] アドレスは常に donotreply@crmondemand.com で、[送信者] フィールドは、割当ルールグループの[返信先電子メール] フィールドに指定したアドレスに設定されます。Oracle の電子メール配信システムで電子メールを追跡できるように、各電子メールには、Oracle CRM On Demand によって文字列が追加されます。電子メール受信者が電子メール通知に応答すると、返信の[宛先] フィールドは、割当ルールグループの[返信先電子メール] フィールドに指定したアドレスに設定されます。

再割当プロセスの追跡

これらの 3 つのフィールドを使用して、所有者の再割当プロセスを追跡したり、再割当プロセスの所要時間を分析したりできます。これらのフィールドは、取引先、商談、見込み客、およびサービスリクエストのページレイアウトに追加できます。次のフィールドがあります。

- 割り当て状態
 - [行列待ち]（レコードがキューに入り、割当マネージャによる処理を待っている状態）、[処理中]（レコードが割当マネージャによって処理されている状態）、または空白（レコードがキューに入っておらず、処理もされていない状態）のいずれかの状態になります。
- 最後の割当提出日付
 - レコードが処理のためキューに入り、現在割当マネージャによって処理されている場合、このフィールドには、[所有者を再割当] チェックボックスをオンにしてレコードを保存した日時が表示されます。サービスリクエストレコードの場合、このフィールドは、[所有者] フィールドが空白の状態でのレコードが保存された日時を表示します。
- 最後の割当終了日付
 - レコードの再割当が実行されたことがない場合、このフィールドは空白です。それ以外の場合、フィールドには再割当が実行された日時が表示されます。

ページレイアウトにフィールドを追加する方法の詳細については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」を参照してください。

ルールグループの有効化

複数の割当ルールグループを作成した場合は、レコードタイプごとに 1 つずつ有効にする必要があります。

注意：最後にルールをリリースしたときに **〔活動中〕** とマークが付けられていたルールグループは、そのルールを再度リリースするまでは活動中になります。ルールを再度リリースすると、直前に **〔活動中〕** とマークが付けられたルールグループが活動中になります。新しいルールグループを作成して活動中のマークを付けるときは、ルールをリリースするまではすでに活動中のルールグループを削除しないでください。

ヒント：ルールグループは、見込み客の履歴として参照できます。ルールグループを削除する代わりに **〔非活動中〕** とマークを付けておきます。

グループ割当について

企業でレコードを、1 人の従業員にではなくグループ全体に割り当てる場合、企業の管理者は次の操作を行う必要があります。

- 1 [企業プロファイル] ページの [デフォルトのグループ割当] フィールドを選択します（「[企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定](#) 『16ページ』」を参照）。
- 2 割当ルールを有効にする前にグループを設定します（「[グループの設定](#) 『256ページ』」を参照）。
- 3 割り当て中に、取引先または商談の所有者に指定するグループのメンバーを 1 人選択します。

注：グループ機能は、見込み客レコードまたはサービスリクエストレコードではサポートされていません。

レコードがグループの所有者に割り当てられると、次のようになります。

- [所有者] フィールドに所有者情報が表示されます。
- レコードの編集および詳細ページの [プライマリグループ] フィールドに、所有者が属するグループ名が表示されます（企業の管理者がそのフィールドをレイアウトに追加した場合）。
- レコードは、ホームページやレコードリストなど、従業員のレコードを通常表示するアプリケーションのエリアに表示されます。

一般に、グループ内のすべてのメンバーは、レコードへの完全アクセス権を持っていますが、アクセスレベルを調整してユーザーによるアクセスを制限できます。

割当マネージャおよびレコード所有権モードについて

割当マネージャは、ユーザーに対してのみレコードを再割当できます。レコードを再割当できるのは、レコードタイプがレコード所有権のユーザーモードまたは混合モードに設定されている場合のみです。割当マネージャが所有者にレコードを再割当する前に、レコードに割り当てられたプライマリカスタムブックがある場合、割当マネージャは、レコードからプライマリブックを削除します。割当マネージャは、レコードタイプがブックモードに設定されている場合、レコードを再割当できません。レコードタイプをブックモードに設定する場合は、そのレコードタイプに対するすべてのルールグループを無効にすることを強くお勧めします。レコード所有権モードの詳細は、「[レコード所有権モードについて](#) 『220ページ』」を参照してください。

見込み客割り当てのシナリオ

ここでは、見込み客の割り当てに関する企業での一般的なビジネスルールの例を示します。この企業の見込み客を自動的に割り当てるルールを設定するため、管理者は次の操作を行います。

1 見込み客の割り当てに関する企業のビジネスルールを記述します。

たとえば、米国内の取引先の場合、多くのセールステリトリーは州単位で割り当てられますが、一部の州では製品担当がテリトリーの割り当てを決定します。また、取引先の XYZ 社は常に、見込み客の州や製品への関心とは関係なく、1 名の特定のセールスマネージャに割り当てられます。

2 このビジネスルールをカバーするために必要なすべての割り当てシナリオをリストアップします。

- **取引先（会社）は XYZ 社**：セールスマネージャ A に割り当てます。
- **プライマリ住所 - 州は CA、NV、OR、WA**：セールスマネージャ B に割り当てます。
- **プライマリ住所 - 州は OH、IN、MI、NY、KY**：セールスマネージャ C に割り当てます。
- **製品 ABC に関心を持っている見込み客（上記のすべての州。ただし XYZ 社を除く）**：セールスマネージャ D に割り当てます。
- **プライマリ住所 - その他の州**：セールスマネージャ E に割り当てます。

3 シナリオを考慮すべき順序に並べます。

まず、[取引先] フィールドを調べます。値が XYZ 社の場合、その他の条件は一切考慮せずに、セールスマネージャ A に見込み客を割り当てます。この基準が満たされない場合は、[プライマリの米国の州] フィールドを調べます。値が CA、NV、OR、または WA である場合、セールスマネージャ B に見込み客を割り当てます。同様に、残りのセールスマネージャにも見込み客を割り当てます。

ベストプラクティスとしては、レコード割当テンプレートを使用して、企業の割当シナリオを計画し、望ましい結果が得られるようなルールを設定することをお勧めします。

割当ルールの基準条件

次の条件を割当ルールの条件として使用できます。

- **間**：レコードの条件フィールドの値が、ルール条件で定義された 2 つの値の間にある場合に、ルールが満たされたと見なされます（レコードの条件フィールドの値がルールの値のいずれかに等しい場合は、結果には含まれません）。値を区切るにはカンマを使用します。ダッシュ (-) を使用して値の範囲を指定したり、値を区切ったりすることはできません。
[間] 条件は、日付フィールドに対してのみ使用します。日付は、MM/DD/YYYY 形式で表示します。
- **すべての値を含む**：レコードの条件フィールドに、ルールの条件値が含まれる場合に、ルールが満たされたとみなされます。たとえば、条件値として「qual」を入力した場合、レコードの条件フィールドに、「qualifying」（承認手続き中）または「qualified」（資格あり）など、文字列「qual」を含む値が含まれる場合に、ルールが満たされたとみなされます。
日付フィールドまたは数値フィールドに対しては、[すべての値を含む] 条件を使用できません。
- **正確なフィールド値を含む**：レコードの条件フィールドに、条件フィールド値のすべての文字列が含まれる（それ以外の文字は含まれない）場合に、ルールが満たされたとみなされます。たとえば、条件値として「クローズ済み」を入力した場合、レコードの条件フィールド値が「クローズ済み」の場合はルールが満たされたとみなされ、「クローズ済み/成立」の場合はルールが満たされないとみなされます。
日付フィールドまたは数値フィールドに対しては、[正確なフィールド値を含む] 条件を使用できません。
- **どの値も含まない**：レコードの条件フィールドの中に、ルール条件値に等しくない値が含まれる場合に、レコードが満たされたと見なされます。
日付フィールドまたは数値フィールドに対しては、[どの値も含まない] 条件を使用できません。

- **以下**：レコードの条件フィールドの値が、ルール条件値よりも小さいか等しい場合に、ルールが満たされたと見なされます。

〔以下〕条件は数値フィールドと通貨フィールドにのみ使用可能です。

- **以上**：レコードの条件フィールドの値が、ルール条件値よりも大きい等しい場合に、ルールが満たされたと見なされます。

〔以上〕条件は数値フィールドと通貨フィールドにのみ使用可能です。

ルール条件に関しては、次の点に注意してください。

- 条件がないルールは常に成功します。
- ルールは順番に評価され、あるルール条件が満たされると評価が終了します。

たとえば、評価されるルールが **10** 個あり、ルール **6** の条件が満たされると、ルール **7、8、9、および 10** は無視されます（つまり、これらのルールは評価されません）。同様に、ルール **6** に条件がない場合、ルール **6** は成功し、ルール **7、8、9、および 10** は無視されます。

割当ルールの設定手順については、「[割当ルールの設定](#) 『322ページ』」を参照してください。

割当ルールの設定

作業前の準備：

- 割当ルールを設定するには、〔データルールおよび割当〕権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 割当ルールの作成に関する詳細については、「[割当ルールについて](#) 『318ページ』」を参照してください。

割当ルールグループの例

ルールグループはルールから成り、ルールは条件から成ります。ルールグループのコンポーネントを次の図に示します。

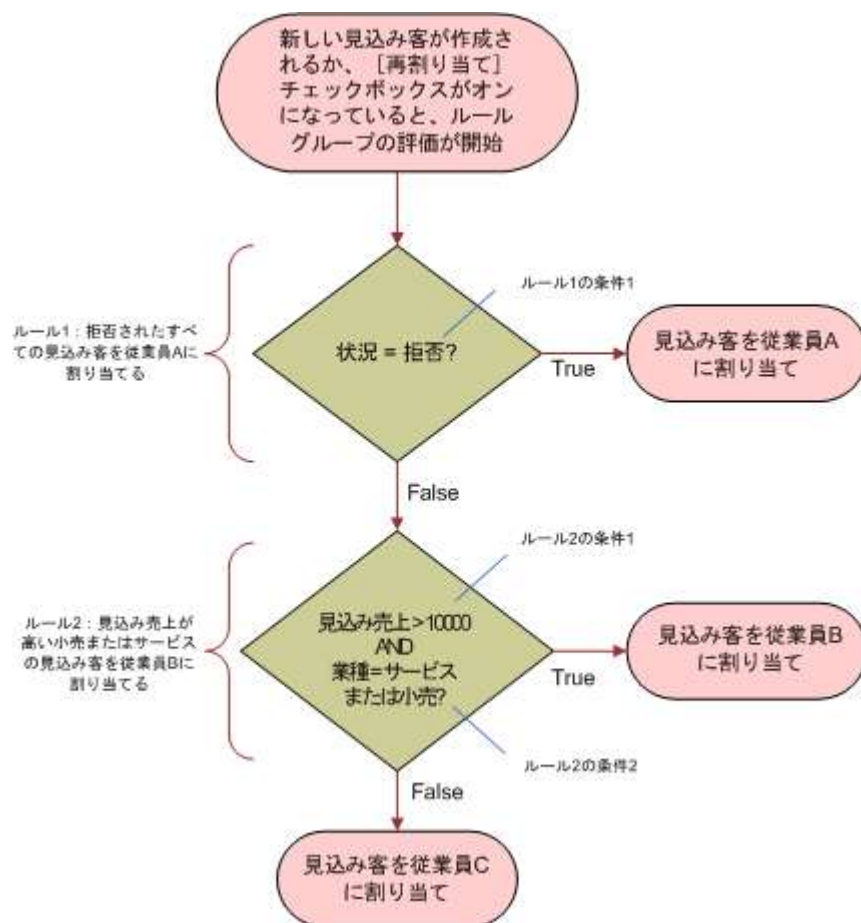


Figure 1: 見込み客割当ルールグループの評価方法

注：「見込み客詳細」ページの「拒否」ボタンを正しく機能させるには、ルールグループの最初のルールで、拒否された見込み客を割り当てる必要があります。

割当ルールグループを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「割当ルール」セクションで、該当するレコードタイプのリンクをクリックします。
現在までに企業について定義されているすべてのルールグループのリストが表示されます。
- 4 新しいルールグループを作成します。

- a** [新規ルールグループ] ボタンをクリックします。
- b** [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

フィールド	説明
ルールグループ名	30 文字までの一意の名前。
有効なルールグループ	一度に 1 つのルールグループだけを有効にできます。新しいルールグループを有効にすると、それまで有効になっていたルールグループが無効になります。
未割当所有者	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承する従業員。 例 : 図 1 の従業員 C
返信先電子メール	このフィールドは、見込み客およびサービスリクエストルールグループでのみ表示されます。割当ルールグループの [返信先電子メール] フィールドに指定した電子メールアドレスは、見込み客とサービスリクエストの所有者に送信される電子メール通知の [送信者] フィールドに表示されます。また、電子メール受信者が電子メール通知に応答すると、返信の [宛先] フィールドが [返信先電子メール] フィールドで指定したアドレスに設定されます。 注 : 電子メール通知は、取引先および商談レコードについては送信されません。
未割当取引先テリトリー	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承するテリトリー。 このフィールドは取引先ルールグループにのみ表示されます。
未割当商談テリトリー	いずれかのルールによって割り当てられていないレコードを継承するテリトリー。 このフィールドは商談ルールグループにのみ表示されます。

- c** レコードを保存します。
これで、ルールグループにルールを追加する準備として、新しいルールグループの名前が保存されました。

5 ルールをルールグループに追加します。

- a** [ルールグループ詳細] ページの [ルール] タイトルバーで [新規] をクリックします。
- b** [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

次の表の「例」の列には、図 1 のルール 2 のフィールドに入力する情報を示しています。

フィールド	説明	例
-------	----	---

フィールド	説明	例
ルール名	固有の名称。	見込み売上が高い小売またはサービスの見込み客を割り当てます。
オーダー	ルールを評価する順序。あるルール条件が満たされると、レコードが割り当てられ、後続のルールは無視されます。	1
所有者に割り当	ルール条件が満たされると、レコードがこのユーザーに割り当てられます。 取引先および商談のグループ割当の場合、ユーザーはレコードを共有するグループのメンバーである必要があります。	従業員 B
テリトリーに割り当	ルール条件が満たされると、レコードがこのテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先および商談ルールにのみ表示されます。	北東部地域
関連する担当者を含める	ルール条件が満たされた場合、取引先にリンクされた担当者は、指定された取引先所有者およびテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先ルールにのみ表示されます。	なし
関連する商談を含める	ルール条件が満たされた場合、取引先にリンクされた商談は、指定された取引先所有者およびテリトリーに割り当てられます。 このフィールドは取引先ルールにのみ表示されます。	なし
チーム割当を含む	ルール条件が満たされると、チームメンバーが取引先に割り当てられます。 このフィールドは取引先および商談ルールにのみ表示されます。	なし

- c** レコードを保存します。

これでルールが割り当てられたので、このルールに条件を追加できます。

- 6** (オプション) 取引先と商談の場合、リンクされたレコードおよびユーザーに対するアクセスを次のように更新します。

- a** [ルールグループ詳細] ページで、リンクされているレコードおよびユーザーのアクセスを更新するルールの [名前] リンクをクリックします。

- b** [ルール詳細] ページで、[チーム割当] タイトルバーの [ユーザーを追加] または [ユーザーを編集] をクリックします。
- c** [ルックアップ] アイコンをクリックし、ユーザーを選択します。
- d** 取引先、担当者、および商談に対するアクセスレベルを割り当てます。
- e** 変更を保存します。

7 ルール条件をルールに追加します。

- a** [ルール詳細] ページの [ルール条件] タイトルバーで、[新規] をクリックします。
- b** [作成/編集] ページで、必要な情報をフィールドに入力します。

次の表の「例」の列には、図 1 のルール 2 のフィールドに入力する情報を示しています。

フィールド	説明	例
フィールド	評価するフィールドの名前。 注： フィールドのラベルが変更された場合、新しいフィールド名が表示されます。	見込売上
条件	[すべての値を含む]、[正確なフィールド値を含む]、および[どの値も含まない] 条件は、日付フィールドまたは数値フィールドには使用できません。 [以上] または [以下] 条件は、数値フィールドおよび通貨フィールドでのみ使用できます。 [間] 演算子は、日付フィールドでのみ使用できます。	以上
値	値を区切るにはカンマを使用します。一致条件に使用されるアドレスなどの値にカンマが含まれる場合は、その値を引用符で囲みます。 条件が [間] の場合は、最小値と最大値をカンマで区切って入力します。	10000

- c** 次の該当する操作を行います。
 - ルールにさらに条件を追加する場合、[ルール条件の保存&新規作成] をクリックし、ステップ **b** に戻ります。
1 つのルールに複数の条件が定義されている場合、ルールが満たされたと見なされるためには、レコードがすべての条件を満たしている必要があります。
 - ルールのすべての条件を入力したら、[保存] をクリックします。

8 [ルール詳細] ページの [ルール] タイトルバーで、[ルールグループ詳細に戻る] をクリックします。

9 [ルールグループ詳細] ページで、次の該当する操作を行います。

- ルールグループにさらにルールを追加する場合は、ステップ **5** に戻ります。
- ルールグループのすべてのルールを入力した後、[ルールグループリストに戻る] をクリックして終了します。

ヒント : ルールは「ルールグループ」に表示される順序で実行されるので、正しい順序で表示されていることを確認してください。1つのルールが満たされると、以降のルールは無視されます。

編集するには、ルールグループを有効または無効にします。

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「ビジネスプロセス管理」セクションで、「データルール&割当」リンクをクリックします。
- 3 「割当ルール」セクションで、編集する割当ルールのタイプのリンクをクリックします。
現在までに企業について定義されている、指定タイプのすべてのルールグループのリストが表示されます。
- 4 更新する「ルールグループ」リンクをクリックします。
- 5 「ルールグループ詳細」ページで、「編集」をクリックします。
- 6 フィールドを更新し、レコードを保存します。

変更は、Oracle Server 時間の深夜（デフォルト）に有効になるか、または、割当ルールグループを更新するように設定されている時刻に有効になります。

注意 : ルールグループに「活動中」のマークを付けると、最後にルールをリリースしたときに「活動中」のマークが付けられたルールグループは、そのルールが再度リリースされるまで継続して活動中になります。ルールを再度リリースすると、直前に「活動中」とマークが付けられたルールグループが活動中になります。ルールをリリースするまではすでに「活動中」のルールグループを削除しないでください。

割当ルールを編集するには

- 1 「ルールグループ詳細」ページで、変更するルールの「編集」リンクをクリックします。
- 2 フィールドを更新します。
注: 「順序」フィールドを編集すると、ルールを評価する順序を変更できます。変更するルールに対し、そのルールよりも先に評価されるルールよりも大きく、後に評価されるルールよりも小さい数値を入力します。
たとえば、1番から3番までの順番が付けられた3つのルールがあり、現在1番のルールを現在2番のルールよりも後に評価するよう順序を変えるには、1番のルールを2.1（または2よりも大きく、3よりも低い任意の値）に変更します。
- 3 レコードを保存します。

見込み客変換の管理

社内のユーザーは、見込み客レコードを取引先、担当者、または商談のレコードに変換できます。企業が Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用するように設定されている場合は、見込み客レコードを取引交渉登録レコードに変換することもできます。

見込み客レコードを変換するとき、次のいずれかの作業を行うことができます。

- 見込み客レコードに自動的にリンクされる新しい取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードを作成します。
- 見込み客レコードを既存の取引先および担当者レコードにリンクします。ユーザーは、見込み客を変換するときに、見込み客にリンクするレコードを選択します。

ページの見込み客変更レイアウトを作成し、これらのレイアウトをユーザー役割に割り当てることで、[見込み客を変換] ページでユーザーが使用できるオプションを決定できます。

見込み客の変換中、一部の値はデフォルトで新しいレコードに継承されます。ただし、カスタムフィールドなどの追加フィールドのマッピングによって、継承される情報の量を増やすことができます。

見込み客を変換するには、ユーザーが、レコードタイプへの適切なアクセス権と役割内の適切な権限を持っている必要があります。

ユーザーは、見込み客を拒否するときに、[見込み客を拒否] ページの [拒否コード] フィールドで拒否コードを選択する必要があります。[拒否コード] フィールドのいくつかの値はデフォルトで提供されますが、これらの値を変更、またはリストに値を追加できます。[拒否コード] ピックリストの詳細は、「[見込み客の拒否コード](#) 『331ページ』」を参照してください。

関連トピック

見込み客変換管理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [見込み客変換の設定のプロセス](#) 『328ページ』
- [見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) 『329ページ』
- [見込み客変換レイアウトの作成](#) 『329ページ』

見込み客変換の設定のプロセス

ユーザーおよびレコードタイプの見込み客変換および拒否設定を設定するには、次のタスクを実行します。

- 1 見込み客変換中に追加フィールドをマップする場合は、新しいマッピングを設定します。
フィールドのマッピングの詳細は、「[見込み客変換中の追加フィールドのマッピング](#) 『329ページ』」を参照してください。
- 2 [見込み客を変換] ページのレイアウトをカスタマイズする場合は、次の手順に従います。
 - a 新しいレイアウトを作成します。
レイアウトの作成の詳細は、「[見込み客変更レイアウトの作成](#) 『329ページ』の"[見込み客変換レイアウトの作成](#)"参照」を参照してください。
 - b 新しいレイアウトを適切な役割に追加します。
役割の追加の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。
- 3 ユーザーが、レコードタイプへの適切なアクセス権と役割内の適切な権限を持っていることを確認します。
見込み客の変換に必要な設定の詳細は、「[見込み客を変換するためのアクセスプロファイルおよび役割の設定](#)」を参照してください。
- 4 [拒否コード] ピックリストの値を編集する場合は、フィールド値を編集します。

フィールド値の編集の詳細は、「[フィールドの作成と編集](#)『74ページ』」を参照してください。[拒否コード] ピックリストの詳細は、「[見込み客の拒否コード](#)『331ページ』」を参照してください。

見込み客変換中の追加フィールドのマッピング

社内のユーザーは、見込み客レコードを取引先、担当者、または商談のレコードに変換できます。企業が **Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition** を使用するように設定されている場合は、見込み客レコードを取引交渉登録レコードに変換することもできます。

ユーザーが見込み客を取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードに変換する場合、デフォルトでは、一部の値が新しいレコードに移行されます。ただし、カスタムフィールドを含む追加のフィールドをマップすることにより、移行する情報量を増やすことができます。

注：見込み客変換の際に、**Web** リンクフィールドをマップしないでください。**Web** リンクフィールドには、データではなく、ユーザーがアクションを実行するためにクリックできるリンクのスクリプトが含まれています。**Web** リンクフィールドの内容は、見込み客の変換時に新しいレコードに移行できません。

ユーザーが見込み客レコードを変換すると、マップされたフィールドの値が次のように移行されます。

- ユーザーが新しい取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードを作成すると、見込み客レコードのマップされたフィールドの値は、新しいレコードの指定のフィールドに移行されます。
- ユーザーが見込み客レコードを、見込み客の変換時に選択した既存の取引先、担当者、商談、または取引交渉登録のレコードにリンクすると、値を指定済みの既存のレコード内のフィールドは変更されません。空のフィールドは、マップされた見込み客フィールドの値で更新されます。

カスタマイズされたピックリストのフィールドおよび値について

見込み客レコードのピックリストのフィールドを、取引先レコード、担当者レコード、商談レコード、取引交渉登録レコードのテキストフィールド（長いまたは短い）や、同一の値を持つピックリストのフィールドにマップできます。

作業前の準備：次の手順を実行するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

見込み客レコードを変換するときに追加フィールドをマップするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール & 割当] をクリックします。
- 3 [見込み客変更管理] セクションで、[見込み客変更マッピング] をクリックします。
- 4 [見込み客変更マッピング] ページで、マップするフィールドを選択します。
- 5 マッピングをデフォルトの設定に戻すには、タイトルバーの [初期値] ボタンをクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。

見込み客変換レイアウトの作成

[見込み客を変換] ページのカスタマイズしたレイアウトを作成し、レイアウトをユーザー役割に割り当てることで、ユーザーが見込み客を変換するときに使用できるオプションを指定できます。

注:見込み客を取引先、担当者、商談または取引交渉登録に変換するには、ユーザーのアクセスプロファイルおよび役割にも適切な設定が必要です。見込み客の変換に必要な設定の詳細は、「見込み客を変換するためのアクセスプロファイルおよび役割の設定」を参照してください。

次の表に、[見込み客を変換] ページで使用可能にできるオプションを示します。

レコードタイプ	オプション
取引先	取引先に変更しない 既存取引先を使用する 新規取引先を自動作成
担当者	既存担当者を使用する 新規担当者を自動作成
商談	商談に変更しない 新規商談を自動作成
取引交渉登録	取引交渉登録を作成しない 取引交渉登録の自動作成 注: [取引交渉登録] オプションは、企業が Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用するように設定されている場合のみ該当します。

標準レイアウトが用意されています。標準レイアウトには、取引先、担当者、および商談のオプションはすべて含まれていますが、取引交渉登録のオプションは含まれていません。標準レイアウトをコピーしてコピーを編集できますが、標準レイアウトを編集または削除することはできません。

レコードタイプに対して使用可能にするオプションに応じて、[見込み客を変換] ページのレコードタイプセクションは次のような影響を受けます。

- いずれかのオプションをレコードタイプに対して使用可能にしない場合、[見込み客を変換] ページには、そのレコードタイプのセクションが含まれません。
- [取引先] レコードタイプに対して [取引先に変更しない] オプションのみを使用可能にした場合、[取引先] セクションはページに表示されません。
- [商談] レコードタイプに対して [商談に変更しない] オプションのみを使用可能にした場合、[商談] セクションはページに表示されません。
- (Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition を使用する場合のみ) [取引交渉登録] レコードタイプに対して [取引交渉登録を作成しない] オプションのみを使用可能にした場合、[取引交渉登録] セクションはページに表示されません。

作業前の準備。 ここで説明する手順を実行するには、[データルールおよび割当] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

見込み客変換レイアウトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール & 割当] をクリックします。
- 3 [見込み客変更管理] セクションで、[見込み客変更レイアウト] をクリックします。
- 4 [見込み客変更レイアウトリスト] ページで、[新規レイアウト] をクリックします。
- 5 ステップ 1 の [レイアウト名] で、次の操作を行います。
 - a レイアウトの名前を入力します。
 - b (オプション) レイアウトの説明を入力します。
 - c このレイアウトをすべてのユーザーのデフォルトにする場合は、[デフォルト見込み客変更レイアウト] チェックボックスをオンにします。

注: デフォルトでは、Oracle CRM On Demand で提供される標準見込み客変更レイアウトは、別のレイアウトがデフォルトとしてマークされていないかぎり、会社のデフォルトの見込み客変更レイアウトとして機能します。別のレイアウトを作成し、新しいレイアウトの [デフォルトレイアウト] チェックボックスをオンにした場合、標準見込み客変更レイアウトはデフォルトではなくなります。したがって、標準見込み客変更レイアウトは、[デフォルトレイアウト] チェックボックスが他のレイアウトに対してオンになっていない場合にのみ、会社のデフォルトレイアウトになります。ただし、標準見込み客変更レイアウトの [デフォルトレイアウト] チェックボックスは、デフォルトとして機能している場合にも、常にオフのままになります。
- 6 ステップ 2 の [アクションの選択] では、[見込み客変更レコードタイプ] セクションでアクションを選択するレコードタイプ ([取引先]、[担当者]、[商談] または [取引交渉登録]) をハイライト表示し、矢印をクリックして、ページに表示するアクションを [見込み客変更使用可能アクション] セクションから [見込み客変更選択済みアクション] に移動します。各レコードタイプについて、このステップを繰り返します。
- 7 ステップ 3 の [確認] では、選択内容を確認し、必要に応じてステップ 2 [アクションの選択] に戻って選択内容を変更します。
- 8 [終了] をクリックして変更を保存します。

見込み客の拒否コード

ユーザーが見込み客を拒否する場合は、[見込み客を拒否] ページの [拒否コード] フィールドで拒否コードを選択する必要があります。ユーザーは、[拒否理由] フィールドに拒否の理由の説明テキストを入力することもできます。ユーザーが [拒否コード] フィールドで [その他] 値を入力した場合は、[拒否理由] フィールドが必須フィールドになり、ユーザーは見込み客が拒否された理由の説明を入力する必要があります。それ以外の場合、[拒否理由] フィールドはオプションです。

[拒否コード] フィールドのいくつかの値はデフォルトで指定されますが、これらの値を変更またはリストに値を追加できます。デフォルト値は次のとおりです。

- サードパーティ担当者
- 再連絡しない
- 副本

- 担当者との接触に失敗しました
- 不適切な担当者
- 不十分なデータ
- 無効な電話番号
- ビジネス商談なし
- 進行中の商談
- その他
- 最近連絡 (30 日未満)
- データ入力/システムエラー
- すでに製品を所有
- ターゲット基準に合致しません

ピックリスト値の編集については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

注：*[その他]* 値の名前を変更した場合でも、ユーザーが名前変更した値を「見込み客を拒否」ページで選択したときに、「拒否理由」フィールドは必須フィールドになります。

売上予想定義の設定

Oracle CRM On Demand における売上予想は、定義された設定に従って自動的に生成されます。売上予想は、週ごとまたは月ごとに自動的に生成されます。生成された各売上予想はアーカイブに保存され、参照と分析用の履歴レコードになります。

すべての売上予想は、その四半期の売上と見込み売上に関する情報のスナップショットです。売上予想により、セールス要員とマネージャは、商談の現在の状況に従って、目標額、実際の確定売上、および予想売上に対する四半期のセールス実績を追跡することができます。

売上予想の参加者は役割によって選択されます。企業のレポート構造と、売上予想の参加者として選択する役割は、参加者が 1 人のトップレベルのユーザーにロールアップされるように設定する必要があります。通常、このトップレベルのユーザーは企業の副社長または最高経営責任者（CEO）です。

Oracle CRM On Demand によって売上予想が生成されると、従業員に売上予想が作成されたことを知らせる警告が各参加者の「個人ホームページ」に 2 日間表示されます。警告を表示する期間を延長するには、その警告の「失効日」フィールドを更新します。警告については、「[全社レベルの警告の公開](#) 『46ページ』」を参照してください。

売上予想タイプの決定

企業は、商談、製品、取引先、または担当者のいずれかに基づいて売上予想を行うことができます。売上予想には次の 4 タイプがあります。

- 商談製品
- 商談売上
- 取引先売上
- 担当者売上

企業は、売上予想の生成に対して設定された特定の売上予想日に基づいて、複数の売上予想タイプを生成できます。企業の売上予想の設定を選択するときは、企業全体で使用する売上予想タイプを決定します。

注:セールス要員が実行するアクションは、売上予想タイプによって特定されます。セールス要員が商談レコード、取引先レコード、担当者レコードの作成を開始する前に、売上予想のタイプを通知する必要があります。

商談製品売上予想

商談製品売上予想では、商談にリンクされている製品について報告します。商談製品売上予想の予想額は、すべての製品の「数量」、「売上」、および「予想売上」フィールドから計算されます。これらの製品は、売上予想の参加者が所有し、売上予想期間中に売上が認識される予定の製品です。製品の売上は、1回で報告するか、複数の期間にわたって報告できます。

商談製品売上予想では、セールス要員が製品を商談レコードにリンクする必要があります。また、セールス要員は、売上予想に含める製品を指定するために、数量、購入価格、開始日、およびクローズ日を入力する必要があります。

商談製品レコードを売上予想に含めるには、その商談製品売上レコードが次の条件を満たしている必要があります。

- 売上予想期間内にクローズ日がある
- 売上予想の参加者によって所有されている

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細は、「商談と売上予想について」を参照してください。

製品に基づいて売上を1回のみまたは繰り返し予想する場合は、商談製品売上予想を設定します。

商談売上予想

商談売上予想では、商談レコードに記載されている売上について報告します。売上予想額は、次の条件を満たすすべての商談レコードの「売上」フィールドと「予想売上」フィールドの値から計算されます。

- 売上予想期間内に商談のクローズ日がある
- 次のいずれかの条件を満たしている場合：
 - 商談が売上予想の参加者によって所有されている
 - 売上予想の参加者が商談チームのメンバーで、商談売上のシェアが0%より大きい（つまり、「商談チーム」ページの「分割 %」フィールドの値が0より大きい）

注:商談の売上をチームメンバー間で共有する場合は、企業プロフィールで「商談売上分割の有効化」チェックボックスをオンにする必要があります。

商談売上予想の場合、セールス要員は、商談の「売上」フィールドと「クローズ日」に入力し、売上予想に含める商談を指定する必要があります。売上予想では、リンクされている製品はすべて無視されます。

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細については、商談と売上予想についてを参照してください。

個々の製品の売上額にかかわらず、商談売上の合計額を予想する場合は、商談売上予想を設定します。

取引先売上予想と担当者売上予想

取引先売上予想と担当者売上予想は、取引先レコードまたは担当者レコードにリンクした売上レコードに記載されている売上に対して報告されます。売上予想額は、売上予想に含める条件を満たしているレコードの「売上」フィールドと「予想売上」

フィールドの値から計算されます。売上予想に含めるには、取引先売上レコードまたは担当者売上レコードが次の条件を満たしている必要があります。

- レコードが売上予想の参加者によって所有されている
- レコードの状態が「オープン」、「保留中」、または「クローズ」である
- レコードに対して「売上予想」フィールドがオンになっている
- レコードを商談にリンクできない
- レコードに、売上予想期間中に認識される予定の売上がある

取引先または担当者の売上は、一度に報告するか、または時間経過と共に報告するように設定できます。取引先売上予想と担当者売上予想を行うには、売上を取引先レコードと担当者レコードにリンクする必要があります。売上予想に含める製品を指定するために、売上レコードの「開始日」、「クローズ日」、「状態」、および「売上予想」の各フィールドを更新する必要があります。

企業の予想売上にレコード値を含めるには、他にも情報を追加する必要があります。詳細は、「取引先ごとの売上の追跡」および「担当者ごとの売上の追跡」を参照してください。

売上を一度だけまたは繰り返し予想する場合は、取引先売上予想または担当者売上予想を設定します。

売上予想期間の選択

売上予想を設定することで、最大で 4 四半期分の売上予測値を表示できます。拡張売上予想機能を使用すると、現四半期および以降の 3 つの四半期の予想をそれぞれ表示できます。

デフォルトでは、売上予想期間が 1 四半期（現四半期のみが売上予想に含まれる）に設定されます。複数の四半期を含めるように期間を変更すると、売上予想には現四半期と以降の四半期が含まれます。たとえば、2 四半期分の期間を選択すると、売上予想には現四半期と次の四半期が含まれます。

売上予想役割の指定

売上予想定義の一部として含める役割を選択します。売上予想定義に役割を追加すると、その役割を割り当てられたすべてのユーザーが売上予想参加者として指定されます。

売上予想のユーザー設定

企業の売上予想に含めるユーザーを正しく設定します。このためには、ユーザーレコードが次の条件を満たしている必要があります。

- レコードの「役割」フィールドに有効な値が入っている
- レコードの「上司」フィールドまたは「上司（エイリアス）」フィールド（どちらのフィールドがユーザーレコードのページレイアウトに表示されるかによって決まる）に有効な値が設定されている必要があります。
- ユーザーの状態が「有効」に設定されている（無効なユーザーの売上予想を許可するオプションを選択している場合を除く）

注意:正しく設定されていないユーザーが売上予想に含まれている場合は、売上予想全体が失敗します。

レポート構造と売上予想の役割の例

売上予想を生成するには、企業のレポート構造を正しく設定する必要があります。売上予想階層は、ユーザーレコードの「上司」または「上司（エイリアス）」フィールドに指定した階層に基づいています。1人のトップレベルのユーザーを除く売上予想の全参加者は、個別の売上予想がすべて企業全体の売上予想にロールアップされるように、売上予想の別の参加者に報告する必要があります。別の売上予想参加者に報告しない売上予想参加者が複数いる場合、または売上予想の参加者を部下に持つマネージャの状態が「無効」の場合、売上予想は失敗します。

注: レポート構造の問題が原因で売上予想の生成に失敗すると、プライマリ担当者（「企業プロフィール」で指定）がカスタマーサポートから電子メール通知を受け取ります。レポート構造を修正し、売上予想を更新すると、通常の売上予想日ではない場合でも、その晩に売上予想が自動的に生成されます。

売上予想の生成で機能する、また機能しないレポート構造と売上予想の役割の組み合わせを次の表に示します。

レポート構造	売上予想が機能するか/しないか	理由
<pre> graph TD E1[エグゼクティブ] --- E2[エグゼクティブ] E1 --- E3[エグゼクティブ] E2 --- SM1[セールスマネージャ] E2 --- SM2[セールスマネージャ] E3 --- SM3[サービス管理者] SM1 --- FSR1[フィールドセールス要員] SM1 --- FSR2[フィールドセールス要員] SM3 --- M1[保守担当者] SM3 --- M2[保守担当者] </pre>	機能する役割の組み合わせ： <ul style="list-style-type: none"> ■ エグゼクティブ ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員 	参加者が 1 人のトップレベルの参加者にロールアップされる。
	機能しない役割の組み合わせ： <ul style="list-style-type: none"> ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員 	参加者が 1 人の参加者にロールアップされない。参加者は 2 人のセールスマネージャにロールアップされる。
	機能しない役割の組み合わせ： <ul style="list-style-type: none"> ■ エグゼクティブ ■ フィールドセールス要員 	フィールドセールス要員が、参加者ではないセールスマネージャにロールアップされる。

レポート構造	売上予想が機能するか/しないか	理由
	機能する役割の組み合わせ： ■ エグゼクティブ ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員	参加者が 1 人の参加者にロールアップされる。
	機能しない役割の組み合わせ： ■ エグゼクティブ ■ 営業管理者 ■ フィールドセールス要員	2 人の参加者がだれにも報告しない。売上予想の 1 人の参加者（構造のトップレベルの参加者）だけは、だれにも報告しないことを許可される。

売上予想に無効なユーザーを含める

売上予想には、有効なユーザーとともに無効なユーザーも含めることができます。売上予想定義を設定するときは、無効なユーザーを売上予想に含めるかどうかを指定します。

マネージャが自分の部下の売上予想を提出することを許可する

売上予想定義を設定するときは、マネージャが自分の売上予想を提出する際に、自分の部下の売上予想を自動的に提出できるかどうかを指定します。

売上予想とカスタム会計カレンダー

カスタム会計カレンダーを使用する場合は、売上予想の生成に企業のカスタム会計カレンダー定義が使用されます。したがって、売上予想期間の月とカスタム会計カレンダーの月は一致します。

企業の管理者は、Oracle CRM On Demand で売上予想を作成する年ごとにカスタム会計カレンダーレコードを作成する必要があります。選択した売上予想期間をサポートするのに必要な数の会計カレンダーが作成されていない場合は、売上予想マスターを生成したり、売上予想を作成することはできません。

注:会計カレンダーの数が不十分なために売上予想の生成に失敗すると、プライマリ担当者（[企業プロフィール] で指定）がカスタマーサポートから電子メール通知を受け取ります。売上予想定義をサポートする会計カレンダーレコードを作成し、売上予想定義を更新すると、通常の売上予想日ではない場合でも、その晩に売上予想が自動的に生成されます。

売上予想失敗に関する電子メール通知について

売上予想が失敗した場合に送信される電子メール通知では、[差出人] アドレスは常に donotreply@crmondemand.com で、[送信者] フィールドは常に support@crmondemand.com に設定されます。Oracle の電子メール配信システムで電子メールを追跡できるように、各電子メールには、Oracle CRM On Demand によって文字列が追加されます。電子メール受信者が電子メールに返信しようとすると、返信の [宛先] フィールドは自動的に support@crmondemand.com に設定されます。

次の手順では、売上予想定義の設定方法について説明します。

売上予想定義を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [売上予想管理] セクションで、[売上予想定義] をクリックします。
- 4 [売上予想定義] ページで、[更新] をクリックします。
- 5 ステップ 1 の [売上予想タイプの選択] で、生成する各売上予想タイプの [有効] チェックボックスをオンにします。
企業は、商談製品、商談売上、取引先売上、および担当者売上に基いて販売売上高を予想できます。
- 6 ステップ 2 の [売上予想頻度の選択] で、次の手順を実行します。
 - a [売上予想期間] フィールドで、売上予想期間を選択します。
注: 企業に対して選択した会計カレンダーの設定によって、各四半期の長さが決まります。売上予想期間の開始日と終了日は、企業プロフィールに設定されている会計カレンダーの開始日と会計カレンダータイプに基づいて計算されます。会計カレンダータイプが [カスタム会計カレンダー] の場合、開始日と終了日は企業の管理者が定義した会計カレンダーに基づきます。
 - b [売上予想スナップショットの単位] フィールドで、売上予想スナップショットを作成する頻度を指定します。
売上予想は毎週または毎月生成できます。
注: [月] を選択すると、企業に対して選択した会計カレンダータイプによって、月の長さが決まります。
 - c [売上予想スナップショット実行曜日] フィールドで、売上予想スナップショットを作成する月の日付または曜日を選択します。
売上予想は、ホスト施設のタイムゾーンで選択した日の開始時(午前 0 時 1 分)に生成されます。Oracle CRM On Demand では、売上予想の生成頻度が毎月で、現在の月に、売上予想の生成日として選択した日がない場合は、その月の最終日に売上予想を生成するようにスナップショットが調整されます。たとえば、[売上予想スナップショット実行曜日] が 30 日に設定され、現在の月が 2 月の場合は、Oracle CRM On Demand では、28 日に売上予想を生成するように売上予想スナップショットが調整されます。
- 7 ステップ 3 の [売上予想ロールの選択] で、次の手順を実行します。
 - a 売上予想に参加するユーザーの役割を [売上予想役割] エリアに追加します。矢印をクリックして、企業の役割を [売上予想役割] リストに移動します。
 - b 無効なユーザーの売上予想を許可するには、[無効なユーザーの売上予想を許可] チェックボックスをオンにします。

- c マネージャが自分の部下の売上予想を自動的に提出するのを許可するには、[マネージャ送信時のチームに対する売上予想の自動送信] チェックボックスをオンにします。

8 [終了] をクリックします。

9 [売上予想定義] ページで、売上予想スナップショットの頻度、売上予想スナップショット実行曜日、次の売上予想マスター日、および売上予想マスター参加者のリストをレビューして売上予想の詳細を確認します。

注意: 売上予想定義を設定した後に、ユーザーレコードまたは会計カレンダーを変更した場合は、売上予想定義の設定を更新する必要があります。詳細については、「[売上予想定義の更新](#) [338ページ]」を参照してください。

売上予想定義の更新

企業の売上予想定義を更新することで、売上予想の頻度の変更や役割の追加または変更を行えます。また、ユーザーレコードに特定の変更が実施された場合または会計カレンダーが変更された場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

次の変更が行われた場合は、売上予想定義を更新する必要があります。

- 売上予想参加者のマネージャが変更された場合。マネージャ情報は、[上司] フィールドまたは[上司 (エイリアス)] フィールド (どちらのフィールドがユーザーレコードのページレイアウトに表示されるかによって決まる) にある売上予想参加者のユーザーレコードに保存されます。

売上予想参加者のマネージャが変更された場合は、次のように、売上予想定義を更新する必要があります。

- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれていない場合は、売上予想定義に役割を追加する必要があります。
- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれている場合は、新しいレポート構造が今後の売上予想に反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

注: 売上予想参加者階層には、最上位レベル以外のすべての参加者のマネージャが含まれている必要があります。

- 売上予想階層の参加者であるユーザーが非アクティブ化された場合。

従業員が退社するときは、そのユーザーの状態を[無効]に変更する必要があります。無効になった従業員が売上予想階層のマネージャである場合は、その従業員に報告する売上予想参加者のユーザーレコードも更新する必要があります。

この場合は、次のように売上予想定義を更新する必要があります。

- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれていない場合は、売上予想定義に役割を追加する必要があります。
- 新しいマネージャに割り当てた役割が、現行の売上予想定義に含まれている場合は、新しいレポート構造が今後の売上予想に反映されるように売上予想定義を更新する必要があります。

注: 売上予想定義で、無効になったユーザーの売上予想が許可されている場合は、売上予想参加者が無効にされたときに売上予想定義を更新する必要はありません。

- 売上予想定義に含まれている役割に対してユーザーが追加または削除された場合。

この場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義の更新のみを実行する必要があります。

- 会計カレンダーに変更が加えられた場合。

この場合は、変更内容が反映されるように売上予想定義の更新のみを実行する必要があります。

注:会計カレンダーに変更が加えられた場合は、企業で使用している会計カレンダーのタイプ（標準またはカスタム）に関係なく、売上予想定義を更新する必要があります。

注:ここで説明されている変更が **Oracle CRM On Demand** で行われた場合は、売上予想定義が更新されるまで、生成される売上予想には変更が反映されません。

次の手順では、売上予想定義の更新方法について説明します。

売上予想定義を更新するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [売上予想管理] セクションで、[売上予想定義] をクリックします。
- 4 [売上予想定義] ページで、[更新] をクリックします。
- 5 [ステップ 1: 売上予想タイプの選択] で、必要に応じて変更を加えます。
- 6 [ステップ 2: 売上予想頻度の選択] をクリックします。
- 7 [ステップ 2: 売上予想頻度の選択] で、必要に応じて変更を加えます。
- 8 [ステップ 3: 売上予想ロールの選択] をクリックします。
- 9 [ステップ 3: 売上予想ロールの選択] で、必要に応じて変更を加えます。
- 10 [終了] をクリックします。

売上予想定義が自動的に更新され、更新された売上予想参加者リストなどの定義の概要が、[売上予想定義] ページに表示されます。

セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設定

セールス方法をカスタマイズして、セールス環境の要件や複雑さを反映させることができます。これによりセールス要員は、さまざまなセールスステージで取引のガイドとしてセールス方法を利用できます。

企業の販売プロセスまたはビジネス習慣を反映するように、セールスステージ情報を調整できます。商談の作成および更新時、従業員はその商談の進行状況を表すセールスステージを選択します。各セールスステージはパーセンテージにリンクされています。この情報は、パイプライン、予想売上、確定売上上の計算を含むレポートと売上予想にも使用されます。

セールスステージのカスタマイズの一環として、次の操作を行えます。

- セールスステージの名前の変更
- セールスステージの追加および削除
- セールスステージの順序の変更
- セールスステージに関連付けられた確度のパーセンテージの変更

セールスプロセスについて

セールス環境の中には、セールスステージが 1 セットのみの単一のセールスプロセスのみを必要とするものがあります。プロセスごとに別々のセールスステージを使用するような、より複雑なセールス環境もあります。たとえば、社内のセールス要員とフィールドセールス要員は、それぞれ別々のセールスプロセスに従う可能性があります。

セールス要員が従うセールスプロセスは、商談タイプによっても変わることがあります。たとえば、機器を販売するセールス要員の場合、セールスステージ数が増え、セールスプロセスが比較的長くなります。これに対して、サービス契約を販売するセールス要員の場合、セールスステージ数が少なくなり、セールスプロセスが短くなります。

セールス方法をさらに整理するには、一連のセールスステージをセールスプロセスとして定義し、各プロセスを次のいずれかにリンクできます。

- 商談タイプ
- ユーザーの役割

これにより、異なる商談タイプまたは異なるユーザー役割についてセールスプロセス（および各プロセスを持つセールスステージ）をカスタマイズできます。

例:セールス要員が新しい商談を作成します。商談に関する情報を入力するときに、[商談タイプ] オプションから [サービス] を選択します。これにより、アプリケーションではその商談タイプに適切なセールスプロセスが表示されます。

注: 商談タイプに基づくセールスプロセスは、ユーザーの役割に基づくデフォルトのセールスプロセスより優先されます。別の言い方をすると、従業員が商談を作成すると、その役割のデフォルトのセールスプロセスがその商談に割り当てられます。その後、従業員が、セールスプロセスが割り当てられている商談タイプを選択すると、その商談のセールスプロセスが、選択した商談タイプに基づいて推進されます。

セールスステージカテゴリについて

異なるセールスプロセスにわたって特定のセールスステージにリンクできる、ステージ 1、2 または 3 のようなセールスステージカテゴリも設定できます。異なるプロセスからの情報を集約する必要がある場合、セールスステージカテゴリに対してレポートを実行し、すべての商談タイプまたは役割にわたってパイプラインの正確なビューを提供できます。

セールスプロセスコーチについて

セールスプロセスコーチを使用して、各セールスステージで必要な情報を正確に入力するための指示をチームに与えることができます。セールスプロセスコーチは、ドキュメント、テンプレート、および競合先情報のような有用な情報だけでなく、従業員が従う特定の手順も提供します。また、セールスサイクルにおける商談の進行状況に基づいた情報の収集を強化できます。さらに、商談レコードの保存時に、特定のタスクが自動的に作成されるように指定できます。これらのタスクは従業員のタスクリストに表示されます。

セールスプロセスコーチの一環として、次の操作を行えます。

- 従業員が [コーチ] ボタンを使用してアクセスする各セールスステージの情報の追加
- 入力すべきフィールドなど各セールスステージの要件の設定（これらの要件は、新しいステージで商談を保存する前の確認事項として使用されます）。
- 従業員がさまざまなセールスステージにリンクされた商談を保存するときに生成される自動化タスクの設定

システムを導入した後にいずれかのセールスステージを変更すると、それまでのすべてのレコードは、手動で更新されるまでは割り当てられたセールスステージを維持します。

注: [確度 (%)] フィールドのデフォルトのピックリスト値を変更するには、商談の項目設定ページからそのフィールドを編集する必要があります（「[ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』」を参照）。

セールス方法を設定する場合は、次の一般的なプロセスに従います。

- 1 セールスステージカテゴリを設定します（セールスプロセスが複数ある場合）。
- 2 セールスプロセス（複数可）を設定します。
- 3 各セールスプロセスのセールスステージを設定します。
- 4 セールスステージに対してコーチ機能を設定します。

作業前の準備：

- 次の手順を実行するには、[セールスステージ定義] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- [商談タイプ] フィールドに基づいてセールスプロセスを割り当てる場合、ピックリスト値が使用する値であることを確認します。デフォルトの商談タイプ値は、[更新] および [新規ビジネス] です。ピックリスト値をカスタマイズする方法については、「[ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』」を参照してください。

さらに、[商談タイプ] フィールドと一緒に使用する役割ごとにページレイアウトに表示されることを確認します。手順については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」を参照してください。

セールスステージカテゴリを設定するには（オプション）

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [セールス方法] セクションで、[セールスカテゴリ] リンクをクリックします。
- 4 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 [セールスステージカテゴリ] ページで、[新規] をクリックして新規セールスステージカテゴリを作成するか、編集するセールスステージカテゴリのレコードレベルメニューから [編集] を選択します。
- 6 [セールスステージカテゴリを編集] ページまたは [新規セールスステージカテゴリ] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
ステージカテゴリ	セールスステージカテゴリの名前。
オーダー	セールスステージカテゴリが Oracle CRM On Demand Answers に表示される順序。

フィールド	説明
翻訳	<p>(オプション) 更新した (既存の) 名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。</p> <p>新しいセールスステージカテゴリ名を追加すると、[翻訳] チェックボックスが読み取り専用になります。追加した新しい名前は、他の有効な言語で自動的に表示されます (括弧なしの青いテキスト)。</p> <p>セールスステージカテゴリの名前を更新したときに [翻訳] チェックボックスをオンにした場合、翻訳された名前を手動で入力するまで、更新された名前は他の有効な言語のピックリストに表示されます (括弧で囲まれた青いテキストで)。青いテキストは、翻訳する必要がある用語を追跡する場合に役立ちます。</p> <p>[翻訳] チェックボックスをオンにしないと、更新された名前は他の言語では表示されず、ここで行った変更は反映されません。</p>

- 7 レコードを保存します。
- 8 新しいセールスステージカテゴリの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [翻訳言語] リストから言語を選択します。
 - b セールスステージカテゴリの [編集] リンクをクリックします。
 - c 翻訳した名前を [ステージカテゴリ] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。

セールスプロセスを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [セールス方法] セクションで、[セールスプロセス] リンクをクリックします。
- 4 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
- 5 [セールスプロセスリスト] ページで、[新規] をクリックして新規セールスプロセスを作成するか、編集するセールスプロセスのレコードレベルメニューから [編集] を選択します。
- 6 [セールスプロセスの編集] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
デフォルトセールスプロセス	企業のデフォルトのセールスプロセス。ユーザー役割またはレコードの商談タイプに他のセールスプロセスが割り当てられていない場合、このセールスプロセスが使用されます。
翻訳	(オプション) 更新した (既存の) 名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。

7 [保存] をクリックします。

8 セールスプロセスを [商談タイプ] フィールド値にリンクするには

- a** [セールスプロセスリスト] ページで、リンクするセールスプロセス名をクリックします。
- b** [関連商談タイプ] タイトルバーの [追加] をクリックします。
- c** [商談タイプ] を選択し、[保存] をクリックします。

注： 各商談タイプにリンクできるセールスプロセスは **1** つのみです。リンク後、商談タイプ値はピックリストから削除され、他のセールスプロセスで選択できなくなります。これで、複数のセールスプロセスが **1** つの商談タイプにリンクされることがなくなります。

選択した値に対応する [商談タイプ] フィールドのあるレコードを従業員が持つ場合、従業員にはこのセールスプロセスのセールスステージが表示されます。

9 新しいセールスプロセスの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。

- a** [セールスプロセスリスト] ページに戻ります。
- b** [翻訳言語] リストから言語を選択します。
- c** セールスプロセスの [編集] リンクをクリックします。
- d** 翻訳した名前を [セールスプロセス] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。

10 セールスプロセスをデフォルトとして使用するようを選択するには

- a** [セールスプロセスリスト] ページで、デフォルトとして設定するセールスプロセスの [セールスプロセス名] リンクをクリックします。
- b** [編集] をクリックします。
- c** [デフォルトのセールスプロセス] チェックボックスをオンにします。
- d** レコードを保存します。

注： このセールスプロセスは、他にリンクされたセールスプロセスがないレコードまたは役割について表示されます。

セールスプロセスのセールスステージを設定するには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3** [セールス方法] セクションで、[セールスプロセス] リンクをクリックします。
- 4** [セールスプロセスリスト] ページで、[セールスプロセス名] リンクをクリックします。

5 セールスステージを設定するには

- a [セールスステージ] タイトルバーで、[新規] をクリックして新規セールスステージを作成するか、編集するセールスステージのレコードレベルメニューから [編集] を選択します。
- b [セールスステージ編集] ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
デフォルト確度	<p>指定したクローズ日に指定した売上で取引がクローズする確率を表すパーセンテージ。デフォルトでは、商談に割り当てられる確度は商談のセールスステージに基づいて自動的に調整されます。ユーザーはこの値を手動で上書きできますが、ユーザーが商談に対して新しいセールスステージを選択すると、商談の [確度 (%)] フィールドの値は、新しいセールスステージに対するデフォルトの確度の値に自動的に更新されます。</p> <p>注： 1 つ以上の商談レコードの [セールスステージ] フィールドの値を変更するために大量更新機能を使用される場合、レコードの [確度 (%)] フィールドの値は、新しいセールスステージに対するデフォルトの確度 (%) に更新されません。</p> <p>重要： [クローズ済み/成立] と [クローズ済み/失敗] を除き、0%または 100%の確度を持つ他のセールスステージは設定しないでください。Oracle CRM On Demand アプリケーションによって内部的に使用されるピックリストを変更すると、標準機能に好ましくない影響が出る可能性があります。</p>
オーダー	セールスステージがピックリストに表示される順序。セールスステージを追加したら、それ以降のすべてのセールスステージの順序値を変更する必要があります。このように、商談ページの [セールスステージ] ドロップダウンリストに、正しい順序で情報を確実に並べることができます。
翻訳	(オプション) 更新した (既存の) 名前を、企業で有効にした他の言語に翻訳する必要があることを示すには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
ステージカテゴリー	このセールスステージが該当するセールスステージカテゴリーの名前。

- 1 レコードを保存します。
- 2 新しいセールスステージの翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a [セールスプロセス詳細] ページの [セールスステージ] セクションで、[リストを全表示] をクリックします。
 - b [セールスステージ] ページの [翻訳言語] フィールドで、言語を選択します。
 - c セールスステージの [編集] リンクをクリックします。
 - d 翻訳した名前を [セールスステージ名] フィールドに入力し、[保存] をクリックします。
- 3 レコードを保存します。

セールスステージに対してコーチ機能を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

- 2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。
- 3 [セールス方法] セクションで、[セールスプロセス] リンクをクリックします。
- 4 [翻訳言語] リストから企業のプライマリ言語を選択します。
企業のプライマリ言語を選択しないと [翻訳] チェックボックスは表示されず、ここに追加した翻訳していない用語は表示されません。
- 5 [セールスステージリスト] ページで、コーチ情報の対象として設定するセールスステージのリンク（[セールスステージ] カラム内）をクリックします。
- 6 フィールドをこのセールスステージに対して必須にするために、次の操作を行います。
 - a [その他の必須項目] タイトルバーの [新規] をクリックします。
 - b [その他の必須項目を編集] ページで、リストからフィールドを選択します。
 - c 画面上に表示されるデフォルト値を入力するためのヒントを確認し、その後、デフォルト（オプション）として設定する値を入力します。
デフォルト値を入力すると、そのフィールドが空白の場合にだけ、デフォルト値はレコードに追加されます。たとえば、レコードに売上値が既に保存されている場合、ここで売上のデフォルト値を指定しても、レコードに既に保存されている売上額は上書きされません。
 - d レコードを保存します。
- 7 ステージにおける目標や重要ステップなど、従業員が確認するセールスステージのガイドラインを追加するには、次の操作を行います。
 - a [プロセスコーチステップ] タイトルバーで、[新規] をクリックします。
 - b [プロセスコーチステップ編集] ページで、この情報の表示順序を示す数字を入力します。
従業員が商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、従業員は最初の **10** 個のサブステップを見ることができます。**10** 個を超えるサブステップを追加した場合、従業員は [リストを全表示] リンクをクリックすることによってリスト全体を見ることができます。
 - c 翻訳対象の情報をマークするには、[翻訳] チェックボックスをオンにします。
 - d レコードを保存します。
このセールスステージにリンクされた商談レコードについて、従業員が自身の商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、この情報がその従業員の [セールスプロセスコーチ] ページに表示されます。
- 8 従業員がセールスステージに適したリソースにアクセスするために使用する添付資料または URL を追加するには、次の操作を行います。
 - a [便利なりソース] タイトルバーで、[添付資料を追加] または [URL を追加] をクリックします。
 - b [添付資料編集] または [URL 編集] ページで、情報を入力します。
 - c レコードを保存します。

従業員が自身の商談レコードから [コーチ] ボタンをクリックすると、このセールスステージにリンクされた添付資料または URL のリストがその従業員のセールスプロセスコーチページに表示されます。

9 従業員がセールスステージを更新すると自動的に生成されるタスクを定義するには、次の操作を行います。

a [自動化タスク] タイトルバーの [新規] をクリックします。

b [自動化タスク編集] ページで、情報を入力します。

ここで設定する情報は各タスクのテンプレートとして使用されます。新しく生成されたタスクはこの商談にリンクされるので、そのタスクは該当する活動リストだけでなく [商談詳細] ページにも表示されます。

注： [締切日] フィールドに数字を入力して、タスクの作成後から締め切りまでの日数を指定する必要があります。たとえば、タスクが 12 月 6 日に作成され、締切日としてここで「10」と入力した場合、12 月 16 日に締め切りになるタスクとして、そのタスクは従業員のタスクリストに表示されます。

所有者の場合、次の動作が適用されます。

- このタスクは、選択した役割が割り当てられているユーザーごとに生成されます。
- どのユーザーも取引先チームの役割を果たしていない場合、このタスクは商談所有者に割り当てられます。

注： レコード所有権モードが自動生成タスクの所有権に与える影響の詳細は、「[レコード所有権モードおよび自動生成タスク](#) [224ページ]」を参照してください。

c レコードを保存します。

企業の業種リストのカスタマイズ

業種リストは、取引先レコードのピックリストのフィールドです。取引先の事業内容を追跡するために使用されます。リストに業種を追加したり、リストから業種を削除したり、現在リストに表示されている業種名を変更したりできます。これにより、社内で使い慣れた命名規則に従って、業種ピックリストを調整できます。

注： リストに追加できる業種の数に制限はありません。

企業の業種リストをカスタマイズするには

1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [ビジネスプロセス管理] セクションで、[データルール&割当] リンクをクリックします。

3 [業界定義] セクションで、[業界定義] リンクをクリックします。

4 [翻訳言語] ドロップダウンリストから企業のプライマリ言語を選択します。

企業のプライマリ言語を選択しないと [翻訳] チェックボックスは表示されず、ここに追加した翻訳していない用語は表示されません。

5 [業界編集] ページで、情報を入力します。

注： 業種の SIC コードは、[業界編集] ページに表示されます。SIC (標準産業分類) システムは、すべての事業を、その製品またはサービスのタイプによって分類する一連の数値コードです。事業規模や所有のタイプとは関係なく、

同じ活動を行う事業には同じ **SIC** コードが割り当てられます。**SIC** コードは、データの収集、表形式化、分析、および統計分析による比較を容易にする目的で開発されました。

- 6 新しい業種の翻訳を手動で入力するには、次の操作を行います。
 - a 「翻訳言語」ドロップダウンリストから言語を選択します。
 - b 翻訳した名前を「表示名」フィールドに入力し、「保存」をクリックします。
- 7 レコードを保存します。

データ管理ツール

「管理ホームページ」の「データ管理ツール」セクションでは、次のタスクを実行できます。

- 企業のデータのインポートとエクスポート。詳細については、「[インポートツールとエクスポートツール](#)『347ページ』」を参照してください。
- 一括削除リクエストの表示。詳細については、「[一括削除キューページ](#)『556ページ』」を参照してください。
- バッチ割当ブックリクエストの表示。詳細については、「[バッチ割当ブックキューページ](#)『557ページ』」を参照してください。
- 統合イベントキューの作成と管理。詳細については、「[統合イベントについて](#)『557ページ』」を参照してください。

インポートツールとエクスポートツール

「インポートツールとエクスポートツール」ページでは、Oracle CRM On Demand でのインポート機能とエクスポート機能を拡張できる次のユーティリティを使用できます。

- **インポートアシスタント**。詳細は、「[インポートアシスタント](#)『527ページ』」を参照してください。
- **Oracle Data Loader On Demand**。詳細は、「[Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ](#)『536ページ』」を参照してください。
- **Oracle Migration Tool On Demand**。詳細は、「[Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ](#)『541ページ』」を参照してください。
- **Oracle Web Services**。詳細については、「[Web サービスの統合](#)『537ページ』の"[Web サービスの統合](#)"参照」を参照してください。

適切なインポート方法を選択する方法の詳細は、My Oracle Support の 1089184.1（記事 ID）を参照してください。

インポートプロセスは次の手順で構成されます。

- [データのインポートの準備](#)『390ページ』
- [データのインポート](#)『527ページ』
- [インポート結果の確認](#)『532ページ』

また、Oracle CRM On Demand から CSV ファイルにデータをエクスポートできます。エクスポートに関する情報については、次の該当するトピックをクリックしてください。

■ データのエクスポート 『534ページ』

■ エクスポート結果の確認 『535ページ』

作業前の準備：

- データをインポートするには、[管理インポート] 権限または [マーケティングリストをインポート] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。[管理インポート] 権限では、すべてのレコードタイプをインポートできます。これに対し、[マーケティングリストをインポート] 権限では、取引先、担当者、および見込み客しかインポートできません。
- ユーザーが最大 2000 人の担当者をインポートする場合は、ユーザーの役割に対して [個人インポート] 権限を有効にする必要があります。この [個人インポート] 権限によって、ユーザーのデータインポートをより詳細に制御できます。役割の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。
- この節全体と、レコードのインポートに関する「使い方」のレッスンを確認します。これらのレッスンでは、インポートを実行するための追加情報（ガイドラインなど）が提供されています。

注：インポートされたレコードを元に戻したり、レコードを大量に削除したりはできません。したがって、後でデータを消去することにならないように、**5 - 10** レコードから成るファイルを使用して、インポート手順の予行練習を行ってください。大量のレコードをインポートする場合は、データのインポートのトレーニングセッションに参加するか、カスタマーサポートにご相談ください。これらのリソースについては、**Oracle CRM On Demand** の各ページの上部にある [トレーニングおよびサポート] リンクをクリックしてください。

- データをエクスポートするには、[エクスポートを管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

カンマ区切り値 (CSV) ファイルからデータをインポートして、**Oracle CRM On Demand** にレコードを自動的に作成できます。各 CSV ファイルのサイズは、**20MB** 未満である必要があります。ファイルサイズを小さくするには、レコードを複数のファイルに分割するか、またはインポートしないカラムを削除してデータを小さくします。『**Oracle Data Loader On Demand Guide**』でサンプル CSV ファイルを確認できます。

次の表では、データをインポートすることで作成できるレコードのタイプ、およびインポートプロセスの各実行でインポートできるレコード数について説明します。

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
取引先	30000
取引先チーム	50000
住所	30000
アポイント	30000
アポイント担当者	50000
アポイントユーザー	50000
資産	80000
担当者（管理者）	30000
担当者チーム	50000
キャンペーン	50000
キャンペーン受取人	50000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
取引交渉登録	30000
見込み客	30000
メモ	50000
オーダー	30000
オーダー項目	30000
商談	30000
商談担当者役割	50000
商談製品	80000
製品	80000
製品カテゴリー	30000
プロパティ	30000
解決策	50000
サービスリクエスト	30000
タスク	30000
タスク担当者	50000
タスクユーザー	50000
ユーザー	500
車両補償内容	50000

実装している業界固有のソリューションに応じて、次のレコードをインポート可能にできます。

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
割当	30000
申込書類	30000
ビジネス計画	30000
請求	30000
担当者の都道府県免許	30000
補償内容	30000
カスタムオブジェクト	30000
損傷	30000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
自動車ディーラー	80000
取引交渉登録	30000
金融口座	30000
金融口座名義人	30000
金融口座保有状況	30000
財務計画	30000
金融製品	30000
金融トランザクション	30000
在庫監査レポート	30000
在庫期間	30000
関連パーティ	30000
保険不動産	30000
MDF リクエスト	30000
メッセージプラン	30000
メッセージプラン項目	30000
メッセージプラン項目関係	30000
メッセージ応答	30000
目標	30000
パートナー	30000
計画取引先	30000
計画担当者	30000
計画商談	30000
保険	30000
保険保有者	30000
ポートフォリオ	30000
価格リスト	30000
価格リスト明細項目	30000
サンプル免責条項	30000

レコードタイプ	最大レコード数 (インポートごと)
サンプル在庫	30000
サンプルロット	30000
サンプルトランザクション	30000
署名	30000
特別価格製品	30000
特別価格リクエスト	30000
トランザクション項目	30000
車両	80000

国と住所のマッピングについて

ここで示す表では、次のことを示しています。

■ Oracle CRM On Demand の [国] フィールドのピックリスト値

Oracle CRM On Demand の [国] フィールドのピックリスト値は編集できません。ファイルのインポート時にすべてのデータを取り込むには、取り込むデータが、句読点や大文字小文字を含めて、自身の国で許容可能な名前と正確に一致することを確認してください。正確に一致しないデータはインポートされません。

注： [国] フィールドのピックリスト値には **30 文字まで** という制限があるので、その制限を超える名前はピックリスト内で切り捨てられます。

■ 国ごとの住所のマッピング

データのインポート時、Oracle CRM On Demand が使用する 9 つの住所フィールドそれぞれについて、カラムを設定する必要があります。次の表では、各国の住所フィールドを Oracle CRM On Demand 内の該当するフィールドにマップする方法について説明します。正確にマップすることにより、アプリケーションの正確なフィールドに、ファイル内のすべてのデータを確実に取り込むことができます。

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱 / 並べ替えコード
アメリカ	8	番地 / 通り	住所 2	住所 3	市	郡	米国の州	郵便番号		
アフガニスタン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
アルバニア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
アルジェリア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
アメリカンサモア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
アンドラ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
アンゴラ	4	通り/ 番地	住所 2		市					
アングイラ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
アンティグアとバー ビュダ島	4				市				島	私書箱
アルゼンチン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
アルメニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
アルバ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
アセンション島	5	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
オーストラリア	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
オーストリア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
アゼルバイジャン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
バハマ	6	住所 1	住所 2		市			Island Code (島コ ード)	島	
バーレン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
バングラデシュ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
アルバドス	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
ベラルーシ	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ベルギー	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ベリーズ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
ベニン	4				市			Boite Postale (ア フリカでの 郵便番号)		並べ替えコード
バーミューダ	5	番地/通り	住所 2		市			郵便番号		
ブータン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ボリビア	4	通り/ 番地	住所 2		市					
ボスニアとヘルツェ ゴヴィナ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ボツワナ	3				市					私書箱
ブーベ島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ブラジル	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県	
英領インド洋地域	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ブルネイダルサラーム 国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ブルガリア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ブルキナファソ	4				市			Boite Postale (ア フリカでの 郵便番号)		並べ替えコード
ブルンジ	3				市					私書箱
カンボジア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
カメルーン	3				市					私書箱

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
カナダ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
カーボベルデ	4	通り/ 番地	住所 2		市					
ケイマン諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
中央アフリカ共和国	3				市					私書箱
チャド	3				市					私書箱
チャネル諸島	5	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
チリ	6	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県	
中国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
クリスマス島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ココス（キーリング）諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
コロンビア	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市				都道府県	並べ替えコード
コモロ	3				市					私書箱
コンゴ	3	通り/ 番地			市					
コンゴ共和国	4				市			Boite Postale（ア フリカでの 郵便番号）		並べ替えコード
クック諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
コスタリカ	6	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号		
クロアチア	4	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
キューバ	4	通り/ 番地			市			Codiga Postal（スベ インでの郵 便番号）		

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
クラサオ島	5	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
キプロス	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
チェコ共和国	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
デンマーク	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ジブチ	3				市					私書箱
ドミニカ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ドミニカ共和国	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
東ティモール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
エクアドル	5	住所 1		フロア	市			郵便番号	都道府県	
エジプト	6	住所 1		地区	市			郵便番号	都道府県	
エルサルバドル	5	通り/ 番地			市			郵便番号	都道府県	
赤道ギニア	3				市					私書箱
エリトリア	3	通り/ 番地			市					
エストニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
エチオピア	3				市					私書箱
フォークランド諸島 (マルビナス)	3	通り/ 番地			市					
フェロー諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
フィジー	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
フィンランド	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
フランス	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
フランス領ギアナ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
フランス領ポリネシア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
フランス南部領土	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ガボン	3				市					私書箱
ガンビア	3	通り/ 番地			市					
ジョージア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ドイツ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ガーナ	3				市					私書箱
ジブラルタル	3	通り/ 番地			市					
ギリシャ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
グリーンランド	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
グレナダ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
グアドループ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
グアム	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
グアテマラ	4	通り/ 番地			市			Codiga Postal (ス ペインでの 郵便番号)		
ギニア	3				市					私書箱
ギニアビサウ	4	通り/ 番地			市			Codiga Postal (ス ペインでの 郵便番号)		
ガイアナ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
ハイチ	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ハード島およびマクドナルド諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ローマ法王庁（バチカン市国）	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ホンジュラス	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県	
香港	7	番地/ 通り	住所 2	地区	市				テリトリーの一部	住所 4
ハンガリー	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
アイスランド	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
インド	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
インドネシア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
イラン（イスラム共和国）	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
イラク	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
アイルランド	6	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市					郡
イスラエル	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
イタリア	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
コートジボワール	4				市			Boite Postale（ア フリカでの 郵便番号）		並べ替えコード
ジャマイカ	6	番地/ 通り	住所 2		市				Parish（ア メリカの群 ）	並べ替えコード
日本	6	丁目	区		市/ 郡			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
ヨルダン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
カザフスタン	4	住所 1			市			郵便番号		
ケニア	4				市			郵便番号		私書箱
キリバス	4	住所 1			市				島	
韓国	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
コソボ	6	Street/Number（町/ 番地）	住所 2	地区	市			郵便番号		
朝鮮民主主義人民共和国	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
クウェート	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
キリギスタン	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ラオス人民民主共和国	5	町/番地	2		市			郵便番号	都道府県	
ラトビア	5	通り/ 番地			市			郵便番号		並べ替えコード
レバノン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
レソト	3				市					私書箱
リベリア	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
リビアアラブ国	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
リヒテンシュタイン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
リトアニア	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現地での郵便番号）		
ルクセンブルグ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
マカオ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
マケドニア（旧ユーゴスラビア）	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
マダガスカル	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
マラウイ	3				市					私書箱
マレーシア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
モルディヴ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
マリ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
マルタ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	島	
マーシャル諸島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
マルチニク	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
モーリタニア	3				市					私書箱
モーリシャス	3	通り/ 番地			市					
マヨット	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
メキシコ	8	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県	Colonia/Section (アメリカ区)
ミクロネシア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
モルダヴィア共和国	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
モナコ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
モンゴル	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替え
モンテネグロ	5	住所 1	Address2		市			郵便番号	都道府県	
モンセラト	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
モロッコ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
モザンビーク	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現 地での郵便 番号）		
ミャンマー	5	住所 1			市			郵便番号		地域区分
ナミビア	3				市					私書箱
ナウル	3			地区						私書箱
ネパール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
オランダ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
オランダ領アンティ ル諸島	5	住所 1	住所 2		市				島	
ニューカレドニア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ニュージーランド	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ニカラグア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ニジェール	3				市					私書箱
ナイジェリア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ニウエ	3				市					私書箱
ノーフォーク島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
北マリアナ諸島	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ノルウェー	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替え

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
オマーン	4							郵便番号	地域	私書箱
パキスタン	6	番地/ 通り	住所 2	住所 3	市			郵便番号		
パラウ	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
パレスチナ自治政府	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
パナマ	5	住所 1			市				都道府県	並べ替えコード
パプアニューギニア	3				市				都道府県	
パラグアイ	4	通り/ 番地	住所 2		市					
ペルー	5	通り/ 番地	住所 2		市					並べ替えコード
フィリピン	7	通り/ 番地	住所 2	地区	市			郵便番号	都道府県	
ピトケアン	1									
ポーランド	4	通り/ 番地			市			Codigo Postal（現 地での郵便 番号）		
ポルトガル	6	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号		
プエルトリコ	5	住所 1			市			郵便番号		URB（市街 域）
カタール	3				市					私書箱
レユニオン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ルーマニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ロシア連邦	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
ルワンダ	3				市					私書箱
サモア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
サンマリノ	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
サントメおよびプリンシペ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
サウジアラビア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
セネガル	3	通り/ 番地			市					
セルビア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
セイシェル	4				市				島	私書箱
シエラレオネ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
シンガポール	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
スロバキア	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		並べ替えコード
スロベニア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
ソロモン諸島	5				市			Island Code (島コード)	島	私書箱
ソマリア	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
南アフリカ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
南ジョージア島および南サンドイッチ島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
スペイン	7	通り/ 番地	住所 2	フロア	市			郵便番号	都道府県	
スリランカ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
セントバーツ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
セントヘレナ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
セントクリストファーおよびネヴィス島	5	住所 1	住所 2		市				島	
セントルシア	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
セントマーチン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
サンピエールおよびミクロン	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
セントビンセントグレナディーン諸島	4	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
スーダン	4				市			郵便番号		私書箱
スリナム	3	通り/ 番地			市					
スバルバル諸島およびヤンマイエン島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
スワジランド	4				市			郵便番号		私書箱
スウェーデン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
スイス	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
シリアアラブ共和国	3	通り/ 番地			市					
台湾	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
タジキスタン	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
タンザニア連合共和国	3				市					私書箱
タイ	7	住所 1	住所 2	住所 3	市			郵便番号	都道府県	
トーゴ	3				市					私書箱
トケラウ	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
トンガ	4				市				島	私書箱

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
トリニダードトバゴ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					
チュニジア	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
トルコ	5	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号		
トルクメニスタン	4	番地/ 通り			市			郵便番号		
タークスアンドケ コス諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
トゥヴァル	4				市				島	私書箱
ウガンダ	3				市					私書箱
ウクライナ	5	住所 1	住所 2		市			郵便番号		
アラブ首長国連邦	3								Emirate (emir の管 轄区域)	私書箱
英国	7	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		郡
合衆国周辺離島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ウルグアイ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ウズベキスタン	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	Oblast (ロ シアの州)	
バヌアツ	3				市					私書箱
ベネズエラ	6	通り/ 番地	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ベトナム	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
バージン諸島 (英領)	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
バージン諸島 (米領)	6	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号	都道府県	
ワリスフツナ諸島	6	住所 1	住所 2		市			郵便番号	都道府県	

国（編集不可の値）	フィールド数	住所 1	Address2	Address3	市	郡	米国の州	郵便番号	都道府県	私書箱/ 並べ替えコード
西サハラ	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
イエメン	3	通り/ 番地			市					
ザンビア	5	番地/ 通り	住所 2		市			郵便番号		
ジンバブエ	5	番地/ 通り	住所 2	フロア	市					

米国用に使用できる州/領土の略語

次の表では、米国用に使用できるピックリスト値を示します。

略語	正式名
AK	アラスカ
AL	アラバマ
AR	アーカンソー
AZ	アリゾナ
CA	カリフォルニア
CO	コロラド
CT	コネチカット
DC	コロンビア特別区域
DE	デラウェア
FL	フロリダ
GA	ジョージア
HI	ハワイ
IA	アイオワ
ID	アイダホ
IL	イリノイ
IN	インディアナ

略語	正式名
KS	カンザス
KY	ケンタッキー
LA	ルイジアナ
MA	マサチューセッツ
MD	メリーランド
ME	メイン
MI	ミシガン
MN	ミネソタ
MO	ミズーリ
MS	ミシシッピ
MT	モンタナ
NC	ノースカロライナ
ND	ノースダコタ
NE	ネブラスカ
NH	ニューハンプシャー
NJ	ニュージャージー
NM	ニューメキシコ
NV	ネバダ
NY	ニューヨーク
OH	オハイオ
OK	オクラホマ
OR	オレゴン
PA	ペンシルベニア
PR	プエルトリコ
RI	ロードアイランド
SC	サウスカロライナ
SD	サウスダコタ
TN	テネシー
TX	テキサス

略語	正式名
UT	ユタ
VA	バージニア
VT	バーモント
WA	ワシントン
WI	ウィスコンシン
WV	ウエストバージニア
WY	ワイオミング

米国用に使用できるメーリングコード

次の表では、米軍の郵便配達に使用する 3 つの正式な州コードを示します。

略語	説明
AE（郵便番号：09xxx）	米軍ヨーロッパ（カナダ、中東、アフリカを含む）。
AK（郵便番号：962xx - 966xx）	米軍太平洋。
AA（郵便番号：340xx）	米軍アメリカ（中央アメリカおよび南アメリカを含む）。

カナダ用に使用できる州/領土の略語

次の表では、カナダの州の正式な略語を示します（テキストフィールド）。

略語	正式名
AB	アルバータ
BC	ブリティッシュコロンビア
MB	マニトバ
NB	ニューブランズウィック
NF	ニューファンドランドラブラドル
NS	ノバスコシア
NT	ノースウエスト
NU	ヌナブト

略語	正式名
ON	オンタリオ
PE	プリンスエドワードアイランド
QC	ケベック
SK	サスカチュワン
YT	ユーコン

レコードの重複と外部 ID について

レコードをインポートするときは、重複レコードの処理方法を次の中から選択できます。

- 重複レコードをインポートしない
- 既存のレコードを上書きする

注：タスク、アポイント、およびメモをインポートする場合は、この上書きオプションは使用できません。これらのレコードタイプでは、常に新しいレコードが作成されます。

- 重複レコードに対して追加のレコードを作成する（担当者および見込み客のみ）

データのインポート時に既存のレコードを上書きする場合、Oracle CRM On Demand では、重複レコードのチェックに使用されるフィールド内の値をチェックして、インポートファイル内のレコードが Oracle CRM On Demand の既存のレコードと重複しているかどうかをチェックします。レコードが重複している場合は、Oracle CRM On Demand により、重複レコードのチェックに使用されるフィールドが除外され、Oracle CRM On Demand の既存のレコードのフィールドが、インポートしたレコードの値に更新されます。

多くのレコードタイプで、[外部 ID] フィールドまたは定義済みフィールドセットを使用して、インポートファイル内のレコードが Oracle CRM On Demand の既存のレコードと重複しているかどうかをチェックできます。重複レコードのチェックに使用されるフィールドとして [外部 ID] を使用する場合は、重複レコードが検出されると、[外部 ID] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。同様に、重複レコードのチェックに使用されるフィールドとして定義済みフィールドセットを使用する場合は、重複チェックに使用されるフィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。

たとえば、[取引先] レコードタイプの場合、[外部 ID] フィールド、または [取引先名] フィールドと [所在地] フィールドの組合せを使用して、重複レコードをチェックできます。ファイル内のレコードが重複している場合、Oracle CRM On Demand の既存のレコードは、インポートファイルのデータで次のように更新されます。

- [外部 ID] フィールドを使用して重複をチェックする場合は、[外部 ID] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。
- [取引先名] フィールドと [所在地] フィールドを使用して重複レコードをチェックする場合は、[取引先名] フィールドと [所在地] フィールドを除いて、Oracle CRM On Demand のレコードの全フィールドが更新されます。

レコードを更新するには

- 1 インポート CSV ファイルに、外部 ID コード、またはそのレコードタイプのすべての重複チェックフィールドのカラムを設定します。

- 2 外部 ID コードまたは重複チェックフィールドの値が、既存レコードの値と正確に一致していることを確認します。外部 ID コードを使用する場合は、それぞれのコードがシステム内で一意でないと正常に更新を実行できません。
- 3 CSV ファイルには、少なくともすべての必須のフィールドを含めます。
- 4 インポートアシスタントのステップ 1 で、「既存のレコードに上書き」を選択します。
- 5 インポートアシスタントの「項目マッピング」ステップで、「外部 ID」フィールドまたはすべての重複チェックフィールドをマップすることを確認します。
- 6 インポートアシスタントのステップをすべて実行して、データをインポートします。

インポートアシスタントを使用してレコードを更新する場合は、「項目マッピング」ステップでマップしたフィールドのみが上書きされます。したがって、更新の必要がなく、重複チェックにも必要ないフィールドは、マップする必要がありません。

外部 ID があり、インポートプロセスで外部 ID をマップしている場合、アプリケーションは、レコードが重複しているかどうかの確認にこれらの ID を使用します。他のレコードタイプをインポートしている場合は、関連付けが **Oracle CRM On Demand** に継承されるように、これらの外部 ID を参照として使用します。

たとえば、**account.csv** ファイルに **account_id** カラムがあり、「外部固有 ID」にマップするとします。担当者をインポートする際に、**contacts.csv** ファイルに **contact_id** カラム（担当者に固有の ID）および **account_id** カラム（**account.csv** ファイル内の ID への参照）が含まれる場合は、**contact_id** を「外部固有 ID」に、**account_id** を「取引先の外部 ID」にマップします。インポートプロセスで、アプリケーションは各担当者レコードの **account_id** フィールドをチェックして、既存の取引先を特定し、その取引先を担当者にリンクします。

外部 ID がなく、ファイルの外部 ID をアプリケーションの外部 ID フィールドにマップしていない場合、アプリケーションは、特定のフィールドを比較することによって、重複を確認します。レコードの重複を確認するために使用するフィールドを次の表に示します。

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
ブックユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のブックを識別している場合は、ブック ID、ブックの外部 ID、またはブック名 ■ ブック内のブックユーザーを識別している場合は、ユーザーのサインイン ID、ユーザーの外部 ID、またはユーザー ID
ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザー ID または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取引先名および所在地 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
取引先ブック	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取引先を識別している場合は、取引先：名前、および取引先：場所 または ■ 取引先を識別している場合は、取引先：外部 ID または ■ 取引先を識別している場合は、取引先：ID ■ ブックを識別している場合は、名前、ブックの外部 ID、またはブック ID
取引先チーム	取引先（取引先名または取引先の外部 ID）およびユーザー（ユーザーID）
担当者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前（名）、名前（姓）、勤務先電話番号、および電子メール または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） <p>注: 担当者がユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。</p>
担当者ブック	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者を識別している場合は、担当者：ID、または担当者：外部 ID ■ ブックを識別している場合は、名前、ブックの外部 ID、またはブック ID
担当者チーム	担当者（担当者名または担当者の外部 ID）およびユーザー（ユーザーID）
製品カテゴリー	<ul style="list-style-type: none"> ■ カテゴリー名 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製品名 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
商談	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商談名および取引先（取引先名または取引先の外部 ID） または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
商談担当者役割	商談名および担当者氏名
商談製品売上	外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) 注: 商談製品売上レコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソースコード または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
キャンペーン受取人	キャンペーン (キャンペーンの外部 ID またはキャンペーン ID)、担当者 (担当者氏名または担当者の外部 ID)、ソースコード 注: 担当者氏名または担当者の外部 ID のいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。
見込み客	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 (名)、名前 (姓)、企業、電話番号、および電子メール または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID) 注: 見込み客がユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
サービスリクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ SR 番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ■ タイトル または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
タスク	重複のチェックなし (常に新しいレコードを作成)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
タスク担当者	タスクの外部 ID、担当者（担当者の外部 ID または担当者氏名）
タスクユーザー	タスクの外部 ID、ユーザー（ユーザーのサインイン ID またはユーザーの外部 ID）
アポイント	重複のチェックなし（常に新しいレコードを作成）
アポイント担当者	アポイントの外部 ID、担当者（担当者の外部 ID または担当者氏名）
アポイントユーザー	アポイントの外部 ID、ユーザー（ユーザーのサインイン ID またはユーザーの外部 ID）
メモ	重複のチェックなし（常に新しいレコードを作成）
資産	外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成）
カスタムオブジェクト 01、02、03	外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） 注: カスタムオブジェクトレコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
カスタムオブジェクト 04以降	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID） 注: カスタムオブジェクトレコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。
ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 口座番号および製品 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
自動車ディーラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
車両	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車両識別番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
車両補償内容	車両および担当者
金融口座	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融口座 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融口座保有状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融口座保有状況の名称 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
財務計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財務計画名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融口座名義人	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融口座名義人名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
保険不動産	<ul style="list-style-type: none"> ■ タイプ または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
金融トランザクション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取引 ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
金融製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金融製品名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
補償内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 補償内容名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
請求	<ul style="list-style-type: none"> ■ 請求番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
保険	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保険証券番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
保険保有者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 証券名義人名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
関連パーティ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関連パーティ名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
損傷	<ul style="list-style-type: none"> ■ 損傷名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ■ パートナー名および所在地 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
パートナープログラム	<ul style="list-style-type: none"> ■ パートナープログラム名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
特別価格リクエスト 注: インポートアシスタントでは、このレコードタイプは[SP リクエスト] と表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ リクエスト名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
申込書類	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
取引交渉登録	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
価格リスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 価格リスト名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
割当	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザー詳細 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
ブローカープロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ■ ブローカープロフィール名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
認定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
試験登録	<ul style="list-style-type: none"> ■ ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
MDF リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ リクエスト名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
コース	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
試験	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
メッセージプラン項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
認定レベル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
コース登録	<ul style="list-style-type: none"> ■ ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
サンプル在庫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係コード または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
在庫期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 開始日 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
計画取引先	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係コード または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
認定リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サンプルロット	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロット番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
トランザクション項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ サンプル または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サンプルトランザクション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
担当者の都道府県免許	<ul style="list-style-type: none"> ■ 免許証番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
ビジネス計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画名 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
在庫監査レポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ レポート日 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
特別価格製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 項目番号 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID) <p>注:特別価格製品レコードがユーザーインターフェイスを使用して作成された場合、Oracle CRM On Demand は重複するレコードをチェックしません。</p>
計画商談	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商談 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
サンプル免責条項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係コード または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
認定リクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ■ ID または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)
メッセージプラン項目関係	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID (他のソフトウェアシステムによって作成) または ■ 行 ID (Oracle CRM On Demand の内部 ID)

レコードのタイプ	重複の判断に使用されるフィールド
メッセージプラン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
計画担当者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者氏名 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）
価格リスト明細項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 明細項目 または ■ 外部 ID（他のソフトウェアシステムによって作成） または ■ 行 ID（Oracle CRM On Demand の内部 ID）

注意：ファイルの更新時には、重複を確認するため、外部 ID または他のフィールドセットのいずれかをマップすることをお勧めします。その両方をマップすると、上書きする必要のない、重複チェックに使用されるフィールドを上書きしてしまうおそれがあります。たとえば、取引先レコードの更新時に、外部 ID、取引先名、所在地をマップし、外部 ID に基づいて重複が見つかった場合、取引先名と所在地はデータベースの既存の値が上書きされます。外部 ID に基づいて重複が見つからなかった場合、取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われ、見つかった場合は、データベースの外部 ID が上書きされます。

取引先のインポートおよび外部 ID に関するまとめ

取引先のインポート時に、アプリケーション側で重複レコードを処理する方法を指定できます。

■ 重複レコードをインポートしない

重複が見つかった場合、重複レコードはインポートされません。

■ 既存のレコードに上書き

重複が見つかった場合、既存のレコードは更新されません。複数の重複が見つかった場合、どのレコードも挿入または更新されません。

インポート時の処理方法を選択した後、取引先のインポートで利用可能な 2 つの外部 ID など、フィールドのマッピングオプションを選択します。

■ 外部固有 ID。インポートする現在のレコードの外部 ID を参照します。ここで説明しているように外部固有 ID は重複チェックに直接関係します。

- **親取引先の外部 ID。**現在のレコードの親レコードの外部 ID を参照します。

これらの外部 ID に関する動作はそれぞれ独立しています。

外部固有 ID のシナリオ

シナリオ A - 外部固有 ID がマップされていない

取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われます。重複が見つかった場合の動作は、選択した重複チェックオプションによって決まります。

シナリオ B - 外部固有 ID がマップされている

外部固有 ID を使用して重複レコードが検索されます。

- シナリオ B1 - 重複した外部 ID が 1 つ見つかった

現在重複が見つかったレコードのほかに取引先名および所在地についても、重複があるかどうかチェックされます。重複が見つかった場合、どのレコードも更新または挿入されません。

重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、取引先名および所在地を含め、レコードは更新されます。

重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、どのレコードも更新または挿入されません。

- シナリオ B2 - 重複した外部 ID が複数見つかった

どのレコードも挿入または更新されません。

- シナリオ B3 - 重複した外部 ID が見つからない

取引先名および所在地に基づいて重複チェックが行われます。

- シナリオ B3a - 重複した取引先名および所在地が見つからないレコードが挿入されます。

- シナリオ B3b - 重複した取引先名および所在地が 1 つ見つかった
重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、**外部固有 ID** を含めて、レコードは更新されます。重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、レコードは更新されません。

- シナリオ B3c - 重複した取引先名および所在地が複数見つかった
どのレコードも挿入または更新されません。

シナリオ C - 外部固有 ID がマップされていない

取引先名および所在地は重複チェックを行うために使用されます。

- シナリオ C1 - 重複した取引先名および所在地が 1 つ見つかった

重複チェックオプションが「既存のレコードに上書き」に設定されている場合、レコードは更新されます。

重複チェックオプションが「重複レコードをインポートしない」に設定されている場合、どのレコードも更新または挿入されません。

- シナリオ C2 - 重複した取引先名および所在地が複数見つかった

どのレコードも挿入または更新されません。

- シナリオ C3 - 重複した取引先名および所在地が見つからない

レコードが挿入されます。

親取引先の外部 ID のシナリオ

親取引先の外部 ID は、関連する親取引先レコードを設定するためだけに使用されます。この ID は重複チェックまたは更新に影響を与えません。

シナリオ A - 親取引先の外部 ID がマップされている

親取引先の外部 ID は、親取引先を特定するためだけに使用されます。

- シナリオ A1 - 複数のレコードが親取引先の外部 ID に一致した
親取引先は設定されません。
- シナリオ A2 - 1 つのレコードが親取引先の外部 ID に一致した
親取引先が設定されます。
- シナリオ A3 - どのレコードも親取引先の外部 ID に一致しない
親取引先は設定されません。

シナリオ B - 親取引先の外部 ID がマップされていない

親取引先の名前および所在地は、親取引先を特定するためだけに使用されます。

- シナリオ B1 - 複数のレコードが親取引先の名前および所在地と一致した
親取引先は設定されません。
- シナリオ B2 - 1 つのレコードが親取引先の名前および所在地と一致した
親取引先が設定されます。
- シナリオ B3 - どのレコードも親取引先の名前および所在地と一致しない
親取引先は設定されません。

インポート時のレコードのリンク

レコードをインポートするときに、インポートするレコードをデータベース内の既存のレコードにリンクできます。たとえば、担当者レコード（墨田純）を取引先レコード（墨田自動車修理工場）にリンクすることができます。

インポート時に別のレコードをリンクするには、データベース内にすでにレコードが存在する必要があります。したがって、複数のタイプのレコードをインポートするときは、[インポートツールとエクスポートツール] ページに表示されている順にインポートすることをお勧めします。たとえば、取引先レコードをインポートしてから担当者レコードをインポートします。

インポート時に、次のいずれかの方法でレコードをリンクできます。

- リンクするレコードの名前を指定
- 外部 ID コードを指定

どちらの場合も、インポートファイル（CSV ファイル）にデータの入った列があることを確認する必要があります。

名前を使用したレコードのリンク

名前を指定してレコードをリンクするには、インポートファイルに、リンクするレコードの名前の列を追加します。たとえば、取引先にリンクする担当者レコードをインポートする場合、次の操作を行います。

- インポートファイルに「取引先名」列を追加
- 担当者レコードごとに適切な取引先名を指定
- インポートアシスタントを使用して担当者レコードの「取引先」フィールドに「取引先名」列をマップ

注：データベース内に存在しない取引先が関連付けられている担当者レコードをインポートする場合は、インポート時に取引先を作成できます。システム生成の取引先レコードは、担当者の住所を、請求および出荷先住所として使用します。この機能を有効にするには、インポートアシスタントのステップ 1 で、「関連レコードを作成する」オプションを選択します。

外部 ID を使用したレコードのリンク

アプリケーション内の各レコードに対して、「外部 ID」フィールドに一意の識別コードをインポートできます。それ以降のインポートでは、この「外部 ID」フィールドを使用してレコード間のリンクを作成できます。

たとえば、担当者レコードのエクスポートファイル（CSV ファイル）は、個々の担当者に関連付けられた取引先を示しています。各取引先は、名前ではなく、「取引先コード」カラムの数値コードで表されます。これらのレコードをインポートするときは、まず取引先レコードをインポートし、CSV ファイルの「取引先コード」カラムをアプリケーションの「外部 ID」フィールドとマップします。次に、担当者レコードをインポートし、CSV ファイルの「取引先コード」カラムを Oracle CRM On Demand の担当者レコードの「取引先外部 ID」フィールドとマップします。これにより、担当者レコードと取引先レコードのリンクが作成されます。

データチェックのガイドライン

Oracle CRM On Demand にインポートする前に、CSV ファイルのデータをチェックします。

- 1 該当するデータのフィールドタイプに関するガイドラインをチェックします。詳細は、「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)」『385ページ』を参照してください。
- 2 インポートする各レコードタイプに関する固有の情報をチェックします。

[インポートツールとエクスポートツール] ページのドロップダウンリストに、レコードをインポートする推奨順序が表示されます。リストに表示されるレコードタイプは、実装している業界固有のソリューションによって異なりますが、このリストに表示されている順序でレコードタイプをインポートする必要があります。

注：データチェックのガイドラインでは、米国およびカナダ版の Oracle CRM On Demand での例を使用しています。その他の国向けの Oracle CRM On Demand では、有効な値のデフォルトのリストが変更されていることがあるため、このトピックの情報とは異なる場合があります。たとえば、有効な州の値は、米国およびカナダ版以外の Oracle CRM On Demand では異なります。さらに、有効な値はサポートされている言語によっても異なる場合があります。

エクスポート CSV ファイルのフィールド順序は、Oracle CRM On Demand によって決定され、いつでも変更できます。したがって、エクスポート CSV ファイルのフィールドが特定の順序になることを期待しないでください。iTAG またはフィールド名の値を変更しても、エクスポートファイルのフィールドの順序には影響しません。フィールドの順序をさらに制御する場合は、Oracle Web サービスの使用を検討してください。

データインポート時のフィールドタイプのガイドライン

インポートするデータが、該当するフィールドタイプの仕様を満たしていることを確認します。このトピックで説明するフィールドタイプは次のとおりです。

- テキスト
- ピックリスト
- 数値
- 整数
- 通貨
- 率
- チェックボックス
- 電子メール
- 電話
- 日時
- 日付

テキスト

Oracle CRM On Demand の各テキストフィールドには最大長が設定されています。最大長を超える文字はインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

ヒント： インポートするデータの長さを最大長と比較します（ファイルをスプレッドシートアプリケーションで開き、スプレッドシート機能の 1 つを使用して、カラムの最大長の値を確認します）。データが最大長を超える場合は、データをカスタムフィールドにインポートし、データを 2 つの個別のフィールドに分割するか、目的の長さに収まるように一部のデータを省略することをお勧めします。

ピックリスト

ピックリストフィールドを使用すると、そのフィールドの値のリストから値を選択できます。インポートプロセスでは、CSV ファイルからアプリケーションに新しいピックリスト値を追加するか、追加しないかを指定できます。

注： ユーザーの言語設定が企業レベルの言語設定と同じである場合は、常にピックリスト値のオプションが表示されます。ユーザーの言語が企業の言語設定と異なる場合は、このオプションは表示されません。たとえば、企業の言語がフランス語の場合、言語をフランス語に設定しているユーザーにはこのオプションが表示されますが、同じ企業のユーザーでも英語に設定しているユーザーには表示されません。

追加しないことを選択すると、アプリケーションの値に厳密に一致するピックリスト値だけがインポートされます（値では大文字小文字が区別されます）。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

企業の管理者は、いくつかの特定のフィールドを除き、フィールドのピックリスト値を変更できます（例外については、インポートするレコードタイプのガイドラインを参照してください）。

注： データのインポート時に新しいピックリスト値を追加するオプションを選択した場合、これらの新しいピックリスト値は 24 時間が経過するまでレポートに表示できないことがあります。そのため、その時間はフィルターとして新しいピックリスト値を使用できない場合があります。

ファイルのデータをアプリケーションの有効な値と比較するには

- 1 スプレッドシートアプリケーションでファイルを開きます。

ヒント： ファイルを **Microsoft Excel** で開いた場合は、オートフィルタ機能を使用して、ファイルの特定の列に表示される値を確認できます。

- 2 Oracle CRM On Demand の有効な値とファイルの値とを比較します。そのためには、次の該当する操作を行います。

- 管理者の場合は、アプリケーションの [管理] グローバルリンクをクリックし、値を比較するフィールドが含まれる [フィールドセットアップ] ページを表示します。
- Oracle CRM On Demand で、適切なタブをクリックしてレコードを選択します。[編集] ページで、確認したいフィールドのドロップダウンリストをクリックし、値をデータと比較します。

ヒント： インポートデータを、既存の値に一致する値を持つものだけに制限する場合は、インポートしたすべてのデータが既存の値と一致することを確認します。一致しているかどうかを確認する場合は、大文字小文字が問題になります。有効な値に一致するようにインポートファイルのデータを変更することも、ピククリスト値をアプリケーションに追加することもできます（「[ピククリスト値の変更](#) 『85ページ』」を参照）。

数値

インポートデータとして、-2,147,483,648 から 2,147,483,647 の範囲の任意の数値が有効です。インポートデータのカンマも、小数点の後の桁も無視されます（丸められません）。たとえば、次のすべての有効な値はアプリケーションでは 1,234 と表示されます。

1234
1,234
1234.9

インポート時に、予期しない文字を持つ値が見つかった場合、または値が許容範囲を超えている場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、数値フィールドはアプリケーションの共通の形式で表示されます（1,234 など）。

整数

整数は-2147483648 から 2147483647 までの任意の数値です。

通貨

インポートデータは最大 15 桁の有効な数値です。インポートデータのカンマは無視されます。小数点の後の数字は小数点以下第 2 位の最近似値に丸められます。インポートデータの前には、\$またはその他の通貨文字が付きます。負の数値も有効です。

インポート時に、予期しない文字が含まれた値が見つかった場合、または値の桁数が多すぎる場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、通貨フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます（\$1,000,000.00 など）。

率

インポートデータは最大 **15** 桁の有効な数値です。インポートデータのカンマは無視されます。小数点の後の数字は小数点以下第 **2** 位の最近似値に丸められます。負の数値も有効です。インポートデータは、前または後に **%** 文字を付けることができ、数字と **%** の間に任意数のスペースを挿入できます。たとえば、次のすべての有効な値はアプリケーションでは **1,234.36%** と表示されます。

1234.36
1,234.36
1234.35678
1234.36%
1,234.36 %

インポート時に、予期しない文字を持つ値が見つかった場合、または値が許容範囲を超えている場合は、フィールドのデータはインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

インポートする形式にかかわらず、率フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます (**1,234.36%** など (カンマで桁が区切られ、後ろに **%** 符号が付く))。

チェックボックス

チェックボックスの設定はオンとオフの **2** つだけです。次の表では、データをインポートするときに使用できる値を示しています。これらの値は大文字小文字が区別されないため、アプリケーションは「true」や「t」なども認識します。

チェックボックスがオン	チェックボックスがオフ (選択されていない)
1	0
Y	N
はい	いいえ
T	F
True	False
確認済み	未確認

インポートデータが他の値の場合は、アプリケーションのチェックボックスフィールドはオフの設定になります。このような状況が発生しても、インポート結果の電子メールメッセージは警告として送信されません。

異なる言語環境下でインポートする場合は、表内の値の翻訳を使用する必要があります。ただし、表内の上から **2** 行に示した値 (**Y**、**N**、**1**、**0**) は、言語設定にかかわらず、アプリケーションによって認識されます。

ヒント： オンの設定になることが予想されるにもかかわらず、インポート時にオンの設定が認識されない値を確認します。これらの値は、インポートする前に **Y** に変換してください。

インポートプロセスで、インポートするレコードタイプのチェックボックスフィールドがインポートファイルのフィールドにマップされていない場合は、インポートする各レコードについてその値がオフに設定されます。

電子メール

インポートデータが任意の形式と一致しない場合、フィールドのデータはインポートされません。次の基準は無効とみなされます。

- 電子メールアドレスの最後または先頭に記号 (@) またはピリオド (.) を使用できません。両方の記号の前後には英数字が必要です。たとえば、次の値は有効ではありません。

a@.
@a.
@.a
a@a.
a@.a
@a.a

- 空文字列
- 長すぎる文字列
- @の前に文字がない (@rightequip.com など)
- @がない (isamplerightequip.com)
- ピリオド (.) がない (isample@rightequipcom など)
- ドメインがない (isample@など)
- com などのドメインのサフィックスがない (isample@rightequip など)
- @が複数ある (isample@@rightequip.com など)
- ピリオド (.) が連続している (isample@rightequip..com など)
- 文字列の間に空白がある (isa mple@rightequip など)
- 電子メールアドレスのローカルパートに、次に該当しない文字がある
 - 大文字と小文字の文字 (大小は区別されない)
 - 0 から 9 の数字
 - ! # \$ % & ' * + - / = ? ^ _ ` { | } ~ .
- 電子メールアドレスのドメイン名に特殊文字 ! # \$ % & ' * + - / = ? ^ _ ` { | } ~ () が含まれている

形式が誤っているためにフィールドのデータがインポートされなかった場合は、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

電話

電話番号データの入力に適用される同じ形式ルールが、電話番号データのインポートにも適用されます。認識される電話番号形式のデータはアプリケーションで一貫性のある形式に変換されます。

テキストフィールドに適用されるフィールドの長さのルールが、電話番号フィールドにも適用されます。特に、インポートデータがアプリケーションのフィールドの最大長を超える場合、超えた文字はインポートされません。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

日時

インポートデータには、複数の異なる日時表現を含めることができます。インポートプロセスの一環として、CSV ファイルで使用する形式を選択します。

インポートする形式にかかわらず、日時フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます（01/19/1964 12:15 PM など）。データの表示に使用される形式は、[個人詳細] ページに表示されるユーザーのロケールの設定によって決まります。

日時の値は、インポートを実行しているユーザーがアプリケーションの [個人詳細] ページで指定したタイムゾーンに対して適切であると見なされます。ただし、日時をインポートした後は、異なるタイムゾーンからデータを表示しているユーザーに対しては、そのユーザーのタイムゾーンに対して調整された日時が表示されます。

ヒント： インポートを実行しているユーザーのタイムゾーンが、インポートデータファイルの日時のタイムゾーンと一致していることを確認してください。たとえば、インポートデータで指定された日時が太平洋標準時に関連している場合に、東部標準時ゾーンのユーザーがそのデータをインポートすると、すべての時刻は 3 時間遅れで表示されます。この問題を解決するには、時刻が正しくインポートされるように、インポート時にタイムゾーンを一時的に太平洋標準時に設定します。インポートを開始する前に、インポートファイルの日時のタイムゾーンを必ず確認してください。ほとんどの場合は、CSV データファイルの日時はグリニッジ標準時 (GMT) 形式なので、インポートの前にこの点を必ず確認してください。

■ [日時] フィールドタイプの日付について

インポートアシスタントを実行する場合は、インポートデータの日付で月 (MM) を先にするのか、日 (DD) を先にするのかを指定する必要があります。月を先にするように指定すると、次の形式がサポートされます。

MM/DD/YY
MM/DD/YYYY
MM/DD (年のデフォルトは現在の年)

日を先にするように指定すると、次の形式がサポートされます。

DD/MM/YY
DD/MM/YYYY
DD/MM (年のデフォルトは現在の年)

インポートデータの形式を YYYY-MM-DD と指定することもできます。

これらのどの形式でも、日付または月が 1 桁の場合は、MM と DD の先頭に 0 を挿入できます。ただし、0 は必須ではありません。

注： 現時点では、DD-MON-YY または DD-MON-YYYY 形式の日付はサポートされていません。

■ [日時] フィールドタイプ時刻について

インポートデータでは時刻を指定できます。日付とともに時刻を指定するには、日付の後にスペースを挿入し、その後時刻を指定します。日付とともに時刻を指定しない場合は、時刻は 00:00:00 (深夜) に設定されます。次の時刻形式がサポートされています。

HH24:MI:SS
HH:MI:SS AM

(HH24 は 24 時間制の時刻を表します。HH が 12 時間制の場合は、AM は AM または PM を表します)

MI または SS は省略できます。省略した場合は、インポート時に 00 に設定されます。値が 1 桁の場合は、HH、MI、および SS の先頭に 0 を挿入できます。ただし、0 は必須ではありません。

注： インポート中に選択する日時形式オプションに関係なく、インポートプロセスでは 24 時間制の時刻を使用します。たとえば、デフォルトのカナダ形式 (hh:mm:ss AM/PM) を選択し、ファイルが 15:00:00 という時刻を示している場合、データは 3:00:00 PM として適切にインポートされます。

日付

アプリケーションの日付タイプフィールドを使用すると、日付の入力と表示だけが可能になり、時刻は指定できません。これらのフィールドの 1 つにインポートする場合は、有効なインポートデータ形式は日時タイプのフィールドと同じになります。ただし、インポートデータで時刻を指定しないでください。時刻を指定しても、インポート時に無視されます。

インポートする形式にかかわらず、日付フィールドは、アプリケーションの共通の形式で表示されます (12/18/2003 など)。

必須のフィールドについて

フィールドが (デフォルトで、または管理者によって) 必須と指定されている場合は、その必須のフィールドを CSV ファイルのカラムにマップしないと、レコード全体が拒否されます。このような状況が発生すると、インポート結果の電子メールメッセージが警告として送信されます。

ヒント: インポートしているレコードタイプのフィールドを確認して、必須のフィールドを調べます。インポートデータに、これらのすべてのフィールドの有効な値が含まれることを確認してください。

読み取り専用フィールドについて

インポート中、読み取り専用フィールドは次のような動作をします。

- 読み取り専用フィールドにピックリストがある場合、そのフィールドとインポートするフィールドとの間でピックリスト値が正確に一致している必要があります。
- フィールドに読み取り専用でアクセスしている場合、そのフィールドにデータをインポートすることはできません。

データのインポートの準備

Oracle CRM On Demand へのデータのインポートを開始する前に、使用するインポート方法を決定する必要があります。適切なインポート方法を選択する方法の詳細は、「[インポートツールとエクスポートツール](#) [347ページ]」を参照してください。たとえば、Oracle Data Loader On Demand ユーティリティでは、特定のレコードタイプのみがサポートされています。詳細は、『Oracle Data Loader On Demand Guide』を参照してください。また、インポートを実行する前に、『Before You Import Data』に目を通すことをお勧めします。

すべてのファイルデータが確実にインポートされるように、場合によっては、CSV ファイルのデータを編集したり、Oracle CRM On Demand をカスタマイズしたりする必要があります。この操作が必要かどうかを確認するには、インポートを開始する前に次の手順を実行します。

- インポートするレコードのタイプを決定します。

見込み客、取引先、担当者、およびメモなどの異なるレコードタイプをインポートすることができます。同時にインポートできるレコードタイプは 1 つだけです。また、推奨のインポート手順に従う必要があります。

たとえば、1 つのファイルに担当者のリストが含まれ、別のファイルに取引先が含まれる場合は、最初取引先をインポートし、次に担当者をインポートして、これらのレコードタイプ間に設定された関係を保持します。

この手順の順序は、[インポートツールとエクスポートツール] ページのユーザーインターフェイス自体に表示されます。

- ファイルのデータを調べて、次の内容を確認します。
 - 大文字小文字、略語、綴りに一貫性があること

テキスト値は、CSV ファイルに表示されるとおりにインポートされます。したがって、大文字小文字に違いがあると、不要な追加のレコードが作成されることがあります。たとえば、取引先名に ABC、abc、A.B.C. の値を指定すると、いずれも新しいレコードが作成されます。

さらに、取引先名と場所が同じ場合は、2 つの取引先レコードは同一と見なされるので、追加のレコードが作成されないように、住所の綴り、大文字小文字、略語を一致させる必要があります。たとえば、次のすべてのレコードは同一と見なされ**ません**。

ABC, 111 10th Avenue

ABC, 111 10th Ave.

ABC, 111 10th Ave

ABC, 111 Tenth Avenue

- 許容される最大長を超えないこと
- 該当するフィールドの形式の要件に従っていること

詳細については、「[データチェックのガイドライン](#) 『384ページ』」を参照してください。

- アプリケーション側でインポートするレコードタイプの必須のフィールドを確認します。

CSV ファイルのデータをすべての必須フィールドにマップする必要があります。マップしないと、レコードは拒否されます。必須フィールドを確認するには、インポートするレコードタイプの編集ページを参照してください。必須のフィールドは赤色のテキストで表示されます。

- アプリケーションのデフォルトのフィールドにマップされないデータをインポートする場合は、アプリケーションにフィールドを追加します。

インポートプロセスでは、ファイル内のすべてのフィールドをアプリケーションの既存のフィールドにマップして、そのデータを取得する必要があります。[アプリケーションをカスタマイズ] 権限を含む役割が割り当てられている場合は、新しい（カスタム）フィールドを Oracle CRM On Demand で作成し、既存のフィールドにマップできます。手順については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

- 必要に応じてピックリスト値を設定します。

インポートプロセスでは、アプリケーションの既存のピックリスト値に一致しない CSV ファイルのピックリスト値をアプリケーションで処理する方法を指定できます。

- 新しい値としてアプリケーションに追加する

注：アプリケーションのピックリスト値の変更を確認するには、サインアウトして、再びサインインする必要があります。

- 追加しない（一致する値だけを取得し、他の値は空白にしておく）

アプリケーションに存在するピックリスト値を使用して、その値に一致するデータだけをインポートする場合は、綴りと大文字小文字（値では大文字小文字が区別される）を含めて、ピックリスト値が厳密に一致していることを確認します。

一部のピックリスト値は変更できないため、この動作に従わないものもあります。「[データチェックのガイドライン](#) 『384ページ』」を参照し、インポートするレコードタイプのガイドラインを確認してください。

- 正しい時刻形式を選択します。

HH:MM:SS AM の形式を選択すると、CSV ファイル内でデータが AM または PM であるかどうかを示されます。AM/PM の時刻形式を選択しても、データに AM または PM が含まれない場合、フィールドは次のように処理されます。

- HH フィールドが 8 以上で 12 以下の場合、これらのフィールドは AM とみなされます。
- HH フィールドが 7 以下と 13 以上の場合、これらのフィールドは PM とみなされます。たとえば、7:00:00 は 7:00 PM と処理され、9:00:00 は 9:00 AM と処理されます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [ピックリスト値の変更](#) 『85ページ』
- [インポートツールとエクスポートツール](#) 『347ページ』

データのインポート準備の詳細は、My Oracle Support の 565278.1（記事 ID）を参照してください。

取引先ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブック取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定に関する情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#) 『229ページ』」を参照してください。

デフォルトのブック取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ブック	文字列	150	なし
ブック Id	文字列	15	なし
ブックの外部 ID	文字列	30	なし
取引先: ID	文字列	15	取引先識別子。
取引先	文字列	100	なし
取引先部署	文字列	50	なし
取引先の外部 ID	文字列	30	なし
開始日	日付	なし	レコードの有効化の実行が必須の日付。
終了日	日付	なし	レコードの有効化の終了が必須の日付。

デフォルトのブック取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
将来のプライマリフラグ	文字列	1	将来のプライマリフラグの値が [Y] に指定されている場合は、ブックが有効化されたときに、現在のレコードのブックがデータオブジェクトのプライマリとして設定されます。このフィールドは、[開始日] フィールドに基づいています。このフィールドの値は [Y]、[N] です。

取引先フィールド：インポートの準備

次の表では、取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) **『385ページ』**」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
取引先名	テキスト	100	このフィールドはデフォルトでは必須です。したがって、インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
取引先タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [競合会社]、[顧客]、[パートナー]、[見込み顧客] です。
年間売上	通貨	15	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドの値は、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 1	テキスト	200	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	<p>有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は [アメリカ] です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [Township (カナダの郡区)] の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先米国の州	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
訪問頻度	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
名前のふりがな	テキスト	100	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
病院識別番号	テキスト		医療施設番号。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
業種	ピックリスト	50	このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。他の方法として、企業の Oracle CRM On Demand 管理者が、カスタム [取引先] フィールドを作成し、有効な値を設定することで、その値をインポートデータに含めることができます。この場合は、このフィールドではなく、カスタムフィールドにデータをインポートできます。 有効なデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[金融サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サー

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			ビス]、[通信業] です。
影響タイプ	テキスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
統合 ID	テキスト	30	なし
最終訪問日	UTC 日時	7	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
場所	テキスト	50	ほとんどの場合、このフィールドを使用してレコードが重複しているかどうかを判断します。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について 『368ページ』 」を参照してください。 たとえば、取引先 XYZ の本社と支社を識別するために、アプリケーションは、取引先の名前と所在地の両方をチェックして、レコードが重複しているかどうかを判断します。
代表 FAX 番号	電話	40	なし
代表電話番号	電話	40	なし
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
市場セグメント	テキスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このテキストは変更できません。
マーケットシェア	数値	22	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
従業員数	整数	なし	なし
医師数	数値	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
親取引先	テキスト	100	有効な取引先名になっている必要があります。
親取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
親取引先部署	テキスト	50	なし
パートナー	チェックボックス	なし	この取引先がパートナーであるかどうかを示します。
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [低]、[中]、[高] です。
取引先株式会社	チェックボックス	なし	株式会社である（株式非公開会社ではない）場合は、このフィールドをオンに設定します。
取引先を再割当	チェックボックス	なし	取引先を再度割り当てる必要があることを示します。インポートした場合、企業の管理者またはマネージャが再割り当て機能を設定すると、この取引先レコードに対して自動割り当て規則が適用されます。
問い合わせ	チェックボックス	なし	見込み顧客に割り当て可能な参照にこの取引先が相当する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
リファレンス開始日	日付	なし	なし
地域	ピックリスト	25	有効なデフォルト値は [東]、[西]、[中央部] です。
ルート	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			できます。
出荷先住所	ピックリスト	100	<p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。</p> <p>この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。</p>
出荷先住所 1	テキスト	200	<p>国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	<p>国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先国	ピックリスト	30	<p>有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は [アメリカ] です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [Township (カナダの郡区)] の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>

デフォルトの取引先 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、 [MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
納入先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。 [共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
ソースキャンペーン	ピックリスト	30	その取引先を生成したキャンペーン。
状態	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
テリトリー	テキスト	255	なし
Web サイト	テキスト	100	このフィールドのインポートされたデータに対して形式のチェック（長さのチェックを除く）は行われません。
年度累計売上	数値	22	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

取引先チームフィールド：インポートの準備

次の表では、取引先チームを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引先チームフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
取引先アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[完全]、[読み取り専用]、[編集]、[所有者] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
取引先部署	テキスト	50	なし
取引先名	テキスト	100	なし
担当者アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
商談アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし] です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
チームの役割	テキスト	20	有効なデフォルト値は、[所有者]、[エグゼクティブスポンサー]、[コンサルタント]、[パートナー]、[その他] です。
ユーザーID	テキスト	50	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

認定のフィールド：インポートの準備

次の表では、認定データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	説明
認定料金	通貨	22	なし。
認定 ID	テキスト	50	認定の内部識別子は一意にすることをお勧めします。
使用可能期間開始	日付	7	なし。
使用可能期間終了	日付	7	なし。
会社名	テキスト	50	なし。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、 Oracle CRM On Demand に認定担当者がすでに存在している場合に使用します。
説明	テキスト	250	なし。
電子メール	テキスト	40	認定担当者の電子メールアドレス。
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドは、 Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定担当者の名前 (名) を入力します。
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドは、 Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定担当者の名前 (姓) を入力します。
名前	テキスト	50	認定名は一意にすることをお勧めします。
目標	ピックリスト	50	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	50	認定担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし。
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし。
更新可能	チェックボックス	1	なし。
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[セールス]、[テクニカル]、[サービス]、[インストラクション]、[アップグレード]、[デ

			ザイン]、[セキュリティ] です。
有効 (月)	数値	22	なし。
Web サイト	テキスト	100	追加の認定情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [認定のフィールド](#)

認定リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、コース認定のリクエストデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定リクエストフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
認定日	日付	7	なし
認定名	ピックリスト	15	なし
認定番号	テキスト	50	通常、認定番号は一意です。
認定状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[リクエスト済み]、[認可]、[拒否] です。
説明	テキスト	250	なし
失効日	日付	7	なし
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
パートナー名	ピックリスト	15	なし
プラン	ピックリスト	15	なし

更新可能	チェックボックス	1	なし
リクエスト日	日付	7	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

住所フィールド：インポートの準備

次の表では、住所を Oracle CRM On Demand にインポートする前のレコードの設定に関する情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの住所 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
アドレス名	テキスト	100	このフィールドは必須で、一意である必要があります。
国	テキスト	30	なし
住所 1	テキスト	200	なし
住所 2	テキスト	100	なし
住所 3	テキスト	100	なし
都道府県	テキスト	30	なし
市	テキスト	50	なし
都道府県	テキスト	50	なし
郵便番号	テキスト	30	なし
説明	テキスト	100	なし
コメント	テキスト	1999	なし

割当のフィールド：インポートの準備

次の表では、割当を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの割当 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
割当タイプ	テキスト	30	なし
割当数量	数値	22	営業員が管理者から割り当てられた製品の数量。
終了日	日時	7	製品の払出が可能な最終日。
最大数量	数値	22	営業員が一定期間に顧客に納入できる製品の数量。
ソートキー	数値	22	リスト内の製品の表示順序。
サンプル	テキスト	15	割当に関連付けられている製品名。
開始日	日時	7	流通を開始する日。
サンプリングの停止フラグ	ブール	1	このフィールドがオンの場合、今後は製品を払出できません。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』
- [データのインポート](#)『527ページ』

申込書類のフィールド：インポートの準備

次の表では、申込書類レコードを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの申込書類フィールド名	データタイプ	最大長	説明
------------------	--------	-----	----

デフォルトの申込書類フィールド名	データタイプ	最大長	説明
住所 住所 1	可変長文字列	200	申請を行う企業の住所（番地）。
住所 住所 2	可変長文字列	100	なし
住所 住所 3	可変長文字列	100	なし
住所 市区郡	可変長文字列	50	なし
住所 国	可変長文字列	30	なし
住所 私書箱/並べ替えコード	可変長文字列	200	なし
住所 都道府県	可変長文字列	50	なし
住所 米国の州	可変長文字列	10	なし
住所 郵便番号	可変長文字列	30	なし
年間売上	数値	22	企業の年間売上の合計。
承認状態	可変長文字列	30	申込書類の現在の承認状態。
承認日	日付	7	申込書類が承認された日時。
キャンペーン	可変長文字列	15	パートナーの申込を勧誘するキャンペーンの名前。
携帯電話番号	可変長文字列	40	提出者の携帯電話番号。
現在の承認者	可変長文字列	15	現在の承認者の名前。
電子メールアドレス	可変長文字列	100	提出者の電子メールアドレス。
既存のパートナーシップ	可変長文字列		既存のパートナーシップのリスト。
予想パートナーシップ給付金	可変長文字列	500	パートナーシップの予想利益のリスト。
名前（名）	可変長文字列	50	提出者の名前（名）。
業種	可変長文字列	50	企業が他社と競合している業種。
肩書	可変長文字列	75	提出者の肩書。
名前（姓）	可変長文字列	50	提出者の名前（姓）。
場所	可変長文字列	50	企業の所在地。
代表 FAX 番号	可変長文字列	40	企業の代表 FAX 番号。
代表電話番号	可変長文字列	40	会社の代表電話番号。
名前	可変長文字列	50	会社の名前。
従業員数	数値	22	企業の従業員の合計数。

デフォルトの申込書類フィールド名	データタイプ	最大長	説明
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
パートナー	可変長文字列	15	この申込書類に関連付けられているパートナー。
パートナープログラム	可変長文字列	15	申込書類に関連付けられているパートナープログラムの名前。
パートナータイプ	可変長文字列	30	申込書類を提出しているパートナーのタイプ。
プログラムレベル	可変長文字列	30	申込書類に関連付けられているパートナープログラムのレベル。
拒否理由	可変長文字列	30	申込が拒否された理由。
ソース	可変長文字列	30	申込の情報源。例：Web サイト、ダイレクトメール、電子メール。
送信状況	可変長文字列	30	提出の状態。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	日付	7	申込書類の提出日時。
Web サイト	可変長文字列	100	会社の URL アドレス。
勤務先 FAX 番号	可変長文字列	40	提出者の勤務先 FAX 番号。
勤務先電話番号	可変長文字列	40	提出者の勤務先電話番号。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

アポイント担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者とアポイントとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのアポイント担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
----------------------	--------	-----	------

デフォルトのアポイント担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者名	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
アポイントの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

アポイントユーザーフィールド：インポートの準備

次の表では、ユーザーとアポイントとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのアポイントユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザーID	テキスト	30	なし
アポイントの外部 ID	テキスト	30	なし
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

アポイント、タスク、および電話連絡フィールド：インポートの準備

次の表では、アポイントおよびタスクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

正しい時刻形式を選択します。HH:MM:SS AM の形式を選択すると、CSV ファイル内でデータが AM または PM であるかどうかを示されます。AM/PM の時刻形式を選択しても、データに AM または PM が含まれない場合、フィールドは次のように処理されます。HH フィールドが 8 以上で 12 以下の場合、これらのフィールドは AM とみなされます。HH フィールドが 7 以下と 13 以上の場合、これらのフィールドは PM とみなされます。たとえば 7:00:00 は 7:00 PM と処理され、9:00:00 は 9:00 AM と処理されます。

デフォルトアポイント、タスクおよび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	なし
活動	テキスト	100	なし
活動通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
キャンペーン	テキスト	50	なし
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし
担当者	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
締切日	日付	7	タスクの場合、これはデフォルトの必須フィールドです。
終了時刻	日時	7	アポイントの場合、これはデフォルトの必須フィールドです。
外部固有 ID	テキスト	30	なし

デフォルトアポイント、タスクおよび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
資金リクエスト	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition の場合のみ存在します。読み取り専用です。
統合 ID	テキスト	30	なし
見込み客	テキスト	255	なし
見込み客の外部 ID	テキスト	30	なし
場所	テキスト	100	アポイントの場合のみ存在します。
医学教育イベント	ピックリスト	50	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
商談	テキスト	100	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
優先順位	ピックリスト	30	タスクの場合、これはデフォルトの必須フィールドです。有効なデフォルト値は [1-高]、[2-中]、[3-低] です。
個人	チェックボックス	なし	なし
サービスリクエスト	テキスト	64	なし
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30	なし
開始時刻	日時	7	アポイントの場合、これはデフォルトの必須フィールドです。

デフォルトアポイント、タスクおよび電話連絡 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
状態	ピックリスト	30	タスクの場合、有効なデフォルト値は「完了」、「延期」、「進行中」、「他のユーザーを待っています」、「開始前」です。
主題	テキスト	100	タスクおよびアポイントの場合、これはデフォルトの必須フィールドです。
タスク通貨	テキスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
タイプ	ピックリスト	30	タスクおよびアポイントについて、有効なデフォルト値は「電話連絡」、「フォローアップ」、「デモ」、「電子メール」、「イベント」、「FAX」、「ミーティング」、「その他」、「個人」、「プレゼンテーション」、「予定」です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 活動フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

資産フィールド：インポートの準備

次の表では、資産を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの資産フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
資産通貨	ピックリスト	20	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している

デフォルトの資産フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			必要があります。
担当者	テキスト	30	なし
顧客担当者	テキスト	255	なし
説明	テキスト	250	なし
失効日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
インストール日	日付	7	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
日付を通知	日付	7	Oracle CRM On Demand High Tech Edition の場合のみ存在します。
運用状況	テキスト	30	なし
製品外部 ID	テキスト	30	なし
製品名	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
購入日	日付	7	なし
購入価格	通貨	15	なし
数量	数値	15	なし
シリアル番号	テキスト	100	なし
出荷日	日付	7	なし
保証	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 資産の追跡
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

ブックユーザーのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブックユーザーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand でのブックの使用の詳細は、「[ブックの管理](#)『212ページ』」を参照してください。

デフォルトのブックユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
アクセスプロファイル	文字列	100	なし
ブックユーザー役割	文字列	30	なし
ユーザー	文字列	50	このフィールドには、ユーザーエイリアスの値を指定します。
ブック名	文字列	150	新規インポートを実行する場合は、[ブック名] フィールドまたは [ブック Id] フィールドにのみ値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。
ブック Id	文字列	15	新規インポートを実行する場合は、[ブック名] フィールドまたは [ブック Id] フィールドにのみ値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[ブック Id] フィールドが必須です。
ユーザー識別子	文字列	15	既存のレコードを更新する場合は、ユーザー識別子フィールドが必須です。 新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めし

デフォルトのブックユーザーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			ます。
ユーザーの外部 ID	文字列	30	新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めします。
ユーザーのサインイン ID	文字列	50	新規インポートを実行する場合は、[ユーザーのサインイン ID]、ユーザー識別子、または [ユーザーの外部 ID] フィールドのうちの少なくとも 1 つに値を指定することをお勧めします。

ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブックを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。Oracle CRM On Demand でのブックの使用の詳細は、「[ブックの管理](#) 『212ページ』」を参照してください。

デフォルトのブックのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ブック Id	文字列	15	なし
親ブック	文字列	150	なし
ブックタイプ	文字列	30	なし
データを含めることができる	文字列	1	なし
ブック名	文字列	150	なし
説明	文字列	255	なし

デフォルトのブックのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
パートナー	文字列	100	[パートナー] フィールドをインポートする場合は、[所在地] フィールドもインポートすることをお勧めします。
外部固有 ID	文字列	30	なし
場所	文字列	50	このフィールドにはパートナーの所在地を指定します。

ブローカープロファイルのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブローカープロファイルデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのブローカープロファイルフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
ブローカープロファイル名	テキスト	40	ブローカープロファイルの名前。
ブローカープロファイル年度	ピックリスト	30	ブローカープロファイルが有効な年度。
企業の過去および将来の成長率	テキスト	250	企業のブローカーの過去および将来の成長率の説明。
企業概要	テキスト	250	ブローカーに関する追加情報を提供します。
作成	テキスト	30	そのブローカープロファイルを作成したユーザーの名前と作成日が、Oracle CRM On Demand によって生成されます。
FAX 番号	電話	35	ブローカーの FAX 番号。
変更	テキスト	30	そのブローカープロファイルを最後に更新したユーザーの名前と作成日が、Oracle CRM On Demand によって生成されます。
パートナー	ピックリスト	30	ブローカーの名前。
電話番号	電話	35	ブローカーの電話番号。

住所	テキスト	50	ブローカーのプライマリ住所。
サブチャネル	ピックリスト	30	ブローカーの補償内容。デフォルトの有効値は、[グローバル]、[ローカル]、[全国]、[地域]、[ホールセラー]です。
セグメンテーション	ピックリスト	30	ブローカーのセグメンテーション。デフォルトの有効値は、[商用]、[成長]、[小売]です。
テリトリー/ 地域構造	テキスト	250	ブローカーのテリトリーまたは地域の構造。
Web サイト	テキスト	100	追加のブローカープロフィール情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [ブローカープロフィールのフィールド](#)

ビジネス計画のフィールド：インポートの準備

次の表では、ビジネス計画のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのビジネス計画 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
通貨	ピックリスト	20	なし
説明	メモ	250	なし
Exchange Date (為替交換日)	日付	7	なし
メモ	テキスト	250	なし
商談	テキスト	250	なし
親プラン名	テキスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。

デフォルトのビジネス計画 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
期間	テキスト	15	期間オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
計画売上	通貨	22	なし
製品名	テキスト	15	製品オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
状態	ピックリスト	30	なし
強み	テキスト	250	なし
脅威	テキスト	250	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし
弱み	テキスト	250	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

キャンペーンフィールド：インポートの準備

次の表では、キャンペーンを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのキャンペーン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
実費用	通貨	15	なし
参加者	テキスト	2000	なし
予算計上済みコスト	通貨	15	なし
キャンペーン通貨	ピックリスト	15	なし
キャンペーン電子メール	テキスト	50	なし
キャンペーン名	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
キャンペーン電話番号	電話	40	なし

デフォルトのキャンペーン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
キャンペーンタイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
終了日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
目標見込み客数	整数	なし	なし
目標	テキスト	2000	なし
オファー	テキスト	255	なし
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
売上目標	通貨	15	なし
ソースコード	テキスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。
開始日	日付	7	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [計画済み]、[有効]、[完了] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [キャンペーンフィールド：インポートの準備](#) 『416ページ』
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

キャンペーン受取人フィールド：インポートの準備

次の表では、キャンペーン受取人を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。キャンペーン受取人フィールドをインポートするには、少なくとも [担当者の外部 ID] と [キャンペーン] の情報が必要です。

デフォルトの製品カテゴリーフィールド名	データタイプ	最大長さ
配送状況	テキスト	30
応答状況	テキスト	30
キャンペーン名	テキスト	100
担当者名	テキスト	255
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30
担当者の外部 ID	テキスト	30
説明	テキスト	250

認定レベルのフィールド：インポートの準備

次の表では、認定レベルデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定レベルフィールド名	フィールドのタイプ	最大長さ	コメント
使用可能期間開始	日付	7	なし
使用可能期間終了	日付	7	なし

認定レベル料金	通貨	22	なし
認定レベル ID	テキスト	50	認定レベルの内部識別子は一意にすることをお勧めします。
会社名	テキスト	50	なし
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に認定レベル担当者がすでに存在している場合に使用します。
説明	テキスト	250	なし
電子メール	テキスト	50	認定レベル担当者の電子メールアドレス。
名前（名）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定レベル担当者の名前（名）を入力します。
名前（姓）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、認定レベル担当者の名前（姓）を入力します。
名前	テキスト	50	認定レベルの名前。
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	30	なし
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	40	認定レベル担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし
更新可能	チェックボックス	1	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[プリセール]、[ポストセール]、[テクニカル]、[サービス]、[インストラクション]、[アップグレード]、[デザイン]、[セキュリティ] です。
有効（月）	数値	22	なし
Web サイト	テキスト	100	追加の認定レベル情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- 認定レベルのフィールド

認定レベルリクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、認定レベルリクエストデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの認定レベルリクエストフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
候補名	ピックリスト	15	なし
候補日	日付	7	なし
認定レベル名	ピックリスト	15	なし
認定レベル番号	テキスト	50	通常、認定レベル番号は一意です。
認定レベル状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[リクエスト済み]、[認可]、[拒否] です。
説明	テキスト	250	なし
失効日	日付	7	なし
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
プラン	ピックリスト	15	なし
リクエスト日	日付	7	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
更新可能	チェックボックス	1	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- 認定レベルのフィールド

請求フィールド：インポートの準備

次の表では、請求データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、請求データのみ有効です。

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Ability to Work（作業能力）	ピックリスト	30	なし
住所	テキスト	200	なし
Address Line 1（住所行 1）	テキスト	100	なし
Address Line 2（住所行 2）	テキスト	100	なし
Amount of Liability（負債額）	通貨	22	なし
Amount of Loss（損失額）	通貨	22	なし
At Fault（過失）	ピックリスト	30	なし
Business Account（ビジネスアカウント）	テキスト	15	このレコードにリンクされた外部保有機関（ビジネスアカウント）。
Business Account: External System ID（ビジネスアカウント：外部システム ID）	テキスト	30	なし
Category of Loss（損失のカテゴリ）	ピックリスト	30	なし
市	テキスト	50	なし
Claim Number（請求番号）	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Class of Employee（従業員のクラス）	ピックリスト	30	なし
クローズ日	日付	なし	なし
コメント	テキスト	250	なし
Company: External System ID（企業：外部システム ID）	テキスト	30	外部固有 ID と呼ばれます。
Conditions（条件）	テキスト	50	なし

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者	テキスト	15	なし
担当者：外部システム ID	テキスト	30	なし
国	テキスト	30	なし
都道府県	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Date of Employer Aware of Claim (雇用者が請求を認識した日付)	日付	なし	なし
Date of Employer Aware of Injury (雇用者が負傷を認識した日付)	日付	なし	なし
Employee Injured Number (従業員負傷者番号)	数値	22	なし
Event Number (イベント番号)	テキスト	50	なし
Exchange Date (為替交換日)	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Hospital Name (病院名)	テキスト	50	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯：外部システム ID	テキスト	30	なし
Injured During Working Hours (就業中の事故かどうか)	ピックリスト	30	なし
Kind of Loss (損失の種類)	ピックリスト	30	なし
Liability Source (負債の発生源)	ピックリスト	30	なし
Line of Business (ビジネスライン)	ピックリスト	30	なし
Location of Loss (損失の場所)	ピックリスト	30	なし
Loss Code (損失コード)	ピックリスト	30	なし
Loss Date and Time (損失の日時)	日時	なし	なし
Loss Description (損失の説明)	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰

請求フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			められます。
Loss Type (損失タイプ)	ピックリスト	30	なし
Medical Injury Code (医療負傷コード)	ピックリスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Part of Body Injured (負傷箇所)	ピックリスト	30	なし
People Injured Number (負傷者番号)	数値	22	なし
Place of Injury (負傷場所)	ピックリスト	30	なし
Police Department (警察署)	テキスト	50	なし
Police Report Number (警察調書番号)	テキスト	50	なし
Policy (保険証券)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Policy: External System ID (保険証券：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
郵便番号	テキスト	30	なし
都道府県	テキスト	50	なし
Relationship to Insured (被保険者との関係)	ピックリスト	30	なし
Report Date (報告日)	日付	なし	なし
Report Number (報告書番号)	テキスト	50	なし
Reported by (報告者)	ピックリスト	30	なし
Reporter Contact Info (報告担当者情報)	テキスト	50	なし
State (州)	テキスト	10	なし
状態	ピックリスト	30	なし
Time of Death (死亡時刻)	日時	なし	なし
Type of Injury (負傷の種類)	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

担当者ブックのフィールド：インポートの準備

次の表では、ブック担当者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。時間ベースのブック割当の詳細は、「[時間ベースのブック割当について](#) 『229ページ』」を参照してください。

デフォルトのブック担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前	文字列	150	新規インポートを実行する場合は、[名前] フィールドまたは [ブック Id] フィールドに値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[名前] フィールドはオプションです。
ブック Id	文字列	15	新規インポートを実行する場合は、[名前] フィールドまたは [ブック Id] フィールドに値を指定し、両方には指定しないことをお勧めします。 既存のレコードを更新する場合は、[ブック Id] フィールドが必須です。
ブックの外部 ID	文字列	30	なし
担当者: ID	文字列	15	[オブジェクト ID] フィールドは、担当者を参照し、すべてのインポートで必須です。
担当者の外部 ID	文字列	30	なし
開始日	日付	なし	レコードの有効化の実

デフォルトのブック担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			行が必須の日付。
終了日	日付	なし	レコードの有効化の終了が必須の日付。
将来のプライマリフラグ	文字列	1	将来のプライマリフラグの値が [Y] に指定されている場合は、ブックが有効化されたときに、現在のレコードのブックがデータオブジェクトのプライマリとして設定されます。このフィールドは、[開始日] フィールドに基づいています。このフィールドの値は [Y] 、 [N] です。

担当者フィールド：インポートの準備

取引先と担当者についてインポートする個別のファイルがある場合は、取引先を先にインポートし、次に担当者をインポートします。担当者インポートファイルに、取引先インポートファイルの有効な取引先名が含まれることを確認してください。

担当者インポートファイルしかない場合は、担当者インポートファイルの [取引先名] フィールドの取引先名データに基づいて取引先レコードが作成されます。担当者レコードに住所 (2) のデータが含まれる場合は、**Oracle CRM On Demand** で新しい取引先が作成され、出荷先住所として住所 (2) が挿入されます。請求先住所は空白のままです。

複数の担当者が同じ取引先に関連付けられている場合は、その取引先の住所フィールドは、その取引先についてインポートされた最初の担当者に関連付けられた [住所 (2)] の値に設定されます。最初にインポートされた担当者に [住所 (2)] のデータが含まれず、それ以降のレコードに含まれる場合は、取引先の住所フィールドは空白になります。これは、取引先の住所フィールドに値を設定する場合に、最初にインポートされた担当者だけが考慮されるからです。したがって、担当者インポートファイルだけからインポートしている場合は、インポートする前にデータを取引先名で並べ替えてから、異なる各取引先名の最初の担当者に、取引先に使用する住所が含まれることを確認してください。

次の表では、担当者を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
-----------------	--------	-----	------

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	このフィールドのテキストは、既存の取引先レコードとの一致を調べるために使用されるフィールドの 1 つです。一致するものが見つからない場合、このテキストは、取引先インポートプロセス中に作成される新しい取引先の取引先名になります。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について 」を参照してください。
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	このフィールドのテキストは、既存の取引先レコードとの一致を調べるために使用されるフィールドの 1 つです。詳細については、「 レコードの重複と外部 ID について 」を参照してください。
アシスタント名	テキスト	50	なし
アシスタント電話番号	電話	40	なし
コンタクトの最適時刻	ピックリスト	30	デフォルト値は、[昼下がり]、[早朝]、[夜]、[遅い午後]、[午前中]、[土曜日] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
訪問頻度	ピックリスト	30	デフォルト値は、[訪問なし]、[1 - 2 回/年]、[3 - 4 回/年]、[5 回以上/年] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
携帯電話番号	電話	40	なし
クライアント指定日以降	日付	なし	[担当者タイプ] ドロップダウンメニューで [クライアント] 値が選択されている場合、このフィールドには現在の日付が自動的に挿入されます。
担当者の住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。 [共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者の住所 1	テキスト	200	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者の住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者市	テキスト	50	<p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者国	ピックリスト	30	<p>デフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は [アメリカ] です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者通貨	ピックリスト	20	<p>このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。</p>
担当者私書箱/並べ替えコード	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [Township (カナダの郡区)] の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの郡)]、[Part Of Territory (アメリカの準州)]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドに</p>

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			<p>マップします（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [見込み顧客]、[顧客]、[パートナー]、[競合会社] です。
担当者米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
担当者住所 - 郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
信用評点	数値	22	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
現在の投資比率	ピックリスト	30	デフォルト値は、[積極的]、[中度]、[保守的] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
顧客 ID	テキスト	11	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
生年月日	日付	7	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
学位	ピックリスト	30	デフォルト値は、[PHD]、[医者]、[歯科医官]、[経営学修士]、[登録されていた看護婦]、[R.T.]、[薬剤師]、[科学のマスター]、[歯科医]、[LPN]、[公衆衛生のマスター] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
部門	テキスト	75	なし

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
電子メール	テキスト	100	なし
経験レベル	ピックリスト	30	デフォルト値は、[なし]、[制限済み]、[良い]、[広範囲な] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
名前 (名) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
名前 (姓) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます（日本語のみ）。
性別	ピックリスト	1	デフォルト値は、[女] および [男] です。このピックリストは変更できます。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
自宅電話番号	電話	40	なし
家屋価格	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
統合 ID	テキスト	30	なし
投資計画期間	ピックリスト	30	デフォルト値は、[短期]、[中期]、[長期] です。このピックリストは変更できます。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
肩書	テキスト	75	なし
最終訪問日	日時		Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
見込み客情報源	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
ライフイベント	ピックリスト	30	デフォルト値は、[結婚]、[出産]、[退職]、[離婚]、および [その他] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
マネージャ	なし	なし	現時点では、このフィールドにデータをインポートすることはできません。この値は Siebel CRM On Demand の [担当者編集] ページで直接設定するしかありません。
マネージャの外部 ID	テキスト	30	なし
未婚/既婚	ピックリスト	30	デフォルト値は、[単一]、[離婚]、[既婚]、[パートナー]、[別居]、[死別]、[寡夫] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	デフォルト値は [高]、[中]、[低] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
ミドルネーム	テキスト	50	なし
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
敬称	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は [Miss.]、[Mr.]、[Ms.]、[Dr.] です。
電子メール送信禁止	チェックボックス	なし	なし
目標	ピックリスト	30	デフォルト値は、[資本保持]、[収入]、[収入/成長]、[バランス型]、[成長]、[積極成長率]、[国際的資産分散] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
オプトイン	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
オプトアウト	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
持家/賃貸	ピックリスト	30	デフォルト値は、[所有]、[借家] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインイン電子メール ID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオン電子メール ID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオン電子メール ID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
個人アドレス外部システム ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
主要目標	ピックリスト	30	デフォルト値は [子供の教育費用として貯金]、[大学資金を貯蓄]、[新築住宅]、[蓄財]、[相続計画]、[資産維持]、[退職] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
個人	チェックボックス	なし	この担当者を取引先所有者だけに表示する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
専門職	テキスト	50	なし。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
承認日	日時	なし	なし。
リスクプロファイル	ピックリスト	30	デフォルト値は [リスク回避]、[危険を冒す人]、[保守的]、[中度]、および [積極的] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
照会者	ピックリスト	101	なし。
ルート	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ルート 1]、[ルート 2]、[ルート 3]、[ルート 4] です。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
セグメント	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ホワイトカラー]、[ブルーカラー]、[地方/農業]、[量販]、[富裕層]、[高純資産]、[純資産 500 万ドル以上]、[超高純資産] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
自営	チェックボックス	なし	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
ソースキャンペーン	ピックリスト	100	その担当者を生成したキャンペーン。
状態	ピックリスト	30	このカラムには、クライアントまたは担当者の状態が格納されます。使用できる値は、[有効]、[暗黙ファイル]、および [デッドファイル] です。
税率等級	数値	22	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
クラス	ピックリスト	30	デフォルト値は、[ゴールド]、[シルバー]、[ブロンズ]、[トップ 100]、[トップ]、[普通]、[低] です。Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイムゾーン	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は標準の有効な値と正確に一致する必要があります。

デフォルトの担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
総資産	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
経費総額	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
総収入	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
負債合計	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
総純資産	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は「見込み顧客」、「顧客」、「パートナー」、「競合会社」です。
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし
勤務先電話番号	電話	40	なし
年度累計販売	通貨	15	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 担当者フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

担当者の都道府県免許フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者の州免許を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者の都道府県免許 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者	テキスト	15	なし
失効日	テキスト	7	この担当者の医療免許の有効期限（わかって

デフォルトの担当者の都道府県免許 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			いる場合)。
免許証番号	テキスト	30	指定された州に必要な、担当者の免許証番号。
State (州)	テキスト	30	米国またはカナダの州 (オプション)。
状態	テキスト	30	免許証の状態のデフォルト値は、[ブランク]、[有効]、または[期限切れ]です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [担当者の州免許](#)

担当チームフィールド：インポートの準備

次の表では、担当チームを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルト担当者チーム フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者アクセス	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は、[読み取り専用]、[編集]、[完全]、[アクセスなし]です。 このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
担当者名	テキスト	60	なし
チームの役割	テキスト	20	有効なデフォルト値は、[所有者]、[エグゼクティブスポンサー]、[コンサルタント]、[パートナー]、[その他]です。
ユーザーID	テキスト	50	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
ユーザーの外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- レコードの共有（チーム）
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

コース登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、コース登録データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのコース登録フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
候補名	ピックリスト	15	なし
終了日付	日付	22	なし
コース名	ピックリスト	15	コース名は一意にすることをお勧めします。
説明	テキスト	250	なし
登録日	日付	22	このフィールドには、デフォルトではレコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
登録番号	テキスト	100	なし
登録状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[登録]、[完了]、[未完了] です。
目標	ピックリスト	15	なし
オファーパートナー	ピックリスト	15	候補が登録しているコースのサードパーティ企業。通常は、コースのオファーパートナーのリストからの登録となります。
所有者	ピックリスト	15	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ データのインポート 『527ページ』

■ コースフィールド

コースのフィールド：インポートの準備

次の表では、コースデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのコースフィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
使用可能期間開始	日付	7	なし
使用可能期間終了	日付	7	なし
会社名	テキスト	100	コース担当者が勤務している会社。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand にコース担当者がすでに存在している場合に使用します。
コース料金	通貨	22	なし
コース ID	テキスト	30	コースの内部識別子は一意にすることをお勧めします。Oracle CRM On Demand では、一意であることを強制していません。
コースの長さ（日）	数値	22	なし
説明	テキスト	255	なし
期間（時間）	数値	22	なし
電子メール	テキスト	100	コース担当者の電子メールアドレス。
試験	ピックリスト	15	なし
名前（名）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、コース担当者の名前（名）を入力します。
フォーマット	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[指導者]、[CBT]、[自己ペース]です。
体験型研究所	チェックボックス	1	なし
名前（姓）	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、コース担当者の名前（姓）を入力します。

メディア	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[クラスルーム]、[オンライン]、[CD/DVD] です。
名前	テキスト	100	コース名は一意にすることをお勧めします。
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金] です。
電話	電話	40	コース担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効] です。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[プリセール]、[ポストセール]、[テクニカル]、[サービス]、[インストラクション]、[アップグレード]、[デザイン]、[セキュリティ] です。
Web サイト	テキスト	100	追加のコース情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- コースフィールド

補償内容フィールド：インポートの準備

次の表では、補償内容データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、補償内容データのみ有効です。

補償内容フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
開始	日付	なし	なし
担当者	テキスト	15	なし
担当者：外部システム ID	テキスト	30	なし
補償内容	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド
Coverage Name (補償内容名)	テキスト	100	なし
Coverage Product (補償製品)	テキスト	15	なし
Coverage Product: External System ID (補償製品：外部システム ID)	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます。
Coverage Status (補償内容状態)	ピックリスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
控除金額	通貨	22	なし
終了	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Individual Limit (個別限度額)	通貨	22	なし
Insured Amount (被保険金額)	通貨	22	なし
Insured Property (被保険対象物)	テキスト	30	なし
Insured Property: External System ID (被保険対象物：外部システム ID)	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます。
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Policy (保険証券)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。

補償内容フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Policy: External System ID (保険証券: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
状態	ピックリスト	30	なし
Total Limit (合計限度額)	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

カスタムオブジェクトフィールド：インポートの準備

次の表では、カスタムオブジェクトフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

カスタムオブジェクト 01、カスタムオブジェクト 02、カスタムオブジェクト 03

次の表の情報は、カスタムオブジェクト 01、カスタムオブジェクト 02、カスタムオブジェクト 03 にのみ有効です。

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
名前	テキスト	50
取引先部署	テキスト	50
説明	テキスト	16,350
Custom Objects 04-15 (カスタムオブジェクト 04~15)	テキスト	50
Custom Objects 04-15 External Unique ID (カスタムオブジェクト 04~15 の外部固有 ID)	テキスト	30
統合 ID	テキスト	30
外部固有 ID	テキスト	30
所有者	電子メール	50

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
通貨	テキスト	20
クイック検索 1	テキスト	50
クイック検索 2	テキスト	50
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付き日付	日時	32
インデックス付き通貨	通貨	25
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
タイプ	テキスト	30
取引先	テキスト	100
キャンペーン	テキスト	100
担当者	テキスト	255
カスタムオブジェクト 01	テキスト	50
カスタムオブジェクト 02	テキスト	50
カスタムオブジェクト 03	テキスト	50
自動車ディーラー	テキスト	100
資金	テキスト	50
世帯	テキスト	50
見込み客	テキスト	255
医学教育イベント	テキスト	50
商談	テキスト	100
ポートフォリオ	テキスト	100
製品	テキスト	100
サービスリクエスト	テキスト	64

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
解決策	テキスト	100
車両	テキスト	100
取引先の外部 ID	テキスト	30
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30
担当者の外部 ID	テキスト	30
Custom Object 01 External ID (カスタムオブジェクト 01 の外部 ID)	テキスト	30
Custom Object 02 External ID (カスタムオブジェクト 02 の外部 ID)	テキスト	30
Custom Object 03 External ID (カスタムオブジェクト 03 の外部 ID)	テキスト	30
見込み客の外部 ID	テキスト	30
商談の外部 ID	テキスト	30
所有者の外部 ID	テキスト	30
ポートフォリオの外部 ID	テキスト	30
製品外部 ID	テキスト	30
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30
解決策の外部 ID	テキスト	30

カスタムオブジェクト 04 以降 (カスタムオブジェクト 04 以降)

次の表の情報は、カスタムオブジェクト 04 以降にのみ有効です。

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
取引先	テキスト	100
活動	テキスト	100
キャンペーン	テキスト	100
Custom Objects 01-15 (カスタムオブジェクト 01~15)	テキスト	50
自動車ディーラー	テキスト	100
説明	テキスト	16,350

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
Exchange Date (為替交換日)	日付	30
外部固有 ID	テキスト	30
資金	テキスト	50
資金リクエスト	テキスト	50
世帯	テキスト	1
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
インデックス付き通貨	通貨	25
インデックス付き日付	日時	32
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
統合 ID	テキスト	30
見込み客	テキスト	225
医学教育イベント	テキスト	50
名前	テキスト	50
商談	テキスト	100
所有者	電子メール	50
ポートフォリオ	テキスト	100
製品	テキスト	100
クイック検索 1	テキスト	50
クイック検索 2	テキスト	50
サービスリクエスト	テキスト	64
タイプ	テキスト	30
車両	テキスト	100
Account External Unique ID (取引先の外部固有 ID)	テキスト	30

デフォルトのカスタムオブジェクトフィールド名	データタイプ	最大長
Activity External Unique ID (活動の外部固有 ID)	テキスト	30
Asset External System ID (資産の外部システム ID)	テキスト	30
Campaign External Unique ID (キャンペーンの外部固有 ID)	テキスト	30
Company External System ID (企業の外部システム ID)	テキスト	30
Contact External Unique ID (担当者の外部固有 ID)	テキスト	30
Custom Objects 01-15 External Unique IDs (カスタムオブジェクト 01～15 の外部固有 ID)	テキスト	30
Dealer External Unique ID (自動車ディーラーの外部固有 ID)	テキスト	30
Fund Request External Unique ID (資金リクエストの外部固有 ID)	テキスト	30
Household External Unique ID (世帯の外部固有 ID)	テキスト	30
Opportunity External Unique ID (商談の外部固有 ID)	テキスト	30
Owner External Unique ID (所有者の外部固有 ID)	テキスト	30
Portfolio External Unique ID (ポートフォリオの外部固有 ID)	テキスト	30
Product External Unique ID (製品の外部固有 ID)	テキスト	30
Service Request External Unique ID (サービスリクエストの外部固有 ID)	テキスト	30
Solution Request External Unique ID (解決策リクエストの外部固有 ID)	テキスト	30
Vehicle External Unique ID (車両の外部固有 ID)	テキスト	30

損傷フィールド：インポートの準備

次の表では、損傷データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、損傷データのみ有効です。

損傷フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Claim: External System ID (請求: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Damage Description (損傷の説明)	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ (各メモは最大 16,350 文字) に追加されます。
Damage Name (損傷名)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Damaged Property Description (損傷プロパティの説明)	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ (各メモは最大 16,350 文字) に追加されます。
Damaged Property Type (損傷プロパティのタイプ)	テキスト	50	なし
Estimate Amount (見積額)	通貨	22	なし
Exchange Date (為替交換日)	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
保険不動産	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Insurance Property: External System ID (保険対象物: 外部シス	テキスト	50	なし

損傷フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
テム ID)			
所有者	テキスト	15	なし
Property # (プロパティ番号)	数値	22	なし
所有者：外部固有 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

取引交渉登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、取引交渉登録を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
承認状況	ピックリスト	30	このフィールドの有効値は、[承認保留]、[承認]、[拒否]、[返済済]、[取消済]、[期限切れ] です。
承認日	日付	なし	なし
関連担当者	ピックリスト	100	なし
関連顧客	ピックリスト	100	なし
関連見込み客	テキスト	100	なし
関連見込み客：外部固有 ID	テキスト	30	なし
関連見込み客：名前 (名)	テキスト	50	なし
関連見込み客：名前 (姓)	テキスト	50	なし
関連見込み客：統合 ID	テキスト	30	なし
関連見込み客：名前 (姓)	テキスト	50	なし
関連商談	ピックリスト	100	なし
携帯電話	テキスト	40	なし

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
市	テキスト	50	なし
クローズ日	日付	なし	なし
企業名	テキスト	50	なし
商談に変更	チェックボックス	なし	なし
国	ピックリスト	50	なし
現在の承認者	ピックリスト	100	なし
作成：日付	日時	なし	なし
通貨	ピックリスト	なし	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と一致している必要があります。
取引サイズ	通貨	15	なし
説明	テキスト	255	なし
電子メール	テキスト	50	なし
為替レート	日付	なし	なし
失効日	日付	なし	なし
外部 ID	テキスト	40	なし
Fax	テキスト	40	なし
最終承認者	ピックリスト	100	なし
名前（名）	テキスト	50	なし
肩書	テキスト	75	なし
名前（姓）	テキスト	50	なし
ミドルネーム	テキスト	50	なし
変更：日付	日時	なし	なし
敬称	ピックリスト	30	なし
名前	テキスト	100	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
新規担当者	チェックボックス	なし	なし
新規顧客	チェックボックス	なし	なし

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
新規商談	チェックボックス	なし	このフィールドは、取引交渉登録に関連付けられている商談が新規の商談かどうかを示します。
次のステップ	テキスト	250	なし
目標	テキスト	100	なし
目標: 外部固有 ID	テキスト	50	なし
所有者	ピックリスト	30	<p>このフィールドのデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートフィールドにマップされない場合、所有者は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのユーザーID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者パートナー取引先	ピックリスト	100	このフィールドには、デフォルトで自動的に取引交渉登録の所有者のパートナー企業が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。 Oracle CRM On Demand のアップロードプロセスでこのフィールドは更新できません。
開始パートナー取引先	ピックリスト	100	商談を最初に発掘したパートナー。このパートナーは一般に主要パートナーと同じですが、主要パートナー以外にすることもできます。このフィールドはオプションです。
パートナープログラム	ピックリスト	50	なし
郵便番号	テキスト	30	なし
主要パートナー	ピックリスト	100	主要パートナーは取引交渉登録の責任者です。このフィールドと主要パートナーの場所フィールドによってパートナーは一意に識別されます。このフィールドを null にすることはできません。
主要パートナーの場所	テキスト	50	前述の主要パートナーの場所。このフィールドと [主要パートナー] フィールドによって

デフォルトの取引交渉登録 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			パートナーは一意に識別されます。このフィールドは null にすることができます。
製品への関心	テキスト	100	なし
拒否理由	ピックリスト	30	なし
特別価格必須	チェックボックス	なし	なし
State (州)	ピックリスト	30	なし
番地	テキスト	100	なし
送信状況	ピックリスト	30	このフィールドの有効値は、未提出、提出済およびリコール済です。
送信日	日時	なし	なし
サポート必須	チェックボックス	なし	なし
電話番号	テキスト	40	なし
タイプ	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、標準および非標準です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備

次の表では、自動車ディーラーのフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

注：Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
名前	テキスト	100	なし
部署	テキスト	50	なし

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
部署	テキスト	50	なし
親自動車ディーラー	テキスト	100	なし
状態	テキスト	255	なし
親会社部署	テキスト	50	なし
電話番号	電話	40	なし
電子メール	テキスト	50	なし
URL	テキスト	100	なし
状態	テキスト	30	なし
FAX 番号	電話	40	なし
通貨	テキスト	20	なし
ステージ	テキスト	30	なし
ランキング	数値	16	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの[アドレス名]フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証]の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて 」 『351ページ』 を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	<p>有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および [地域区分] の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および [Oblast (ロシアの州)] の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』」を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先郵便番号	テキスト	30	<p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの「外部固有 ID」と一致する必要があります。 「共有アドレスの検証」の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの「アドレス名」フィールドと一致する必要があります。「共有アドレスの検証」の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。 Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照）。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、 [Colonia/Section (アメリカの地区)]、 [CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および[Township (カナダの郡区)]の住所項目をこのフィールドにマップします (国と住所のマッピングについて『351ページ』を参照)。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、 [MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および[Oblast (ロシアの州)]の住所項目 (または米国の州に相当する項目) をこのフィールドにマップします (「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照)。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です (すべて大文字)。 Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
納入先住所外部 ID	テキスト	30	<p>企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの[外部固有 ID]と一致する必要があります。 [共有アドレスの検証]の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。</p>
外部固有 ID	テキスト	30	なし
親自動車ディーラーの外部 ID	テキスト	30	なし
プライマリ所有者 ID	ID	15	なし

デフォルトの自動車ディーラーのフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
自動車ディーラータイプ	テキスト	30	なし
変更：日付 (外部)	日時	32	なし
所有者	電子メール	50	なし
変更者	テキスト	255	なし
行 ID	ID	15	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
カスタムオブジェクト <i>N</i>	テキスト	50	なし
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30	なし
インデックス付きピックリスト 6	テキスト	30	なし
インデックス付き数値	数値	16	なし
インデックス付き日付	日時	32	なし
インデックス付き通貨	通貨	25	なし
インデックス付き長いテキスト	テキスト	255	なし
インデックス付き短いテキスト 1	テキスト	100	なし
インデックス付き短いテキスト 2	テキスト	100	なし
インデックス付きチェックボックス	ブール	1	なし

試験のフィールド：インポートの準備

次の表では、試験データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの試験フィ	フィールドの	最大長	説明
------------	--------	-----	----

フィールド名	タイプ		
使用可能期間開始	日付	7	なし。
使用可能期間終了	日付	7	なし。
会社名	テキスト	100	なし。
担当者	ピックリスト	15	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に試験担当者がすでに存在している場合に使用します。
説明	テキスト	255	なし。
電子メール	テキスト	100	試験担当者の電子メールアドレス。
試験料金	通貨	22	なし。
試験 ID	テキスト	100	コースの内部識別子は一意にすることをお勧めします。
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、試験担当者の名前 (名) を入力します。
フォーマット	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[複数選択肢]、[QA]、[混合]です。
等級評価方法	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[等級]、[ポイント]、[スコア]です。
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドは、Oracle CRM On Demand に担当者が存在しない場合にのみ使用して、試験担当者の名前 (姓) を入力します。
最大スコア	数値	22	なし。
普通	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[コンピュータベース]、[紙ベース]、[混合]です。
名前	テキスト	100	試験名は一意にすることをお勧めします。
質問数	数値	22	なし。
目標	ピックリスト	15	なし。
所有者	ピックリスト	15	なし。
合格スコア	数値	22	なし。
支払オプション	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[小切手]、[クレジットカード]、[現金]、[利益資金]です。
電話	電話	40	試験担当者の電話番号。
プライマリ製品	ピックリスト	15	なし。
プライマリ製品カテゴリー	ピックリスト	15	なし。

状態	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[ドラフト]、[計画済み]、[利用可能]、[旧式]、[無効]です。
許可された時間 (分)	数値	22	なし。
タイプ	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[監督対象] および [オンライン] です。試験中に候補が監視される場合、試験は監視対象とみなされます。
有効 (月)	数値	22	なし。
Web サイト	テキスト	100	追加の試験情報が格納されているページの URL。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- 試験のフィールド

試験登録のフィールド：インポートの準備

次の表では、試験登録データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの試験登録フィールド名	フィールドのタイプ	最大長	コメント
管理パートナー	ピックリスト	15	試験を管理するサードパーティ企業。通常は、試験の管理パートナーのリストからの登録となります。
候補名	ピックリスト	15	なし
終了日付	日付	7	なし
説明	テキスト	255	なし
試験名	ピックリスト	15	なし
達成済み成績	テキスト	50	なし
目標	ピックリスト	15	なし
所有者	ピックリスト	15	なし
達成済みスコア	数値	22	なし

スコア失効日	日付	7	なし
登録日	日付	7	このフィールドには、レコード作成日が表示されますが、レコード作成日以降に変更することもできます。
登録番号	テキスト	50	通常、試験登録番号は一意です。
登録状況	ピックリスト	30	デフォルトの有効値は、[登録済み]、[パス]、[失敗] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [試験のフィールド](#)

金融口座フィールド：インポートの準備

次の表では、金融口座を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、金融口座データのものに有効です。

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Account Holder（口座名義人）	テキスト	15	なし
Account Holder: External System ID（口座名義人：外部システム ID）	テキスト	30	なし
残高	通貨	22	なし
Balance as of（現在残高）	日時	なし	なし
支店	テキスト	15	なし
支店：外部システム ID	テキスト	30	なし
Business Account（ビジネスアカウント）	テキスト	15	なし

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Business Account: External System ID (ビジネスアカウント : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし
キャンペーン : 外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
Exchange Date (為替交換日)	日時	なし	なし
外部 ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Financial Account (金融口座)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Account Number (金融口座番号)	テキスト	50	なし
金融アドバイザー	テキスト	15	なし
金融アドバイザー : 外部システム ID	テキスト	30	なし
Held Away (外部保有)	ブール	1	なし
Held Away Institution (外部保有機関)	テキスト	15	なし
Held Away Institution: External System ID (外部保有機関 : 外部システム ID)	テキスト	30	このレコードにリンクされた外部保有機関 (ビジネスアカウント) の外部固有 ID。
Home Branch (主要支店)	ピックリスト	30	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
共同	ブール	1	なし
Open Date (オープン日)	日付	なし	なし

金融口座のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Parent Financial Account: External System ID (親金融口座 ：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
ポートフォリオ：外部システム ID	テキスト	30	なし
プライマリ取引先	ブール	1	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

Financial Account Holders Fields: Import Preparation (金融口座名義人フィールド：インポートの準備)

次の表では、金融口座名義人を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、金融口座名義人データのものに有効です。

金融口座名義人のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Business Account (ビジネスアカウント)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Business Account: External System ID (ビジネスアカウント：外部システム ID)	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし

金融口座名義人のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Financial Account (金融口座)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Account: External System ID (金融口座 : 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
Financial Account Holder (金融口座名義人)	テキスト	15	なし
Financial Account Holder: External System ID (金融口座名義人 : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
Financial Account Holders Name (金融口座名義人名)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド
世帯	テキスト	15	なし
世帯 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
Joined Date (結合日)	日付	なし	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者 : 外部システム ID	テキスト	30	なし
プライマリ担当者	ブール	1	なし
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

Financial Account Holdings Fields: Import Preparation (金融口座保有状況フィールド : インポートの準備)

次の表では、金融口座保有状況を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィー

フィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、金融口座保有データのものに有効です。

金融口座保有状況のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date（為替交換日）	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated（前回の外部更新）	日時	なし	なし
External Source（外部情報源）	テキスト	50	なし
Financial Account（金融口座）	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Account: External System ID（金融口座：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
Financial Account Holdings Name（金融口座保有状況の名前）	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Product（金融商品）	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド
Financial Product: External System ID（金融商品：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
実績	テキスト	22	なし
購入日	日時	なし	なし
購入価格	通貨	22	なし
数量	数値	22	なし
値	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

財務計画フィールド：インポートの準備

次の表では、財務計画を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

財務計画

次の表の情報は、財務計画のみに有効です。

財務計画のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Approved by Contact（担当者により承認済み）	ブール	1	なし
Business Account（ビジネスアカウント）	テキスト	15	なし
Business Account: External System ID（ビジネスアカウント：外部システム ID）	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし
キャンペーン：外部システム ID	テキスト	30	なし
担当者	テキスト	15	なし
担当者：外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
Exchange Date（為替交換日）	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated（前回の外部更新）	日時	なし	なし
External Source（外部情報源）	テキスト	50	なし
Financial Account（金融口座）	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。

財務計画のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Financial Account: External System ID (金融口座：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
Financial Plan Name (財務計画名)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
世帯	テキスト	15	なし
世帯：外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
ポートフォリオ	テキスト	15	なし
ポートフォリオ：外部システム ID	テキスト	30	なし
Sent to Contact (担当者に送信)	ブール	1	なし
状態	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

金融商品フィールド：インポートの準備

次の表では、金融製品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、金融商品のみ有効です。

金融商品のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
カテゴリー	ピックリスト	30	なし

金融商品のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
クラス	ピックリスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
現在の価格	通貨	20	なし
現在の価格（前回の更新）	日時	なし。	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated（前回の外部更新）	日時	なし	なし
External Source（外部情報源）	テキスト	50	なし
Financial Product ID（金融商品 ID）	テキスト	50	なし
Financial Product Name（金融商品名）	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Product Overview（金融商品の概要）	テキスト	16,350	インポートファイルの説明フィールドが 16,350 文字を超える場合は 16,252 文字に切り詰められます。
統合 ID	テキスト	30	なし
MDM Product Hub ID (MDM 製品のハブ ID)	テキスト	50	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Parent Financial Product（親金融商品）	テキスト	15	なし
Parent Financial Product: External System ID（親金融商品：外部システム ID）	テキスト	50	このレコードにリンクされた親金融商品の外部固有 ID。
Parent Financial Product: System ID（親金融商品：システム ID）	テキスト	50	外部固有 ID と呼ばれます。
Price Source（価格情報源）	テキスト	50	現在の価格情報源とも呼ばれます。
Product Catalogue（製品カタログ）	テキスト	250	なし
製品 URL	テキスト	250	なし

金融商品のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Sub-Class (サブクラス)	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

Financial Transactions Fields: Import Preparation (財務取引フィールド：インポートの準備)

次の表では、金融トランザクションを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、財務取引のみに有効です。

財務取引のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日時	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Financial Account (金融口座)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Account: External System ID (金融口座：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融口座の外部固有 ID。
Financial Product (金融商品)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Financial Product: External System ID (金融商品：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。

財務取引のフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ム ID)			固有 ID。
Financial Transaction Parent (金融トランザクションの親)	テキスト	15	なし
Financial Transaction Parent (金融トランザクションの親：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた金融商品の外部固有 ID。
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部固有 ID	テキスト	30	なし
数量	数値	22	なし
Transaction Date Time (取引日時)	日時		なし
Transaction ID (取引 ID)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。
Transaction Period (取引期間)	テキスト	50	なし
Transaction Price (取引価格)	通貨	22	なし
Transaction Source (取引情報源)	テキスト	50	なし
Transaction Type (取引タイプ)	ピックリスト	30	なし
値	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

保険対象物フィールド：インポートの準備

次の表では、保険不動産データを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。

次の表の情報は、保険対象物データのものに有効です。

保険対象物フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
金額	通貨	22	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者	テキスト	15	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Policy (保険証券)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Policy: External System ID (保険証券：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
Sequence (順番)	数値	22	一致するレコードの定義済みフィールド。
タイプ	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

在庫監査レポートのフィールド：インポートの準備

次の表では、在庫監査レポートを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの在庫監査レポート フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
-----------------------	--------	-----	------

デフォルトの在庫監査レポート フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
コメント	メモ	255	なし
完了日	日時	7	なし
在庫期間	テキスト	15	在庫期間オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
理由	ピックリスト	30	なし
レポート日	日時	7	なし
状態	ピックリスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

在庫期間のフィールド：インポートの準備

次の表では、在庫期間を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの在庫期間 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
有効	ブール	1	このフィールドは、在庫期間が有効か無効かを示します。
終了日	日時	7	在庫期間が有効な場合、このフィールドは空です。
調整済	ブール	1	このフィールドは、在庫期間が調整済みかどうかを示します。
開始日	日時	7	在庫期間の開始日。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

関係者フィールド：インポートの準備

次の表では、関連パーティデータを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、関係者データのみ有効です。

関係者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。
Claim: External System ID (請求: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
担当者	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド。[担当者] フィールドでは、担当者の姓と名が連結されます。
担当者: 外部システム ID	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Injury Description (負傷の説明)	テキスト	16350	インポートファイルの[説明] フィールドが 16,350 を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
Injury Summary (負傷の概要)	テキスト	250	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
Involved Party Name (関係者名)	テキスト	50	なし
場所	ピックリスト	30	なし

関係者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
所有者	テキスト	15	レコードの所有者。
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド。
Role in Accident (事故における役割)	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

見込み客フィールド：インポートの準備

次の表では、見込み客を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
エイリアス	テキスト	50	なし
年間売上	通貨	15	なし
概算収入	通貨	15	これは、概算の年間収入額です。
関連取引先	なし	なし	現時点では、このフィールドにデータをインポートすることはできません。この値は Siebel CRM On Demand の「見込み客編集」ページで直接設定するしかありません。
関連担当者	なし	なし	現時点では、このフィールドにデータをインポートすることはできません。この値は Siebel CRM On Demand の「見込み客編集」ページで直接設定するしかありません。
関連取引交渉登録	テキスト	100	なし
関連取引交渉登録：外部 ID	テキスト	50	なし

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
関連商談	なし	なし	現時点では、このフィールドにデータをインポートすることはできません。この値は Siebel CRM On Demand の「見込み客編集」ページで直接設定するしかありません。
請求先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照してください。
請求先住所 2、3	テキスト	それぞれ 100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照してください。
請求先住所-市	テキスト	50	なし
請求先住所-国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照）。
Billing PO Box/Sorting Code （請求先私書箱/並べ替えコード）	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、 [Colonia/Section（アメリカの地区）] 、 [CEDEX Code（CEDEX コード）] 、 [住所 4] 、 [URB（市街化地域）] 、および [Township（カナダの郡区）] の住所項目をこのフィールドにマップします（「 国と住所のマッピングについて『351ページ』 」を参照）。
Billing Province（請求先都道府県）	テキスト	30	ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、 [MEX State（MEX の州）] 、 [BRA State（BRA の州）] 、 [Parish（アメリカの郡）] 、 [Part Of Territory（アメリカの準州）] 、 [島] 、 [都道府県] 、 [地域] 、 [Emirate（emir の管轄区域）] 、および [Oblast（ロシアの州）] の住所項目（または米国の州に相当するその他の項目）をこのフィールドにマップします。
Billing US State（請求先 US State（US の州））	ピックリスト	2	米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Billing Zip/Post Code (請求先郵便番号)	テキスト	50	なし
キャンペーン	なし	なし	この値は、Oracle CRM On Demand の見込み客インポートアシスタントの使用時に指定されます。インポートデータで [キャンペーン] フィールドの値を直接設定することはできません。
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし
携帯電話番号	電話	40	なし
会社名	テキスト	100	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
作成者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
生年月日	日付	なし	なし
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ (各メモは最大 16,350 文字) に追加されます。
電子メール	テキスト	100	なし
予想クローズ日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
名前 (名)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
名前 (名) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます (日本語のみ)。
名前 (姓) のふりがな	テキスト	50	ふりがなは漢字に付けます (日本語のみ)。
業種	ピックリスト	50	Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。または、企業の Oracle CRM On Demand 管理者が、インポートデータで

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			<p>予想される有効な値が含まれるカスタム [見込み客] フィールドを作成できます。この場合は、このフィールドではなく、カスタムフィールドにデータをインポートできます。</p> <p>有効なデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[金融サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サービス]、[通信業] です。</p>
統合 ID	テキスト	30	なし
肩書	テキスト	75	なし
名前 (姓)	テキスト	50	このフィールドはデフォルトでは必須です。インポートする前に、すべてのレコードのこのフィールドに値が入力されていることを確認してください。
見込み客通貨	テキスト	20	なし
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
敬称	ピックリスト	15	有効なデフォルト値は [Miss.]、[Mr.]、[Ms.]、[Dr.] です。
電子メール送信禁止	チェックボックス	なし	なし
次のステップ	テキスト	250	なし
従業員数	整数	15	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>

デフォルトの見込み客 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
見込売上	通貨	15	なし
電話番号	電話	40	なし
製品への関心	テキスト	100	なし
専門職	テキスト	50	これは、指定した専門職または職業です。
評価	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [A]、[B]、[C]、[D] です。
見込み客所有者を再割当	なし	なし	この値は、Oracle CRM On Demand の見込み客インポートアシスタントの使用時に、インポートされたすべての見込み客に対して指定されます。この値によって、インポートされた見込み客が、企業で定義された見込み客割当ルールに基づいて新しい所有者に割り当てられるかどうかが決まります。
参照元	ピックリスト	101	なし
セールス要員	ピックリスト	30	なし
営業員の外部 ID	テキスト	30	なし
情報源	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [広告]、[ダイレクトメール]、[電子メール]、[イベント-セミナー]、[イベント-トレードショー]、[イベント-その他]、[リスト-購入]、[リスト-レンタル]、[照会-従業員]、[照会-外部]、[Web サイト]、[その他] です。
状態	なし	なし	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致しており、ビジネスロジックとも一致している必要があります。
URL	テキスト	100	なし
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [見込み客フィールド](#)
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

MDF リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、市場開発資金（MDF）リクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの MDF リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
事前承認金額	数値	22	ブランド所有者がマーケティング活動用に承認した資金の合計金額。
要求済み金額	数値	22	パートナーがマーケティング活動用に要求している資金の合計金額。
承認状況	可変長文字列	30	MDF リクエストの現在の承認状況。
承認者	可変長文字列	15	現在の承認者の名前。
キャンペーン	可変長文字列	15	MDF が関連付けられたキャンペーン。
カテゴリー	可変長文字列	30	MDF リクエストが属しているカテゴリー。
請求決定日	日付	7	請求が決定された日付。
クレーム状況	可変長文字列	30	MDF 請求の状態を示します。
説明	可変長文字列	250	なし
締切日	日付	7	リクエストの処理期限。
終了日	UTC 日時	7	マーケティング活動の終了日時。
失効日	UTC 日時	7	MDF リクエストが無効になる日。
資金	可変長文字列	15	MDF リクエストに関連付けられている資金の名前。
最終承認者	可変長文字列	15	最後にリクエストを承認した人の名前。
MDF リクエスト通貨	可変長文字列	20	なし
マーケティングの目的	可変長文字列	30	MDF リクエストに対するマーケティングの理由。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
所有者パートナー取引先	可変長文字列	15	所有者が提携するパートナー取引先。
パートナープログラム	可変長文字列	15	リクエストが関連付けられたパートナープログラム。

デフォルトの MDF リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
事前承認日付	日付	7	MDF リクエストが事前承認された日時。
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	MDF リクエストの中心的な役割を果たすパートナー企業。
理由コード	可変長文字列	30	特別価格リクエストが返された、または拒否された理由。
地域	可変長文字列	30	MDF リクエストの対象となる地域。
リクエスト日	日付	7	MDF リクエストが作成された日時。
リクエスト名	可変長文字列	50	MDF リクエストの名前。
開始日	UTC 日時	7	マーケティング活動の開始日時。
送信状況	可変長文字列	30	提出の状況。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	UTC 日付	7	リクエストが提出された日時。
承認済み請求額合計	数値	22	パートナーに承認された請求額合計。
要求済み請求額合計	数値	22	パートナーが要求した請求額合計。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

医学教育招待者のフィールド：インポートの準備

次の表では、医学教育招待者のフィールドを **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注： この表の「デフォルトフィールド」のカラムには、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみが表示されます。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に連絡して、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

医学教育招待者 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
招待者状況	テキスト	30	デフォルト値は「保留中」です。他の値には、「参加」、「取消済み」、「確証済み」、「却下」、および「ウェイトिंगリスト」があります。

医学教育招待者 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者名	テキスト	30	関連アプレットから担当者を選択します。
肩書	テキスト	30	担当者の肩書。
タイプ	テキスト	30	担当者のタイプ。
電子メール	テキスト	30	なし
電話番号	テキスト	30	なし
セッション詳細	テキスト	30	なし
コメント	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

メッセージ応答のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージ応答を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのメッセージ応答フィールド名	データタイプ	最大長	説明
取引先	テキスト	15	なし
活動	テキスト	15	なし
説明	テキスト	250	なし
担当者	テキスト	15	なし
フォローアップの有効化	ブール	1	なし
終了時刻	日時	7	なし

デフォルトのメッセージ応答フィールド名	データタイプ	最大長	説明
外部固有 ID	テキスト	30	なし
プラン	テキスト	15	なし
プラン項目	テキスト	15	なし
応答	テキスト	30	なし
セクション	テキスト	100	なし
シーケンス番号	数値	22	なし
開始時刻	日時	7	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [メッセージ応答の調整](#)

メッセージプランのフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプランを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプランフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	このフィールドは、このメッセージプランの参加対象者（例：心臓外科医）を示します。
コード	テキスト	50	このフィールドは異なる行 ID のメッセージプランを追跡します。たとえば、メッセージプランを改訂した場合、このフィールドでメッセージプランのコピーが作成され、インクリメントしたバージョン番号が付加されます。
開示必須	ブール	1	このフィールドがオンの場合、開示メッセージが表示されます。
フォローアップの有効化	ブール	1	なし

デフォルトメッセージプラン フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
失効日	日時	7	メッセージプランが終了する日。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
シーケンスをロック	ブール	1	このフィールドは、メッセージプランをロックし、ユーザーが順序の変更やメッセージの削除を行うことを防ぎます。
名前	テキスト	200	メッセージプランまたはパーソナライズされたメッセージプランの名前。
優先順位	数値	22	なし
リリース日	日時	7	メッセージプランのリリース日。
セグメント	テキスト	50	このフィールドは、市場セグメント、つまり、メッセージプランのターゲットとなる取引先のグループ（例：三次医療機関）を示します。また、営業員が訪問を計画する場合に推奨されるメッセージプランを示します。
スキン	テキスト	30	編集またはプレビューするためにメッセージプランナーを開くと、メッセージプランのレイアウトも表示されます。
開始日	日時	7	なし
状態	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、承認、進行中、拒否、リリース済および提出済です。
タイプ	テキスト	30	このフィールドのデフォルトの有効値は、プロダクト開始およびターゲットメッセージです。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [メッセージプラン](#)

メッセージプラン項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプラン項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプラン 項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	なし
説明	テキスト	255	なし
開示メッセージ	ブール	1	なし
表示名	テキスト	100	なし
名前	テキスト	100	なし
親メッセージプラン	テキスト	30	メッセージプランは複数のメッセージプラン項目で構成されています。親メッセージプランフィールドは、メッセージプラン項目が属しているメッセージプランです。親メッセージプランフィールドはメッセージプランレコードの名前フィールドにリンクしています。
評価	ピックリスト	30	なし
シーケンス番号	数値	22	なし
ソリューション名	テキスト	30	なし
講師のメモ	テキスト	2000	なし
状態	ピックリスト	30	なし
シノプシス	テキスト	2000	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [メッセージプラン項目](#)

メッセージプラン項目関係のフィールド：インポートの準備

次の表では、メッセージプラン項目関係を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトメッセージプラン 項目関係フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
参加者	テキスト	1000	なし
説明	テキスト	255	なし
表示名	テキスト	100	なし
名前	テキスト	100	なし
親メッセージプラン	テキスト	15	なし
評価	ピックリスト	30	なし
シーケンス番号	数値	22	なし
ソリューション名	テキスト	30	なし
状態	ピックリスト	30	なし
シノプシス	テキスト	2000	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [メッセージプラン項目関係](#)

メモフィールド：インポートの準備

次の表では、メモを **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのメモフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし

デフォルトのメモフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先名	テキスト	255	なし
キャンペーンの外部 ID	テキスト	30	なし
キャンペーン名	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
担当者名	テキスト	255	なし
説明	テキスト	16, 035	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	テキスト	100	なし
個人	チェックボックス	なし	なし
サービスリクエストの外部 ID	テキスト	30	なし
サービスリクエスト番号	数値	15	なし
主題	テキスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

目標のフィールド：インポートの準備

次の表では、目標を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの目標 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先名	テキスト	15	定義した目標に関連付けられている取引先名。

デフォルトの目標 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
担当者名	テキスト	15	定義した目標に関連付けられている担当者名。
通貨	テキスト	20	目標の金額表示に使用される通貨。
説明	テキスト	2000	定義した目標の説明フィールド。
Exchange Date (為替交換日)	日時	7	通貨に為替レートが適用された日付。
目標名	テキスト	30	なし
売上目標	テキスト	22	売上目標。
目標	数値	22	〔目標〕フィールドは、販売ユニット数量、処方、販売コールなどを示します。この数量は〔目標単位〕フィールドで定義されます。
目標単位	ピックリスト	30	〔目標単位〕フィールドは、〔目標〕フィールドの数量を定義します。
親目標	テキスト	15	定義済みの目標が親目標に関連付けられている場合、このフィールドで目標と親目標を結合できます。
期間	テキスト	15	この期間値は、ユーザーが Oracle CRM On Demand で売上予想を設定するときに入力する基準に対応します。
計画名	テキスト	15	特定の目標に関連付けられているビジネス計画名（オプション）。
製品名	テキスト	15	目標に関連付けられている製品名。
状態	ピックリスト	30	目標の状態。
対象参加者	テキスト	2000	目標が適用される個人の集まり。
タイプ	ピックリスト	30	目標のタイプ。この値は顧客が設定します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [目標](#)

商談担当者役割フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者の役割を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの担当者役割フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
購入役割	ピックリスト	39	有効なデフォルト値は [ユーザー]、[評価者]、[承認者]、[意志決定者]、[ユーザーおよび評価者]、[ユーザーおよび承認者]、[ユーザーおよび意志決定者]、[評価者および承認者]、[評価者および意志決定者]、[不明] です。
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
担当者名	テキスト	255	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	テキスト	100	なし
プライマリ	チェックボックス	なし	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [担当者フィールド](#)
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

商談フィールド：インポートの準備

次の表では、商談を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。

デフォルトの商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
取引先部署	テキスト	50	なし
クローズ日	日付	7	デフォルトでは、必須フィールド。
自動車ディーラー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
予想売上	通貨	15	インポートできません。見込売上フィールドに確度フィールドを掛けた値に基づいて計算される値。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
売上予想	チェックボックス	なし	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
情報源	ピックリスト	30	なし
製造メーカー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
モデル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
変更者	なし	なし	現時点では、インポート時にこのフィールドの値を設定することはできません。この値は、アプリケーションによって自動的に設定されます。
名前	テキスト	100	なし
次のステップ	テキスト	250	なし
商談通貨	ピックリスト	15	読み取り専用です。
商談通貨	テキスト	20	なし
商談名	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
所有者	電子メール	50	ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザー ID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行

デフォルトの商談フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			<p>しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、[所有者] は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [低]、[中]、[高] です。
確度 (%)	ピックリスト	3	<p>デフォルト値は [0]、[10]、[20]、[30]、[40]、[50]、[60]、[70]、[80]、[90]、[100] です。</p> <p>注: このフィールドは、常にレイアウト上に表示する必要があります。表示されない場合、予期しない結果が発生します。</p>
製品への関心	テキスト	100	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
成約/不成約の原因	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [設置ベース]、[価格]、[関係]、[業績]、[現行プロジェクトなし]、[予算なし]、[未承認]、[競合他社]、[決裁権なし]、[その他] です。
商談を再割当	チェックボックス	なし	なし
売上	通貨	15	なし
セールスステージ	ピックリスト	50	<p>デフォルトでは、必須フィールド。</p> <p>このフィールドは大部分のフィールドと異なった動作をします。つまり、インポートプロセス中の指定にかかわらず、一致しないピックリスト値は追加されません。インポートするデータはこのフィールドの有効な値と一致する必要があります。CSV ファイルからデフォルトのピックリスト値と一致しないピックリスト値を取り込む場合は、インポート前にアプリケーションにそれらの値を追加してください。追加しない場合、レコード全体が拒否されます。有効なデフォルト値は [承認済み見込み客]、[ビジョン構築]、[ショートリスト]、[選択済み]、[交渉]、[クローズ済み/成約]、[クローズ済み/不成約] です。</p>
ソースキャンペーン	ピックリスト	30	商談を生成したキャンペーン。
状態	ピックリス	30	有効なデフォルト値は [懸案]、[不成約]、[成約] です。

デフォルトの商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
	ト		
テリトリー	テキスト	50	なし
総資産価値	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
保険料合計	通貨	15	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	なし
年	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

商談製品売上フィールド：インポートの準備

次の表では、商談製品レコードを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
期間数	整数	3	反復売上は、260 の期間までサポートできます。期間の総数でカバーされている期間の長さは、[頻度] フィールドに指定する頻度によって異なります、たとえば、週次の反復売上がある場合、売上を 5 年間まで追跡できます。
資産値	通貨	15	なし
担当者名	テキスト	255	なし
担当者	ピックリスト	30	なし
説明	テキスト	250	最大 250 文字までです。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
売上予想	チェックボックス	なし	なし
頻度	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			せん。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
統合 ID	テキスト	30	なし
商談の外部 ID	テキスト	30	なし
商談名	ピックリスト	30	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
所有者	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
保険料	通貨	15	なし
確度 (%)	ピックリスト	22	なし
製品外部 ID	テキスト	30	なし
製品名	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
購入日	日付	7	なし
購入価格	通貨	15	なし
数量	数値	15	なし
シリアル番号	テキスト	100	なし
出荷日	日付	7	なし
開始/終了日	日付	7	なし
状態	テキスト	30	なし
タイプ	ピックリスト	30	なし

デフォルトの商談製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
保証	ピックリスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

オーダーのフィールド：インポートの準備

次の表では、オーダーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのオーダー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
オーダーID	テキスト	30	オーダー・オブジェクトのプライマリキー。このフィールドは読み取り専用です。
オーダー番号	テキスト	50	このフィールドにはデフォルトでオーダーID が表示されます。
説明	テキスト	255	このフィールドにはオーダーの説明を指定します。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
価格リスト	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は価格リスト名です。
商談	テキスト	15	なし。
取引先	テキスト	15	なし。

デフォルトのオーダーフィールド名	データタイプ	最大長	コメント
最終取引先	テキスト	15	このフィールドは、企業プロファイルのオーダー使用設定で Ebiz PIP 統合の値を選択した場合に使用されます。 Ebiz PIP 統合は、Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand と Oracle E-Business Suite の統合ソリューションのため、このフィールドは Oracle CRM On Demand オーダー管理では使用できません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand および Oracle E-Business Suite の詳細は、カスタマーサポートに連絡してください。
活動	テキスト	15	なし。
担当者	テキスト	15	なし。
出荷先住所	テキスト	15	オーダーの出荷先住所。
請求先住所	テキスト	15	オーダーの請求先住所。
オーダー作成状況	ピックリスト	30	オーダーの状況コード。このフィールドの詳細は、「オーダーのフィールド」を参照してください。
オーダー統合メッセージ	テキスト	255	このフィールドに値が移入されるのは、企業プロファイルのオーダー使用設定で Ebiz PIP 統合の値を選択した場合のみです。 Ebiz PIP 統合は、Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand と Oracle E-Business Suite の統合ソリューションのため、このフィールドは Oracle CRM On Demand オーダー管理では使用できません。Oracle Lead to Order Integration Pack for Oracle CRM On Demand および Oracle E-Business Suite の詳細は、カスタマーサポートに連絡してください。

オーダー項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、オーダー項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのオーダー項目フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
--------------------	--------	-----	------

デフォルトのオーダー項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
製品	テキスト	15	このフィールドには、製品 ID の外部キーが表示されます。これは必須フィールドです。
オーダー	テキスト	15	このフィールドには、オーダーID の外部キーが表示されます。これは必須フィールドです。
オーダー項目番号	テキスト	15	このフィールドにはデフォルトでオブジェクトのプライマリキーが表示されます。
数量	数値	22	このフィールドにはオーダーされた製品の数量が表示されます。これは必須フィールドです。
単価	数値	22	なし。
割引額	数値	22	なし。
割引率	数値	22	なし。
割引後価格	数値	22	なし。

パートナーフィールド：インポートの準備

次の表では、パートナーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
医師数	数値	22	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
取引先パートナー	チェックボックス	1	なし
年間売上	通貨	15	なし
請求先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの[アドレス名]フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証]の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致す

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			する必要があります。
請求先住所 1	テキスト	200	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先住所 2	テキスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 3	テキスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所 - 国	ピックリスト	30	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求 私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
請求先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および[Oblast (ロシアの州)]の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて『351ページ』」を参照）。</p>
請求先米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
請求 郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
請求先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。 [共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
訪問頻度	ピックリスト	30	このフィールドは、Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
チャネル取引先マネージャ	テキスト	50	なし
準拠レビュー日	UTC 日時	7	[準拠状況] のレビュー期限。
準拠状況	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
説明	テキスト	255	なし
専門知識	テキスト	30	このピックリストは変更できます。
外部固有 ID	テキスト	30	なし。
名前のふりがな	テキスト	100	なし。
病院識別番号	テキスト	30	病院識別番号 (HIN) 。
業種	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は [自動車]、[エネルギー業界]、[財務サービス]、[ハイテク業界]、[製造]、[その他]、[製薬業]、[小売]、[サービス]、[通信業] です。
影響タイプ	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
最後の割当終了日付	UTC 日時	7	なし
最後の割当提出日付	UTC 日時	7	なし
最終訪問日	UTC 日時	7	なし
所在地	テキスト	50	なし
代表 FAX 番号	電話	40	なし
代表電話番号	電話	40	なし
マーケットポテンシャル	ピックリスト	30	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			。このピックリストは変更できます。
市場セグメント	ピックリスト	30	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。
マーケットシェア	数値	なし	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。このピックリストは変更できます。有効な値は 0 から 100 です。
最大ユーザー数	整数	なし	なし
従業員数	整数	22	なし
開始パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストは有効なパートナーの値を示します。
所有者	テキスト	50	このフィールドはレコードの現在の所有者の名前を示します。
所有者パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。
パートナー通貨	ピックリスト	15	このピックリストは読み取り専用です。この値は現在のパートナー通貨の既存の値と一致している必要があります。
パートナーレベル	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
パートナー名	テキスト	100	パートナーの名前。
パートナー組織状況	ピックリスト	30	このフィールドは、パートナーが有効なパートナー関係パートナー (PRM) 組織であるかどうかを示します。有効に設定すると、パートナー組織用のブックが自動作成されます。このブックにユーザーが自動的に追加されます。このブックが使用されるのは、パートナーレコードフィールドのパートナー関係関連項目でパートナー間が関連付けられている場合のみです。このピックリストは変更できます。
価格リスト	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は価格リスト名です。
プライマリパートナータイプ	ピックリスト	30	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はパートナーに関連付けられたパートナータイプです。
主要パートナー取引先	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はパートナーの値

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			です。
優先順位	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
取引先株式会社	チェックボックス	なし	なし。
ランキング	数値	22	なし。
取引先を再割当	チェックボックス	なし	このフィールドは、取引先を再度割り当てる必要があることを示します。インポートした場合、企業の管理者またはマネージャが再割り当て機能を設定すると、この取引先レコードに対して自動割り当て規則が適用されます。
問い合わせ	チェックボックス	なし	見込み顧客に割り当て可能な参照にこの取引先が相当する場合は、このフィールドをオンに設定する必要があります。
リファレンス開始日	日付	なし	なし
地域	ピックリスト	25	このピックリストは変更できます。デフォルトの有効値は [東]、[西]、[中央部] です。
ルート	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
出荷先住所	ピックリスト	100	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合にのみ使用可能です。 この値は、既存の住所レコードの [アドレス名] フィールドと一致する必要があります。[共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
出荷先住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて 」『351 ページ』を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 2	テキスト	100	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて 」『351 ページ』を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先住所 3	テキスト	50	国ごとの住所フィールドのマッピング方法については、「 国と住所のマッピングについて 」『351 ページ』を参照してください。 このフィールドは、企業で共有住所を設定して

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			いる場合は使用できません。
出荷先市	テキスト	50	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
出荷先国	ピックリスト	30	<p>有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先私書箱/並べ替えコード	テキスト	30	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[Colonia/Section (アメリカの地区)]、[CEDEX Code (CEDEX コード)]、[住所 4]、[URB (市街化地域)]、および[地域区分]の住所項目をこのフィールドにマップします（国と住所のマッピングについて『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先都道府県	テキスト	50	<p>ファイルに米国以外の住所が含まれる場合は、[MEX State (MEX の州)]、[BRA State (BRA の州)]、[Parish (アメリカの群)]、[テリトリーの一部]、[島]、[都道府県]、[地域]、[Emirate (emir の管轄区域)]、および[Oblast (ロシアの州)]の住所項目（または米国の州に相当する項目）をこのフィールドにマップします（「国と住所のマッピングについて」『351ページ』を参照）。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>
出荷先米国の州	ピックリスト	2	<p>米国のすべての州では、有効なデフォルト値は標準の 2 文字の略語です（すべて大文字）。Oracle CRM On Demand では、このフィールドの有効な値を変更できません。データをインポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください。</p> <p>このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。</p>

デフォルトのパートナー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
出荷先郵便番号	テキスト	30	このフィールドは、企業で共有住所を設定している場合は使用できません。
納入先住所外部 ID	テキスト	30	企業の共有住所が有効な場合、このフィールドのデータタイプはピックリストになります。このフィールドの値は、既存の住所レコードの [外部固有 ID] と一致する必要があります。 [共有アドレスの検証] の設定がオンの場合も、この値は検証済みの既存の住所レコードと一致する必要があります。
ソースキャンペーン	ピックリスト	100	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値は取引先を獲得したソースキャンペーンの名前です。
状態	ピックリスト	30	このピックリストは変更できます。
テリトリー	ピックリスト	50	このピックリストは読み取り専用です。このピックリストのデフォルト値はテリトリーの名前です。
Web サイト	テキスト	100	なし。
年度累計売上	通貨	22	このフィールドは Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。YTD は年度累計を意味します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

計画取引先のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先	ピックリスト	15	取引先オブジェクト ID を保持する参照フィールド。

デフォルトの計画取引先フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ビジネス計画	ピックリスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
プライマリ計画取引先	ブール	1	取引先がプライマリ取引先かどうかを示します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [計画取引先](#)

計画担当者のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画担当者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画担当者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ビジネス計画	ピックリスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
担当者	ピックリスト	15	担当者オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
プライマリ計画担当者	ブール	1	担当者がプライマリ担当者かどうかを示します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [計画担当者](#)

計画商談のフィールド：インポートの準備

次の表では、計画商談を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの計画商談 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
商談	テキスト	15	商談オブジェクト ID を保持する参照フィールド。
ビジネス計画	テキスト	15	ビジネス計画オブジェクト ID を保持する参照フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- 計画商談

保険証券フィールド：インポートの準備

次の表では、保険証券を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、保険証券データのものに有効です。

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Billing Status (請求状況)	ピックリスト	30	なし
Business Account (ビジネスアカウント)	テキスト	15	なし
Business Account: External System ID (ビジネスアカウント : 外部システム ID)	テキスト	30	なし
キャンペーン	テキスト	15	なし

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
キャンペーン：外部システム ID	テキスト	30	なし
Cancelled Date (キャンセル日)	日付	なし	なし
Company: External System ID (企業：外部システム ID)	テキスト	30	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
有効日	日付	なし	なし
失効日	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Face Amount (額面金額)	通貨	22	なし
Financial Account (金融口座)	テキスト	15	なし
Financial Account: External System ID (金融口座：外部システム ID)	テキスト	30	なし
世帯	テキスト	15	なし
世帯：外部システム ID	テキスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
Invoice Due Date (請求締切日)	日付	なし	なし
所有者：外部システム ID	テキスト	30	なし
Parent Policy (親保険証券)	テキスト	15	なし
Parent Policy: External System ID (親保険証券：外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた親保険証券の外部固有 ID。
Policy Number (保険証券番号)	テキスト	50	一致するレコードの定義済みフィールド。このフィールドは、保険証券番号フィールドとも呼ばれます。
Policy Pay Method (保険支払方法)	ピックリスト	30	なし

保険証券フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Policy Type (保険の種類)	ピックリスト	30	なし
Primary Agency (プライマリエージェンシー)	テキスト	15	なし
Primary Agency: External System ID (プライマリエージェンシー : 外部システム ID)	テキスト	30	このレコードにリンクされたプライマリエージェンシー (ビジネスアカウントはパートナーに設定) の外部固有 ID。
Primary Agent (プライマリエージェント)	テキスト	15	なし
Primary Agent: External System ID (プライマリエージェント : 外部システム ID)	テキスト	30	このレコードにリンクされたプライマリエージェント (担当者) の外部固有 ID。
Producer Code (プロデューサーコード)	テキスト	50	なし
Rate Plan (レートプラン)	ピックリスト	30	なし
Rate State (レート状況)	ピックリスト	30	なし
Referral Source (照会情報源)	ピックリスト	30	なし
状態	ピックリスト	30	なし
Sub Status (サブ状況)	ピックリスト	30	なし
期間	テキスト	50	なし
保険料合計	通貨	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

保険契約者フィールド : インポートの準備

次の表では、保険契約者を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。このトピックは、**Oracle CRM On Demand Financial Services Edition** の場合のみ存在します。

次の表の情報は、保険契約者データのみ有効です。

デフォルトの保険契約者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Business Account Holder (ビジネスアカウント所有者)	テキスト	15	なし
Business Account Holder: External System ID (ビジネスアカウント所有者: 外部システム ID)	テキスト	30	なし
Company: External System ID (企業: 外部システム ID)	テキスト	50	なし
Contact Holder (担当者所属先)	テキスト	15	なし
Contact Holder: External Unique ID (担当者所属先: 外部固有 ID)	テキスト	50	なし
通貨コード	ピックリスト	20	なし
Exchange Date (為替交換日)	日付	なし	なし
外部システム ID	テキスト	50	なし
External Last Updated (前回の外部更新)	日時	なし	なし
External Source (外部情報源)	テキスト	50	なし
Household Holder (世帯主)	テキスト	15	なし
Household Holder: External System ID (世帯主: 外部システム ID)	テキスト	30	なし
Holder Percentage (所有者のパーセンテージ)	率	22	なし
Insured Type (被保険者タイプ)	ピックリスト	30	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
所有者: 外部システム ID	テキスト	30	なし
Policy (保険証券)	テキスト	15	一致するレコードの定義済みフィールド

デフォルトの保険契約者フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
Policy: External System ID (保険証券: 外部システム ID)	テキスト	50	このレコードにリンクされた保険証券の外部固有 ID。
Policy Holder Name (保険契約者名)	テキスト	250	一致するレコードの定義済みフィールド
役割	ピックリスト	30	一致するレコードの定義済みフィールド

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

ポートフォリオフィールド：インポートの準備

注：この機能は、標準アプリケーションの一部ではないため、ご使用のアプリケーションのバージョンによっては使用できないことがあります。

次の表では、ポートフォリオ取引先を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
取引先通貨	ピックリスト	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
取引先番号	テキスト	100	なし
取引先タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は、[年金契約]、[グループ保険]、[401K]、[普通預金]、[IRA]、[生命保険]、[投

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
			資信託]、[預金]、および [その他] です。
年率	数値	15	なし
キャンセル/販売日	日付	7	なし
信用限度額	通貨	20	なし
有効日	日付	7	なし
失効日	日付	7	なし
外部固有 ID	テキスト	30	なし
額面金額	通貨	20	なし
施設	テキスト	100	なし
金融機関の場所	テキスト	50	なし
借入れ金額	通貨	20	なし
返済期限	日付	7	なし
保険料	通貨	20	なし
プライマリ所有者 ID	テキスト	50	なし

デフォルトのポートフォリオ口座フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
製品	テキスト	50	なし
購入日	日付	7	なし
売上	通貨	20	なし
リスククラス	テキスト	50	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は、 [有効]、[懸案]、[見 積り]、[終了済み]、[ク ローズ] です。
期間	数値	20	なし
期間単位	ピックリスト	20	有効なデフォルト値は、 [日]、[週]、[月]、 および [年] です。
総資産価値	通貨	20	なし
評価日	日付	7	なし
金融機関の外部 ID	テキスト	30	取引先への金融機関のリン クです。
製品外部 ID	テキスト	30	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- ポートフォリオ
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

価格リストのフィールド：インポートの準備

次の表では、価格リストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの価格リスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
通貨	可変長文字列	20	価格リストの通貨。
説明	可変長文字列	255	なし
有効開始	UTC 日時	7	価格リストが有効になった日付。
有効終了	UTC 日時	7	価格リストの有効期限。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
価格リスト名	可変長文字列	50	なし
状態	可変長文字列	30	価格リストの現在の状態。例：進行中、公開済み。
タイプ	可変長文字列	30	価格リストのタイプ。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

価格リスト明細項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、価格リスト明細項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの価格リスト明細項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	可変長文字列	255	なし
有効開始	UTC 日時	7	価格リストが有効になった日付。
有効終了	UTC 日時	7	価格リストの有効期限。
リスト価格	数値	22	製品の価格。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
価格リスト	可変長文字列	15	明細項目が関連付けられている価格リストの名前。
価格タイプ	可変長文字列	30	明細項目の価格タイプ。例： 標準。
製品	可変長文字列	15	価格明細項目の製品。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

製品カテゴリーフィールド：インポートの準備

次の表では、製品カテゴリーフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのキャンペーン受取人フィールド名	データタイプ	最大長
カテゴリー名	テキスト	100
親カテゴリー	テキスト	100
外部固有 ID	テキスト	30
親製品カテゴリー外部 ID	テキスト	30
説明	テキスト	16,350

製品フィールド：インポートの準備

次の表では、製品を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン『385ページ』](#)」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルト製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
本文	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。 有効なデフォルト値は [クーペ]、[サロン]、[カブリオレ]、[ハッチバック]、[ワゴン]、[セダン] です。
カテゴリー	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [衣類]、[トラクター]、[SUV]、[内装]、[大型トラック]、[外装]、[電気利用]、[駆動方式]、[軽トラック]、[乗用車] です。
規制	チェックボックス	なし	なし
自動車ディーラー請求価格	通貨	15	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの [説明] フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ (各メモは最大 16,350 文字) に追加されます。
ドア	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。 有効なデフォルト値は [3 ドア]、[2 ドア]、[4 ドア] です。
エンジン	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
ロット番号追跡	チェックボックス	なし	なし
製造メーカー	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
モデル	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
オーダー可	チェックボックス	なし	なし

デフォルト製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
親製品	テキスト	100	なし
パーツ番号	テキスト	50	なし
価格タイプ	ピックリスト	30	なし
製品カテゴリー	テキスト	100	なし
製品通貨	通貨	15	なし
製品名	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。
製品タイプ	ピックリスト	30	なし
版	ピックリスト	30	なし
シリアル番号付き	チェックボックス	なし	なし
状態	ピックリスト	30	なし
サブタイプ	ピックリスト	30	なし
治療クラス	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
トランスミッション	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
トリム	ピックリスト	30	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。
タイプ	ピックリスト	30	なし
年	数値	50	Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

サンプル免責条項のフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプル免責条項を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプル免責条項フィールド名	データタイプ	最大長	説明
説明	テキスト	255	このフィールドには、免責条項フィールドに関する補足情報が表示されます。
番地	テキスト	15	なし
免責条項テキスト	テキスト	500	免責条項のテキスト。
終了日	日時	7	免責条項の失効日。
開始日	日時	7	免責条項の開始日。
状態	ピックリスト	30	このフィールドの値は、[有効]、[無効] および [期限切れ] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

サンプル在庫のフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプル在庫を **Oracle CRM On Demand** にインポートする前の **CSV** ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が **Oracle CRM On Demand** で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプル在庫 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
監査レポート ID	テキスト	15	なし
在庫期間	テキスト	15	在庫期間オブジェクト ID を示す参照フィールド。
最終実地棚卸	数値	22	なし
ロット番号	テキスト	15	なし
開始残高	数値	22	なし
実地棚卸	数値	22	なし

デフォルトのサンプル在庫 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
サンプル	テキスト	15	この在庫のサンプル製品を示す参照フィールド。
システム数	数値	22	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- サンプル在庫

サンプルロットのフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプルロットを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルロット フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
締め日	日付	7	この日付は計算で求められます。計算は失効日から [短日] フィールドの値を引いた値に基づきます。たとえば、失効日が 1 月 31 日で、[短日] フィールドの値が 30 の場合、[締め日] は 1 月 1 日になります。これは、サンプルロットを近い将来に使用するか、本社に返すことを示します。
説明	テキスト	255	ロットの説明。
失効日	日付	7	サンプルロットの失効日。
ロット別在庫	ブール	1	このフィールドは、在庫をロットレベルで追跡するか、製品レベルで追跡するかを示します。
ロット番号	テキスト	100	ロットの名前。
オーダー可	ブール	1	このフィールドは、ロットがオーダー可能かどうかを示します。
製品レベル	数値	22	なし

デフォルトのサンプルロット フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
サンプル	テキスト	15	製品名。
短日	数値	22	リード日数。
開始日	日付	7	サンプルロットの開始日。
単位	テキスト	30	単位。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- サンプルロット

サンプルトランザクションのフィールド：インポートの準備

次の表では、サンプルトランザクションを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせて、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサンプルトランザクション フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
送信済みパッケージ数	数値	22	サンプルトランザクションの送信時に送信されるパッケージ数。
受信済みパッケージ数	数値	22	サンプルトランザクションの受信時に受信されるパッケージ数。
調整理由	ピックリスト	30	このフィールドのデフォルト値は、人によるエラー、盗難、初期カウント、紛失、発見、およびリクエストです。
コメント	テキスト	255	説明のフィールド。
日付	日時	7	トランザクションの日付。
予想到着日	日時	7	なし

デフォルトのサンプルトランザクション フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
予想納入日	日時	7	なし
転送元トランザクション	テキスト	15	なし
在庫期間: 開始日	日時	7	なし
在庫期間: 終了日	日時	7	なし
請求書番号	テキスト	15	なし
名前	テキスト	50	なし
親トランザクション	テキスト	15	なし
受信日	日時	7	なし
ルートトランザクション	テキスト	15	なし
状態	ピックリスト	30	デフォルト値は、進行中、運送中、調整済み、処理済み、処理済（差異あり）です。
送信日	日時	7	なし
追跡番号	テキスト	15	なし
振替先	テキスト	15	なし
タイプ	ピックリスト	30	デフォルト値は、[振替（内部）]、[振替（外部）]、[欠落サンプル]、[在庫調整]、[支出] です。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

サービスリクエストフィールド：インポートの準備

次の表では、サービスリクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのサービスリクエストフィールド名	データタイプ	最大長	説明
-----------------------	--------	-----	----

デフォルトのサービスリクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	説明
取引先	テキスト	100	なし
取引先の外部 ID	テキスト	30	なし
エリア	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：製品、インストール、保守、トレーニング、その他
原因	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：不明確な指示、要トレーニング、既存問題、新規問題、その他
クローズ	時刻	日時	なし
担当者	テキスト	255	なし
担当者の外部 ID	テキスト	30	なし
自動車ディーラー	ピックリスト	100	Oracle CRM On Demand Automotive Edition
説明	テキスト	16,350	インポートファイルの「説明」フィールドが 16,350 文字を超える場合は、16,252 文字に切り捨てられ、残りの文字はリンク先のメモ（各メモは最大 16,350 文字）に追加されます。
外部固有 ID	テキスト	30	なし
開始時間	日時	7	なし
所有者	電子メール	50	<p>ファイルデータは、既存の Oracle CRM On Demand ユーザーのサインオンユーザーID に一致している必要があります。このフィールドの有効な値がレコードに含まれていない場合（値がない場合も含む）、その値は、インポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p> <p>インポートアシスタントの実行時に、このフィールドが有効なインポートファイルフィールドにマップされない場合、「所有者」は、インポートされたすべてのレコードのインポートを実行しているユーザーのサインオンユーザーID に設定されます。</p>

デフォルトのサービスリクエストフィールド名	データタイプ	最大長	説明
所有者の外部 ID	テキスト	30	なし
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	なし
優先順位	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：1-緊急、2-高、3-中、4-低
製品	ピックリスト	100	なし
所有者を再割当	チェックボックス	なし	なし
サービス提供元自動車ディーラー	テキスト	70	Oracle CRM On Demand Automotive Edition
ソース	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：電話、Web、電子メール、ファックス
SR 通貨	テキスト	20	なし
SR 番号	テキスト	64	なし
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：オープン、懸案、クローズ、オープン-エスカレート、キャンセル
主題	テキスト	250	なし
タイプ	ピックリスト	30	有効なデフォルト値：質問、問題、エンハンスメントリクエスト、その他
車両	テキスト	100	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- サービスリクエストフィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

署名のフィールド：インポートの準備

次の表では、署名を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの署名 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
活動 ID	テキスト	15	なし
担当者名 (名)	テキスト	50	なし
担当者名 (姓)	テキスト	50	なし
免責条項テキスト	テキスト	500	なし
ヘッダーテキスト	テキスト	800	なし
営業員名 (名)	テキスト	50	なし
営業員名 (姓)	テキスト	50	なし
署名管理	テキスト	16000	このフィールドは、署名の X 座標と Y 座標を保持します。
署名日	日付	7	なし

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

解決策フィールド：インポートの準備

次の表では、解決策を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの解決策 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
外部固有 ID	テキスト	30	なし
FAQ	テキスト	250	なし
統合 ID	テキスト	30	なし
製品カテゴリー	ピックリスト	100	なし

デフォルトの解決策 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
公開済	ピックリスト	1	有効なデフォルト値は [Y] 、 [N] です。これらの値は、言語の設定にかかわらず、英語になっている必要があります。
サービスリクエストカウント	整数	22	なし
解決策通貨	ピックリスト	20	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
解決策詳細	テキスト	16,000	なし
解決策評価	数値	15	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致している必要があります。
状態	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は [ドラフト] 、 [承認] 、 [旧式] です。
タイトル	テキスト	100	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- 解決策フィールド
- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

特別価格製品のフィールド：インポートの準備

次の表では、特別価格製品を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの特別価格製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
認可原価	数値	22	特別価格リクエストを交渉中のパートナーの価格。
競合会社名	可変長文字列	100	リクエストの競合会社の名前。
競合会社パートナー	可変長文字列	100	競合会社パートナーの名前。

デフォルトの特別価格製品 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
競合会社製品	可変長文字列	100	競合会社の製品の名前。
競合会社製品価格	数値	22	競合会社の製品の価格。
通貨	可変長文字列	20	なし
説明	可変長文字列	250	なし
標準小売価格	数値	22	使用されている通貨での標準小売価格。
その他の競合情報	可変長文字列	250	競合会社のオファーに関するその他の情報（例：特別価格の理由）。
製品	可変長文字列	15	特別価格リクエストの対象製品の名前。
取得原価	数値	22	パートナーが製品の購入に支払った元の価格。
数量	数値	22	このリクエストでの製品の予想販売数量。
要求原価	数値	22	パートナーが要求した値下価格。
要求再販価格	数値	22	パートナーが希望する再販価格。
SP リクエスト	可変長文字列	15	この特別価格製品が関連付けられている特別価格リクエスト。
提案再販価格	数値	22	ブランド所有者が提案する再販価格。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

特別価格リクエストのフィールド：インポートの準備

次の表では、特別価格リクエストを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの特別価格リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
承認状況	可変長文字列	30	特別価格リクエストの承認状況。
承認者	可変長文字列	15	承認者の名前。
認可日	UTC 日時	7	特別価格リクエストが承認された日時。
請求決定日	日付	7	請求が決定された日付。
クレーム状況	日付	7	特別価格請求の状況。
通貨	可変長文字列	20	特別価格リクエストの通貨。
取引交渉登録	可変長文字列	15	特別価格リクエストに関連付けられている取引交渉登録。
説明	可変長文字列	15	なし
締切日	日付	7	リクエストの処理期限。
最終顧客	可変長文字列	15	リクエストの顧客。リクエストが商談に関連付けられている場合、商談取引先を選択できます。
終了日	UTC 日付	7	特別価格が無効になる日時。
資金	可変長文字列	15	特別価格リクエストに関連付けられた資金の名前。
最終承認者	可変長文字列	15	最後にリクエストを承認した人の名前。
商談	可変長文字列	15	リクエストに関連付ける商談。
開始パートナー取引先	可変長文字列	15	特別価格リクエストを開始したパートナー。
所有者	可変長文字列	15	レコードの所有者。
所有者パートナー取引先	可変長文字列	15	所有者が提携するパートナー取引先。
パートナープログラム	可変長文字列	15	リクエストが関連付けられたパートナープログラム。
主要パートナー取引先	可変長文字列	15	特別価格リクエストを主導するパートナー社。
理由コード	可変長文字列	30	特別価格リクエストが返された、または拒否された理由。
リクエスト日	日付	7	特別価格リクエストが作成された日時。
リクエスト名	可変長文字列	50	リクエストの名前。
開始日	UTC 日時	7	特別価格が開始する日時。

デフォルトの特別価格リクエスト フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
送信状況	可変長文字列	30	提出の状況。例：未提出、提出済、リコール済など。
送信日	UTC 日時	7	リクエストが提出された日時。
認可金額合計	数値	22	認可された合計金額。
要求済み金額合計	数値	22	パートナーが要求した合計金額。
承認済み請求額合計	数値	22	パートナーに承認された請求額合計。
要求済み請求額合計	数値	22	パートナーが要求した請求額合計。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

タスク担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、担当者とタスクとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのタスク担当者フィールド名	データタイプ	最大長
担当者名	テキスト	60
担当者の外部 ID	テキスト	30
タスクの外部 ID	テキスト	30

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

タスクユーザーフィールド：インポートの準備

次の表では、ユーザーとタスクとのリンクを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのタスクユーザーフィールド名	データタイプ	最大長
ユーザーID	テキスト	50
タスクの外部 ID	テキスト	30
ユーザーの外部 ID	テキスト	30

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』

トランザクション項目のフィールド：インポートの準備

次の表では、トランザクション項目を Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の (デフォルトの) 名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトのトランザクション項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
説明	テキスト	250	トランザクション項目の説明。
在庫期間	テキスト	15	なし
行番号	数値	22	トランザクションのヘッダーレコードに関連付けられた一意の番号。
ロット番号	テキスト	15	サンプルロット ID を保持する参照フィールド。
数量	数値	22	トランザクション項目に関連付けられたサンプルの数。

デフォルトのトランザクション項目 フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
サンプル	テキスト	15	トランザクション項目で提供されるサンプルの名前。すべてのサンプルを文書化する必要があります。
出荷数量	数値	22	トランザクション項目として出荷されたサンプルの数。
トランザクション番号	テキスト	15	サンプルトランザクション ID を保持する参照フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

■ [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』

■ [データのインポート](#) 『527ページ』

ユーザーフィールド：インポートの準備

次の表では、ユーザーを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注：この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
エイリアス	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
ユーザー住所 1	テキスト	200	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて 『351ページ』」を参照してください。
ユーザー住所 2、3	テキスト	100	国ごとの住所フィールドのマッピングについては、「 国と住所のマッピングについて 『351ページ』」を参照してください。
ユーザー住所 - 市	テキスト	50	なし

デフォルトユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
ユーザー住所 - 国	ピックリスト	30	有効なデフォルト値は世界中のすべての国の名前です。米国の有効な値は「アメリカ」です。このアプリケーションでは、このフィールドの有効な値を変更できません。インポートする前に、インポートデータがこのフィールドの有効な値と一致していることを確認してください（「 国と住所のマッピングについて 」『351ページ』を参照）。
ユーザー私書箱/ソートコード	テキスト	30	なし
ユーザー住所 - 都道府県	テキスト	50	カナダについては、「 国と住所のマッピングについて 」『351ページ』を参照してください。ただし、これはピックリストのフィールドではありません。
ユーザー住所 - 米国の州	ピックリスト	2	有効な米国の州のリストについては、「 国と住所のマッピングについて 」『351ページ』を参照してください。
ユーザー住所 - 郵便番号	テキスト	30	なし
携帯電話番号	電話	40	なし
通貨	テキスト	50	このフィールドは全社レベルで設定されます。したがって、これらのフィールドをインポートしたり、そのピックリスト値を編集したりすることはできません。
部門	テキスト	75	なし
部署	テキスト	75	なし
電子メール	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
「保存」をクリックしたときに仮パスワードを送信	チェックボックス	なし	このチェックボックスをオンして保存すると、仮パスワードを含む電子メールがユーザーに送信されます。
従業員番号	数値	30	なし
外部固有 ID	テキスト	30	インポートされたレコードの外部 ID が含まれます。
名前（名）	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
資金承認限度	数値	22	Oracle CRM On Demand High Tech Edition および Oracle CRM On Demand Partner Relationship Management Edition の場合のみ存在します。

デフォルトユーザー フィールド名	データタイプ	最大長	コメント
統合 ID	テキスト	30	外部システムとの統合に使用される ID。
言語	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は標準の有効な値と正確に一致する必要があります。
名前 (姓)	テキスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。
ロケール	テキスト	50	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
ミドルネーム	テキスト	50	なし
敬称	ピックリスト	15	なし
上司	テキスト	なし	管理者の姓名に基づく、計算済みのフィールド。
レポート先の外部 ID	テキスト	30	なし
役割	ピックリスト	50	デフォルトでは、必須フィールド。有効なデフォルト値は、[管理者]、[エグゼクティブ]、[フィールドセールス要員]、[テレセールス]、[セールス&マーケティングマネージャ]、[サービス管理者]、[保守担当者]です。
状態	ピックリスト	30	デフォルトでは、必須フィールド。有効なデフォルト値は [有効]、[無効化] です。
タイムゾーン	テキストと数値	100	このピックリストを編集することはできません。したがって、インポートする値は有効な値と正確に一致する必要があります。
勤務先 FAX 番号	電話	40	なし
勤務先電話番号	電話	40	デフォルトでは、必須フィールド。

関連トピック

関連する情報については、次のトピックを参照してください。

- [データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#) 『385ページ』
- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [ユーザーフィールド](#) 『143ページ』

車両担当者フィールド：インポートの準備

次の表では、車両担当者のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

デフォルトの製品カテゴリーフィールド名	データタイプ	最大長
シリアル番号	テキスト	100
製品名	テキスト	100
担当者名	テキスト	60
担当者の外部 ID	テキスト	30
Vehicle External ID（車両外部 ID）	テキスト	30
プライマリ	チェックボックス	なし

車両のフィールド：インポートの準備

次の表では、車両のフィールドを Oracle CRM On Demand にインポートする前の CSV ファイルの設定について具体的な情報を示しています。この情報は「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」のガイドラインを補足します。インポートを実行する前に、次のインポート情報を確認する必要があります。

注: この表のデフォルトフィールドの列には、各フィールドの最初の（デフォルトの）名前のみを示しています。企業が Oracle CRM On Demand で変更した名前は含まれていません。したがって、データをインポートしようとしたときに特定のフィールドが表示されない場合は、企業の管理者に問い合わせ、そのフィールドの新しい名前を確認してください。

注: Oracle CRM On Demand Automotive Edition の場合のみ存在します。

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
車両識別番号	テキスト	100
製造メーカー	テキスト	30
モデル	テキスト	30
年式	テキスト	22
トリム	テキスト	30
ドア	テキスト	30
外装色	テキスト	30

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
外部固有 ID	テキスト	30
所有者の外部 ID	テキスト	30
取引先の外部 ID	テキスト	30
製品の外部 ID	テキスト	30
販売ディーラーの外部 ID	テキスト	30
サービスディーラーの外部 ID	テキスト	30
製品タイプ	テキスト	30
自動車販売元ディーラー	テキスト	100
状態	テキスト	255
取引先	テキスト	100
取引先タイプ	テキスト	255
担当者	テキスト	255
免許証番号	テキスト	30
ライセンス状況	テキスト	10
免許証失効日	日付	32
トランスミッション	テキスト	30
取引先部署	テキスト	50
状態	テキスト	30
場所	テキスト	30
中古車/新車	テキスト	30
エンジン	テキスト	30
標準小売価格	通貨	25
自動車ディーラー請求価格	通貨	25
所有者	テキスト	30
変更：日付 (外部)	日時	32
変更者	テキスト	255
車両通貨	テキスト	30
内装色	テキスト	30

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
保証タイプ	テキスト	30
保証開始日	日付	32
保証終了日	日付	32
現在の走行距離	数値	16
走行距離測定日	日付	32
製品名	テキスト	100
タイプ	テキスト	255
車体	テキスト	30
説明	テキスト	250
所有者	電子メール	50
作成：日付 (外部)	日時	32
行 ID	ID	15
統合 ID	テキスト	30
取引先 ID	ID	15
取引先統合 ID	テキスト	30
Custom Object N (カスタムオブジェクト N)	テキスト	50
インデックス付きピックリスト 1	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 2	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 3	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 4	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 5	テキスト	30
インデックス付きピックリスト 6	テキスト	30
インデックス付き数値	数値	16
インデックス付き日付	日時	32

デフォルトの車両のフィールド名	データタイプ	最大長
インデックス付き通貨	通貨	25
インデックス付き長いテキスト	テキスト	255
インデックス付き短いテキスト 1	テキスト	100
インデックス付き短いテキスト 2	テキスト	100
インデックス付きチェックボックス	ブール	1
製品カテゴリー	テキスト	100
パーツ番号	テキスト	50
購入日	日付	32
購入価格	通貨	25
数量	数値	16
出荷日	日付	32
インストール日	日付	32
失効日	日付	32
通知日	日付	32
担当者	テキスト	30

インポートアシスタント

次の各トピックでは、インポートアシスタントを使用して企業データを Oracle CRM On Demand にインポートする方法について説明します。

- [データのインポート](#) 『527ページ』
- [インポート結果の確認](#) 『532ページ』
- [電子メールとログファイルのインポート結果例](#) 『533ページ』

データのインポート

作業前の準備。{1}CSV ファイルを準備し、必要なすべてのフィールドまたはピックリスト値をアプリケーションに追加します。詳細は、「[データのインポートの準備](#) 『390ページ』」を参照してください。データをインポートする前に、My Oracle Support でサポートされているドキュメントを確認して、ユーザーの要件に最適なデータインポート方法を決定できます。

データのインポートの準備が完了した後、インポートアシスタントにアクセスし、インポートを実行します。インポートアシスタントですべてのインポートリクエストが対等に処理されるようにするには、各インポートリクエストを 100 レコードから構成される 1 つ以上の子リクエストに分割します。複数のインポートリクエストの子リクエストが同時に処理されるため、イ

インポートリクエストをキューに配置するために他のリクエストの完了を待機する必要がありません。インポートリクエストの処理時間はキュー内の子リクエストの進行状況を反映して継続的に更新されます。

ヒント: 5 件のレコードでテストのインポートを行い、インポートする **CSV** ファイルが正しく設定されていることを確認します。インポートファイル内のすべてのレコードではなく、5 件のレコードをインポートして修正の方がはるかに簡単です。

レコードをインポートするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションの [インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [データをインポート] セクションで、ドロップダウンメニューからインポート対象のレコードタイプを選択します。
- 4 [開始] ボタンをクリックします。

これにより、インポートアシスタントが起動します。

5 ステップ 1:

注: インポートするレコードに応じて次のオプションが使用可能です。

- a** 一致するレコードをインポートアシスタントで識別する方法を選択します。

インポートアシスタントでは、別のシステムからインポートされる固有の外部 ID フィールドの、外部固有 ID を使用します。また、Oracle CRM On Demand 行 ID および Oracle CRM On Demand 定義済みフィールドも使用します。定義済みフィールドは、取引先名や場所などの ID 以外のフィールドです。

重複レコードの定義方法については、「[レコードの重複と外部 ID について](#)」『368ページ』を参照してください。

- b** Oracle CRM On Demand 内で重複したレコード固有識別子が見つかった場合のインポートアシスタントの処理を選択します。重複しているレコードはインポートしない、既存のレコードを上書きする、または追加のレコードを作成する、のいずれかを選択できます。

注: このオプションは、タスク、アポイント、メモ、取引先チーム、担当者チーム、商談担当者役割では使用できません。

- c** インポートされたレコードのレコード固有識別子が、Oracle CRM On Demand 内の既存レコードと一致しない場合のインポートアシスタントの処理を選択します。

注: このオプションは、タスク、アポイント、メモでは使用できません。前のオプションで [既存のレコードを上書き] および [新規レコードを作成しない] を選択した場合は、結果としてレコードが更新されます。

- d** アプリケーションの値と一致しない CSV ファイルのピックリスト値の処理方法を選択します。

インポートアシスタントでは、新しい値をピックリストに追加するか、フィールド値をインポートしないことを選択できます。

注: このオプションは、メモをインポートする場合、またはユーザーの言語が企業のデフォルト言語とは異なる場合は使用できません。また、複数選択ピックリストにも適用されません。複数選択ピックリストは、CSV ファイルの値がアプリケーションに存在する場合にのみインポートできます。

- e データファイル内に関連付け（関連レコード）がない場合に、インポートアシスタントで新しいレコードを作成するかどうかを指定します。

注：このオプションは、取引先または担当者をインポートする場合にのみ使用可能です。

- f CSV ファイルで使用する日時形式を選択します。

詳細は、「[データインポート時のフィールドタイプのガイドライン](#)『385ページ』」を参照してください。

- g ファイルのエンコード方式として [西ヨーロッパ言語] が選択されていることを確認します。

注：別のエンコード方式を使用するかどうか分からない場合は、この設定を変更しないでください。デフォルトの [西ヨーロッパ言語] は、ヨーロッパと北米のほとんどのエンコード方式に適用されます。

- h ファイルで使用される CSV 区切りのタイプを選択します。カンマまたはセミコロンを選択できます。

- i [エラーログ] ドロップダウンリストで、Oracle CRM On Demand で記録するログを選択します（[メッセージ（全件）]、[エラーと警告] または [エラーのみ]）。

- j データをインポートする CSV ファイルを選択します。

- k データファイルを連続して処理する場合、このチェックボックスをオンにします。

注：データファイルを連続して処理するように選択すると、インポートリクエストが送信されたときに、子インポートリクエストが常に順番に処理されるようになります。CSV ファイルの依存関係が維持されます。

- l データのインポート時に監査を無効にする場合、およびデータのインポート時に監査証跡レコードを生成しない場合は、このチェックボックスをオンにします。

注：ユーザーレコードタイプをインポートする場合、この監査設定を無効にすることはできません。このオプションは、役割で [インポート用のレコード監査の管理] 権限が有効になっている場合にのみ使用できます。このチェックボックスをオンにすると、インポート対象のレコードタイプ、およびそのレコードタイプの監査を決定した監査対象フィールドの数に応じて、インポートパフォーマンスが向上する可能性があります。

6 ステップ 2：

- a 必要に応じてファイル検証の手順に従います。

- b フィールドマッピングファイルがある場合は、そのファイルを選択します。

- c フィールドマッピングファイル（.map）には、CSV ファイルのフィールドと、Oracle CRM On Demand の既存のフィールドとの組み合わせが定義されています。インポートの実行後に、最新のマッピング方式を使用した .map ファイルが含まれる電子メールがシステムにより送信されます。このファイルをコンピュータに保存して、後のインポートで使用します。

7 ステップ 3 で、ファイル内のフィールドを Oracle CRM On Demand のフィールドにマップします。少なくとも、すべての必須フィールドは CSV ファイルのカラムヘッダーにマップする必要があります。

インポートアシスタントでは、インポート CSV ファイルのカラムヘッダーがドロップダウンリストの横に表示され、ユーザーが追加したカスタムフィールドを含む、Oracle CRM On Demand の該当するエリアのすべてのフィールドが表示されます。

必要な住所フィールドがドロップダウンリストに表示されない場合は、次の表に示した対応するフィールドを選択します。

リストをフィルターするフィールド	ドロップダウンリストから選択するフィールド
番地 住所 1 丁目	町/番地
区	住所 2
フロア 地区	住所 3
市/郡	市
Colonia/Section (アメリカの地区) CEDEX Code (CEDEX コード) 住所 4 URB (市街化地域) 地域区分	私書箱/並べ替えコード
MEX State (MEX の州) BRA State (BRA の州) Parish (アメリカの郡) Part of Territory (アメリカの準州) 島 都道府県 地域 Emirate (emir の管轄地域) Oblast (ロシアの州)	都道府県
島コード Boite Postale (アフリカでの郵便番号) Codigo Postal (南米での郵便番号)	郵便番号

.map ファイルを選択した場合は、フィールドが正しくマップされていることを確認してください。場合によっては、前回のインポート後に作成されたカスタムフィールドもマップする必要があります。

外部 ID については、「[レコードの重複と外部 ID について](#)」『368ページ』を参照してください。

注意：間違ったファイルをインポート用に選択した場合は、[取消] をクリックして選択を変更します。この時点で[戻る] ボタンを使用してもキャッシュはクリアされないで、最初に選択したインポートファイルがフィールドマッピングのステップで表示されます。

注意：[外部固有 ID] および [マネージャの外部 ID] は、担当者とマネージャレコードの関連付けに使用される重要なフィールドです。これらのフィールドがマップされない場合、マネージャレコードは [担当者名] および [マネージャ] の各フィールドを使用して担当者に関連付けられます。[担当者名] および [マネージャ] の各フィールドを使用して関連付けを行う場合、データファイルのレコードは、より厳密な依存関係の順序に従う必要があります。

- 8 ステップ 4 : 画面上の指示に従います。
- 9 ステップ 5 : [終了] をクリックします。

インポートリクエストのキューを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある「管理」グローバルリンクをクリックします。
- 2 「キューのインポート&エクスポート」セクションで、「インポートリクエストキュー」リンクをクリックします。
「インポートリクエストキュー」ページには、完了予定時間などのリクエストに関する情報が表示されます。

次の表では、インポート状態について説明します。

状態	説明
キュー待ち	インポートはまだ処理されていません。
進行中	インポートは処理中です。 注： この状態のリクエストは削除できます。Oracle CRM On Demand に部分的にインポートされるデータを確認する必要があります。
完了	インポート中にエラーが発生しなかったことを示します。
エラーあり	インポートは完了しましたが、エラーが発生したレコードがあります。
失敗	インポートは完了しましたが、レコードはインポートされませんでした。
エラー	エラーが発生したため、インポートは完了しませんでした。
取消済み	インポートは取り消されました。

次の表では、インポートレコードの情報について説明します。

インポートレコードの情報	説明
送信数	CSV ファイル内に含まれるレコード数。
処理数	インポートエンジンが現在までに処理したレコード数。このフィールドは、20 秒ごと、またはシステムプロセスにより設定された間隔で処理されます。
正常にインポートされた数	問題なくインポートされたレコード数。
一部インポートされた数	インポートされたものの、すべてのフィールドはインポートされなかったレコードの数。
インポートされなかった数	まったくインポートされなかったレコード数。
取り消された数	取り消す前にインポートされたレコードの数。

複数選択ピックリスト値をインポートするには

- 1 CSV ファイルで、複数值ピックリストをセミコロンで区切ります。

たとえば、名前（名）を含む複数值ピックリストがあり、4 つの名前をこのフィールドにインポートする場合、各名前をセミコロンで区切ります。

- 2 [新規値をピックリストに追加] をクリックします。

Oracle CRM On Demand により複数值ピックリストがインポートされます。

インポート結果の確認

Oracle CRM On Demand のキューページを確認すると、インポートの進捗を追跡できます。インポートリクエストが完了すると、インポートキューに移動して完了したインポートジョブにドリルダウンできます。各インポートリクエストには、送信されたデータファイル、生成されたマップファイル、ログファイルが含まれます。ログファイルには、エラーやインポート状況などの基本的なログファイル情報が記録されます。インポート中にエラーが発生した場合は、インポートリクエストに添付されたログファイルを確認することをお勧めします。

さらに、インポートリクエストが完了すると、インポートの詳細を概説する電子メールメッセージを受け取ります。この電子メールには、インポートの概要、インポートされなかったレコードとフィールドの一覧を記録したログファイルが含まれます。

CSV ファイルのデータを修正してから再び情報をインポートできます。2 回目に重複レコードがある場合は、既存のレコードを上書きするように指定する必要があります。

インポートリクエストキューを表示するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [インポートツールとエクスポートツール] セクションで、[インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [キューのインポート&エクスポート] セクションで、[インポートリクエストキュー] リンクをクリックします。
[インポートリクエストキュー] ページが開き、インポートの終了時刻または終了予想時刻が表示されます。

インポート結果に関する電子メールメッセージを確認するには

- 電子メールアプリケーションに移動し、Oracle CRM On Demand から電子メールメッセージを開きます。

メッセージには、レコードごとに発生したエラーが記載され、レコードの完全なデータを取得するためのアクションが記載されます。

関連トピック

関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [電子メールとログファイルのインポート結果例](#) 『533ページ』

電子メールとログファイルのインポート結果例

インポートリクエストが完了すると、インポート結果をまとめた電子メールメッセージが送信されます。

マイク 様、

インポートのリクエストが **3/30/2007 7:10:06 AM** に完了しました。結果の概要は次のとおりです。

ユーザー : **qa/mjones**

インポートタイプ : 取引先

インポートファイル名 : **Accounts.csv**

完了時間 : **3/30/2007 7:10:06 AM**

総レコード数 : **496**

正常にインポートされた数 : **495**

一部インポートされた数 : **1**

無視された重複レコード : **0**

失敗 : **0**

インポートの詳細は、ログファイルを参照してください。それでも不明点がある場合は、オンラインヘルプを参照してください。

Oracle CRM On Demand をご使用いただき、ありがとうございます。

Oracle CRM On Demand カスタマーサポート

この電子メールには、インポートプロセスの間に発生したエラーがリストされたログファイルが添付されています。例 :

レコード固有のエラーです **EXTERNAL_SYSTEM_ID : 46552**。インポートフィールド [通貨] の値「**INR**」に一致するレコードが見つかりません。Oracle CRM On Demand の [取引先通貨] フィールドは更新されませんでしたが、このレコードの他のフィールド値はインポートされました。

エクスポートアシスタント

次の各トピックでは、エクスポートアシスタントを使用して Oracle CRM On Demand データをエクスポートする方法について説明します。

■ データのエクスポート 『534ページ』

■ エクスポート結果の確認 『535ページ』

データのエクスポート

企業のデータの全部または一部を、Oracle CRM On Demand から外部ファイルにエクスポートできます。エクスポートでは、選択したレコードタイプごとにエクスポートした CSV ファイルを格納する 1 つ以上の ZIP ファイルが生成されます。生成されるエクスポートファイルはそれぞれ 1.5 GB またはそれ未満です。

注： 企業で業界固有のアプリケーションのバージョンを使用する場合、業界固有のレコードタイプ（世帯、車両、医学教育イベント、資金など）、リンクされている活動およびメモはエクスポートから除外されます。また、経常商談製品のレコードをエクスポートする場合、その行に対応する Parent_ID カラムに、そのレコードが書き出されます。経常外のレコードの場合、Parent_ID セルは空になります。

作業前の準備。 この手順を実行するには、[エクスポートを管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

企業のデータをエクスポートするには

注： 週ベースで実行可能なエクスポート数には制限があります（全部および一部エクスポートどちらの場合も）。企業単位では、7 日ごとに 1 回、完全エクスポートを実行できます。ユーザー単位では、レコードタイプに関係なしに、7 日間で最大 1000 レコードまでエクスポートできます。

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の [データ管理ツール] セクションで、[インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [インポートツールとエクスポートツール] ページで、[データをエクスポートする] リンクをクリックします。
これにより、データエクスポートアシスタントが起動します。
- 4 ステップ 1 :
 - a 次の該当する操作を行います。
 - 完全エクスポートを実行する場合は、[すべてのレコードタイプをエクスポート] ラジオボタンを選択します。
 - 部分エクスポートを実行する場合は、[選択したレコードタイプをエクスポート] ラジオボタンとエクスポートするレコードタイプを選択します。あるレコードタイプのすべてのデータまたは個々の子レコードのデータをエクスポートできます。

- b [次へ] をクリックします。

親および子レコードタイプは、それぞれ個別の CSV ファイルにエクスポートされ、ZIP ファイルにまとめられます。

注意： Oracle CRM On Demand でメモデータをエクスポートする場合、CSV ファイルには、Oracle CRM On Demand で作成したすべての公開メモ、およびデータをエクスポートするユーザーに属する個人メモが格納されます。

- 5 ステップ 2 :

- a エクスポートした CSV ファイルで使用するタイムゾーンを選択します。

- b** エクスポートした **CSV** ファイルで使用する日時形式を選択します。
- c** ファイルで使用する **CSV** 区切りのタイプを選択します。カンマまたはセミコロンを選択できます。
- d** エクスポート時にデータを制限するフィルター基準を選択します。

注:データを初めてエクスポートするときは、日付でフィルターしなくてもかまいません。ただしその後は、前回のエクスポートの日付でデータをフィルターすることによる増分エクスポートの設定を検討してください。

- e** [次へ] をクリックします。

- 6** ステップ **3** で、概要を確認して [終了] をクリックし、エクスポートリクエストを送信します。
- 7** [リクエストされたエクスポート] ページで、[エクスポートリクエストキュー] リンクをクリックしてリクエストの状態を確認します。

次の表に、使用可能なエクスポートの状態の値を示します。

状態	説明
キュー待ち	エクスポートはまだ処理されていません。
再キュー済み	エクスポートリクエストはキューに再送信されました。
進行中	エクスポートは処理中です。 注: この状態のリクエストは削除できません。
完了	エクスポートはエラーなしで完了しました。
エラーあり	エクスポートは完了しましたが、エラーが発生したレコードがあります。
失敗	エクスポートは完了しましたが、レコードはエクスポートされませんでした。
エラー	エラーが発生したため、エクスポートは完了しませんでした。

[エクスポートリクエストキュー] ページの詳細は、「[エクスポート結果の確認](#) 『535ページ』」を参照してください。

エクスポート結果の確認

[エクスポートリクエストキュー] ページには、保留中および完了したすべてのエクスポートリクエストが表示されます。[保留リクエスト] セクションにリクエストがある場合は、[更新] をクリックしてリクエストが完了したかどうかを確認できます。リクエストが完了すると、リクエストをドリルダウンして出力ファイルを取得できます。

エクスポートリクエストを表示するには

- 1** 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2** [データ管理ツール] セクションの [インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。

- 3** [インポートツールとエクスポートツール] ページで、[エクスポートリクエストキュー] リンクをクリックします。
- [エクスポートリクエストキュー] ページが表示され、エクスポートリクエストの詳細が表示されます。次の表では、エクスポートリクエストの情報について説明します。

エクスポートレコードの情報	説明
エクスポートタイプ	エクスポートのタイプ： <ul style="list-style-type: none"> ■ 全部。企業のデータの完全なエクスポート。 ■ 一部。企業のデータの部分的なエクスポート。
レコードタイプ	レコードタイプ。子レコードを含む一部リクエストの場合は、子レコードを親:子（たとえば、Account:Contact）の形式で指定します。
状態	[進行中]、[完了] などの状態。
依頼者	リクエストの提出元ユーザー。
提出済み	エクスポートリクエストが提出された日時。
完了	エクスポートが完了した日時。

リクエストの **ZIP** ファイルを取得するには

- 1** [完了リクエスト] セクションで、[エクスポートタイプ] または [レコードタイプ] リンクをクリックして、[エクスポートリクエスト詳細] ページを開きます。
- このページには、エクスポートレコード数（エクスポートされたレコード）および問題なく正常にエクスポートされたレコードタイプ数（完了オブジェクト数）などのエクスポートプロパティが表示されます。
- 2** ページの [エクスポートリクエスト添付資料] セクションの **ZIP** ファイルが含まれている行で、次の操作を実行できます。
- レコードレベルのメニューから [ダウンロード] を選択して、**ZIP** ファイルを開くか、または保存します。
- ZIP ファイルは、エクスポートの概要が記載されたテキストファイル、およびエクスポートした様々なタイプのレコードの **CSV** ファイルで構成されます。
- [削除] をクリックして、ファイルを削除します。

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティ

次の各トピックでは、Oracle Data Loader On Demand クライアントを使用して Oracle CRM On Demand データをインポートする方法について説明します。

- [Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティについて](#) 『537ページ』
- [Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティのダウンロード](#) 『537ページ』

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティについて

Oracle Data Loader On Demand クライアントは、データを外部データソースから Oracle CRM On Demand にインポートする手段を提供するコマンドラインユーティリティです。このユーティリティには次の 2 つの関数があります。

- **挿入関数**：この関数は、レコードをファイルから取得して Oracle CRM On Demand に追加します。
- **更新関数**：この関数は、外部データソースのレコードを使用して Oracle CRM On Demand 内の既存レコードを変更します。

詳細は、『Oracle Data Loader On Demand Guide』を参照してください。このマニュアルは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

Oracle Data Loader On Demand クライアントユーティリティのダウンロード

このユーティリティをダウンロードするには、次の手順に従います。このユーティリティのインストール方法および使用方法については、『Oracle Data Loader On Demand Guide』を参照してください。このマニュアルは、Oracle Technology Network の Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリから入手できます。

Oracle Data Loader On Demand ユーティリティをダウンロードするには

- 1 Oracle CRM On Demand にサインインし、[管理] をクリックします。
- 2 [データ管理ツール] で、[インポートツールとエクスポートツール] をクリックします。
- 3 [Oracle Data Loader On Demand] で、[Oracle Data Loader On Demand] をクリックします。
- 4 ZIP ファイルをコンピュータに保存します。

Web サービスの統合

Oracle CRM On Demand では、次のことができます。

- Web サービスが有効なアプリケーションから Oracle CRM On Demand データにアクセスおよび変更する
- Oracle CRM On Demand と統合された独自のアプリケーションを作成する

次のことができます。

- WSDL (Web Services Description Language) ファイルをダウンロードし、Web サービスインターフェイスを使用して Oracle CRM On Demand にアクセスするアプリケーションの開発を容易にする（「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード](#)」『538ページ』を参照）。
- WSDL とスキーマファイルをダウンロードし、統合イベント Web サービスのメソッドを使用して統合キューにアクセスして、特定レコードタイプの変更を追跡できます。スキーマファイルをダウンロードして、サポートされるレコードタイプのカスタムフィールドや名前変更されたフィールドを追跡することもできます。
- 企業が使用した Web サービスの要約を表示する（「[Web サービスの利用の確認](#)」『540ページ』を参照）。

CTI 統合 API

[Web サービス管理] ページから使用可能な WSDL ファイルの 1 つが CTI アクティビティ Web サービスで、これはコンピュータテレフォニー統合 (CTI) の統合アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) の一部です。CTI 統合 API には、Web サービス統合を使用して Oracle CRM On Demand をサードパーティ CTI ソフトウェアと直接統合する機能があります。CTI 統合 API の詳細は、『Oracle CRM On Demand CTI Developer's Guide』を参照してください。

WSDL およびスキーマファイルのダウンロード

Oracle CRM On Demand に用意されている Web サービスにより、クライアントアプリケーションのユーザーは Oracle CRM On Demand を操作できます。たとえば、レコードの挿入、更新、削除、およびクエリーを行ったり、多くの管理タスクを実行できます。

Web サービスは、次の手段をとおして使用できます。

- **Web Services v1.0.** カスタムオブジェクト 01~03 と、設定済みオブジェクトの操作に使用されます。
- **Web Services v2.0.** すべての Oracle CRM On Demand カスタムオブジェクトと、設定済みオブジェクトの操作に使用されます。Web サービスバージョン 1.0 と比較すると、Web サービスバージョン 2.0 API には、QueryPage メソッドを使用したクエリーを発行するための追加オプションも用意されています。
- **サービス API.** Web サービスをとおした管理タスクの管理に使用されます。たとえば、サービス API を使用すると、Oracle CRM On Demand でユーザーを管理することや、システムにクエリーを発行したり Oracle CRM On Demand に関する情報を使用できます。
- **管理サービス.** Web サービスを利用した Oracle CRM On Demand メタデータの操作に使用されます。管理サービスには Oracle CRM On Demand メタデータを XML 形式で読取りおよびロードする機能があります。

[Web サービス管理] ページからは次のことができます。

- Web サービスにアクセスするアプリケーションにより使用される WSDL (Web Services Description Language) ファイルのダウンロード
- スキーマファイルのダウンロード
- Web サービスドキュメントへのアクセス

WSDL ファイルのダウンロード

WSDL ファイルは、レコードタイプごとに、およびサービス API ごとにダウンロードできます。

WSDL ファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [Web サービス統合] セクションで、[Web サービス管理] をクリックします。
- 3 [サービスを選択] リストから、必要に応じて [Web Services v1.0]、[Web Services v2.0]、[サービス API] または [管理サービス] を選択します。
- 4 [WSDL オブジェクト] リストで、必要なレコードタイプ (たとえば、[取引先] やサービス API の名前など) を選択します。

[WSDL オブジェクト] リストに表示される項目は、企業で設定されているレコードタイプによって異なります。

5 次のいずれかのボタンをクリックします。

- カスタム WSDL をダウンロード
- 汎用 WSDL をダウンロード

WSDL が含まれるページが表示されます。

〔カスタム WSDL をダウンロード〕を選択した場合と〔汎用 WSDL をダウンロード〕を選択した場合では、WSDL で表示されるカスタムフィールドが異なります。カスタム WSDL の場合、カスタムフィールドの XML タグは、〔フィールドセットアップ〕での統合タグに基づきます（「[カスタムフィールドの統合タグの設定](#)『78ページ』」を参照）。カスタム WSDL では、企業のフィールド命名規則を使用する、企業に固有の WSDL を生成できます。

汎用 WSDL の場合、カスタムフィールドは汎用 XML タグ（CustomNumber0 や CustomCurrency0 など）に基づきます。これらのプレースホルダーをマッピングサービスと一緒に使用することで、アプリケーションは企業で使用しているフィールド名にマップすることができます。

6 WSDL ファイルをコンピュータに保存します。

スキーマファイルのダウンロード

統合イベント Web サービスでは、WSDL 内のスキーマ（XSD）ファイルを使用します。このスキーマファイルは、integrationevents.wsdl ファイルとともにダウンロードできます。この WSDL ファイルには、企業が現在有効な統合イベントアクションを定義しているすべてのレコードタイプの XSD スキーマファイル用プレースホルダーが含まれています。汎用 WSDL ファイルが使用可能です。ただし、レコードタイプに対してカスタムフィールドを作成したり、フィールド名を変更した場合は、〔標準スキーマのダウンロード〕ボタンを使用できません。かわりに、〔Web サービス管理〕ページの〔カスタムスキーマのダウンロード〕ボタンを使用して、XSD ファイルをダウンロードする必要があります。統合イベント Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

スキーマファイルをダウンロードするには

- 1 任意のページの右上隅にある〔管理〕グローバルリンクをクリックします。
- 2 〔Web サービス統合〕セクションで、〔Web サービス管理〕をクリックします。
- 3 〔サービスを選択〕リストから、〔Web Services v1.0〕または〔Web Services v2.0〕を選択します。
- 4 〔WSDL オブジェクト〕リストから、必要なレコードタイプ（たとえば〔取引先〕など）を選択します。
〔WSDL オブジェクト〕リストに表示される項目は、企業で設定されているレコードタイプによって異なります。

5 次のいずれかのボタンをクリックします。

- カスタムスキーマのダウンロード
- 標準スキーマのダウンロード

スキーマファイルが含まれるページが表示されます。

〔Download Custom Schema〕または〔Download Generic Schema〕を選択したかによって、スキーマで表示されるカスタムフィールドは異なります。カスタムスキーマの場合、カスタムフィールドの XML タグは、〔フィールドセットアップ〕での統合タグに基づきます。汎用スキーマの場合、カスタムフィールドは汎用の XML タグに基づきます。

6 スキーマファイルをコンピュータに保存します。

Web サービスドキュメントへのアクセス

Web サービスのドキュメントにアクセスするには、[Web サービス管理] ページのタイトルバーの [ドキュメントをダウンロード] をクリックします。Oracle CRM On Demand の [ドキュメント] ページが表示され、このページから Oracle CRM On Demand の様々なリリースの Web サービスおよびその他のドキュメントにアクセスできます。

Web サービスの利用の確認

[Web サービスの利用] ページから、企業で使用された Web サービスの概要を確認できます。デフォルトでは、Web サービスリクエストはセッション ID 別に一覧表示されます。セッションごとに Web サービスクライアント名、Web サービス名、オペレーション、オペレーション数、開始時刻、終了時刻およびユーザーエイリアスが表示されます。次の表では、[Web サービスの利用] ページで行える操作について説明します。

操作	手順
Web サービスリクエストの新規リストの作成	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
Web サービスリクエストの詳細の表示	セッション ID をクリックして、Web サービスリクエストの詳細ページを表示します。
リストのエクスポート	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストをエクスポート] を選択します。「リストのレコードのエクスポート」の手順を実行します。
Web サービスリクエストの検索	[結果表示条件]の横にあるドロップダウンリストから必要なフィルター基準を選択します。
すべての Web サービスリクエストリストの管理	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」で説明されている必要なタスクの手順を実行します。
リスト全体の参照	リストページの上部または下部にあるナビゲーションアイコンをクリックして、リスト内の次のページ、前のページ、先頭ページまたは最終ページに移動します。
リストの検索基準の絞り込み	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」に説明されている該当手順を実行します。
リストの主要情報とフィルター情報の表示	タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。
リストの Web サービスリクエストの並べ替え	リストの並べ替えの基準にするカラムの見出しをクリックします。たとえば、[開始時刻] をクリックすると、リストは開始時刻に従って並べ替えられます。
表示レコード数の切り替え	ページの下部にある [表示レコード数] ドロップダウンリストで、一度に表示するレコードの数を選択します。
Web サービス操作のサブセットの表示	タイトルバーのドロップダウンリストをクリックし、必要に応じて選択内容を変更します。 <div><div></div> すべて。 すべての Web サービス操作のリストを表示します。 <div></div> 今日のすべての操作。 今日のすべての Web サービス操作を表示します。</div>

Web サービスリストの作成について

Web サービスリストの作成または編集の方法は、「リストの作成と編集」に説明されている方法と同様です。ただし、[Web サービスリスト] ページには、他のレコードタイプの対応するページにある [検索対象] セクションがありません。

Web サービスリストのフィルターに使用できるフィールドと、検索結果の表示対象として選択できるフィールドは、次のとおりです。

フィールド	説明
終了時刻	Web サービスリクエストの終了時刻。
エントリタイプ	有効な値は [ログイン]、[ログアウト]、および [ディスパッチ] です。 ログインとログアウト以外の Web サービス呼び出しは、着信 Web サービスディスパッチャービジネスサービスを経由するため、このフィールドがすべて [発送] に設定されます。
入力メッセージサイズ (バイト)	入力メッセージのサイズ (バイト単位)。
オペレーション	Web サービスリクエストのオペレーション。
オペレーション数	Web サービスリクエストのオペレーションの数。
出力メッセージサイズ (バイト)	出力メッセージのサイズ (バイト単位)。
セッション ID	Web サービスリクエストのセッション識別子。 これはログイン履歴テーブル内の対応するセッションの外部キーであって、Web サービスリクエストで使用された実際のセッション ID ではありません。
開始時刻	Web サービスリクエストの開始時刻。
ユーザー エイリアス	Web サービスリクエストを実行したユーザーのユーザーエイリアス。
Web サービスクライアント名	リクエストの実行元 Web サービスクライアントの名前。
Web サービス名	リクエストが行われた Web サービスの名前。
Web サービススペース	リクエストで使用する名前空間。

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティ

次の各トピックでは、Oracle Migration Tool On Demand クライアントを使用して Oracle CRM On Demand データをエクスポートする方法について説明します。

- [Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティについて](#) 『542ページ』
- [Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティのダウンロード](#) 『542ページ』

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティについて

Oracle Migration Tool On Demand クライアントは、カスタマイズされた設定を Oracle CRM On Demand 環境から別の環境に手動でコピーする必要をなくすコマンドラインユーティリティです。たとえば、カスタマイズされた設定を顧客のテスト環境から本番環境にコピーするような場合です。このクライアントユーティリティと管理サービス（一連の管理 Web サービス）を使用して、企業の設定の管理を自動化できます。このクライアントユーティリティでは、特定の設定情報を直接コンピュータ間で抽出およびインポートできます。また、設定を即時モードまたはバッチモードでインポートできます。管理サービスを使用して、クライアントアプリケーションから設定にアクセスすることもできます。次の設定をインポートできます。

- アクセスプロファイル
- フィールド管理の定義
- カスタムレコードタイプ
- カスタム Web タブ
- ピックリスト
- カスケード式ピックリスト
- カスタム Web リンク
- アクションバー
- ホームページレイアウト
- ページレイアウト
- 役割

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティのダウンロード

クライアントユーティリティをダウンロードするには、次の手順に従います。このクライアントユーティリティのインストール、設定および使用方法については、Oracle Migration Tool On Demand Guide の手順に従います。Oracle Migration Tool On Demand Guide は Oracle Technology Network の [Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ](http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html) 『Oracle CRM On Demand documentation library - <http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html>』から入手できます。管理サービスを利用するために必要な WSDL (Web Services Description Language) のダウンロードについては、「[WSDL およびスキーマファイルのダウンロード](#) 『538ページ』」を参照してください。管理サービスで提供される API の詳細は、Oracle Web Services On Demand Guide を参照してください。このガイドは Oracle Technology Network の [Oracle CRM On Demand ドキュメントライブラリ](http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html) 『Oracle CRM On Demand documentation library - <http://www.oracle.com/technology/documentation/siebelcrmod.html>』から入手可能です。

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユーティリティをダウンロードするには

- 1 Oracle Migration Tool On Demand のファイルの抽出先ディレクトリ（例：C:\OracleMigrationToolOnDemand）をコンピュータ上に作成します。
- 2 Oracle CRM On Demand にサインインし、[管理] をクリックします。
- 3 [データ管理ツール] で、[インポートツールとエクスポートツール] をクリックします。
- 4 [メタデータインポートおよびエクスポートツール] で、[Oracle Migration Tool On Demand] をクリックします。

- 5 ZIP ファイルをコンピュータに保存します。

個人抽出定義の管理

個人抽出定義を使用すると、企業の管理者は、特定のクライアントアプリケーションと同期する Oracle CRM On Demand の一連のデータを指定できます。企業の個人抽出定義は、作成、編集、および削除できます。個人抽出定義の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [個人抽出定義について](#) 『543ページ』

- [個人抽出定義の管理](#) 『554ページ』

個人抽出定義に基づいて個人抽出リクエストを作成するために、クライアントアプリケーションは Web サービスを呼び出すことができます（「[個人抽出リクエストの作成](#) 『555ページ』」を参照）。Web サービスは、個人抽出リクエストのデータを取得するために呼び出すこともできます。必要な権限が付与されているユーザーは、[個人エクスポートリクエストキュー] ページからファイルをダウンロードすることもできます（「[個人抽出リクエストの表示](#) 『556ページ』」を参照）。

個人抽出定義について

個人抽出定義は、Oracle CRM On Demand がクライアントアプリケーションと同期する一連のデータを定義した XML ファイルです。個人抽出定義には、レコードタイプのリスト、各レコードタイプのフィールドのリスト、および同期するデータを決定するために使用するフィルター基準を指定します。個人抽出定義には、次の 2 つのタイプがあります。

- **役割固有**。特定の役割が付与されたすべてのユーザーに使用されます。

- **デフォルト**。役割固有の個人抽出定義が定義されていないすべてのユーザーに使用されます。

[個人抽出定義リスト] ページでは、単一のクライアントアプリケーション用の複数の個人抽出定義をアップロードできます。各クライアントアプリケーションでは、有効なデフォルトの個人抽出定義を 1 つと役割ごとに有効な個人抽出定義を 1 つ使用できます。個人抽出定義のアップロードの詳細は、「[個人抽出定義の管理](#) 『554ページ』」を参照してください。

Web サービス呼び出しを使用して個人エクスポートリクエストを作成すると、個人抽出定義で定義されたデータが 1 つ以上の CSV ファイルにエクスポートされます。使用される個人抽出定義は、役割固有の個人抽出定義またはクライアントのデフォルトの個人抽出定義です。役割固有の個人抽出定義が作成されていない場合は、デフォルトの定義が使用されます。

個人抽出定義の XML ファイルの例

次の例は、個人抽出定義の XML ファイルの構造を示しています。この例では、Account レコードタイプの Account Name フィールドと Location フィールド、および Account Contact 子レコードタイプの AccountId フィールドと ContactId フィールドが指定されています。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<PersonalExtract>
  <ClientName>Mobile Client</ClientName>
  <Description>PED for Mobile Client</Description>
  <DateTimeFormat></DateTimeFormat>
  <TimeZone></TimeZone>
  <Delimiter></Delimiter>
```

```

<ListOfRecordType>
  <RecordType>
    <Name>Account</Name>
    <ViewMode>Personal</ViewMode>
    <BookId></BookId>
    <IncludeSubBooks></IncludeSubBooks>
    <ListOfField>
      <Field>
        <FieldName>AccountName</FieldName>
      </Field>
      <Field>
        <FieldName>Location</FieldName>
      </Field>
    </ListOfField>
  </RecordType>
  <RecordType>
    <Name>Acct Contact</Name>
    <ListOfField>
      <Field>
        <FieldName>AccountId</FieldName>
      </Field>
      <Field>
        <FieldName>ContactId</FieldName>
      </Field>
    </ListOfField>
  </RecordType>
</ListOfRecordType>
</PersonalExtract>

```

使用できる個人抽出定義のサンプル XML ファイルについては、「[個人抽出定義の XML ファイルの例](#) 『546ページ』」を参照してください。

個人抽出定義ファイルの XML 要素

次の表では、個人抽出定義の XML ファイルの各要素について説明します。

XML 要素	必須	デフォルト値	要素のコンテンツ
<PersonalExtract>	はい	なし	個人抽出定義のルート要素。
<ClientName>	はい	なし	クライアントの名前。この名前は、個人抽出定義が保存されると、ユーザーインターフェイスに表示されます。
<Description>	いいえ	なし	クライアントの説明。この説明は、[個人抽出定義リスト] ページに表示されます。
<DateTimeFormat>	いいえ	アメリカ	エクスポートされる CSV ファイルの値に対する日時形式。エクスポート機能でサポートされているすべての値として、[アメリカ]、カナダ、[英国]、ヨーロッパ、および[その他]を使用できます。
<TimeZone>	いいえ	User Default	エクスポートされる CSV ファイルの[日付]、[時間]、または[日時]の値に使用されるタイムゾーン。この値は、Oracle CRM On Demand でサポートされるユーザーデフォルト、企業デフォルト、または任意のタイムゾーンの値です。
<Delimiter>	いいえ	コンマ	エクスポートされる CSV ファイルに使用される区切りの値。値は、コンマまたはセミコロンです。
<ListOfRecordType>	はい	なし	クライアントにエクスポートするレコードタイプのリストが含まれます。
<RecordType>	はい	なし	エクスポートするレコードタイプのレコード定義が含まれます。
searchspec (<RecordType>の属性)	いいえ	すべて表示可能	レコードタイプのフィルター基準。この構文は、Web Services v2.0 QueryPage メソッドの searchspec 引数で使われる構文と同じです。このフィールドは、Web Services v2.0 統合タグを使用して指定されます。Web Services v2.0 呼び出しのすべての操作は、searchspec 属性でサポートされます。詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。
<Name>	はい	なし	レコードタイプの名前。親または子レコードタイプを使用できます。子レコードタイプの場合、この名前は子アクセスオブジェクト ID です。詳細は、『Oracle Migration Tool On Demand Guide』を参照してください。このガイドでは、レコードタイプ名は、オブジェクト名とそれに対応するユーザーインターフェイスでの表示名の表にある XML ファイルカラムのオブジェクト名の下にリストされています。詳細は、「 個人抽出定義でのレコードタイプの指定 」を参照してください。 Web Services v2.0 API でサポートされているすべてのレコードタイプおよびフィールドがサポートされます。

<ViewMode>	いいえ	「<ViewMode>と<BookId>の使用について」の項を参照	適用するアクセスのレベル。ViewMode の値の詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。
<BookId>	いいえ	なし	レコードが割り当てられているブック。
<IncludeSubBooks>	いいえ	Y	サブブックが含まれているかどうか。値は [Y] 、 [N] です。
<ListOfField>	はい	なし	エクスポートするレコードタイプのフィールドのリストが含まれます。
<Field>	はい	なし	エクスポートの対象とするフィールドが含まれます。
<FieldName>	はい	なし	フィールドの名前。この名前は、Web Services v2.0 の WSDL ファイルでこのレコードタイプに対して使用される内部名です。 カスタムフィールドの場合は、このフィールドにカスタムまたは汎用の統合タグのいずれかを指定できます。たとえば、[テキスト (短い)] タイプのカスタムフィールドには、カスタム統合タグの <code>stCustomTextSample</code> および汎用統合タグの <code>customtext01</code> を設定できます。統合タグの詳細は、「 カスタムフィールドの統合タグの設定 『78ページ』」および「 個人抽出定義でのレコードタイプの指定 『552ページ』」を参照してください。

<ViewMode>と<BookId>の使用について

個人抽出定義では、<ViewMode>と<BookId>を使用して、エクスポートするレコードタイプのレコードを特定のアクセスレベルまたはブックに制限できます。<ViewMode>と<BookId>を使用する場合は、Oracle CRM On Demand によって次のルールが適用されます。

- ViewMode と BookId のいずれの値も指定されていない場合、ViewMode は **Broadest** に設定されます。
- ViewMode の値が未指定で、BookId が指定されている場合は、BookId が適用された状態でレコードタイプがエクスポートされ、ViewMode は **Context** に設定されます。
- ViewMode と BookId の両方の値が指定されていて、ViewMode の値が **Context** でない場合は、BookId が使用され、ViewMode は **Context** に設定されます。

個人抽出定義の XML ファイルの例

このトピックの個人抽出定義の例を XML ファイルに貼り付けると、最小限の変更のみで Oracle CRM On Demand にアップロードできます。個人抽出定義の追加方法の詳細は、「[個人抽出定義の管理](#)『554ページ』」を参照してください。

注：これらのサンプル個人抽出定義ファイルを使用するには、Oracle CRM On Demand にアップロードする個人抽出定義と一致するクライアント名の値をすべての個人抽出 API リクエストで指定する必要があります。

サンプル 1

次の例では、AccountName の値と空白の Location フィールドを含み、ViewMode が Sales Rep 表示に設定されたすべての取引先レコードを指定しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<PersonalExtract>
  <ClientName>Sample #1</ClientName>
  <Description>Extract all Accounts with an AccountName value and a blank Location using Sales Rep visibility.</Description>
  <ListOfRecordType>
    <RecordType searchspec="[AccountName] IS NOT NULL AND [Location] IS NULL">
      <Name>Account</Name>
      <ViewMode>Sales Rep</ViewMode>
      <ListOfField>
        <Field>
          <FieldName>AccountName</FieldName>
        </Field>
        <Field>
          <FieldName>Location</FieldName>
        </Field>
        <Field>
          <FieldName>ExternalSystemId</FieldName>
        </Field>
      </ListOfField>
    </RecordType>
  </ListOfRecordType>
</PersonalExtract>
```

サンプル 2

次の例では、特定のブックに割り当てられた、AccountName の値と空白の Location フィールドを含むすべての取引先レコードを指定しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<PersonalExtract>
  <ClientName>Sample #2</ClientName>
```

```
<Description>Extract all Accounts with an AccountName value and a blank Location using a BookId value.</Description>
```

```
<ListOfRecordType>
```

```
  <RecordType searchspec ="[AccountName] IS NOT NULL AND [Location] IS NULL">
```

```
    <Name>Account</Name>
```

```
    <BookId>1234-ABCDE</BookId>
```

```
    <ListOfField>
```

```
      <Field>
```

```
        <FieldName>AccountName</FieldName>
```

```
      </Field>
```

```
      <Field>
```

```
        <FieldName>Location</FieldName>
```

```
      </Field>
```

```
      <Field>
```

```
        <FieldName>ExternalSystemId</FieldName>
```

```
      </Field>
```

```
    </ListOfField>
```

```
  </RecordType>
```

```
</ListOfRecordType>
```

```
</PersonalExtract>
```

サンプル 3

次の例では、特定のブックに割り当てられた、**AccountName** の値、空白の **Location** フィールド、および関連するすべての子取引先担当者レコードを含むすべての取引先レコードを指定しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

```
<PersonalExtract>
```

```
  <ClientName>Sample #3</ClientName>
```

```
  <Description>Extract all Accounts with an AccountName value and a blank Location using a BookId value.</Description>
```

```
  <ListOfRecordType>
```

```
    <RecordType searchspec ="[AccountName] IS NOT NULL AND [Location] IS NULL">
```

```
      <Name>Account</Name>
```

```
      <BookId>1234-ABCDE</BookId>
```

```
      <ListOfField>
```

```
<Field>
  <FieldName>AccountName</FieldName>
</Field>
  <Field>
    <FieldName>Location</FieldName>
  </Field>
  <Field>
    <FieldName>ExternalSystemId</FieldName>
  </Field>
</ListOfField>
</RecordType>
  <RecordType searchspec ="[AccountName] IS NOT NULL AND [Location] IS NULL">
<Name>Acct Contact</Name>
<BookId>1234-ABCDE</BookId>
<ListOfField>
  <Field>
    <FieldName>Id</FieldName>
  </Field>
  <Field>
    <FieldName>AccountName</FieldName>
  </Field>
  <Field>
    <FieldName>ContactFirstName</FieldName>
  </Field>
  <Field>
    <FieldName>ContactLastName</FieldName>
  </Field>
</ListOfField>
</RecordType>
</ListOfRecordType>
</PersonalExtract>
```

サンプル 4

次の例では、特定のブックに割り当てられた、**AccountName** の値、空白の **Location** フィールド、および関連するすべての子取引先担当者レコードを含むすべての取引先レコードを指定しています。また、特定のブックに割り当てられたカスタムオブジェクト **03** のすべてのレコードおよび関連するすべての子担当者レコードも指定しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<PersonalExtract>
  <ClientName>Sample #4</ClientName>
  <Description>Extract all Accounts with an AccountName value and a blank Location and all associated
Account Contact records using a BookId value.Extract all C03 records and associated Contact records
using a BookId value.</Description>
  <ListOfRecordType>
    <RecordType searchspec="[AccountName] IS NOT NULL AND [Location] IS NULL">
      <Name>Account</Name>
      <BookId>1QA2-RX9XX</BookId>
      <ListOfField>
        <Field>
          <FieldName>AccountName</FieldName>
        </Field>
        <Field>
          <FieldName>Location</FieldName>
        </Field>
        <Field>
          <FieldName>ExternalSystemId</FieldName>
        </Field>
      </ListOfField>
    </RecordType>
    <RecordType>
      <Name>Acct Contact</Name>
      <BookId>1QA2-RX9XX</BookId>
      <ListOfField>
        <Field>
          <FieldName>Id</FieldName>
        </Field>
        <Field>
```

```
<FieldName>AccountName</FieldName>
</Field>
<Field>
  <FieldName>ContactFirstName</FieldName>
</Field>
<Field>
  <FieldName>ContactLastName</FieldName>
</Field>
</ListOfField>
</RecordType>
<RecordType>
  <Name>CustomObject4</Name>
  <BookId>1QA2-RX9XX</BookId>
  <ListOfField>
    <Field>
      <FieldName>Name</FieldName>
    </Field>
    <Field>
      <FieldName>Id</FieldName>
    </Field>
    <Field>
      <FieldName>ExternalSystemId</FieldName>
    </Field>
  </ListOfField>
</RecordType>
<RecordType>
  <Name>CustomObject4 Contact ( CustomObject4 Id )</Name>
  <BookId>1QA2-RX9XX</BookId>
  <ListOfField>
    <Field>
      <FieldName>Id</FieldName>
    </Field>
    <Field>
```

```

        <FieldName>ContactFirstName</FieldName>
    </Field>
    <Field>
        <FieldName>ContactLastName</FieldName>
    </Field>
</ListOfField>
</RecordType>
</ListOfRecordType>
</PersonalExtract>

```

個人抽出定義でのレコードタイプの指定

個人抽出定義ファイルを作成する場合は、抽出するレコードタイプを定義ファイルに指定する必要があります。次に例を示します。

```

<RecordType>
    <Name>Acct Contact</Name>
    ...
</RecordType>

```

個人抽出定義ファイルに指定するレコードタイプ名の値には、『Oracle Migration Tool On Demand Guide』の付録にある表のカラムの名前（アクセスプロファイルの XML ファイルのオブジェクト名）を使用します。この値は、Oracle CRM On Demand の UI には表示されません。個人抽出定義ファイルに指定するこのフィールド名の値は、指定のレコードタイプに対応する Web Services v2.0 の統合タグの値です。次の手順で説明する 2 つの方法で、管理者は必要な情報を Oracle CRM On Demand から取得して、個人抽出定義ファイルに正しく移入できます。

手動によるレコードタイプとフィールドの指定

『Oracle Migration Tool On Demand Guide』で必要なレコードタイプを検索し、そのレコードタイプに対応するフィールド名を WSDL ファイルで検索できます。

レコードタイプとフィールドを手動で指定するには

- 1 レコードタイプの表示名のデフォルト値を使用して、アクセスプロファイルの XML ファイルのカラムにあるオブジェクト名から対応する値を識別します。

表示名の値の詳細は、『Oracle Migration Tool On Demand Guide』を参照してください。

- 2 個人抽出定義ファイルに値を追加します。

```

<RecordType>
    <Name>アクセスプロファイルの XML ファイルのオブジェクト名</Name>
    ...

```


<RecordType>

- 3 抽出するトップレベルまたは子レコードタイプに対応する Web Services v2.0 のカスタム WSDL ファイルをダウンロードします。
- 4 WSDL ファイルで、レコードタイプに対応する <ListOfObject> 要素を検索します。
ほとんどの場合、*Object* は、Oracle CRM On Demand のレコードタイプのデフォルトの表示名と同じです。
- 5 抽出するフィールドのセットを個人抽出定義ファイルの <RecordType> 要素に追加します。
フィールド名は、<ListOfObject> 要素内のタグに対応します。

<RecordType>

<Name>アクセスプロファイルの XML ファイルのオブジェクト名</Name>

<ListOfField>

<Field>

<FieldName>WS v2.0 WSDL の統合タグ</FieldName>

</Field>

<Field>

<FieldName>WS v2.0 WSDL の統合タグ</FieldName>

</Field>

...

<RecordType>

フィールド管理 Web サービスを使用したレコードタイプとフィールドの指定

管理サービス API の一部であるフィールド管理 Web サービスを使用して、必要なレコードタイプ名とフィールド名を取得できます。

FieldManagementRead および FieldManagementReadAll メソッドに対する SOAP レスポンスで返される要素には、次のものがあります。

- **<ObjectName>**。レコードタイプの名前。
- **<Name>**。Oracle CRM On Demand で使用されるフィールドの内部名。
- **<DisplayName>**。UI で使用されるフィールドの名前。
- **<IntegrationTag>**。フィールドのカスタム統合タグの名前。
- **<GenericIntegrationTag>**。Oracle CRM On Demand によって割り当てられるフィールドの統合タグのデフォルト名。

フィールド管理 Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

フィールド管理 Web サービスを使用してレコードタイプとフィールドを指定するには

- 1 抽出するレコードタイプごとにフィールド管理 Web サービスを呼び出します。
- 2 SOAP レスポンスで、レコードタイプに対応する <ObjectName> を識別します。
- 3 個人抽出定義ファイルに <ObjectName> 値を追加します。

```
<RecordType>
  <Name>フィールド管理 API からの ObjectName 値</Name>
```

...

```
</RecordType>
```

- 4 抽出するフィールドのセットを個人抽出定義ファイルの <RecordType> 要素に追加します。
フィールド名は、<IntegrationTag> または <GenericIntegrationTag> の値に対応します。

```
<RecordType>
  <Name>フィールド管理 API からの ObjectName 値</Name>
  <ListOfField>
    <Field>
      <FieldName>フィールド管理 API からの統合タグ値</FieldName>
    </Field>
    <Field>
      <FieldName>フィールド管理 API からの統合タグ値</FieldName>
    </Field>
    ...
  </ListOfField>
</RecordType>
```

個人抽出定義の管理

個人抽出定義は作成、編集、または削除できます。[個人抽出定義リスト] ページから個人抽出定義をダウンロードすることもできます。

作業前の準備。 次の手順を実行するには、[個人抽出の管理] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。個人抽出定義の XML ファイルが有効である必要があります。「[個人抽出定義について](#)」『543ページ』を参照してください。

個人抽出定義を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の [データ管理ツール] セクションで、[インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。

- 3 [インポートツールとエクスポートツール] ページで、[個人抽出定義の管理] リンクをクリックします。
- 4 [個人抽出定義リスト] ページで、[新規] をクリックします。
- 5 個人抽出定義のタイプ（[デフォルト] または [役割] ）を選択します。
- 6 タイプに [役割] を選択した場合は、役割を選択します。
- 7 [有効] チェックボックスをオンにします。
- 8 [ファイル] フィールドで、個人抽出定義ファイルを参照して追加します。
- 9 [保存] をクリックします。

この個人抽出定義ファイルは、次の内容を確認するために検証されます。

- 整形 XML ファイルかどうか
- 要素と属性のカーディナリティが適切かどうか
- 有効な XML タグのみが指定されていること

個人抽出定義が無効な場合は、エラーメッセージが表示されます。有効な個人抽出定義ファイルがアップロードされた場合は、[クライアント名] フィールドにクライアントアプリケーションの名前が表示され、[個人抽出定義の編集] ページの [ファイル拡張子]、[ファイル名] [ファイル サイズ] の各フィールドにファイル情報が表示されます。

次の手順では、個人抽出定義を削除する方法について説明します。

個人抽出定義を削除するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [管理ホームページ] の [データ管理ツール] セクションで、[インポートツールとエクスポートツール] リンクをクリックします。
- 3 [インポートツールとエクスポートツール] ページで、[個人抽出定義の管理] リンクをクリックします。
- 4 [個人抽出定義リスト] ページで、削除する個人抽出定義に対応する [削除] をクリックし、[OK] をクリックします。

個人抽出リクエストの作成

Oracle CRM On Demand と同期するために、クライアントアプリケーションは Web サービス呼び出しを発行して、個人抽出定義に基づいた個人抽出リクエストを作成し、そのリクエストから生成されたデータファイルを取得します。個人抽出リクエストを作成するための呼び出しを発行できるのは、次のユーザーです。

- 特定のクライアント用に自分で個人抽出リクエストを作成するユーザー
- 特定のクライアントの特定のユーザー用に個人抽出リクエストを作成する管理者

これらの Web サービスの詳細は、『Oracle Web Services On Demand Guide』を参照してください。

処理中の特定のクライアントアプリケーションに対して保持できる個人エクスポートリクエストは **1** つのみです。つまり、リクエストはキュー、再キュー、または処理のいずれかの対象となります。最初のリクエストの処理中に **2** 番目のリクエストを受信すると、クライアントアプリケーションにエラーメッセージが送信されます。ユーザーが複数の個人抽出リクエストを発行できるのは、指定したクライアント名の値がリクエストごとに異なる場合のみです。ただし、管理者は、ユーザーが同じクライアント名の値でリクエストを発行している場合にも、そのユーザーの個人抽出をリクエストできます。個人データ抽出リクエストが完了すると、その抽出をリクエストしたユーザーに対して電子メールメッセージが送信されます。

個人抽出リクエストの表示

「個人抽出の管理」または「個人エクスポート」権限のあるユーザーの場合は、保留中および完了した個人抽出リクエストが「個人エクスポートリクエストキュー」ページに表示されます。完了したリクエストの場合は、リクエストをドリルダウンして **CSV** ファイルを取得できます。個人抽出定義に指定したレコードタイプ（親または子）ごとに、個別の **CSV** ファイルがあります。「個人エクスポートリクエストキュー」ページの詳細は、「エクスポートリクエストの表示」を参照してください。

個人エクスポートリクエスト用の **CSV** ファイルにあるレコードタイプとフィールドの名前は、個人抽出定義で使ったレコードタイプとフィールドの名前と同じです。個人抽出定義では、フィールド名は **Web Services v2.0** の統合タグを使用して指定され、**CSV** ファイルではこのフィールド名がカラムの見出しとして使用されます。カスタムフィールドには次の **2** つの統合タグがあります。

- **汎用タグ**。このタグは汎用 **WSDL** ファイルで使用されます。
- **カスタムタグ**。このタグはカスタム **WSDL** ファイルで使用されます。

CSV ファイルで使われる統合タグは、個人抽出定義でカスタムタグまたは汎用タグが使用されているかどうかによって決まります。個人抽出リクエストのファイルは **7** 日後に削除されます。クライアントごとに、最新のファイルのみがユーザーのために保持されます。ユーザーがクライアント用の新しい個人抽出をリクエストすると、既存の個人抽出リクエストは削除されます。

一括削除キューページ

「一括削除キュー」ページには、企業で提出されたすべてのアクティブなレコード削除リクエストおよび完了したレコード削除リクエストが表示されます。このページから、次の表に示されているタスクを行うことができます。

操作	手順
アクティブなリクエストの取り消し	レコードリストページからレコードのリストを削除すると、一括削除リクエストが一括削除キューページに正常にロードされたことを示す確認の電子メールが送信されます。リクエストの横に「続行」リンクが表示されるまでは、「取り消し」リンクをクリックしてリクエストを取り消すことができます。
アクティブなリクエストの続行	リクエストの横にある「続行」リンクをクリックして、一括削除リクエストを確認します。これにより、一括削除リクエストが正常に完了し、レコードのリストが削除されたことを示す確認の電子メールが送信されます。
レコード数の表示	「表示レコード数」ドロップダウンリストで、一度に

操作	手順
	表示するリクエストの数を選択します。
処理済みリクエストの削除	〔削除〕 ボタンをクリックして、一括削除リクエストを処理済みリクエストキューから削除します。
処理済みリクエストのログ作成	〔ログ〕 ボタンをクリックして、一括削除リクエストをログファイルとして保存します。

バッチ割当ブックキューページ

〔バッチ割当ブックキュー〕 ページには、企業で提出されたすべてのアクティブなブック割当リクエストおよび完了したブック割当リクエストが表示されます。このページから、次の表に示されているタスクを行うことができます。

操作	手順
取り消し	リクエストの横にある〔取り消し〕 リンクをクリックします。リクエストの状態が〔進行中〕 に変わるまでは、リクエストを取り消すことができます。
リクエストの詳細の表示	リクエストのリスト名をドリルダウンします。〔リクエスト詳細〕 ページで、リクエストのプロパティおよびパラメータを表示できます。
表示リクエスト数の切り替え	〔表示レコード数〕 ドロップダウンリストで、一度に表示するリクエストの数を選択します。
処理済みリクエストの削除	〔削除〕 リンクをクリックして、リクエストを処理済みリクエストキューから削除します。
ログ	〔ログ〕 リンクをクリックして、リクエストをログファイルとして保存します。

リクエストが完了すると、電子メール通知が送信されます。

バッチ割当リクエストの作成については、「[ブックへのレコードの割り当て](#)」を参照してください。

統合イベントについて

統合イベントは、Oracle CRM On Demand のレコードに対する個々の変更（作成、更新、削除、関連付け、関連付け解除）に基づいて外部プロセスをトリガーするメカニズムです。統合イベントは、ユーザーが変更したデータに関する情報を保持しています。この情報は XML ファイルとして 1 つまたは複数の統合イベントキューに入れられます。この XML ファイルは、Oracle CRM On Demand 内のイベントの詳細に外部アプリケーションからアクセスするために使用できます。たとえば、外

部アプリケーションから Oracle CRM On Demand の取引先の変更を追跡し、その変更に従ってローカル更新をトリガーする処理が必要になる場合があります。

顧客が複数のアプリケーションを個別に Oracle CRM On Demand と統合する必要がある場合、企業の管理者は複数の統合イベントキューを定義できます。統合イベント機能を使用して複数のキューに同じイベントを生成することで、外部アプリケーションはリクエストに特定のキューからのイベントのみを設定できるため、キューの整合性が保証されます。

統合イベント管理の設定について

新規の顧客の場合は、統合イベント機能が自動的に有効になります。ただし、既存の顧客の場合、Oracle CRM On Demand の統合イベント機能は、カスタマーサポートと企業の管理者による設定が必要です。カスタマーサポートに連絡して、統合イベント管理のサポートを依頼するとともに、統合イベントキューの最大合計サイズを指定してください。

注：統合キューの最大サイズは「[企業プロファイル](#)」ページには表示されません。

カスタマーサポートが統合イベント機能を設定すると、「[管理ホームページ](#)」の「[データ管理ツール](#)」セクションに「[統合イベント管理](#)」リンクが表示されます。管理者の役割を持つユーザーには、「[統合イベントアクセスの有効化](#)」権限が有効になります。詳細については、「[役割の追加](#)」『207ページ』を参照してください。

統合イベントの作成、保存およびアクセスについて

統合イベントの作成をトリガーするには、「[統合イベントの作成](#)」アクションを含むワークフロールールを作成する必要があります。このようなアクションのそれぞれについて、追跡するレコードのフィールドを指定できます。追跡対象フィールドの値が変更されると、その変更内容が統合イベントに記録されます。統合イベントの書き込み先キューを指定することもできます。ワークフロールールの詳細は、「[ワークフロールールについて](#)」『273ページ』を参照してください。

統合イベントは 1 つまたは複数のキューに入れられます。このキューの最大合計サイズは、カスタマーサポート担当者によって指定されます。デフォルトの統合イベントキューが用意されていますが、追加キューを作成することもできます。

キューがいっぱいになると、それ以上の統合イベントは保存されません。キューの統合イベント数が再び最大を下回ると、新しいイベントがキューに追加されます。

「[統合イベント設定](#)」ページで、キューから統合イベントを削除できます。また、キューがいっぱいになったとき、またはキューの統合イベント数が指定した数を超えたときに、特定のアドレスに警告の電子メールを送信するように Oracle CRM On Demand を設定することもできます。

デフォルトキューなどの統合イベントキューを無効にすることができますが、キューを削除することはできません。

外部アプリケーションから統合イベントキューにアクセスするには、統合イベント Web サービスを使用します。この Web サービスには次の 2 つのメソッドがあります。

- **GetEvents**。キューから統合イベントを取得します。

- **DeleteEvents**。キューから統合イベントを削除します。

統合イベント Web サービスの WSDL (Web Services Description Language) ファイルのダウンロードの詳細は、「[Web サービスの統合](#)」『537ページ』の「[Web サービスの統合](#)」参照』を参照してください。統合イベント Web サービスの詳細は、『[Oracle Web Services On Demand Guide](#)』を参照してください。

場合によっては、クライアントアプリケーションで処理できないイベントが統合イベントキューに含まれる可能性があります。このような不適切なイベントの処理方法の詳細は、『[Oracle Web Services On Demand Guide](#)』を参照してください。

- 統合イベントキューの作成手順の詳細は、「[統合イベントキューの作成](#)」『559ページ』を参照してください。

- 統合イベントキューの管理手順の詳細は、「[統合イベント設定の管理](#)」『560ページ』を参照してください。

- 統合イベントをトリガーするワークフローの作成手順の詳細については、「[ワークフローの作成](#)」『284ページ』を参照してください。

統合イベントキューの作成

統合イベントサポートが有効な場合は、デフォルトの統合イベントキューが **Oracle CRM On Demand** で提供されます。追加キューを作成して個々の統合イベントの書込先キューを指定することもできます。

作業前の準備。「[統合イベントについて](#)」『557ページ』での説明に従って、企業の統合イベント管理を設定する必要があります。統合イベント管理を設定すると、キューで許可される統合イベントの最大数が企業プロファイルの一部として設定されます。次の手順を実行するには、[統合イベントアクセスの有効化] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

統合イベントキューを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションで、[統合イベント管理] リンクをクリックします。
- 3 [統合イベント管理] ページで、[統合イベントキュー管理] リンクをクリックします。
- 4 [統合キュー管理] ページで、[新しいキュー] をクリックします。
- 5 [統合イベントキュー設定] ページで、次のフィールドに入力し、[保存] をクリックします。

フィールド	コメント
キュー名	キューの名前を入力します。必須フィールドです。
説明	キューの使用方法的説明を入力します。
無効化	このチェックボックスがオフになっていることを確認してください。
キューサイズ	<p>キューのサイズを入力します。このサイズは [未割当キュー容量] フィールドに表示されるサイズを超えない値にする必要があります。必須フィールドです。</p> <p>[統合イベントファイル制限] フィールドに、すべてのキューに関して企業が保存可能なイベントの合計数が表示されます。既存のキューのサイズがこの数に一致している場合、新規にキューを作成することはできません。</p>
通知電子メールアドレス	キューがいっぱいになったか、一定のサイズに達したときに警告の電子メールを送信する電子メールアドレスを入力します。

フィールド	コメント
キュー状態になったトランザクションが一定数に達したときに警告電子メールを送信	[通知電子メールアドレス] フィールドに指定されたアドレスに警告の電子メールを送信するまで保存を許容するキューのサイズを指定します。

統合イベント設定の管理

すべての統合イベントキューの設定を編集できます。

作業前の準備。「[統合イベントについて](#)」『557ページ』での説明に従って、企業の統合イベント管理を設定する必要があります。統合イベント管理を設定すると、キューで許可される統合イベントの最大数が企業プロファイルの一部として設定されます。ここで説明する手順を実行するには、[統合イベントアクセスの有効化] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

統合イベント設定を管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [データ管理ツール] セクションで、[統合イベント管理] リンクをクリックします。
- 3 [統合イベント管理] ページで、[統合イベントキュー管理] リンクをクリックします。
- 4 [統合キュー管理] ページで、キューの [編集] リンクをクリックします。
- 5 [統合イベントキュー設定] ページでは、次のタスクを実行できます。

タスク	アクション
キューを無効にします。	[無効化] を選択すると、デフォルトキューを含むすべてのキューが無効になります。
キューのサイズを更新します。	<p>[キューサイズ] フィールドに値を入力します。このサイズは [未割当キュー容量] フィールドに表示されるサイズを超えない値にする必要があります。</p> <p>[統合イベントファイル制限] フィールドに、すべてのキューに関して企業が保存可能なイベントの合計数が表示されます。既存のキューのサイズがこの数に一致している場合、キューのサイズを増やすことはできません。</p>

タスク	アクション
キューからトランザクションを削除します。	<p>キューからすべてのトランザクションを削除するには、[[保存] をクリックすると、すべてのトランザクションはクリアされます。] チェックボックスをオンにします。[保存] をクリックしてトランザクションを削除します。</p> <p>古いトランザクションを削除するには、カレンダーアイコンをクリックし、[[保存] をクリックすると、これより以前のトランザクションはクリアされます] フィールドの日付を選択します。[保存] をクリックしてトランザクションを削除します。</p>
キューがいっぱいになったか、一定のサイズに達したときに警告の電子メールを送信するように Oracle CRM On Demand を設定します。	電子メールアドレスを入力し、オプションとして警告の電子メールを送信する制限サイズを指定します。[保存] をクリックして電子メール設定を保存します。
日時のフィールドの値 (ModifiedDate、CreatedDate など) が統合イベントで記録される方法を指定します。	<p>[タイムゾーン] フィールドから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ UTC (協定世界時) 形式で日時を記録するには、[UTC] を選択します。 ■ レコードを更新したユーザーのタイムゾーンに従って日時を記録するには、[ユーザータイムゾーン] を選択します。これがデフォルト値です。
統合イベントで、ピックリストの値をユーザーの言語で記録するか、LIC (言語非依存コード) 値として記録するかを指定します。	<p>[ピックリスト形式] フィールドから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ピックリストの値を LIC 値として記録するには、[言語に依存しない値] を選択します。 ■ ピックリストの値をユーザーの言語で記録するには、[ユーザー言語] を選択します。これがデフォルト値です。 <p>注: ピックリストの LIC 値は、通常 ENU 値と同じです。</p>

注: [ピックリスト形式] および [タイムゾーン] フィールドは、デフォルトのキューに対してのみ設定されます。その他のキューにはすべて、企業のデフォルトキューに対して選択された設定が継承されます。これらのフィールドは、企業用に設定されたすべてのキューを対象として表示されますが、デフォルトのキュー以外のキューの場合は読み取り専用になります。

コンテンツ管理

企業では、顧客が興味を示し、その後購入した製品を追跡することがよくあります。社内の従業員が製品情報を追跡しやすくするために、製品カタログを設定できます。製品カタログの設定は、製品のカテゴリーへの分類 (必要な場合) と、各カテゴリーの下での製品の設定で構成されています。製品には、経常または 1 回かぎりの製品、サービス、およびトレーニングオプションが含まれます。

次のセクションでは、Oracle CRM On Demand 上での製品の追跡に役に立つさまざまな方法について説明します。

商談

商談に従事するセールス要員は、顧客の関心事の詳細（取引の見込み売上を含む）を追跡する商談レコードを作成できます。顧客は、いくつかの製品に興味を示すだけでなく、サービス契約の購入を検討する場合があります。サービス要員は、商談レコードの「製品」セクションにスクロールダウンして、顧客が購入する可能性のある各品目の製品レコードをリンクすることができます。サービス契約（毎月請求）の場合、セールス要員は経常売上情報を記録することもできます。このように、商談レコードにより見込み取引に関する完全な情報が得られるため、企業は次のことを行うことができます。

- 各商談に所属する製品の追跡
- これらの製品に基づいて生成された通期の売上ストリームの計算（経常および経常外製品）

資産

セールスプロフェッショナル、サービスプロフェッショナルのどちらにとっても、顧客がすでに購入した製品およびサービスを認識することは有用です。Oracle CRM On Demand では、製品レコードを顧客の取引先レコードまたは担当者レコードにリンクすることで、購入製品（つまり資産）を追跡することができます。

売上予想

売上予想は、個々の商談レコードまたは製品レコードから作成されたセールス実績の定期的なスナップショットです。製品を商談レコード、取引先レコード、または担当者レコードにリンクすることには、製品売上および経常売上に基いて売上予想を生成するかどうかを企業が決定できるという利点があります。

企業で、商談売上ではなく、製品売上に基いて売上予想を行っている場合は、従業員は売上予想の合計に使用する製品を指定できます。

コンテンツ管理に関連する作業の手順を参照するには、該当するトピックをクリックしてください。

- [製品カテゴリーの設定](#) 『562ページ』
- [自社製品の設定](#) 『563ページ』
- [PRM の価格リストの設定](#) 『565ページ』
- [企業の添付資料の管理](#) 『568ページ』
- [アセスメントスクリプトの設定](#) 『569ページ』
- [レポートフォルダの設定](#)

製品カテゴリーの設定

自社の製品リストが大きくなる場合は、社内で意味のある名前を持つ論理グループに製品を分類することをお勧めします。このようなグループを製品カテゴリーと呼びます。カテゴリーを使用すれば必要なものをすばやく見つけられるようにリストを並べ替えることができるため、製品の検索が容易になります。また、製品カテゴリーの使用により、従業員は自分の商談にリンクする正しい製品をすばやく識別できるようになります。たとえば、事務機器会社の場合は、複写機、ファックス機、サービス、サプライ品などのカテゴリーを設定します。

カテゴリーとサブカテゴリー（子）は必要な数だけ作成できます。

作業前の準備：

- ここで説明する手順を実行するには、「内容を管理」権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

- 企業で製品カテゴリが定義されていない場合は、Oracle CRM On Demand で情報を設定する前に、カテゴリとサブカテゴリを指定します。情報を入力する場合は、最上部の親カテゴリから開始して、子カテゴリを追加します。

製品カテゴリを設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [製品カテゴリ] リンクをクリックします。
- 4 [製品カテゴリリスト] ページで、次の該当する操作を行います。
 - カテゴリを追加するには、[新規] をクリックします。
 - カテゴリ情報を更新するには、該当するレコードで [編集] をクリックします。

注： このページに表示するレコードの数を制限するには（さらに、既存のカテゴリの検索を容易にするには）、タイトルバーのドロップダウンメニューをクリックし、選択内容を変更します。ドロップダウンリストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、アプリケーションに付属の標準のリストが含まれます。

 - 既存のカテゴリに子カテゴリを追加するには、[カテゴリ名] カラムのリンクをクリックし、[子カテゴリ] セクションの [新規] をクリックします。
- 5 [カテゴリ編集] ページで、必要な情報を入力します。カテゴリ名には 100 文字までという制限があります。
- 6 レコードを保存します。

自社製品の設定

作業前の準備：

- ここで説明する手順を実行するには、[内容を管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。
- 製品をカテゴリに分類している場合は、製品を定義する前にカテゴリを設定します。

従業員が製品を商談にリンクできるようにするには、製品在庫を設定する必要があります。製品を定義する際に、従業員が注文を実行可能な製品のリストに記載する製品をマークします（その結果、従業員が製品を自分の商談にリンクできるようになります）。

製品を追加するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [製品カタログ] セクションで、[製品] リンクをクリックします。

4 「製品リスト」 ページで、次の該当する操作を行います。

- 製品を追加するには、[新規] をクリックします。
- 製品情報を更新するには、必要なレコードで[編集] をクリックします。

注：このページに表示するレコードの数を制限するには（さらに、既存の製品の検索を容易にするには）、タイトルバーのドロップダウンメニューをクリックし、選択内容を変更します。ドロップダウンリストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、アプリケーションに付属の標準のリストが含まれます。

5 「製品編集」 ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。

注：従業員が製品を使用できるようにするには（その結果、製品をその商談にリンクできるようにするには）、[オーダー可] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

ヒント：製品は削除できません。かわりに、[オーダー可] チェックボックスをオフにして、製品を無効にする必要があります。これで、従業員が選択できる製品のリストからその製品が削除されます。

次の表では、製品のフィールド情報について説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものと異なる場合があります（製品フィールドの詳細は、「製品フィールド」を参照。）

フィールド	説明
主要な製品情報	
製品カテゴリー	Oracle CRM On Demand Financial Services Edition と Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
クラス	製品の所属先としてグループ化したもの。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
価格タイプ	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
親製品	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
製品タイプ	Oracle CRM On Demand Automotive Edition と Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。 Automotive 製品を定義している場合は、[製品タイプ] フィールドを [車両] に設定してください。 サンプルドロップ製品を定義している場合は（[タイプ] を [サンプル] に設定している場合）、[製品タイプ] フィールドを [サンプル] に設定するか、空のままにしてください。
治療クラス	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
パーツ番号	製品のパーツ番号。
オーダー可	従業員に対して利用可能にする製品には、このフィールドを選択します。[オーダー可] を選択しない場合、製品は製品リストに表示されません。
タイプ	製品のタイプ。[製品]、[サービス]、[トレーニング]、[マーケット]、[競合会社]、[詳細]、[サンプル] または [プロモーションアイテム] のいずれかを指定できます。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場

フィールド	説明
	<p>合、[タイプ] に次の値を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイテムが製品詳細の場合は [詳細] ■ アイテムが提供サンプルの場合は [サンプル] ■ アイテムが提供プロモーションアイテムの場合は [プロモーションアイテム] <p>これらのタイプを選択すると、セールス要員の [サンプルドロップ]、[製品詳細] または [プロモーションアイテム] ピックリストに表示される製品のタイプ（製品詳細、サンプルまたはプロモーションアイテム）がフィルター処理されます。</p> <p>注： [タイプ] が [サンプル] の場合は、[製品タイプ] フィールドも [サンプル] に設定するか、空のままにしてください。</p>
サブタイプ	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
状態	製品の状態。
版	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
シリアル番号付き	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
ロット番号追跡	Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
規制	製品が規制対象であることを示します。Oracle CRM On Demand Life Sciences Edition の場合のみ存在します。
追加情報	
説明	製品に関する追加情報。255 字まで入力できます。

PRM の価格リストの設定

ブランド所有者は、パートナーが特別価格リクエストを作成する際に使用する製品価格リストを維持および発行できます。ブランド所有者の管理者は、複数の価格リストを作成し、各取引先またはパートナー組織に個別に関連付けることができます。価格リストへの複数の製品の割当や特定の価格の指定を行うこともできます。

特別価格リクエストでは、顧客の価格リストによって製品の標準小売価格が決定され、所有者パートナーの価格リストによって再販業者の取得原価が決定されます。これらの価格を価格リストで維持することで、管理が効率化され、特別価格のプロセスが簡素化されます。

注： 価格リストへのアクセス権は [PRM アクセスの管理] 権限を持つブランド所有者の管理者に制限されます。

価格リストを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。

2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] をクリックします。

3 [製品カタログ] セクションで、[価格リスト] をクリックします。

4 [価格リスト] ページで、次の該当する操作を行います。

- 価格リストを追加するには、[新規] をクリックします。
- 価格リスト情報を更新するには、必要なレコードで[編集] をクリックします。

注： このページに表示するレコードの数を制限するには、タイトルバーのメニューをクリックし、選択内容を変更します。リストには、自分自身またはマネージャが作成したリストとともに、**Oracle CRM On Demand** に付属の標準のリストが含まれます。

5 [価格リスト編集] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、価格リストのフィールド情報について説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト名	価格リストの名前。
有効開始	指定された価格リストの有効期間の開始日。
有効終了	指定された価格リストの有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リストは無期限に有効です。
タイプ	<p>価格リストのタイプ。有効な値は、[流通原価] および [標準小売価格] です。</p> <p>流通原価は、販売代理店の費用（本来、パートナーまたは再販業者がブランド所有者から製品を購入するために支払う必要がある在庫費用）を示します。</p> <p>[標準小売価格] は、メーカーの希望小売価格（ブランド所有者が顧客に製品を販売するために推奨する価格）を示します。</p> <p>カスタマイズによって新規の価格リストタイプを追加できますが、デフォルトで用意された値を変更することはできません。デフォルト値を変更すると、特別価格リクエストの対応するフィールドは価格リストに設定されません。</p>
状態	価格リストの現在の状態（進行中または公開済み）。すべての新規価格リストのデフォルト値は [進行中] です。価格リストがユーザーに提供可能な状態になったとき、[公開済み] に変更します。
通貨	価格リストで使用される通貨のタイプ。価格リストのすべての価格は同一通貨で表記されます。通貨は価格リストの作成時に定義されます。新しい価格リストレコードを保存すると、このフィールドは読み取り専用になり、レコードは更新できなくなります。
追加情報	
作成	価格リストを作成したユーザーの名前とその価格リストの作成日時。
変更	価格リストを最後に更新したユーザーの名前とその価格リストを最後に更新した日時。

フィールド	説明
説明	価格リストに関する追加情報。 2,000 字まで入力できます。

価格リストの公開

価格リストは管理者が更新した後でユーザーに公開され、特別価格リクエストの作成時にユーザーが使用できるようになります。

価格リストを公開するには

- 1 公開する価格リストを「コンテンツ管理」の「価格リスト」セクションから選択します。
特別価格リクエストの選択方法の詳細は、「レコードの検索」を参照してください。
- 2 「価格リスト詳細」ページで、「編集」をクリックします。
- 3 「価格リスト編集」ページで、「状態」メニューから「公開済み」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

状態を「公開済み」に変更すると、次の処理が行われます。

- 価格リストを価格リストピックアップレットで選択し、取引先またはパートナー組織に関連付けることができるようになります。
- 価格リストが特別価格リクエストの顧客またはパートナーに関連付けられている場合、各特別価格製品の作成時に価格リストを使用して「標準小売価格」とパートナーの「取得原価」を設定します。
- 特別価格リクエストでは、標準小売価格に最終顧客価格リストを使用し、取得原価には所有者パートナー価格リストを使用します。次の条件も満たしている必要があります。
 - 最終顧客に関連付けられた価格リストのタイプが「標準小売価格」で、所有者パートナーに関連付けられた価格リストのタイプが流通原価であること。
 - この価格リストの状態が「公開済み」であること。
 - 特別価格リクエストに追加された製品がこの価格リストに存在すること。
 - 特別価格リクエストの開始日が価格リスト（および価格リスト明細項目）の有効開始日から有効終了日までの範囲内にあること。

価格リスト明細項目の追加

価格リストを作成した後は、製品を追加します。1 つの価格リストに複数の製品を指定できますが、各製品はそれぞれ 1 回だけ表示可能です。

価格リストに製品を追加するには

- 1 [価格リスト] リストページで、価格リスト名をクリックします。
- 2 [価格リスト] 詳細ページの [価格リスト明細項目] セクションで、[追加] をクリックします。
- 3 [価格リスト明細項目編集] ページで、必要な情報を入力します。

注：[価格リスト明細項目編集] ページは [製品編集] ページからも表示できます。

次の表では、価格リスト明細項目のフィールド情報について説明します。企業の管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
主要価格リスト情報	
価格リスト	価格リストの名前。
製品	価格リスト明細項目の製品を選択します。
有効開始	指定された価格リストの有効期間の開始日。この日付は価格リストの有効開始日から有効終了日までの範囲内にある必要があります。
有効終了	指定された価格リストの有効期間の終了日。このフィールドが空の場合、価格リストは無期限に有効です。
価格タイプ	価格のタイプ（[標準]、[繰返し] など）を示します。このフィールドは今後使用するときのために用意されています。現在のデフォルト値は [標準] です。
リスト価格	指定された有効期間中の明細項目の価格。
追加情報	
作成	価格リストを作成したユーザーの名前とその価格リストの作成日時。
変更	価格リストを最後に更新したユーザーの名前とその価格リストを最後に更新した日時。
説明	価格リストに関する追加情報。2,000 字まで入力できます。

企業の添付資料の管理

[管理ホームページ] の [コンテンツ管理] セクションでは、[添付資料を管理] ページにアクセスして添付資料を確認できます。

注：[添付資料を管理] ページには、設定済みの添付資料関連項目を介して親レコードにリンクされている添付資料のみが表示されます。カスタム添付資料レコードタイプを介して親レコードにリンクされている添付資料や、添付フィールドを介してレコードに追加された添付資料は表示されません。設定済みの添付資料関連項目をサポートしているレコードタイプのリストについては、「[添付資料設定について](#) **『134ページ』**」を参照してください。

添付資料を確認することで、次のことがわかります。

- 大きなディスクスペースを占めている添付ファイル

- 2 回以上添付されているファイル

ファイルが 2 回以上添付されている場合は、添付資料を一般的な共有場所に格納し、この場所に置いたファイルのパスに添付資料のファイルパスを置き換えるようにユーザーに指示することをお勧めします。

- 添付資料のサイズに起因するディスクスペースの問題について通知する必要があるユーザー

作業前の準備：添付資料の管理手順を実行するには、[添付資料を管理] 権限を含む役割が割り当てられている必要があります。

添付資料を確認するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] セクションで、[コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [添付資料を管理] セクションで、[添付資料を管理] リンクをクリックします。
- 4 次の該当する操作を行います。
 - 添付資料を表示するには、添付資料のレコードレベルメニューで [表示] を選択します。この操作でファイルが開くか、または該当する URL アドレスに移動します。
 - 添付資料を削除するには、添付資料のレコードレベルメニューで [削除] を選択します。削除されたファイルまたは URL は、[削除項目] ページに移動され、30 日後にデータベースから完全に削除されます。
 - ファイルまたは URL を別のファイルまたは URL に置き換えるには、[置換] をクリックします。[編集] ページで、必要な情報を入力し、レコードを保存します。
詳細については、「レコードへのファイルと URL の添付」を参照してください。
 - リストに表示する添付資料レコードを制限するには、ドロップダウンメニューをクリックして選択内容を変更します。
ドロップダウンリストには、アプリケーションに付属の標準のリストが表示されます。

アセスメントスクリプトの設定

ユーザーがデータの収集および意思決定を行う際に、一貫したプロセスに従うことができるように、アセスメントスクリプトを設定できます。アセスメントスクリプトを使用して、見込み客の承認、商談の評価、顧客サービスのやりとりの指導、顧客満足度の調査などを行うことができます。アセスメントの回答はスコア化され、重みが割り当てられた後、指定のしきい値との比較によって、適切な結果または実行するアクションが決定されます。

Oracle CRM On Demand を使用すると、アセスメントスクリプトを設定できます。これにより、企業では次のことができます。

- セールスコール、タスクまたはアポイントの活動情報を取得します。
- 顧客満足度調査の実施。
- ビジネス計画に対する応答の収集。
- 見込み客の確認の自動化。

- 目標に対する応答の収集。
- 商談の評価（企業のセールス方法の実行による）。
- 顧客満足度調査の実施（担当者およびサービスリクエストレコードの場合）。
- コールスクリプトの使用（サービスリクエストレコードの場合）。

アセスメントスクリプトの詳細、またはアセスメントスクリプトの作成手順については、次のトピックを参照してください。

- [アセスメントスクリプトについて](#) 『570ページ』
- [アセスメントスクリプトの作成](#) 『573ページ』

アセスメントスクリプトについて

アセスメントスクリプトは、ユーザーによる顧客データの収集を支援する一連の質問から構成されます。アセスメントスクリプトを使用して、見込み客の承認、商談の評価、顧客サービスのやりとりの指導、顧客満足度の調査、活動情報の取得などを行うことができます。

意思決定のために、顧客の回答に評点を付け、重要度を質問に割り当て、しきい値を設定することができます。さらに、評価中に使用したフィールドを親レコードにマップし、後でこれらのフィールドに基づいてレポートおよび分析を実行できます。

アセスメントスクリプトの使用法

アセスメントスクリプトの使用法は次のとおりです。

- 1 ユーザーがレコードの詳細ページからアセスメントスクリプトを起動します。該当するアセスメントスクリプトのリスト（指定されたレコードフィールド値によって異なる）がレコードの詳細ページに表示されます。必要に応じて、ユーザーは他のアセスメントスクリプトを検索することもできます。
- 2 アセスメントの質問を通じて、ユーザーは重要な顧客情報（セールス見込み客の優良性の詳細など）を収集し、各質問に対する正しい回答をドロップダウンリストから選択します。
- 3 回答に基づいて、評点が自動的に計算され、レコードが更新されます。たとえば、見込み客は承認または拒否と分類されます。
- 4 質問に対する回答はフィールド値としてレコードにマップされるので、簡単にアクセスして、レポートの作成に役立てることができます。
- 5 完了したアセスメントは保存され、親レコードの関連レコードセクションからアクセスすることができます。

作成するアセスメントスクリプトのタイプ

様々なタイプのアセスメントスクリプトを設定できます。各スクリプトタイプは、特定のタスクに適しています。以下の説明に従って、適するスクリプトタイプを使用してください。

- **アカウント調査**：このタイプのスクリプトは、個々の顧客とともに調査を実施する場合に使用します。
- **活動アセスメント**：このタイプのスクリプトは、有益な担当者および取引先コール情報を取得する場合に使用します。
- **ビジネス計画アセスメント**：セールス要員は、このタイプのスクリプトを使用してビジネス計画の効果を判断する際に役立つ情報を収集できます。

- **担当者スクリプト:**このタイプのスクリプトは、個々の担当者とともに顧客満足度調査を実施する場合に使用します。
- **見込み客認定:**このタイプのスクリプトは、セールス要員が承認済み見込み客を識別するのに役立ちます。このタスクのスクリプトを使用すると、トレーニングの必要性が減少し、一貫した見込み客認定が実行されます。
- **目標アセスメント:**セールス要員は、このタイプのスクリプトを使用して目標の効果を判断する際に役立つ情報を収集できます。
- **商談アセスメント:**このタイプのスクリプトはセールス方法を埋め込むために使用され、セールス要員が商談を評価するのに役立ちます（その結果、セールス要員は取引に応じて販売戦略を調整できます）。
- **サービスリクエストスクリプト:**このタイプのスクリプトは、サービス要員がサービスリクエストを評価するのに役立ちます。たとえば、リクエストの優先順位やエスカレーションパスを決定する場合などです。このタスクのスクリプトを使用すると、トレーニングの必要性が減少し、一貫した顧客サービスが実行されます。
- **サービスリクエスト調査:**このタイプのスクリプトは、（特定のサービスイベントにリンクされる）顧客満足度調査を管理する場合に使用します。

各タイプのアセスメントは、対応するレコードタイプ（アポイント、セールスコール、タスク、担当者、見込み客、目標、商談、またはサービスリクエスト）にリンクされます。必要に応じて、各タイプのアセスメントを複数作成し、適切なスクリプトをユーザーに提供することもできます。スクリプトは、指定したレコード基準に基づきます。

アセスメントスクリプトの作成方法

アセスメントスクリプトを設定するには、いくつかのタスクを完了する必要があります。

1 アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズします。

このフィルターにより、指定したレコードフィールド値に基づいて、タスクに適したアセスメントを識別するために使用される基準を定義することができます。

たとえば、見込み客認定アセスメントスクリプトは、次のようなフィルターを使用して設定することができます。

- 取引先階層 = ゴールド
- セグメント = 大
- 地域 = 西部

このような場合は、ユーザーが対応する値を含む見込み客レコードからアセスメントスクリプトを起動すると、正しい見込み客認定スクリプトが表示されます。

すべてのタイプのアセスメントスクリプトで同じ 4 つのフィルターフィールドを使用できます（各フィールドには定義済みのピックリスト値が含まれます）。フィルターをカスタマイズするには、次の操作を行う必要があります。

- a アセスメントスクリプトを作成するすべてのレコードタイプについて、フィルターフィールドの表示名とピックリスト値を入力します。

詳細については、「[アセスメントスクリプトの作成](#) [573ページ]」を参照してください。

- b アセスメントスクリプトを作成するすべてのレコードタイプについて、フィルターフィールドをページレイアウトに追加します。

2 次のようにして、アセスメントスクリプトを作成します。

- a スクリプトの詳細を入力します。

b 基準（質問）をスクリプトに追加します。

c 質問ごとに考えられる回答のリストを追加します。

これらの手順の詳細については、「[アセスメントスクリプトの作成](#) 『573ページ』」を参照してください。

3 次のようにして、ユーザーにスクリプトへのアクセス権を付与します。

a アセスメントスクリプトを使用する必要があるユーザーの役割ごとに、ユーザーの役割とアクセスプロファイルを設定します。

■ **アセスメントの作成手順**：ユーザーがアセスメントスクリプトを作成できるようにするには、ユーザーの役割にアセスメントレコードタイプへのアクセス権を付与する必要があります。つまり、アセスメントレコードタイプに関して、ユーザーの役割のデフォルトおよび所有者アクセスプロファイルのアクセスレベル設定が、少なくとも「読み取り/編集」になっている必要があります。さらに、アセスメントレコードタイプに関して、その役割のレコードタイプアクセス設定の「アクセス可能」および「作成可能」チェックボックスがオンになっている必要があります。

■ **アセスメントの表示手順**：ユーザーがアセスメントの詳細を表示できるようにするには、ユーザーの役割にアセスメントレコードタイプへの読み取りアクセス権を付与する必要があります。つまり、アセスメントレコードタイプに関して、ユーザーの役割のデフォルトおよび所有者アクセスプロファイルのアクセスレベル設定が、少なくとも「読み取り専用」になっている必要があります。さらに、アセスメントレコードタイプに関して、その役割のレコードタイプアクセス設定の「アクセス可能」および「すべてのレコードを読み取り可能」チェックボックスがオンになっている必要があります。

ユーザー役割の設定の詳細は、「[役割の追加](#) 『207ページ』」を参照してください。アクセスプロファイルの設定の詳細は、「[アクセスプロファイルの設定プロセス](#) 『198ページ』」を参照してください。

b アセスメントスクリプトを作成した各レコードタイプについて、適切なアセスメントスクリプトセクションをレコードの「詳細」ページの表示情報に追加します。ページレイアウトのカスタマイズの詳細は、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) 『88ページ』」を参照してください。

アセスメントスクリプトの例

企業の管理者が設定すると考えられる典型的なスクリプトの 1 つは、見込み客認定スクリプトです。このスクリプトは、見込み客を承認済みとするか拒否とするかを決定するために使用されます。

次の表では、このようなスクリプトで使用できる値の例を示します。

スクリプトフィールド	値の例
タイプ	見込み客認定
しきい値スコア	50
しきい値条件を満たす場合の結果値	資格あり
しきい値条件を満たさない場合の結果値	不適格
結果値のマップ先フィールド	説明

注意: 見込み客認定スクリプトが見込み客の「状態」フィールドを「承認済み」に設定しようとしても、見込み客の「評価」および「セールス要員」フィールドに値が入力されていないと、この設定を行えません。これらのフィールドに値が入力されていないと、エラーメッセージが表示され、見込み客はしきい値条件を満たさないと見なされます。スクリプトは、スクリプトに定義された、しきい値条件を満たさなかった場合の結果に従って「状態」フィールドを設定します。

次の表に、見込み客認定スクリプトの基準の例をいくつか示します。

基準	重要度
予算の現在の状態	50
このプロジェクトのスケジュールを推進する要素	25
意思決定する予定の時期	25

予算の現在の状態に関する質問に対する回答と、スコアの例を次の表に示します。

回答	スコア
予算承認	100
予算拒否	0

各基準のスコアは、基準の重要度（パーセンテージ）に回答のスコアを掛けることによって計算されます。この例では、ユーザーが「予算承認」という回答を選択すると、質問のスコアは次のように計算されます。

$$(0.5 * 100) = 50$$

スクリプトの合計スコアは、すべての基準のスコアの合計です。スクリプトの最終結果がスクリプトで定義されたしきい値を満たすか、しきい値を超えると、[見込み客詳細] ページの [説明] フィールドの値は [承認済み] に設定されます。スコアがしきい値に満たないと、[説明] フィールドの値は [不適格] に設定されます。

アセスメントスコアが計算されるときは、次のルールが適用されます。

- 個々の質問のスコアは、小数点第 1 位に四捨五入されます。
- 全体のアセスメントスコアは、整数に四捨五入されます。
- 四捨五入ルールは標準的な数学ルールに基づいているため、0.5 未満の小数位は切り捨てられ、0.5 以上の小数位は切り上げられます。

アセスメントスクリプトの作成

アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズし、アセスメントスクリプトを作成するには、このトピックで説明する手順に従います。

作業前の準備：

- この手順を実行するには、ユーザーの役割に [管理者アセスメント] 権限が含まれている必要があります。
- 必要に応じて、アセスメント条件の一部として使用するピックリストの値およびフィールドをカスタマイズします。たとえば、顧客との面談中に収集した情報を表示するためにカスタムフィールドを追加できます。スクリプトを設定すると、これらのカスタムフィールドに回答をマップできます。

新しいフィールドをすべてそのレコードのページレイアウトに追加するようにしてください。手順については、「[静的ページレイアウトのカスタマイズ](#) [88ページ]」を参照してください。

注： Oracle CRM On Demand では、アセスメントスクリプトのコンポーネントを直接変換できません。アセスメントスクリプトを複数の言語で使用する場合、言語ごとにスクリプトのバージョンを作成する必要があります。

アセスメントスクリプトフィルターを使用すると、指定したレコード基準に基づいて、タスクのユーザーに表示するのに適したスクリプトを識別できます。次の手順では、アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズする方法について説明します。

アセスメントスクリプトフィルターをカスタマイズするには (オプション)

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] リンクをクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] で [アセスメント] をクリックします。
- 4 [アセスメント項目の設定] をクリックします。
- 5 [編集] をクリックし、フィルター1、2、3、および4のそれぞれについて [表示名] カラムを編集します。
- 6 フィールドごとに [ピックリストを編集] をクリックし、ピックリストの値を設定します。
ヒント: 従業員にピックリストから強制的に選択させる場合以外は、ピックリストオプションの上部にあるデフォルトの <値なし>値を保持します。
- 7 レコードを保存します。
- 8 従業員が使用するレコードのページで、これらのフィールドの名前を変更するには、アセスメントスクリプトを実行している各レコードタイプの [項目設定] セクションに移動します。
注: [アセスメントフィールド] に設定した値と同じピックリスト値が、これらの他のレコードで表示されます。ただし、レコードタイプごとにこれらのフィールドの表示名をカスタマイズできます。

アセスメントスクリプトを作成するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [コンテンツ管理] リンクをクリックします。
- 3 [アセスメントスクリプト] リンクをクリックします。
- 4 [アセスメントリスト] ページで、[新規アセスメント] をクリックします。
- 5 [アセスメント編集] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、アセスメントのフィールド情報について説明します。管理者はフィールドの追加、名前の変更、削除を行えるので、実際に表示されるフィールドがこの表のものとは異なる場合があります。

フィールド	説明
名前	50 文字に制限されます。 スクリプトの目的を示す分かりやすい名前を使用します。会社の従業員がさまざまな言語を使用している場合は、その言語をスクリプト名に含めます。
タイプ	スクリプトのリンク先のレコードタイプを指定します。使用可能なオプションは、[アカウント調査]、[活動アセスメント]、[ビジネス計画アセスメント]、[担当者スクリプト]、[見込み客認定]、[目標アセスメント]、[商談アセスメント]、[サービスリクエスト - スクリプト]、および [サービスリクエスト - 調査] です。

フィールド	説明
有効	ユーザーが使用できる有効なスクリプトのみを実行できます。
フィルター 1、2、3、4	アセスメントカテゴリーとして設定したラベルを表示します。
しきい値スコア (1-100)	スクリプトの結果を計算するために使用されます。スクリプトのスコアがしきい値以上であれば、条件が満たされます。
スコアのマップ先項目	親レコード内のスコアを表示するフィールドを指定します。
しきい値条件を満たす場合の結果値	(オプション) 条件が満たされた場合に表示する値を指定します。たとえば、見込み客が認定基準を満たした場合は、このフィールドに承認済みと表示できます。
しきい値条件を満たさない場合の結果値	(オプション) しきい値が満たされなかった場合に表示する値を指定します。たとえば、見込み客が認定基準を満たしていない場合は、このフィールドに拒否と表示できます。
結果値のマップ先フィールド	(オプション) スクリプトが完了したときに親レコード内の結果を表示するフィールドを指定します。
コメントボックスの削除	アセスメント完了時にコメントを追加するための機能を削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、コメントボックスが表示され、アセスメント完了時にコメントを入力できるようになります。
応答コントロール	アセスメント基準に応答を追加するときに使用するコントロールを決定します。オプションは、[ドロップダウン] または [ラジオボタン] です。

注：アセスメントスクリプトをレコード詳細ページに表示するには、そのアセスメントスクリプトがアクティブであり、かつ少なくとも 1 つの条件が定義されている必要があります。

- 6 [保存] をクリックします。
- 7 [アセスメント詳細] ページの [基準] セクションで、[新規] または [編集] をクリックします。
- 8 [基準] ページで、必要な情報を入力します。

次の表では、基準に入力するフィールドについて説明します。

フィールド	説明
オーダー	ユーザーがアセスメントを完了したときにユーザーに表示する質問の順序を決定します。
基準名	質問を要約した、短くてわかりやすい名前。フィールドには 20 文字まで入力できます。
質問	ユーザーが回答する質問。フィールドには 50 文字まで入力できます。
重要度	質問の重要度を示す 0～100 までの割合。 すべての質問の重要度の合計は 100 になる必要があります。

フィールド	説明
回答のマッピング先項目	回答を「質問」フィールドの質問にマップするための親レコード上のフィールドを指定します。回答を親レコードにマップすると、値は統合、レポート、およびリストで使用できるようになります。

- 9** 「アセスメント詳細」ページで、各基準名をクリックして、「回答」セクションの「新規」または「編集」ボタンをクリックします。

- 10** 各「回答」ページで、必要な情報を入力します。

フィールド	説明
オーダー	ユーザーがアセスメントを完了したときにユーザーに表示される回答の順序を決定します。
回答	ユーザーが質問に対して選択できるように有効な回答を入力します。30 文字まで入力できます。
スコア	回答に関連付けられた点数。 選択された回答のスコアに関連する質問の重要度を掛けて、合計の質問/回答スコアが決まります。

- 11** 変更を保存します。

注：アセスメントスクリプトを使用する必要があるユーザーの役割ごとに、アセスメントスクリプトにアクセスできるようにユーザーの役割を設定する必要があります。ユーザーの役割に必要な設定の詳細については、「[アセスメントスクリプトについて『570ページ』](#)」を参照してください。

ヒント：各役割が、アセスメントのために追加した新しいフィールドを含むページレイアウトを備えていることを確認します。

ライフサイエンス管理

「管理ホームページ」の「管理」グローバルリンクおよび「ライフサイエンス管理」セクションを使用して、次のタスクを実行できます。

- スマートコールテンプレートの管理と削除。詳細は、「[スマートコールの管理『576ページ』](#)」を参照してください。
- ライフサイエンス関連設定の設定詳細は、「[有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定『579ページ』](#)」を参照してください。
- サンプルを提供する担当者を指定します。詳細は、「[担当者へのサンプル受領権限の付与『580ページ』](#)」を参照してください。

スマートコールの管理

ユーザー役割にスマートコールレコードタイプの適切なアクセスレベル（デフォルトまたは所有者アクセスのいずれか）が付与されている場合は、スマートコールを管理できます。「スマートコールテンプレートを管理」ページからスマートコールに添付された詳細や明細項目の確認、編集、更新を実行できます。編集した後は、必要に応じて、改訂したスマートコールテンプレートを適用し、公開テンプレートまたは個人テンプレートとして保存できます。

注:スマートコールテンプレートの重複は認められません。各スマートコールテンプレートは一意である必要があります。

スマートコールを管理するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [スマートコール管理] リンクをクリックします。
- 3 [スマートコールテンプレートを管理] ページで
 - スマートコールを確認するには、[件名] カラムのリンクをクリックします。
 - スマートコールを削除するには、該当する行で [削除] をクリックします。
 - スマートコールの詳細を編集するには、該当する行で [編集] をクリックします。

[コール編集] ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」を参照してください。

 - スマートコール明細項目を編集するには、[件名] カラムのリンクをクリックして、[スマートコール詳細] ページの適切なセクションに移動し、該当する明細項目の横にある [編集] をクリックします。
 - スマートコール明細項目を削除するには、[件名] カラムのリンクをクリックして、[スマートコール詳細] ページの適切なセクションに移動し、該当する明細項目の横にある [削除] をクリックします。
 - 新規明細項目をスマートコールに追加するには、[件名] カラムのリンクをクリックします。

スマートコールへの明細項目の追加の詳細は、次のタスクを参照してください。

 - 改訂したスマートコールテンプレートは、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の次のタスクで説明されているように、通常の方法で適用して、公開テンプレートまたは個人テンプレートとして保存できます。
 - 客先への訪問（セールスコール）を追跡するには
 - コール情報をテンプレートとして保存するには
- 4 [スマートコールテンプレートを管理] ページで、[メニュー] ボタンをクリックします。

次の表では、[スマートコールテンプレートを管理] ページの [メニュー] ボタンから実行できる操作について説明します。

操作	手順
バッチ割当ブック	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[バッチ割当ブック] を選択します。「 ブックへのレコードの割り当て 『249ページ』」の手順を実行します。
リストを絞り込み	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを絞り込み] を選択します。「リストの作成と編集」の手順を実行します。
リストを保存	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストの保存] を選択します。
リストフィルターを表示	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストフィルターを表示] を選択します。「[リストを表示] ページ」で説明されている手順を実行します。

操作	手順
リスト管理	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リスト管理] を選択します。「リスト管理ページ」で説明されている必要なタスクの手順を実行します。
リストを新規作成	[スマートコールテンプレートを管理] タイトルバーの [メニュー] をクリックし、[リストを新規作成] を選択します。「リストの作成と編集」の手順を実行します。

次の手順では、スマートコールレコードへの製品詳細情報のリンク方法について説明します。

製品詳細情報をスマートコールレコードにリンクするには

- 1 [スマートコール詳細] ページで、[製品詳細] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。
注： [スマートコール詳細] ページに [製品詳細] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [製品詳細] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。
- 2 [製品詳細の編集] ページで、必要な情報を入力します。
 [製品詳細の編集] ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「製品詳細情報をコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。
- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、製品詳細明細項目をスマートコールレコードに追加します。

次の手順では、スマートコールレコードへの提供サンプル情報のリンク方法について説明します。

提供サンプル情報をスマートコールレコードにリンクするには

- 1 [スマートコール詳細] ページで、[提供サンプル] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。
注： [スマートコール詳細] ページに [提供サンプル] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [提供サンプル] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。
- 2 [提供サンプルの編集] ページで、必要な情報を入力します。
 [提供サンプルの編集] ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「提供サンプル情報をコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。
- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、提供サンプル明細項目をスマートコールレコードに追加します。提供サンプルの詳細は、「セールスコール時のサンプルの提供」を参照してください。

次の手順では、スマートコールレコードへのプロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムのリンク方法について説明します。

プロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムをスマートコールレコードにリンクするには

- 1 [スマートコール詳細] ページで、[プロモーションアイテム] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。

注： [スマートコール詳細] ページに [プロモーションアイテム] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [プロモーションアイテム] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 [提供プロモーションアイテム編集] ページで、必要な情報を入力します。

[提供プロモーションアイテム編集] ページの各フィールドの詳細は、「客先への訪問（セールスコール）の追跡」の「プロモーションアイテム、教育アイテム、またはその他のマーケティングアイテムをコールレコードにリンクするには」タスクを参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、プロモーションアイテム明細項目をスマートコールレコードに追加します。

次の手順では、スマートコールレコードへのブック情報のリンク方法について説明します。

ブック情報をスマートコールレコードにリンクするには

- 1 [スマートコール詳細] ページで、[ブック] セクションまでスクロールダウンし、[新規] をクリックします。

注： [スマートコール詳細] ページに [ブック] セクションが表示されない場合は、ページ右上隅の [レイアウトを編集] リンクをクリックして、ページレイアウトに [ブック] セクションを追加します。このセクションをページレイアウトに追加できない場合、企業の管理者に問い合わせてください。

- 2 [ブック] ページで、必要な情報を入力します。

[ブック編集] ページの各フィールドの詳細は、「[ブックのフィールド](#) [252ページ]」を参照してください。

- 3 レコードを保存します。

必要に応じて手順を繰り返し、ブック明細項目をスマートコールレコードに追加します。

有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定

管理者は、有効な州免許を保持していない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定できます。この設定はグローバルレベルで設定され、組織全体に適用されます。この設定を構成することによって、次のことが保証されます。

- フィールドのセールス要員は、有効な州免許を保持していない担当者がサンプルを受領できる指定の最大回数を超えることができなくなります。
- 担当者が他の州に異動して有効な州免許を待機している間、その担当者はサンプルを受領できます。通常、担当者が他の州に異動した場合は、有効な免許を受け取るまでに数日間待機する必要があります。

作業前の準備。 有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定するには、[基本サンプル操作の有効化] 権限を含むユーザー役割が割り当てられている必要があります。

有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [ライフサイエンス管理] セクションで、[その他のライフサイエンス関連] リンクをクリックします。
- 3 [ライフサイエンス関連の設定] ページで、[ライフサイエンス関連の設定] リンクをクリックします。
- 4 [担当者をサンプリングできる回数] フィールドに値を入力します。

このフィールドのデフォルト値は-1で、これは有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数が設定されておらず、現在の動作に影響を与えないことを示します。このフィールドの値を他の負の数値に設定しても、効果は同じです。

このフィールドの値をゼロ (0) より大きい数値に設定することによって、有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数を設定し、次のように動作に影響を与えます。

- セールス要員は、有効な州免許を待機している担当者に x 回サンプルを提供できます。x はこのフィールドの値で、免許の状態が無効または null でなく、免許が期限切れになっていないことが前提です。

注： 担当者にサンプルを配布するには、該当する担当者タイプ（医師、薬剤師、臨床看護師、治療師など）に、サンプルを受領して署名する権限が付与されている必要があります。詳細は、「[担当者へのサンプル受領権限の付与](#)」『580ページ』を参照してください。

- 担当者が他の州に異動して有効な州免許を待機している間、その担当者はサンプルを受領できます。x はこのフィールドの値です。詳細は、「[担当者の州免許フィールド](#)」を参照してください。

関連トピック

サンプル管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [担当者へのサンプル受領権限の付与](#) 『580ページ』
- サンプルトランザクション
- サンプルトランザクションの管理
- サンプルトランザクションのフィールド

担当者へのサンプル受領権限の付与

セールス要員は任意の担当者にサンプルを配布することはできません。セールス要員がサンプルを配布できるのは、サンプルを受領して署名する権限が付与された担当者に対してのみです。管理者は、サンプルを受領できる担当者を指定することで、この機能を制御します。サンプルを受領して署名する権限が付与されていない担当者に対してセールス要員がサンプルを配布しようとすると、「担当者はサンプルを受領できません」というエラーメッセージが表示されます。

作業前の準備。 サンプルを受領する権限を担当者に付与するには、最初に [サンプル可能] という名前のピックリストタイプのカスタムフィールド（値は [はい] および [いいえ]）を作成します。

担当者にサンプル受領権限を付与するには

- 1 任意のページの右上隅にある [管理] グローバルリンクをクリックします。
- 2 [アプリケーションカスタマイズ] セクションで、[アプリケーションカスタマイズ] をクリックします。
- 3 [レコードタイプセットアップ] セクションで、[担当者] リンクをクリックします。
- 4 [カスケード式ピックリスト] セクションで、[担当者カスケード式ピックリスト] リンクをクリックします。
- 5 [担当者カスケード式ピックリスト] ページで、次のカスケード式ピックリスト定義の横にある [編集] リンクをクリックします。

親ピックリスト	関連ピックリスト
担当者タイプ	サンプル可能

- 6 カスケード式ピックリストウィザードのステップ 2 に移動し、サンプルを受領して署名する権限を付与しない各担当者（[親ピックリスト使用可能値]）の [関連ピックリスト表示値] を [いいえ] に設定します。

注：各担当者（[親ピックリスト使用可能値]）の [関連ピックリスト表示値] は、デフォルトで [はい] に設定されており、これはすべての担当者がデフォルトでサンプルを受領できることを意味します。

たとえば、次の表では、病院役員、研究室技術者、臨床看護師、薬剤師、医師の各担当者に対して、サンプルを受領して署名する権限が付与されています。

親ピックリスト使用可能値	関連ピックリスト表示値
見込み顧客	いいえ
顧客	いいえ
パートナー	いいえ
病院役員	はい
研究室技術者	はい
臨床看護師	はい
薬剤師	はい
医師	はい
医師調査員	いいえ
研究看護師	いいえ
研究薬剤師	いいえ
研究技術者	いいえ

カスケード式ピックリストの詳細は、「[カスケード式ピックリストの定義](#)」『94ページ』を参照してください。

関連トピック

サンプル管理の関連情報については、次のトピックを参照してください。

- [担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定](#) 『579ページ』の"[有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる最大回数の設定](#)"参照』
- サンプルトランザクション
- サンプルトランザクションの管理
- サンプルトランザクションのフィールド

Expression Builder

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) およびその使用法に関する情報を表示するには、次のトピックをクリックしてください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [式について](#) 『585ページ』
- [Expression Builder のデータタイプ](#) 『588ページ』
- [Expression Builder の演算子](#) 『591ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』
- [Expression Builder の例](#) 『642ページ』

Expression Builder について

Oracle On Demand Expression Builder (Expression Builder) は、式を使用してビジネスルールを実装するためのツールです。式は Oracle CRM On Demand で評価できる 1 つ以上の演算子、関数、フィールドおよびリテラルの有効な組み合わせです。

Expression Builder は、Oracle CRM On Demand の次のエリアで使用されます。

- 次のコンテキストにおける [高度なフィールド管理]
 - フィールド上のフィールド検証プロパティの設定
 - デフォルトフィールド値の指定

企業の管理者は、ファイルレベル検証とデフォルトのフィールド値を定義する際に、さまざまなビジネスルールに対応する柔軟な式を作成できます。フィールド検証とデフォルト値に関する詳細については、「[フィールド管理について](#) 『63ページ』」を参照してください。

- 次のコンテキストにおけるワークフロールール
 - ワークフロールール条件の設定
 - [メール送信] アクションの設定

■ [値を更新] アクションの設定

[ワークフロー] ページから、企業の管理者はワークフロールールを設定できます。これらのワークフロールールは、レコードが更新、作成、または削除されたときに評価されます。式は、ルールの条件と、ルールによって実行されるアクションの両方を定義するために使用されます。ワークフロールールに関する詳細については、「[ワークフロールールについて](#)」『273ページ』を参照してください。

注： Expression Builder では式の構文を検証できますが、数学的、論理的、意味的な精度を評価したり検証したりすることはできません。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [式について](#) 『585ページ』
- [Expression Builder のデータタイプ](#) 『588ページ』
- [Expression Builder の演算子](#) 『591ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』
- [Expression Builder の例](#) 『642ページ』

Expression Builder の使用

Oracle CRM On Demand では、テキストボックスの横に [fx] アイコンが表示されているときはいつでも、Expression Builder を使用できます。このアイコンをクリックすると、Expression Builder が別個のウィンドウに開きます。

式を作成するには

- 1 [fx] アイコンをクリックし、Expression Builder を開きます。
- 2 Expression Builder で、リストからフィールドと関数を選択するか、それらを式エディターに入力します。
リストからフィールドを選択すると、そのフィールドは式エディターに貼り付けられます。たとえば、[商談] フィールドのリストから [CloseDate] を選択すると、[<CloseDate>] が式エディターに貼り付けられます。
注： 企業の管理者がフィールドの名前を変更した場合、[フィールド] ピックリストには新しい名前が表示されますが、式エディターに貼り付けられるのは変更前のフィールド名 (XML 名に対応する名前) です。
フィールド名の括弧は、特定のフィールドの値が評価され、固有のデータタイプで返されることを示しています。次の表に、フィールドとフィールド値の選択について詳しく示します。
- 3 必要に応じて演算子およびリテラルを追加することで式を編集します。
注： ピックリストフィールドに特定の値があるかどうかを式に判断させる場合は、式に値を入力しないでください。たとえば、[<AccountType>] = "顧客" と入力してはなりません。その代わりに、リストからピックリストフィールドを選択し、Expression Builder の [可能な値を表示] リンクをクリックします。表示される値から、式で使用する値を選択します。式は次のようになります。

```
[<AccountType>]=LookupValue("ACCOUNT_TYPE", "顧客")
```

4 (オプション) [構文のチェック] をクリックし、式を修正します。

5 式を保存します。

次の表では、**Expression Builder** について説明します。

インターフェイス要素	説明
レコードタイプフィールド	<p>式で許可されるフィールド（コンテキストレコードタイプ）のコンテキストに応じたピックリストを提供します。企業の管理者がフィールドの名前を変更した場合、[フィールド] ピックリストには新しいフィールド名が表示されます。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ワークフロールールまたはワークフロールール関連のアクションを作成している場合、コンテキストレコードタイプは、そのワークフロールールの定義で指定されたレコードタイプになります。たとえば、サービスリクエストレコードのワークフロールールにアクションとして送信する電子メールを作成している場合、Expression Builder のコンテキストレコードタイプは [サービスリクエスト] です。 ■ 高度なフィールド管理では、コンテキストレコードタイプは、式が作成されているフィールドの親になります。たとえば、商談フィールドでフィールド検証を定義する場合、Expression Builder のコンテキストレコードタイプは [商談] になります。
可能な値を表示	<p>[フィールド] ピックリストからフィールドを選択する場合、[可能な値を表示] をクリックすると、そのフィールドで受け入れ可能な値を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択されたフィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示] により、そのピックリストに設定されたすべてのオプションが表示されます。 <p>一度に選択できるオプションは 1 つだけです。オプションを選択すると、Lookup 関数が定義され、式で使用できるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択されたフィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示] によってウィンドウが表示され、そのフィールドで保持できるさまざまなデータで受け入れ可能な値が表示されます。
関数	<p>式内でのデータの変更、抽出、処理で使用可能な特別な関数のドロップダウンリストを提供します。使用可能な関数のリストについては、「Expression Builder の関数 『595ページ』」を参照してください。</p>
式	<p>編集可能な複数行のテキストボックスに式が表示されます。</p> <p>式のサポートされる最大の長さについては、「式について 『585ページ』」を参照してください。</p> <p>ピックリストから選択したフィールドおよび関数は、式エディターに表示されます。式は式エディターに直接入力することもできます。</p> <p>式構文には、常に言語に依存しないフィールド名が表示されます（言語に依存</p>

インターフェイス要素	説明
	しない名前とは、ユーザー言語が変更されても変化しない名前のことです)。カスタムフィールドの場合、フィールド名は、フィールド名の後に統合タグの付いた式で表示されます。
構文ガイド	Oracle CRM On Demand オンラインヘルプの Expression Builder のトピックが表示されます。
式の例	Oracle CRM On Demand オンラインヘルプの「Expression Builder の例」が表示されます。
構文のチェック	作成した式の構文を検証します。
保存	式を保存します。
取り消し	変更を保存せずに Expression Builder ウィンドウを閉じます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [式について](#) 『585ページ』
- [Expression Builder のデータタイプ](#) 『588ページ』
- [Expression Builder の演算子](#) 『591ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』
- [Expression Builder の例](#) 『642ページ』

式について

式は、Oracle CRM On Demand で評価できる 1 つ以上の演算子、関数、フィールドおよびリテラルの有効な組み合わせです。このトピックでは、式の次の機能について説明します。

- 式の長さ
- リテラルの長さ
- 条件式
- 検証式
- 式での依存フィールドの使用

式の長さ

ワークフローの「メール送信」アクションを使用して設定された電子メールのメッセージ本文の場合、式のサポートされる長さは最大 2,000 文字（スペースを含む）です。Enter キーを押すと、電子メールメッセージに改行を挿入できます。改行は、テキストボックスで 2 文字とカウントされます。

Expression Builder が使用されるその他のすべての状況において、サポートされる式の長さは最大 1024 文字（スペースを含む）です。

式を保存するフィールドの合計文字数が、そのフィールドの制限を超えないようにする必要があります。次のワークフローフィールドでは、関数とフィールド名の前後に 3 つのパーセント記号（%%%）が配置されます。

- 「メール送信」アクションを使用して設定された電子メールの「件名」フィールドと「メッセージ本文」フィールド

- 「タスクの作成」アクションを使用して設定されたタスクの「主題」フィールドと「説明」フィールド

パーセント記号は、関数またはフィールド名をテキスト値に変換する必要があることを示します。各パーセント記号は、式が保存されるフィールドで 1 文字とカウントされます。

関数またはフィールド名をフィールドに直接入力した場合、その前後に 3 つのパーセント記号を入力する必要があります。式ビルダーを使用して関数またはフィールド名を埋め込んだ場合、パーセント記号が自動的に追加されます。

たとえば、Expression Builder を使用して、次のフィールド名をワークフローアクションの電子メールのメッセージ本文に挿入するとします。

[<AccountName>]

式ビルダーにより、次の内容（合計 21 文字）がワークフローアクションの電子メールのメッセージ本文に挿入されます。

%%%[<AccountName>]%%%

リテラルの長さ

Expression Builder で文字列または数値リテラルを関数に渡す場合、リテラルは 75 文字（スペースを含む）以下にする必要があります。75 文字を超えるリテラルを使用すると、Expression Builder でそのリテラルは構文エラーと見なされます。フィールド名を参照して文字列を関数に渡す場合、リテラルに渡されるフィールド値の長さには 75 文字の制限は適用されません。

フィールドにデフォルト値を設定するための式を作成する場合、式の関数に渡される文字列または数値リテラルには 75 文字の制限が適用されます。また、式の結果の文字数はフィールドの許容最大文字数を超えてはなりません。

条件式

条件式は、アプリケーションによって評価される場合に、常に True または False などのブール値を返す式のことです。

注: Yes、No、Y および N はブール値ではありません。Iif 『604ページ』関数などの関数の戻り値として True または False を指定した場合、返される True および False はブール値ではなく文字列として返されます。条件式で間違ったブール値を使用すると、予期しない動作となる可能性があります。

次の目的で使用される式は、条件式です。

- フィールド検証のルールを指定する
- ワークフローの条件を指定する
- Iif 『604ページ』関数の最初のパラメータとして使用する

検証式

検証式は、フィールドに入力されたデータが有効かどうかを確認するために使用されます。検証式は、条件式でなければなりません。

フィールドの検証式は、レコードが作成される時、およびフィールドがユーザーによって更新されるたびに評価されます。ただし、次の状況の場合は除きます。

- レコードの作成時にフィールドは空のままになります。フィールド検証では値が必要とされません。
- フィールドには既存の無効な値があり、更新時に変更されません。

検証式が評価されない場合、または検証式が **NULL** と評価される場合は、エラーメッセージが生成されません。検証式が失敗する（すなわち、式が **FALSE** と評価される）場合のみエラーメッセージが生成されます。

検証式は、条件演算子で開始される他のタイプの式とは異なります。たとえば、[取引先名] フィールドが検証式によって検証される場合、次のように開始できます。

```
= 'Acme Hospital'
```

この式はあまり良い例とは言えませんが、これで構文のチェックが渡されます。これは、式の最初にフィールド名が見つからない場合に、**Oracle CRM On Demand** が式よりも前に検証対象フィールドの名前を挿入するためです。検証式は次のように入力することもできます。

```
[<AccountName>]= 'Acme Hospital'
```

[<AccountName>]は、検証対象フィールドです。

検証対象フィールドに加え、式で他のフィールドも評価する必要がある場合、検証対象フィールドで実行される式で最初の比較を行うのが一般的です。

検証式は **Oracle CRM On Demand** の [高度なフィールド管理] にある [フィールド検証] テキストボックスでのみ使用されます。

検証式の例

例 1：あるビジネスプロセスでは、商談がクローズする日付は商談を作成した日付よりも後でなければなりません。

このプロセスを実装するには、(商談の項目設定ページにある) [クローズ日] フィールドの検証式を次のように作成します。

```
> [<CreateDate>]
```

別の方法としては、次の例を使用できます。ただし、評価対象フィールド（[クローズ日]）は、式の最初のフィールドにする必要があります。

```
[<CloseDate>] > [<CreateDate>]
```

フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

例 2：あるビジネスプロセスでは、商談の確度が **40%** 以上の場合、商談の売上値をゼロにできません。

このビジネスルールは、両方のフィールドの依存関係が次のようになることを示しています。

商談の場合、確度が **40** 以上である場合に売上をゼロにできません。逆に言えば、売上がゼロの場合に確度が **40** 以上になることはないということです。

フィールドの検証式は、レコードが作成される時、およびユーザーによってフィールドが更新されるたびに評価されます。[確度] フィールドまたは [売上] フィールドのいずれかを更新すると両方のフィールドに影響があるため、[確度] フィールドと [売上] フィールドの両方に検証ルールを指定することで、このビジネスルールを正しく実装する必要があります（フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照）。

この例を実装するために必要な手順は次のとおりです。

- 1 「確度」フィールドには次の検証ルールを設定します。
$$< 40 \text{ OR } ([<\text{Probability}>] \geq 40 \text{ AND } [<\text{Revenue}>] > 0)$$

パーセント記号 (%) は使用できません。
- 2 「確度」フィールドに次のような検証エラーメッセージを追加します。
確度が 40% 以上の場合、売上はゼロにできません。
- 3 「売上」フィールドには次の検証ルールを設定します。
$$(> 0 \text{ AND } [<\text{Probability}>] \geq 40) \text{ OR } [<\text{Probability}>] < 40$$
- 4 「売上」フィールドに次のような検証エラーメッセージを追加します。
確度が 40% 以上の場合、売上はゼロにできません。

式での依存フィールドの使用

依存フィールドは、その値が外部キーに依存している結合フィールドです。結合フィールドは、外部キーを使用して別のレコードタイプのフィールドを参照するレコードタイプのフィールドです。依存フィールドの例として、[商談] レコードタイプの **AccountName** フィールドがあります。[商談] レコードタイプの **AccountName** フィールドは結合フィールドで、その値は、[取引先] レコードタイプを参照する **AccountId** 外部キーフィールドに依存しています。

使用する式で依存フィールドの値を決定する必要がある場合は、**JoinFieldValue** 関数を使用して、ID フィールド（つまり外部キーフィールド）を参照することで、このフィールドの最新の値を取得することをお勧めします。そうしないと、式の結果が不正確になったり、式の値の結果が無効になる可能性があります。結合フィールドと **JoinFieldValue** 関数の詳細は、「[JoinFieldValue](#) 『606ページ』」を参照してください。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Expression Builder のデータタイプ

このトピックでは、Oracle CRM On Demand におけるデータタイプ、およびそれらのデータタイプを Expression Builder で使用する方法について説明します。

Oracle CRM On Demand におけるデータ型

次の表では、式で Oracle CRM On Demand のフィールドが使用された場合に返されるデータ型について説明します。フィールドの値を取得するには、構文[<FieldName>]を使用します。

Oracle CRM On Demand のフィールドのタイプ	式で返されるデータタイプ
整数	整数
ピックリスト	文字列
通貨	通貨
ID	文字列
テキスト	文字列
チェックボックス	ブール たとえば、条件が必要な場所に[<Active>]を直接使用できます。FieldValue('<Active>') = 'Y'も使用できます。
日付	日付
日時	日時
数値	数値

注：企業の管理者がフィールドの名前を変更している場合、[レコードタイプ] リストには新しい名前が表示されますが、式の構文には元の名前が表示されます。カスタムフィールドの場合、統合タグ名が式の構文に使用されますが、企業の管理者はこれを変更できます。構文は次のとおりです。

[<CustomTag_ITAG>]および FieldValue('<CustomTag_ITAG>')

データタイプに基づく演算

1つの文が複数のフィールド値を参照している場合、それらのフィールドは異なるデータタイプを持っており、その順序は演算に影響を及ぼします。指数演算子以外の演算子は、データタイプが異なる2つのオペランドに適用されます。右側の演算子は左側のオペランドのデータタイプに変換された後、オペレーションが評価されます。たとえば、CloseDate が 02/09/2007 の場合、次の式

`PRE('<クローズ日>') + 30`

は、02/09/200730 に評価されます。そのため、次の条件

`[<クローズ日>] > PRE('<クローズ日>') + 30`

は、構文的には有効ですが、意味的には無効です。この条件を正しく書き直すと次のようになります。

`[<CloseDate>] - 30 > PRE('<CloseDate>')`

注：指数演算子が使用される場合、演算子の右側のオペランドは左側のオペランドのデータタイプに変換されません。

次の表では、値の例を使用したさまざまな演算の結果について説明します。

フィールド	データタイプ	値の例
数量	整数	5
単価	通貨	2.25

計算	結果	
	値	データタイプ
[<単価>] + [<数量>]	7.25	通貨
[<数量>] + [<単価>]	7	整数
[<単価>] - [<数量>]	(2.75) 注：[通貨] フィールドの場合、丸括弧はその値が負であることを示します。	通貨
[<数量>] - [< 単価>]	3	整数
[<単価>] * [<数量>]	11.25	通貨
[<数量>] * [<単価>]	10	整数
[<単価>] / [<数量>]	0.45	通貨
[<数量>] / [< 単価>]	2.50	通貨

指数演算子を使用される場合、演算子の右側のオペランドは左側のオペランドのデータタイプに変換されません。

この例（数量が整数フィールドで、値が 5。単価が通貨フィールドで、値が 2.25）では、演算子の右側のオペランドが左側のオペランドのデータタイプに変換された場合、数量 ^ 単価は 25、データタイプは整数になることが予想されます。ところが結果は次の表のようになります。

計算	結果	
	値	データタイプ
[<単価>] ^ [<数量>]	57.67	通貨
[<数量>] ^ [<単価>]	37.38	通貨

Expression Builder では否定演算子（マイナス記号 [-] ）もサポートされます。例：

計算	結果	
	値	データタイプ
-1 * [<単価>]	(2.25)	通貨

数値を文字列に変換した場合、計算は正しく実行されません。例：

計算	結果		説明
	値	データタイプ	
1234 + abcd	1234	数値	文字列"abcd"は数値 0 に評価された後、1234 に追加されます。
abcd + 1234	abcd1234	文字列	数値 1234 は文字"1234"に評価され、文字列"abcd"に追加されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Expression Builder の演算子

このトピックでは、Expression Builder で使用できる演算子、およびこれらの演算子が評価される順序について説明します。

算術演算子

次の表では、各算術演算子の目的と使用例を示しています。

演算子	目的	例
+	加算	[<レコード番号>] + 1
-	減算	[<レコード番号>] - 1
-	マイナス	[<売上>] < -100
*	乗算	[<小計>] * 0.0625
/	除算	[<合計項目数>] / [<合計オーダー数>]
^	指数	[<グリッドの高さ>] ^ 2

論理演算子

次の表では、Expression Builder の論理演算子で得られる結果について説明します。

論理演算子	最初のオペランド	2 番目のオペランド	結果
NOT	TRUE		FALSE
	FALSE		TRUE
	NULL		NULL
AND	TRUE	TRUE	TRUE
	FALSE	FALSE	FALSE
	TRUE	FALSE	FALSE
	FALSE	TRUE	FALSE
	TRUE	NULL	NULL
	FALSE	NULL	FALSE
	NULL	TRUE	NULL
	NULL	FALSE	FALSE
	NULL	NULL	NULL
OR	TRUE	TRUE	TRUE
	FALSE	FALSE	FALSE
	TRUE	FALSE	TRUE
	FALSE	TRUE	TRUE
	TRUE	NULL	TRUE
	FALSE	NULL	NULL
	NULL	TRUE	TRUE
	NULL	FALSE	NULL
	NULL	NULL	NULL

比較演算子

次の表では、各比較演算子の目的と使用例を示しています。

演算子	目的	例
=	最初のオペランドが 2 番目のオペランドと等しいことをテストします。	[<名前 (姓)>] = "墨田"
< >	最初のオペランドが 2 番目のオペランドと等しくないことをテストします。	[<役割>] <> "エンドユーザー"
>	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより大きいことをテストします。	[<売上>] > 5000
<	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより小さいことをテストします。	[<確度>] < .7
> =	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより大きいまたは等しいことをテストします。	[<売上>] >= 5000
< =	最初のオペランドが 2 番目のオペランドより小さいまたは等しいことをテストします。	[<確度>] <= .7
LIKE	最初のオペランドが指定した文字列と一致することをテストします。	[<名前 (姓)>] LIKE "Smith" ヒント: LIKE 演算子ではアスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用して特定の文字列のパターンマッチングを行えます。
NOT LIKE	最初のオペランドが指定した文字列と一致しないことをテストします。	[<名前 (姓)>] NOT LIKE "Smith" または NOT ([<名前 (姓)>] LIKE "Smith") 注: この 2 番目の例では丸括弧が必須です。 ヒント: NOT LIKE 演算子ではアスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用して特定の文字列のパターンマッチングを行えます。
IS NULL	オペランドが NULL であることをテストします。	[<名前 (姓)>] IS NULL
IS NOT NULL	オペランドが NULL でないことをテストします。	[<名前 (姓)>] IS NOT NULL

パターンマッチングの特殊文字

次の表に、パターンマッチングの特殊文字を示します。これらの特殊文字は、LIKE および NOT LIKE などの比較演算子で使用できます。

文字	目的	例
*	0 個以上の文字	<p>[<名前(姓)>] LIKE "Sm*"では、[<名前(姓)>]値が <i>Smith</i>、<i>Smythe</i>、<i>Smart</i> などのように <i>Sm</i> で始まるすべてのレコードが返されます。</p> <p>[<名前 (姓) >] LIKE "*om*"では、<i>Thomas</i>、<i>Thompson</i>、<i>Tomlin</i> のように[<名前 (姓) >]フィールドに文字 <i>om</i> が含まれるすべてのレコードが返されます。</p>
?	1 文字	<p>[<名前 (名) >] NOT LIKE "Da?"では、[<名前 (名) >]値が 3 文字であり、文字 <i>Da</i> で始まっていないすべてのレコードが返されます。名前 (名) が <i>Ted</i>、<i>Tom</i>、<i>Sam</i> のレコードは返されますが、<i>Dax</i> や <i>Dan</i> のレコードは返されません。</p> <p>NOT ([<名前 (名) >] LIKE "?o?")では、[<名前 (名) >]値が 3 文字であり、2 目目の文字が <i>o</i> でないすべてのレコードが返されます。名前 (名) が <i>Ted</i> や <i>Sam</i> のレコードは返されますが、<i>Tom</i> や <i>Bob</i> のレコードは返されません。</p>

連結演算子

+ (plus) 演算子は、電子メールでフィールド値やテキストを連結する場合に使用されます。

演算子の優先順位

優先順位とは、Oracle CRM On Demand で単一の式に含まれるさまざまな演算子が評価される順序のことです。次のルールが適用されます。

- 優先順位の高い演算子は、優先順位の低い演算子よりも先に評価されます。
- 等しい優先順位の演算子は、左から右に評価されます。
- レベルの数値が小さいほど、優先順位が高いことを表します。
- 括弧を使用すると、式内の優先順位が変わります。括弧内の式は、括弧外の式よりも先に評価されます。

次の表に、優先順位のレベルを示します。

レベル	演算子
1	()
2	- (マイナス)
3	^ (指数)
4	* (乗算)、/ (除算)
5	+ (加算)、- (減算)、NOT 論理演算子

レベル	演算子
6	AND 論理演算子
7	OR 論理演算子
8	=、<>、>、<、>=、<=比較演算子

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Expression Builder の関数

次の表では、Expression Builder で使用できる関数について説明します。それぞれの関数の詳細については、関数の名前をクリックして参照してください。

ブール関数	日時の関数	文字列関数	ユーザー関数	データ関数	数学関数
IfNull 『603ページ』	Duration 『597ページの"期間"参照』	FieldValue 『600ページ』	Locale 『624ページ』	ExcludeChannel 『598ページ』	LN 『623ページ』
Iif 『604ページ』	JulianDay 『618ページ』	FindNoneOf 『601ページ』	LocaleListSeparator 『625ページ』	GetGroupId 『602ページ』	
	JulianMonth 『618ページ』	FindOneOf 『601ページ』	OrganizationName 『628ページ』	GetParentId 『603ページ』	
	JulianQtr 『619ページ』	InStr 『605ページ』	UserValue 『637ページ』	JoinFieldValue 『606ページ』	
	JulianWeek 『620ページ』	Left 『621ページ』		LookupName 『625ページ』	
	JulianYear 『621ページ』	Len 『622ページ』		LookupValue 『626ページ』	
	Timestamp 『633ページ』	Mid 『627ページ』		PRE 『629ページ』	

ブール関数	日時の関数	文字列関数	ユーザー関数	データ関数	数学関数
	』				
	Today 『636 ページ 』	Right 『631 ページ 』		RowIdToRowNum 『631ページ 』	
	UtcConvert 『641ページ 』	ToChar 『 634ページ 』		RowNum 『633ペ ージ 』	

他の関数に関しては、次の情報に注意してください。

- 式ビルダーの「演算子」フィールドのドロップダウンリストに表示される関数の中には、内部使用に限定されるものがあります。次の関数は式で使用しないでください。

- GetParentId
- IsManagerPosition
- Lookup
- LookupMessage
- LOVLanguage
- PositionId
- PositionName

- 次の表に示す関数の代わりに、UserValue 『637ページ 』関数の使用をお勧めします。これらの関数は、使用できなくなる予定です。

関数	推奨される代替関数
Alias	UserValue('<Alias>')
Currency	UserValue('<CurrencyCode>')
DivisionName	UserValue('<Division>')
FirstName	UserValue('<FirstName>')
JobTitle	UserValue('<JobTitle>')
Language	UserValue('<LanguageCode>')
LanguageName	UserValue('<Language>')
LastName	UserValue('<LastName>')
LocalCurrency	UserValue('<CurrencyCode>')
LocaleName	UserValue('<Locale>')
LoginId	UserValue('<UserId>')

関数	推奨される代替関数
LoginName	UserValue('<UserSignInId>')

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) 『582ページ』

■ [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』

期間

Expression Builder の Duration 関数は、期間を日単位または日の端数単位で示す数値を **period** 引数に返します。

構文

Duration(period)

結果のタイプ

数値

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
期間	<p>PnYnMnDTnHnM 形式の文字列リテラル</p> <p>説明：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ P は期間 ■ nY は 0 から 5 までの年数 ■ nM は 0 から 12 までの月数 ■ nD は 0 から 200 までの日数 ■ T は日付と時間の区切り ■ nH は 0 から 200 までの時間数 ■ nM は 0 から 59 までの分数

次の点に注意してください。

■ 正の値にプラス記号 (+) は指定しません。

- 負の期間は-Duration(Period)で指定できます。
- 秒の指定はサポートされていません。
- サポートされる最大期間は'P5Y12M200DT200H59M'（5 年、12 か月、200 日、200 時間、59 分）です。
- 年、月、日、または分の値が 0 の場合、値と対応する指定子を省略できます。
- 年、月、または日の値が 0 で、時間要素の値が 0 以外の場合、少なくとも年、月、日のいずれかの要素（数値と指定子）を指定する必要があります。
- 期間の時間要素が指定されていない場合、T 指定子を期間に含めないようにする必要があります。
- 指定子 *P* は期間に必ず指定する必要があります。

例

次に、有効な Duration 関数の例を示します。

```
Duration('P0Y1M1DT2H5M')
```

```
Duration('P0Y0DT1H')
```

```
Duration('P1D')
```

```
Duration('P0Y0M0DT0H0M')
```

```
Duration('P0DT1M')
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

ExcludeChannel

Expression Builder の ExcludeChannel 関数は、指定されたチャンネルの名前がリクエスト元のチャンネルである場合に FALSE を返します。

構文

```
ExcludeChannel(channel name)
```

結果のタイプ

ブール

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
channel name	除外するチャンネルの名前です。

次の表では、チャンネル名の引数に使用できる有効な文字列について説明します。

チャンネル名の文字列	説明
Import	このチャンネル文字列では、インポート機能および Oracle Data Loader On Demand を使用して実行された更新を除外します。
Online	このチャンネル文字列では、ブラウザウィンドウを介したユーザーインタラクションによって実行された更新を除外します。
Mass Update	このチャンネル文字列では、リストページの [大量更新] オプションを使用して実行された更新を除外します。
Record Merge	このチャンネル文字列では、レコードのマージによって実行された更新を除外します。
オフライン	このチャンネル文字列では、 Offline On Demand からの更新を除外します。
Web サービス	このチャンネル文字列では、 Web サービス からの更新を除外します。
Office	このチャンネル文字列では、 Oracle CRM On Demand Integration for Office からの更新を除外します。
OEI	このチャンネル文字列では、 Oracle Outlook Email Integration On Demand および Oracle Notes Email Integration On Demand からの更新を除外します。

例

次の例では、**Web サービス**リクエストによってトリガーされるプロセスを停止します。

```
ExcludeChannel("web services")
```

次の例では、プロセスがインポート操作または **Oracle Data Loader On Demand** によってトリガーされないようにします。

```
ExcludeChannel("Import")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

FieldValue

Expression Builder の FieldValue 関数は、フィールド値を文字列として返します。

構文

FieldValue('<field_name>')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
field_name	選択されたフィールドに対応する有効な XML 名またはカスタマイズされた統合タグです。

例

次の例

```
FieldValue('<CreatedDate>')
```

では、[作成日] フィールドの値を文字列として返します。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

FindNoneOf

Expression Builder の FindNoneOf 関数は、最初の引数（string1）内において、2 番目の引数（string2）のどの文字にも一致しない最初の文字の位置を返します。

構文

FindNoneOf(string1, string2)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string1	検索される文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。
string2	一致させる文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。

例

次の例では値 4 が返されます。

```
FindNoneOf ("abcdef", "abc")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

FindOneOf

Expression Builder の FindOneOf 関数は、2 番目の引数（string2）における 1 番目の引数（string1）の最初の文字が、string1 のどの位置にあるかを返します。

構文

FindOneOf(string1, string2)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string1	検索される文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。
string2	一致させる文字列、テキストフィールドまたは文字列式です。

例

次の例では値 **3** が返されます。

```
FindOneOf ("abcdef", "xyzc")
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

GetGroupId

Expression Builder の GetGroupId 関数は、Oracle CRM On Demand のカレンダー共有グループを返します。

構文

GetGroupId()

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』

■ [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

GetParentId

Expression Builder の GetParentId 関数は、親レコードの行 ID を返します。

構文

GetParentId()

結果のタイプ

文字列

例

担当者が行 ID 「12-1A876B」に関連付けられている場合、GetParentId 関数は次の値を返します。

12-1A876B

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) 『582ページ』

■ [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』

■ [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

IfNull

Expression Builder の IfNull 関数は、関数に渡された最初の引数から値を返します。最初の引数が NULL を返した場合、2 番目の引数からの値が返されます。

構文

IfNull(expr1, expr2)

結果のタイプ

IfNull 関数が返す結果のタイプは、たとえ最初の引数が NULL であっても、最初の引数のタイプとなります。2 番目の引数は、最初の引数のタイプに変換されてから、その値が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expr1	フィールド名または式です。
expr2	expr1 が NULL だった場合に返されるフィールド名または式です。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

IIf

Expression Builder の IIf 関数では、条件式の評価に基づいて 2 つのパラメータの 1 つを返します。IIF は、Immediate If の略です。

構文

IIf(expr, result_if_true, result_if_false)

代替構文

IIf(expr, expr_if_true, expr_if_false)

混合構文

IIf(expr, result_if_true, expr_if_false)

IIf(expr, expr_if_true, result_if_false)

結果のタイプ

IIf()関数の結果のタイプは、常に最初の引数のタイプになります。式によって FALSE に評価された場合、2 番目の引数が最初の引数のタイプに変換されてから、その値が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expr	評価される条件式です。
result_if_true	条件式が True に評価された場合の戻り値です。
result_if_false	条件式が False に評価された場合の戻り値です。
expr_if_true	条件式が True に評価された場合に評価される式です。
expr_if_false	条件式が False に評価された場合に評価される式です。

例

次に示すのは **IIf** 関数の混合構文の例です。

あるビジネスプロセスでは、[取引先] の [詳細] ページにある [地域] フィールドを、[請求先都道府県] フィールドの変更内容に応じて次のように更新する必要があります。

[請求先都道府県] フィールドが [OK] または [TX] に変更された場合は、[地域] フィールドを [中央部] に更新します。
[請求先都道府県] フィールドが [CA] に変更された場合は、[地域] フィールドを [西] に更新します。その他の都道府県の場合は、[地域] フィールドを [東] に更新します。

```
IIf(<PrimaryBillToState>='OK' OR <PrimaryBillToState>='TX', '中央部',  
IIf(<PrimaryBillToState>='CA', '西', '東'))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

InStr

Expression Builder の **InStr** 関数は、ある文字列の中から最初に見つかった文字の位置を返します。

構文

Instr(string1, string2, start, end)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string1	検索される文字列を指定します。値には文字リテラル、フィールド名、または文字列を返す式を指定できます。
string2	検索する文字列を指定します。値には文字リテラルやフィールド名、または文字列を返す式を指定できます。 注： 文字列の検索では大文字と小文字が区別されます。
start	(オプション) string1 の開始位置を指定する整数です。
end	(オプション) string1 の終了位置を指定する整数です。

例

次の例では値 9 が返されます。

```
InStr('john.doe@company.com','@')
```

次の例では、ワークフロールール条件で InStr 関数を使用する方法を示します。ワークフロールール条件では、InStr 関数を使用して、指定した文字列がレコードのフィールドに存在するかどうかを確認します。フィールドに文字列が見つからない場合、ワークフロールールで指定されたアクションが実行されます。この例では、InStr 関数を使用して、レコードの [主題] フィールドに「REVIEW」という語が含まれているかどうかを確認しています。ワークフロールールのアクションは、[主題] フィールドに「REVIEW」（すべて大文字）という語が含まれている場合にのみ実行されます。

```
InStr([<Subject>], 'REVIEW') > 0
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JoinFieldValue

レコードタイプは、外部キーを介して別のレコードタイプから参照することができます。結合フィールドは、外部キーを使用して別のレコードタイプのフィールドを参照するレコードタイプのフィールドです。たとえば、大部分のレコードタイプにある OwnerId フィールドは、User レコードタイプを参照する外部キーです。多くのレコードの Owner フィールドが、OwnerId 外部キーを使って User レコードタイプの Alias フィールドを参照する結合フィールドになっています。

Expression Builder の JoinFieldValue 関数は、参照先レコードタイプと関連する外部キーフィールドが関数に指定されると、結合フィールドの値を返します。JoinFieldValue 関数は、参照元オブジェクトに直接結合されていない参照先レコードタイプの他のフィールドも取得できるので、関連するレコードタイプからレコードタイプをまたいでフィールドを探索できます。

構文

JoinFieldValue (ref_record_type, foreign_key, field_name)

結果のタイプ

文字列。

エラーが発生した場合、または要求したフィールド値が空の場合、ゼロ長文字列が返されます。

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
ref_record_type	<p>参照先レコードタイプの言語独立名（<i>言語独立名</i>とは、ユーザー言語が変更されても変わらない名前です）。</p> <p>引数は、フィールド文字列識別子で囲む必要があります。次に例を示します。</p> <p>'<Account>'</p> <p>言語独立レコードタイプ名については、このトピックの「レコードタイプ」の表を参照してください。</p>
foreign_key	<p>参照先レコードタイプ（ref_record_type 引数で指定）の有効な行 ID を返すリテラルまたは式。行 ID が無効である場合、この関数は、ゼロ長文字列を返します。直接フィールド参照は、フィールド識別子で囲む必要があります。次に例を示します。</p> <p>[<AccountId>]</p>
field_name	<p>参照先レコードタイプ（ref_record_type 引数で指定）のフィールドの言語独立名。そのフィールドが参照先レコードタイプに存在しない場合、エラーが返されます。フィールド名はフィールド文字列識別子で囲む必要があります。次に例を示します。</p> <p>'<Type>'</p>

例

例 1：ビジネスプロセスで、レコードの所有者が変わると新しい所有者の名前を探索するワークフロールールが必要です。レコードの所有者が変わると、そのレコードの **OwnerId** 外部キーフィールドのみが更新されます。その結果、ワークフロールールの次の条件では、レコードの新しい所有者は探索されません。

```
PRE('<Owner>') <> [<Owner>]
```

代わりに、ワークフローで次の条件を使用すると、レコードの新しい所有者を探索できます。

```
PRE('<Owner>') <> JoinFieldValue('<User>', [<OwnerId>], '<Alias>')
```

例 2：レコードの前の所有者の電子メールアドレスを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<User>',PRE('<OwnerId>'),'<EmailAddr>')
```

例 3：レコードの現在の所有者の電子メールアドレスを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<User>', [<OwnerId>], '<EmailAddr>')
```

例 4：ビジネスプロセスで、担当者へサービスリクエスト電子メールを送信する必要があります。電子メールを送信する前に、担当者が電子メールの受け取りに同意していることをワークフロールールで確認します。ワークフロールール（サービスリクエストレコードタイプに基づく）には、次の条件が含まれます。

```
JoinFieldValue('<Contact>', [<ContactId>], '<NeverEmail>') <> 'Y'
```

例 5：サービスリクエストの主要アカウントのテリトリーを取得するには、次の式を使用します。

```
JoinFieldValue('<Territory>', JoinFieldValue('<Account>', [<AccountId>], '<TerritoryId>'),'<TerritoryName>')
```

レコードタイプ

次の表の「参照レコードタイプ」列には、JoinFieldValue 関数を使用して調べることができる参照レコードタイプの言語に依存しない名前が示されています。「外部キー」列には、参照レコードタイプを調べるために使用する外部キーが示されています。「レコードタイプ」列には、外部キーが表示されるワークフロールールの設定に使用するレコードタイプが示されています。

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
取引先	ParentAccountId	取引先
取引先	BookId	ブック
取引先	SourceCampaignId	キャンペーン
取引先	PrimaryContactId	担当者
取引先	CustomObject1Id	CustomObject1
取引先	CustomObject2Id	CustomObject2
取引先	CustomObject3Id	CustomObject3
取引先	TerritoryId	テリトリー
取引先	OwnerId	ユーザー
取引先競合会社	CompetitorId	取引先
取引先競合会社	PrimaryContactId	担当者
取引先担当者	AccountId	取引先
取引先担当者	ContactId	担当者
取引先担当者役割	ContactId	担当者

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
取引先のメモ	AccountId	取引先
取引先チーム	AccountId	取引先
取引先チーム	UserId	ユーザー
認定	BookId	ブック
活動	AccountId	取引先
活動	BookId	ブック
活動	CampaignId	キャンペーン
活動	PrimaryContactId	担当者
活動	CustomObject1Id	CustomObject1
活動	CustomObject2Id	CustomObject2
活動	CustomObject3Id	CustomObject3
活動	DealerId	自動車ディーラー
活動	FundRequestId	FundRequest
活動	LeadId	見込み客
活動	MedEdEventId	MedEdEvent
活動	OpportunityId	商談
活動	PortfolioId	ポートフォリオ
活動	ServiceRequestId	ServiceRequest
活動	DelegatedById	ユーザー
活動	OwnerId	ユーザー
申込書類	BookId	ブック
アセスメント	ContactId	担当者
アセスメント	LeadId	見込み客
アセスメント	OpportunityId	商談
アセスメント	ServiceRequestId	ServiceRequest
資産	ManufacturerId	取引先
資産	AccountId	取引先
資産	CustomerContactId	担当者

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
資産	ProductId	製品
自動車ディーラー製造メーカー	AccountId	取引先
自動車営業時間	AccountId	取引先
自動車サービス時間	ProductId	製品
ビジネス計画	BookId	ブック
コール製品詳細	ProductId	製品
コール提供サンプル	OwnerId	ユーザー
キャンペーン	BookId	ブック
キャンペーン	CampaignId	キャンペーン
キャンペーン	CustomObject1Id	CustomObject1
キャンペーン	CustomObject2Id	CustomObject2
キャンペーン	CustomObject3Id	CustomObject3
キャンペーン	OwnerId	ユーザー
キャンペーン受取人	ContactId	担当者
キャンペーン受取人	CampaignContactId	担当者
キャンペーン受取人	CampaignId	キャンペーン
認定レベル	BookId	ブック
担当者	AccountId	取引先
担当者	BookId	ブック
担当者	SourceCampaignId	キャンペーン
担当者	ManagerId	担当者
担当者	ContactId	担当者
担当者	CustomObject1Id	CustomObject1
担当者	CustomObject2Id	CustomObject2
担当者	CustomObject3Id	CustomObject3
担当者	TerritoryId	テリトリー
担当者	OwnerId	ユーザー
担当者のメモ	ContactId	担当者

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
担当者チーム	ContactId	担当者
担当者チーム	UserId	ユーザー
コース	BookId	ブック
カスタムオブジェクト 01	AccountId	取引先
カスタムオブジェクト 01	ActivitiyId	活動
カスタムオブジェクト 01	BookId	ブック
カスタムオブジェクト 01	CampaignId	キャンペーン
カスタムオブジェクト 01	ContactId	担当者
カスタムオブジェクト 01	ParentId	CustomObject1
カスタムオブジェクト 01	CustomObject2Id	CustomObject2
カスタムオブジェクト 01	CustomObject3Id	CustomObject3
カスタムオブジェクト 01	DealerId	自動車ディーラー
カスタムオブジェクト 01	FundId	資金
カスタムオブジェクト 01	HouseholdId	世帯
カスタムオブジェクト 01	LeadId	見込み客
カスタムオブジェクト 01	MedEdEventId	MedEdEvent
カスタムオブジェクト 01	OpportunityId	商談
カスタムオブジェクト 01	PortfolioId	ポートフォリオ
カスタムオブジェクト 01	ProductId	製品
カスタムオブジェクト 01	ServiceRequestId	ServiceRequest
カスタムオブジェクト 01	SolutionId	解決策
カスタムオブジェクト 01	OwnerId	ユーザー
カスタムオブジェクト 01	VehicleId	車両
カスタムオブジェクト 02	AccountId	取引先
カスタムオブジェクト 02	ActivityId	活動
カスタムオブジェクト 02	BookId	ブック
カスタムオブジェクト 02	CampaignId	キャンペーン
カスタムオブジェクト 02	ContactId	担当者

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
カスタムオブジェクト 02	CustomObject1Id	CustomObject1
カスタムオブジェクト 02	ParentId	CustomObject2
カスタムオブジェクト 02	CustomObject3Id	CustomObject3
カスタムオブジェクト 02	DealerId	自動車ディーラー
カスタムオブジェクト 02	FundId	資金
カスタムオブジェクト 02	HouseholdId	世帯
カスタムオブジェクト 02	LeadId	見込み客
カスタムオブジェクト 02	MedEdEventId	MedEdEvent
カスタムオブジェクト 02	OpportunityId	商談
カスタムオブジェクト 02	PortfolioId	ポートフォリオ
カスタムオブジェクト 02	ProductId	製品
カスタムオブジェクト 02	ServiceRequestId	ServiceRequest
カスタムオブジェクト 02	SolutionId	解決策
カスタムオブジェクト 02	OwnerId	ユーザー
カスタムオブジェクト 02	VehicleId	車両
カスタムオブジェクト 03	AccountId	取引先
カスタムオブジェクト 03	ActivityId	活動
カスタムオブジェクト 03	BookId	ブック
カスタムオブジェクト 03	CampaignId	キャンペーン
カスタムオブジェクト 03	ContactId	担当者
カスタムオブジェクト 03	CustomObject1Id	CustomObject1
カスタムオブジェクト 03	CustomObject2Id	CustomObject2
カスタムオブジェクト 03	ParentId	CustomObject3
カスタムオブジェクト 03	DealerId	自動車ディーラー
カスタムオブジェクト 03	FundId	資金
カスタムオブジェクト 03	HouseholdId	世帯
カスタムオブジェクト 03	LeadId	見込み客
カスタムオブジェクト 03	MedEdEventId	MedEvent

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
カスタムオブジェクト 03	OpportunityId	商談
カスタムオブジェクト 03	PortfolioId	ポートフォリオ
カスタムオブジェクト 03	ProductId	製品
カスタムオブジェクト 03	ServiceRequestId	ServiceRequest
カスタムオブジェクト 03	SolutionId	解決策
カスタムオブジェクト 03	OwnerId	ユーザー
カスタムオブジェクト 03	VehicleId	車両
カスタムオブジェクト 04-40	BookId	ブック
取引交渉登録	BookId	ブック
自動車ディーラー	BookId	ブック
自動車ディーラー	CustomObject1Id	CustomObject1
自動車ディーラー	CustomObject2Id	CustomObject2
自動車ディーラー	CustomObject3Id	CustomObject3
自動車ディーラー	ParentDealerId	自動車ディーラー
自動車ディーラー	PrimaryTerritoryId	テリトリー
自動車ディーラー	OwnerId	ユーザー
自動車ディーラーテリトリー	ChannelPartnerId	自動車ディーラー
試験	BookId	ブック
金融口座	BookId	ブック
財務計画	BookId	ブック
資金	BookId	ブック
資金	CustomObject1Id	CustomObject1
資金	CustomObject2Id	CustomObject2
資金	CustomObject3Id	CustomObject3
資金	FundId	資金
資金	PrimaryOwnerId	ユーザー
資金参加者	FundId2	資金
資金リクエスト	CampaignId	キャンペーン

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
資金リクエスト	PrimaryContactId	担当者
資金リクエスト	FundId	資金
資金リクエスト	OwnedByEmployeeId	FundRequest
資金リクエスト	FundOwnerId	ユーザー
資金リクエスト	OwnerId	ユーザー
世帯	AccountID	取引先
世帯	BookId	ブック
世帯	PrimaryContactId	担当者
世帯	CustomObject1Id	CustomObject1
世帯	CustomObject2Id	CustomObject2
世帯	CustomObject3Id	CustomObject3
世帯	OwnerGroupId	世帯
世帯担当者	CampaignId	キャンペーン
見込み客	AccountId	取引先
見込み客	BookId	ブック
見込み客	CampaignId	キャンペーン
見込み客	ContactId	担当者
見込み客	CustomObject1Id	CustomObject1
見込み客	CustomObject2Id	CustomObject2
見込み客	CustomObject3Id	CustomObject3
見込み客	OpportunityId	商談
見込み客	OwnerId	ユーザー
見込み客	SalesRepId	ユーザー
見込み客	ReferredById	ユーザー
MDF リクエスト	BookId	ブック
医学教育イベント	BookId	ブック
医学教育イベント	ProductId	製品
医学教育イベント	OwnerId	ユーザー

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
目標	BookId	ブック
商談	AccountId	取引先
商談	BookId	ブック
商談	SourceCampaignId	キャンペーン
商談	KeyContactId	担当者
商談	ConatactId	担当者
商談	CustomObject1Id	CustomObject1
商談	CustomObject2Id	CustomObject2
商談	CustomObject3Id	CustomObject3
商談	DealerId	自動車ディーラー
商談	TerritoryId	テリトリー
商談	OwnerId	ユーザー
商談競合会社	PrimaryContactId	担当者
商談競合会社	CompetitorId	商談
商談担当者役割	ContactId	担当者
商談担当者役割	OpportunityId	商談
商談のメモ	OptyId	OpportunityId
商談パートナー	PrimaryContactId	担当者
商談パートナー	PartnerId	商談
商談パートナー	OwnerId	ユーザー
商談チーム	OptyId	商談
商談チーム	UserId	ユーザー
パートナー	ParentAccountId	取引先
パートナー	BookId	ブック
パートナー	SourceCampaignId	キャンペーン
パートナー	TerritoryId	テリトリー
パートナー	ChannelAccountManagerId	ユーザー
パートナー	OwnerId	ユーザー

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
パートナープログラム	BookId	ブック
保険	BookId	ブック
ポートフォリオ	AccountId	取引先
ポートフォリオ	InstitutionId	取引先
ポートフォリオ	BookId	ブック
ポートフォリオ	PrimaryContactId	担当者
ポートフォリオ	CustomObject1Id	CustomObject1
ポートフォリオ	CustomObject2Id	CustomObject2
ポートフォリオ	CustomObject3Id	CustomObject3
ポートフォリオ	OwnerGroupId	ポートフォリオ
ポートフォリオ	ParentPortfolioAccountId	ポートフォリオ
ポートフォリオ	ParentProductId	製品
ポートフォリオ	ProductId	製品
ポートフォリオ	OwnerId	ユーザー
ポートフォリオ所有者	ContactId	担当者
ポートフォリオ所有者	PortfolioId	ポートフォリオ
製品	ParentProductId	製品
売上	OpportunityAccountId	取引先
売上	AssetId	資産
売上	ContactId	担当者
売上	OpportunityId	商談
売上	ProductId	製品
売上	OwnerId	ユーザー
サンプルロット	BookId	ブック
サンプルトランザクション	BookId	ブック
サービスリクエスト	AccountId	取引先
サービスリクエスト	AssetId	資産
サービスリクエスト	BookId	ブック

レコードタイプ	外部キー	参照レコードタイプ
サービスリクエスト	ContactId	担当者
サービスリクエスト	CustomObject1Id	CustomObject1
サービスリクエスト	CustomObject2Id	CustomObject2
サービスリクエスト	CustomObject3Id	CustomObject3
サービスリクエスト	DealerId	自動車ディーラー
サービスリクエスト	ProductId	製品
サービスリクエスト	OwnerId	ユーザー
サービスリクエスト	VehicleId	車両
解決策	CustomObject1Id	CustomObject1
解決策	CustomObject2Id	CustomObject2
解決策	CustomObject3Id	CustomObject3
解決策	ProductId	製品
特別価格リクエスト	BookId	ブック
車両	AccountId	取引先
車両	BookId	ブック
車両	PrimaryContactId	担当者
車両	CustomObject1Id	CustomObject1
車両	CustomObject2Id	CustomObject2
車両	CustomObject3Id	CustomObject3
車両	ProductId	製品
車両	SellingDealerId	自動車ディーラー
車両	ServicingDealerId	自動車ディーラー
車両	OwnerId	ユーザー

加えて、次の外部キーフィールドはすべてのレコードタイプに共通で、次のユーザーレコードタイプを参照します。

- CreatedById
- ModifiedById

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JulianDay

Expression Builder の JulianDay 関数は、紀元前 4713 年 1 月 1 日の正午（協定世界時）から経過した日数を返します。

構文

JulianDay (date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianDay(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JulianMonth

Expression Builder の JulianMonth 関数は、次の値を表す整数を返します。

*JulianYear * 12 + current_month*

ここで、*JulianYear* は、[JulianYear](#) 『621ページ』 関数から返される年を、*current_month* は 1～12 の整数を表し、1 月は 1 になります。

構文

JulianMonth(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	<p>日付データタイプを返すフィールド名。</p> <p>今日の日付を返すには、次の構文を使用します。</p> <p>JulianMonth(Today())</p>

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JulianQtr

Expression Builder の JulianQtr 関数は、次の値を表す整数を返します。

$$JulianYear * 4 + current_quarter$$

ここで、*JulianYear* は [JulianYear](#) 『621ページ』 関数から返される年を表し、*current_quarter* は次の値になります。

$$(current_month - 1) / 3 + 1$$

端数は切り捨てられ、整数になります。

構文

JulianQtr(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianQtr(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JulianWeek

Expression Builder の JulianWeek 関数は、次の値を表す整数を返します。

JulianDay / 7

端数は切り捨てられ、整数になります。*JulianDay* は [JulianDay](#) 『618ページ』 から返される日付です。

構文

JulianWeek(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianWeek(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

JulianYear

Expression Builder の JulianYear 関数は、次の値を表す整数を返します。

current_year + 4713

構文

JulianYear(date)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
date	日付データタイプを返すフィールド名。 今日の日付を返すには、次の構文を使用します。 JulianYear(Today())

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Left

Expression Builder の Left 関数は、文字列の左端から指定した数の文字を返します。

構文

Left(string, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	左端の文字が返される文字列。文字列に Null が含まれる場合は、 Null が返されます。
length	返される文字数を指定する整数。この引数が 0 の場合、空の文字列が返されます。この引数が文字列内の文字数以上の数である場合、文字列全体が返されます。

例

現在のユーザーの電子メールアドレスが **john.doe@oracle.com** の場合、次の例では **john** という値が返されます。

```
Left(UserValue('<EmailAddr>'), 4)
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Len

Expression Builder の Len 関数は、指定された文字列内の文字数を返します。

構文

Len(string)

結果のタイプ

整数

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	文字がカウントされるフィールド名または文字列式。文字列が空の場合は、 0 が返されます。文字列に Null が含まれている場合は、 Null が返されます。

例

次の例では、**18** の値が返されます。

```
Len("Oracle Corporation")
```

次の例では、フィールドに有効なタイムスタンプがある場合は、**19** の値が返されます。

```
Len([<CreateDate>])
```

次の例では **19** の値が返されます。

```
Len(Timestamp()) returns 19
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

LN

Expression Builder の LN 関数は、引数で渡される数値の自然対数を返します。

構文

LN(number)

結果のタイプ

数値

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
number	自然対数が返される数値。

例

次の例では、

`LN(10)`

2.30 の値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Locale

Expression Builder の Locale 関数は、サインイン済みユーザーのロケールコード（ENU など）を返します。

構文

`Locale()`

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

LocaleListSeparator

Expression Builder の `LocaleListSeparator` 関数は、カンマ (,) などの現在のロケールの区切り記号を返します。

構文

`LocaleListSeparator()`

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

LookupName

Expression Builder の `LookupName` 関数では、値リストテーブルで次のすべてに該当する行を検索します。

- `TYPE` フィールドが `type` 引数と一致する。
- `CODE` フィールドが `lang_ind_code` 引数と一致する。
- `LANG_ID` フィールドが現在有効な言語の言語コードと一致する。

この関数は、指定された値リストの表示値の未翻訳の値（言語に依存しないコード）を返します。

ヒント： `LookupName` 関数のパラメータを指定する場合は、[可能な値を表示] をクリックして [項目] リストで選択したフィールドに指定可能な値を表示します（フィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示] にはそのピックリストに設定されているすべてのオプションが表示されます。フィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示] を選択すると、フィールドに格納できるさまざまなデータに対して指定可能な値を説明するウィンドウが表示されます）。

構文

`LookupName(type, lang_ind_code)`

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
type	検索対象の行のタイプ。
lang_ind_code	表示値。

例

CALIFORNIA は表示値で CALIF は言語に依存しないコードです。次のどちらの例でも、値 CALIF が返されます。

```
LookupName('STATE_ABBREV', 'CALIFORNIA')
```

```
LookupName('STATE_ABBREV', 'CALIF')
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

LookupValue

Expression Builder の LookupValue 関数は、現在有効な言語に翻訳される指定されたピックリスト値を返します。

ピックリスト値は値リストテーブルに保存されます。LookupValue 関数は、次のすべてに該当する行の VAL 列内の値を返します。

- TYPE 列が type 引数と一致する。
- CODE 列が lang_ind_code 引数と一致する。
- LANG_ID 列が現在有効な言語の言語コードと一致する。

LookupValue 関数を使用すると、Oracle CRM On Demand でロケール間でピックリスト値に関連する式を均等に評価できます。たとえば、英語の *White* という値は、フランス語の値 *Blanc* と同じ方法で評価されます。

ヒント：LookupValue 関数のパラメータを指定する場合は、[可能な値を表示] をクリックして [項目] リストで選択したフィールドに指定可能な値を表示します（フィールドがピックリストフィールドである場合、[可能な値を表示] にはそのピックリストに設定されているすべてのオプションが表示されます。フィールドがピックリストフィールドでない場合、[可能な値を表示] を選択すると、フィールドに格納できるさまざまなデータに対して指定可能な値を説明するウィンドウが表示されます）。

注：商談レコードの [セールスステージ] フィールドは真のピックリストフィールドではありません。このフィールドでは LookupValue 関数は機能しません。

構文

LookupValue (type, lang_ind_code)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
type	検索対象の行のタイプ。
lang_ind_code	値リスト内の翻訳の値。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Mid

Expression Builder の Mid 関数は、文字列の指定された数の文字を返します。

ヒント：文字列内の文字数を確認するには、[Len](#) 『622ページ』 関数を使用します。

構文

Mid(string, start, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	文字が返されるフィールド名または文字列式。文字列に Null が含まれる場合、空の文字列が返されます。
start	長さのカウントが開始される文字列内の文字の位置を指定するフィールド名または式。 start 引数の値が文字列内の文字数を超えた場合、 Mid 関数は空の文字列を返します。
length	オプション。返す文字数を指定するフィールド名または式。この引数を使用しない場合、または指定された長さが返すことができる文字数を超える場合、文字列の開始位置から終了までのすべての文字が返されます。

例

次の例では、文字列内の 12 文字目から始まる、7 つの文字が返されます。

```
Mid("Expression Builder is easy!!", 12, 7)
```

次の例では、*Expression Builder is easy!!* というテキストを含むテキストフィールドの 12 番目の文字から始まる 7 つの文字が返されます。

```
Mid('<TextFieldName>',12, 7)
```

または

```
Mid([<TextFieldName>],12, 7)
```

次の例では、電子メールアドレスからドメイン名を抽出します。

```
Mid([<CreatedbyEmailAddress>],FindOneOf([<CreatedbyEmailAddress>], "@" ) + 1, Len([<CreatedbyEmailAddress>]))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

OrganizationName

Expression Builder の **OrganizationName** 関数は、サインイン済みユーザーの組織名を返します。

構文

```
OrganizationName()
```

結果のタイプ

文字列

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

PRE

Expression Builder の PRE 関数は、フィールド値が変更されたとき、かつ値がデータベースで更新される前に、指定されたフィールドの前の値を返します。

注意： [待機] アクションを含むワークフロールールでは、PRE 関数を使用しないでください。[待機] アクションが PRE 関数に影響を与えます。[待機] アクションの後に続くすべてのアクションは、指定の待機期間が終了するまで実行されません。残りのアクションは、ルールが最初にトリガーされた処理ではなく、別のバッチ処理で実行されます。ワークフロールールをトリガーしたアクションより前にあるレコードのフィールドの値は保持されません。そのため、フィールドの以前の値と現在の値は常に同じであるとみなされます。

構文

PRE(' <fieldname>')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
fieldname	変更されたフィールドの名前。

PRE 機能の使用時には次の点を考慮してください。

- ワークフロー条件や検証文などの条件式では、PRE 関数を使用してフィールドの以前の値を取得するときに、フィールドの初期値は空白（つまり、null 値）の可能性もあることに留意してください。初期値が null の場合、null 以外の値との比較によって予期しない動作が生じます。このような場合に条件式が正しく評価されるようにするには、この例に示すように、PRE 関数とともに IfNull 関数を使用します。

```
IfNull([<FieldName>], "Invalid") <> IfNull(PRE('<FieldName>'), "Invalid")
```

この例では、「Invalid」というテキスト文字列を使用して **null** 値を置き換えています。調査対象のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

- [待機] アクションの後に呼び出されるワークフロールールまたはアクションで **PRE** 関数を使用した場合、関数はフィールドの以前の値を返しません。ただし、ビジネスプロセスによっては、このような比較が必要になる場合もあります。その場合、[更新されたレコードが保存される前に] トリガーイベントを指定したワークフロールールを使用して、フィールドの以前の値をそのレコードタイプの未使用フィールドに格納できます。その後、格納したフィールド値を使用して、[待機] アクションを持つワークフロールールで必要な比較を実行できます。

フィールドの以前の値をそのレコードタイプの未使用フィールドに格納するワークフロールールを作成する場合は、元のフィールドの以前の値が空白（つまり、**null** 値）の可能性もあることに留意してください。したがって、次のような式を使用して、**null** 値が見つかった場合にデフォルト値を格納する必要があります。

IfNull([<FieldName>], "Invalid")

この例では、「Invalid」というテキスト文字列をデフォルト値として使用して **null** 値を置き換えています。元のフィールドに値としてその文字列が存在しない場合は任意の文字列を使用できます。

取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフロールールの作成例

次の例では、取引先レコードの所有者が変更されたときに、その取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフロールールを作成する方法を示します。

取引先レコードの以前の所有者に電子メールを送信するワークフロールールを作成するには

- 1 取引先レコードタイプのワークフロールールを作成し、[更新されたレコードが保存されたとき] トリガーイベントを指定します。
- 2 ワークフロールールを保存します。
- 3 ワークフロールールに電子メール追加アクションを作成します。
- 4 ワークフローアクションについて、次の操作を実行します。
 - a [宛先] フィールドで、[特定の電子メールアドレス] を選択します。
 - b [宛先] フィールドの式テキストボックスに、次の式を追加します。
JoinFieldValue('<User>', IfNull(PRE('<OwnerId>'), "admin@mycompany.com"), '<EmailAddr>')
 - c 電子メールの件名および本文に必要なテキストを追加します。
 - d ワークフローアクションを保存します。

関連トピック

関連する **Expression Builder** の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』

■ [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Right

Expression Builder の **Right** 関数は、文字列の右端から指定した数の文字を返します。

構文

Right(string, length)

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
string	右端の文字が返される文字列。文字列に Null が含まれる場合は、 Null が返されます。
length	返される文字数を指定する整数。この引数が 0 の場合、空の文字列が返されます。この引数が文字列内の文字数以上の数である場合、文字列全体が返されます。

例

現在のユーザーの電子メールアドレスが **john.doe@oracle.com** の場合、次の例では **oracle.com** という値が返されます。

```
Right(UserValue('<EmailAddr>'),
Len(UserValue('<EmailAddr>'))-Instr(UserValue('<EmailAddr>'),'@'))
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) 『582ページ』

■ [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』

■ [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

RowIdToRowNum

Expression Builder の **RowIdToRowNum** 関数は、英数字の行 ID を数値形式に変換します。

注：行 ID は、Oracle CRM On Demand で専用のアルゴリズムを使用して生成され、Oracle CRM On Demand データベースにおいて完全な参照整合性を持ちます。このアルゴリズムでは、**Base-36** エンコーディング（基数が 36 の位置記数法）を使用します。基数として 36 を使用すると、0～9 の数字と A～Z の文字で桁を表すことができます。これは、ASCII 文字に基づく大文字小文字を区別しない最適な英数字記数法です。

構文

RowIdToRowNum('row_id')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
row_id	英数字の行 ID を返す文字列リテラル、フィールド名、または式。

例

次の例では、

RowIdToRowNum('12-6RX8L').

38-8021253 の値が返されます。

次の例では、

RowIdToRowNum('12-Y09KG')

38-57119344 の値が返されます。

<AccountID> フィールドに '12-Y09KG' が含まれている場合、次の例では、

RowIdToRowNum('<AccountID>')

38-57119344 の値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

RowNum

Expression Builder の RowNum 関数は、有効なレコードセット内におけるレコードの位置を返します。

構文

RowNum()

結果のタイプ

整数

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Timestamp

Expression Builder の Timestamp 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定に変換されたサーバーの日時を返します。たとえば、現在のユーザーのタイムゾーン設定が東部夏時間 (EDT) -0400 UTC に設定されている場合、Timestamp 関数はサーバーの時間を EDT に変換します。Timestamp 関数は、UTC (世界協定時) 変換を実行します。

注：算術演算 (加算や減算など) は、Timestamp() 関数でサポートされません。

構文

Timestamp()

結果のタイプ

日時

例

次の例では、現在の日時が、月/日/年 24 時間制の時間:分:秒の形式で返されます。

```
Timestamp()
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

ToChar

Expression Builder の ToChar 関数は、指定された日付または数値の式を、指定された形式の文字列に変換します。

構文

ToChar(expression, format)

注意 : ToChar 関数の 1 つのインスタンスで日付形式と数値形式の両方を使用しないでください。両方を使用すると、無効な結果になる可能性があります。

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
expression	日付、日時、または数値を返す式またはフィールド。
format	日付や数値の形式を表す文字列。

この関数の日付形式について次の表で説明します。

形式コード	説明
DD	2 桁の日 (01 - 31) 。
DDDD dddd	日の名前。
MM	2 桁の月 (01 - 12、01 は 1 月)。小文字の <i>mm</i> は分を示すので、大文字の <i>MM</i> を使用する必要があります。
MMMM mmmm	月の名前。 <i>mm</i> (小文字の <i>m</i> を 2 つ) は分を示すので、小文字を使用する場合は <i>mmmm</i> (小文字の <i>m</i> を 4 つ) で指定する必要があります。
Y	年の最後の桁。

形式コード	説明
YY	年の最後の 2 桁。
YYYY	4 桁の年。
hh12	12 時間形式の時間。
hh24	24 時間形式の時間。
hh	時間。次の例のように、AM または PM を指定して時間を調整できます。 hh:mm:ss PM AM も PM も指定しなかった場合、デフォルトで 24 時間形式が使用されます。
mm	分。mm（小文字の m を 2 つ）は常に分を示すため、2 桁の日の指定には使用できません。
ss	秒。

この関数の数値形式について次の表で説明します。

形式コード	例	説明
#	####	指定された桁数の値を返します。値が負の場合は、先頭にマイナス記号が付きます。
0	####.00	先頭の 0 を返します。末尾の 0 を返します。
\$	\$####.00	先頭にドル記号の付いた値を返します。
,	#,###	指定された位置のカンマを返します。カンマは小数点の右側に表示することはできません。形式モデルはカンマから始まります。
.	###.##	指定された位置の小数点を返します。format パラメータでは、1 つの小数点だけが許可されます。小数点の後に指定されている桁数が、小数点の後で使える桁数よりも少ない場合、端数は切り上げられます。

数値形式の使用例

次の例では 10 の値が返されます。

```
ToChar (10, '##.##')
```

次の例では 10 の値が返されます。

```
ToChar (10, '##.00')
```

次の例では 10.24 の値が返されます。

```
ToChar (10.2388, '##.00')
```

次の例では-10.24 の値が返されます。

```
ToChar (-10.2388, '##.##')
```

日付形式の使用例

次の例では、Timestamp()関数から返された値を DD/MM/YYYY の形式に変換します。

```
ToChar(Timestamp(), 'DD/MM/YYYY')
```

たとえば、Timestamp()関数が 02/29/2008 10:58:37 の値を返すと、前の式は 29/02/2008 に評価されます。

次の例は、様々な形式で深夜を表す方法を示しています。

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh:mm:ss PM)の結果は 2009/05/22 12:00:00 AM

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh:mm:ss)の結果は 2009/05/22 00:00:00

ToChar(Today(), YYYY/MM/DD hh24:mm:ss PM)の結果は 2009/05/22 00:00:00

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Today

Expression Builder の Today 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定に基づいて今日の日付を返します。たとえば、現在のユーザーのタイムゾーン設定が東部夏時間（EDT）-0400 UTC に設定されている場合、Today()関数はサーバーの日付を EDT に変換します。Today()関数は、UTC（世界協定時）変換を実行します。

構文

Today()

結果のタイプ

日付

例

現在の日付が 11/27/2007 の場合、次の例では、

Today() - 30

10/28/2007 の値が返されます。

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

UserValue

Expression Builder の UserValue 関数は、現在のユーザーの指定された属性の値を返します。

[ユーザー詳細] ビューのフィールドは、選択したユーザーの属性を表します。

構文

UserValue('<attribute>')

結果のタイプ

文字列

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
属性	現在のユーザー属性の表示名に対応する言語独立名またはカスタマイズされた統合タグです。

例

例 1：あるビジネスプロセスでは、レコードの作成時に、サービスリクエストの [基本] という名前のカスタムテキストフィールドに、デフォルトでレコードを作成するユーザー（現在のユーザー）の国が表示されるようにする必要があります。

このビジネスルールを実行するには、サービスリクエストの [フィールドセットアップ] ページで、[基本] フィールドのデフォルト値を **UserValue('<PersonalCountry>')** に設定し、[デフォルトをポスト] チェックボックスをオンにします。

フィールドの作成と編集の詳細については、「[フィールドの作成と編集](#) 『74ページ』」を参照してください。

例 2：あるビジネスプロセスでは、商談の所有者が管理者でない場合、特定のワークフロールールがトリガーされるようにする必要があります。

このビジネスルールを実装するには、ワークフロールールで次の条件をセットアップします。

UserValue('<EMailAddr>') <> 'administrator@testdata.com'

属性

次の表では、UserValue 関数の引数として使用できる属性および対応する表示名について説明します。

属性	表示名	値の例
Alias	フリガナ	管理
AuthenticationType	認証タイプ	ユーザーID/パスワードのみ
BusinessUnit	ビジネスユニット	ビジネスユニット
BusinessUnitLevel1	ビジネスユニットレベル 1	ビジネスユニット L1
BusinessUnitLevel2	ビジネスユニットレベル 2	ビジネスユニット L2
BusinessUnitLevel3	ビジネスユニットレベル 3	ビジネスユニット L3
BusinessUnitLevel4	ビジネスユニットレベル 4	ビジネスユニット L4
CellPhone	携帯電話番号	+1 555 2368978
CreatedBy	作成者	Oracle CRM On Demand CSR 管理者
CreatedById	使用不可	1E1263-IZBZ
CreatedDate	作成日	01/08/2007 21:21:33
CurrencyCode	通貨	USD
Department	部門	部門
Division	部署	部署
EMailAddr	電子メール	john.doe@oracle.com
EmployeeNumber	従業員番号	12345
EnableTeamContactsSync	チーム担当者の同期を有効にする	Y
ExternalIdentifierForSingleSignOn	シングルサインオンの外部 ID	UID=ADMIN、O=ORACLE
ExternalSystemId	外部固有 ID	EXTUID123
FirstName	名前（名）	John
FundApprovalLimit	資金承認限度	50000

属性	表示名	値の例
IntegrationId	統合 ID	INTUID123
JobTitle	肩書	プロダクトマネージャ
Language	言語	英語 - 米国
LastLoggedIn	最終サインイン	10/31/2007 19:39:01
LastName	名前 (姓)	Doe
LeadLimit	見込み客制限	2345679
Locale	ロケール	英語 - カナダ
ManagerFullName	上司	John Smith
ManagerId	使用不可	1E4763-IZAU
Market	マーケット	マーケット
MiddleName	ミドルネーム	ミドルネーム
MiscellaneousNumber1	その他の数値 1	2312
MiscellaneousNumber2	その他の数値 2	2312
MiscellaneousText1	その他のテキスト 1	DUNS # (Webcat) = 10461
MiscellaneousText2	その他のテキスト 2	a7cff064-6566-47a2-8629-8b32d92de222
ModifiedBy	変更者	John Doe
ModifiedById	使用不可	1E1263-IZBZ
ModifiedDate	変更日時	10/31/2007 19:32:58
MrMrs	敬称	Mr.
NeverCall	電話連絡禁止	Y
NeverEmail	電子メール送信禁止	Y
NeverMail	郵送禁止	Y
PasswordState	パスワードの状態	有効
PersonalCity	市	トロント
PersonalCountry	国	カナダ
PersonalPostalCode	郵便番号	M4C2C3
PersonalProvince	都道府県	オンタリオ
PersonalState	都道府県	CA

属性	表示名	値の例
PersonalStreetAddress	番地	555 Main Avenue
PersonalStreetAddress2	住所 2	Suite 17
PersonalStreetAddress3	住所 3	Scarborough
PhoneNumber	勤務先電話番号	+1 555 2365555
PrimaryGroup	プライマリグループ	ユーザーグループ A
Region	地域	地域（個人）
Role	役割	フィールドセールス要員
RoleId	役割 ID	1E1263-IYG1
SecondaryEmail	セカンダリ電子メール	john.doe2@oracle.com
ShowWelcomePage	サインイン時によこそページを表示	N
Status	状態	有効
SubMarket	サブマーケット	サブマーケット（個人）
SubRegion	サブ地域	サブ地域（個人）
TempPasswordFlag	「保存」をクリックしたときに仮パスワードを送信	Y
TimeZoneName	タイムゾーン	(GMT-05:00) 東部標準時間 (米国とカナダ)
UserId	行 ID	1E1263-IZAU
UserLoginId	行 ID	1E1263-IZAU
UserSignInId	ユーザーのサインイン ID	PTE169-14/ADMIN
WorkFax	勤務先 FAX 番号	+1 555 2365556

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

UtcConvert

Expression Builder の UtcConvert 関数は、現在のユーザーのタイムゾーン設定で指定されている日時を変換し、指定されたタイムゾーンの日時を返します。

構文

UtcConvert (utc_date_time, time_zone)

結果のタイプ

時刻

引数

この関数の引数について次の表で説明します。

引数	説明
utc_date_time	現在のユーザーのタイムゾーン設定に合わせた MM/DD/YYYY HH24:MI:SS 形式の日時。
time_zone	タイムゾーンの名前。

例

ユーザーのタイムゾーン設定が、[(GMT-05:00) 東部時間 (米国およびカナダ)]である場合に、次の例のように指定すると、

```
UtcConvert('12/14/2007 17:07:05', 'Pacific Standard Time')
```

次の値が返されます。

12/14/2007 12:07:05

現在のユーザーのタイムゾーン設定が [(GMT+05:30) カルカッタ、チェンマイ、ボンベイ、ニューデリー] である場合に次の例のように指定すると、

```
UtcConvert('12/14/2007 15:07:05', 'Eastern Standard Time')
```

次の値が返されます。

12/14/2007 04:37:05

次の例は、西ヨーロッパ時間に対応する UTC 時間を取得する方法を示しています。

```
UtcConvert(Timestamp(), "(GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "w. Europe Daylight Time")
```

```
UtcConvert(Timestamp(), "w. Europe Standard Time")
```

次の例は、南アフリカ時間に対応する UTC 時間を取得する方法を示しています。

```
UtcConvert(Timestamp(), "(GMT+02:00) Harare, Pretoria")
```

```
UtcConvert(Timestamp(),"South Africa Daylight Time")
```

```
UtcConvert(Timestamp(),"South Africa Standard Time")
```

タイムゾーンの名前に単一引用符 (') やコンマ (,) などの特殊文字が含まれる場合、次の例のように、タイムゾーンの名前または特殊文字を二重引用符で囲む必要があります。

```
%%UtcConvert('08/03/2009 12:01:33'," (GMT+13:00) Nuku" + "'" + "alofa")%%
```

```
%%UtcConvert('08/03/2009 12:01:33', "(GMT+13:00) Nuku'alofa")%%
```

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

- [Expression Builder について](#) 『582ページ』
- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

Expression Builder の例

Expression Builder では、次の表に示すサンプルの式を使用できます。

Expression Builder の式の例	
[商談マージン] フィールドの更新	
説明	[商談マージン] フィールドの更新
構文	[<OpportunityMargin>] = [<OpportunityRevenue>]-[<OpportunityCost>]
小取引の検証	
説明	フィールドの検証。「小取引」は、売上が 1,000,000 以内です。
構文	<= IIf (Fieldvalue('<OpportunityCategory>') = '小取引', 1000000, [<売上>])
新しく作成されたサービスリクエストの作成者への割り当て	
説明	サービスリクエストが作成されると、UserId をサービスリクエストフィールドの「所有者 ID」のデフォルトとして設定します。
構文	[<OwnerId>] = UserValue('<UserId>')
指定したフィールドの値変更の確認	
説明	フィールド値の変更をチェックします。

構文	<code>(PRE('<ActualCost>') <> [<ActualCost>]) OR (PRE('<BudgetedCost>') <> [<BudgetedCost>])</code>
クローズ日に基づいたワークフローのトリガー	
説明	1 か月を超えてクローズ日が変更された場合、ワークフローを実行します。
構文	<code>([<CloseDate>] - PRE('<CloseDate>')) > 30</code>
商談が担当者なしで特定のステージに到達した場合にワークフローをトリガー	
説明	商談が担当者なしで [クローズ済み/成立] セールスステージに到達すると、ワークフローが実行されます。
構文	<code>FieldValue('<SalesStage>') = "クローズ済み/成立" AND PRE('<SalesStage>') <> [<SalesStage>] AND [<KeyContactId>] = "一致する行 ID がありません"</code>
チェックボックスがオンになったときにワークフローをトリガー	
説明	カスタムの [レビュー準備中] フィールドがオンになると、ワークフローが実行されます。
構文	<code>FieldValue('<bReady_for_Review_ITAG>') = 'Y' AND (PRE('<bReady_for_Review_ITAG>') = 'N' OR IfNull(bReady_for_Review_ITAG, 'Y') = 'Y')</code>
現在のユーザーがレコードの所有者かどうかの確認	
説明	レコードの所有者が現在のユーザーであるかどうかを確認します。この場合、[所有者] フィールドは null である可能性があるため、IfNull 関数が使用されます。
構文	<code>IfNull([<OwnerId>], "Invalid") = UserValue('<UserId>')</code>
取引先タイプが変更された場合に電子メールをトリガー	
説明	取引先タイプが「見込み顧客」から「顧客」に変更された場合に電子メールをトリガーします。
構文	<code>PRE('<AccountType>') = "見込み顧客" AND Fieldvalue('<AccountType>') = "顧客"</code>
特定チャネルのワークフローからの除外	
説明	オンラインレコードに対してワークフローを実行しません。
構文	<code>PRE('<CampaignType>') = "Advertisement" AND ExcludeChannel("Online")</code>

関連トピック

関連する Expression Builder の情報については、次のトピックを参照してください。

■ [Expression Builder について](#) 『582ページ』

- [Expression Builder の使用](#) 『583ページ』
- [Expression Builder の関数](#) 『595ページ』

索引

[
[Book Hierarchy (ブック階層)] ページ - 251
[アクセスプロファイルリスト] ページの使用 - 177
[ホームページ (個人)] でのカスタムレポートの
有効化 - 128
[レコード詳細] ページのレイアウトへのブックの
追加 - 248
[関係の編集] を使用した非共有住所の住所タイプ
の設定 - 58
[役割リスト] ページの使用 - 204

E

ExcludeChannel - 598
Expression Builder - 582
Expression Builder について - 582
Expression Builder のデータタイプ - 588
Expression Builder の演算子 - 591
Expression Builder の関数 - 595
Expression Builder の使用 - 583
Expression Builder の例 - 642

F

FieldValue - 600
Financial Account Holders Fields
Import Preparation (金融口座名義人フィールド：
インポートの準備) - 458
Financial Account Holdings Fields
Import Preparation (金融口座保有状況フィール
ド：インポートの準備) - 459
Financial Transactions Fields
Import Preparation (財務取引フィールド：インポ
ートの準備) - 464

FindNoneOf - 601

FindOneOf - 601

G

GetGroupId - 602

GetParentId - 603

I

IfNull - 603

Ilf - 604

InStr - 605

IP アドレスの使用制限 - 35

J

JoinFieldValue - 606

JulianDay - 618

JulianMonth - 618

JulianQtr - 619

JulianWeek - 620

JulianYear - 621

L

Left - 621

Len - 622

LN - 623

Locale - 624

LocaleListSeparator - 625

LookupName - 625

LookupValue - 626

M

MDF リクエストのフィールド：インポートの準備 -
474

Mid - 627

O

Oracle CRM On Demand でプロセスを設定するプロ
セス - 266

Oracle CRM On Demand の管理 - 7

Oracle CRM On Demand の管理プロセス - 11

Oracle CRM On Demand の使用状況追跡について -
14

Oracle Data Loader On Demand クライアントユー
ティリティ - 536

Oracle Data Loader On Demand クライアントユー
ティリティについて - 537

Oracle Data Loader On Demand クライアントユー
ティリティのダウンロード - 537

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユー
ティリティ - 541

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユー
ティリティについて - 542

Oracle Migration Tool On Demand クライアントユー
ティリティのダウンロード - 542

OrganizationName - 628

P

PRE - 629

PRM の価格リストの設定 - 565

R

Right - 631

RowIdToRowNum - 631

RowNum - 633

RSS フィード Web アプレットの設定例 - 118

T

Timestamp - 633

ToChar - 634

Today - 636

U

UserValue - 637

UtcConvert - 641

W

Web リンクを使用した新しい統合シナリオの作成
について - 81

Web アプレットの作成 - 92

Web サービスの統合 - 537

Web サービスの利用の確認 - 540

Web リンクの設定 - 79

WSDL およびスキーマファイルのダウンロード -
538

あ

アクションバーレイアウトの作成と管理 - 116

アクセスプロファイルの関連トピック - 201

アクセスプロファイルの設定プロセス - 198

アクセスプロファイルの追加 - 198

アクセスプロファイル管理 - 166

アクセスレベルの計算例 - 187

アセスメントスクリプトについて - 570

アセスメントスクリプトの設定 - 569

アセスメントスクリプトの作成 - 573

アプリケーションカスタマイズ - 60

アポイント、タスク、および電話連絡フィールド：
インポートの準備 - 408

アポイントユーザーフィールド：インポートの準備 -
407

アポイント担当者フィールド：インポートの準備 -
406

インデックス付きカスタムフィールドの使用 - 82

インポートアシスタント - 527

インポートツールとエクスポートツール - 347

インポート結果の確認 - 532

インポート時のレコードのリンク - 383

エクスポートアシスタント - 533

エクスポート結果の確認 - 535

オーダーのフィールド：インポートの準備 - 488

オーダー項目のフィールド：インポートの準備 - 489

か

外部 Web ページのタブでの表示 - 108

カスケード式ピックリストの定義 - 94

カスタム Web アプレットについて - 110

カスタム Web アプレットの作成 - 111

カスタムオブジェクトの多対多の関係について -
137

カスタムオブジェクトフィールド：インポートの準
備 - 439

カスタムフィールドについて - 70

カスタムフィールドの統合タグの設定 - 78

カスタム会計カレンダーの定義 - 37

企業プロファイルとグローバルデフォルトの設定 -
16

キャンペーンフィールド：インポートの準備 - 416

キャンペーン受取人フィールド：インポートの準備 -
418

クライアント側拡張のアップロード - 120

グループの管理 - 253

グループの設定 - 256

グローバル Web アプレットの作成 - 117

コースのフィールド：インポートの準備 - 436

コース登録のフィールド：インポートの準備 - 435

コピー有効設定の管理 - 77

コンテンツ管理 - 561

さ

サービスリクエストフィールド：インポートの準備 -
512

サービス割当について - 48

サービス割当の警告の設定 - 50

サービス割当管理 - 47

サイト間リクエストの偽造保護について - 33

サインインおよびパスワードポリシーについて - 26

サンプルトランザクションのフィールド：インポー
トの準備 - 511

サンプルロットのフィールド：インポートの準備 -
510

サンプル在庫のフィールド：インポートの準備 - 509

サンプル免責条項のフィールド：インポートの準備 -
508

資産フィールド：インポートの準備 - 410

すべてのパスワードのリセット - 34

すべてのユーザーのサインイン活動の確認 - 42

スマートコールの管理 - 576

セールスプロセス、カテゴリー、およびコーチの設
定 - 339

た

タスクユーザーフィールド

インポートの準備 - 519

タスク担当者フィールド：インポートの準備 - 519

チーム、グループおよびブックのアクセスプロファ
イルについて - 169

チームの継承によるアクセスの適用について - 170

通貨の管理 - 39

データインポート時のフィールドタイプのガイドラ
イン - 385

データチェックのガイドライン - 384

データのインポート - 527

データのインポートの準備 - 390

データのエクスポート - 534

データルールおよび割当 - 317
データ管理ツール - 347
テリトリの設定 - 258
テリトリ管理 - 258
トランザクション項目のフィールド:インポートの準備 - 520
は
パートナーフィールド:インポートの準備 - 490
パートナー管理者の設定プロセス (管理者) - 161
パートナー自己管理 - 161
パートナー組織のユーザーの管理 (パートナー) - 162
バッチ割当ブックキューページ - 557
ビジネスプロセス管理 - 260
ビジネス計画のフィールド:インポートの準備 - 415
ピックリスト値の変更 - 85
ファイルおよびレコード利用情報の表示 - 51
フィールド、ピックリスト、基準について - 133
フィールドセクションタイトルの名前変更 - 91
フィールドの作成と編集 - 74
フィールドの名前変更 - 81
フィールド管理について - 63
ブックおよびブック割当のインポートについて - 228
ブックタイプとブックユーザー役割の作成 - 238
ブックとブック階層の作成 - 239
ブックの Web サービスのサポートについて - 219
ブックのアクセスプロファイルの作成 - 244
ブックのトラブルシューティングに関する情報 - 253
ブックのフィールド - 252
ブックのフィールド:インポートの準備 - 413
ブックの管理 - 212
ブックの設定のプロセス - 233
ブックへのレコードの割り当て - 249
ブックユーザーのフィールド:インポートの準備 - 411
ブックを使用してセールステリトリを管理するシナリオ - 231
ブックを使用してセールステリトリを管理する例 - 232
ブック構造の設計について - 216
プライマリレコードタイプのアクセスレベルについて - 178
プライマリレコードタイプのアクセスレベルの指定 - 200
プライマリレコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法 - 172

プライマリレコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法 - 171
ブローカープロファイルのフィールド:インポートの準備 - 414
プロセスの作成 - 267
プロセスの制限 - 270
プロセスへの推移ステートの追加 - 268
プロセスを使用してレコードをロックする例 - 263
プロセス管理 - 261
プロセス管理でのプライマリフィールドについて - 262
プロセス管理での推移ステートおよび推移項目について - 262
プロセス管理機能 - 265
ポートフォリオフィールド:インポートの準備 - 502
ホームページカスタムレポートの作成 - 99
ま
マスター監査証跡による監査証跡変更の確認 - 44
メッセージプランのフィールド:インポートの準備 - 477
メッセージプラン項目のフィールド:インポートの準備 - 478
メッセージプラン項目関係のフィールド:インポートの準備 - 479
メッセージ応答のフィールド:インポートの準備 - 476
メモフィールド:インポートの準備 - 480
や
ユーザーおよびユーザー役割に対するブックの有効化 - 246
ユーザーとブックの関連付け - 241
ユーザーに対するレコードタイプ別のデフォルトブックの設定 - 153
ユーザーのサインイン活動の確認 - 155
ユーザーのセールス目標の設定 - 153
ユーザーのセキュリティ関連活動の確認 - 156
ユーザーのパスワードのリセット - 155
ユーザーのパスワードのリセット (パートナー) - 165
ユーザーのユーザーIDの変更 - 154
ユーザーのユーザーIDの変更 (パートナー) - 164
ユーザーの委任について - 156
ユーザーの在庫期間の作成 - 160
ユーザーの設定 - 141
ユーザーの設定 (パートナー) - 162
ユーザーの無効化 - 160
ユーザーの無効化 (パートナー) - 166
ユーザーフィールド - 143

ユーザーフィールド：インポートの準備 - 521
ユーザーページレイアウトについて - 151
ユーザーレコードの [上司] および [上司 (エイリアス)] フィールドについて - 152
ユーザー管理 - 140
ユーザー管理とアクセス制御 - 138
ら
ライセンスの状況と有効なユーザーの確認 - 26
ライフサイエンス管理 - 576
リストアクセスおよびリスト順序の管理 - 98
レコードタイプのアイコンの変更 - 130
レコードタイプの追加 - 131
レコードタイプの名前変更 - 129
レコードタイプ別の [アプリケーションカスタマイズ] ページ - 61
レコードの重複と外部 ID について - 368
レコードの変更されたフィールド内の情報について - 104
レコードホームページレイアウトの作成 - 101
レコード所有権モードおよび自動生成タスク - 224
レコード所有権モードについて - 220
レコード所有権モードのフィールドセットアップおよびページレイアウトについて - 69
レコード所有権モードの設定 - 239
わ
ワークフローアクションについて - 280
ワークフローアクションの作成:タスクの作成 - 294
ワークフローアクションの作成:ブックの割り当て - 289
ワークフローアクションの作成:待機 - 304
ワークフローアクションの作成:値の更新 - 302
ワークフローアクションの作成:電子メールの送信 - 299
ワークフローアクションの作成:統合イベントの作成 - 291
ワークフローインスタンスのフィールド - 316
ワークフローインスタンスの表示 - 313
ワークフローモニター - 311
ワークフローモニターからのインスタンスの削除 - 315
ワークフロールールアクションの順序の変更 - 307
ワークフロールールとアクションの削除 - 310
ワークフロールールとアクションの無効化 - 309
ワークフロールールについて - 273
ワークフロールールの作成 - 284
ワークフロールールの順序の変更 - 308
ワークフロールールの特定のチャネルまたは役割への制限 - 289

ワークフロー設定 - 272
ワークフロー保存操作の取り消し - 287
漢字
委任ユーザーの管理 (管理者) - 157
医学教育招待者のフィールド：インポートの準備 - 475
一括削除キューページ - 556
価格リストのフィールド：インポートの準備 - 505
価格リスト明細項目のフィールド：インポートの準備 - 505
会計カレンダーについて - 36
会計カレンダーの管理 - 36
解決策フィールド：インポートの準備 - 515
割当のフィールド：インポートの準備 - 404
割当ルールについて - 318
割当ルールの設定 - 322
活動のフォローアップタスクを作成するワークフロールールの設定例 - 297
活動レコードのロックのシナリオ - 263
監査証跡のカスタマイズ - 102
監査証跡の設定変更の確認 - 44
管理者の役割に設定されたブックの確認 - 234
関係者フィールド：インポートの準備 - 468
関連するレコードタイプのアクセスレベルについて - 178
関連レコードタイプに対するアクセス制御の有効化 - 271
関連レコードタイプのアクセスレベルの指定 - 200
関連レコードタイプのレコードを使用するためのアクセス権を指定する方法 - 175
関連レコードタイプのレコードを表示するためのアクセス権を指定する方法 - 174
関連項目レイアウトのカスタマイズ - 87
企業の [個人ホームページ] のカスタマイズ - 123
企業のサービス割当使用量の表示 - 49
企業のパスワード管理の定義 - 28
企業のブックの有効化 - 245
企業のリソース使用状況の確認 - 43
企業の業種リストのカスタマイズ - 346
企業の添付資料の管理 - 568
企業プロフィール - 16
企業監査 - 42
企業管理 - 15
期間 - 597
共有住所のオフへの切り替え前のユーザーアクセスおよび [アドレスの管理] 権限の更新 - 57
共有住所をオフに切り替える場合の考慮事項 - 56
金融口座フィールド：インポートの準備 - 456

- 金融商品フィールド：インポートの準備 - 462
計画取引先のフィールド：インポートの準備 - 496
計画商談のフィールド：インポートの準備 - 497
計画担当者のフィールド：インポートの準備 - 497
警告フィールド - 47
警告管理 - 45
検索レイアウトの管理 - 95
見込み客の拒否コード - 331
見込み客フィールド：インポートの準備 - 469
見込み客変換の管理 - 327
見込み客変換の設定のプロセス - 328
見込み客変換レイアウトの作成 - 329
見込み客変換中の追加フィールドのマッピング - 329
言語の有効化 - 34
個人抽出リクエストの作成 - 555
個人抽出リクエストの表示 - 556
個人抽出定義でのレコードタイプの指定 - 552
個人抽出定義について - 543
個人抽出定義の XML ファイルの例 - 546
個人抽出定義の管理 - 543, 554
国と住所のマッピングについて - 351
在庫監査レポートのフィールド：インポートの準備 - 466
在庫期間のフィールド：インポートの準備 - 467
財務計画フィールド：インポートの準備 - 461
試験のフィールド：インポートの準備 - 453
試験登録のフィールド：インポートの準備 - 455
時間ベースのブック割当について - 229
時間ベースのワークフロールールについて - 282
自社製品の設定 - 563
自動車ディーラーのフィールド：インポートの準備 - 448
式について - 585
車両のフィールド：インポートの準備 - 524
車両担当者フィールド：インポートの準備 - 523
取引交渉登録のフィールド：インポートの準備 - 445
取引先チームフィールド：インポートの準備 - 399
取引先フィールド：インポートの準備 - 393
取引先ブックのフィールド：インポートの準備 - 392
住所に対するアクセスプロファイルおよび役割の設定 - 58
住所フィールド：インポートの準備 - 403
住所管理 - 52
署名のフィールド：インポートの準備 - 514
商談フィールド：インポートの準備 - 483
商談製品売上フィールド：インポートの準備 - 486
商談担当者役割フィールド：インポートの準備 - 482
新規テーマの作成 - 124
申込書類のフィールド：インポートの準備 - 404
推移ステートの項目の設定 - 270
製品カテゴリーの設定 - 562
製品カテゴリーフィールド：インポートの準備 - 506
製品フィールド：インポートの準備 - 506
請求フィールド：インポートの準備 - 421
静的ページレイアウトのカスタマイズ - 88
設定をデフォルトに戻す - 85
設定時における管理者テンプレートの使用 - 14
全社レベルの警告の公開 - 46
損傷フィールド：インポートの準備 - 443
担当チームフィールド：インポートの準備 - 434
担当者の都道府県免許フィールド：インポートの準備 - 433
担当者フィールド：インポートの準備 - 425
担当者ブックのフィールド：インポートの準備 - 424
担当者へのサンプル受領権限の付与 - 580
通貨定義 - 39
添付資料設定について - 134
電子メールとログファイルのインポート結果例 - 533
統合イベントキューの作成 - 559
統合イベントについて - 557
統合イベント設定の管理 - 560
動的ページレイアウトの指定 - 105
特別価格リクエストのフィールド：インポートの準備 - 517
特別価格製品のフィールド：インポートの準備 - 516
認定のフィールド：インポートの準備 - 400
認定リクエストのフィールド：インポートの準備 - 402
認定レベルのフィールド：インポートの準備 - 418
認定レベルリクエストのフィールド：インポートの準備 - 420
売上予想定義の更新 - 338
売上予想定義の設定 - 332
非共有住所から共有住所への変換 - 53
保険契約者フィールド：インポートの準備 - 500
保険証券フィールド：インポートの準備 - 498
保険対象物フィールド：インポートの準備 - 465
補償内容フィールド：インポートの準備 - 437
目標のフィールド：インポートの準備 - 481
役割のアクセスプロファイルについて - 168
役割のレコードタイプアクセスについて - 205
役割の権限について - 206
役割の設定に関するガイドライン - 202
役割の追加 - 207

役割管理 - 202

有効な州免許がない担当者がサンプルを受領できる

最大回数の設定 - 579

履歴サービス割当使用量の表示 - 49

例 1 : [表示] アクセスレベルの使用 - 188

例 2 : [プライマリの継承] アクセスレベルの使用 -
193

例 3 : ブックによるデータの保護 - 195